岐阜県文化財保護センター調査報告書　第69集

佐　口　遺　跡

2001

財団法人　岐阜県文化財保護センター

序

この報告書は、平成10年度に実施した東海環状自動車道(関～美濃加茂)建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果をまとめたものです。調査対象の遺跡は岐阜県美濃加茂市山之上町に位置する佐口遺跡です。

遺跡の所在する美濃加茂市は、古くから木曽川水運の港町として、また中山道など主要街道の宿場町として栄えてきました。市内には木曽川や飛騨川が流れ、美濃加茂盆地が広がるなど豊かな自然にも恵まれています。そのため旧石器時代から現代に至る多くの遺跡の存在が知られる地域となっています。

今回調査を実施した佐口遺跡では、弥生時代から近世にかけての長い期間にわたる人々の生活の跡が確認されました。古代の竪穴住居跡、中近世の掘立柱建物跡や井戸など、各時代の人々の生活を知る上で欠かすことのできない数々の貴重な遺構がみつかりました。また、日々の生活において使用した土器・陶磁器類、鉄製品や木製品など、多彩な遺物も出土しています。往時の人々の交流や物品の流通の様子を解明する上でも貴重な資料となりました。

本報告書が埋蔵文化財に対する認識を深めるとともに、当地の歴史研究の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び出土品の整理・報告書作成にあたりまして、関係諸機関並びに関係者各位、美濃加茂市教育委員会、地元地区の皆様からの多大なご支援、ご協力に対し、厚く御礼申し上げます。

平成13年12月

財団法人　岐阜県文化財保護センター
理事長　服　部　卓　郎

例　言

1　本書は、美濃加茂市山之上町に所在する佐口遺跡(岐阜県遺跡番号21211-08785)の発掘調査報告書である。

2　本調査は、東海環状自動車道(関～美濃加茂)建設工事に伴う本発掘調査で、建設省中部地方建設局(現　国土交通省中部地方整備局)から岐阜県が委託を受けた。発掘調査は財団法人岐阜県文化財保護センターが実施した。

3　発掘調査は平成10年度に実施し、宇野隆夫国際日本文化研究センター教授(当時富山大学教授)の指導のもと、藤岡比呂志、後藤慎二、小淵忠司が担当した。

4　整理作業は平成11～12年度に実施し、小淵が担当した。

5　本書の編集・執筆は小淵が行った。

6　空中写真撮影測量は、国際航業株式会社に委託して行った。

7　遺物の写真撮影は、アートフォト 右文に委託して行った。

8　住居跡カマド焼土の残留磁化測定と木製品の樹種同定は、(株)パレオ・ラボに委託して行った。第5章はその分析報告である。

9　発掘調査及び報告書の作成にあたって、次の方々や諸機関から御指導・御協力をいただいた。記して感謝の意を表する次第である。(敬称略・五十音順)

赤澤徳明、井川祥子、池畑耕一、伊藤裕偉、内堀信雄、尾野善裕、可児光生、金子健一、
北村和宏、栗林文夫、佐藤公保、齊藤基生、島崎久恵、鈴木とよ江、鈴木正貴、藤村俊、
森田郁朗
財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター、美濃加茂市教育委員会、
美濃加茂市都市計画課、美濃加茂市山之上町佐口自治会

10　本文中の方位は、国土座標第Ⅶ系の座標北を示している。

11　土及び遺物の色調は、小山正忠・竹原秀雄 1998『新版標準土色帖』(日本色研事業株式会社)による。

12　調査記録及び出土品は、財団法人岐阜県文化財保護センターで保管している。

凡　例

1　本報告書中の遺構番号は、原則として発掘調査時の登録番号をそのまま使用している。遺構番号と調査区との対応は次の通りである。

1～1000番台＝C区
2000番台＝A区
3000番台＝B区
4000番台＝D区
5000番台＝E区

2　掘立柱建物跡については、複数の遺構を統合する必要上、遺構種別記号を添えて新たに遺構番号を与えた。次の通りである。

SH＝掘立柱建物跡

3　遺構内の付属施設とみられる遺構については、各遺構ごとに種別によって分けた上で番号を付した。この場合のみ通常の遺構番号との混同を避けるため、番号の前に遺構種別を示す記号を小文字アルファベットで次のように添えた。

sk＝土坑
p ＝ピット

4　遺構実測図の縮尺は1／40を基本とするが、必要に応じて1／20図、1／100図を掲載した。

5　遺構実測図中、平面図の黒色塗り潰し部分は柱穴内の柱痕部を示す。

6　遺構実測図中、断面図のスクリーントーン表示は次のように使い分けている。これ以外のものについては表示内容を図中に明記した。

濃い砂目スクリーントーン＝地山
薄い砂目スクリーントーン＝礫
平行線スクリーントーン＝木

7　遺物実測図の縮尺は1／3を基本とするが、次のような遺物については別縮尺で掲載し、個別にスケールを添付した。

木製品＝1／4
大型の土器類＝1／4、1／6
小型の金属製品＝1／2
小型の石製品＝2／3

8　遺物実測図中、一点鎖線は施釉範囲を示す。2種類の施釉がなされているものについては二点鎖線でその境を示した。ただし、薄い錆釉による化粧掛けと他の釉との境については一点鎖線で示した。

9　遺物実測図中、中心線の左右を空白としたものは、径や傾きの推定が困難な個体であることを示す。

10　遺物番号・遺構番号は、いずれも本文、実測図、付図、付表、写真図版の番号が一致する。

目　次

序
例言
凡例
第1章　調査の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　第1節　調査に至る経緯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　第2節　調査の経過と調査方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
第2章　遺跡の立地と環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
　第1節　周辺の遺跡 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
　第2節　地理的環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
　第3節　遺跡の基本層序 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
第3章　検出した遺構 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
　第1節　遺構の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
　第2節　古代の遺構 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
　第3節　中世の遺構 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
　第4節　近世の遺構 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
　第5節　その他の時代の遺構 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
　遺構実測図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43
第4章　出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・105
　第1節　出土遺物の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・105
　第2節　土器・陶磁器類 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・107
　第3節　その他の遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・125
　出土遺物実測図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・129
第5章　自然科学分析 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・171
　第1節　住居カマド焼土の焼成年代推定 ・・・・・・・・・・・・・・・171
　第2節　佐口遺跡出土木製品の樹種同定 ・・・・・・・・・・・・・・・177
第6章　考察とまとめ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・183
　第1節　竪穴住居跡について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・183
　第2節　遺構の年代と集落の変遷について ・・・・・・・・・・・・・・189
　第3節　まとめ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・194
引用・参考文献 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・195
付図　1　遺跡全体図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・198
　　　2　地区別全体図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・223
付表　1　遺構一覧表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・230
　　　2　遺構集計表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・257
　　　3　遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・258
　　　4　遺物集計表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・272
写真図版 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・281

挿図目次

第１図　遺跡の位置　・・・・・・・・・・・・・1
第２図　試掘確認調査トレンチと調査区の位置・・3
第３図　調査区・グリッド設定図（１）・・・・・4
第４図　調査区・グリッド設定図（２）・・・・・5
第５図　周辺の遺跡　・・・・・・・・・・・・・8
第６図　基本層序模式図　・・・・・・・・・・・9
第７図　検出遺構集計グラフ　・・・・・・・・・11
第８図　古代の遺構（１）・・・・・・・・・・・44
第９図　古代の遺構（２）・・・・・・・・・・・45
第10図　古代の遺構（３）・・・・・・・・・・・46
第11図　古代の遺構（４）・・・・・・・・・・・47
第12図　古代の遺構（５）・・・・・・・・・・・48
第13図　古代の遺構（６）・・・・・・・・・・・49
第14図　古代の遺構（７）・・・・・・・・・・・50
第15図　古代の遺構（８）・・・・・・・・・・・51
第16図　古代の遺構（９）・・・・・・・・・・・52
第17図　古代の遺構(10)・・・・・・・・・・・・53
第18図　古代の遺構(11)・・・・・・・・・・・・54
第19図　古代の遺構(12)・・・・・・・・・・・・55
第20図　古代の遺構(13)・・・・・・・・・・・・56
第21図　古代の遺構(14)・・・・・・・・・・・・57
第22図　古代の遺構(15)・・・・・・・・・・・・58
第23図　古代の遺構(16)・・・・・・・・・・・・59
第24図　古代の遺構(17)・・・・・・・・・・・・60
第25図　古代の遺構(18)・・・・・・・・・・・・61
第26図　古代の遺構(19)・・・・・・・・・・・・62
第27図　古代の遺構(20)・・・・・・・・・・・・63
第28図　古代の遺構(21)・・・・・・・・・・・・64
第29図　古代の遺構(22)・・・・・・・・・・・・65
第30図　古代の遺構(23)・・・・・・・・・・・・66
第31図　古代の遺構(24)・・・・・・・・・・・・67
第32図　古代の遺構(25)・・・・・・・・・・・・68
第33図　古代の遺構(26)・・・・・・・・・・・・69
第34図　古代の遺構(27)・・・・・・・・・・・・70
第35図　古代の遺構(28)・・・・・・・・・・・・71
第36図　古代の遺構(29)・・・・・・・・・・・・72
第37図　古代の遺構(30)・・・・・・・・・・・・73
第38図　古代の遺構(31)・・・・・・・・・・・・74
第39図　古代の遺構(32)・・・・・・・・・・・・75
第40図　古代の遺構(33)・・・・・・・・・・・・76
第41図　古代の遺構(34)・・・・・・・・・・・・77
第42図　古代の遺構(35)・・・・・・・・・・・・78
第43図　古代の遺構(36)・・・・・・・・・・・・79
第44図　古代の遺構(37)・・・・・・・・・・・・80
第45図　中世の遺構（１）・・・・・・・・・・・81
第46図　中世の遺構（２）・・・・・・・・・・・82
第47図　中世の遺構（３）・・・・・・・・・・・83
第48図　中世の遺構（４）・・・・・・・・・・・84
第49図　中世の遺構（５）・・・・・・・・・・・85
第50図　中世の遺構（６）・・・・・・・・・・・86
第51図　中世の遺構（７）・・・・・・・・・・・87
第52図　中世の遺構（８）・・・・・・・・・・・88
第53図　中世の遺構（９）・・・・・・・・・・・89
第54図　中世の遺構(10)・・・・・・・・・・・・90
第55図　中世の遺構(11)・・・・・・・・・・・・91
第56図　中世の遺構(12)・・・・・・・・・・・・92
第57図　中世の遺構(13)・・・・・・・・・・・・93
第58図　中世の遺構(14)・・・・・・・・・・・・94
第59図　中世の遺構(15)・・・・・・・・・・・・95
第60図　中世の遺構(16)・・・・・・・・・・・・96
第61図　中世の遺構(17)・・・・・・・・・・・・97
第62図　中世の遺構(18)・・・・・・・・・・・・98
第63図　中世の遺構(19)・・・・・・・・・・・・99
第64図　中世の遺構(20)・・・・・・・・・・・・100
第65図　近世の遺構（１）・・・・・・・・・・・101
第66図　近世の遺構（２）・・・・・・・・・・・102
第67図　近世の遺構（３）・・・・・・・・・・・103
第68図　近世の遺構（４）・・・・・・・・・・・104
第69図　弥生時代の遺構　・・・・・・・・・・104
第70図　出土遺物集計グラフ　・・・・・・・・106
第71図　古代の遺構から出土した遺物（１）・・130
第72図　古代の遺構から出土した遺物（２）・・131
第73図　古代の遺構から出土した遺物（３）・・132
第74図　古代の遺構から出土した遺物（４）・・133
第75図　古代の遺構から出土した遺物（５）・・134
第76図　古代の遺構から出土した遺物（６）・・135
第77図　古代の遺構から出土した遺物（７）・・136
第78図　古代の遺構から出土した遺物（８）・・137
第79図　中世の遺構から出土した遺物（１）・・138
第80図　中世の遺構から出土した遺物（２）・・139

第81図　中世の遺構から出土した遺物(３)・・140
第82図　中世の遺構から出土した遺物(４)・・141
第83図　中世の遺構から出土した遺物(５)・・142
第84図　中世の遺構から出土した遺物(６)・・143
第85図　中世の遺構から出土した遺物(７)・・144
第86図　中世の遺構から出土した遺物(８)・・145
第87図　中世の遺構から出土した遺物(９)・・146
第88図　中世の遺構から出土した遺物(10)・・147
第89図　中世の遺構から出土した遺物(11)・・148
第90図　中世の遺構から出土した遺物(12)・・149
第91図　中世の遺構から出土した遺物(13)・・150
第92図　中世の遺構から出土した遺物(14)・・151
第93図　中世の遺構から出土した遺物(15)・・152
第94図　中世の遺構から出土した遺物(16)・・153
第95図　中世の遺構から出土した遺物(17)・・154
第96図　中世の遺構から出土した遺物(18)・・155
第97図　中世の遺構から出土した遺物(19)・・156
第98図　近世の遺構から出土した遺物(１)・・156
第99図　近世の遺構から出土した遺物(２)・・157
第100図　近世の遺構から出土した遺物(３)・・158
第101図　近世の遺構から出土した遺物(４)・・159
第102図　近世の遺構から出土した遺物(５)・・160
第103図　近世の遺構から出土した遺物(６)・・161
第104図　近世の遺構から出土した遺物(７)・・162
第105図　近世の遺構から出土した遺物(８)・・163
第106図　近世の遺構から出土した遺物(９)・・164
第107図　近世の遺構から出土した遺物(10)・・165
第108図　近世の遺構から出土した遺物(11)・・166
第109図　近世の遺構から出土した遺物(12)・・167
第110図　弥生時代の遺構から出土した遺物・・・167
第111図　時代不明の遺構から出土した遺物(１)・168
第112図　時代不明の遺構から出土した遺物(２)・169
第113図　遺構外から出土した遺物　・・・・・170
第114図　住居カマド焼土の磁化方向と古磁気永年変化曲線　・・・・・・・・・・・・175
第115図　A区№2390-5および№34-7の段階交流消磁結果　・・・・・・・・・・・・・176
第116図　出土木製品樹種(１)・・・・・・・・181
第117図　出土木製品樹種(２)・・・・・・・・182
第118図　カマド横断面模式図　・・・・・・・187
第119図　遺構変遷図　・・・・・・・・・・・191

表目次

第１表　住居カマド焼土の残留磁化測定結果と統計計算結果(偏角補正前)　・・・・・・・・・・・・・・・173
第２表　住居カマド焼土の残留磁化測定による焼成年代推定結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・174
第３表　出土木製品の樹種同定結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・180
第４表　木製品別の樹種　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・180
第５表　竪穴住居跡観察表　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・188

写真図版目次

図版１　遺構写真(１)
図版２　遺構写真(２)
図版３　遺構写真(３)
図版４　遺構写真(４)
図版５　遺構写真(５)
図版６　遺構写真(６)
図版７　遺構写真(７)
図版８　遺物写真(１)
図版９　遺物写真(２)
図版10　遺物写真(３)
図版11　遺物写真(４)

第１章　調査の概要

第１節　調査に至る経緯

佐口遺跡は、岐阜県美濃加茂市山之上町の東海環状自動車道建設予定地内に位置する遺跡である。遺跡の所在する美濃加茂市は、岐阜県のほぼ中央部南端に位置し、名古屋市の衛星都市的な性格を持つ地域に属している。東海環状自動車道の建設により、名古屋市と周辺諸都市の機能分担がより効果的に進められ、現在の都市部にみられる交通混雑が解消されることが期待されている。

建設工事の実施に先立ち、平成７年８月に、財団法人岐阜県文化財保護センターでは、美濃加茂市内の東海環状自動車道建設予定地内を対象として、遺跡の有無確認のための踏査を実施した。踏査の結果、美濃加茂市山之上町の南部に位置する佐口地区（「佐口」は自治会名）の緩斜面では遺物の散布が認められ、遺跡が存在する可能性が高いと判断された。そのため、この区域については、改めて試掘確認調査を実施し、本発掘調査の必要性について検討することとなった。

試掘確認調査は、平成９年５月12日から７月18日まで実施した。調査対象区域23,800㎡について、トレンチ掘削により遺構の有無とその概要について検討を行った。掘削面積は900㎡である。調査の結果、古代から近世に至る時代の遺構が広範囲にわたり検出可能であることを確認した。この調査結果から文化財保護法57条の６に基づく遺跡発見通知を提出し、遺跡名は佐口遺跡（遺跡番号21211-08785）とされた。佐口遺跡の本発掘調査については、建設省（現 国土交通省）及び岐阜県教育委員会と協議の結果、10,300㎡を対象として、平成10年度に実施することとなった。

第１図　遺跡の位置（国土地理院発行「１：25,000地形図 美濃加茂」より）

第2節　調査の経過と調査方法

佐口遺跡の本発掘調査は、遺跡全域10,300㎡を対象として平成10年度に実施した。調査区は5地区に分かれており、東からA区（4,500㎡）・B区（1,100㎡）・C区（3,600㎡）・D区（850㎡）・E区（250㎡）と呼称することとした。最も遺構密度が高いと予想されたC区から調査に着手し、その後、A区・B区・D区・E区の順で調査を行った。このうちB区については、調査区の幅が狭い上に国道418号線に面しているため、排土の調査区外への搬出が困難であった。そのため、まず調査区南半を仮排土置き場として調査区北半を調査し、北半の調査完了後に南半の調査を実施する工法を採った。

平成10年4月から調査準備を行い、5月8日に重機による表土掘削作業を開始した。5月19日からは作業員による人力掘削作業を実施し、以後、平成11年3月下旬まで、遺構や出土遺物について記録しながら、重機と人力による作業を並行して続けた。遺跡全体の実測は空中写真撮影測量によることとし、3回に分けて実施した。12月19日には現地説明会を開催し、遺跡を一般に公開した。調査の完了した地区から順次埋め戻しを行い、3月23日に現地での作業を完了した。本発掘調査の経過の詳細については、後述の調査日誌抄を参照されたい。

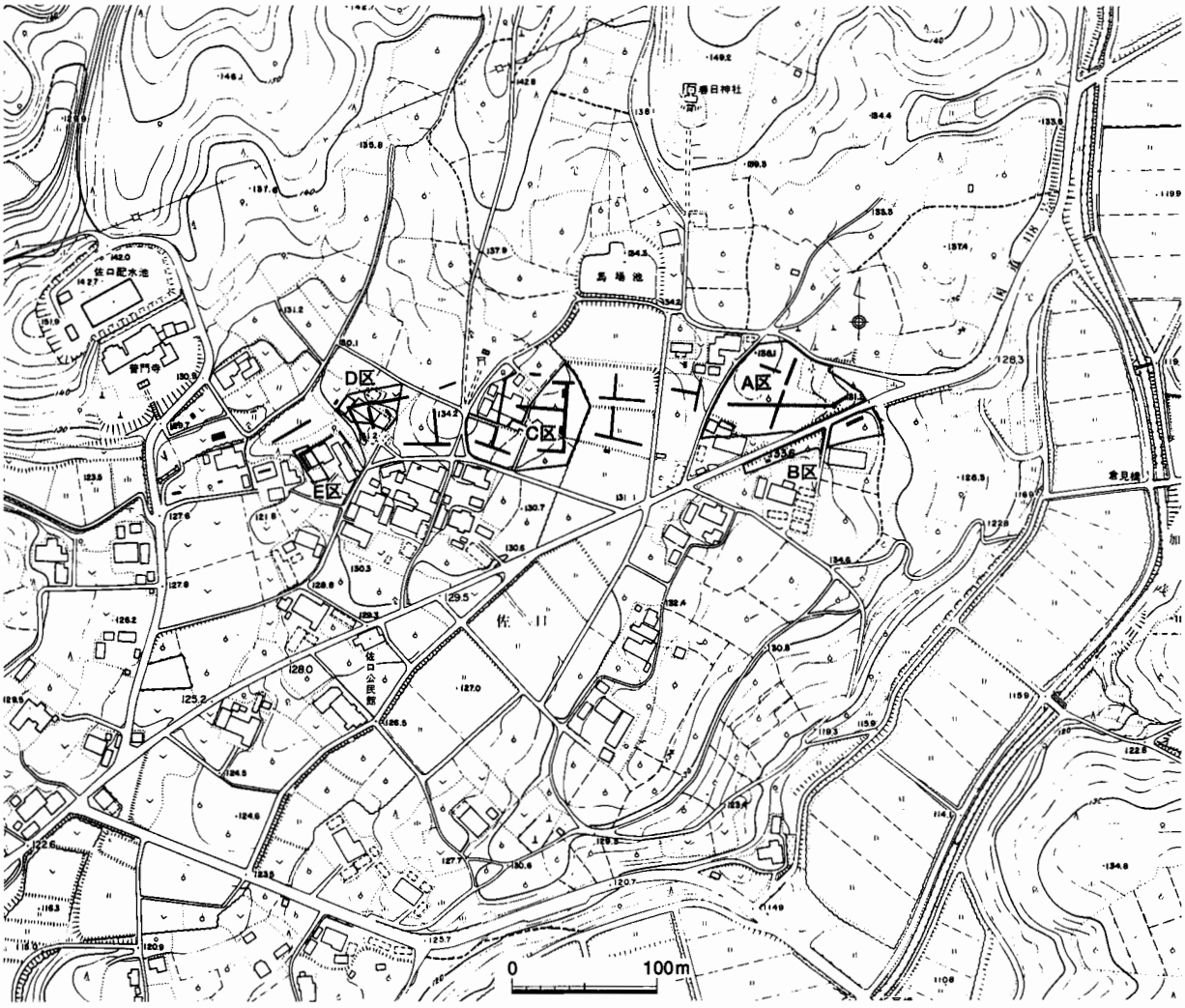
試掘確認調査の所見から、遺物包含層の遺存状態はあまり良好ではないと判断されたので、ほぼ地山面まで重機を使用して掘り下げ、そののちに人力掘削作業によって遺構検出を行った。検出作業により平面形や遺構間の前後関係を確定できた遺構について、やはり人力にて遺構掘削を行ったが、遺構の種別により各々適切と思われる手法を採ることとした。すなわち、住居跡・土坑・溝については、通常通り土層観察用のセクションベルトを残しつつ遺構の底まで掘り下げ、埋没状況を記録したのちにセクションベルトを除去して完掘した。これに対し、柱穴の可能性があると推測された小土坑（本報告書ではこれをピットと呼称する）については、柱痕跡の有無を確認することを優先させるため、検出面から深さ約5㎝だけ掘り下げ、柱痕跡が見えた場合にはその部分のみさらに数㎝掘り下げて確認を行った。空中写真撮影による平面図はこの段階で作成している。平面図作成のための空中写真撮影測量後、ピットをはじめとする断面観察の重要な遺構について断ち割り調査を実施し、柱痕跡の有無の再確認、深さの確認、遺物の有無の確認等を行った。住居跡についてはカマドの断ち割り調査も行っている。断ち割り調査は原則として人力掘削により実施したが、深度の深い遺構については危険であるため、井戸などでは人力での掘削は深さ1ｍ以内にとどめ、それ以下の部分は重機を使用して行った。今回の調査では、空中写真撮影測量後の遺構断ち割り調査を特に重視し、調査行程の中でこの部分に通常より時間をかけていることを特に記しておきたい。

主要な遺構については、手測り実測により遺構の観察結果を記録した。遺構実測は原則として縮尺20分の1で行った。このほか、遺構検出作業に並行して、遺構配置を検討するための略測作業を行い、縮尺100分の1の略測図を作成した。これは遺構番号の登録や建物跡の柱並びの検討等に活用した。

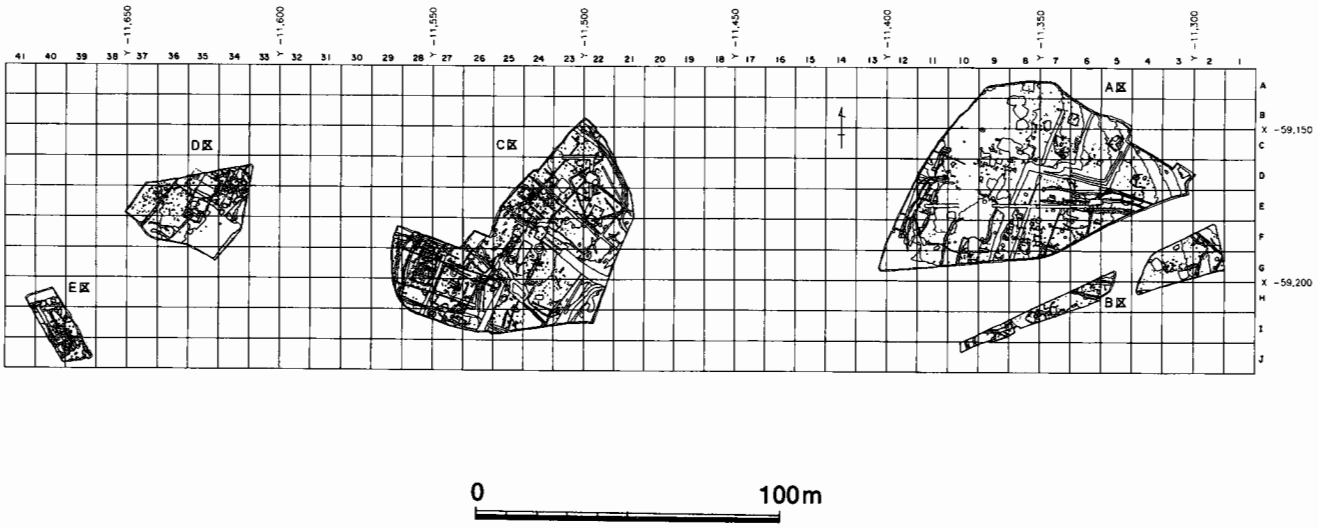
整理作業は平成11年度と12年度の2年間にわたり実施した。出土遺物と調査記録の整理作業を実施し、発掘調査報告書の編集を行った。出土遺物については、洗浄・出土地点注記・接合・復元・実測・写真撮影等を行い、調査記録については、現場で収集したデータや実測図の整合性の検討等を行った。以上の成果は本報告書に収めてある。

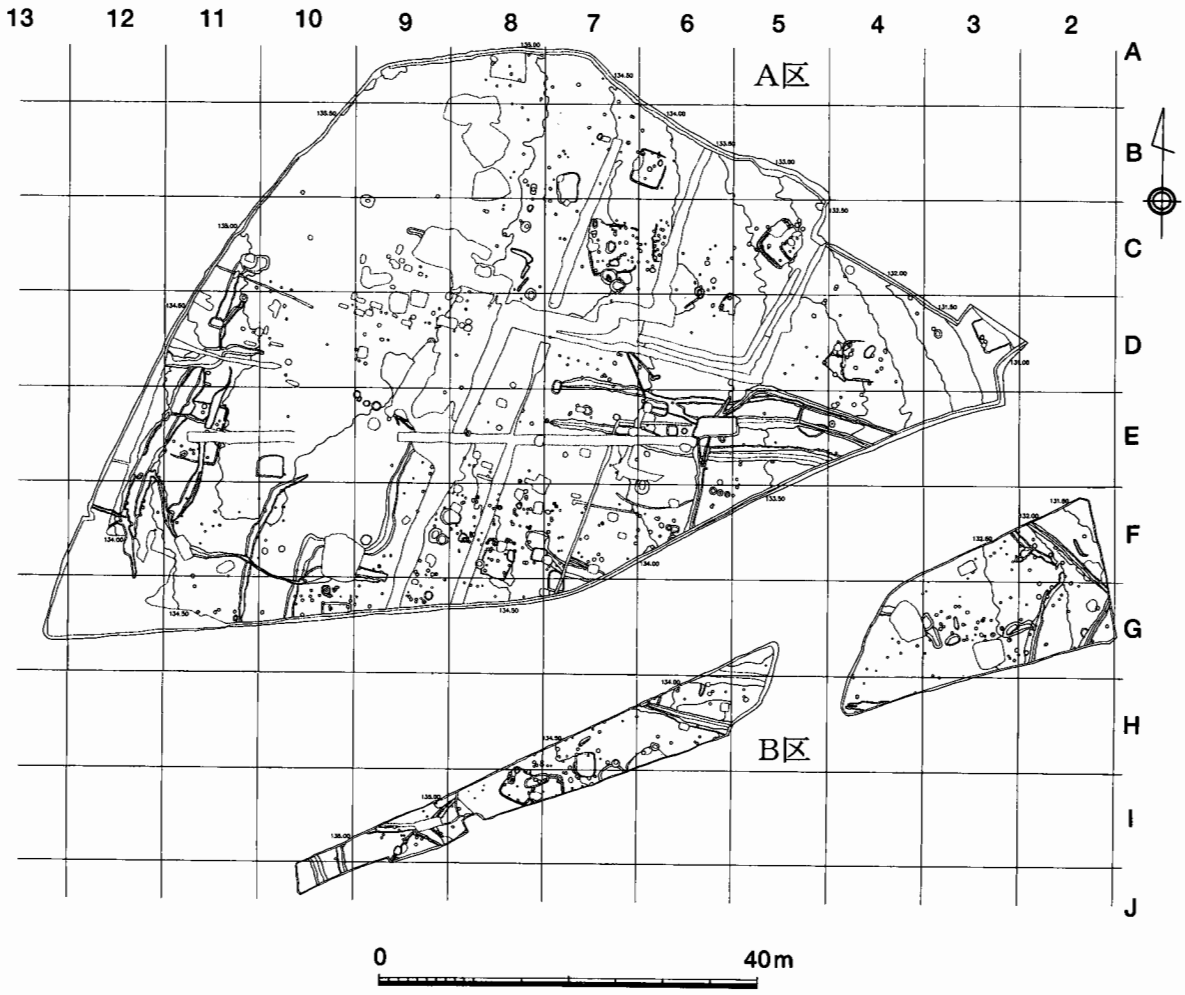
本発掘調査から整理作業に至る調査体制は、以下の通りである。

調査部長　　山元敏治（平成10・11年度）、高橋幸仁（平成12年度）
調査部次長　　高橋幸仁（平成10・11年度）、武藤貞昭（平成12年度）
調査担当課長　　片桐隆彦（平成10年度）、飯沼暢康（平成11～12年度）
担当調査員　　藤岡比呂志（平成10年度）、後藤慎二（平成10年度）、小淵忠司（平成10～12年度）
発掘作業従事者
　補助調査員　河村千寿
　作業員　今尾一明、大坪節子、奥村圭子、尾関勇三、小原るみ子、兼松賢三、兼松なミ江、小島和子、斉藤富雄、佐伯久美子、酒向年雄、新藤実雄、鈴木吉彦、高井昌子、高橋恭三、西田修、丹羽鈴子、早川美智子、早川瞭、日比野典子、平野百合子、福田快彦、藤田順一、三輪和彦、三輪精一、三輪誠治、安田栄学、横山美代江、吉岡夕紀子、渡辺真紀子、渡辺美年子、渡辺由起
整理作業従事者
　補助調査員　杉原麻記、長坂薫
　作業員　今井峰子、大塚道子、加藤泰子、高田桂子、丹羽香、野々村みさと、日比野登美子、森田政子、村瀬麻利子

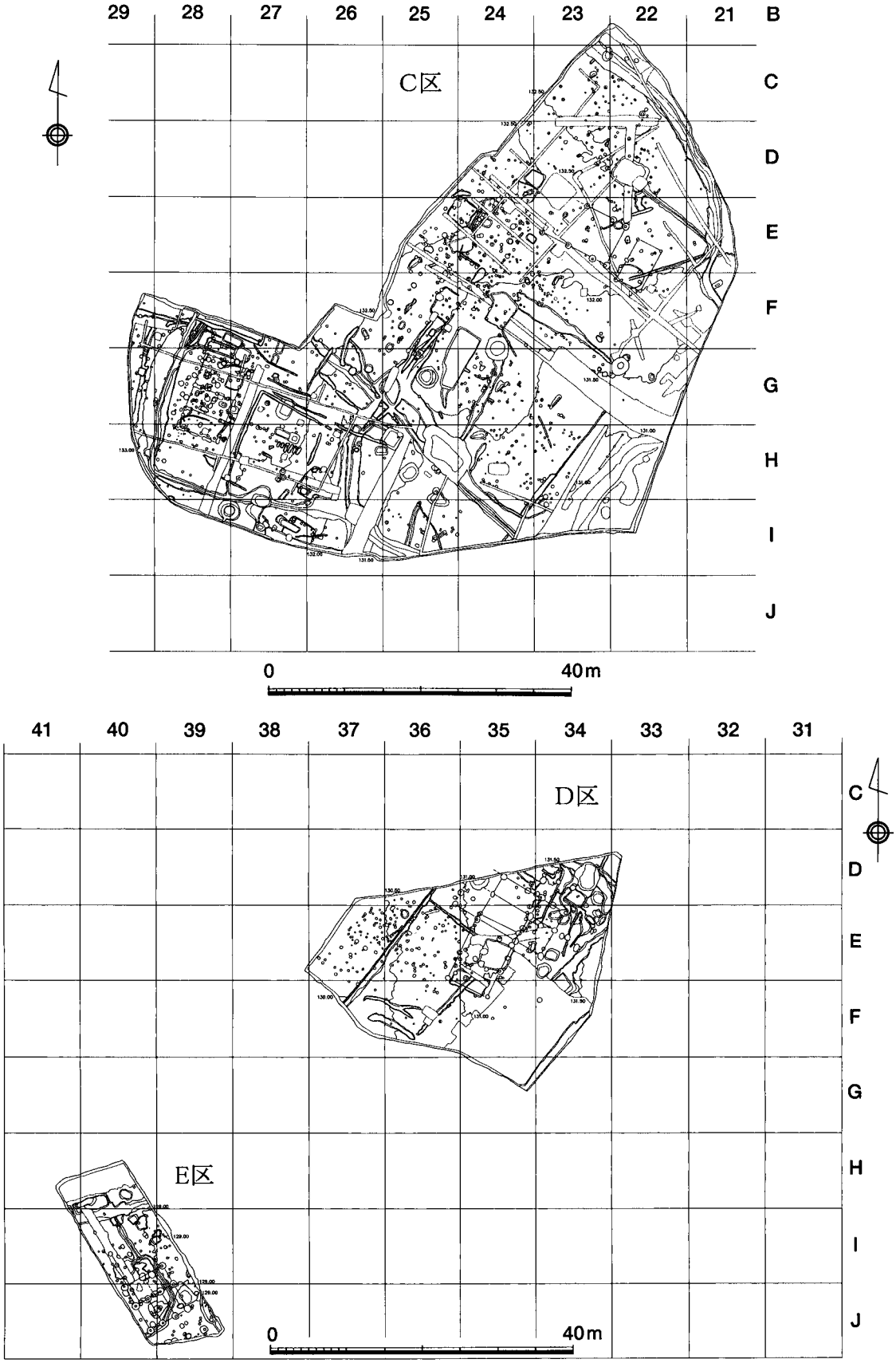


第２図　試掘確認調査トレンチと調査区の位置





第3図　調査区・グリッド設定図(1)



第４図　調査区・グリッド設定図（２）

＜調査日誌抄＞（平成10年度、本発掘調査）

5月8日　重機による表土掘削作業を開始。C区から着手。

5月19日　調査始め式。作業員による遺構検出作業を開始する。C区から着手。

6月10日　前年度に未調査であった区域について、追加試掘確認調査を実施。本発掘調査範囲の変動の必要はないことを確認。

7月6日　A区の機械掘削作業開始。

7月24日　B区北半の機械掘削作業開始。

9月8日　調査現場にて岐阜県教育センターによる発掘体験研修を実施。社会科教育研修受講者12名が参加。

9月17日　C区の空中写真撮影測量を実施する。

9月18日　C区の遺構断ち割り調査を開始。以後、平成11年2月まで断続的に同作業を継続する。

9月22日　台風7号の直撃を受ける。現場事務所が一部破損したが、遺構には大きな被害なし。

10月6日　C区の499号遺構（ピット）から中世の鳥形水滴が出土。

10月19日　(財)大阪府文化財調査研究センター島崎久恵氏、来訪。

11月19日　鹿児島県立埋蔵文化財センター池畑耕一氏ほか2名、来訪。

11月27日　B区北半の遺構検出作業開始。

11月30日　D区の機械掘削作業開始。

12月4日　E区の機械掘削作業開始。

12月8日　地元の山之上小学校の児童24名、引率2名、調査現場を見学。

12月16日　A区とB区北半部の空中写真撮影測量を実施する。

12月19日　現地説明会を開催。218名の見学者が来訪。

1月6日　A区とB区北半の遺構断ち割り調査を開始。

1月18日　B区北半の遺構断ち割り調査完了。

1月19日　D区の遺構検出作業開始。B区南半部の機械掘削開始。

2月2日　E区の遺構検出作業開始。

2月19日　残留磁化測定のため、第1回目の住居跡カマド焼土のサンプリングを実施。

2月23日　井戸（58号遺構・578号遺構）の断ち割り調査を行い、C区調査完了。

3月4日　第2回目の住居跡カマド焼土のサンプリングを実施。B区南半部・D区・E区の空中写真撮影測量を実施。

3月5日　A区、遺構断ち割り調査を終え、調査完了とする。

3月12日　B区、遺構断ち割り調査を終え、調査完了とする。

3月18日　E区、遺構断ち割り調査を終え、調査完了とする。D区も断ち割り作業完了。調査納め式。

3月19日　人力掘削作業完了。全地区埋め戻し作業完了。建設省による現場立会を実施。

3月23日　D区の遺構実測の補足作業完了。これをもって全地区調査完了とする。

第2章　遺跡の立地と環境

第1節　周辺の遺跡

佐口遺跡周辺の遺跡分布状況について、本遺跡と関連の深い弥生時代以降を中心に主な遺跡を取り上げながら概観したい。

弥生時代の遺跡としては、伊瀬粟地遺跡や後田遺跡などが挙げられる。平成6年の調査により伊瀬粟地遺跡では一辺10ｍ強、高さ1ｍ程の方形の墳丘墓が確認された。地山を削り出し、その上に盛土を行っている。主体部付近から、鉄剣・多孔型銅鏃などが出土した。後田遺跡からは遠賀川式の壺形土器が出土している。弥生前期の集落遺跡である。野笹遺跡は縄文時代から中世にかけての複合遺跡で、東海地方最古とされる遠賀川式土器が出土している。

古墳時代の遺跡としては、前期古墳では太田大塚古墳がある。漢鏡・鉄斧・鉄剣などが出土している。後期古墳は木曽川沿岸部に円墳の群集墳が集中してみられる。また、伊瀬地区には尾根上に6基の群集する円墳がある。そのほか、島之洞3号墳のようにやや離れて点在するものもみられる。可児市の北端に位置する川合古墳群では、佐口遺跡の出土品にもみられる須恵質の尾張型埴輪が出土している。

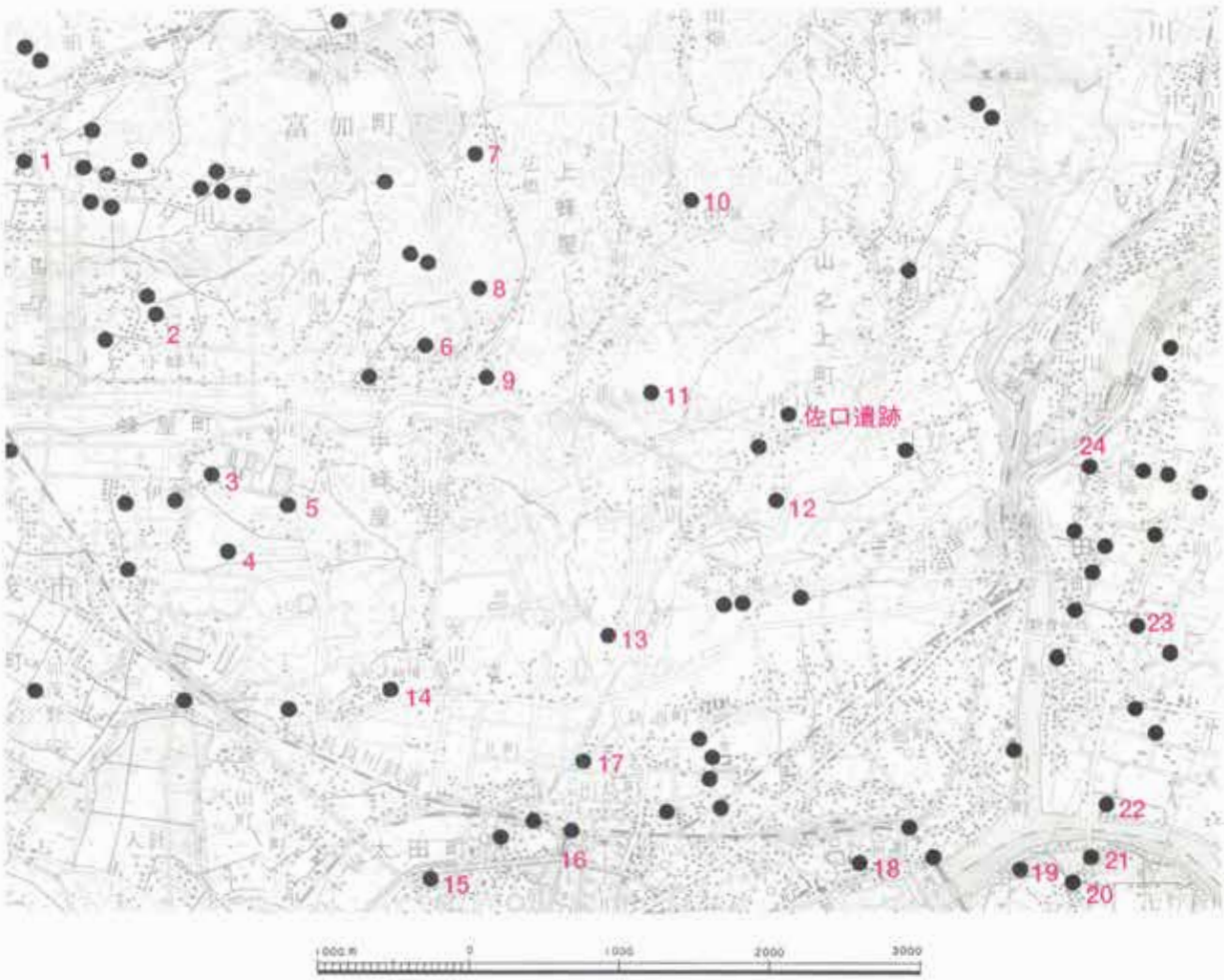
古墳時代から古代にかけての集落跡の大規模な調査例としては、東山浦遺跡・尾崎遺跡・今遺跡・宮之脇遺跡・川合遺跡・牧野小山遺跡・針田遺跡など挙げることができる。東山浦遺跡は、正倉院文書「御野國加毛郡半布里大宝二年戸籍」の故地とされる遺跡である。昭和52年に行われた発掘調査により、7世紀後半から8世紀後半を中心とした多数の竪穴住居跡や掘立柱建物跡が確認されており、古代律令制のあり方を考える上で重要な遺跡と評価されている。尾崎遺跡は縄文時代晩期から中世にかけての大規模な複合遺跡である。古代を中心に住居跡が数多く検出された市内でも有数の集落跡で、ヤリガンナをはじめ多様な鉄製品も出土している。やはり複合遺跡である今遺跡では、古墳時代後期から奈良時代にかけての住居跡も37軒確認されている。牧野小山遺跡は縄文時代から中世に至る複合遺跡で、4世紀末から9世紀初頭までの住居跡が検出されている。対岸の可児市側に位置する大規模な複合遺跡である宮之脇遺跡と川合遺跡でも、遺構密度が特に高いのは古墳時代後期から奈良時代にかけての時期である。佐口遺跡と同じく平成10年に調査が行われた針田遺跡でも、7世紀後半から9世紀前半の住居跡が48軒検出された。須恵器・土師器のほか、多数の製塩土器が出土しているのが注目される。

集落跡以外では、矢田廃寺跡や太田元薬師廃寺跡などの古代寺院が知られている。矢田廃寺跡からは、外縁が二重の鋸歯文となっている複弁六弁軒丸瓦のほか、丸瓦・平瓦・鴟尾片、それに須恵器の盤などが出土している。そのほか、発掘調査は行われていないが、須恵器窯のネンガ洞遺跡や灰釉陶器窯の日向遺跡などの古窯がみられる。

中世以降の遺跡としては、村中遺跡や南坂遺跡のような古墓や、小松寺跡や元大興寺などの寺院跡が挙げられる。中世の集落跡としては、佐口遺跡から0.5㎞ほど南西に位置する木ノ下遺跡がある。石組遺構や井戸が検出されており、佐口遺跡との関連性が注目される。佐口遺跡と同じく平成10年に

調査が行われた大坪遺跡では、多数の山茶碗や古瀬戸のほか、輸入磁器・奈良火鉢が出土した。近世遺跡の調査例としては諸洞遺跡があり、3基の井戸が検出されている。

このように、佐口遺跡の周辺には人々の暮らしの跡が連綿と窺える。ただし、古代までの遺跡や資料が豊富である一方で、中世以降の発掘調査事例が増えてきたのは近年のことに属し、未だ調査資料に乏しいと言わざるを得ない。



第5図　周辺の遺跡

（美濃加茂市全図　1／50,000をもとに作成）

1	東山浦遺跡	9	島之洞3号墳	17	太田大塚古墳
2	村中遺跡	10	南坂遺跡	18	野笹遺跡
3	日向遺跡	11	大坪遺跡	19	宮之脇遺跡
4	伊瀬栗地遺跡	12	木ノ下遺跡	20	川合古墳群
5	ネンガ洞遺跡	13	尾崎遺跡	21	川合遺跡
6	元大興寺	14	矢田廃寺跡	22	牧野小山遺跡
7	小松寺跡	15	太田元薬師廃寺跡	23	今遺跡
8	諸洞遺跡	16	後田遺跡	24	針田遺跡

第２節　地理的環境

佐口遺跡の所在する美濃加茂市とその周辺地域の地形は、北部の山地、中央部の丘陵地、そして南部の木曽川・飛騨川の河岸段丘による平坦地に大きく分けることができる。北部の伊深地区や三和地区の山地は美濃帯の那比・上麻生および金山ユニットに属する中古生層（主にチャート・砂岩・珪質泥岩）からなる。中央部の蜂屋地区や山之上地区に広がる丘陵地は主に蜂屋層と呼ばれる新第三紀中新世の火山堆積物（溶岩・火山砕屑岩・凝灰質砂岩）からなり、丘陵部の南端部では、同じく新第三紀中新世の中村層（礫岩・凝灰質砂岩・シルト岩）や新第三紀鮮新世の土岐砂礫層（礫・砂）が局所的に分布する。南部の平坦面は第四紀更新世以降に形成された木曽川・飛騨川の河岸段丘面であり、市街地を含む低位段丘、西部の加茂野地区周辺の中位段丘、上野地区周辺の高位段丘に区分される。

遺跡は高位段丘上に立地する。遺跡内はＡ区北西端とＣ区西端部の２箇所を頂点とする緩傾斜地となっており、近年まで果樹園として利用されていた土地が大部分を占める。最も高いＡ区北西端で標高135.5ｍを測り、最も低いＥ区西端で標高129ｍを測る。遺跡の南側には加茂川が西流し、さらにその南側には高位段丘が東西に尾根状に延びる。このため、標高が比較的高いにもかかわらず遺跡からの眺望は遮られ、南方に開ける美濃加茂盆地を見渡すことはできない立地となっている。

第３節　遺跡の基本層序

上記のように遺跡は高位段丘上に立地し、遺物を含まぬ地山である段丘堆積層（Ⅲ・Ⅳ層）の上に遺物包含層である褐色シルト層（Ⅱ層）と果樹園の耕作土（Ⅰ層）が載る。遺構の大部分はⅢ層上面で検出しているが、Ⅲ層が存在しない地点ではⅣ層上面で検出している。多少の異同はあるものの、基本的に全地区で同様の層序をなしている。

Ⅰ層＝黒褐色腐植土層

粘性は普通で、しまりは弱い。厚さは平均20㎝を測る。古代から現代に至る時代の遺物を含む。耕作等による撹乱を受けていることが多い。

Ⅱ層＝褐色シルト層

礫を少量含む。粘性は普通で、しまりはやや弱い。厚さは平均30㎝を測るが、全面に残るわけではない。Ｃ区ではやや残りが悪く、平均20㎝程度である。地山への漸移層である。古代から現代に至る時代の遺物を含み、遺物包含層と考えてよいが、含まれる遺物量はごく少ない。

Ⅲ層＝黄褐色シルト層

段丘堆積物の堆積層である。礫を多く含むこともある。粘性が強く、しまりも強い。厚さは平均30㎝を測るが、斜面となる地点等では全く認められないこともある。遺物を含まない。地山である。

Ⅳ層＝明黄褐色砂礫層

段丘堆積物の堆積層である。粘性は弱く、しまりは極めて強い。Ⅲ層から漸移し、Ⅲ層との境は必ずしも明確ではない。遺物を含まない。地山である。

第６図　基本層序模式図

第3章　検出した遺構

第1節　遺構の概要

本遺跡で検出した遺構は、形状や使用目的からは、住居跡・ピット・土坑・溝・井戸・特殊の6種に分類される。年代面では弥生時代から近現代にまでわたっている。本章では検出した遺構を、まず、年代的観点から、古代の遺構（7世紀を含む）、中世の遺構、近世の遺構、その他の時代の遺構、以上の4つに分け、さらに遺構種別によって細分した上で、地区毎に遺構番号順に報告する。

遺構の年代の推定に当たっては、遺構内から出土した遺物の組成や型式的特徴と、遺構間の切り合い関係、それに遺構そのものの特徴を手掛かりとした[1)]。出土遺物からの遺構年代の推定においては、具体的には次のような手法を採った[2)]。

①主に出土状況から判断して、確実にその遺構に当初から帰属したと考えられる遺物が出土している場合、その遺物の推定年代をもって、その遺構の年代とした。

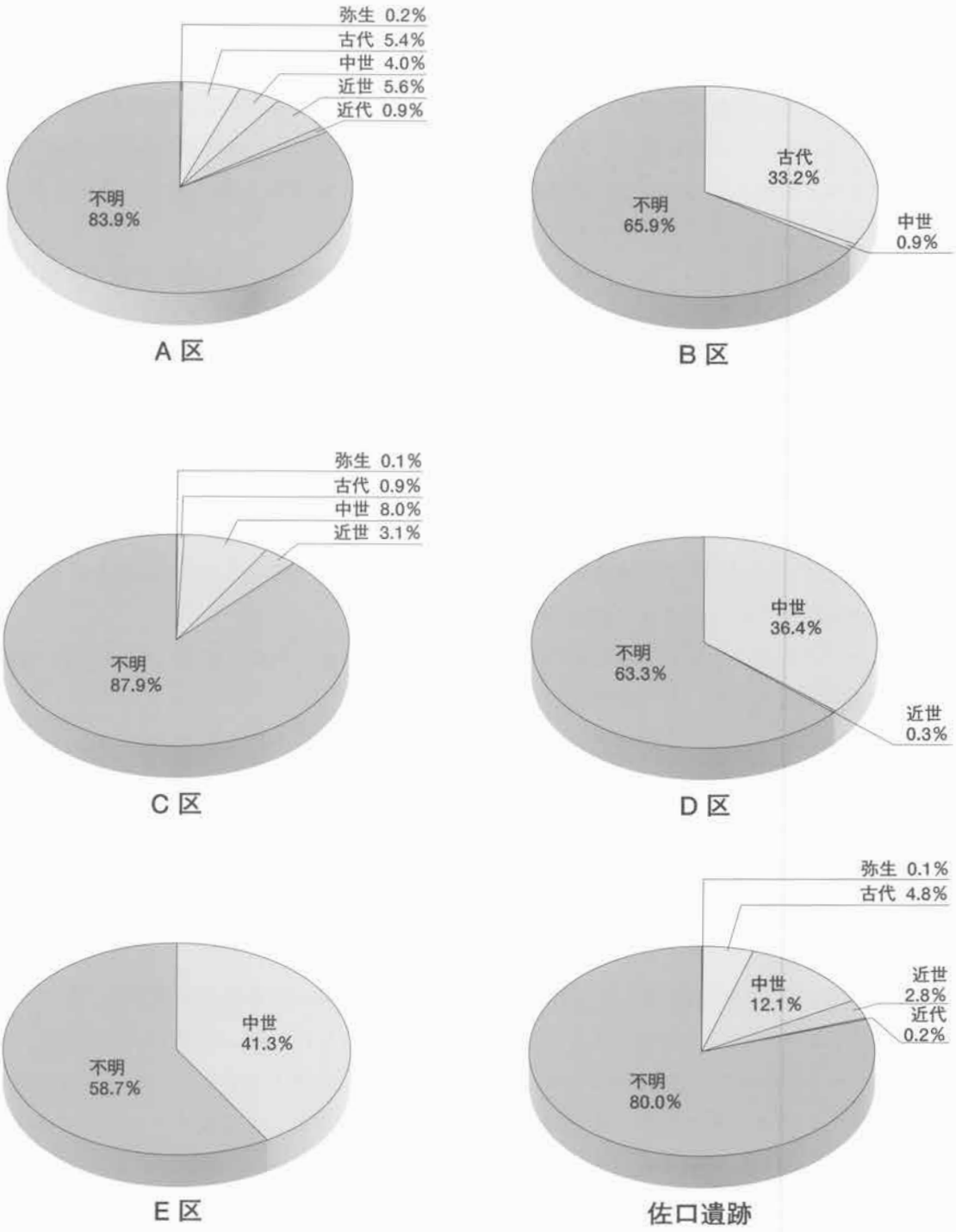
②出土状況に手掛かりを求めることができない場合、型式的特徴の面でばらつきの少ない遺物がまとまって（破片数で数点程度以上）出土していれば、出土状況に後世の混入品であることを示すような徴証が認められない限り、その遺構の年代はその遺物群の推定年代にほぼ一致すると考えた。

③遺構からの出土遺物が年代的観点からいくつかのグループに分けられ、出土状況からはどのグループが当初からその遺構に帰属していたか検証できない場合、原則として最も新しいと考えられるグループの年代をもってその遺構の年代とした。ただし、その遺物群の中で最も新しいと考えられるグループが量的に少数を占めるにすぎない場合には、それらが後世の混入品である可能性を考慮し、量的に最も多数を占める遺物グループの年代をもって遺構の年代とする方がふさわしいことがある。この場合、遺物の残存状態（摩滅の度合）や周辺の遺構での遺物出土状況の傾向、それに遺構間の切り合い関係などに判断の手掛かりを求めた。

④遺構からの出土遺物が少数で（数点程度未満）、かつ出土状況に手掛かりを求めることができない場合も、上記②③に準じて判断した。ただし、遺物群の器種組成の面からの検討や複数の遺物の比較検討などが不可能となることを考慮し、「時代」レベルまでの推定にとどめておいた。

遺構の年代推定の結果をもとに、本遺跡の検出遺構を時代別に集計したのが第7図である。遺構総数2,430基のうち、弥生時代が2基（0.1%）、古代が117基（4.8%）、中世が294基（12.1%）、近世が69基（2.8%）、近代が5基（0.2%）、そして時代不明が1,943基（80.0%）である。年代の推定できる遺構は全体の約2割にとどまること、その大部分を古代・中世・近世の遺構が占めていること、以上を遺跡全体での傾向として、まず指摘できる。次に地区毎の集計を概観することにより、古代の遺構が検出されたのは遺跡東半に位置するA区・B区・C区に限られること、中世の遺構は全地区で検出されているものの、B区では極めて稀にしか検出されず、遺跡西半に位置するD区・E区では逆に年代の推定できる遺構のほとんどを占めるほど高密度に達していること、以上のような傾向を読みとることができる。より詳しくは付表2「遺構集計表」を参照されたい。

なお、近代以降の生活痕跡については原則として遺構として扱わず、「攪乱」扱いとして平面図でもケバ付き破線記号で平面形のみを表示している。「近代遺構」とした５基は、年代は近代であるが良好な資料が出土した等の理由で特例として遺構扱いとなっているものである。したがって、本遺跡における近代の生活痕跡がこの５基に限られることを意味するのではないことを断っておきたい。



第７図　検出遺構集計グラフ

第2節　古代の遺構

概要

古代の遺構と判断したのは、住居跡24軒、ピット71基、土坑12基、溝10条、合計117基である。地区別ではA区31基、B区75基、C区11基、D区・E区0基となる。前述の通り、遺構の分布範囲はC区以東に限られ、B区で特に高密度となる。

(1) 竪穴住居跡

本遺跡で住居跡と判断した遺構は、すべて地面を竪穴状に掘り窪めて造る竪穴住居跡であるとみられる。A区で13軒、B区で6軒、C区で5軒、合計24軒を検出した。住居構造や屋内施設の配置、それに特にカマドの構造については、全遺構を見渡した上で第6章第1節において考察することとし、本章では事実関係の報告を中心とする。

なお、遺構実測図においては、住居跡と位置的に重なるものの明らかに時期を違える遺構については上端線のみを表示し、屋内施設およびその可能性のある遺構とは区別して図示した。

2001号遺構・2002号遺構（第8・9図）

A区の東端部に近いD4グリッドに位置する。重複して検出された2軒の竪穴住居跡である。切り合い関係から判断して2002号遺構の方が2001号遺構より新しい。

まず、2001号遺構について報告する。東半部を2002号遺構によって切られ、さらに斜面に位置するため北東壁が残らないことから規模は明確ではないが、北西壁から南東壁までは3.06mを測る。平面形は方形となると推測される。残存状態はあまり良好ではなく、壁の高さは確認面から最大で9cmを測るにすぎない。主軸方位はN－45°－Wを指す。

埋土は全体に均質な土層が安定してみられ、自然埋没と考えられる。床面については、地山を掘って平らに成形するのみで、貼り床は施していない。

屋内施設としてはピット・周壁溝・カマドが認められる。ピットの多くは小型の柱穴と考えられるが、図示したものすべてがこの住居に伴うと断定はできない。配置に規則性が認められないことから、住居内に柱は並ばず、主柱を持たない構造を採っていたものと考えられる。周壁溝については、本遺構では検出範囲は限定されており、北西壁の基部に沿って92cm検出されたにすぎない。幅は最大14cm、深さは5cm程である。

カマドは北西壁際の、おそらく中央よりやや北東寄り（向かって右寄り）となるであろう位置に設けられている。両袖は残存しない。火床面は強く焼け、赤褐色～暗赤褐色を呈する。断ち割り調査の結果、これは地山が焼けたものであることを確認した。その左右と奥には径10～20cm、深さ5～25cm程の小ピットが合わせて5基認められる。こうしたカマド火床周辺の小ピットは、本遺跡では普遍的に認められる。その性格の解明は本遺跡のカマド構造の推定において重要であると考えるので、第6章第1節において特に考察することとする。なお、本遺構では右袖の右隣りにおいて石1点が出土したが、熱を受けてはいないため、袖の芯として使われたものであるか否かは不明である。煙道部はほとんど検出されず、わずかにカマド奥壁がやや外へ張り出しているのを確認したにとどまる。

出土遺物は破片数で19点を数え、その内訳は須恵器2点、土師器16点、古瀬戸1点である。図示で

きた遺物はない。なお、本遺構についてはカマド焼土の残留磁化測定による年代推定を実施しており、その結果は西暦665±20年となっている。

次に2002号遺構について報告する。斜面下方側に位置する東壁が流失し残存しないため全体規模は不明であるが、北壁から南壁までは4.20ｍを測る。平面形は方形となるものと推測される。残存状態は2001号遺構に比べれば良好で、壁の高さは確認面から最大で18㎝を測る。主軸方位はＮ－90°－Ｗを指す。

埋土は全体に均質な土層が安定してみられ、自然埋没と考えられる。床面については、地山を掘って平らに成形するのみで、貼り床は施していない。

屋内施設としてはピット・土坑・周壁溝・カマドが認められる。ピットの多くは小型の柱穴と考えられるが、図示したものすべてがこの住居に伴うと断定はできない。配置に規則性が認められないことから、住居内に柱は並ばず、主柱を持たない構造を採っていたものと考えられる。土坑についても、その性格の判断が容易ではないが、住居北西隅で検出されたｓｋ１は、カマドとの位置関係から考えて、カマドの使用に伴う施設である可能性が高いであろう。周壁溝については、本遺構でも検出範囲は限定されており、北壁と南壁の基部に沿って、それぞれ60㎝と187㎝検出されたにすぎない。幅は最大27㎝、深さは５㎝程である。

カマドは西壁際の中央に設けられていたと推定される。本遺構においては残存状態は極めて悪く、わずかにカマド用材とみられる炭混じりの焼土の集中域を確認したにとどまる。火床面や袖は確認できなかった。そのため、カマドの構造については詳述し得ないが、奥壁から西方に90㎝にわたって、幅20㎝、深さ３㎝程の溝が延びることを確認した。これは煙道部の痕跡である可能性が高いと考えている。

出土遺物は破片数で122点を数え、その内訳は須恵器10点、土師器109点、瀬戸美濃連房窯陶器１点、近世常滑陶器１点、産地不明磁器１点である。須恵器の高杯１個体（１）、土師器の甕２個体（２・３）を図示した。本遺構の推定年代については、良好な出土遺物が少ないことから、７世紀後半から８世紀前半頃と幅をもたせておくのが妥当であろう。

2003号遺構（第10・11図）

Ａ区の南端付近、Ｆ８グリッドに位置する。

平面形は方形になると推測される。北壁は残存せず、他の３面も壁の立ち上がりがかろうじて認められる程度の残存状態である。壁の高さは確認面から最大で３㎝を測るにすぎない。長軸となるとみられる北壁から南壁までの長さは不明。短軸（西～東）は3.14ｍを測る。本遺跡における標準的サイズになるとみられる。主軸方位はＮ－75°－Ｗを指す。

埋土は極めて薄いが全体に均質な土層が安定してみられ、自然埋没と考えられる。床面については、地山を掘って平らに成形するのみで、貼り床は施していない。なお、本遺跡においては比較的珍しいことであるが、床面には硬化が認められた。

屋内施設としてはピット・土坑・カマドが認められる。周壁溝は確認されなかった。ピットの多くは小型の柱穴と考えられるが、本遺構においては埋土が極めて薄かったため、後世の遺構との判別が特に困難であった。そのため、図示したものすべてがこの住居に伴うとは断定できないことを付記しておく。配置に規則性が認められないことから、住居内に柱は並ばず、主柱を持たない構造を採って

いたものと考えられる。検出した土坑1基はカマドから離れており、性格不明である。

カマドは西壁際に設けられている。北壁の位置が不明であるため断定はできないものの、おそらくは西壁の中央よりやや北寄り（向かって右寄り）となる位置に当たるとみられる。両袖は残存しない。火床面は強く焼け、赤褐色～暗赤褐色を呈する。断ち割り調査の結果、火床面の西半部は埋没したピットの埋土表面が焼けたものであり、東半部は地山が焼けたものであることが判明した。西半部のピットがカマドの構築に当たって意識的に掘られたものなのか、あるいは以前からあった柱穴か自然の窪みを埋めてカマドを造ったためこのような状況となったのか、いずれとも判断する手掛かりは得ていない。2001号遺構で認められたカマド火床周辺の小ピットは検出されなかった。煙道部はほとんど検出されず、わずかにカマド奥壁がやや外へ張り出しているのを確認したにとどまる。

住居内からの出土遺物は破片数で71点を数え、その内訳は須恵器4点、土師器65点、製塩土器2点である。明らかに後世に属するとみられる遺物は混入していない。須恵器の有台杯1個体（4）、土師器の甕1個体（5）、製塩土器1個体（6）を図示した。本遺構の年代については、須恵器の有台杯が出土していることから7世紀後半以降とみて間違いないと思われ、下限は幅をもたせて8世紀前半頃までと考えておくのが妥当であろう。

2011号遺構（第17図、写真図版3）

A区の中央よりやや北寄り、B7グリッドに位置する。

本遺構の平面形は南北に長い長方形を呈し、カマドは例外的に住居北西隅に設けられている。長軸（北～南）3.10m、短軸（西～東）2.26mを測り、壁の高さは確認面から最大で12cmを測る。残存状態は良好である。本遺跡においては特に小型の部類に属する。主軸方位はN－3°－Eを指す。

埋土は全体に均質な土層が安定してみられ、自然埋没と考えられる。床面については、地山を掘って平らに成形するのみで、貼り床は施していない。

屋内施設としては認められるのはカマドのみである。前述の通り、カマドは住居北西隅の壁際に設けられている。これは本遺跡では唯一の例である。両袖は残存しない。火床面は強く焼け、明赤褐色～暗赤褐色を呈する。断ち割り調査の結果、これは地山が焼けたものであることを確認した。その左右と奥には、本遺跡で普遍的に認められる小ピットが合わせて3基検出された。煙道部は全く検出されなかった。なお、柱穴は確実なものは存在せず、やはり主柱を持たない構造を採っていたものと考えられる。周壁溝や土坑も認められなかった。

出土遺物は破片数で75点を数え、その内訳は土師器72点、製塩土器3点である。土師器の甕1個体（7）を図示した。須恵器が出土していないため年代の推定は困難である。あえて言えば、A区の他の住居跡と同時期、7世紀後半～8世紀前半頃となるであろう。

2035号遺構（第12・13図、写真図版3）

A区の北端付近、B6グリッドに位置する。

残存状態は本遺跡の竪穴住居跡のなかでは最も良好な部類に属する。これは、本遺構が比較的標高が高く、かつ傾斜が緩やかな地点に立地しているためと思われる。長軸（北～南）3.70m、短軸（西～東）3.30mを測り、壁の高さは確認面から最大16cmを測る。平面形は方形である。主軸方位はN－70°－Wを指す。本遺跡においては標準的なサイズである。埋土には焼土と炭が多量に含まれ、床面直上には炭化木材が散乱していた。このことから本遺構は焼失住居跡と考えられる。床面については、

地山を掘って平らに成形するのみで貼り床は施していないが、表面にはやや硬化が認められた。

屋内施設としてはピット・土坑・周壁溝・カマドが認められる。ピットは小型の柱穴と考えられるが、配置に規則性は認められない。やはり、住居内に柱は並ばず、主柱を持たない構造を採っていたものと考えられる。土坑のうち住居北西隅で検出されたｓｋ２は、カマドとの位置関係から考えて、カマドの使用に伴う施設である可能性が高いであろう。周壁溝の残存状態は良好で、カマド部分と住居北東隅を除く住居壁の基部に沿って検出された。幅は10～25㎝、深さは10㎝程である。住居北東隅の周壁溝の途切れる部分は1.0ｍを測り、住居の出入口として適当な幅である。カマドの反対側に位置することからも、この推測は裏付けられよう。

カマドは西壁際の中央に設けられている。両袖とも奥壁寄りの一部が残存していた。断ち割り調査の結果、袖はいずれも地山を浅く掘り窪めた後に地山と同質の粘性の高いシルトを充填し、さらに積み上げて造られていることが判明した。地山の掘削深度は、火床面から測って、向かって左側の袖で10㎝、右側の袖は20㎝である。掘削後の地山面からの盛土の高さの残存高は、左側の袖は16㎝、右側の袖は25㎝を測る。火床面は強く焼け、橙色～暗赤褐色を呈する。これは地山が焼けたものであることを断ち割り調査において確認している。その左右と奥には、本遺跡で普遍的に認められる小ピットが合わせて５基検出された。煙道部はほとんど検出されず、カマド奥壁が外へ張り出しているのを確認したにとどまる。

出土遺物は破片数で179点を数え、その内訳は須恵器15点、土師器159点、石製品３点、金属製品２点である。須恵器の無台杯１個体（８）、甕１個体（９）、それに高杯１個体（10）、土師器の甕２個体（11・12）を図示した。本遺構の年代については、須恵器の無台杯が出土していることから７世紀後半以降とみて間違いないと思われ、下限は幅をもたせて８世紀前半頃までと考えておくのが妥当であろう。なお、本遺構についてはカマド焼土の残留磁化測定による年代推定を実施しており、その結果は西暦650±10年となっている。

2216号遺構（第14～16図、写真図版３）

Ａ区の西端付近、Ｅ11グリッドに位置する。

西壁が残存しないため全体規模は明らかではないが、北壁から南壁までは6.50ｍを測り、壁の高さは確認面から最大で24㎝を測る。本遺跡においては最も大型の住居跡である。平面形は方形となるとみられる。主軸方位はＮ－75°－Ｗを指す。埋土は全体に均質な土層が安定してみられ、自然埋没と考えられる。床面については、地山を掘って平らに成形するのみで、貼り床は施していない。

屋内施設としてはピット・土坑・周壁溝が認められる。ピットの多くは小型の柱穴と考えられるが、図示したものすべてがこの住居に伴うと断定はできない。配置に規則性が認められないことから、住居内に柱は並ばず、主柱を持たない構造を採っていたものと考えられる。土坑の性格については不明と言わざるを得ない。周壁溝は、東壁の大部分と北壁・南壁の東壁寄りの部分において、壁の基部に沿って約6.5ｍ分検出された。幅は最大30㎝、深さは５㎝程である。

本遺跡では斜面上方側となる住居の北～西面の壁際でカマドが検出されるのを通例とするが、本遺構では例外的に東壁側が斜面上方となる。このため、本遺構の場合、カマドの構築位置は他の住居同様に西壁であったとも、斜面上方側となる東壁であったとも考えられる。ところが、斜面下方に位置する西壁は流失し、さらに近世の溝によって切られ、残存しない。また、東壁中央部は、ちょうど試

掘確認調査時のトレンチによって損なわれ、やはり残存しない。以上のような事情から、カマドの有無とその位置については確認できなかった。

住居内からの出土遺物は破片数で629点を数え、その内訳は須恵器477点、土師器60点、北部系山茶碗52点、古瀬戸1点、瀬戸美濃連房窯陶器3点、分類不能土器1点、埴輪1点、石製品29点、金属製品4点、近世瓦1点である。須恵器の出土点数が例外的に多く、かつ状態の良いものが多いことを本遺構の特徴として強調することができる。須恵器は、高杯2個体（13・14）、長頸壺2個体（15・16）、杯蓋1個体（17）、杯身1個体（18）、杯1個体（19）、摘み蓋1個体（20）、甕2個体（21・22）を図示した。石製品では石鏃1個体（23）を図示した。埋土上層から出土した埴輪1点（24）は、注目される遺物ではあるものの、混入品とみなすべきであろう。

須恵器の古墳時代タイプの器種である杯蓋・杯身と歴史時代タイプの器種である摘み蓋がともに出土していることから、後者がすでに出現しており、かつ前者が残る時期の遺構であるとみるべきである。したがって、本遺構の年代は7世紀後半頃と考えられる。

2341号遺構・2677号遺構（第18～20図、写真図版4）

A区の北東端付近、C5グリッドに位置する。重複して検出された2軒の竪穴住居跡である。切り合い関係から判断して2677号遺構の方が2341号遺構より新しい。

2341号遺構は、平面形は方形となると推定される。斜面に位置しているため北東壁と南東壁が流失して残らず、全体規模は不明であるが、北西壁から残存部南東端までは4.02ｍ以上、南西壁から残存部北東端までは4.28ｍ以上を測る。本遺跡においては大型の部類に属する。壁の高さは確認面から最大で約20㎝を測る。南東部を2677号遺構によって切られていることもあって、遺構全体の残存状況は良好とは言えないものの、カマド等の内部施設は比較的よく残っている。主軸方位はＮ－45°－Ｗを指す。

埋土は全体に均質な土層が安定してみられ、自然埋没と考えられる。床面については、基本的には地山を掘って平らに成形するのみであるが、カマドとその周辺部では地山を10㎝程掘り窪めた後に、粘質シルトを敷いている。これは2677号遺構にも認められる特徴である。

屋内施設としてはピット・土坑・周壁溝・カマドが認められる。ピットの多くは小型の柱穴と考えられるが、図示したものすべてがこの住居に伴うと断定はできない。配置に規則性が認められるか否かは判断が難しく、ｐ１・ｐ３・ｐ６を主柱とみることもできるが、主柱を持たない構造を採っていた可能性も考慮すべきであろう。土坑ｓｋ１はカマドの右隣りに位置することから、カマドの使用に伴う施設である可能性が高い。周壁溝については、カマド部分を除く壁残存部全域の壁基部において検出された。幅は最大33㎝、深さは5㎝程である。

カマドは北西壁際の中央付近に設けられている。両袖は全く残っていない。火床面は強く焼け、橙色～暗赤褐色を呈する。断ち割り調査の結果、これは前述した客土の粘質シルトが熱を受けたものであることを確認した。さらにこの面の10㎝下には、もう一面の被熱面の存在が認められた。これは地山が焼けたものとみられるが、混入物が若干みられるので、客土である可能性もある。いずれにせよ、本遺構のカマドには上下2面の火床面が認められることとなり、旧カマドを客土によって埋めて新カマドを造ったと考えたい。なお、本遺跡で普遍的に認められるカマド火床部周辺の小ピットは、本遺構では明確な形では検出されなかった。煙道部はほとんど検出されず、わずかにカマド奥壁がやや外

へ張り出しているのを確認したにとどまる。

出土遺物については、2341号遺構と2677号遺構の出土遺物を完全に分別するのは不可能で、平面上の位置からおおまかに分けるにとどめておいた。出土遺物数が多いので、遺物出土状況の平面分布は上層と下層に分けて掲載した。2341号遺構は出土遺物数の目立って多い遺構であり、破片数で751点を数える遺物が出土している。その内訳は須恵器117点、土師器612点、製塩土器15点、瀬戸美濃連房窯陶器1点、金属製品6点である。須恵器16個体、土師器9個体、製塩土器1個体、金属製品2個体を図示した。図示した須恵器の内訳は、無台杯4個体（25・28・29）、小型の有台杯1個体（31）、無台か有台か判別不能の杯2個体（26・27）、古墳時代タイプの杯身2個体（32・33）、摘み蓋1個体（35）、返り蓋か摘み蓋か判別不能の蓋1個体（34）、鉢1個体（36）、甕4個体（37・38・39・40）である。土師器9個体はすべて甕である（42～50）。製塩土器1個体は杯部の破片である（41）。金属製品は、鉄製の刀子1個体（51）と鉄製の鎌1個体（52）である。

須恵器の古墳時代タイプの器種である杯身と歴史時代タイプの器種である摘み蓋がともに出土していることから、後者がすでに出現しており、かつ前者が残る時期の遺構であるとみるべきであろう。したがって、本遺構の年代は7世紀後半頃と考えられる。なお、カマド焼土の残留磁化測定による年代推定結果は、西暦630±10年となっている。

次に2677号遺構について報告する。本遺構は北西隅を中心に全体の四分の一程度が残存するにすぎないとみられ、規模は不明である。壁の高さの残存高も最大で2㎝程度である。平面形は方形となる可能性が高いであろうが、確かなことは言えない。主軸方位は2341号遺構にほぼ等しいとみられ、N－45°－Wと推定される。埋土の検出面からの厚さがごく薄いことから明確ではないが、全体に均質な土層が安定してみられると判断して差し支えなく、自然埋没と考えて不自然な点はない。床面については、基本的には地山を掘って平らに成形するのみで、貼り床は施していない。ただし、2341号遺構の場合と同様に、カマド部分には客土を入れている。

屋内施設としてはピット・周壁溝・カマドが認められる。ピットの多くは小型の柱穴と考えられるが、図示したものすべてがこの住居に伴うと断定はできない。本遺構は検出範囲が限定されているため、配置に規則性が認められるか否かは判断できない。周壁溝については、カマド部分を除く壁残存部全域の壁基部において検出された。幅は最大26㎝、深さは6㎝程である。

カマドは特異な配置を示し、北西壁の壁際に2箇所にわたって火床面が認められた。両袖は全く残っていない。火床面は強く焼け、橙色～暗赤褐色を呈する。断ち割り調査の結果、これは客土である粘質シルトが焼けたものであることを確認した。客土の厚さは最大で28㎝を測る。2341号遺構の場合とは異なり、その下の地山面には被熱箇所は認められない。なお、本遺跡で普遍的に認められる小ピットは本遺構では検出されなかった。煙道部も検出されなかった。

前述の通り、2341号遺構と2677号遺構の出土遺物を完全に分別するのは不可能であるが、平面分布状況から分別を行えば、2677号遺構からの出土遺物は329点となる。その内訳は、須恵器21点、土師器166点、近世常滑陶器141点、分類不能土器1点である。図示した須恵器5個体のうち、73は無台か有台か判別不能の杯、74は無台杯、75は有台杯、76と77は摘み蓋である。図示した土師器3個体（78～80）はすべて甕である。

本遺構の年代については、遺構の切り合い関係から2341号遺構よりは新しいと考えるべきであるこ

とは前述した。2677号遺構では古墳時代タイプの器種の須恵器が出土していないことから、出土遺物の面からもこのことは裏付けられる。したがって、2341号遺構よりは新しいが、さほど年代を隔てぬ時期、7世紀後半以降と考えておく。

2390号遺構（第21図、写真図版3・4）

A区の中央よりやや北寄り、C6グリッドに位置する。

西壁以外の壁がほとんど残っていないため平面形は不明であるが、方形となる可能性が高い。規模も不明であるが、南壁から北壁までが4ｍ前後となることは、ほぼ確実である。壁の高さは確認面から最大で5㎝程度である。主軸方位はN－85°－Wを指す。

埋土はごく薄いが全体に均質な土層が安定してみられたので、自然埋没と考えられる。床面については、地山を掘って平らに成形するのみで、貼り床は施していない。

屋内施設としてはピット・周壁溝・カマドが認められる。ピットの多くは小型の柱穴と考えられるが、前述の通り埋土がごく薄かったため後世の遺構を見分けることが容易でなく、図示したものすべてがこの住居に伴うと断定はできない。しかし、配置に規則性が認められないことから、住居内に柱は並ばず、主柱を持たない構造を採っていたものと考えられる。周壁溝については、西壁から南壁にかけての壁の基部に沿って、3箇所にわたり合計200㎝検出された。幅は最大20㎝、深さは10㎝程である。

カマドは西壁際の、中央付近となるとみられる位置に設けられている。両袖は残存しない。火床面は強く焼け、橙色～暗赤褐色を呈する。断ち割り調査の結果、これは地山が焼けたものであることを確認した。その左右には、本遺跡で普遍的に認められる小ピットが合わせて3基検出された。煙道部はほとんど検出されず、わずかにカマド奥壁が外へ張り出しているのを確認したにとどまる。

出土遺物は破片数で19点にすぎず、その内訳は須恵器2点、土師器16点、北部系山茶碗1点である。図示できたのは、須恵器の壺1個体（54）、土師器の甕1個体（55）、それに後世の混入品であるが山茶碗1個体（56）である。出土遺物から本遺構の年代を判断するのは困難であるが、A区の他の住居跡と同時期、7世紀後半から8世紀前半の幅の中には収まると考えておいて大過ないであろう。なお、カマド焼土の残留磁化測定による年代推定結果は、西暦655±25年となっている。

2395号遺構（第22～24図、写真図版4）

A区の中央よりやや北寄り、C7グリッドに位置する。

平面形が方形となる住居跡であるが、北西隅の部分に北方へ長さ0.6ｍの張り出し部を設けている。規模は長軸（北～南）6.04ｍ、短軸（西～東）5.20ｍを測り、本遺跡では2216号遺構に次ぐ大きさである。なお、この長軸の値は住居北西隅の張り出し部を含んでのものであるが、この部分を除いたとしても本遺跡においては特に大型の部類に属することに変わりはない。残存状況は良好で、壁の高さは確認面から最大で約24㎝を測る。主軸方位はN－95°－Wを指す。

埋土は東半部では極めて薄く、ほとんど認められない部分さえあるが、全体に均質な土層が安定してみられ、自然埋没と考えられる。床面については、地山を掘って平らに成形するのみで、貼り床は施していない。

屋内施設としてはピット・土坑・周壁溝・カマドが認められる。ピットの多くは小型の柱穴と考えられるが、図示したものすべてがこの住居に伴うと断定はできない。配置に規則性が認められないこ

とから、住居内に柱は並ばず、主柱を持たない構造を採っていたものと考えられる。土坑のうち住居北西隅に位置するｓｋ１については、カマドとの位置関係からカマドの使用に伴う施設である可能性を考えるべきであろう。ただし、本遺構の場合はカマドとの距離が２ｍ近くも離れており、やや疑問が残る。そもそもｓｋ１は前述した張り出し部に位置していることになり、この土坑を設けるために張り出し部が必要となったとも考えられるのだが、確証はない。周壁溝については、この張り出し部からカマドにかけての約４ｍ分を除く壁残存部のほぼ全域において、壁の基部に沿って検出された。幅は最大20㎝、深さは５㎝程である。

カマドは西壁際の中央に設けられている。本遺跡においては最も残りの良いカマドであり、両袖が不完全ながら残存している。火床面は強く焼け、赤褐色～暗赤褐色を呈する。断ち割り調査によって、火床面は地山が焼けたものであることを確認した。また、特筆されることに、断ち割り調査により両袖の構築方法も明らかとなった。両袖とも地山を20㎝前後掘り窪め、その窪みに粘質シルトを充填したうえで、さらに粘質シルトを積み上げることによって袖を構築していることが、カマドの横断面から読みとれる。さらに、断ち割り調査後に袖を完全に除去して芯となる石材の有無について確かめたところ、本遺構のカマドには芯材は全く使われておらず、すべて粘質シルトから成ることを明らかとすることができた。

なお、火床面の奥には、本遺跡で普遍的に認められる小ピットは検出されなかった。煙道部はほとんど検出されず、わずかにカマド奥壁が外へ張り出しているのを確認したにとどまる。

出土遺物は破片数で362点を数え、その内訳は須恵器12点、土師器347点、北部系山茶碗１点、瀬戸美濃連房窯陶器１点、石製品１点である。図示したのは須恵器の鉢１点（57）、高杯１点（58）、杯蓋１点（59）、杯身１点（60）、摘み蓋２個体（61・62）、土師器の甕６個体（63～68）である。須恵器の古墳時代タイプの器種である杯身・杯蓋と歴史時代タイプの器種である摘み蓋がともに出土していることから、後者がすでに出現しており、かつ前者が残る時期の遺構であるとみるべきであろう。したがって、本遺構の年代は７世紀後半頃と考えられる。

2460号遺構（第25図）

Ａ区の東端部、Ｄ３グリッドに位置する。

遺構の東半部が損なわれているため全体規模は不明であるが、北壁から南壁までは3.52ｍを測る。平面形は方形となると推測される。残存状況はあまり良好ではなく、壁の高さは確認面から最大でも６㎝である。主軸方位はＮ－150°－Ｗを指し、本遺跡の住居跡としては例外的にやや南方向を向くが、等高線に対してはほぼ直交方向である。

埋土は薄いが全体に均質な土層が安定してみられ、自然埋没と考えられる。床面については、地山を掘って平らに成形するのみで、貼り床は施していない。

屋内施設としては土坑・周壁溝・カマドが認められる。ピットは認められなかった。住居内に柱は並ばず、主柱を持たない構造を採っていたものと考えられる。土坑ｓｋ１はカマドの右隣りに位置し、カマドの使用に伴う施設と考えられる。土坑内からはほぼ完形の土師器の甕１点（69）が出土した。周壁溝は、西壁の基部に沿って150㎝検出された。幅は最大14㎝、深さは５㎝程である。

カマドは西壁際の、中央より南へ約１ｍずれた位置に設けられている。カマドに向かって中心より左側へずれていることとなり、右側にずれるのを通例とする本遺跡にあっては特異な例である。両袖

は残存しない。火床面は焼けて暗赤褐色を呈するが、後世の攪乱により安定した面としては残らず、断ち割り調査によって確認するに至った。これは地山が焼けたものである。火床の左右と奥に本遺跡で普遍的に認められる小ピットは、本遺構ではカマド周辺の残存状態が悪いため、検出されなかった。煙道部はほとんど検出されず、わずかにカマド奥壁がやや外へ張り出しているのを確認したにとどまる。

出土遺物は破片数で22点を数え、その内訳は須恵器2点、土師器20点である。図示できたのは、カマド脇の土坑ｓｋ1内から出土した、前述の土師器の甕1個体（69）のみである。ほかの良好な個体がないため、本遺構の年代の推定は困難である。あえて言うならば、A区の他の住居跡と同時期、7世紀後半～8世紀前半頃となるであろう。

2527号遺構（第26図）

A区の中央よりやや東寄り、D6グリッドに位置する。

残存状態は極めて悪く、残るのは全体の四分の一程度である。規模や平面形は不明である。壁の高さも確認面から最大でも4㎝を測るにすぎない。主軸方位はN－60°－Wを指す。

埋土は極めて薄いが全体に均質な土層が安定してみられ、自然埋没と考えられる。床面については、地山を掘って平らに成形するのみで、貼り床は施していない。

屋内施設としては土坑・周壁溝・カマドが認められる。住居内に確実なピットは認められず、住居内に柱が並ぶ可能性は小さいと思われる。土坑ｓｋ1はカマドの右隣りに位置するので、カマドの使用に伴う施設である可能性が高いであろう。周壁溝については、住居北西隅の壁の基部に沿って130㎝検出された。幅は最大20㎝、深さは4㎝程である。カマドは北西壁際の中央付近に設けられたとみられるが、定かではない。両袖は残存しない。火床面は強く焼け、暗赤褐色を呈する。断ち割り調査の結果、これは地山が焼けたものであることを確認した。その左右と奥では、本遺跡で普遍的に認められる小ピットが1基ずつ、合わせて3基検出された。煙道部は全く検出されなかった。

出土遺物は破片数で5点にすぎず、その内訳は須恵器4点、土師器1点である。図示できた個体はない。本遺構の年代は不明と言わざるを得ないが、A区の他の住居跡と同時期、7世紀後半～8世紀前半頃である可能性が高いであろう。

2652号遺構（第27図）

A区北端部のA8グリッドに位置する。

残存状況が極めて悪いため全体規模は不明であるが、住居床とみられる硬化面の広がりの範囲から、東西方向は3.78ｍ以上となることが確認されている。壁は全く残存しない。主軸方位はN－85°－Wを指す。

埋没の状況は不明である。床面については、地山を掘って平らに成形するのみで、貼り床は施していない。表面はやや硬化している。

屋内施設としてはピット・カマドが認められる。ピットは小型の柱穴と考えられるが、前述したような検出状況であるため、図示したものすべてがこの住居に伴うと断定はできない。いずれにせよ配置に規則性が認められないことから、住居内に柱は並ばず、主柱を持たない構造を採っていたものと考えられる。周壁溝は確認されなかった。

カマドは西壁際の、おそらく中央付近か、やや北寄りとなる位置に設けられている。全体に残りが

悪く、両袖は残存しない。火床面は強く焼け、暗赤褐色を呈する。断ち割り調査の結果、これは地山ではなく客土として入れた粘質シルトが焼けたものであることを確認した。火床面の左右と奥の状況は、残存状態が良くないため詳述し得ない。煙道部はほとんど検出されず、わずかにカマド奥壁がやや外へ張り出していると推定できるにとどまる。

出土遺物は破片数で５点にすぎず、その内訳は須恵器２点、土師器３点である。図示できたのは、須恵器の高杯の脚部とみられる１個体（72）のみである。本遺構の年代は不明と言わざるを得ないが、Ａ区の他の住居跡と同時期、７世紀後半～８世紀前半頃である可能性が高いであろう。

3001号遺構・3248号遺構（第28・29図、写真図版５）

Ｂ区西半地区のＩ８グリッドに位置する。重複して検出された２軒の竪穴住居跡である。切り合い関係から判断して3248号遺構の方が3001号遺構より新しいとみられるが、3248号遺構については調査区南限に位置するため、北西端部のごく一部のみの調査にとどまった。

3001号遺構は、南東壁を検出できなかったため全体規模は明らかではないが、おそらく短軸となるとみられる南西壁から北東壁までで4.45ｍを測る。本遺跡においては比較的大型の住居跡と言える。平面形は方形ないし長方形となるであろう。近年の攪乱により切られているものの、残存部分の状態は比較的良好である。壁の高さは確認面から最大で16㎝を測る。主軸方位はＮ－140°－Ｗを指し、本遺跡の住居跡としては例外的にやや南方向を向いている。

近年の攪乱の影響を受けているのを除けば、埋土は全体に均質な土層が安定してみられるので、自然埋没と考えられる。床面については、地山を掘って平らに成形するのみで、貼り床は施していない。ただし、カマド部分では客土を入れている。これについては後述する。

屋内施設としてはピット・周壁溝・カマドが認められる。ピットの多くは小型の柱穴と考えられるが、図示したものすべてがこの住居に伴うと断定はできない。配置に規則性が認められないことから、住居内に柱は並ばず、主柱を持たない構造を採っていたものと考えられる。周壁溝は北西壁と南西壁の残存部の大部分において検出されたが、最大幅55㎝を測る幅広の溝の中に通常サイズの小溝が巡る特異な構造を採っている。さらに不可解なことに、北西壁の南半部では壁の基部から20～30㎝離れた地点で検出された。小溝の深さは５㎝程である。なお、北東壁では周壁溝は検出されなかった。

カマドは南西壁際の中央付近ないしは中央よりやや南東寄り（向かって左寄り）となる位置に設けられている。両袖については、左袖の有無は調査区外となるため不明であり、右袖は残存しないことを確認した。火床面は強く焼け、暗赤褐色を呈する。断ち割り調査の結果、これは大部分が地山ではなく客土として入れた灰褐色シルトが焼けたものであることが判明した。客土の範囲は、客土を認識した時点での調査で火床部を中心に直径60㎝くらいの円状をなすことを確かめたが、実際にはさらに広く、カマド袖や奥にも及んでいた可能性が高いと考える。厚さは最大20㎝を測る。火床面の右と奥には本遺跡で普遍的に認められる小ピットがみられるが、ピットと言うより不整形の小さな窪みの集まりといった様相を呈する。煙道部はほとんど検出されず、わずかにカマド奥壁がやや外へ張り出しているのを確認したにとどまる。

出土遺物は破片数で382点を数え、その内訳は、須恵器45点、土師器332点、北部系山茶碗２点、石製品２点、金属製品１点である。図示したのは、須恵器の杯（無台か有台かは判別不能）１個体（81）、有台杯１個体（82）、鉢１個体（83）、摘み蓋１個体（84）、甕１個体（85）、土師器の甕３個体（86～

88）である。須恵器が歴史時代タイプの器種で占められることから、本遺構の年代は7世紀後半以降であるとみられる。下限については判断材料に乏しいので、幅をもって8世紀前半までと考えておくこととしたい。

次に3248号遺構についてであるが、この住居跡は北西壁の一部を検出したのみであるので、規模や主軸方位は不明である。ただ、カマドを北西の壁際に設けていることは、ほぼ確かである。確実に本遺構から出土したと見なせる遺物はない。

3002号遺構・3156号遺構（第30～32図、写真図版5）

B区西半地区の中央、Ｉ7・Ｉ8グリッドに位置する。重複して検出された2軒の竪穴住居跡である。切り合い関係から判断して3156号遺構の方が3002号遺構より新しい。

3002号遺構は、南東隅を3156号遺構によって切られてはいるが、残存状態は比較的良好である。規模は長軸（北東～南西）3.50ｍ、短軸（北西～南東）3.35ｍを測り、壁の高さは確認面から最大で28㎝を測る。平面形は方形を呈する。主軸方位はＮ－60°－Ｗを指す。本遺跡においてはやや小型の部類に属する。

埋土は全体に均質な土層が安定してみられ、自然埋没と考えられる。床面については、地山を掘って平らに成形するのみで、貼り床は施していない。ただし、カマドとその周辺部には客土を入れている。この点については後述する。

屋内施設としてはピット・土坑・周壁溝・カマドが認められる。ピットの多くは小型の柱穴と考えられるが、配置に規則性は認められない。よって、住居内に柱は並ばず、主柱を持たない構造を採っていたものと考えられる。土坑ｓｋ1はカマドの右隣りに位置し、カマドの使用に伴う施設である可能性が高いであろう。なお、この土坑からは須恵器壺1点が良好な状態で出土した。周壁溝については、カマドとその周辺部3.2ｍ分を除く壁残存部において、壁の基部に沿って検出された。幅は最大24㎝、深さは5㎝程である。

カマドは北西壁際の、中央より約0.5ｍ北東（向かって右方向）にずれた位置に設けられている。両袖とも一部が残存する。比較的残りの良かった右袖を断ち割って調査したところ、地山を浅く掘り窪めた後に地山と同質の粘性の高いシルトを充填し、さらに積み上げて造られていることが判明した。地山の掘削深度は12㎝、掘削後の地山面からの盛土の高さは、残存高で24㎝を測る。火床面は強く焼け、明赤褐色～暗赤褐色を呈する。断ち割り調査の結果、これは袖の構築に使用されたのと同じ粘質シルトが焼けたものであることを確認した。なお、本遺構のカマドでは、客土の範囲はカマドの全域にとどまらず、袖の外側にまで及ぶことが確認されている。火床面の左右と奥には、本遺跡で普遍的に認められる小ピットが1基ずつ検出された。煙道部はほとんど検出されず、わずかにカマド奥壁がやや外へ張り出しているのを確認したにとどまる。

出土遺物は破片数で204点を数え、その内訳は、須恵器60点、土師器141点、石製品3点である。明らかに後世に属するとみられる遺物は少ない。さらに、遺物の平面分布状況からは、カマドとその周辺のカマド用材の分布範囲内に遺物が比較的集中し、特に土師器にその傾向が強いことを読みとれる。以上から、本遺構からの出土遺物の一括性は、かなりの程度保証されると言えよう。

図示したのは、須恵器の壺1個体（89）、無台杯2個体（90・92）、無台か有台か判別不能の杯1個体（91）、高杯1個体（93）、摘み蓋2個体（94・95）、土師器の甕4個体（96～99）、砥石1個体

(100) である。須恵器が歴史時代タイプの器種で占められることから、本遺構の年代は7世紀後半以降であるとみられる。下限については判断材料に乏しいので、幅をもって8世紀前半までと考えておくこととしたい。

次に3156号遺構について報告する。南壁を検出できなかったため全体規模は明らかではないが、短軸になるとみられる西壁から東壁までが3.40ｍを測る。平面形は方形ないし長方形になると推定される。検出部分の残存状態は比較的良好で、壁の高さは確認面から最大で40㎝を測る。主軸方位はＮ－90°－Ｗを指す。

埋土は全体に均質な土層が安定してみられ、自然埋没と考えられる。床面については、本遺跡の住居跡にあっては例外的な存在となるが、貼り床が確認された。貼り床として敷かれているのは地山土（Ⅲ層）と同質の明褐色粘質シルトで、厚さは最大6㎝を測る。

屋内施設としてはピット・周壁溝・カマドが認められる。ピットは不完全な状態で1基検出したのみである。住居内に柱が並ぶとは考えられず、やはり主柱を持たない構造を採っていたものと考えられる。周壁溝については、カマド部分を除く全域において、壁の基部に沿って検出された。幅は最大40㎝、深さは5㎝程である。

カマドは西壁際の、おそらく中央付近となるであろう位置に設けられている。両袖は残存しない。火床面は強く焼け、赤褐色を呈する。断ち割り調査の結果、これは貼り床として敷かれた粘質シルトが焼けたものであり、さらにこの下層には間層をはさんでもう一面の火床面が存在することが判明した。この下層火床面は地山が焼けたものである。このことから、本遺構では、当初は地山掘り抜きのまま床とカマドを造っていたが、のちに貼り床を施してカマドも造り直したとみることができる。なお、上層火床面の左右には、本遺跡で普遍的に認められる小ピットが1基ずつ検出された。煙道部はほとんど検出されず、わずかにカマド奥壁がやや外へ張り出しているのを確認したにとどまる。出土遺物は破片数で289点を数え、その内訳は須恵器52点、土師器236点、石製品1点である。図示したのは、須恵器の無台杯2個体（111・112）、無台か有台か判別不能の杯2個体（113・114）、有台杯2個体（115・116）、摘み蓋2個体（117・118）、土師器の甕3個体（119～121）、砥石1個体（122）である。須恵器が歴史時代タイプの器種で占められることから、本遺構の年代は7世紀後半以降であるとみられる。下限については判断材料に乏しいので、幅をもって8世紀前半までと考えておくこととしたい。

3159号遺構（第33図、写真図版5）

Ｂ区西半地区の中央よりやや東寄り、Ｈ6グリッドに位置する。3156号遺構の東方約5ｍの地点に当たる。

北西壁以外の壁がほとんど残らないため全体規模は不明であるが、南西壁から北東壁までは4ｍ前後となるのはほぼ確かである。残存状態は良くないものの、壁の高さは確認面から最大で18㎝を測る箇所がある。平面形は方形ないしは長方形となるとみられる。主軸方位はＮ－40°－Ｗを指す。

埋土はごく薄く、わずかに住居西隅の一部で確認したにとどまる。そのため埋没状況については不明と言わざるを得ない。床面については、地山を掘って平らに成形するのみで、貼り床は施していない。

確認された屋内施設はカマドのみである。ピットが検出されないことから、住居内に柱は並ばず、主柱を持たない構造を採っていたものと考えられる。周壁溝も検出されなかった。

カマドは、北西壁際の、おそらく中央よりやや北東寄り（向かって右側）となるであろう位置に設けられている。両袖は残存せず、左袖から火床面の左端部にかけては後世のピットにより切られている。火床面は強く焼け、明赤褐色～暗赤褐色を呈する。断ち割り調査の結果、これは地山が焼けたものであることを確認した。その右と奥には、本遺跡で普遍的に認められる小ピットが各1基認められる。右側の小ピットについては、断ち割り調査によって、地山を約30cm掘り窪め、地山土（Ⅲ層）と同質の粘質シルトを充填したものであることが明らかとなった。さらに充填土のうち斜めに立ち上がる部分の表面が被熱していることを確認した。これは右袖の基部が残ったものと考えることができる。以上から、本遺構のカマドは、2035号遺構などと同様に、カマド袖部分のみ地山を掘り窪めたうえで粘質土を充填し、積み上げて構築されたと推定される。煙道部は全く検出されなかった。

出土遺物は破片数で10点にすぎず、その内訳は、須恵器1点、土師器8点、石製品1点である。図示できたのは土師器の甕1個体（123）のみである。本遺構の年代は不明と言わざるを得ないが、B区の他の住居跡と同時期、7世紀後半～8世紀前半頃である可能性が高いであろう。

3197号遺構（第34・35図、写真図版5）

B区西半地区の西端付近となるⅠ9グリッドに位置する。3001号遺構の西隣りの地点である。南東壁と南西壁を検出できなかったため全体規模は不明であるが、長軸・短軸ともに4ｍ台くらいになると推測される。平面形は方形ないしは長方形となるであろう。検出できた部分の残存状態は比較的良好で、壁の高さは確認面から最大で28cmを測る。主軸方位はN－55°－Wを指す。

埋土は全体に均質な土層が安定してみられ、自然埋没と考えられる。床面については、地山を掘って平らに成形するのみで、貼り床は施していない。

屋内施設としてはピット・周壁溝・カマドが認められる。ピットの多くは小型の柱穴と考えられるが、本遺構は検出範囲が限定されたため、配置に規則性があるか否かは判断不能である。周壁溝については、カマド部分を除く検出区域の全域において、壁の基部に沿って検出された。幅は最大40cm、深さは8cm程である。

カマドは北西壁際の、おそらく中央付近となるであろう位置に設けられている。両袖は残存しない。火床面は強く焼け、赤褐色を呈する。断ち割り調査の結果、これは地山が焼けたものであることを確認した。その左右と奥には、本遺跡で普遍的に認められる小ピットが1基ずつ認められる。ただし、本遺構ではカマド奥のものはピットというより小型の溝状を呈する。煙道部は全く検出されなかった。

出土遺物は破片数で360点を数え、その内訳は、須恵器81点、土師器275点、瀬戸美濃連房窯陶器1点、石製品1点、金属製品2点である。図示したのは、須恵器の摘み蓋3個体（129～131）、器種不明（硯？）1個体（132）、無台杯1個体（133）、無台か有台か判別不能の杯1個体（134）、甕1個体（135）、土師器の甕3個体（136～138）である。須恵器が歴史時代タイプの器種で占められることから、本遺構の年代は7世紀後半以降であるとみられる。下限については判断材料に乏しいので、幅をもって8世紀前半までと考えておくこととしたい。

34号遺構（第36・37図、写真図版6）

C区の中央よりやや北寄り、D24グリッドに位置する。

南半部が流失し、南西壁が残存していないため全体規模は明らかではないものの、北西壁から南東壁までは3.50ｍを測る。平面形は方形ないし長方形となるとみられるが確かではない。残存状況はあ

まり良好ではなく、壁の高さは確認面から最大で10㎝である。主軸方位はＮ－70°－Ｗくらいとなるであろうが、定かではない。

埋土は全体に均質な土層が安定してみられ、自然埋没と考えられる。床面については、地山を掘って平らに成形するのみで、貼り床は施していない。

屋内施設としてはピット・土坑・カマドが認められる。ピットの多くは小型の柱穴と考えられるが、図示したものすべてがこの住居に伴うと断定はできない。配置に規則性が認められないことから、住居内に柱は並ばず、主柱を持たない構造を採っていたものと考えられる。土坑については、カマドの右隣りに位置するｓｋ３にはカマドの使用に伴う施設となる可能性があると考える。

カマドは北西壁際に設けられるが、壁全体のどの辺りの位置となるかは定かでない。両袖は残存しない。火床面は強く焼け、橙色～赤褐色を呈する。断ち割り調査の結果、これは地山が焼けたものであることを確認した。火床の左右には、本遺跡で普遍的に認められる小ピットが１基ずつ検出された。さらに、火床の奥において、幅16㎝、深さ最大３㎝を測る小溝を検出した。後世のピットと近年の攪乱により断ち切られているため煙り出し部は残らないが、これは煙道部の痕跡と思われる。なお、本遺構では周壁溝は確認されなかった。

出土遺物は破片数で181点を数え、その内訳は、須恵器２点、土師器173点、北部系山茶碗５点、石製品１点である。図示したのは、須恵器の甕１個体（140）、土師器の甕６個体（141～146）である。判断材料に乏しく、遺構の年代を推定するのは難しいが、土師器体部の厚みがＡ区・Ｂ区の住居跡で出土するものに比べて薄い傾向が認められるので、より新しい年代を与えるべきであろう。とりあえず、８世紀前半頃と推定しておきたい。カマド焼土の残留磁化測定による年代推定結果は西暦725±15年となっており、この推定と矛盾しない。

427号遺構（第38・39図、写真図版６）

Ｃ区の中央よりやや北寄り、Ｅ24・Ｅ25グリッドに位置する。

南西壁が損なわれてはいるものの全体規模は推測可能で、長軸（北東～南西）は約3.30ｍ、短軸（北西～南東）は3.02ｍである。平面形は方形を呈する。本遺跡においてはやや小型の部類に属する。残存状況は比較的良好で、壁の高さは確認面から最大で14㎝を測る。主軸方位はＮ－55°－Ｗを指す。

近年の攪乱の影響を受けている南西壁付近を除けば、埋土は全体に均質な土層が安定してみられ、本遺構は自然埋没と考えられる。床面については、地山を掘って平らに成形するのみで、貼り床は施していない。

屋内施設としてはピット・土坑・周壁溝・カマドが認められる。ピットの多くは小型の柱穴と考えられよう。一見、配置に規則性が認められるようにも思えるのだが、主柱と考えるには小さすぎるものが含まれるとの印象を強く受ける。したがって、主柱を持たない構造を採る住居であった可能性も捨てきれない。土坑ｓｋ１については、カマドの右隣りに位置するのでカマドの使用に伴う施設である可能性が高いと考える。周壁溝については、北西壁で140㎝、北東壁で130㎝、南東壁で130㎝、それぞれ壁の基部に沿って検出された。幅は最大17㎝を測る。深さは５㎝未満である。

カマドは北西壁際の中央よりやや北東寄り（向かって右寄り）となる位置に設けられている。両袖は残存しない。火床面は強く焼け、橙色～暗赤褐色を呈する。断ち割り調査の結果、これは地山が焼けたものであることを確認した。その左右と奥では、本遺跡で普遍的に認められる小ピットが１基ず

つ検出された。煙道部はほとんど検出されず、わずかにカマド奥壁がやや外へ張り出しているのを確認したにとどまる。

出土遺物は破片数で180点を数え、その内訳は、須恵器23点、土師器157点である。図示したのは、須恵器の摘み蓋2個体（147・148）、無台杯1個体（149）、土師器の甕6個体（150～155）である。須恵器が歴史時代タイプの器種で占められることと、34号遺構の出土遺物と同様に土師器体部の厚みがA区・B区の住居跡で出土するものに比べて薄い傾向が認められることから、本遺構の年代は8世紀前半頃と推定する。

470号遺構（第40・41図、写真図版6）

C区中央のF25グリッドに位置する。

南東壁が残っていないため全体規模は明らかではないが、北東壁から南西壁までは4.14ｍを測る。平面形は方形ないし長方形になるとみられる。残存部分の状態は比較的良好で、壁の高さは確認面から最大で16㎝を測る。主軸方位はＮ－45°－Ｗを指す。

本遺構は検出作業時に住居跡であることを確認するのに手間取ったため、遺構埋土の状態を十分観察することができなかった。そのため、埋没の状況については不明であると言わざるを得ない。床面については、地山を掘って平らに成形するのみで、貼り床は施していない。

屋内施設としてはピット・周壁溝・カマドが認められる。ピットの多くは小型の柱穴と考えられるが、検出面で他時期の遺構との切り合い関係を十分検討できなかったため、ここに図示したものすべてがこの住居に伴うと断定はできない。しかし、配置に規則性が認められないことはほぼ確かであり、住居内に柱が並ぶとは考えにくい。やはり主柱を持たない構造を採っていたものと考えられる。周壁溝については、カマド部分を除く検出区域の全域において、壁の基部に沿って検出された。幅は最大28㎝、深さは8㎝程である。

カマドは北西壁際の中央よりやや北東寄り（向かって右寄り）となる位置に設けられている。両袖は残存しない。火床面は強く焼け、明赤褐色～暗赤褐色を呈する。断ち割り調査の結果、これは地山が焼けたものであることを確認した。その左右と奥には、本遺跡で普遍的に認められる小ピットが1基ずつ認められる。また、本遺構では左右の小ピット間は火床の手前側に掘られた小溝でつながれている。煙道部はほとんど検出されず、わずかにカマド奥壁がやや外へ張り出しているのを確認したにとどまる。

出土遺物は破片数で95点を数え、その内訳は、須恵器9点、土師器85点、木製品1点である。図示したのは須恵器の無台杯1個体（156）、土師器の甕8個体（158～165）、それに柱根1個体（157）である。須恵器に古墳時代タイプの器種はみられず、また、土師器の長胴甕は、体部の厚みが薄く、肩付近で最大径を測るタイプであることが判明している。このことから、本遺構の年代は8世紀前半頃と推定する。なお、カマド焼土の残留磁化測定による年代推定結果は西暦725±10年となっており、矛盾しない。

848号遺構（第42・43図）

C区の南端部に近いH26グリッドに位置する。

東半部がほとんど残っていないため全体規模は明らかではないが、短軸になるとみられる南西壁から北東壁までは4.32ｍを測る。平面形は方形ないし長方形になるとみられるが、住居西隅は内側に入

り込んでいる。残存状態は良好ではない。しかし、壁の高さは確認面から20cmを測る箇所がある。主軸方位はN－55°－Wを指す。

近年の攪乱の影響を受けている部分を除けば、遺構埋土は全体に均質な土層が安定してみられ、自然埋没と考えられる。床面については、地山を掘って平らに成形するのみで、貼り床は施していない。

屋内施設としてはピット・土坑・周壁溝・カマドが認められる。ピットの多くは小型の柱穴と考えられるが、図示したものすべてがこの住居に伴うと断定はできない。配置に規則性が認められないことから、住居内に柱は並ばず、主柱を持たない構造を採っていたものと考えられる。土坑のうちカマドの右隣りで検出されたｓｋ１は、カマドの使用に伴う施設である可能性が高いであろう。周壁溝については、北西壁から北東壁にかけての３箇所で、壁の基部に沿って合わせて235cm検出された。幅は最大20cm、深さは５cm程である。

本遺構ではカマドの平面的な広がりは検出できず、断面観察にとどまった。北西壁際の周壁溝の途切れる部分、すなわち向かって中央よりやや右側にずれる位置に設けられていたとみられる。両袖や火床面は確認されなかった。断ち割り調査時の所見からは、火床面は掘り窪めた地山の上に敷いた客土の上面と解釈される。煙道部も検出されなかった。

住居内からの出土遺物は破片数で176点を数え、その内訳は、須恵器２点、土師器167点、北部系山茶碗２点、古瀬戸１点、中世土師器皿１点、石製品３点である。小破片が多いため、図示できたのは土師器の甕２個体（167・168）にとどまる。遺構の年代を推定するのは困難であるが、とりあえずＣ区の他の住居跡と同じく8世紀前半頃の可能性が高いと考えておきたい。

1136号遺構（第44図）

Ｃ区南端部のＩ27グリッドに位置する。848号遺構の南方約５ｍの地点である。

南半部が損なわれているため全体規模は明らかではないが、北西壁から南東壁までは4.10ｍを測る。平面形は方形ないし長方形になるとみられる。壁の高さは確認面から最大で14cmを測る。主軸方位はN－55°－Wを指す。

埋土は全体に均質な土層が安定してみられ、自然埋没と考えられる。床面については、地山を掘って平らに成形するのみで、貼り床は施していない。

屋内施設としてはピット・土坑・周壁溝が認められる。ピットの多くは小型の柱穴と考えられるが、図示したものすべてがこの住居に伴うと断定はできない。配置に規則性が認められないことから、住居内に柱は並ばず、主柱を持たない構造を採っていたものと考えられる。土坑のうち住居北隅に位置するｓｋ１は、本遺跡の他例からの類推して、カマドの使用に伴う施設の可能性がある。周壁溝については、北東壁と南東壁の壁の基部に沿って、合わせて380cm検出された。幅は最大20cm、深さは５cm程である。カマドは確認されなかったが、やはり本遺跡の他例からの類推して、後世の土坑（861号遺構）により損なわれている北西壁の、中央よりやや右寄りの壁際に設けられていたものと推定される。

住居内からの出土遺物は破片数で17点にすぎず、その内訳は、須恵器６点、土師器９点、石製品２点である。図示できたのは土師器の甕２個体（169・170）にとどまる。本遺構についても年代を推定するのは困難であるが、とりあえずＣ区の他の住居跡と同じく８世紀前半頃の可能性が高いと考えておきたい。

(2) ピット

古代のピットはA区で13基、B区で53基、C区で5基、合計71基検出された。その多くは掘立柱建物の柱穴や杭穴と考えられる。しかし、対応関係が把握でき、明確に並ぶと認められる事例は本遺跡にはない。

(3) 土坑

古代の土坑と判断される遺構は、A区で4基、B区で8基、合わせて12基認められたにすぎない。いずれも出土遺物から古代の遺構と判断したものの、遺構の構造等の面では他時代から区別されるような特色は認めがたい。遺構の性格や用途については不明と言わざるを得ない。

(4) 溝

溝については埋土中の遺物が均質ではないのが通例であるので、時代の判断が他の遺構以上に困難である場合が多い。古代の溝と判断した遺構は、A区で1条、B区で8条、C区で1条、合計10条であるが、実際にはこれよりかなり多かった可能性が高いと思われる。性格や用途を特定できた遺構はない。

第3節　中世の遺構

概要

中世の遺構と判断したのは、ピット226基、土坑40基、溝25条、井戸2基、特殊1基、合計294基である。地区別ではA区23基、B区2基、C区93基、D区119基、E区57基となり、遺跡東端のA区とB区では密度が希薄で、中央のC区ではやや増加し、西端のD区とE区では高密度となることが分かる。

(1) 掘立柱建物跡

中世のピットはA区で15基、B区で1基、C区で69基、D区で101基、E区で40基、合計226基検出された。その多くは掘立柱建物の柱穴や杭穴と考えられる。なお、遺物が出土せず、遺構自体は時代不明扱いとなり、上記のカウントには入っていないものの中にも、柱の並びの対応関係から中世の遺構である可能性が高いと判断されるものがある。ここではそうした遺構も含め、遺構間の寸法の検討などから掘立柱建物跡や柱列・杭列と認められると判断した7つの事例を中心に報告する。

SH1（第45・46図、写真図版6）

C区のE22・E23グリッドで検出した。遺構番号69・301・305・86・85・65・499のピットから構成されるが、北西隅のピット1基の存在が想定される地点は攪乱により遺構の有無が確認不能であった。建物の長軸はN－60°－Wを指す。建物の規模は、桁行3間（東西）9.50m、梁行1間（南北）5.70mを測る。柱間寸法は、桁行については、西から1間目と2間目では3.80m、3間目では1.90mを測り、梁行については5.70mを測る。注目されることに、これらの数値はすべてメートル法換算で0.95の倍数に当たる[3)]。

本遺構の柱穴の平面形は、いずれも基本的に円形である。平面形の長軸は60～80㎝台、検出面からの深さは40～100㎝台を測り、いずれも本遺跡で検出される標準的なサイズの柱穴より大きな値を示す。

出土遺物破片数は、69号遺構が北部系山茶碗５点、301号遺構が北部系山茶碗１点、86号遺構が須恵器１点、85号遺構が古瀬戸１点、65号遺構が北部系山茶碗１点、499号遺構が土師器１点、北部系山茶碗４点、古瀬戸２点、石製品２点、木製品１点である。図示したのは、69号遺構の山茶碗１個体（266）、301号遺構の山茶碗１個体（311）、85号遺構の古瀬戸の卸目付大皿１個体（267）、499号遺構の山茶碗２個体（333・334）、柱根１個体（336）、それに古瀬戸の小鉢１個体（332）と鳥形水滴１個体（335）である。柱穴からの出土遺物には一般的にみられることであるが、山茶碗は型式的にばらつきが大きく、第８～11型式前半（北部系東濃型山茶碗編年の大畑大洞窯式～脇之島窯式）の特徴を示している。出土遺物の年代観の下限の時期を建物の建てられた時期と考えると、本遺構の年代は15世紀中期頃と推定される。

ＳＨ２（第45図、写真図版７）

Ｃ区のＥ22・Ｆ22グリッドで検出した。ＳＨ１の東南方向2.1ｍの地点に隣接する。遺構番号312・321・323・87・318・311のピットから構成される。建物の長軸はＮ－30°－Ｅを指し、ＳＨ１とはちょうど90°方向を違えている。建物の規模は、桁行２間（南北）5.90ｍ、梁行１間（東西）平均3.50ｍを測る。桁行の柱間寸法は、西列では北から１間目は3.10ｍ、２間目は2.80ｍ、東列では北から１間目は3.35ｍ、２間目は2.55ｍを測る。梁行の柱間寸法は、北列では3.45ｍ、中列と南列では3.55ｍを測る。柱間寸法の数値からもわかるように、柱は整然と並ぶわけではなく、やや不整な長方形を呈する建物跡である。

柱穴の平面形は、318号遺構がやや不整形であるが、いずれも基本的に円形である。規模についてみると、平面形の長軸は87号遺構が55㎝を測るほかは20～40㎝台であり、ＳＨ１の柱穴に比べればはるかに小型であるが、本遺跡で検出された柱穴の標準的なサイズと言える。深さも浅く、検出面からの深さは10～20㎝台である。

本遺構のピットからの出土遺物は、わずかに312号遺構から山茶碗の小破片１点が認められるのみであるので、時期を細かくは限定せず、とりあえず中世の遺構と考えておきたい。建物跡南半部には大型の土坑（62号遺構）が位置的に重なる。断定はできないが、本遺構の付属遺構の可能性が考えられよう。62号遺構については「土坑」の項で詳述してあるので参照されたい。

同程度の規模の掘立柱建物跡は、中世のピットの密集区を中心に、ほかにも多数存在する可能性が高いと考える。しかし、報告者の主観次第で柱の並びは何通りもできてしまうので、客観性が十分保証されないと判断した。そこで、本報告書では、中世の小型の掘立柱建物跡については、比較的良好な例である本遺構をもって代表させることとし、以下の報告を割愛する。

ＳＨ３（第47・48図）

Ｄ区のＥ35・Ｅ36・Ｆ35グリッドで検出した。遺構番号4418・4413・4400・4258・4403・4438・4436のピットから構成されるが、4438と4436の間に未検出のピット１基の存在を想定する必要がある。建物の長軸はＮ－25°－Ｅを指す。建物の規模は、桁行３間（南北）9.50ｍ、梁行１間（東西）5.70ｍを測る。柱間寸法は、桁行については、北から１間目では1.90ｍ、２間目と３間目ではちょうどそ

の2倍の3.80ｍを測る。さらに、梁行の柱間寸法5.70ｍは、桁行の北から1間目の寸法のちょうど3倍に当たる。すべて0.95ｍの倍数となる。注目されることに、この建物跡の規模と柱間寸法はC区のSH1とほぼ完全に一致する。

本遺構の柱穴の平面形は、いずれも基本的に円形である。平面形の長軸60～80㎝台、検出面からの深さ80～120㎝台を測り、いずれも本遺跡で検出される標準的なサイズの柱穴より大きな値を示す。柱穴の規模についても、SH1にほぼ一致するとみてよいであろう。

出土遺物破片数は、4418号遺構が北部系山茶碗1点、4413号遺構が北部系山茶碗3点、古瀬戸1点、木製品1点、4400号遺構が北部系山茶碗7点、4258号遺構が北部系山茶碗2点、4403号遺構が北部系山茶碗4点、古瀬戸2点、中世常滑陶器1点、4438号遺構が北部系山茶碗1点である。図示したのは、4418号遺構の山茶碗1個体（550）、4413号遺構の山茶碗2個体（542・543）、柱根1個体（544）、4400号遺構の山茶碗2個体（514・515）、4258号遺構の山茶碗1個体（460）、4403号遺構の山茶碗1個体（519）、古瀬戸の盤類1個体（520）である。山茶碗は概ね第11型式（北部系東濃型山茶碗編年の脇之島～生田窯式）の特徴を示しており、下限は第11型式の後半段階（北部系東濃型山茶碗編年の生田窯式）である。このことから本遺構の年代はSH1よりはやや新しく、15世紀後期頃と考えられる。

なお、大型の土坑である4250号遺構と4404号遺構が本遺構と位置的に重なるが、これらが本遺構と同時に存在したものか、さらには本遺構の付属施設と考えることができるか否かについては、不明と言わざるを得ない。

SH4（第47・49図）

D区のD34・D35・D36・E34・E35グリッドで検出した。遺構番号4409・4410・4414・4415・4416・4419・4426・4437・4439・4448のピットから構成されるが、調査区外となる西端列の北から1つ目と2つ目の柱の存在は推定による。建物の長軸はN－60°－Wを指す。建物の規模は、桁行3間（東西）13.30ｍ、梁行2間（南北）6.70ｍを測る。柱間寸法は、桁行については、東から1間目と3間目では3.80ｍ、2間目では5.70ｍを測る。梁行については、北から1間目では2.90ｍ、2間目では3.80ｍを測る。柱間寸法は、SH1・SH3同様、すべてほぼ0.95ｍの倍数である。

本遺構の柱穴の平面形は、いずれも基本的に円形である。平面形の長軸70～110㎝台、検出面からの深さ60～130㎝台を測り、いずれも本遺跡で検出される標準的なサイズの柱穴より大きな値を示す。

出土遺物破片数は、4437号遺構が北部系山茶碗20点、古瀬戸2点、中世土師器皿10点、4415号遺構が古瀬戸1点、4414号遺構が北部系山茶碗3点、古瀬戸1点、中世土師器皿1点、瀬戸美濃連房窯陶器1点、4448号遺構が北部系山茶碗1点、古瀬戸2点、産地不明の中世陶器1点、4426号遺構が木製品1点、4416号遺構が北部系山茶碗1点、4409号遺構が北部系山茶碗1点、古瀬戸1点、中世土師器皿3点、4410号遺構が北部系山茶碗1点、古瀬戸2点、中世土師器皿3点である。図示したのは、4437号遺構の山茶碗2個体（560・561）、中世土師器皿2個体（562・563）、4414号遺構の古瀬戸擂鉢1個体（545）、山茶碗1個体（546）、4448号遺構の古瀬戸擂鉢1個体（565）、4426号遺構の柱根1個体（557）、4416号遺構の山茶碗1個体（547）、4409号遺構の中世土師器皿2個体（535・536）、古瀬戸擂鉢1個体（537）、4410号遺構の古瀬戸の壺1個体（538）、山茶碗1個体（539）、中世土師器皿2個体（540・541）である。

出土遺物の型式的特徴を調べてみると、山茶碗は概ね第11型式（北部系東濃型山茶碗編年の脇之島

窯式～生田窯式）の特徴を示しており、しかも第11型式の後半段階（北部系東濃型山茶碗編年の生田窯式）に集中する傾向が明らかである。古瀬戸も古瀬戸後期の中でも後半期の特徴を示すものが多い。以上から本遺構の年代は15世紀後期頃と考えられる。

D区のその他の主要な柱穴（第47・50・51図）

D区では、以上の２軒の建物跡以外にも大型の柱穴が多数検出されている。参考までに、主要なものの断面図を第50図と第51図に掲げておくこととしたい。

このうち遺構番号4420・4406・4435の３基は、1.90ｍの間隔で一直線に並ぶ。また、遺構番号4305・4417・4456の３基はＬ字型をなしており、4305と4417の間が3.80ｍ、4417と4456の間が7.60ｍを測る。これらには上記の掘立柱建物跡における柱間寸法と共通性が認められる。

ＳＨ５（第52・53図、写真図版７）

Ｅ区のＩ39・Ｉ40・Ｊ39・Ｊ40グリッドで検出した。遺構番号5022・5024・5025・5029・5031・5032・5033・5034・5054・5055・5056・5058のピットから構成される。建物の長軸はＮ－30°－Ｗを指す。

本遺構は柱の並び方についての解釈が難しいが、復元案を提示しておきたい。上記のピットのうち、5032号遺構は遺構の切り合い関係から5031号遺構より新しいと判断されるので、少なくとも一回は建て替えが行われていると判断される。そこで5032号遺構と、これと対になるとみられる5056号遺構を除外したものを第１期建物とする。この場合、東西方向の柱の並びは、北側の列から順に、１列目が１間（5.70ｍ）、２列目が等間隔の３間（1.90ｍ×３）、３列目も等間隔の３間（1.90ｍ×３）となり、１列目と２列目の間隔が2.85ｍ、２列目と３列目の間隔が3.80ｍとなる。建物の規模は、南北方向が6.65ｍ、東西方向が5.70ｍとなる。このように考えた場合、すべての柱間寸法は0.95ｍの倍数となる。

次に、先に除外した5032号遺構と5056号遺構を組み込んだ建て替え後の建物を第２期建物とする。この場合、5032号遺構によって切られる5031号遺構と、これと対になるとみられる5024号遺構・5033号遺構・5054号遺構を除外して考える。すると、東西方向の柱の並びは、北側の列から順に、１列目が等間隔の２間（2.85ｍ×２）、２列目も等間隔の２間（2.85ｍ×２）、３列目は１間（5.70ｍ）となる。各列の間隔は第１期建物と変わらない。建物の規模は、第１期と変わらず、南北方向が6.65ｍ、東西方向が5.70ｍである。やはり、すべての柱間寸法が0.95ｍの倍数となる。

本遺構の柱穴の平面形は、いずれも基本的に円形である。平面形の長軸70～90㎝台、検出面からの深さ40～80㎝台を測り、いずれも本遺跡で検出される標準的なサイズの柱穴より大きな値を示す。

出土遺物破片数は、5022号遺構が北部系山茶碗７点、古瀬戸１点、中世土師器皿１点、瀬戸美濃連房窯陶器１点、5024号遺構が北部系山茶碗３点、古瀬戸３点、5025号遺構が古瀬戸２点、中世土師器皿２点、5034号遺構が須恵器２点、北部系山茶碗４点、中世土師器皿１点、5033号遺構が北部系山茶碗３点、5032号遺構が北部系山茶碗２点、中世土師器皿１点、5031号遺構が北部系山茶碗３点、古瀬戸２点、分類不能土器１点、5029号遺構が須恵器３点、北部系山茶碗14点、古瀬戸２点、中世土師器皿２点、木製品１点、5055号遺構が北部系山茶碗１点、5056号遺構が北部系山茶碗６点、中世土師器皿６点、以上である。

図示したのは、5022号遺構の山茶碗５個体（750～754）、5024号遺構の山茶碗２個体（756・757）、古瀬戸の平碗１個体（758）、古瀬戸の直縁大皿１個体（759）、5025号遺構の古瀬戸の擂鉢２個体

(760・761)、5034号遺構の山茶碗1個体（773)、5032号遺構の山茶碗1個体（772)、5031号遺構の山茶碗1個体（770)、古瀬戸の折縁深皿1個体（771)、5029号遺構の山茶碗4個体（763～766)、古瀬戸の卸目付大皿1個体（767)、中世土師器皿1個体（768)、5056号遺構の山茶碗3個体（780～782)、中世土師器皿2個体（783・784）である。752・764は例外として、山茶碗は概ね第10～11型式（北部系東濃型山茶碗編年の大洞東窯式～生田窯式）の特徴を示し、特に第11型式後半（北部系東濃型山茶碗編年の生田窯式）のものが多い。また、古瀬戸はいずれも古瀬戸後期後半の型式的特徴を示している。以上から本遺構の年代は15世紀後期頃と考えられる。

SH 6（第52図）

E区のI 40・J 40グリッドで検出した。遺構番号5035・5076・5113・5115・5120のピットから構成される。検出できたのは南北方向一列の柱列のみである。軸線はN－30°－Wを指す。5115・5120と5035・5076・5113とで深さに30cm以上差があるので一群の柱穴と断定することはできないものの、一直線に並ぶことから建物跡となる可能性のある遺構として報告しておきたい。

柱間寸法は、北から1間目・2間目・3間目は1.90mを測り、SH 5などと共通の寸法である。4間目のみはやや広くて2.20mを測るので、南端の5035号遺構は、あるいは除外して考えるべきかもしれない。

本遺構の柱穴の平面形は、いずれも基本的に円形である。平面形の長軸40～50cm台、検出面からの深さ10～70cm台を測る。SH 1・SH 3・SH 4・SH 5に比べれば小さいものの、いずれも本遺跡で検出される標準的なサイズの柱穴よりはやや大きな値である。

出土遺物破片数は、5115号遺構が北部系山茶碗1点、5076号遺構が北部系山茶碗2点、中世土師器皿2点、木製品3点、5035号遺構が北部系山茶碗3点、中世土師器皿1点である。図示したのは、5115号遺構の山茶碗1個体（796)、5076号遺構の円盤状木製品1個体（786）である。良好な遺物が少ないので年代の推定は困難であるが、796は第11型式後半（北部系東濃型山茶碗編年の生田窯式）の特徴を示しているので、本遺構の年代は15世紀後期頃である可能性が高いであろう。

(2) 土坑

中世の土坑と判断される遺構は、A区で3基、B区で1基、C区で13基、D区で10基、E区で13基、合計40基検出されている。なお、この中には「竪穴状遺構」と通称されるものを含む。まとまった量の遺物が出土しているものと、遺構の構造に特色があるものを取り上げて報告する。

3170号遺構（第54図）

B区のH 7グリッドに位置する。平面形は不整な方形を呈し、長軸2.64m、短軸2.14mを測る。検出面からの深さは0.14mを測る。土坑内にはピット1基（p 1）が認められるが、長軸22cm、短軸16cm、深さ9cmと小型で、柱穴である可能性は小さいであろう。このほかの3箇所で、土坑の壁面を切る位置にピットが検出されており、それらは柱穴である可能性が高いであろうが、本遺構に伴うものであるか否かは不明である。遺構埋土は焼土・焼石・炭を多く含み、火を使用した施設であると考えられる。ただし、鉱滓は全く確認されていない。

出土遺物は、破片数で数えて、須恵器44点、土師器3点、北部系山茶碗23点、南部系山茶碗8点、中世土師器皿1点、石製品2点である。本遺跡では例外的にまとまった量の南部系山茶碗が出土して

いるのが注目される。須恵器１個体（215）、山茶碗11個体（204～214）を図示した。山茶碗は第４～５型式（北部系東濃型山茶碗編年の谷迫間窯式～窯洞窯式）の特徴を示しているとみられるので、本遺構の年代は、本遺跡の中世の遺構としては例外的に早い時期となる12世紀後半～13世紀前半頃と推測される。

33号遺構（第55図）

Ｃ区のＤ23グリッドに位置する。平面形は方形を呈し、長軸2.28ｍ、短軸2.12ｍを測る。検出面からの深さは0.19ｍを測る。内部施設と考えられるような遺構は検出されていない。埋土は全体に均質な土層が安定してみられ、自然埋没と考えられる。本遺構の性格は不明である。

出土遺物破片数は、北部系山茶碗36点、古瀬戸１点、石製品１点を数える。山茶碗７個体（216～222）、古瀬戸有耳壺１個体（223）、石鏃１個体（224）を図示した。山茶碗は第８～11型式前半（北部系東濃型山茶碗編年の大畑大洞窯式～脇之島窯式）の特徴を示しているとみられるので、本遺構の推定年代については、中世後期の13世紀後期～15世紀中期頃と幅をもたせておくのが妥当であろう。

35号遺構（第56図、写真図版７）

Ｃ区のＥ24グリッドに位置する。平面形は隅丸方形を呈し、長軸2.24ｍ、短軸2.14ｍを測る。検出面からの深さは0.18ｍを測る。内部施設と考えられるものとして、ピット５基を検出した。このうちｐ３・ｐ４・ｐ５は本遺構の隅に位置しており、覆屋のようなものを支える柱の柱穴の可能性があるとみられるが、定かではない。また、北壁際の中央には、焼石や炭を含むしまりの強い砂質シルトを充填した土坑が１基認められた。周辺に炭が散布することからも火を使用した炉ないしはカマド状の施設である可能性が高いと考えるが、類例を見出せない。本遺構の性格については、確言はできないものの、住居跡や工房跡の可能性があると考える。なお、埋土は全体に均質な土層が安定してみられ、自然埋没と考えられる。

出土遺物は、破片数で数えて、須恵器１点、北部系山茶碗36点、中世土師器皿１点、石製品２点である。山茶碗８個体（225～232）を図示した。山茶碗は第７～９型式（北部系東濃型山茶碗編年の明和窯式～大畑大洞窯式）の特徴を示しているとみられ、また、古瀬戸が全く出土していないことを考慮して、本遺構の年代については中世後期でも遅くない時期、13世紀中期～14世紀後期頃と幅をもたせておくのが妥当であろう。

62号遺構（第57図、写真図版７）

Ｃ区のＦ22グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸3.62ｍ、短軸2.96ｍを測る。検出面からの深さは0.09ｍを測る。遺構埋土は薄いが、近年の攪乱の影響を受けた部分を除いて全体に均質な土層が安定してみられ、自然埋没と考えられる。

内部施設の可能性があるものとして、ピット４基を検出した。それぞれ本遺構の隅付近に位置するので覆屋のようなものを支える柱の柱穴の可能性があるとみられるが、定かではない。また、北壁際の中央と南東隅付近には、焼石・焼土・炭の堆積が認められ、火を使用した炉のような施設が設けられていたと考えられる。本遺構の性格は定かではないものの、住居跡や工房跡の可能性があると考える。また、前述の通り掘立柱建物跡ＳＨ２と位置的に重なっているので、ＳＨ２の付属施設である可能性も考えられよう。

出土遺物は、破片数で数えて、須恵器４点、北部系山茶碗23点、古瀬戸１点、石製品１点である。

山茶碗４個体（261～264）、古瀬戸の盤類１個体（265）を図示した。山茶碗は第８～11型式前半（北部系東濃型山茶碗編年の大畑大洞窯式～脇之島窯式）の特徴を示しており、本遺構の年代については、中世後期の13世紀後期～15世紀中期頃と幅をもたせておくのが妥当であろう。

448号遺構（第58図）

Ｃ区のＥ24グリッドに位置する。本遺跡の古代の竪穴住居跡と同等の規模を有するが、平面形はより不整形であり、出土遺物は中世に属するものが主体を占める。平面形は不整な楕円形を呈し、長軸3.18ｍ、短軸3.02ｍを測る。検出面からの深さは0.18ｍを測る。埋土は全体に均質な土層が安定してみられ、自然埋没と考えられる。内部施設の可能性のある遺構は認められない。本遺構の性格は不明であると言わざるを得ない。

出土遺物破片数は、須恵器７点、北部系山茶碗24点、中世土師器皿８点、瀬戸美濃連房窯陶器１点である。山茶碗４個体（323～326）、土師器皿１個体（327）を図示した。山茶碗は第11型式前半（北部系東濃型山茶碗編年の脇之島窯式）の特徴を示しているので、本遺構の年代は15世紀中期頃と考えられる。

509号遺構（第55図）

Ｃ区のＧ24グリッドに位置する。平面形は不整な円形を呈し、長軸3.28ｍ、短軸2.64ｍを測る。検出面からの深さは0.38ｍを測る。本遺構には溝（506号遺構）が接続しており、溝の方が高い位置にあることから、本遺構は水をためる施設であったと考えられる。内部施設の可能性のある遺構は認められない。

出土遺物破片数は、須恵器17点、北部系山茶碗16点、古瀬戸３点、輸入磁器１点、瀬戸美濃連房窯陶器１点を数える。図示したのは山茶碗３個体（339～341）、古瀬戸の縁釉小皿１個体（342）、輸入磁器の青磁碗１個体（338）である。須恵器もまとまった量が出土しているが、いずれも表面の摩滅が著しいことから、混入品と判断する。山茶碗は第８～11型式前半（北部系東濃型山茶碗編年の大畑大洞窯式～脇之島窯式）とみられ、また、古瀬戸は古瀬戸後期の遺物が出土していることから、中世後期の13世紀後期～15世紀中期頃の遺構と考えられる。

1274号遺構（第60・61図、写真図版７）

Ｃ区のＦ24グリッドに位置する。緩やかな傾斜地に立地するため平面形を捉えるのが困難であったが、四隅のうち北隅付近のみ突出する不整な方形を呈している。長軸4.22ｍ、短軸4.14ｍを測る。検出面からの深さは0.14ｍを測る。検出作業時に台風による被害を被ったため、遺構埋土の状況を十分に観察することができなかった。そのため埋没状況については定かではない。

床面にてピット６基を検出した。これらは柱穴の可能性が高いであろうが、配置に規則性は認めがたく、本遺構の屋根を支えるような性格のものであったか否かは判断が難しい。また、中央よりやや北寄りにおいて、石を並べた炉とみられる遺構を検出した。原位置を動いていないと判断される石は６点認められた。いずれも熱を受けており、明確ではないものの平らな面を上面とする傾向が認められる。石列で囲まれる範囲は深さ10㎝未満の浅い窪みとなっており、炭混じりの焼土が堆積していた。焼土中に鉱滓は確認されていない。遺構埋土中にも炭や焼土が認められたが、これも炉の使用に伴って排出されたものであった可能性が高い。本遺構の性格は定かではないものの、住居跡や工房跡の可能性があると考える。

出土遺物量は本遺跡の中世の遺構では特に多い部類に属し、破片数で、須恵器26点、土師器２点、北部系山茶碗39点、無釉陶器鉢２点、古瀬戸20点、輸入磁器２点、中世土師器皿１点、石製品１点を数える。このうち須恵器・土師器・石製品は混入品と判断される。山茶碗７個体（377～383）、古瀬戸６個体（384～389）、輸入磁器の白磁壺１個体（390）、石鏃１個体（391）を図示した。古瀬戸の内訳は、折縁深皿１（389）、縁釉小皿１（388）、天目茶碗１（385）、袴腰形香炉１（386）、卸目付大皿１（384）、卸皿１（387）であり、いずれも古瀬戸後期の型式的特徴を示すと言えよう。山茶碗は第11型式（北部系東濃型山茶碗編年の脇之島窯式～生田窯式）の特徴を示す個体が主体を占める。以上から本遺構の年代は15世紀中期～後期頃と考えられる。

4250号遺構（第59図）

Ｄ区のＥ35グリッドに位置する。平面形は方形を呈し、長軸3.98ｍ、短軸3.84ｍを測る。検出面からの深さは0.36ｍを測る。遺構埋土の状況からは近世以降に攪乱を受けたことが窺える。床面にてピット１基を検出したが、その性格は不明である。また、埋土には炭や焼土が含まれ、さらに床面付近では径30㎝までの焼石が多数検出された。鉱滓は確認されていない。本遺構は火を使用した施設であるとみられ、住居跡や工房跡の可能性があると考える。なお、掘立柱建物跡ＳＨ３が本遺構と位置的に重なるが、これらが本遺構と同時に存在したものか、さらには本遺構をＳＨ３の付属施設と考えることができるか否かについては、不明と言わざるを得ない。

出土遺物量は極めて多く、破片数で数えて、須恵器１点、北部系山茶碗114点、無釉陶器鉢２点、古瀬戸６点、中世常滑陶器１点、中世土師器皿２点、瀬戸美濃連房窯陶器16点、近世常滑陶器44点、産地不明磁器１点、分類不能土器・陶磁器２点、石製品２点、木製品１点、近世瓦３点、近現代製品４点である。図示したのは山茶碗22個体（432～453）、無釉陶器鉢１個体（454）、古瀬戸の盤類１個体（455）、瀬戸美濃連房窯陶器の碗２個体（457・458）、砥石１個体（459）である。近世以降の遺物もかなり含まれるが、これは前述の通り、近世以降に攪乱を受けているためである。主体を占める中世の遺物について見てみると、多少ばらつきはあるものの山茶碗は第11型式（北部系東濃型山茶碗編年の脇之島窯式～生田窯式）の特徴を示すものが多いことがわかる。このことから本遺構の年代は15世紀中期～後期頃と考えられる。

(3) 溝

中世の溝と考えられる遺構は、Ａ区で５条、Ｃ区で８条、Ｄ区で８条、Ｅ区で４条、合計25条検出されている。中世の集落跡等の調査において報告例の多い、いわゆる区画溝としての性格が認められる遺構は、この中には見出しがたい。用途や性格についてある程度推定可能なのは、Ｃ区の44号遺構のみである。この遺構については、特殊遺構とした179号遺構の付属施設と考えるので、特殊遺構の項で報告することとする。

なお、主なものとして、Ａ区では2009号遺構、Ｃ区では608号遺構、Ｄ区では4302号遺構・4405号遺構・4531号遺構、Ｅ区では5010号遺構・5012号遺構などを挙げることができる。

(4) 井戸

Ｃ区において中世の井戸とみられる遺構を２基検出した。

58号遺構（第62図）

Ｃ区のＧ22グリッドに位置する。平面形は不整な長円形を呈し、長軸2.44ｍ、短軸2.16ｍを測る。検出面からの深さは1.88ｍを測る。断面形は、検出面下約１ｍまではゆるやかに漏斗状に狭まり、そこから下はほぼ垂直に掘り下げている。底面は湧水層に達しているとみられる。素掘りのままで、壁面の保護はなされていない。

埋土中からの出土遺物は、破片数で、北部系山茶碗５点、古瀬戸１点、木製品10点を数える。埋土最下層からは木製品（258～260）が出土しているものの土器類は出土せず、上層から山茶碗（256）と古瀬戸の擂鉢（257）が出土している。確証が得られているとは言い難いが、とりあえず中世後期の井戸と考えておきたい。

578号遺構（第62図）

Ｃ区のＧ25グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、長軸2.92ｍ、短軸2.76ｍを測る。検出面からの深さは2.46ｍを測る。断面形は、検出面下約１ｍまではゆるやかに漏斗状に狭まり、そこから下はよりきつい傾斜をなす。壁面には昇降用の「足掛け」とみられる窪みや段が多数認められた。素掘りのままで、壁面の保護はなされていない。底面まで掘り下げたが、地下水がしみ出てくる気配は全く認められず、未成の井戸であった可能性が高い。

埋土中からの出土遺物破片数は、須恵器５点、北部系山茶碗11点、木製品23点、近現代製品１点となっている。最下部から底部外面に墨書のある山茶碗の小皿（343）が出土しており、中世後期の井戸と考えられる。

(5) 特殊遺構

次に報告する179号遺構は、構造に極めて特異な点がみられるので、特殊遺構に分類した。

179号遺構（第63・64図、写真図版７）

Ｃ区のＤ22グリッドに位置する。平面形は方形を呈し、長軸4.34ｍ、短軸3.70ｍを測る。大型の土坑の一種であるが、底面に石を敷く特異な遺構であるので、特殊遺構に分類した。検出面からの深さは、敷かれた石の下の地山面までで、最大0.46ｍを測る。例外はあるものの、底面に敷く礫には扁平な円礫を選んでいるようである。径30㎝前後、厚さ15㎝前後を測るものが多い。ほとんどが表面の風化した段丘礫であり、川原石も少数ではあるが混在する。石敷きは一面のみで、２個以上の石を重ねたり、あるいは立体的に組み上げた徴証は認められない。図示していないが、埋土は概ね暗褐色シルトの単層である。

本遺構には溝（44号遺構）が接続するとみられるが、本遺構との接続部分が近年の攪乱により破壊されているため、接続部分の構造は不明である。ただ、両遺構の出土遺物の組成や型式的特徴に大きな隔たりが認められないことから、両者は同時期に存在した一体の施設であったと考えたい。44号遺構は179号遺構との接続部から南西方向に延びるのだが、本遺構から南西方向にかけての地形は緩やかな傾斜地となっている。したがって、44号遺構は179号遺構の排水路としての役割を果たす溝であったと考えるべきであろう。

出土遺物は、破片数で数えて須恵器20点、土師器６点、北部系山茶碗105点、無釉陶器鉢２点、瀬戸美濃連房窯陶器２点、産地不明磁器２点、石製品３点となっている。明らかな混入品を除けば、出

土遺物はほぼ北部系山茶碗で占められる。この事実は、まだ当地域では古瀬戸系施釉陶器がほとんど流通してはいなかった時期の遺構であることを示唆するものと言えよう。実測図を図示できた山茶碗（277～296）は概ね第7型式（北部系東濃型山茶碗編年の明和窯式）前後とみられ、本遺構の年代は13世紀中期頃と考えられる。なお、墨書のある小皿1点（296）は、石敷きの下の地山直上から出土したものである。そのほかの出土遺物で図示したのは、無釉陶器鉢1個体（297）、須恵器の摘み蓋2個体（298・299）である。

本遺構の性格は現時点では不明と言わざるを得ない。しかしながら、本遺跡の南西約0.5㎞に位置する木ノ下遺跡において、本遺構と使用目的が共通する可能性のある「石組遺構」が検出されている。木ノ下遺跡の「石組遺構」は、本遺跡のものに比べ、規模や溝が接続する方形の大型土坑である点は大きな相違はないが、石を立体的に組んでおり、暗渠を設けるなど、より複雑な構造を採っている。報告書によれば、用途は不明とされるものの、何らかの目的で水を溜めた施設であることは確認されている。本遺構も不明確ながら排水路とみられる溝を伴っていることから、同様に水を溜める施設であった可能性は高いであろう[4]。

第4節　近世の遺構

概要

近世の遺構と判断したのは、ピット32基、土坑22基、溝12条、井戸3基、合計69基である。地区別ではA区32基、B区0基、C区36基、D区1基、E区0基となる。中世の遺構の集中区であった遺跡西端のD区とE区でほとんど検出されない一方で、古代・中世ともにまとまった量の遺構がみられる東端のA区と中央のC区では引き続き検出されている。また、中世の遺構が皆無であったB区では、近世の遺構も全く検出されていない。

(1) 掘立柱建物跡

近世のピットと考えられる遺構はA区で10基、C基で22基、合計32基検出されている。なお、遺物が出土しなかったため時代不明扱いとなり、上記のカウントには入っていないものの中にも、柱の並びの対応関係から近世の遺構である可能性が高いと判断されるものがある。ここではそうした遺構も含め、遺構間の寸法の検討などから掘立柱建物跡や柱列ないしは杭列と認められると判断した2つの事例を報告する。

SH7（第65図、写真図版7）

C区のG27・G28・H28グリッドに位置する。検出地点は遺跡全体でも特に遺構が密集する地点に当たり、柱の対応関係を把握するのは非常に困難であった。そのため、調査担当者としての復元案を図示しておくが、これをもってそれ以外の柱並びの可能性を否定するものではないことを断っておきたい。とりあえず、遺構番号1068・1062・1086・1095・1100・1108・1005・994・1437・980・982・986・947・1024・1017・1008・1032・1044・1221・1205・1109、以上21基のピットで構成されると考えておく。

建物の長軸はN－20°－Eを指す。建物の規模は桁行（南北）10.45ｍ、梁行（東西）5.65ｍを測る。

柱の並びの方向は概ね揃うものの、柱間寸法は不揃いである。21基のピットのうち、遺構番号947・994・1017・1032・1062・1068・1086・1095・1100・1108の10基は、いわゆる布掘の掘形を持ち、平面形は溝状を呈している。それ以外は平面形が円形を呈する通常の柱穴である。根石を持つものが多いことも本建物跡の特徴で、遺構番号994・1008・1032・1044・1086・1095・1100・1108・1437、以上9基で根石を確認している。検出面からの深さは10㎝未満のものから40㎝を超えるものまでばらつきがある。

各遺構からの出土遺物は、1068号遺構が木製品（柱根）1点、1086号遺構が須恵器1点と瀬戸美濃連房窯陶器1点、1095号遺構が瀬戸美濃連房窯陶器1点、1100号遺構が瀬戸美濃連房窯陶器2点、1108号遺構が瀬戸美濃磁器1点、1005号遺構が木製品（柱根）1点、994号遺構が北部系山茶碗1点、1437号遺構が北部系山茶碗1点、982号遺構が分類不能土器3点、986号遺構が近世常滑陶器1点、947号遺構が近世常滑陶器3点、1032号遺構が瀬戸美濃連房窯陶器3点と近世常滑陶器1点と木製品（柱根）1点、1109号遺構が瀬戸美濃連房窯陶器1点である。以上のうち、瀬戸美濃連房窯陶器3個体（997・1000・1001）と柱根2点（998・999）を図示した。時代別では近世の遺物が最も多いので、詳しく年代を特定することは難しいものの、本遺構は近世の建物跡と考えてよいであろう。

SH 8（付図1－22）

C区のH22・H23グリッドに位置する。4基のピットが一直線に並ぶ柱列ないしは杭列とみられる遺構である。軸線はN－33°－Eを指す。北から525号遺構・526号遺構・527号遺構・528号遺構の順に並ぶ。詳細図は図示していないが、柱間寸法は北から順に1.85ｍ、1.7ｍ、1.9ｍを測り、等間隔に近い。柱穴の平面形はいずれも円形で、直径20㎝前後、深さ10～30㎝台を測る。

525号遺構から瀬戸美濃連房窯陶器の碗の口縁部破片1点（980）が出土している。出土遺物から遺構の年代を詳しく特定することは難しいが、近世の遺構と考えてよいであろう。

(2) 井戸

A区で2基、C区で1基、近世の井戸とみられる遺構を検出している。

2243号遺構（第66図）

A区のF 9グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、長軸1.14ｍ、短軸1.13ｍを測る。検出面から深さ5.29ｍまで掘り下げたが湧水層には届かず、底まで完掘することはできなかった。断面形は、検出面下約1ｍまではわずかに斜めに掘り下げているが、そこから下はほぼ垂直である。素掘りのままで、壁面の保護はなされていない。

埋土は掘削最下面から上方へ1.1ｍまでは植物遺体を含む暗灰黄色粘土で、その上は均質な黒褐色シルトであった。このことから、本遺構は廃棄後、水がたまった状態のまま自然埋没の期間を経たのちに、人為的に一気に埋められたものと考えられる。なお、掘削最下部でも地下水がしみ出てくる気配はなく、さらに深い井戸であったことは確かである。

埋土中からの出土遺物破片数は、須恵器5点、北部系山茶碗6点、瀬戸美濃連房窯陶器9点、近世常滑陶器4点、肥前磁器1点を数える。このうち瀬戸美濃連房窯陶器の擂鉢1個体（873）、肥前磁器の染付青磁湯呑1個体（874）を図示した。近世後期の井戸と考えてよいであろう。

2511号遺構（第66図）

Ａ区のＦ９グリッドに位置する。上記2243号遺構の西方８ｍの地点である。平面形は円形を呈し、長軸1.14ｍ、短軸1.12ｍを測る。2243号遺構とほぼ同規模である。検出面から深さ5.30ｍまで掘り下げたが湧水層には届かず、底まで完掘することはできなかった。掘削最下部でも地下水がしみ出てくる気配はなく、さらに深い井戸であったことは確かである。断面形は、検出面下約0.2ｍまではわずかに斜めに掘り下げているが、そこから下はほぼ垂直である。素掘りのままで、壁面の保護はなされていない。

埋土は掘削最下面から検出面まで地山土を主とする単層であった。このことから、本遺構は廃棄後、少なくとも今回検出できた部分については、人為的に一気に埋められたものと考えられる。

埋土中からの出土遺物は須恵器１点のみであるが、2243号遺構に類似する点が多いことから近世の遺構と考えておく。

1013号遺構（第67図）

Ｃ区のＩ28グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸2.90ｍ、短軸2.52ｍを測る。検出面からの深さは5.06ｍを測る。掘削最下部で蜂屋累層と呼ばれる火山角礫からなる湧水層に達している。断面形は、検出面下約１ｍまでは漏斗状に狭まり、そこから下はほぼ垂直に掘り下げている。壁面には30～50㎝くらいの間隔で、昇降用の「足掛け」とみられる奥行き10～30㎝くらいの窪みや段が認められる。素掘りのままで、壁面の保護はなされていない。

検出面下１ｍ以下の埋土は、植物遺体を多く含むしまりの弱い砂質シルトであった。このような埋土の状況は、本遺構が水がたまった状態のまま自然埋没していったことを示している。

埋土中からの出土遺物破片数は、須恵器６点、瀬戸美濃連房窯陶器32点、近世常滑陶器３点、産地不明磁器８点、石製品３点、金属製品11点、木製品75点、近世瓦36点、近現代製品６点を数える。埋土最下層から出土した遺物のうち、瀬戸美濃連房窯陶器４個体（992～995）、産地不明磁器１個体（996）、金属製品の煙管１個体（989）、銭２組（990～991）を図示した。出土遺物から、近世後期の井戸と考えてよいであろう。

(3) 土坑

Ａ区で12基、Ｃ区で10基、合わせて22基検出された。ここでは特に出土遺物量の多かったＡ区の2074号遺構と、特異な構造を持つＣ区の975号遺構を取り上げて報告する。

2074号遺構（第68図）

Ａ区のＥ６グリッドに位置する。平面形が隅丸長方形を呈する土坑である。長軸4.80ｍ、短軸2.10ｍ、深さ0.62ｍを測る。検出地点は多数の遺構が錯綜している地点に当たり、遺構間の切り合い関係の把握がやや困難であったが、2006号遺構（溝）・2075号遺構（溝）・2103号遺構（溝）・2091号遺構（土坑）・2005号遺構（溝）を切ると判断した。遺構内には、2005号遺構・2103号遺構・2075号遺構に属していたとみられる石組みの一部が残っている。

出土遺物は近世の遺物が大半を占めている。破片数で数えて575点の遺物が出土しており、その内訳は、須恵器24点、北部系山茶碗12点、古瀬戸１点、産地不明の中世陶器２点、瀬戸美濃連房窯陶器226点、近世常滑陶器304点、肥前磁器２点、埴輪３点、近世瓦１点である。57個体を図示した（799

～855)。遺物組成や個々の遺物の型式的特徴を調べてみると、①柳茶碗（799）・鎧湯呑（802）・火鉢（844・845）など、藤澤良祐氏による近世瀬戸美濃陶磁器編年で近世第3段階（＝第8小期～第11小期＝近世後期）に出現するとされる器種が出土している、②瀬戸美濃産の磁器はみられない、③その一方で、陶器（本業焼）の染付は出土している、④出土した擂鉢（834～837）は概ね第8小期の特徴をそなえている、⑤近世でも古い時期に属するとみられる遺物（840の徳利など）も混在するが点数は多くはない、以上のようなことが分かる。したがって、本遺構の出土遺物は、近世第3段階（近世後期）のうち、瀬戸における磁器生産成立以前の時期＝第8小期（18世紀第4四半期頃）の良好な一括資料と言える。本遺構の性格は陶磁器類の廃棄土坑と考えられよう。

なお、本遺跡で出土した埴輪破片4点のうち3点は、本遺構から出土したものである（853～855)。

975号遺構（第68図）

C区のG27グリッドに位置する。近世の掘立柱建物跡ＳＨ７の北隣りの地点である。平面形は方形を呈し、長軸2.18ｍ、短軸1.89ｍを測る。検出面からの深さは0.16ｍを測る。底面の大部分に石を敷いているが、敷き方は乱雑で、特に扁平な石を選ぶような傾向も認められない。

埋土中や石敷きの中からの出土遺物破片数は、瀬戸美濃連房窯陶器4点、近世常滑陶器3点、分類不能陶器3点、石製品3点を数える。図示したのは瀬戸美濃連房窯陶器3個体（984～986)、砥石2個体（987・988）である。出土遺物から遺構の年代を詳しく特定することは難しいが、近世の遺構であることは間違いないであろう。

本遺構の性格は不明であるが、掘立柱建物跡ＳＨ７の関連施設である可能性も考えられる。

(4) 溝

A区8条、C区3条、D区1条、合計12条の溝の帰属時代を近世と判断した。C区の1号遺構とD区の4297号遺構でまとまった量の近世遺物が出土している。

1号遺構（付図1－19）

長さ約62ｍを測る大型の溝で、ＳＨ７の周りを巡る。近世を中心に破片数で540点に及ぶ遺物が出土している。98個体を図示した（882～979)。近世後期の19世紀の遺構と考えられる。

第5節　その他の時代の遺構

概要

古代・中世・近世以外の時代の遺構としては、弥生時代の遺構がA区とC区でわずかに1基ずつではあるが検出されている。また、大部分を遺構ではなく「攪乱」として扱ってはいるが、近代以降の生活痕跡も数多く検出されている。その分布範囲は全地区に及んでいる。

本遺跡で検出された遺構で時代を特定できるのは2割にすぎず、残りの8割は、とりあえず生活痕跡とは考えられるものの時代不明とせざるを得ないものである。

(1) 弥生時代の遺構

検出されたのは、A区の2329号遺構（土坑）とC区の54号遺構（ピット）の2基のみである。54号

遺構については特記すべき事項はないので、ここでは2329号遺構について報告する。

2329号遺構（第69図）

Ａ区のＧ９グリッドに位置する。平面形が円形を呈する土坑である。長軸0.95ｍ、短軸0.90ｍ、深さ0.84ｍを測る。埋土は６層からなり、４層以外の各層から弥生土器が、１～３層からは石器が出土した。石器は、図示した石鏃１点（1019）を除いて、主に下呂石の剥片と石核である。それらについて接合関係の検討を行ったところ、元来一つの礫であったとみられるもの同士でも割れ口がほとんど合わないことが判明した。このことから、剥片剥離作業後、使用しない剥片や残核を廃棄した遺構であると推測される。

埋土中からの出土遺物破片数は、弥生土器58点、須恵器１点、土師器２点、近世常滑陶器４点、石器39点である。図示した弥生土器３個体（1016～1018）の年代観から、本遺構の年代は弥生時代前期～中期と考えられる。

(2) 時代不明の遺構

実測図は省略し、概況のみ報告する。時代を判断するのが困難な遺構は、ピット1,738基、土坑125基、溝80条、合計1,943基に上る。前述の通り、これは遺構全体のほぼ８割に当たる。地区別では、Ａ区481基、Ｂ区149基、Ｃ区1,025基、Ｄ区207基、Ｅ区81基となる。注目されるのは、古代の遺構の集中区であるＢ区と中世の遺構の集中区であるＤ区・Ｅ区では、時代不明の遺構の占める割合が比較的小さいことである。出土遺物の時代幅が小さい地区ほど、時代不明とせざるを得ない遺構の割合は小さくなることが確かめられる。

注

1）本遺跡では、大半の遺構において埋土は褐色～黒褐色のシルトであり、年代による差異は認められなかった。そのため、遺構年代の推定に当たっては、遺構埋土を手掛かりとすることはできなかった。

2）本報告書での遺物の編年・年代観について主に参照した文献は次の通りである。

須恵器：東海土器研究会 2000『須恵器生産の出現から消滅　猿投窯・湖西窯編年の再構築』

土師器：内堀信雄・井川祥子 1996「美濃における古代土師器煮炊具の様相」（『鍋と甕そのデザイン』東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会）

山茶碗：多治見市教育委員会 1993『小名田小滝古窯跡群』

藤澤良祐 1994「山茶碗研究の現状と課題」（『研究紀要　第３号』三重県埋蔵文化財センター）

古瀬戸：財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター 1996『古瀬戸を巡る中世陶器の世界～その生産と流通～』

藤澤良祐 1991「瀬戸古窯址群Ⅱ－古瀬戸後期様式の編年－」（『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要Ⅹ』瀬戸市歴史民俗資料館）

輸入磁器：上田秀夫 1982「14～16世紀の青磁碗の分類について」（『貿易陶磁　No.２』日本貿易陶磁研究会）

瀬戸美濃大窯陶器：瀬戸市史編纂委員会 1993『瀬戸市史　陶磁史篇四』

瀬戸美濃連房窯陶磁器：瀬戸市史編纂委員会 1998『瀬戸市史　陶磁史篇六』

肥前磁器：九州近世陶磁学会 2000『九州陶磁の編年』

3）柱間寸法の問題について補足しておく。中世の６軒の掘立柱建物跡のうち、小型の建物跡であるＳＨ２を除く５

軒には、柱間寸法に共通性が認められる。すなわち、メートル法換算で0.95ｍの倍数で柱が並ぶ傾向が顕著に認められる。5軒のうちＳＨ３を除く4軒には建物の方位にも共通性がみられることから、これは偶然の一致ではなく、統一規格が存在した可能性が高いであろう。

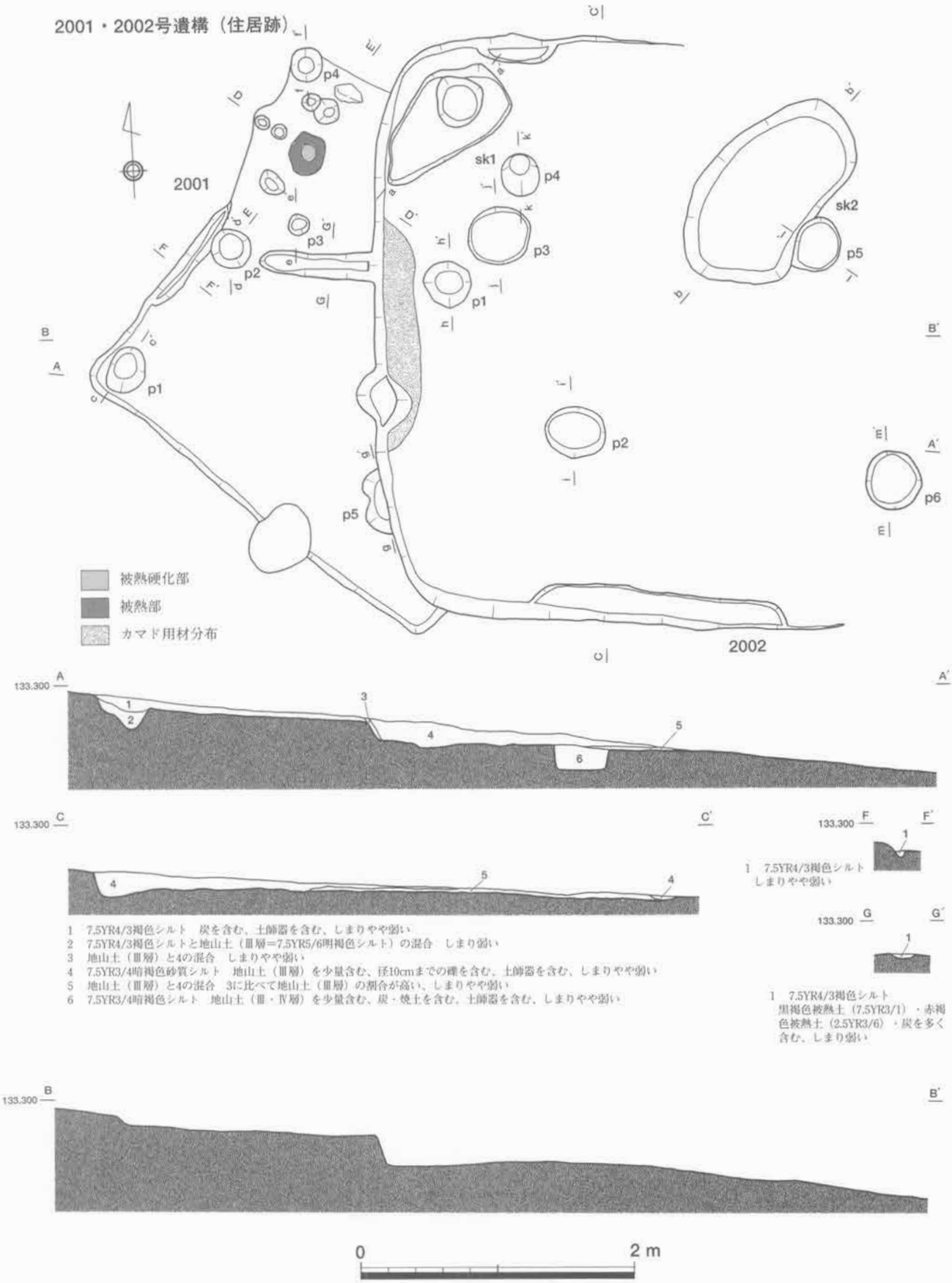
今日知られている尺度の中に適合するものを求めてみると、この値は鯨尺の１尺（0.3787878ｍ）の2.5倍に極めて近い。ただ、鯨尺の普及時期については、早くとも室町時代末期とされるものの、よくわかってはいないので、これは偶然の一致である可能性もあると言わざるをえない。また、鯨尺は裁縫用とされ、土木建築用に使用された例は、管見の限りでは見出せなかった。よって、根拠に乏しく断定することはできないものの、とりあえず鯨尺の使用の可能性を指摘しておきたい。なお、鯨尺については、以下の文献を参照した。

小泉袈裟勝 1977『ものと人間の文化史22　ものさし』法政大学出版局

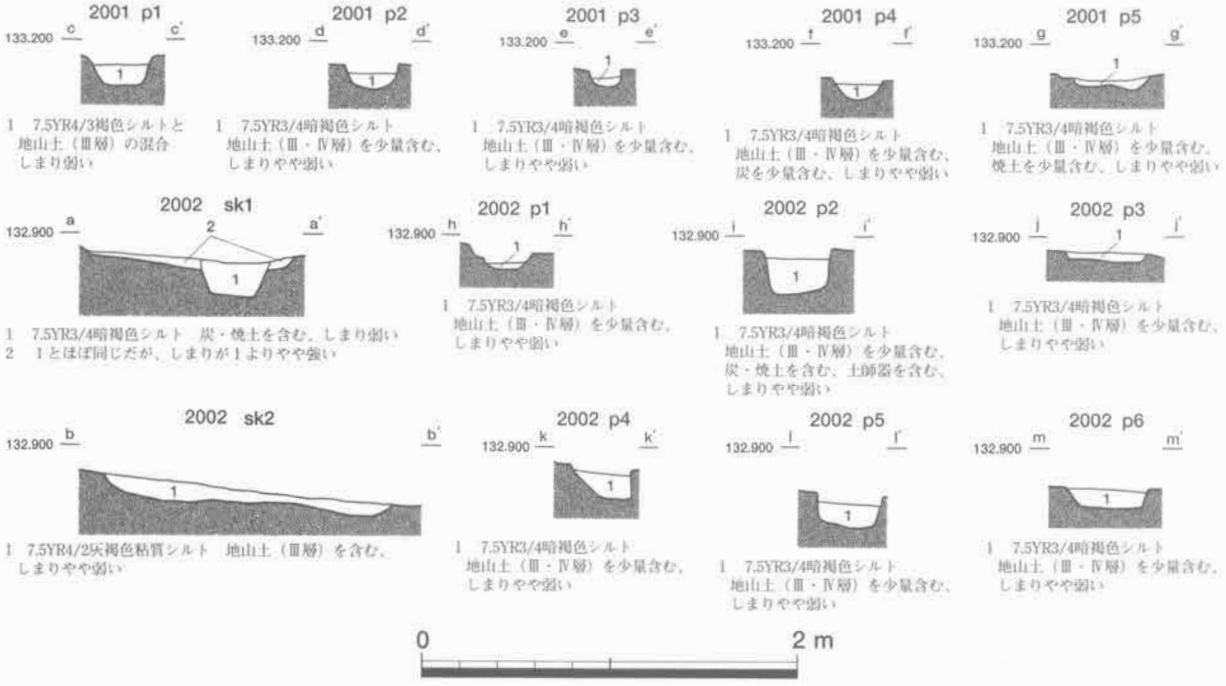
小泉袈裟勝 1989『単位の歴史辞典』柏書房

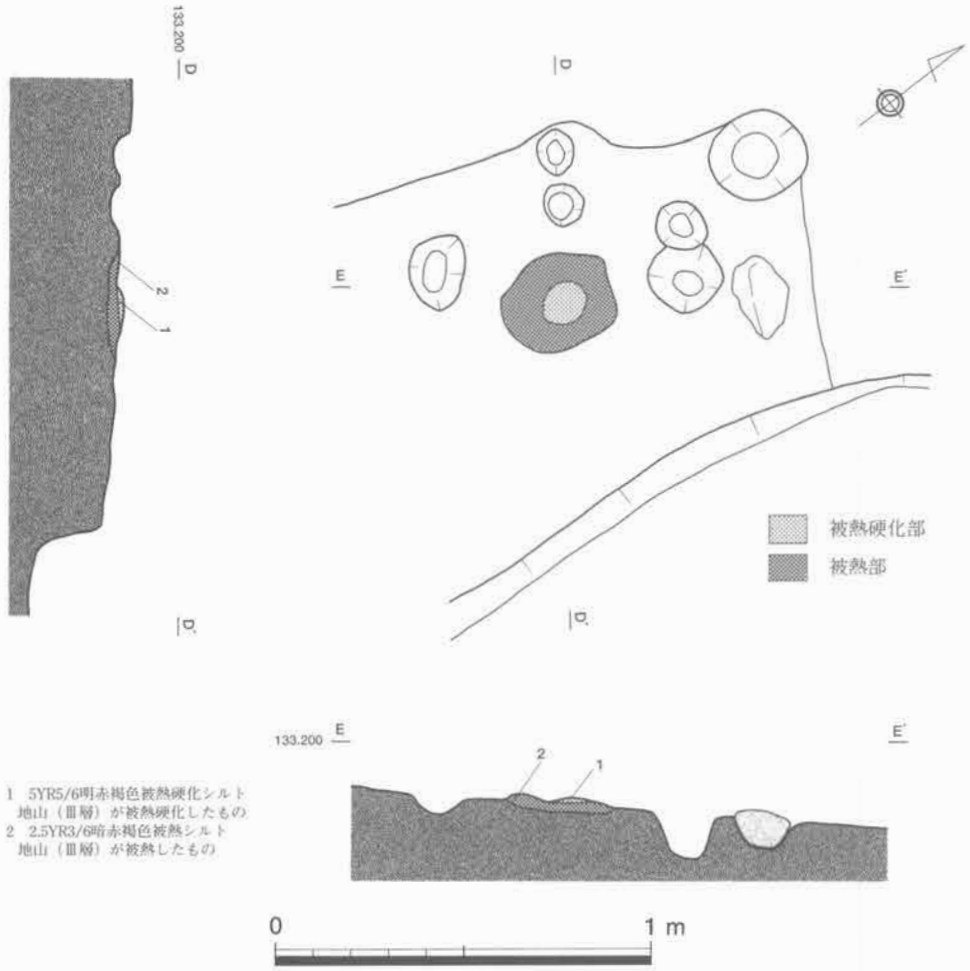
4）木ノ下遺跡の石組遺構については、美濃加茂市教育委員会 1999『木ノ下遺跡発掘調査報告書』において報告されている。また、本遺跡の179号遺構については、木ノ下遺跡の調査担当者であった齊藤基生氏と可児光生氏に遺構を実見していただき、御教示を賜った。

遺構実測図


2001・2002号遺構（住居跡）
2001
2002
p1
p2
p3
p4
p5
p6
sk1
sk2
被熱硬化部
被熱部
カマド用材分布
133.300
1 7.5YR4/3褐色シルト　炭を含む、土師器を含む、しまりやや弱い
2 7.5YR4/3褐色シルトと地山土（Ⅲ層＝7.5YR5/6明褐色シルト）の混合　しまり弱い
3 地山土（Ⅲ層）と4の混合　しまりやや弱い
4 7.5YR3/4暗褐色砂質シルト　地山土（Ⅲ層）を少量含む、径10cmまでの礫を含む、土師器を含む、しまりやや弱い
5 地山土（Ⅲ層）と4の混合　3に比べて地山土（Ⅲ層）の割合が高い、しまりやや弱い
6 7.5YR3/4暗褐色シルト　地山土（Ⅲ・Ⅳ層）を少量含む、炭・焼土を含む、土師器を含む、しまりやや弱い
1 7.5YR4/3褐色シルト
しまりやや弱い
1 7.5YR4/3褐色シルト
黒褐色被熱土（7.5YR3/1）・赤褐色被熱土（2.5YR3/6）・炭を多く含む、しまり弱い
0
2 m

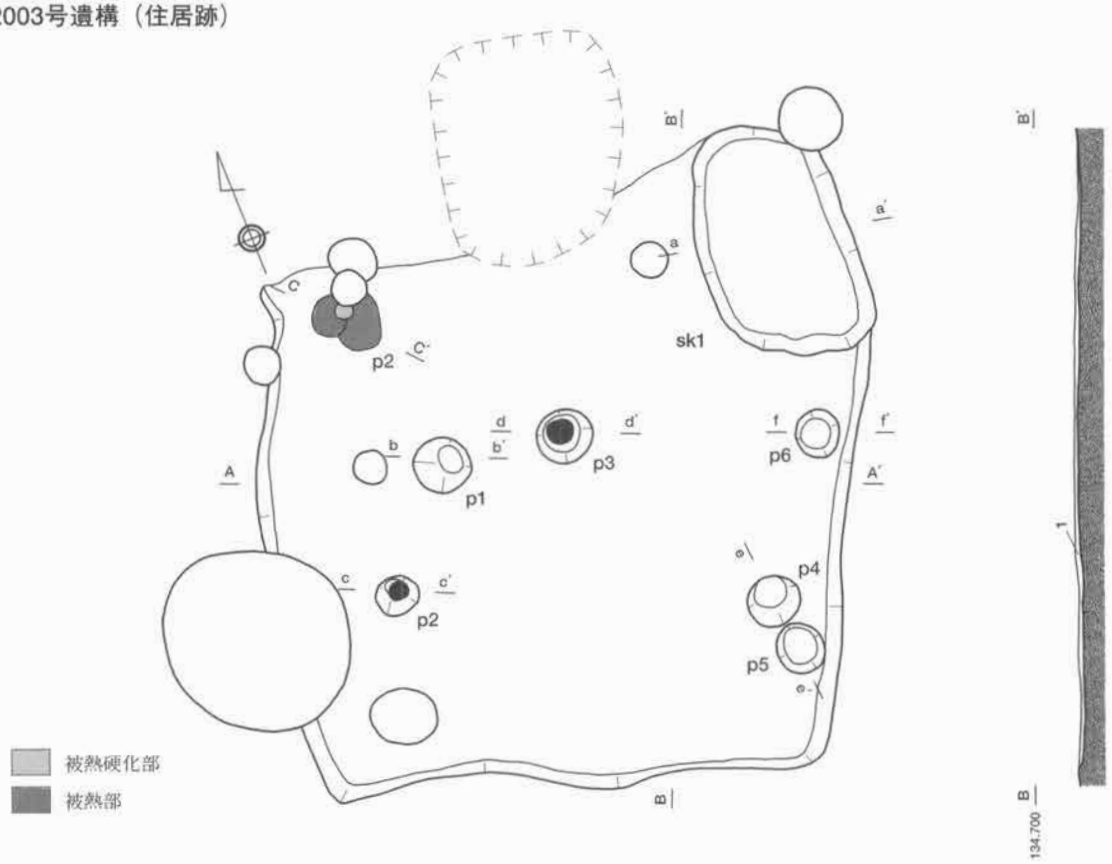
第8図　古代の遺構（1）


2001 p1
133.200 c c'
1
1　7.5YR4/3褐色シルトと地山土（Ⅲ層）の混合　しまり弱い
2001 p2
133.200 d d'
1
1　7.5YR3/4暗褐色シルト　地山土（Ⅲ・Ⅳ層）を少量含む、しまりやや弱い
2001 p3
133.200 e e'
1
1　7.5YR3/4暗褐色シルト　地山土（Ⅲ・Ⅳ層）を少量含む、しまりやや弱い
2001 p4
133.200 f f'
1
1　7.5YR3/4暗褐色シルト　地山土（Ⅲ・Ⅳ層）を少量含む、炭を少量含む、しまりやや弱い
2001 p5
133.200 g g'
1
1　7.5YR3/4暗褐色シルト　地山土（Ⅲ・Ⅳ層）を少量含む、焼土を少量含む、しまりやや弱い
2002 sk1
132.900 a a'
2
1
1　7.5YR3/4暗褐色シルト　炭・焼土を含む、しまり弱い
2　1とほぼ同じだが、しまりが1よりやや強い
2002 p1
132.900 h h'
1
1　7.5YR3/4暗褐色シルト　地山土（Ⅲ・Ⅳ層）を少量含む、しまりやや弱い
2002 p2
132.900 i i'
1
1　7.5YR3/4暗褐色シルト　地山土（Ⅲ・Ⅳ層）を少量含む、炭・焼土を含む、土師器を含む、しまりやや弱い
2002 p3
132.900 j j'
1
1　7.5YR3/4暗褐色シルト　地山土（Ⅲ・Ⅳ層）を少量含む、しまりやや弱い
2002 sk2
132.900 b b'
1
1　7.5YR4/2灰褐色粘質シルト　地山土（Ⅲ層）を含む、しまりやや弱い
2002 p4
132.900 k k'
1
1　7.5YR3/4暗褐色シルト　地山土（Ⅲ・Ⅳ層）を少量含む、しまりやや弱い
2002 p5
132.900 l l'
1
1　7.5YR3/4暗褐色シルト　地山土（Ⅲ・Ⅳ層）を少量含む、しまりやや弱い
2002 p6
132.900 m m'
1
1　7.5YR3/4暗褐色シルト　地山土（Ⅲ・Ⅳ層）を少量含む、しまりやや弱い
0
2 m

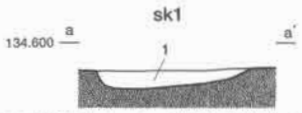

133.200 D
D'
2
1
E
E'
被熱硬化部
被熱部
1　5YR5/6明赤褐色被熱硬化シルト　地山（Ⅲ層）が被熱硬化したもの
2　2.5YR3/6暗赤褐色被熱シルト　地山（Ⅲ層）が被熱したもの
133.200 E E'
2
1
0
1 m

第９図　古代の遺構（２）

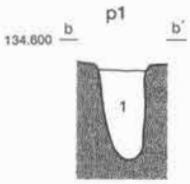
2003号遺構（住居跡）



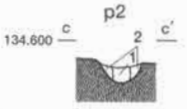
1　7.5YR3/4暗褐色シルトと地山土（Ⅲ層=7.5YR5/8明褐色粘質シルト）の混合　炭を含む、土師器・須恵器を含む、しまりやや弱い
2　7.5YR3/2黒褐色シルト　地山土（Ⅲ層）を含む、炭を含む、須恵器を含む、しまりやや弱い



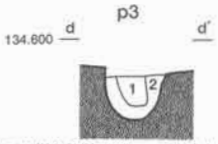
1　10YR3/4暗褐色粘質シルト　地山土（Ⅲ層）を含む、しまりやや弱い



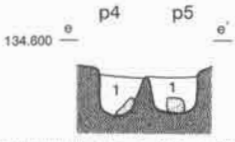
1　7.5YR3/2黒褐色シルト　地山土（Ⅲ層）を含む、炭を含む、須恵器を含む、しまりやや弱い



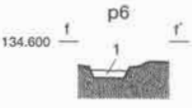
1　7.5YR3/3暗褐色シルト　しまりやや弱い
2　1と地山土（Ⅲ層）の混合　しまりやや弱い



1　7.5YR4/6褐色粘質シルト　2を含む、しまり弱い
2　7.5YR3/2黒褐色シルト　炭・焼土を少量含む、しまりやや弱い

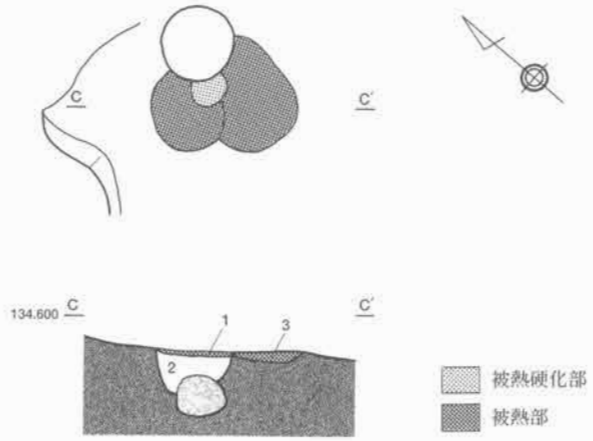


1　7.5YR3/3暗褐色シルト　地山土（Ⅲ層）を含む、炭を少量含む、しまりやや弱い

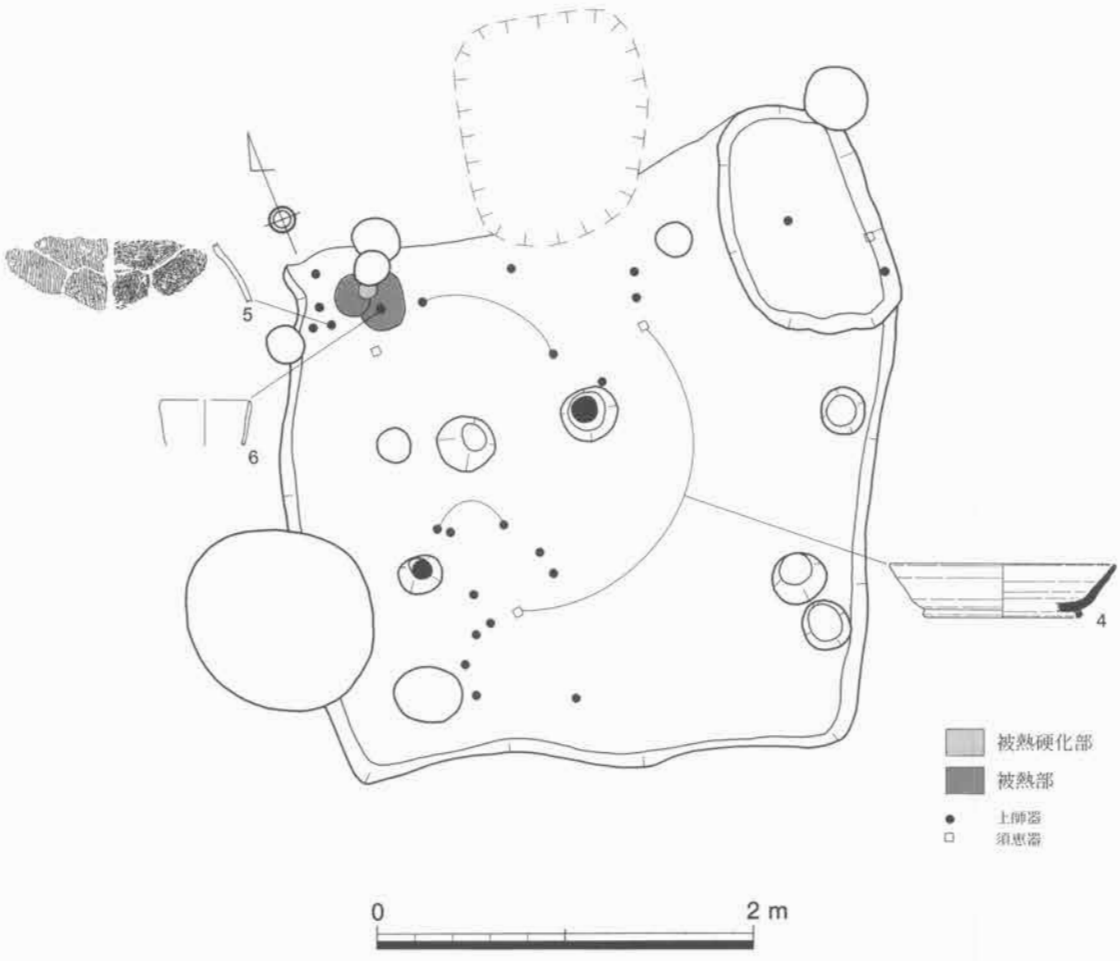


1　7.5YR3/3暗褐色シルト　しまりやや弱い

第10図　古代の遺構（3）

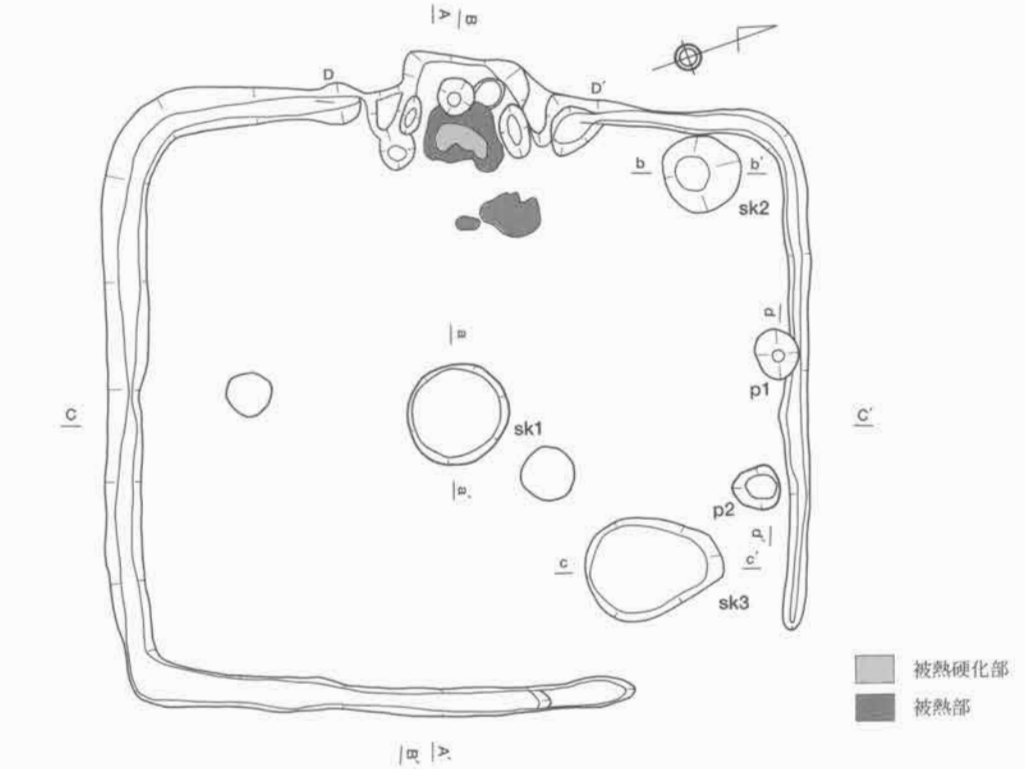


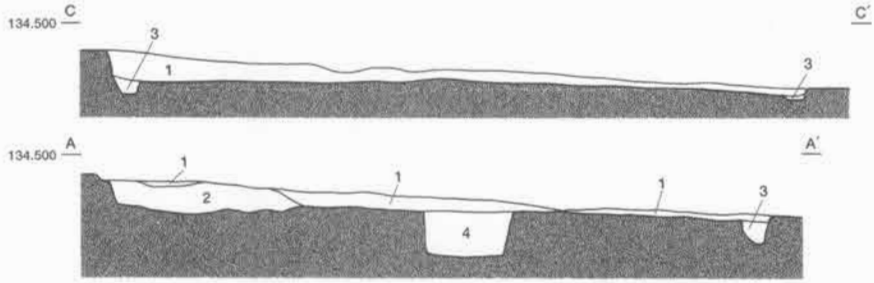
1　5YR3/6暗赤褐色被熱シルト　2が被熱したもの、地山土（Ⅲ層）を含む、炭を含む、しまりやや弱い
2　7.5YR3/4暗褐色シルト　地山土（Ⅲ層）を含む、炭を含む、しまりやや弱い
3　5YR3/6暗赤褐色シルト　地山（Ⅲ層）が被熱したもの



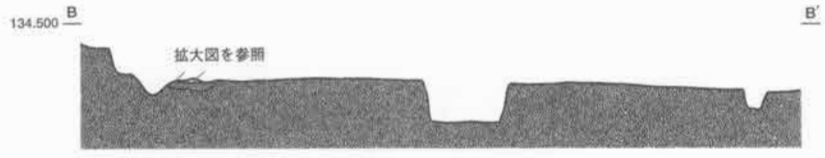
第11図　古代の遺構（４）

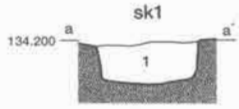
2035号遺構（住居跡）



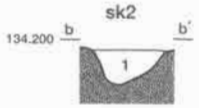


1　7.5YR3/3暗褐色シルト　暗赤褐色焼土（2.5YR3/6）・炭を多量に含む、須恵器・土師器を含む、しまりやや弱い
2　7.5YR4/3褐色シルト　暗赤褐色焼土を極めて多く含む、炭を含む、土師器を含む、しまりやや弱い
3　7.5YR3/3暗褐色シルト　褐色シルト（7.5YR4/3）を含む、炭を少量含む、しまり1より強い
4　7.5YR3/4暗褐色シルト　地山土（Ⅲ層）を多く含む、炭を含む、しまり弱い

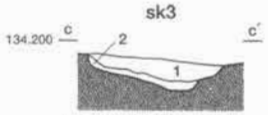




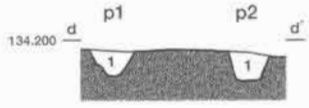
1　7.5YR3/4暗褐色シルト
地山土（Ⅲ層）を多く含む、炭を含む、しまり弱い



1　7.5YR3/3暗褐色シルト
暗赤褐色焼土（2.5YR3/6）・炭を多量に含む、しまりやや弱い

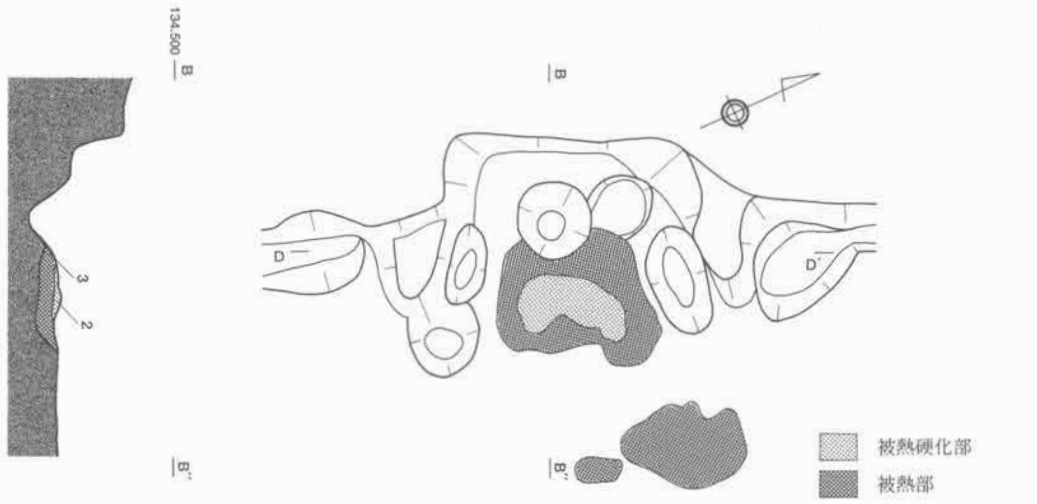


1　7.5YR3/4暗褐色シルト
地山土（Ⅲ層）を含む、炭を含む、しまり弱い
2　7.5YR3/4暗褐色シルト　1より多く地山土（Ⅲ層）を含む、炭を含む、しまりやや弱い

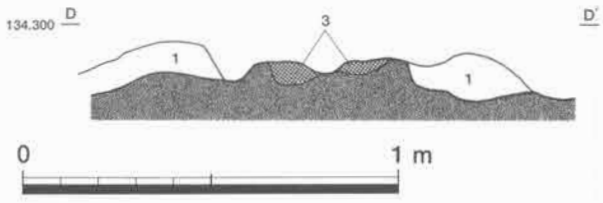


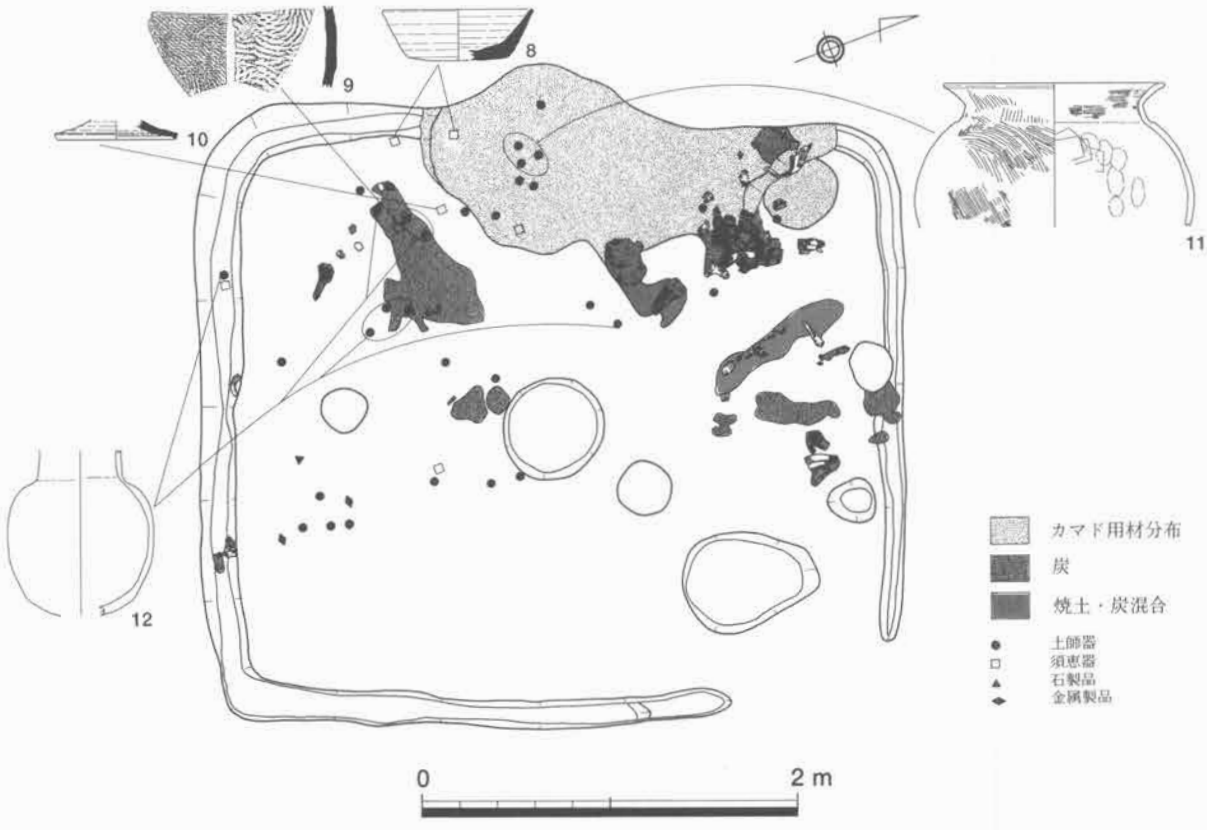
1　7.5YR3/2黒褐色シルト
炭を含む、しまりやや弱い

第12図　古代の遺構（5）



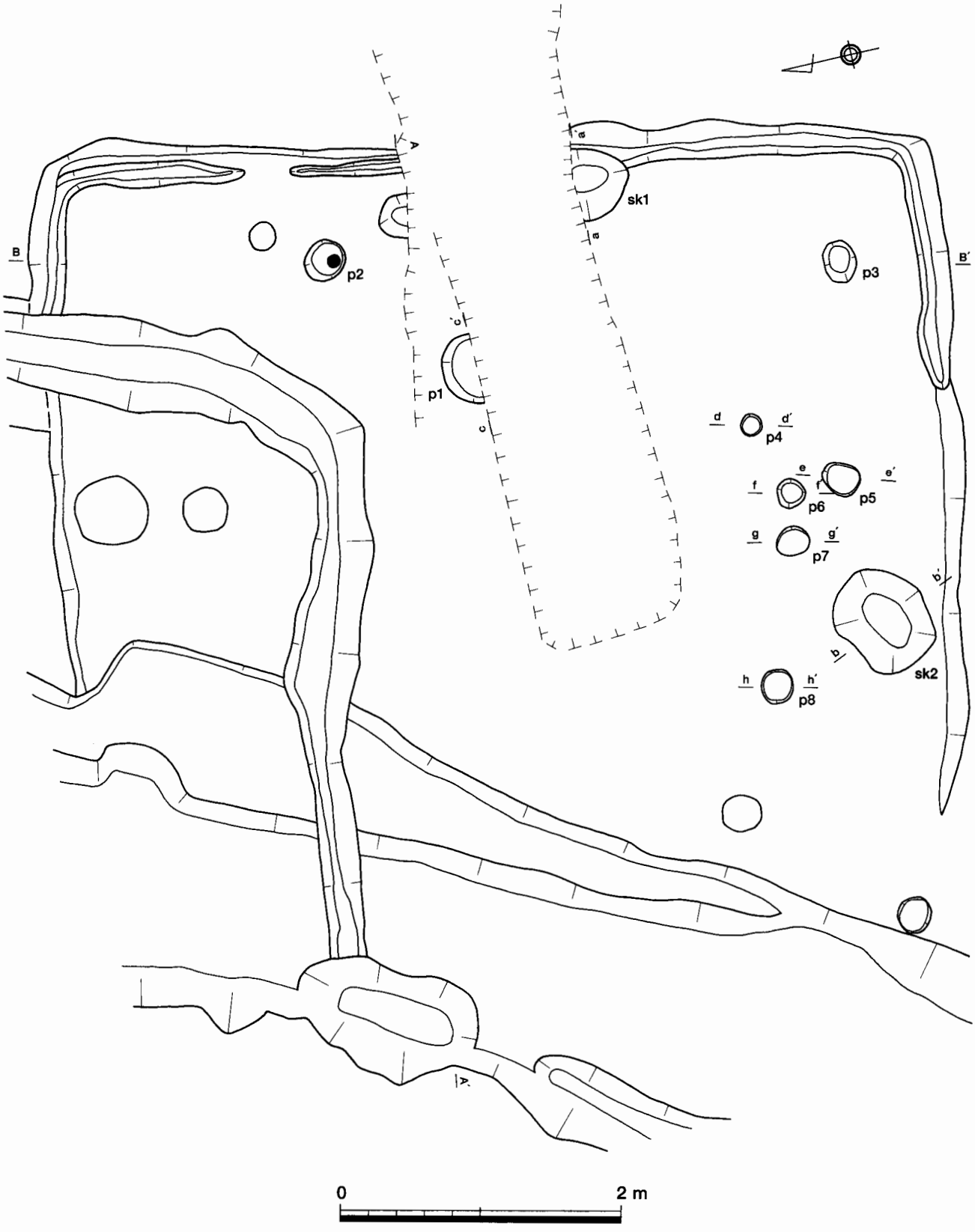
1　7.5YR4/4褐色シルト
やや被熱し暗赤褐色を呈する部分がある、地山（Ⅲ層）に似るがしまりは地山より弱い、炭を含む、カマドの袖部
2　5YR7/6橙色被熱硬化シルト
地山（Ⅲ層）が被熱硬化したもの
3、2.5YR3/4暗赤褐色被熱シルト
地山（Ⅲ層）が被熱したもの



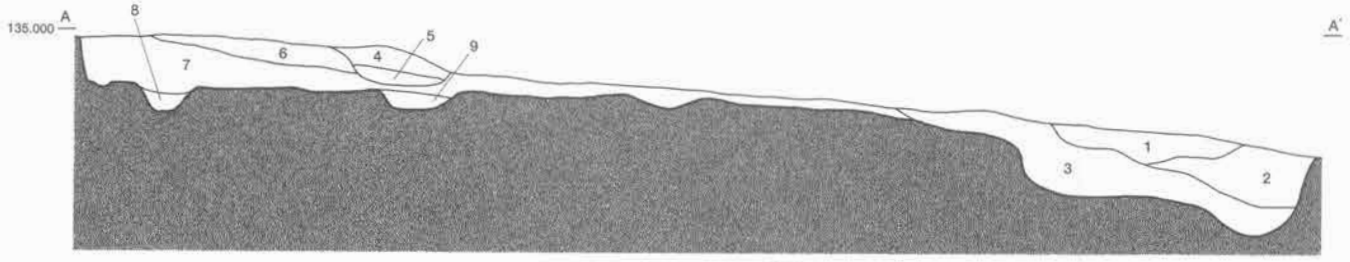


第13図　古代の遺構（６）

2216号遺構（住居跡）

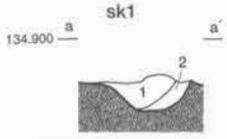


第14図　古代の遺構（７）

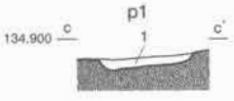


1　7.5YR3/3暗褐色粘質シルト　2のブロックを少量含む。
径5cmまでの礫を含む。しまりやや弱い
2　7.5YR4/6褐色砂質シルト　3を少量含む。しまり弱い
3　7.5YR4/3褐色細砂　地山土（Ⅳ層）のブロックを含む。
しまり弱い
4　7.5YR4/4褐色シルト　径5cmまでの礫を含む。しまりやや弱い
5　7.5YR4/4褐色シルト　6を少量含む。しまりやや弱い
6　7.5YR3/1黒褐色シルト　炭を含む。須恵器を含む。しまりやや弱い
7　7.5YR3/3暗褐色シルト　炭を多量に含む。須恵器を多量に含む。しまりやや弱い
8　地山土（Ⅲ層）と7の混合　土師器を含む。しまり弱い
9　地山土（Ⅲ層）と7の混合　しまりやや弱い

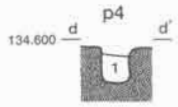
1　7.5YR3/3暗褐色シルト　地山土（Ⅲ層）を含む。炭を含む。しまりやや弱い
2　地山土（Ⅲ層）と1の混合　しまり弱い
3　地山土（Ⅲ層）と1の混合　しまりやや弱い
4　7.5YR3/3暗褐色シルト　地山土（Ⅲ層）を含む。炭を含む。
しまりやや弱い



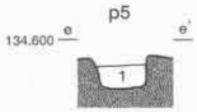
1　7.5YR3/2黒褐色シルト
地山土（Ⅲ層）を含む。
炭・焼土を多量に含む。
土師器を含む。しまりやや弱い
2　7.5YR3/4暗褐色シルト
しまりやや弱い。周壁溝埋土



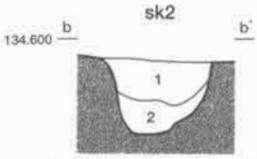
1　7.5YR3/3暗褐色シルト　地山土（Ⅲ層）を含む。
炭を含む。しまりやや弱い



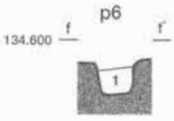
1　7.5YR3/3暗褐色シルト
地山土（Ⅲ層）を含む。炭を含む。
しまりやや弱い



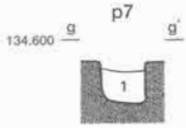
1　7.5YR3/3暗褐色シルト
地山土（Ⅲ層）を含む。炭を含む。
しまりやや弱い



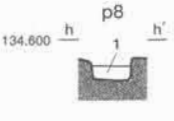
1　7.5YR3/2黒褐色シルト　地山土（Ⅳ層）を含む。
しまり弱い
2　地山土（Ⅳ層）の崩れたものの再堆積　1を含む。
しまり極めて弱い



1　7.5YR3/3暗褐色シルト
地山土（Ⅲ層）を含む。炭を含む。
しまりやや弱い

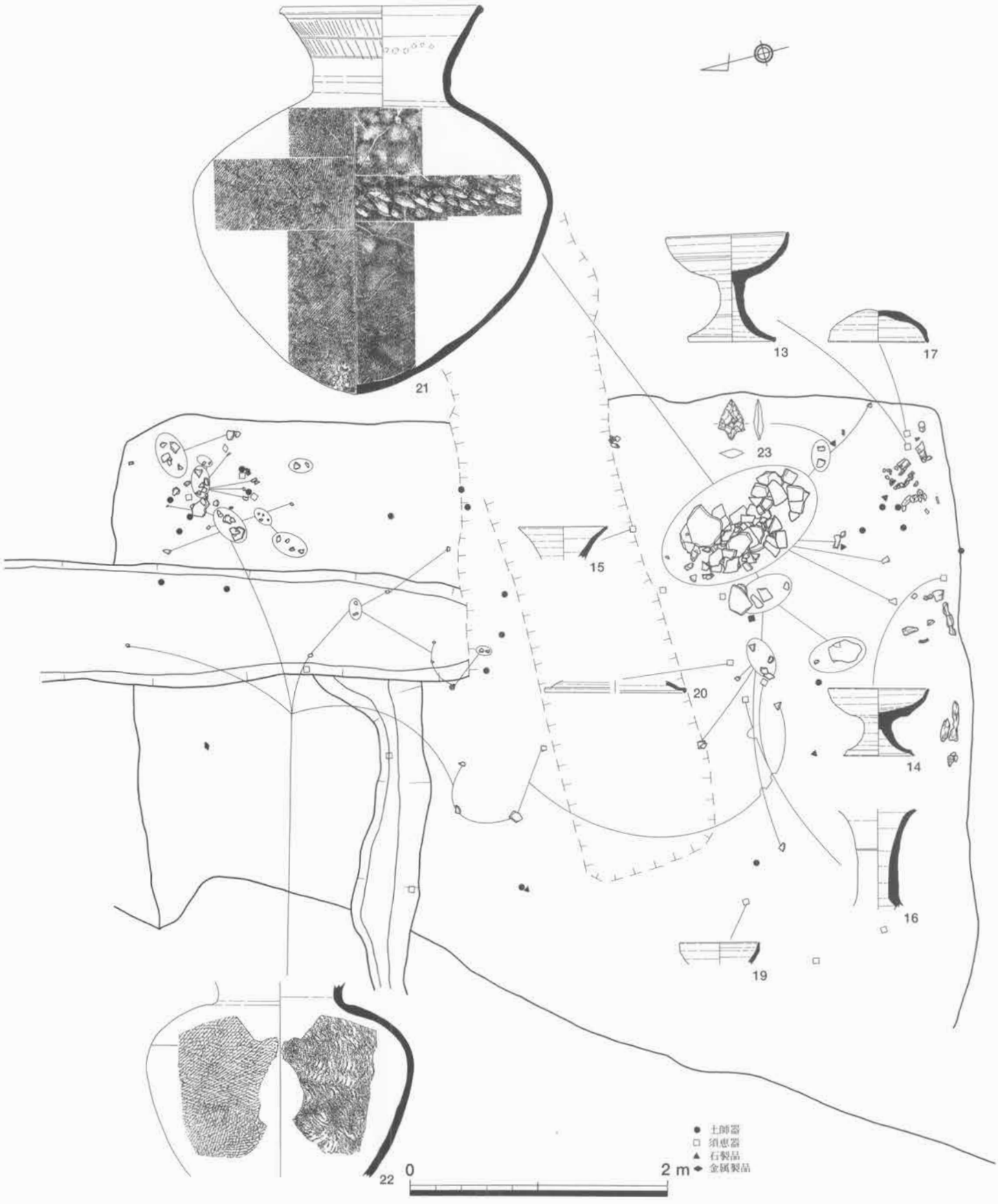


1　7.5YR3/3暗褐色シルト
地山土（Ⅲ層）を含む。炭を含む。
しまりやや弱い

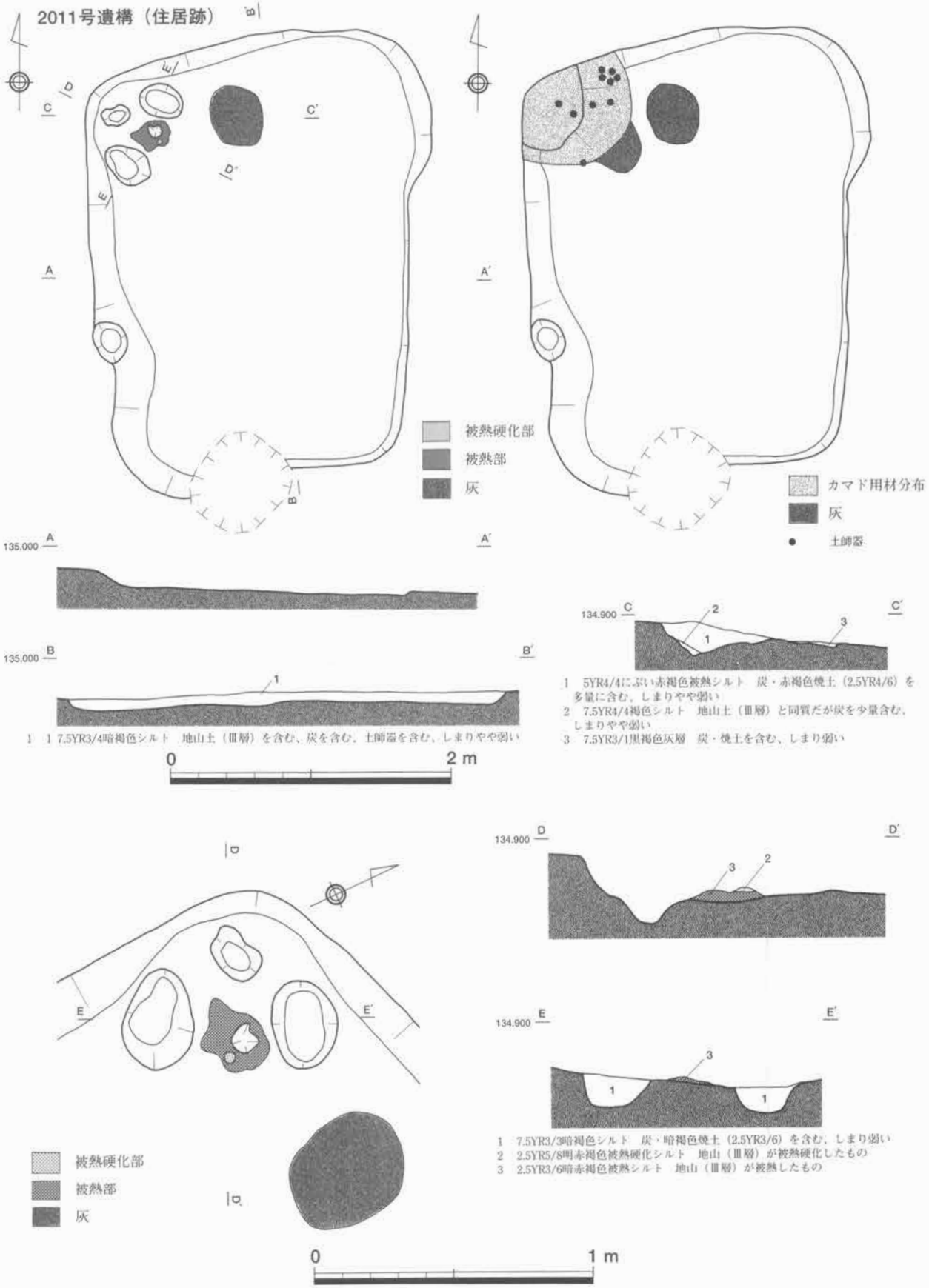


1　7.5YR3/3暗褐色シルト
地山土（Ⅲ層）を含む。炭を含む。
しまりやや弱い

第15図　古代の遺構（8）

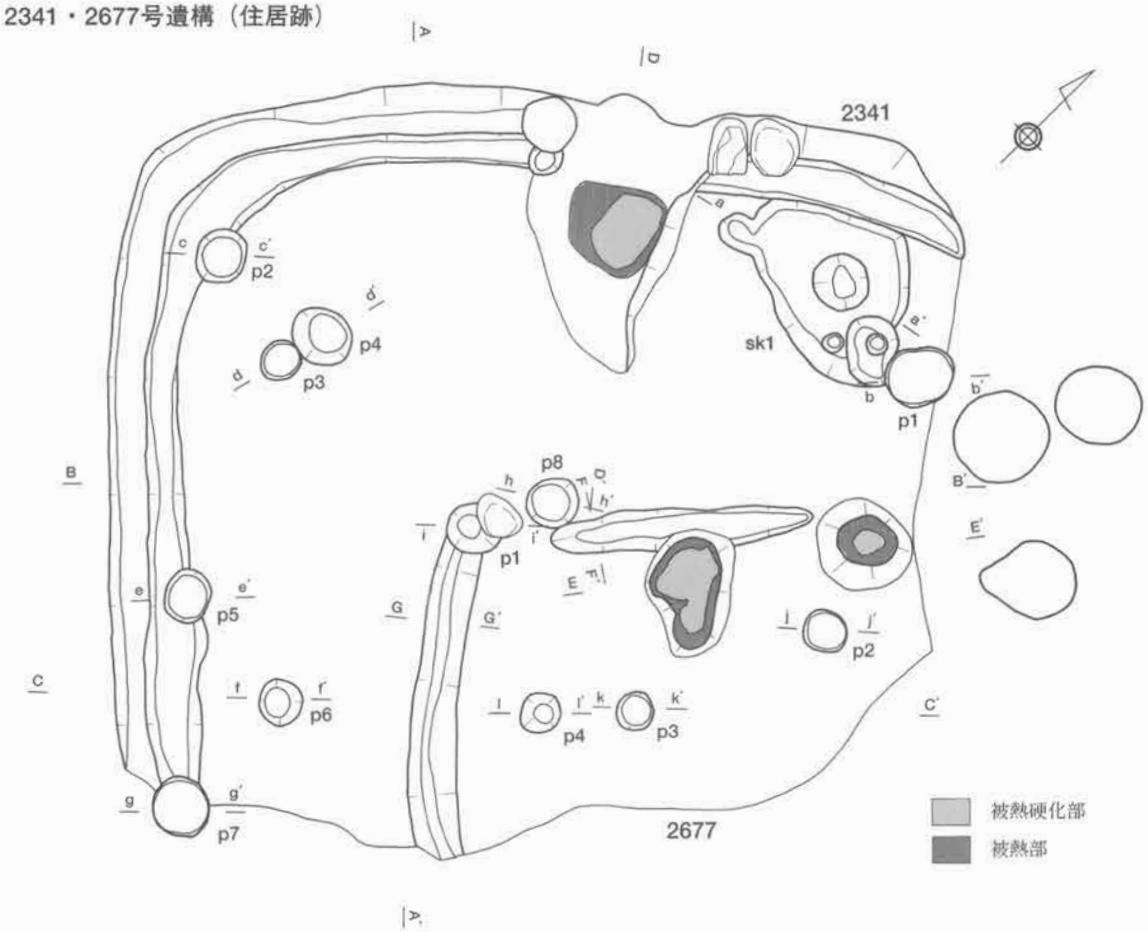


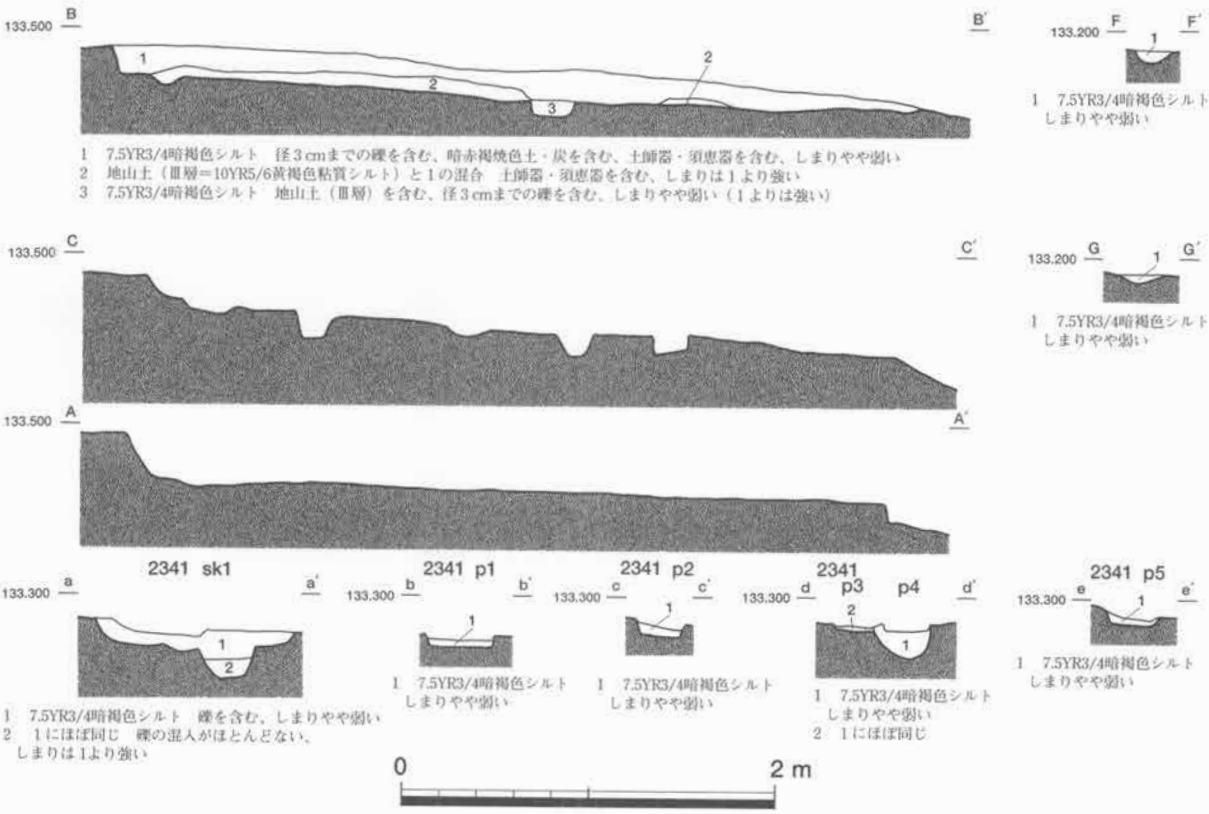
第16図　古代の遺構（９）



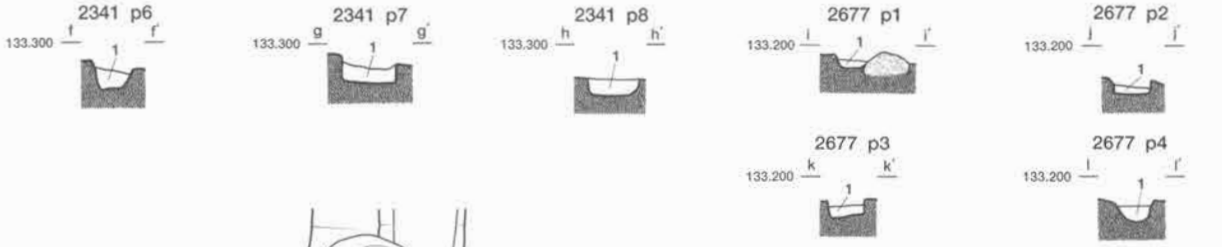
第17図　古代の遺構(10)

2341・2677号遺構（住居跡）



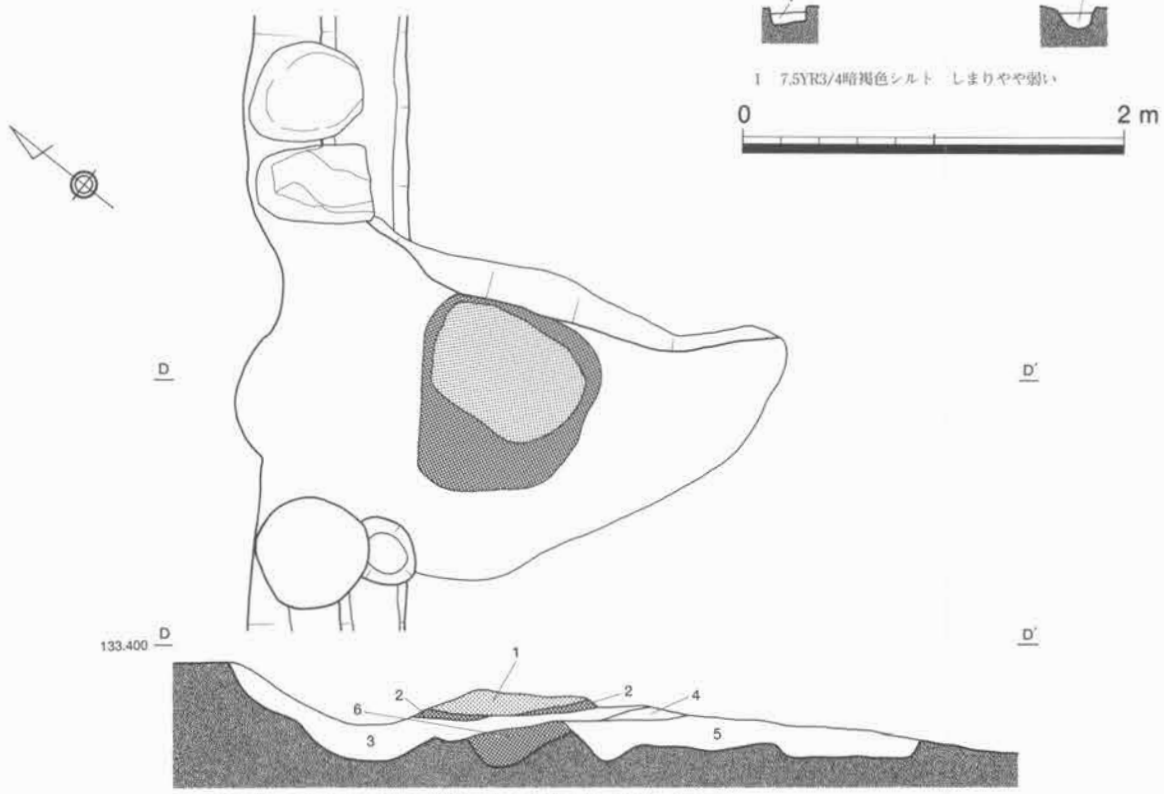


第18図　古代の遺構(11)

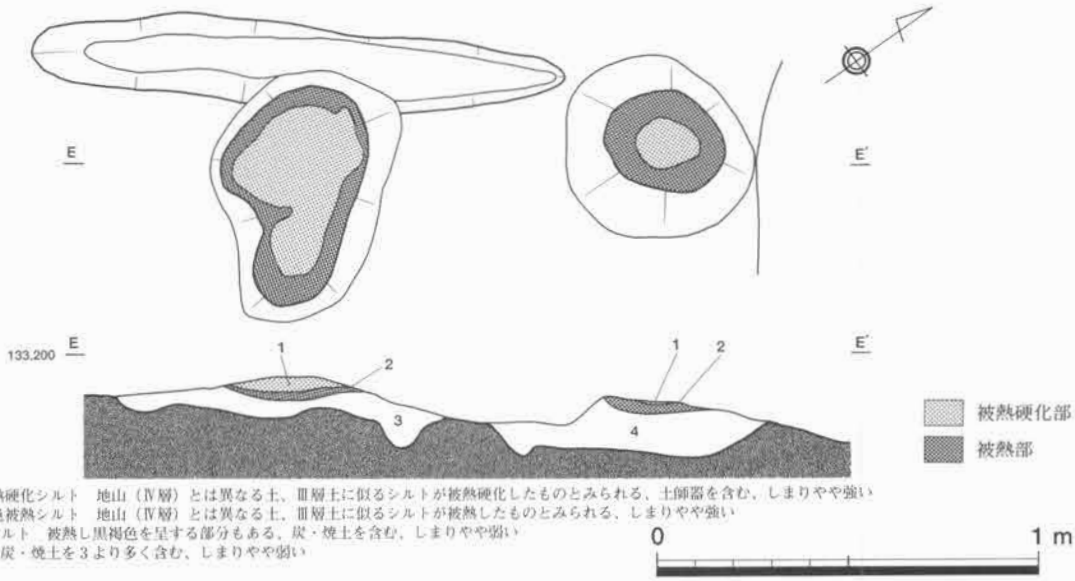


1　7.5YR3/4暗褐色シルト　しまりやや弱い

0　2 m



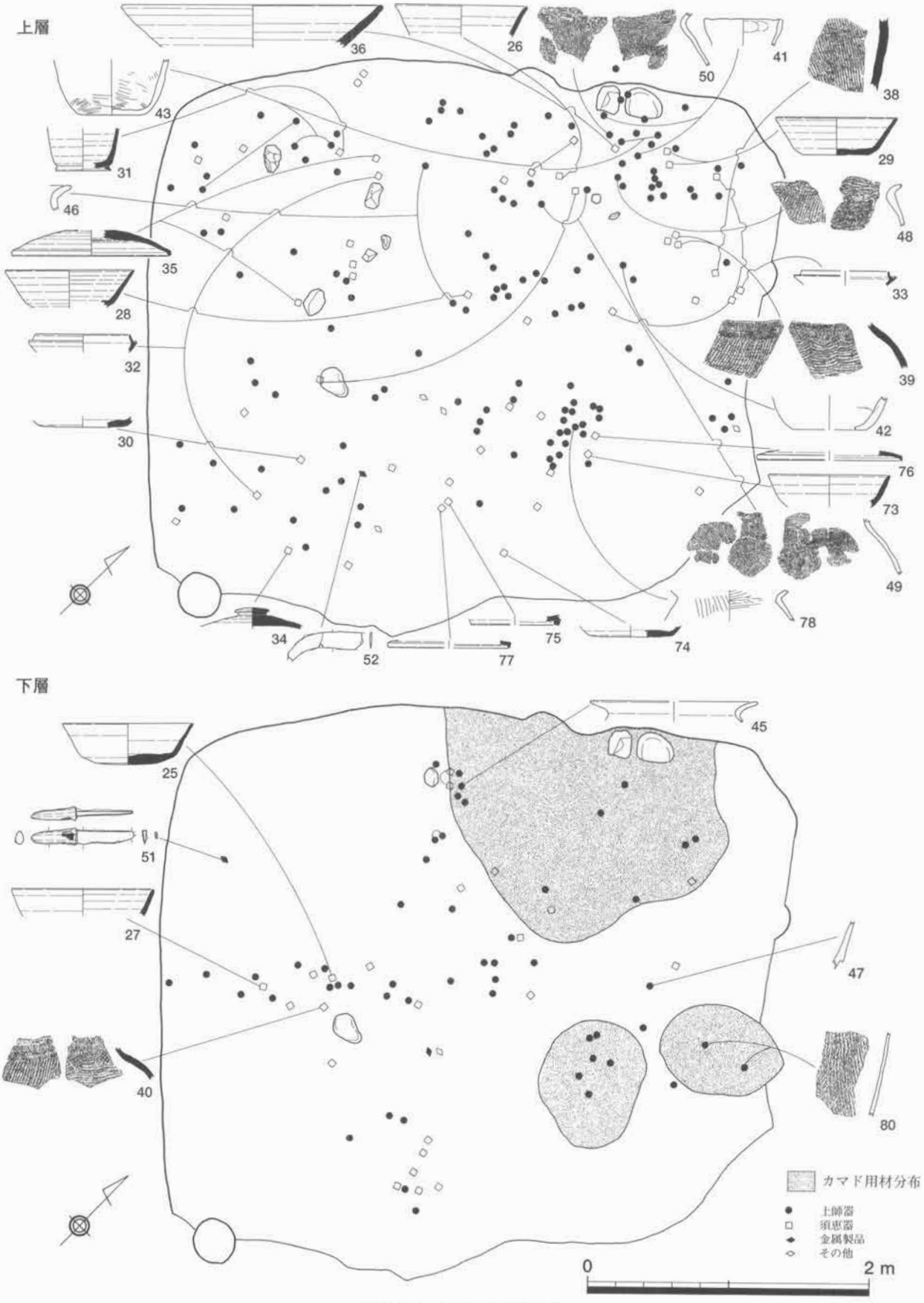
1　5YR7/6橙色被熱硬化シルト　地山（Ⅳ層）とは異なる土、Ⅲ層土に似るシルトが被熱硬化したものとみられる
2　5YR3/6暗赤褐色被熱シルト　地山（Ⅳ層）とは異なる土、Ⅲ層土に似るシルトが被熱したものとみられる
3　7.5YR3/3暗褐色シルト　炭・暗赤褐色焼土を含む、しまりやや強い
4　炭層
5　3にほぼ同じ　地山土（Ⅳ層）を少量含む、土師器・須恵器を含む、しまりやや強い
6　10YR3/6暗赤色被熱シルト　径1cmくらいの同色の被熱硬化塊を含む、暗褐色シルトを含む、径5cmまでの焼石を少量含む、しまりやや弱い



1　5YR7/6橙色被熱硬化シルト　地山（Ⅳ層）とは異なる土、Ⅲ層土に似るシルトが被熱硬化したものとみられる、土師器を含む、しまりやや強い
2　5YR3/6暗赤褐色被熱シルト　地山（Ⅳ層）とは異なる土、Ⅲ層土に似るシルトが被熱したものとみられる、しまりやや強い
3　7.5YR4/3褐色シルト　被熱し黒褐色を呈する部分もある、炭・焼土を含む、しまりやや弱い
4　3にほぼ同じ　炭・焼土を3より多く含む、しまりやや弱い

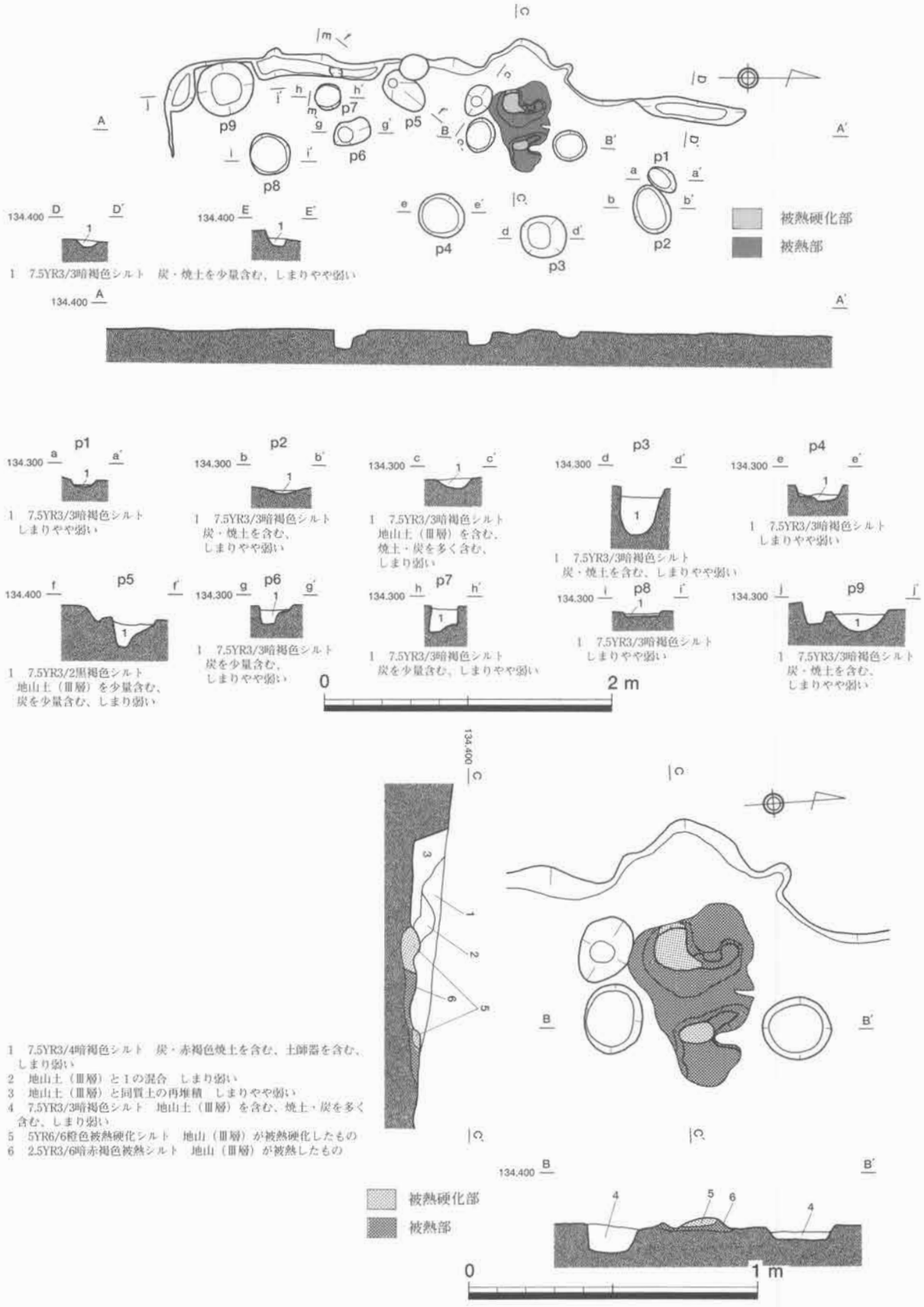
0　1 m

第19図　古代の遺構(12)



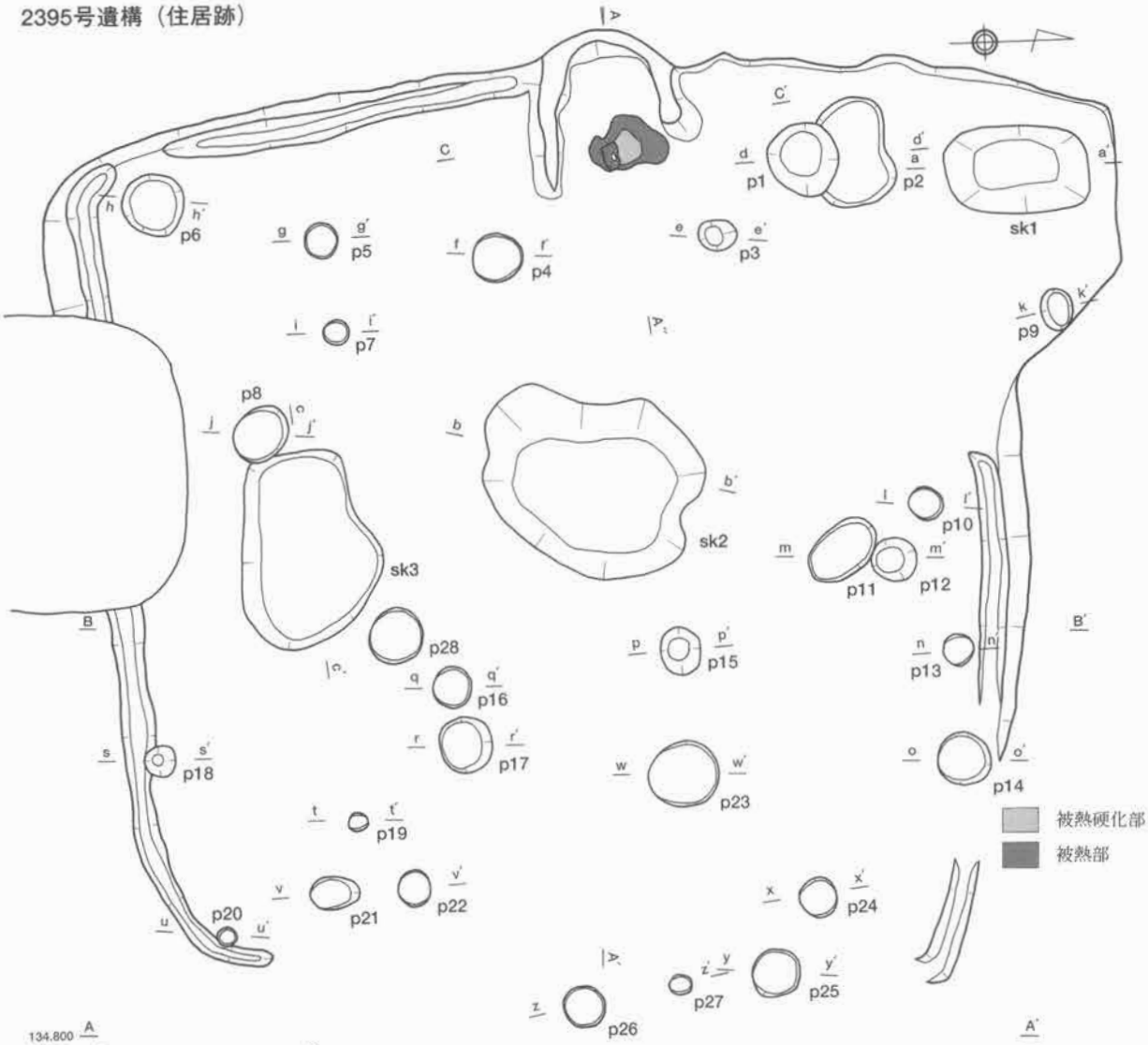
第20図　古代の遺構(13)

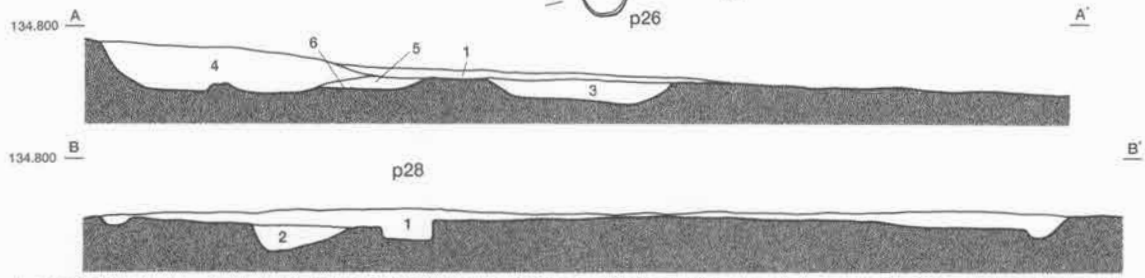
2390号遺構（住居跡）



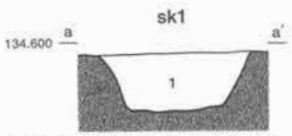
第21図　古代の遺構(14)

2395号遺構（住居跡）

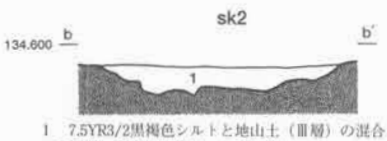




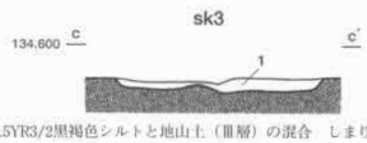
1　7.5YR3/3暗褐色シルト　地山土（Ⅲ層＝7.5YR2/1明褐色粘質シルト）を少量含む．赤褐色焼土・炭を少量含む．土師器・須恵器を含む．しまり弱い
2　7.5YR3/2黒褐色シルトと地山土（Ⅲ層）の混合　しまり弱い
3　7.5YR3/2黒褐色シルトと地山土（Ⅲ層）の混合　土師器・須恵器を含む．しまり弱い
4　7.5YR3/3暗褐色シルト　やや被熱し黒褐色に近い．赤褐色焼土・炭を多量に含む．土師器を多量に含む．しまりやや弱い（1よりは強い）
5　7.5YR5/6明褐色粘質シルト　地山土（Ⅲ層）と同質の土による貼床とみられる．しまりやや強い
6　炭層　厚さ約1㎜．しまり弱い



1　7.5YR2/1黒褐色シルトと地山土（Ⅲ層）の混合　炭・赤褐色焼土を含む．土師器を含む．しまり弱い

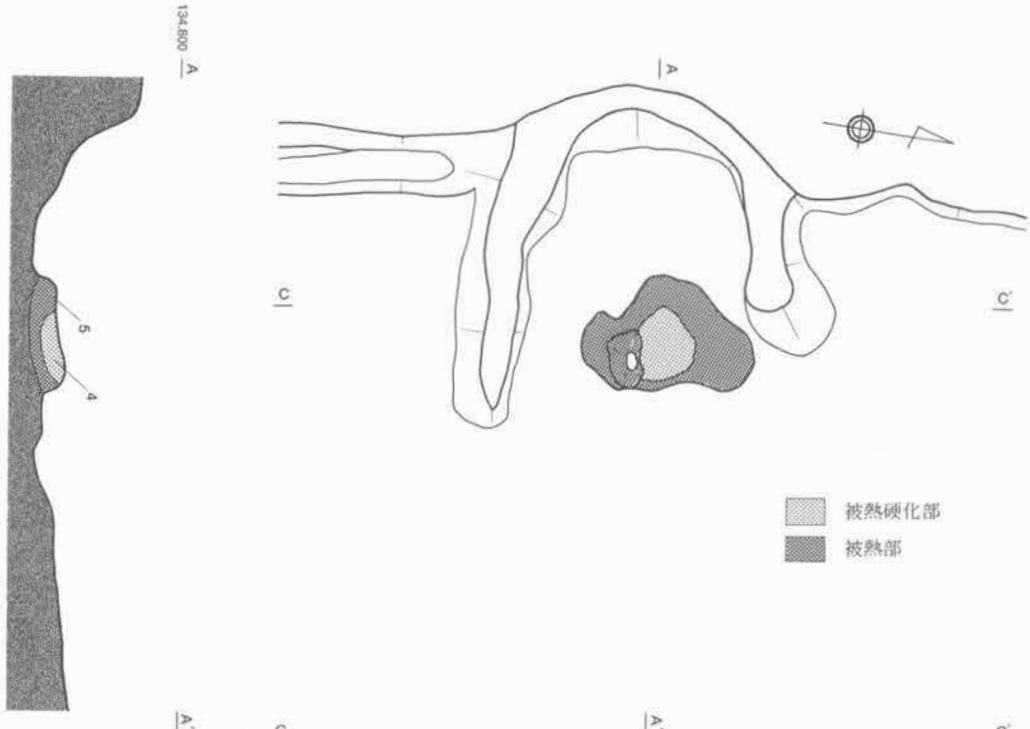


1　7.5YR3/2黒褐色シルトと地山土（Ⅲ層）の混合　土師器・須恵器を含む．しまり弱い

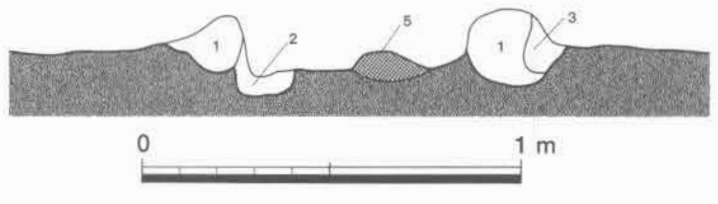


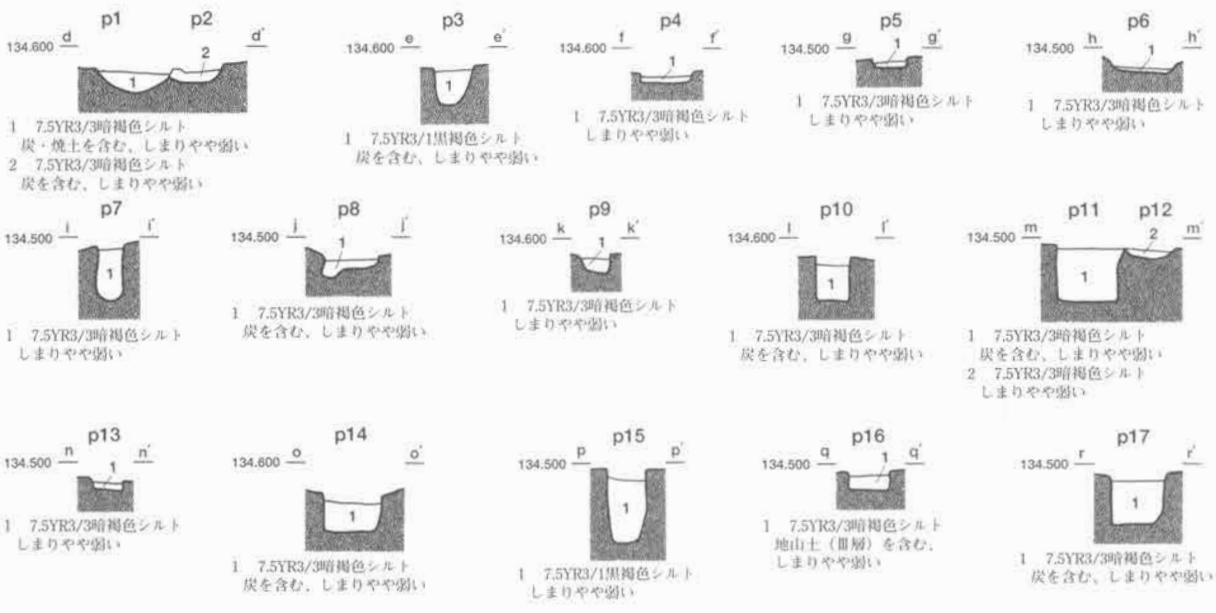
1　7.5YR3/2黒褐色シルトと地山土（Ⅲ層）の混合　しまり弱い

第22図　古代の遺構(15)

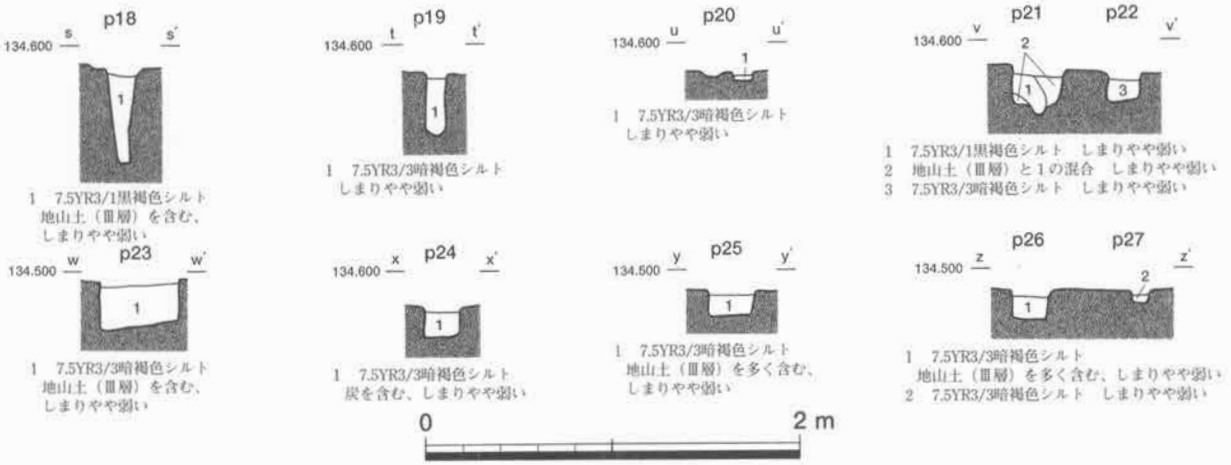


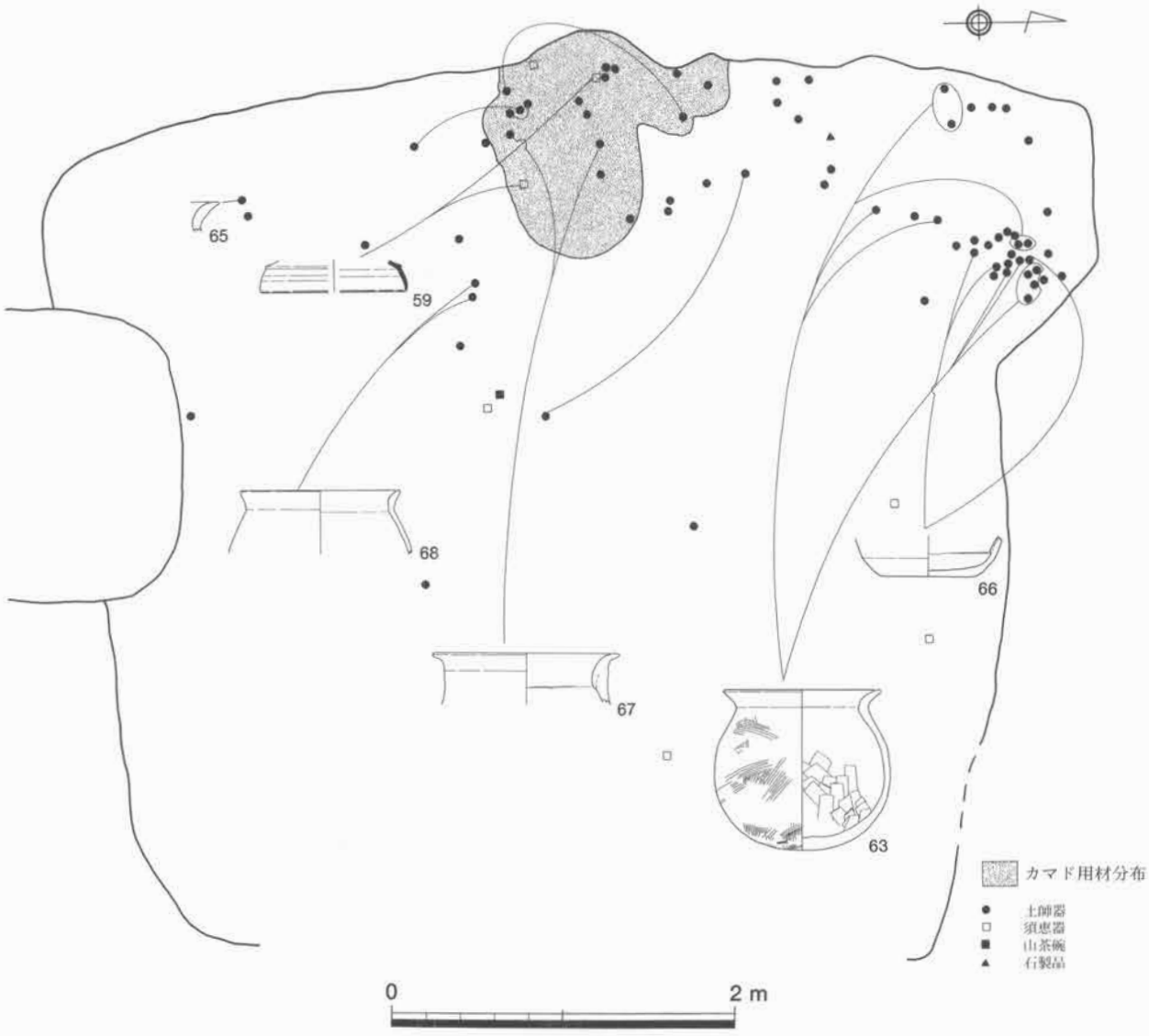
1　5Y4/3にぶい赤褐色粘質シルト
地山同様の褐色を呈する部分も多い、炭・暗赤褐色焼土を含む、遺物を含まない、しまり強い（地山よりは弱い）
2　5Y4/3にぶい赤褐色粘質シルト
1とほぼ同じだが暗赤褐色土の混入多い、しまり1より弱い
3　7.5YR2/1明褐色粘質シルト
地山土（Ⅲ層）と同質の土だが地山よりしまり弱い
4　5YR5/8明赤褐色被熱硬化シルト
地山（Ⅲ層）が被熱硬化したもの、しまり極めて強い
5　2.5YR3/6暗赤褐色被熱シルト
地山（Ⅲ層）が被熱したもの、しまり強い





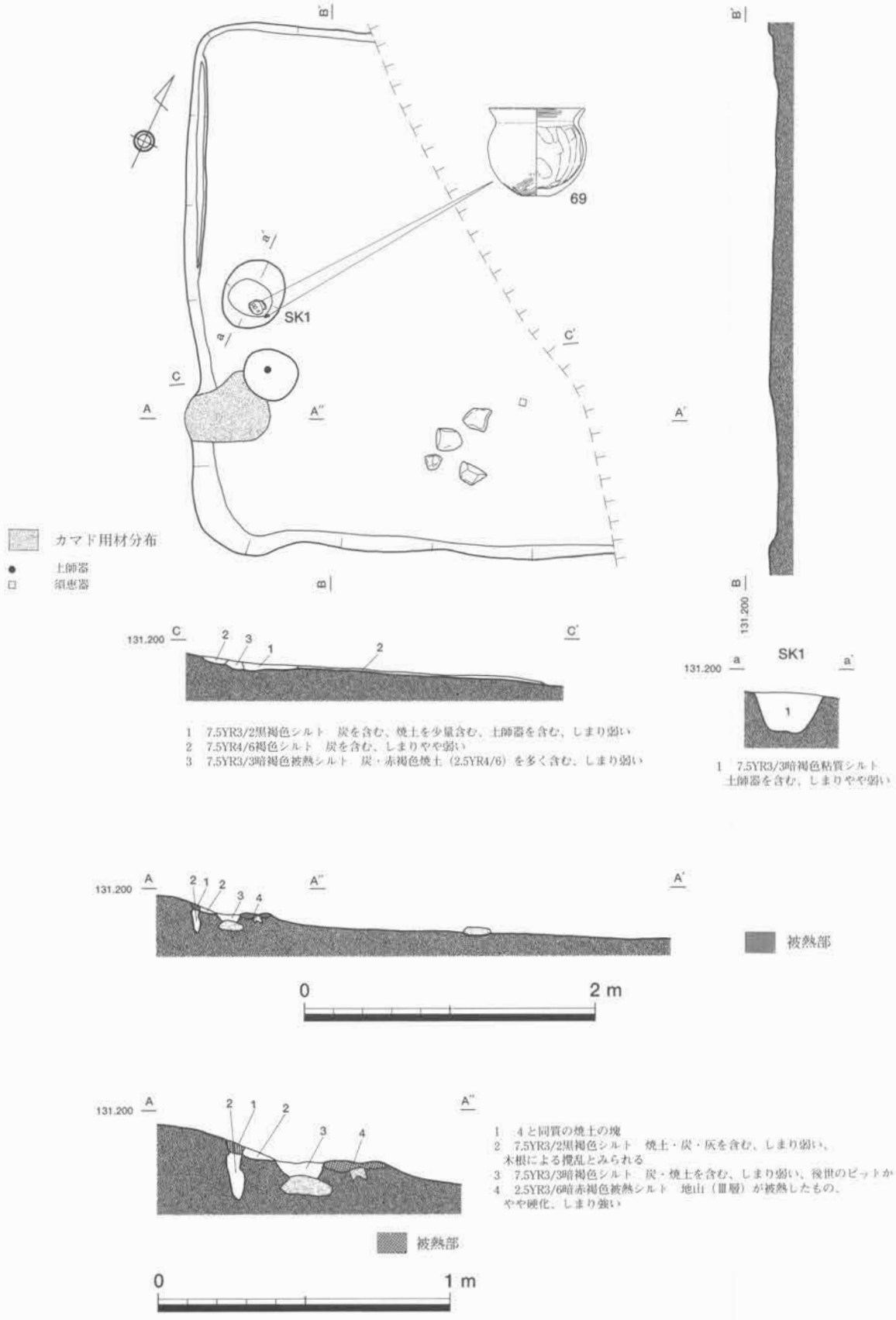
第23図　古代の遺構(16)



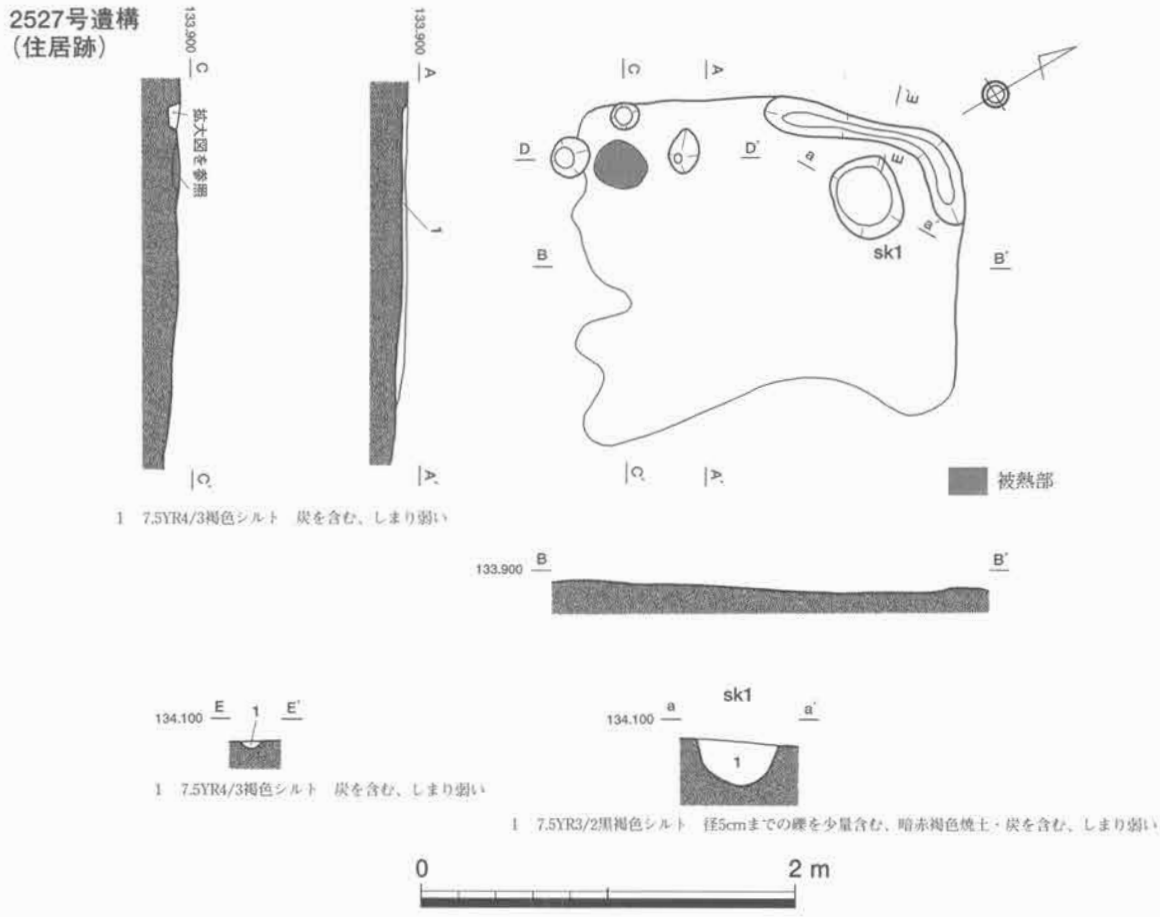


第24図　古代の遺構(17)

2460号遺構（住居跡）

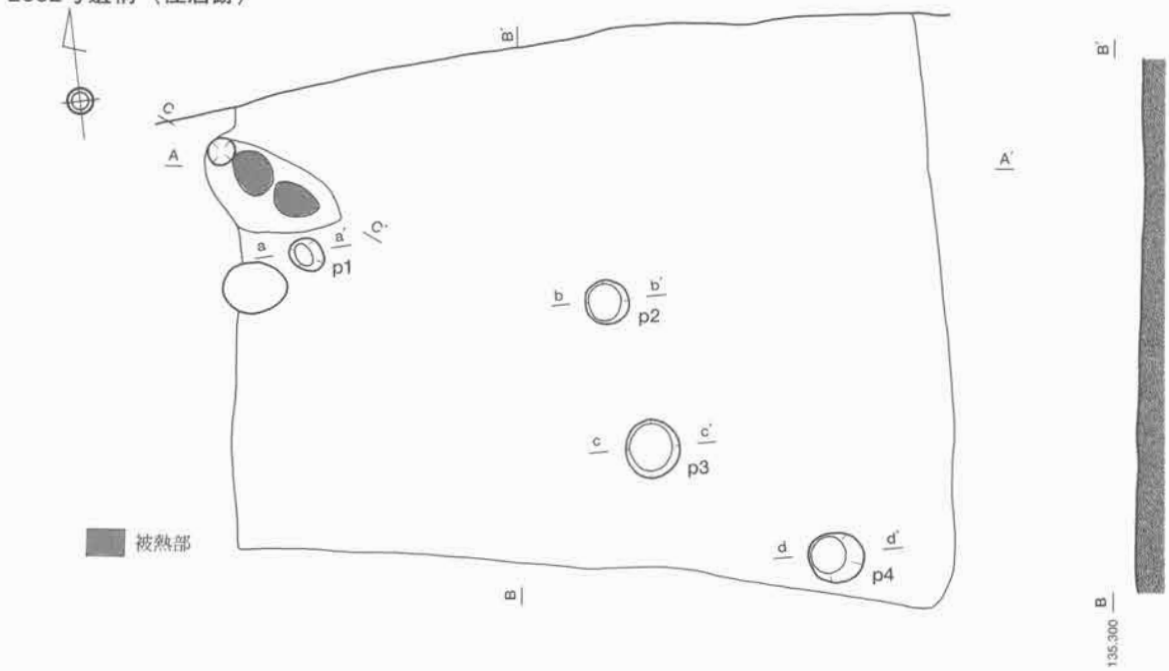


第25図　古代の遺構(18)

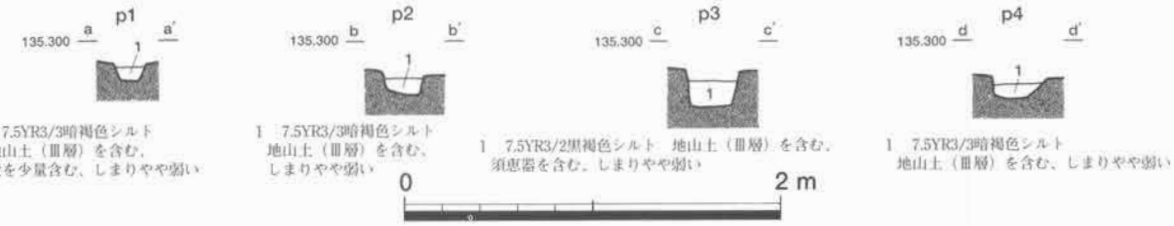


第26図　古代の遺構(19)

2652号遺構（住居跡）



1　2.5YR3/6暗赤褐色被熱シルト　地山土（Ⅲ層）と同質の粘質シルトが被熱し変色したもの、硬化は認められない
2　7.5YR2/1明褐色粘質シルト　地山土（Ⅲ層）と同質、暗赤褐色被熱シルト・炭を含む

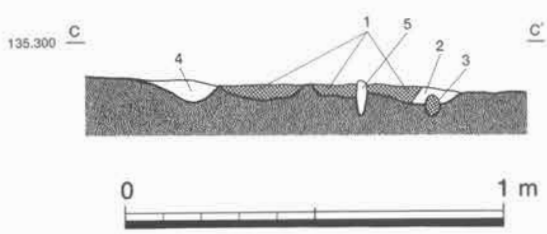


1　7.5YR3/3暗褐色シルト　地山土（Ⅲ層）を含む、炭を少量含む、しまりやや弱い

1　7.5YR3/3暗褐色シルト　地山土（Ⅲ層）を含む、しまりやや弱い

1　7.5YR3/2黒褐色シルト　地山土（Ⅲ層）を含む、須恵器を含む、しまりやや弱い

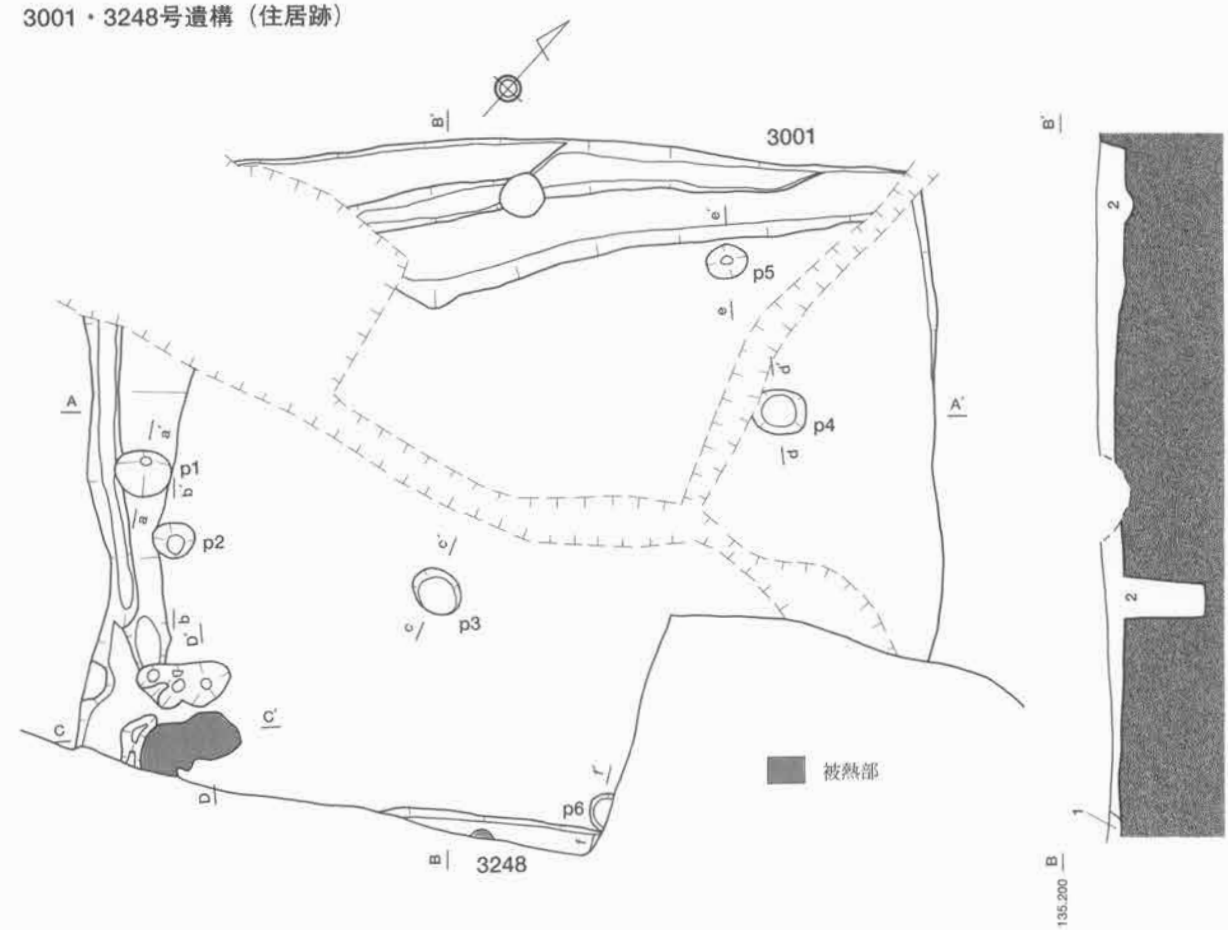
1　7.5YR3/3暗褐色シルト　地山土（Ⅲ層）を含む、しまりやや弱い

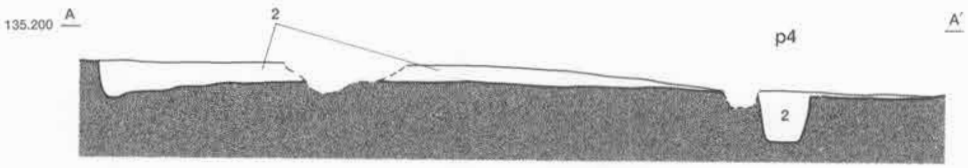


1　2.5YR3/6暗赤褐色被熱シルト　地山土（Ⅲ層）と同質の粘質シルトが被熱し変色したもの、硬化は認められない
2　7.5YR2/1明褐色粘質シルト　地山土（Ⅲ層）と同質、暗赤褐色被熱シルト・炭を含む
3　1と同質の暗赤褐色被熱シルトの塊
4　7.5YR3/2黒褐色シルト　やや被熱、1と炭を多く含む、しまり弱い
5　木根

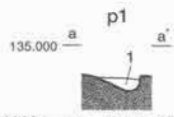
第27図　古代の遺構(20)

3001・3248号遺構（住居跡）

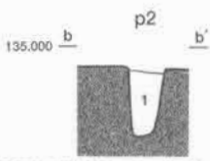




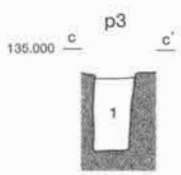
1　7.5YR4/4褐色シルト　やや被熱、しまりやや弱い
2　7.5YR3/3暗褐色シルト　地山土（Ⅲ層）を含む、炭を含む、土師器・須恵器を含む、しまりやや弱い



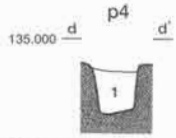
1　7.5YR3/3暗褐色シルト　地山土（Ⅲ層）を含む、炭を含む、しまりやや弱い



1　7.5YR3/3暗褐色シルト　地山土（Ⅲ層）を含む、炭を含む、しまりやや弱い

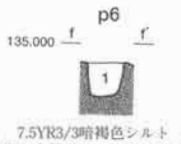


1　7.5YR3/3暗褐色シルト　地山土（Ⅲ層）を含む、炭を含む、しまりやや弱い



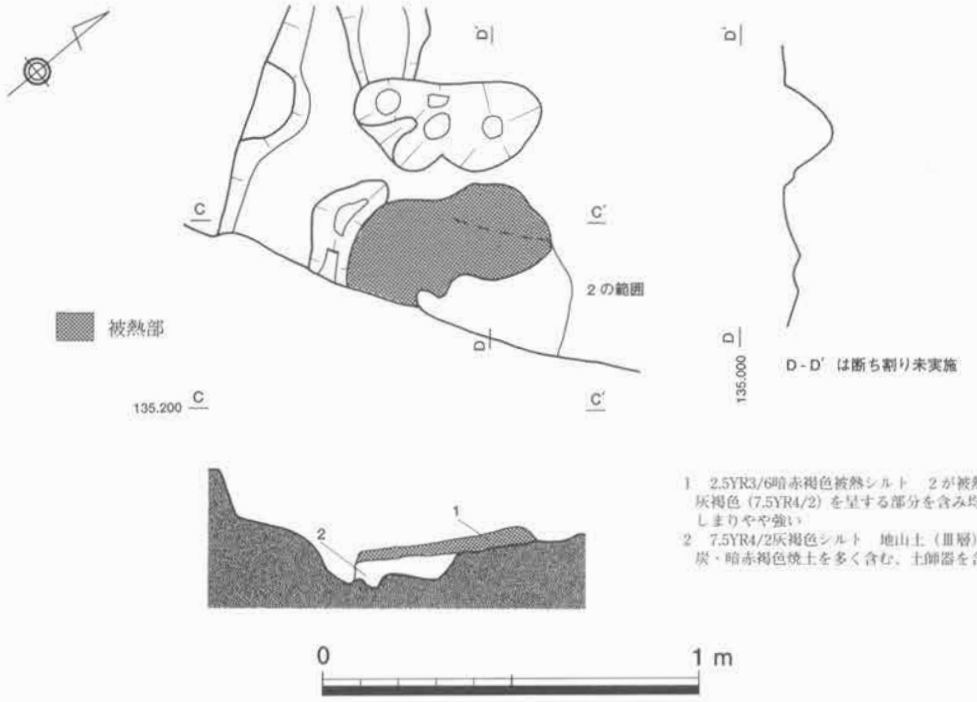
1　7.5YR3/3暗褐色シルト　地山土（Ⅲ層）を含む、炭を含む、しまりやや弱い

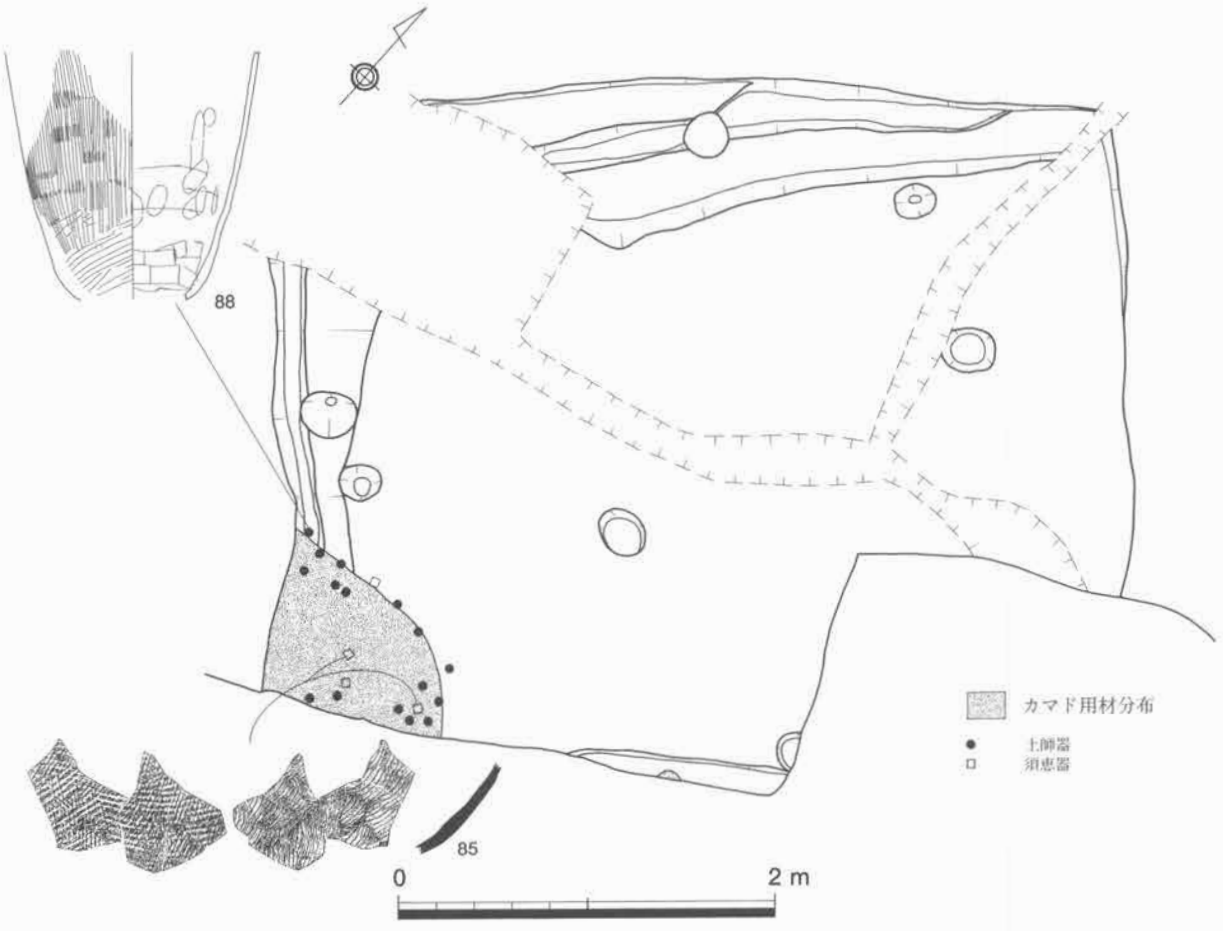
1　7.5YR3/3暗褐色シルト　地山土（Ⅲ層）を含む、炭を含む、しまりやや弱い



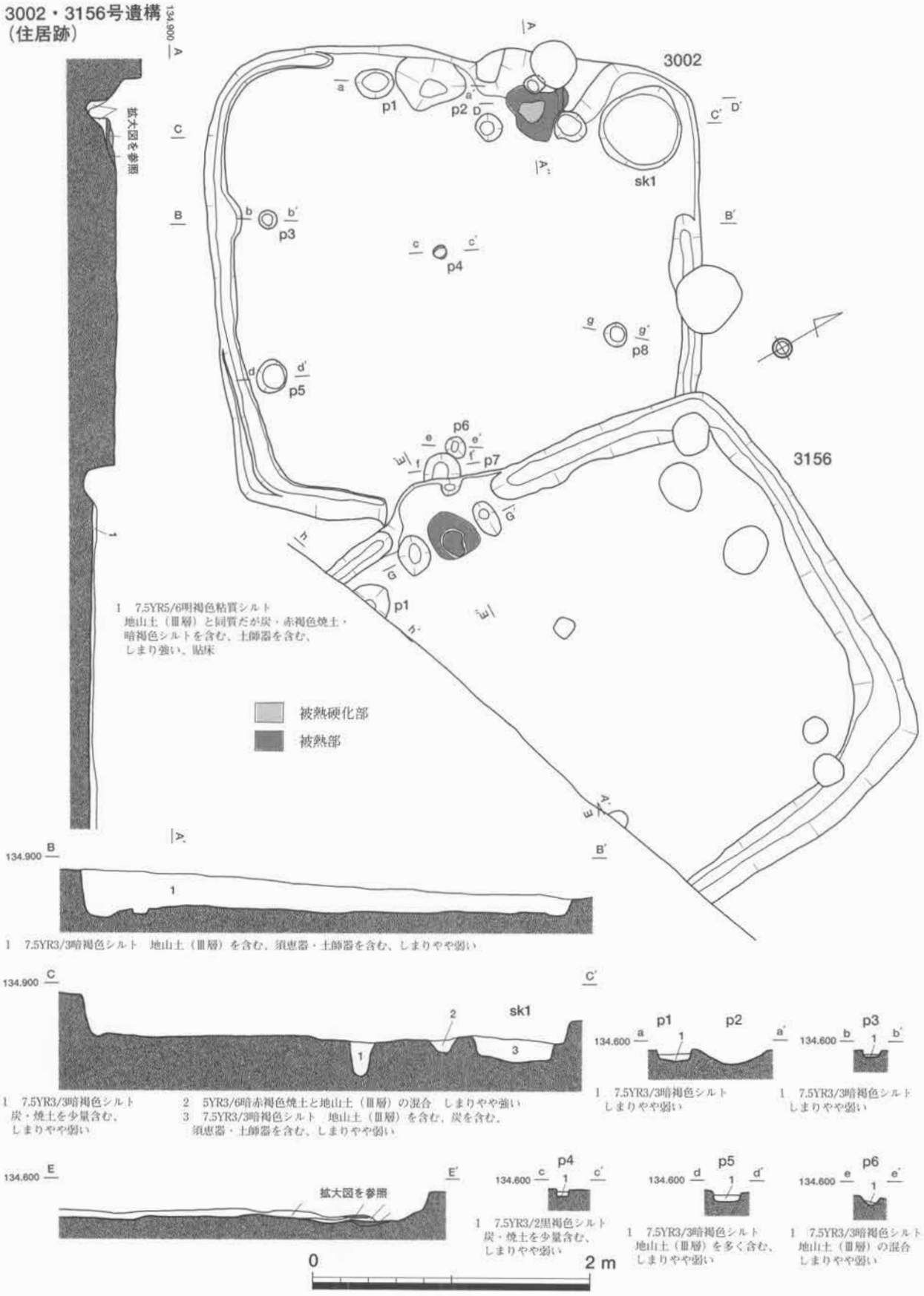
1　7.5YR3/3暗褐色シルト　地山土（Ⅲ層）を含む、炭を少量含む、しまりやや弱い

第28図　古代の遺構(21)

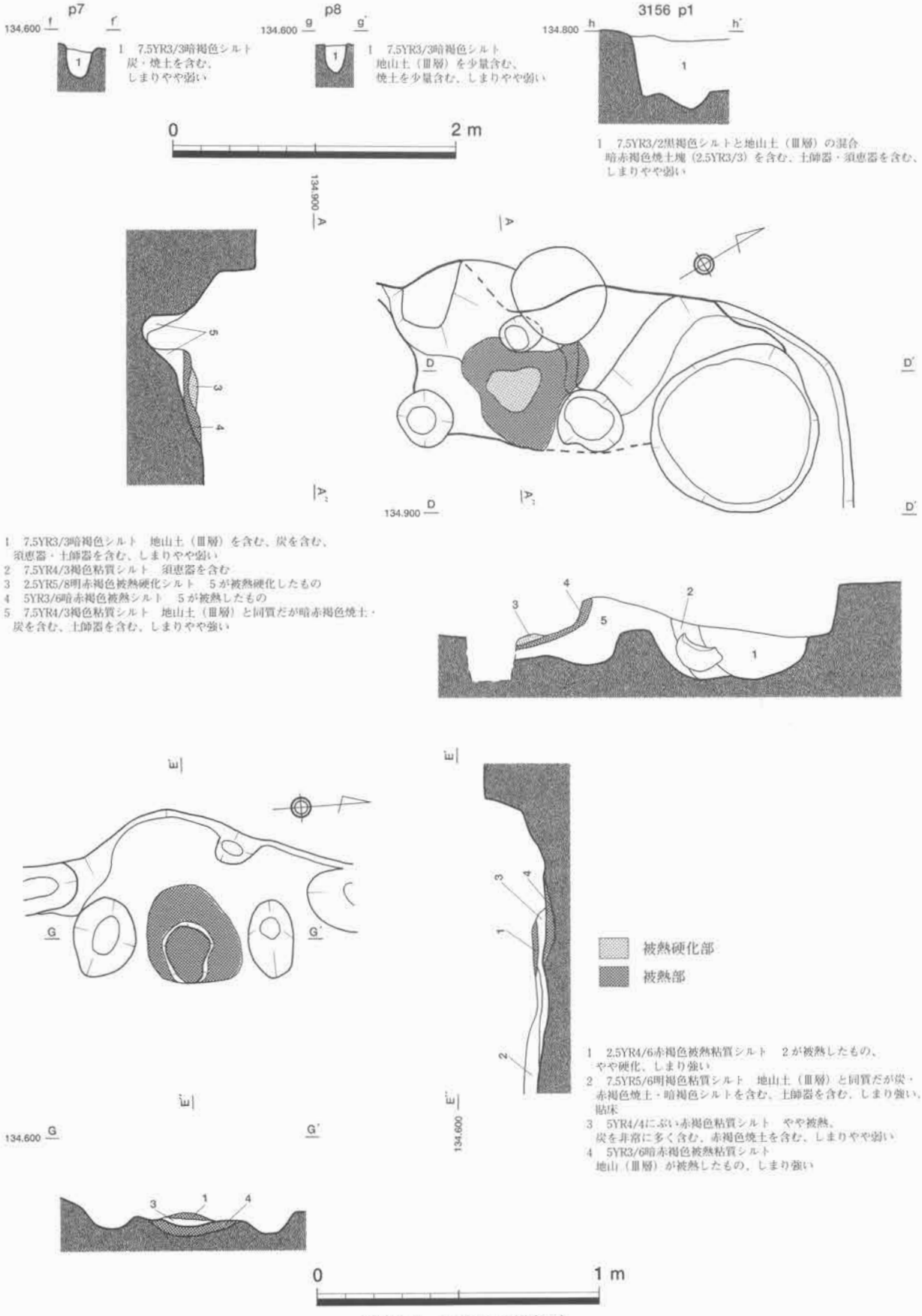




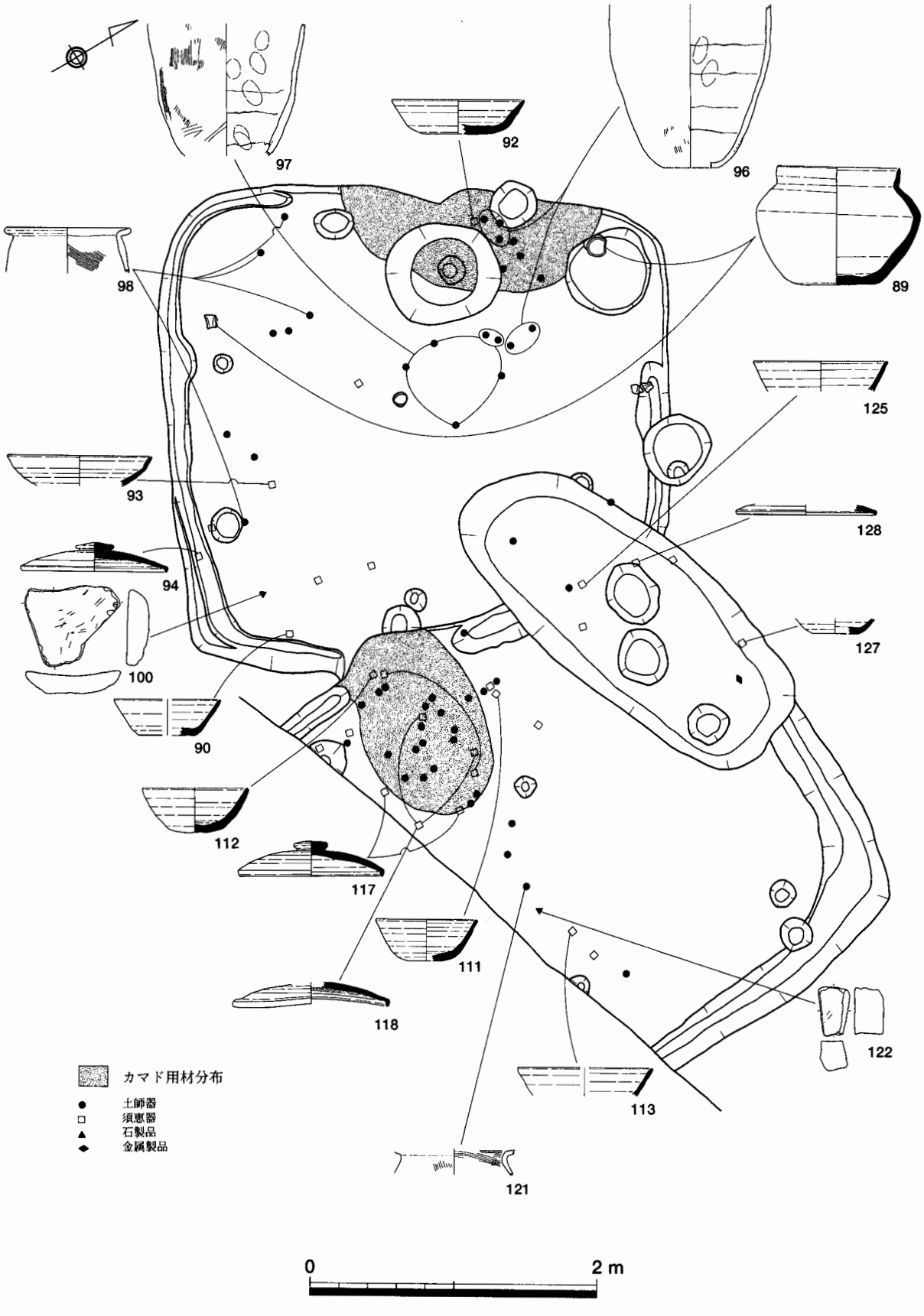
第29図　古代の遺構(22)



第30図　古代の遺構(23)

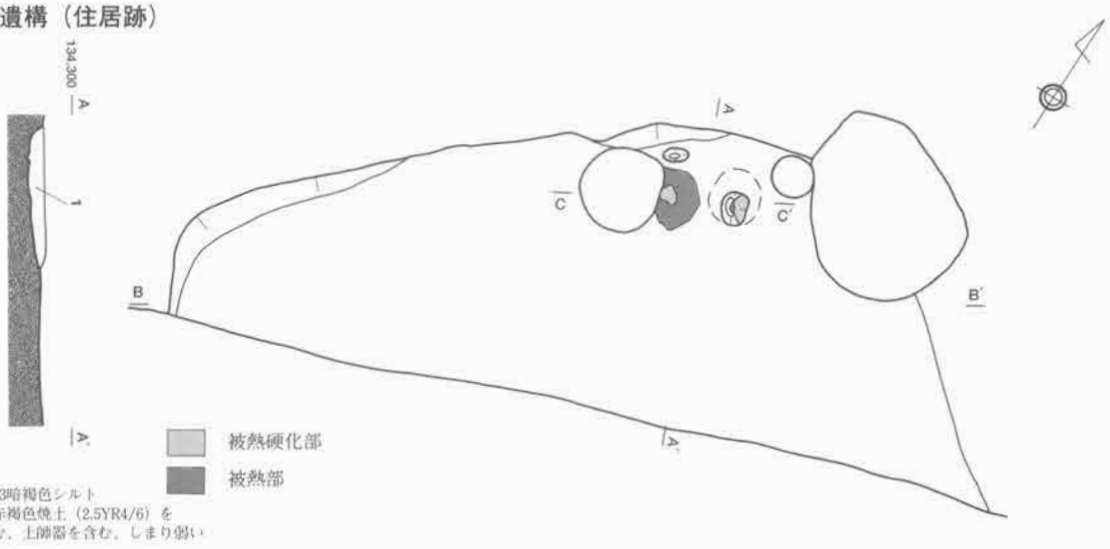


第31図　古代の遺構(24)



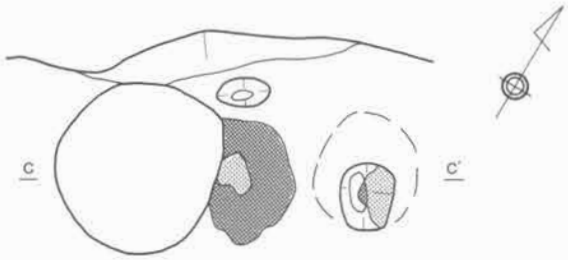
第32図　古代の遺構(25)

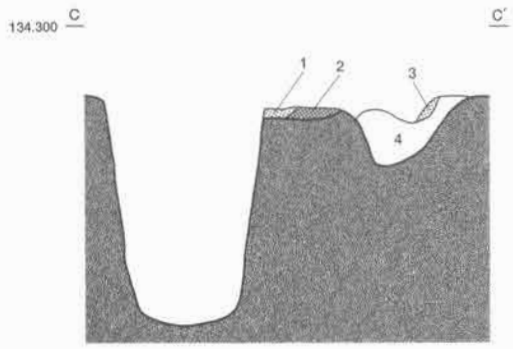
3159号遺構（住居跡）



1　7.5YR3/3暗褐色シルト
炭・炭・赤褐色焼土（2.5YR4/6）を
多量に含む。土師器を含む。しまり弱い

1　7.5YR2/3暗褐色シルト　地山土（Ⅲ層）を含む。土師器を含む。しまり弱い
2　7.5YR3/1黒褐色シルト　地山土（Ⅲ層）を少量含む。炭を少量含む。土師器を含む。しまり弱い
3　1と同質だが地山土（Ⅲ層）をより多く含む。土師器を含む。しまりやや弱い

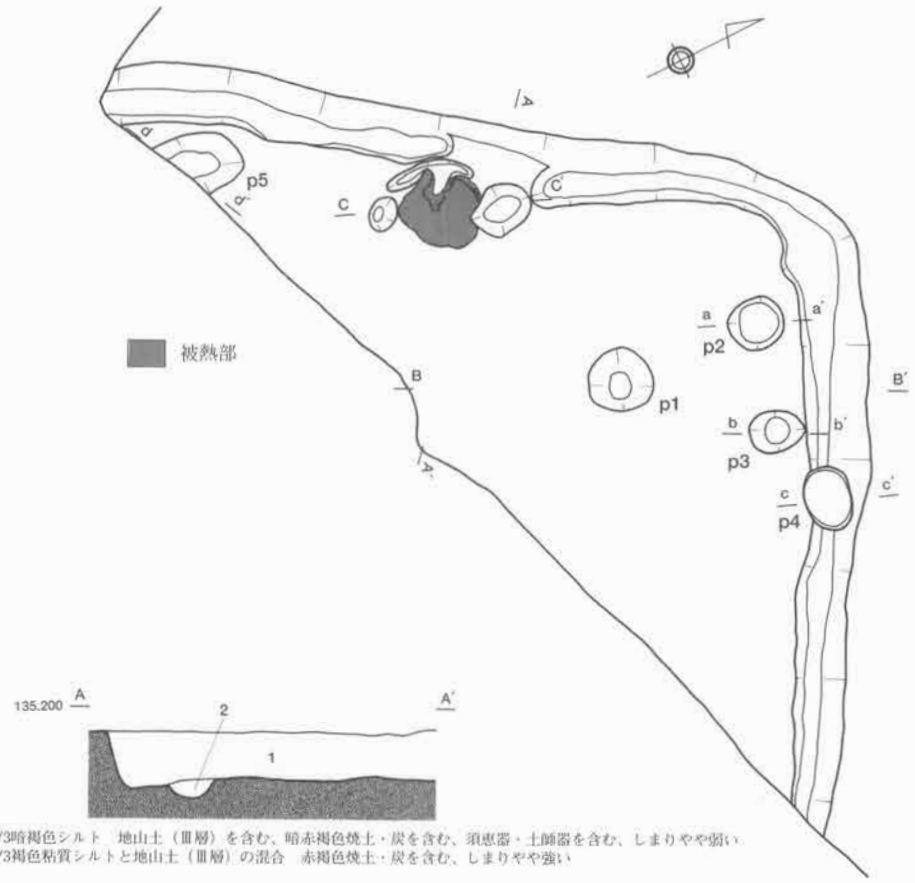




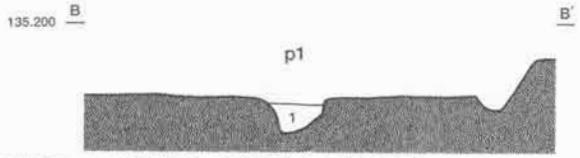
1　5YR5/8明赤褐色被熱硬化シルト　地山（Ⅲ層）が被熱硬化したもの
2　2.5YR3/6暗赤褐色被熱シルト　地山（Ⅲ層）が被熱したもの
3　5YR5/8明赤褐色被熱硬化シルト　4が被熱硬化したもの、炭を含む。
しまり非常に強い
4　7.5YR5/6明褐色粘質シルト　地山土（Ⅲ層）と同質だが炭・暗赤褐色～
明赤褐色焼土・黒褐色粘質シルトを含む。遺物を認めず、しまりやや強い

第33図　古代の遺構(26)

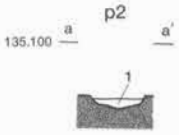
3197号遺構（住居跡）



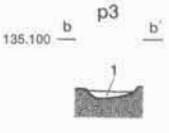
1　7.5YR3/3暗褐色シルト　地山土（Ⅲ層）を含む、暗赤褐色焼土・炭を含む、須恵器・土師器を含む、しまりやや弱い
2　7.5YR4/3褐色粘質シルトと地山土（Ⅲ層）の混合　赤褐色焼土・炭を含む、しまりやや強い



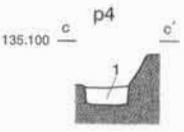
1　7.5YR3/3暗褐色シルト　暗赤褐色焼土・炭を少量含む、しまりやや弱い



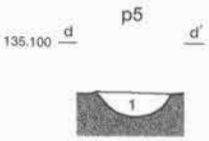
1　7.5YR3/3暗褐色シルト　暗赤褐色焼土・炭を少量含む、しまりやや弱い



1　7.5YR3/3暗褐色シルト
暗赤褐色焼土・炭を少量含む、
しまりやや弱い

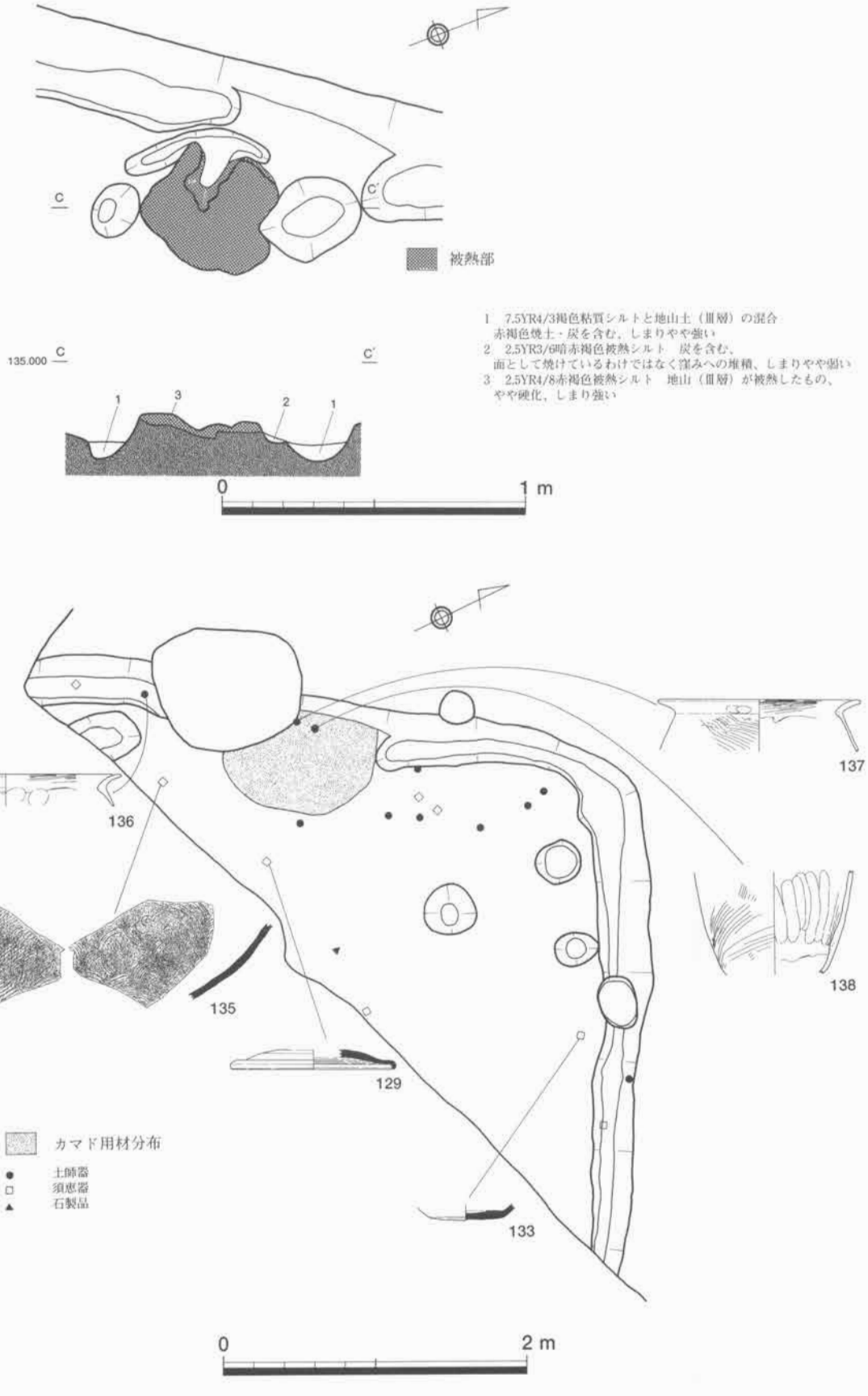


1　7.5YR3/3暗褐色シルト
地山土（Ⅲ層）を多く含む、
暗赤褐色焼土・炭を少量含む、
しまりやや弱い



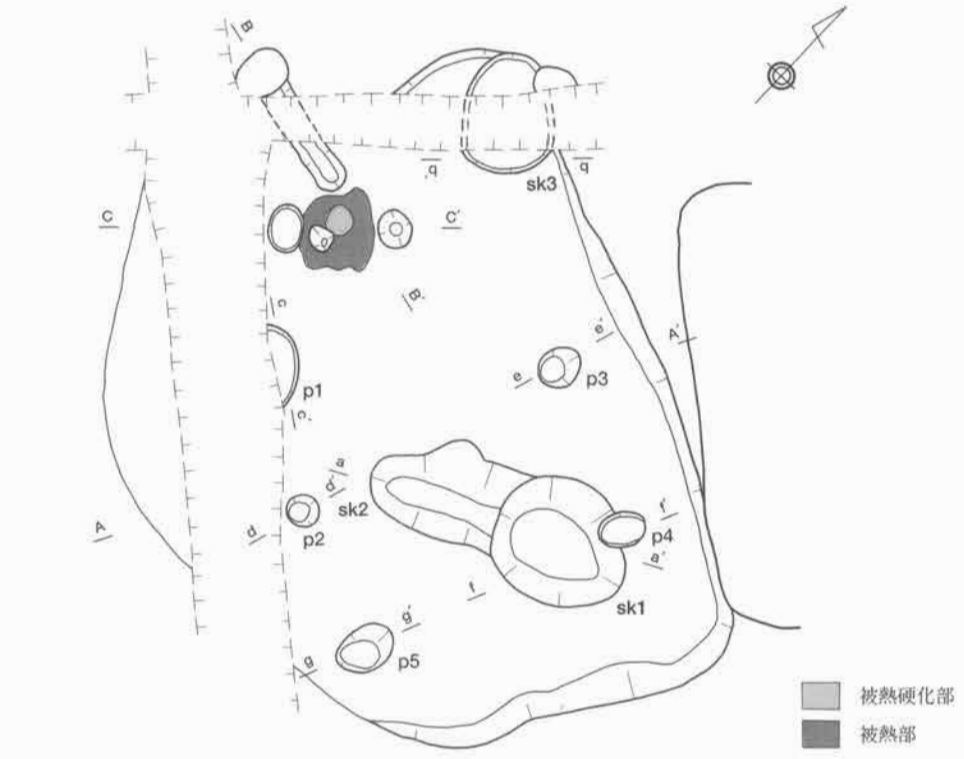
1　7.5YR3/3暗褐色シルト
地山土（Ⅲ層）を含む、暗赤褐色焼土・
炭を含む、しまりやや弱い

第34図　古代の遺構(27)



第35図　古代の遺構(28)

34号遺構（住居跡）



1　7.5YR4/3褐色砂質シルト 径3cmまでの礫を含む、炭を含む、土師器・須恵器・山茶碗を含む、しまり弱い

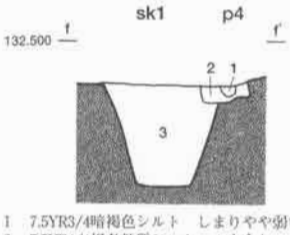
1　7.5YR3/2黒褐色シルト　地山土（Ⅲ層）を含む、炭を含む、しまり弱い
2　1とほぼ同質だが地山土（Ⅲ層）の混入が少ない、しまり弱い

1　7.5YR3/3暗褐色シルト
やや被熱、炭を多量に含む、焼土を含む

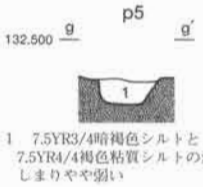
1　7.5YR4/4暗褐色シルト　しまりやや弱い

1　10YR3/4暗褐色シルト
地山土（Ⅲ層）を含む、
炭を含む

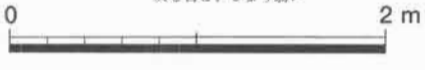
1　7.5YR4/4褐色粘質シルト
地山土（Ⅲ層）と同質だが暗褐色シルト
(7.5YR3/4)を少量含む、
しまりやや弱い



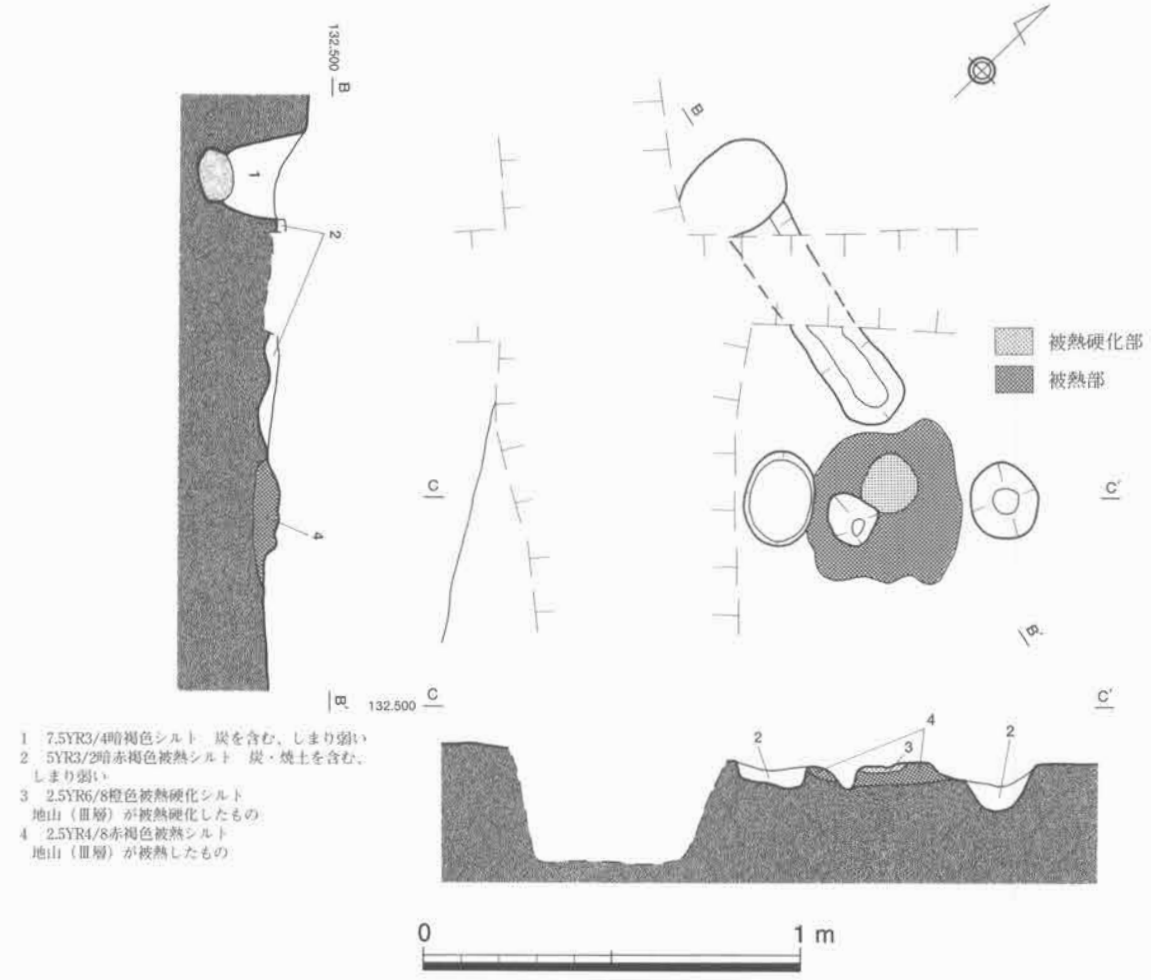
1　7.5YR3/4暗褐色シルト　しまりやや弱い
2　7.5YR4/4褐色粘質シルト　1を含む
3　7.5YR3/2黒褐色シルト　地山土（Ⅲ層）を含む、
炭を含む、しまり弱い

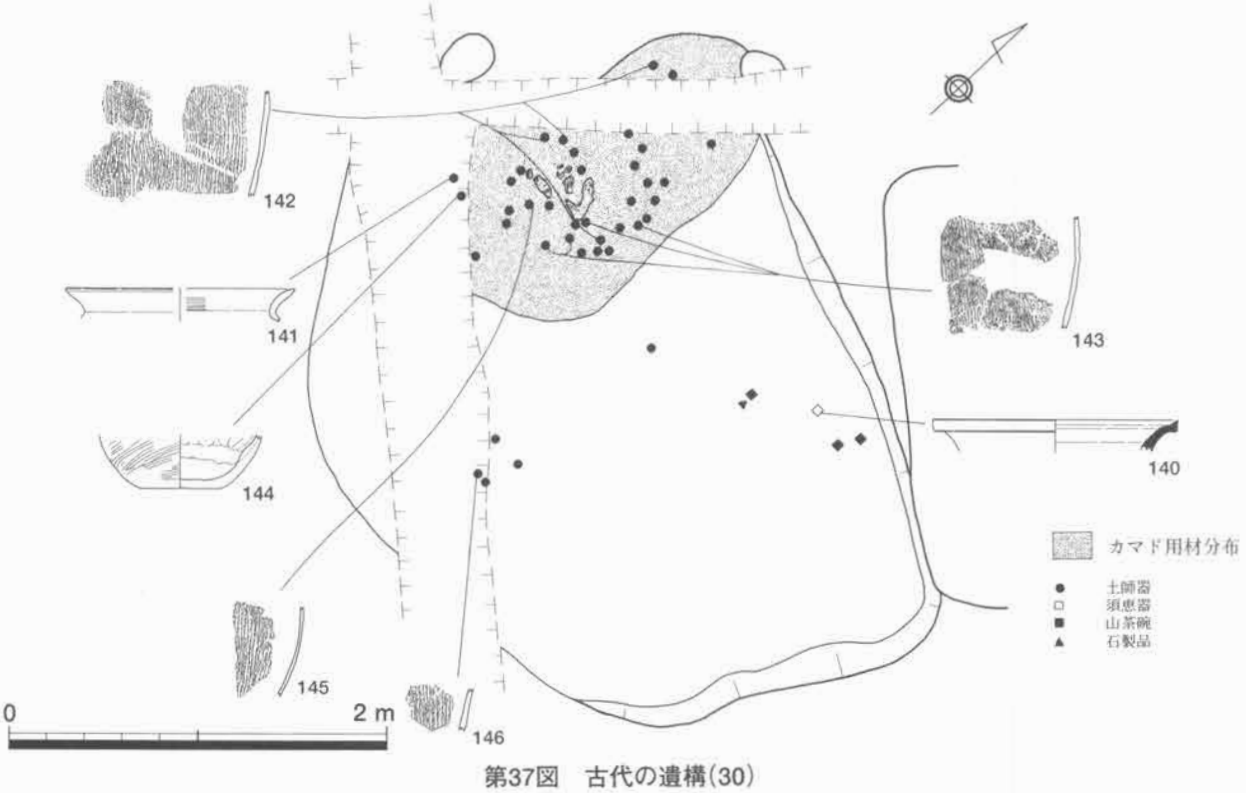


1　7.5YR3/4暗褐色シルトと
7.5YR4/4褐色粘質シルトの混合
しまりやや弱い

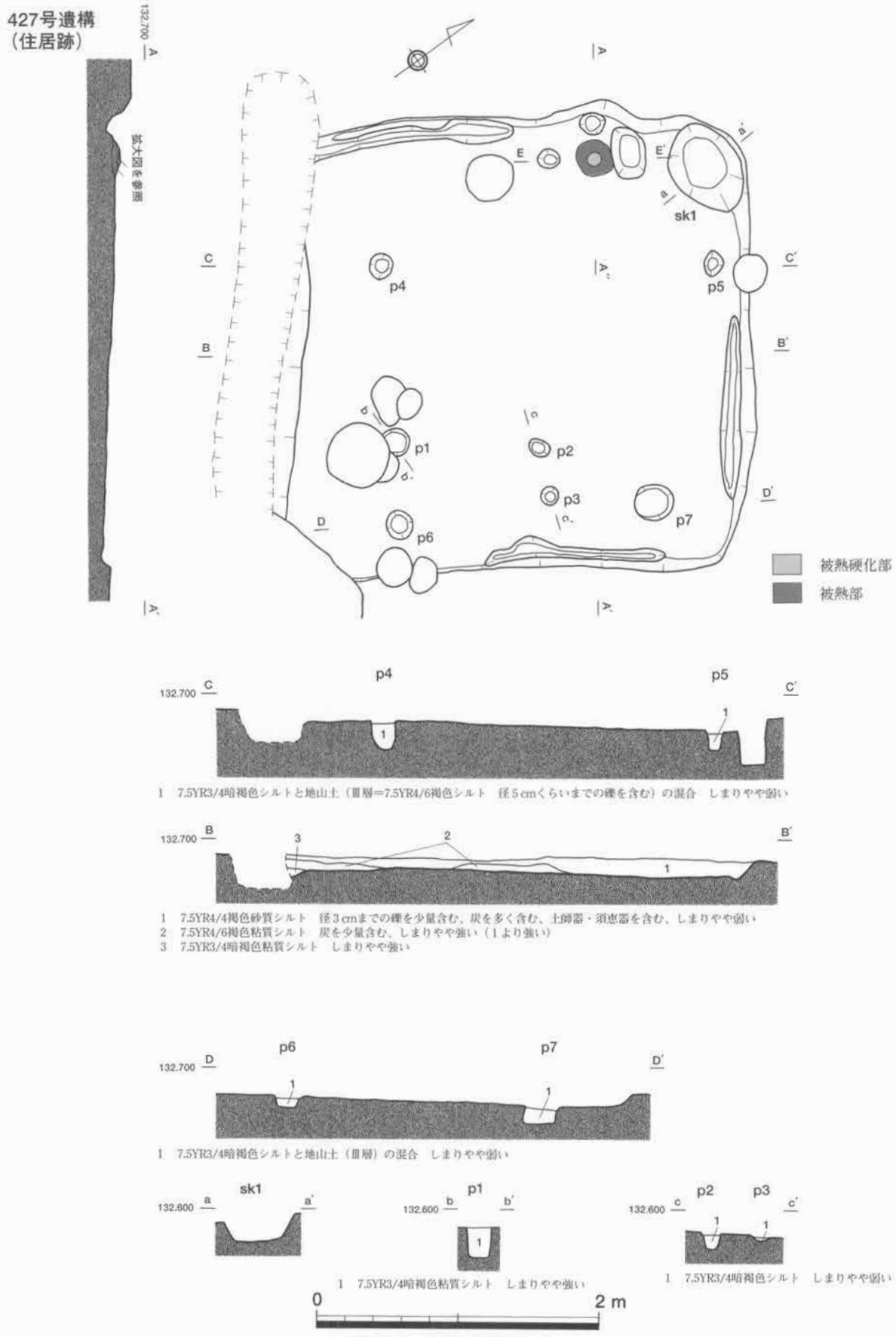


第36図　古代の遺構(29)

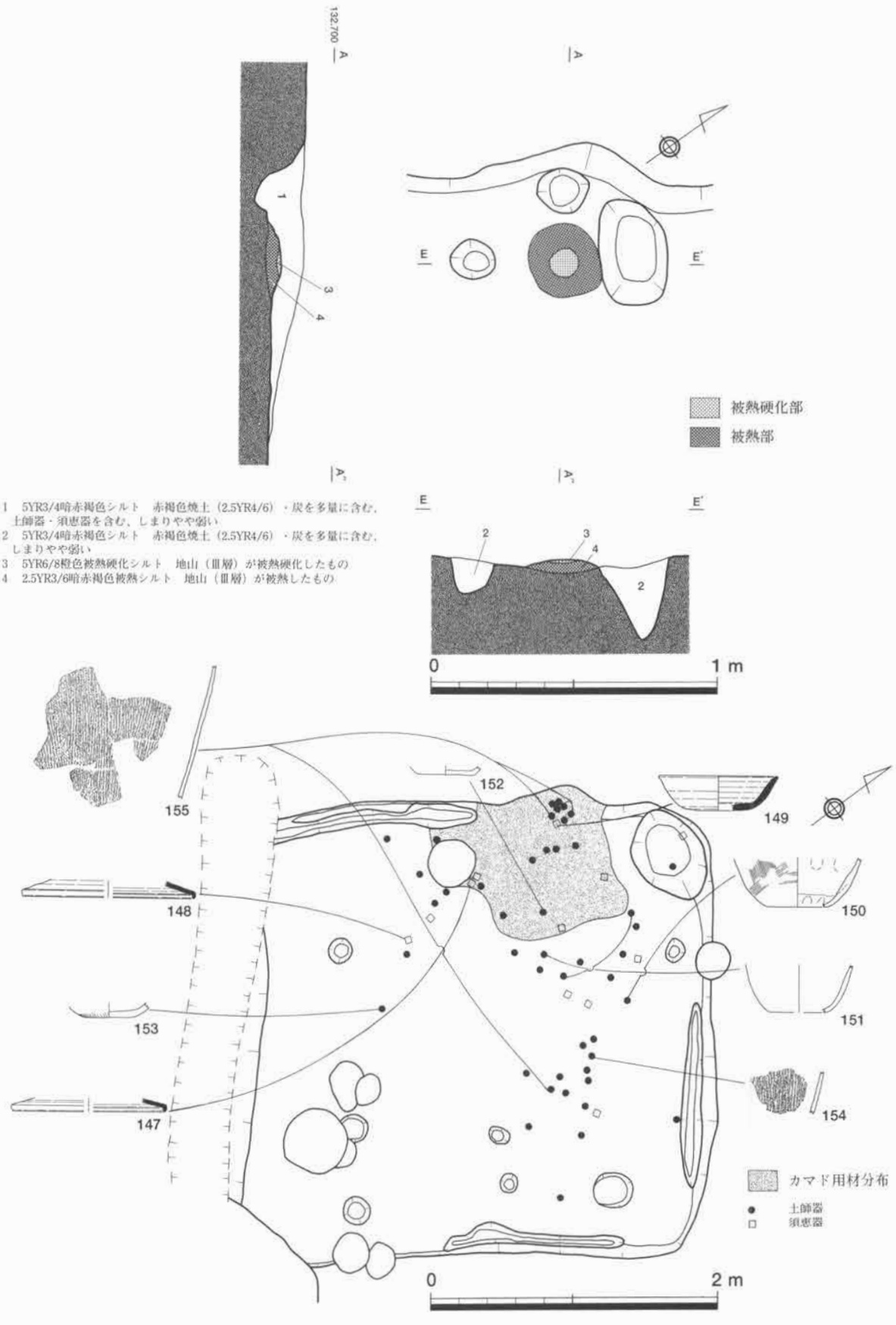




第37図　古代の遺構(30)



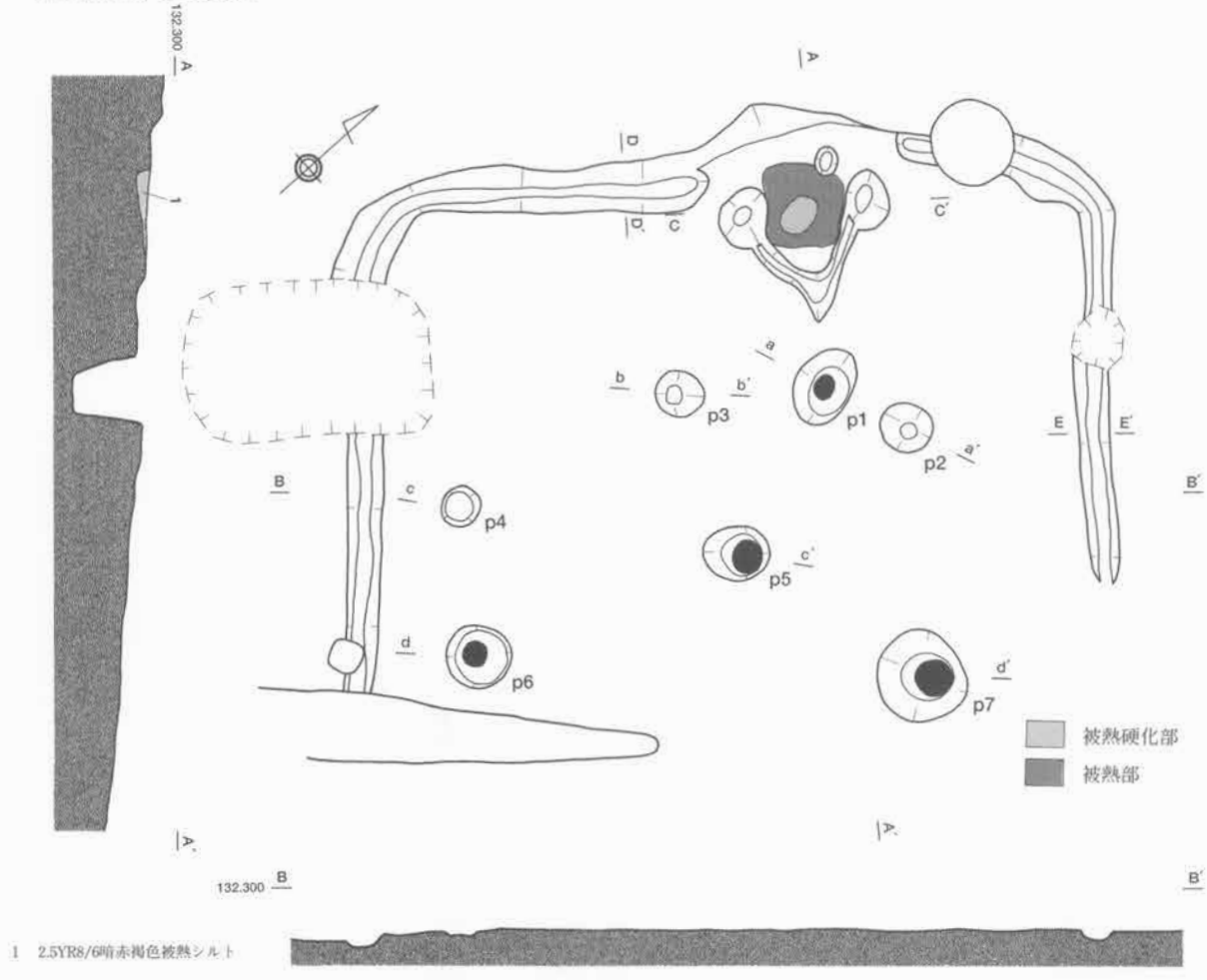
第38図　古代の遺構(31)

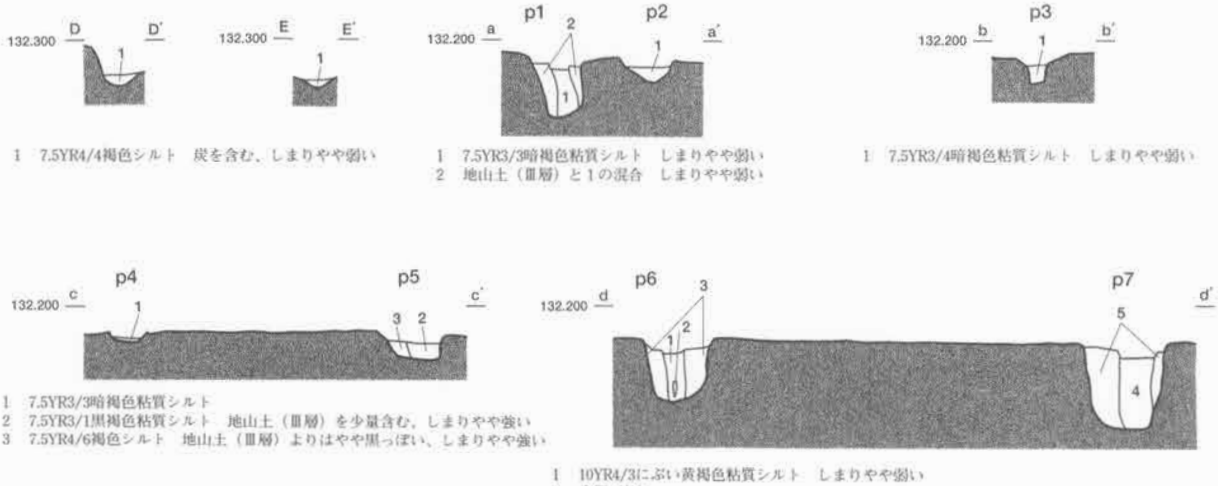


1　5YR3/4暗赤褐色シルト　赤褐色焼土（2.5YR4/6）・炭を多量に含む，土師器・須恵器を含む，しまりやや弱い
2　5YR3/4暗赤褐色シルト　赤褐色焼土（2.5YR4/6）・炭を多量に含む，しまりやや弱い
3　5YR6/8橙色被熱硬化シルト　地山（Ⅲ層）が被熱硬化したもの
4　2.5YR3/6暗赤褐色被熱シルト　地山（Ⅲ層）が被熱したもの

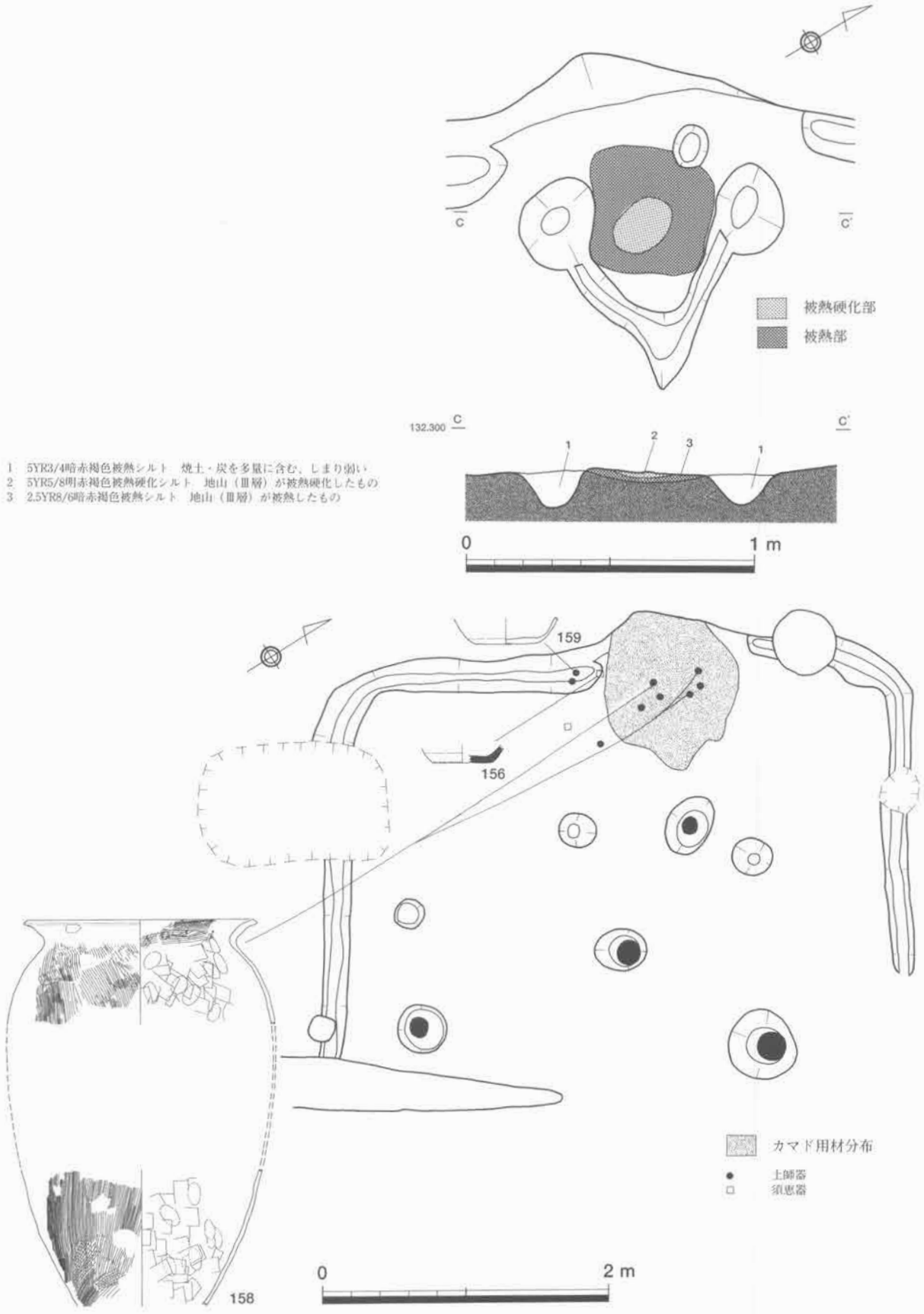
第39図　古代の遺構(32)

470号遺構（住居跡）



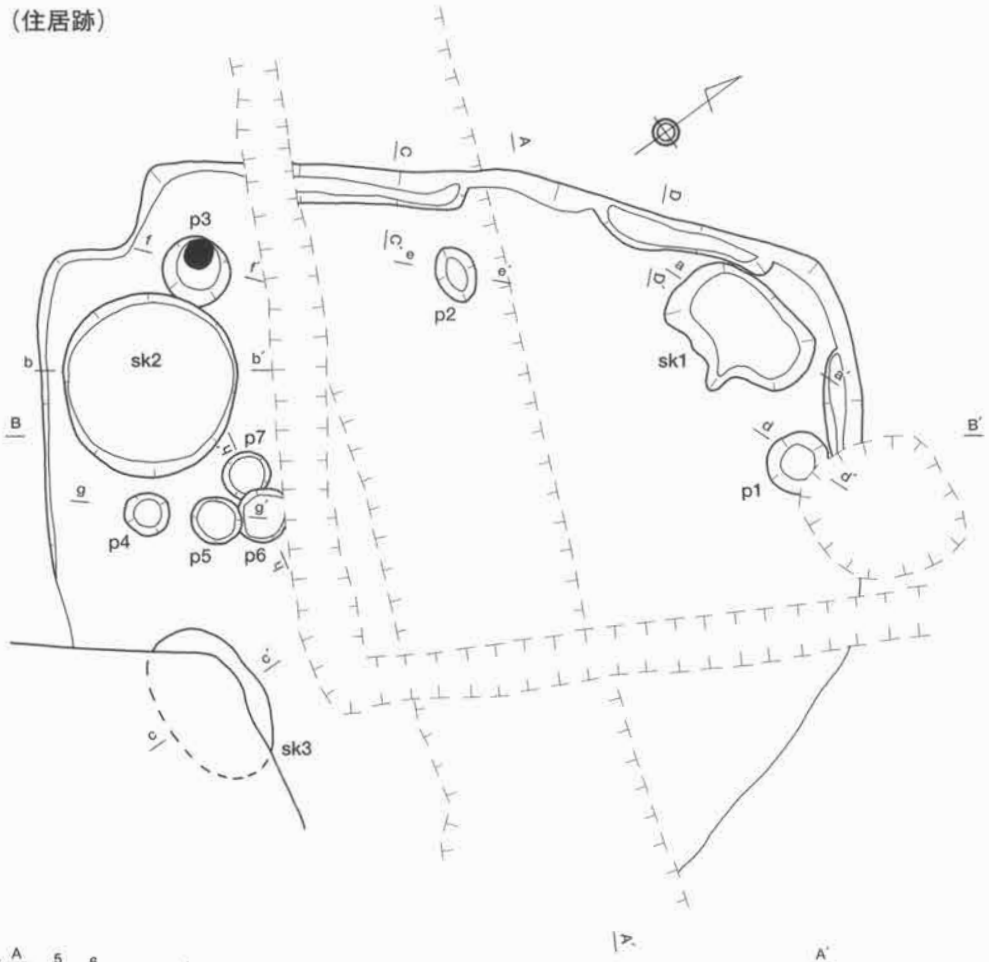


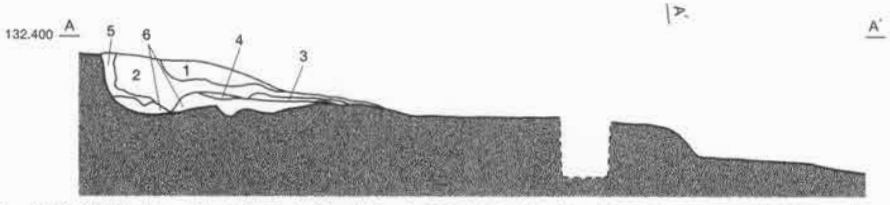
第40図　古代の遺構(33)



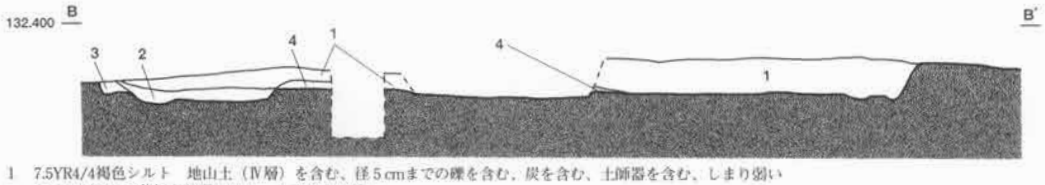
第41図　古代の遺構(34)

848号遺構（住居跡）





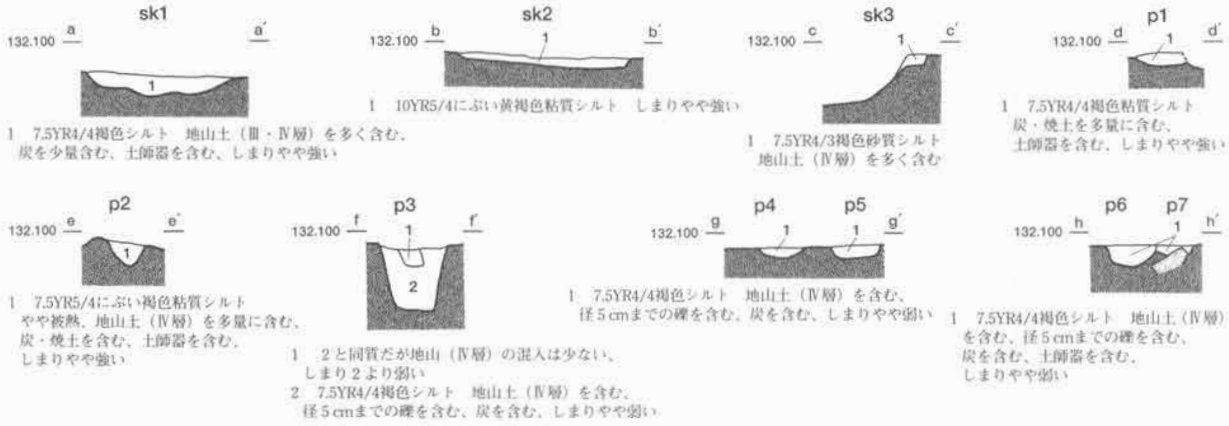
1　7.5YR4/4褐色シルト　地山土（Ⅳ層）を含む、径5cmまでの礫を含む、炭を含む、土師器を含む、しまり弱い
2　5YR3/4暗赤褐色粘質シルト　炭・赤褐色焼土を含む、土師器を含む、しまり弱い
3　10YR5/6黄褐色粘質シルト　炭を多量に含む、しまりやや強い
4　2.5YR3/6暗赤褐色被熱シルト　やや硬化、しまり強い、かまどの床？
5　地山土（Ⅳ層）と6の混合
6　7.5YR5/4にぶい褐色粘質シルト　やや被熱、地山土（Ⅳ層）を多量に含む、炭・焼土を含む、土師器を含む、しまりやや強い

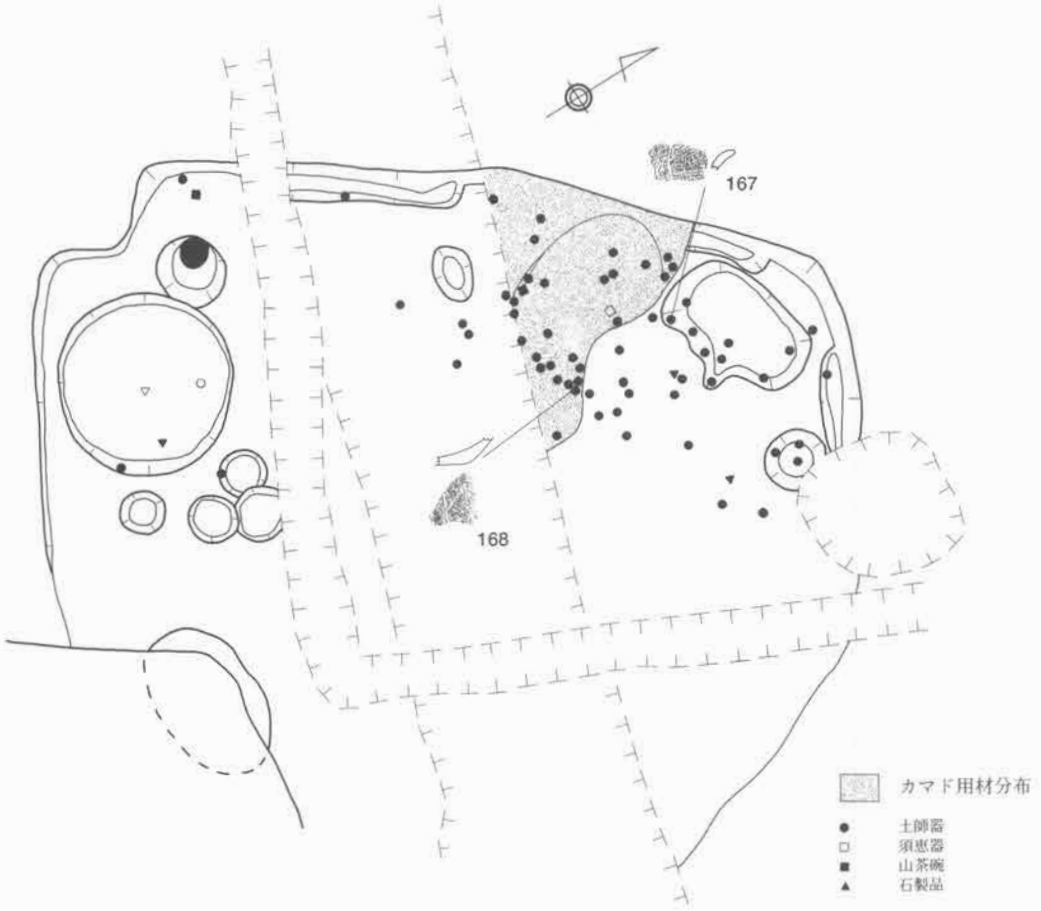


1　7.5YR4/4褐色シルト　地山土（Ⅳ層）を含む、径5cmまでの礫を含む、炭を含む、土師器を含む、しまり弱い
2　10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト　しまりやや強い
3　1と2と地山土（Ⅳ層）の混合　しまり弱い
4　1と地山土（Ⅳ層）の混合

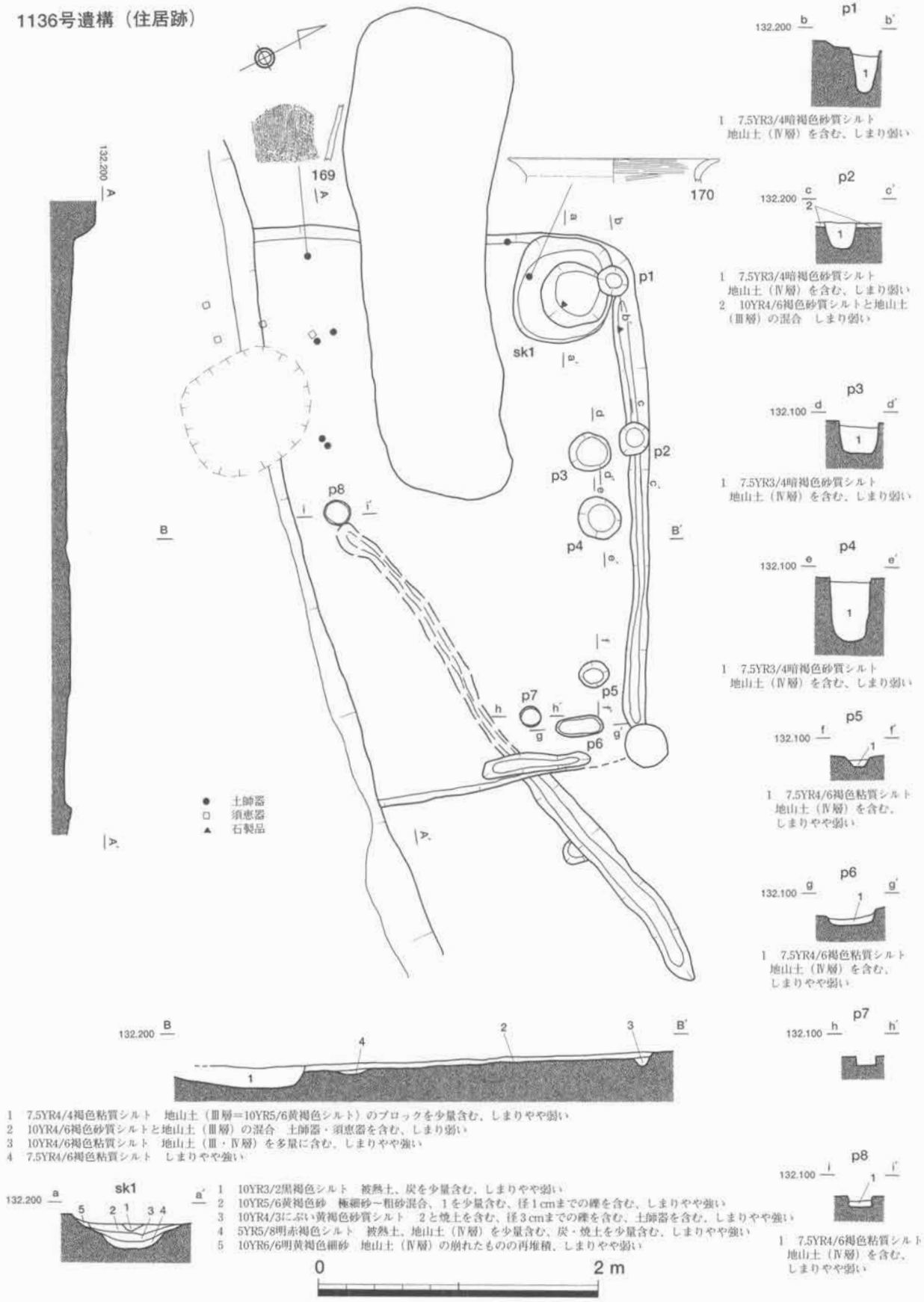
1　7.5YR4/4褐色シルト　地山土（Ⅳ層）を含む、径5cmまでの礫を含む、炭を含む

第42図　古代の遺構(35)

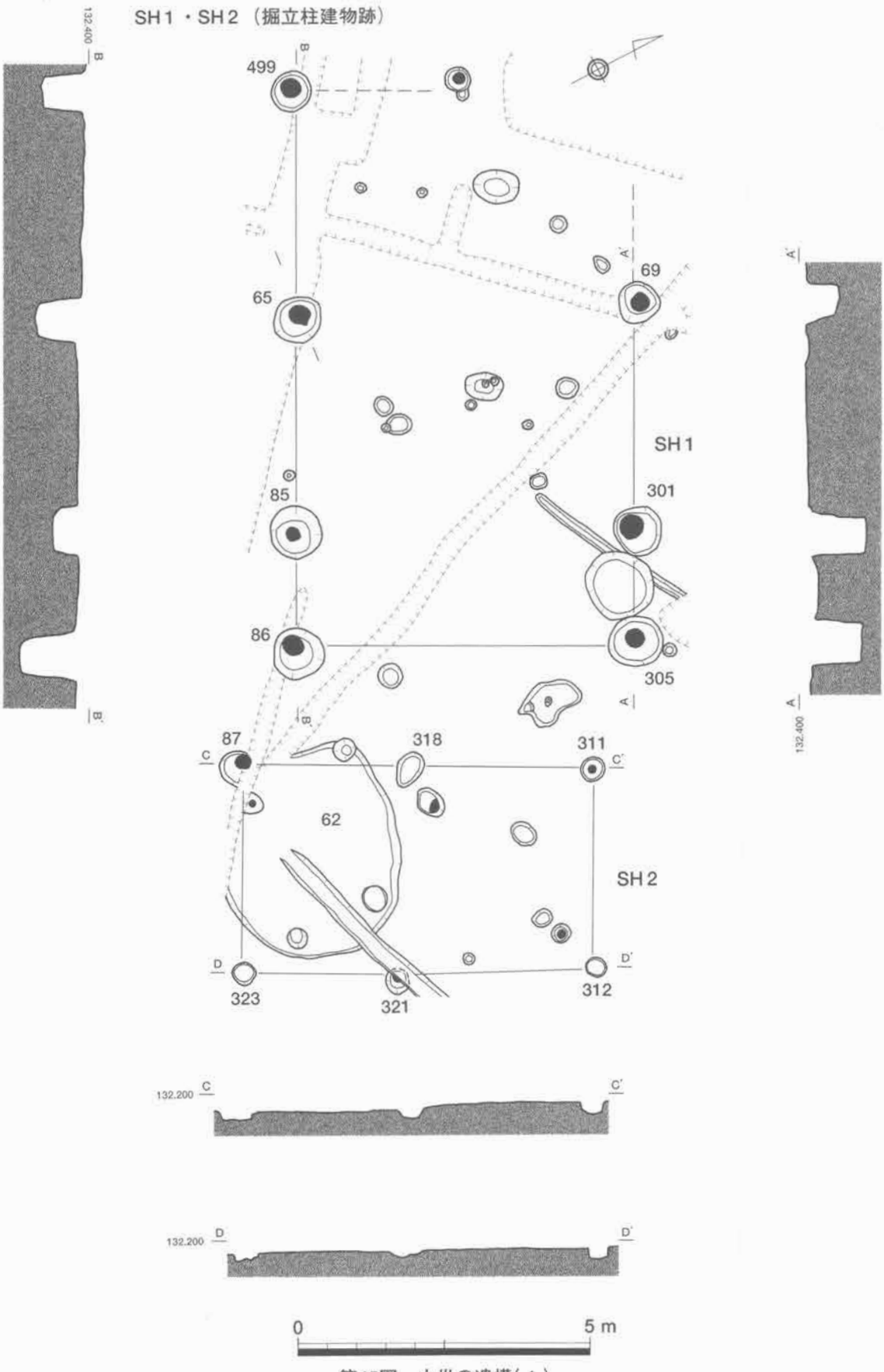




第43図　古代の遺構(36)

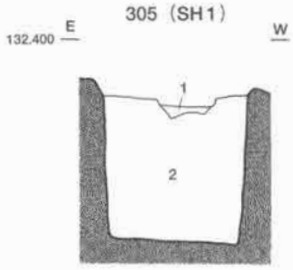


第44図　古代の遺構(37)


SH1・SH2（掘立柱建物跡）
132.400
B
B'
499
65
69
A
A'
SH1
85
301
86
305
87
318
311
C
C'
62
SH2
D
D'
323
321
312
132.200
0
5 m

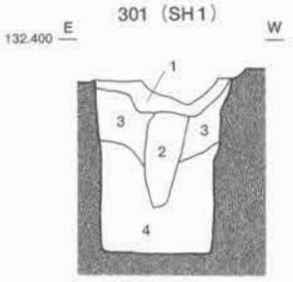
第45図　中世の遺構（1）

305（SH1）



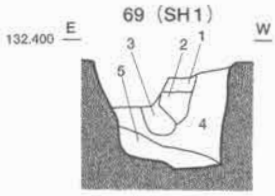
1　7.5YR3/3暗褐色粘質シルト
　地山土（Ⅳ層）を少量含む、炭を含む、しまり弱い
2　7.5YR3/3暗褐色粘質シルトと地山土（Ⅳ層）の混合層
　炭を少量含む、しまりやや弱い

301（SH1）



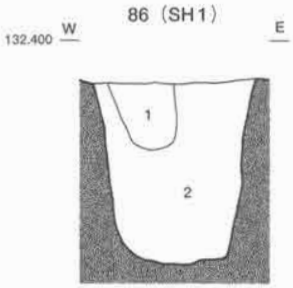
1　7.5YR4/3褐色砂質シルト
　径25cmまでの角礫を含む、しまり弱い
2　7.5YR3/4暗褐色粘質シルト
　地山土（Ⅳ層）を少量含む、
　炭を少量含む、しまりやや弱い
3　10YR8/8黄橙色砂
　地山土（Ⅳ層）が崩れたもの、
　暗褐色粘質シルトを少量含む、しまりやや弱い
4　2にほぼ同じ　2よりしまりはやや強い

69（SH1）



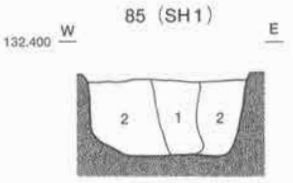
1　7.5YR3/4暗褐色粘質シルト　しまりやや弱い
2　7.5YR3/4暗褐色粘質シルト
　地山土（Ⅳ層）を含む、しまり弱い
3　10YR8/8黄橙色砂
　地山土（Ⅳ層）が崩れたもの、
　暗褐色粘質シルトを少量含む、しまり弱い
4　2にほぼ同じ　2よりしまりはやや強い
5　7.5YR3/4暗褐色粘質シルトと地山土（Ⅳ層）の混合
　しまりやや弱い

86（SH1）



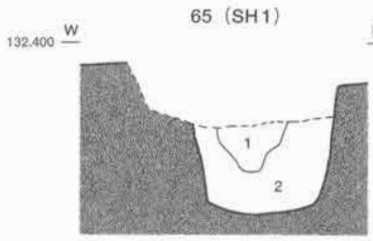
1　7.5YR3/3暗褐色粘質シルト
　地山土（Ⅳ層）を少量含む、炭を含む、しまり弱い
2　7.5YR3/3暗褐色粘質シルトと地山土（Ⅳ層）の混合
　炭を少量含む、しまりやや弱い

85（SH1）



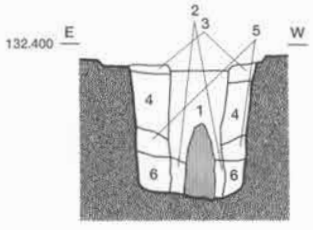
1　7.5YR3/3暗褐色粘質シルト
　地山土（Ⅳ層）を少量含む、炭を含む、しまり弱い
2　7.5YR3/3暗褐色粘質シルトと地山土（Ⅳ層）の混合
　炭を少量含む、しまりやや弱い

65（SH1）



1　7.5YR3/3暗褐色粘質シルト
　地山土（Ⅳ層）を少量含む、炭を含む、しまり弱い
2　1を主とするが地山土（Ⅳ層）を多量に含む
　炭を含む、しまりやや弱い

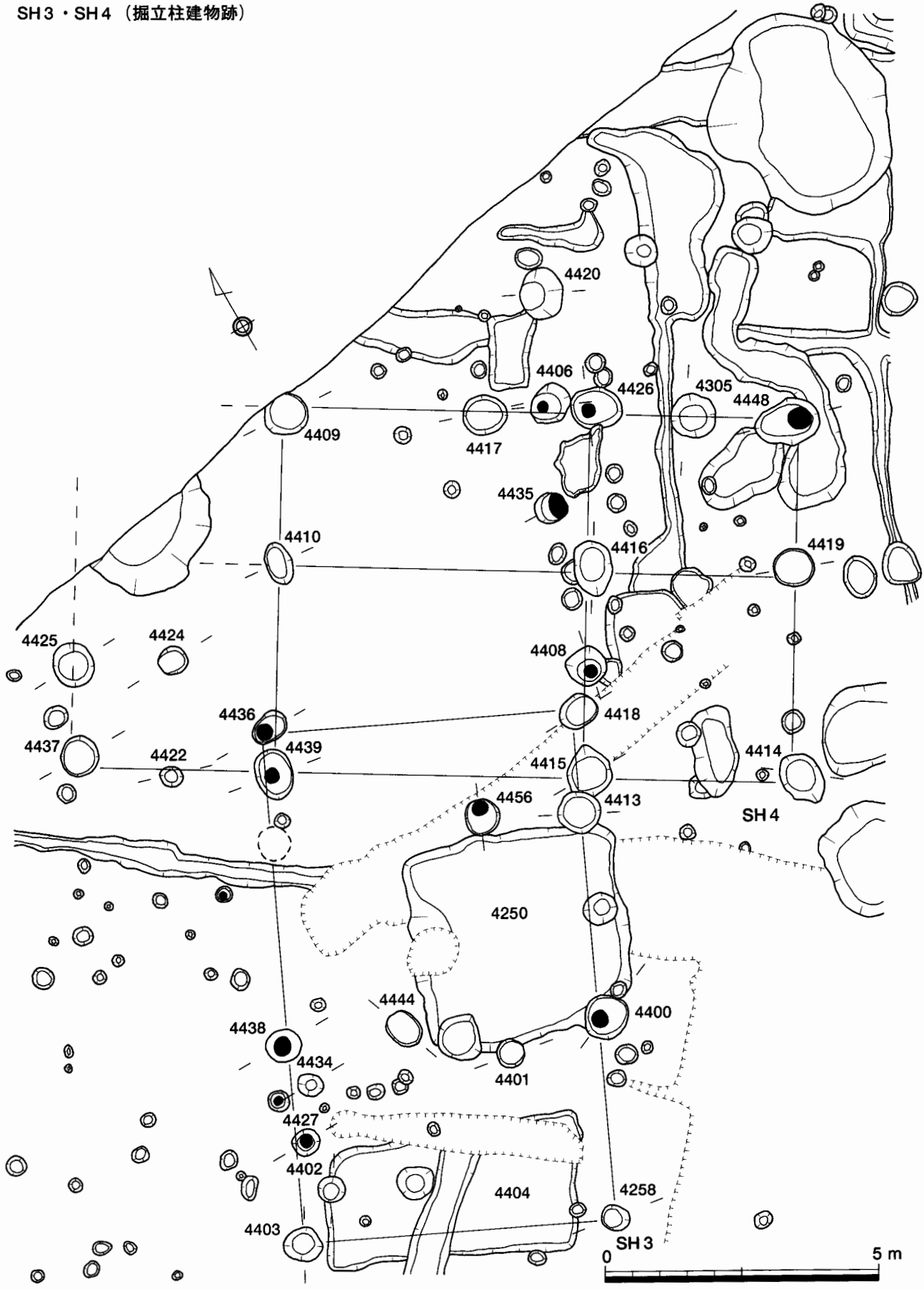
499（SH1）



1　7.5YR3/4暗褐色粘質シルト　地山土（Ⅳ層）を含む、炭を含む、しまり極めて弱く空洞が多い
2　10YR4/1褐灰色粘土　しまり強い
3　地山土（Ⅳ層）と暗褐色粘質シルトの混合　径1cmまでの礫を多く含む、しまりやや強い
4　7.5YR3/4暗褐色粘質シルト　地山土（Ⅳ層）を少量含む、炭を含む、しまりやや強い
5　7.5YR4/6褐色粘質シルト　地山土（Ⅲ層）と同質、暗褐色粘質シルトを少量含む、しまりやや強い
6　2と5の混合　地山土（Ⅳ層）を含む、しまり強い

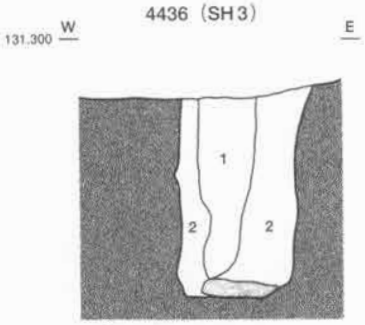
第46図　中世の遺構（2）

SH３・SH４（掘立柱建物跡）



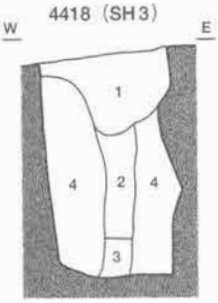
第47図　中世の遺構（３）

4436（SH３）



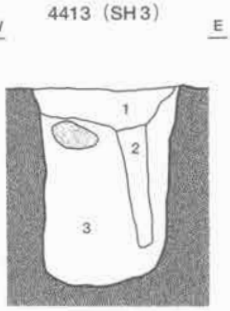
1　7.5YR3/3暗褐色粘質シルト
　砂と径３cmまでの礫を含む、しまりやや強い
2　10YR8/6黄橙色礫混じり砂
　地山土（Ⅳ層）が崩れたもの、
　暗褐色粘質シルト（7.5YR3/3）を含む、
　しまりやや強い

4418（SH３）



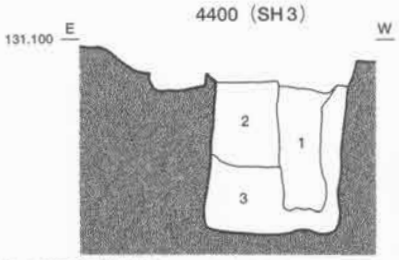
1　7.5YR3/3暗褐色粘質シルト　地山土（Ⅳ層）を含む、
　砂と径10cmまでの礫を含む、焼土・炭を多く含む、
　しまりやや強い
2　7.5YR3/3暗褐色粘質シルト　地山土（Ⅳ層）を含む、
　砂と径3cmまでの礫を含む、しまりやや強い
3　7.5YR4/1褐灰色粘土　地山土（Ⅳ層）を含む、
　しまりやや強い
4　10YR8/6黄橙色礫混じり砂
　地山土（Ⅳ層）が崩れたもの、暗褐色粘質シルト
　（7.5YR3/3）を含む、しまりやや強い

4413（SH３）



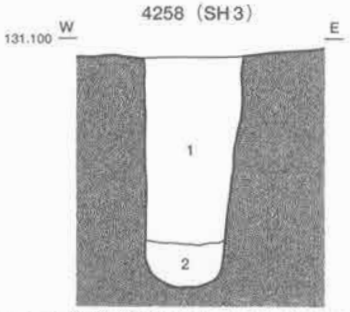
1　7.5YR3/2黒褐色シルト　地山土（Ⅳ層）を含む、
　径10cmまでの礫を多く含む、炭・焼土を含む、
　しまりやや強い
2　7.5YR3/3暗褐色シルト　地山土（Ⅳ層）を含む、
　径10cmまでの礫を少量含む、炭を含む、
　しまりやや弱い
3　10YR8/6黄橙色礫混じり砂
　地山土（Ⅳ層）が崩れたもの、
　暗褐色シルトを少量含む、炭を含む、しまりやや弱い

4400（SH３）



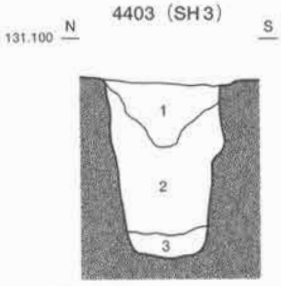
1　7.5YR3/3暗褐色粘質シルトと地山土（Ⅳ層）の混合
　径3cmまでの礫を含む、炭を含む、しまりやや弱い
2　1に似るがより暗褐色シルトの割合が多い　1よりはしまり強い
3　10YR8/6黄橙色礫混じり砂　地山土（Ⅳ層）が崩れたもの、
　暗褐色シルトを少量含む、しまりやや弱い

4258（SH３）



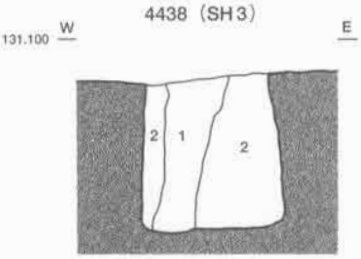
1　7.5YR3/3暗褐色粘質シルト　地山土（Ⅳ層）を多く含む、
　砂と径３cmまでの礫を含む、しまりやや強い
2　10YR5/1褐灰色粘質シルト　しまりやや強い

4403（SH３）



1　7.5YR3/3暗褐色粘質シルト　地山土（Ⅳ層）を含む、砂と径5cmまでの礫を含む、
　しまりやや強い
2　7.5YR3/3暗褐色粘質シルトと地山土（Ⅳ層）の混合　しまりやや強い
3　10YR4/6褐色粘土　しまり強い

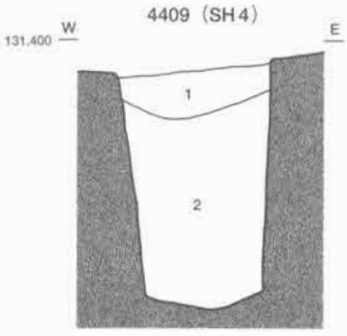
4438（SH３）



1　7.5YR3/3暗褐色粘質シルト　地山土（Ⅳ層）を含む、砂と径３cmまでの礫を含む、
　しまりやや強い
2　10YR8/6黄橙色礫混じり砂　地山土（Ⅳ層）が崩れたもの、
　暗褐色粘質シルト（7.5YR3/3）を含む、しまりやや強い

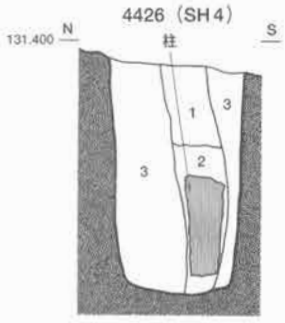
第48図　中世の遺構（４）

4409（SH4）



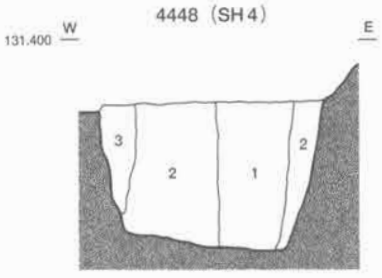
1　7.5YR3/3暗褐色粘質シルト　地山土（Ⅳ層）を含む、砂と径5cmまでの礫を多く含む、しまりやや強い
2　7.5YR3/3暗褐色粘質シルトと地山土（Ⅳ層）の混合　しまりやや強い

4426（SH4）



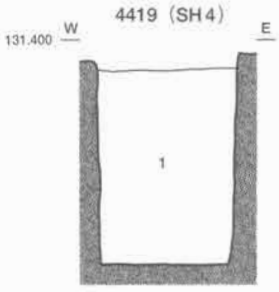
1　7.5YR3/3暗褐色粘質シルト　砂と径3cmまでの礫を含む、しまりやや強い
2　7.5YR4/1褐灰色粘土　柱出土、空洞あり、しまりやや強い
3　10YR8/6黄橙色礫混じり砂　地山土（Ⅳ層）が崩れたもの、暗褐色粘質シルト（7.5YR3/3）を含む、しまりやや強い

4448（SH4）



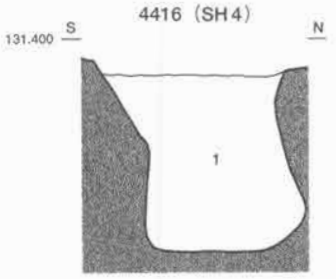
1　7.5YR3/3暗褐色粘質シルトと地山土（Ⅳ層）の混合　底では褐灰色（10YR5/1）を呈する、2よりしまり弱い
2　7.5YR3/3暗褐色粘質シルトと地山土（Ⅳ層）の混合　しまりやや強い
3　10YR8/6黄橙色礫混じり砂　地山土（Ⅳ層）が崩れたもの、暗褐色粘質シルト（7.5YR3/3）を含む、しまりやや強い

4419（SH4）



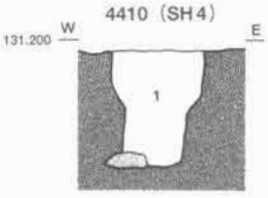
1　10YR8/6黄橙色礫混じり砂　地山土（Ⅳ層）が崩れたもの、暗褐色粘質シルト（7.5YR3/3）を含む、しまりやや強い

4416（SH4）



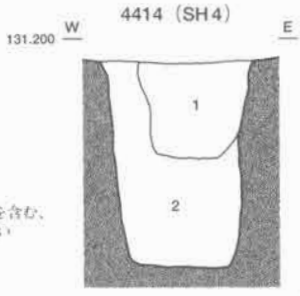
1　7.5YR3/3暗褐色粘質シルトと地山土（Ⅳ層）の混合　径20cmまでの礫を含む、しまりやや強い

4410（SH4）



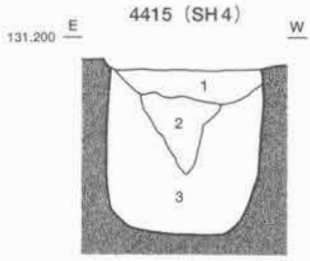
1　7.5YR3/3暗褐色粘質シルト　地山土（Ⅳ層）を含む、砂と径5cmまでの礫を多く含む、しまりやや強い

4414（SH4）



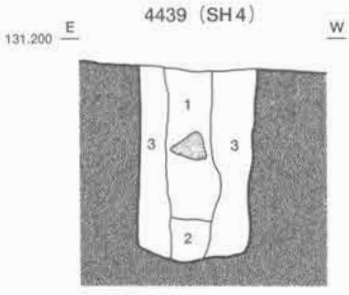
1　7.5YR3/3暗褐色シルト　地山土（Ⅳ層）を含む、径10cmまでの礫を多く含む、しまりやや弱い
2　10YR8/6黄橙色礫混じり砂　地山土（Ⅳ層）が崩れたもの、暗褐色シルトを含む、しまりやや弱い

4415（SH4）



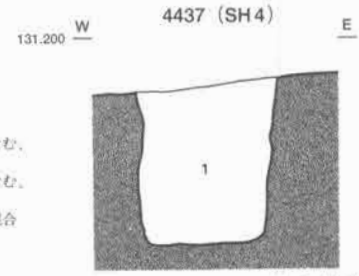
1　7.5YR3/3暗褐色粘質シルト　地山土（Ⅳ層）を含む、砂と径3cmまでの礫を含む、しまりやや強い
2　7.5YR3/3暗褐色粘質シルトと地山土（Ⅳ層）の混合　しまりやや強い
3　10YR8/6黄橙色礫混じり砂　地山土（Ⅳ層）が崩れたもの、暗褐色粘質シルト（7.5YR3/3）を含む、しまりやや強い

4439（SH4）



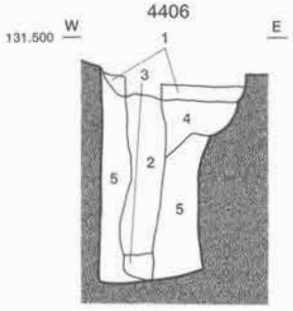
1　7.5YR3/3暗褐色粘質シルト　地山土（Ⅳ層）を含む、砂と径3cmまでの礫を含む、しまりやや強い
2　7.5YR4/1褐灰色粘土　地山土（Ⅳ層）を多量に含む、しまりやや弱い
3　7.5YR3/3暗褐色粘質シルトと地山土（Ⅳ層）の混合　しまりやや強い

4437（SH4）

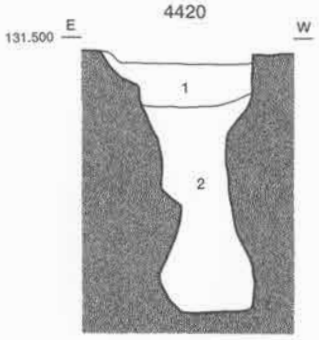


1　7.5YR3/3暗褐色粘質シルト　地山土（Ⅳ層）を含む、砂と径3cmまでの礫を含む、炭・焼土を含む、しまりやや強い

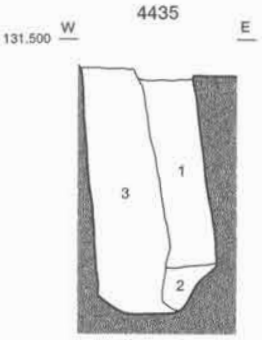
第49図　中世の遺構（5）



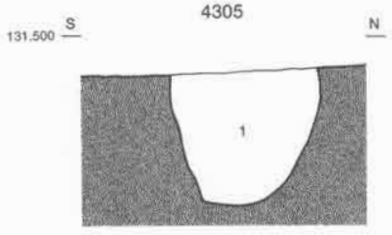
1　7.5YR3/3暗褐色粘質シルト　地山土（Ⅳ層）を少量含む、砂と径3cmまでの礫を含む、しまりやや強い
2　7.5YR3/3暗褐色粘質シルト　地山土（Ⅳ層）を多く含む、砂と径3cmまでの礫を含む、しまりやや強い
3　7.5YR5/1灰色粘土　しまりやや強い
4　7.5YR3/3暗褐色粘質シルトと地山土（Ⅳ層）の混合　しまりやや強い
5　10YR8/6黄橙色礫混じり砂　地山土（Ⅳ層）が崩れたもの、暗褐色粘質シルト（7.5YR3/3）を含む、しまりやや強い



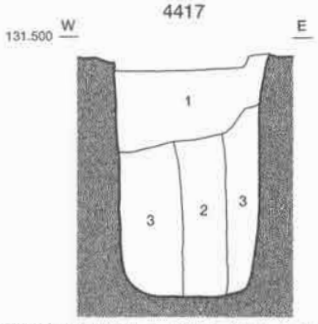
1　7.5YR3/3暗褐色粘質シルト　地山土（Ⅳ層）を含む、
砂と径20cmまでの礫を含む、しまりやや強い
2　10YR8/6黄橙色礫混じり砂　地山土（Ⅳ層）が崩れたもの、
暗褐色粘質シルト（7.5YR3/3）を含む、しまりやや強い



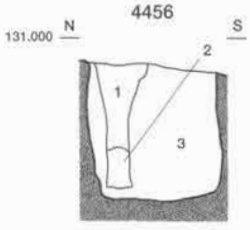
1　7.5YR3/3暗褐色粘質シルト　地山土（Ⅳ層）を多く含む、砂と径25cmまでの礫を含む、
しまりやや強い
2　7.5YR4/1褐灰色粘土　地山土（Ⅳ層）を多く含む、しまりやや強い
3　10YR8/6黄橙色礫混じり砂　地山土（Ⅳ層）が崩れたもの、
暗褐色粘質シルト（7.5YR3/3）を含む、しまりやや強い



1　10YR3/3暗褐色シルト
地山土（Ⅳ層）・灰褐色砂質シルト（7.5YR4/2）を多く含む、
径5cmまでの礫を含む、しまりやや弱い



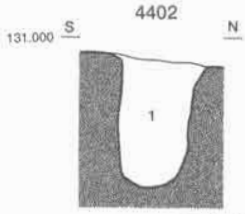
1　7.5YR3/3暗褐色粘質シルト　地山土（Ⅳ層）を含む、砂と径30cmまでの礫を含む、しまりやや強い
2　7.5YR3/3暗褐色粘質シルトと地山土（Ⅳ層）の混合　しまりやや強い
3　10YR8/6黄橙色礫混じり砂　地山土（Ⅳ層）が崩れたもの、暗褐色粘質シルト（7.5YR3/3）を含む、
しまりやや強い



1　7.5YR3/3暗褐色シルト　地山土（Ⅳ層）を含む、空洞あり、しまり弱い
2　10YR4/1褐灰色粘土　地山土（Ⅳ層）を含む、しまりやや弱い
3　10YR8/6黄橙色礫混じり砂　地山土（Ⅳ層）が崩れたもの、暗褐色シルトを少量含む、しまりやや弱い

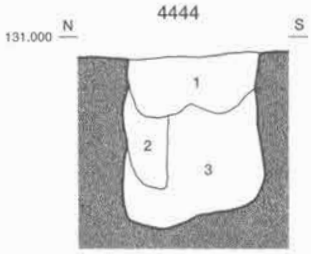
第50図　中世の遺構（6）

4402



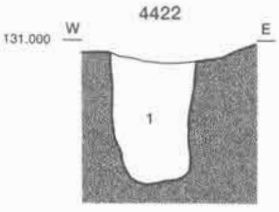
1　7.5YR3/3暗褐色シルト　地山土（Ⅳ層）を少量含む、しまりやや弱い

4444



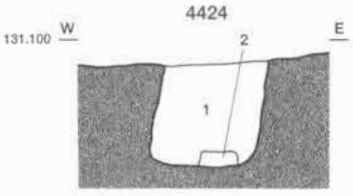
1　7.5YR3/3暗褐色シルト　径5cmまでの礫を多く含む、しまりやや強い
2　7.5YR3/3暗褐色シルト　地山土（Ⅳ層）を多く含む、礫をわずかに含む、しまりやや強い
3　10YR8/6黄橙色礫混じり砂　地山土（Ⅳ層）が崩れたもの、暗褐色シルトを少量含む、しまりやや弱い

4422



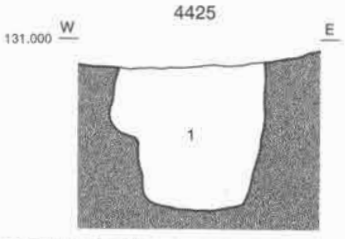
1　7.5YR3/3暗褐色粘質シルト　砂と径3cmまでの礫を含む、炭を多く含む、焼土を含む、しまりやや強い

4424



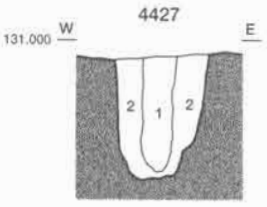
1　7.5YR3/3暗褐色粘質シルト　砂と径3cmまでの礫を含む、しまりやや強い
2　7.5YR4/1褐灰色粘土　炭を含む、しまりやや強い

4425



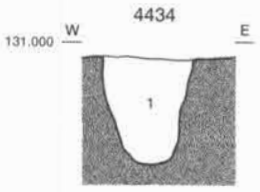
1　7.5YR3/3暗褐色粘質シルト　地山土（Ⅳ層）を含む、砂と径10cmまでの礫を含む、炭・赤褐色焼土を含む、しまりやや強い

4427



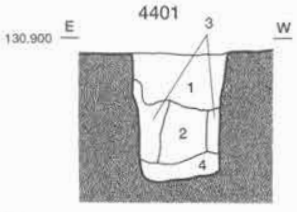
1　7.5YR3/3暗褐色粘質シルト
地山土（Ⅳ層）を含む、砂と径3cmまでの礫を含む、しまりやや強い
2　7.5YR3/3暗褐色粘質シルトと地山土（Ⅳ層）の混合　しまりやや強い

4434



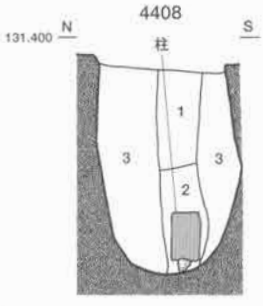
1　7.5YR3/3暗褐色粘質シルト
砂と径3cmまでの礫を含む、炭・赤褐色焼土を含む、しまりやや強い

4401



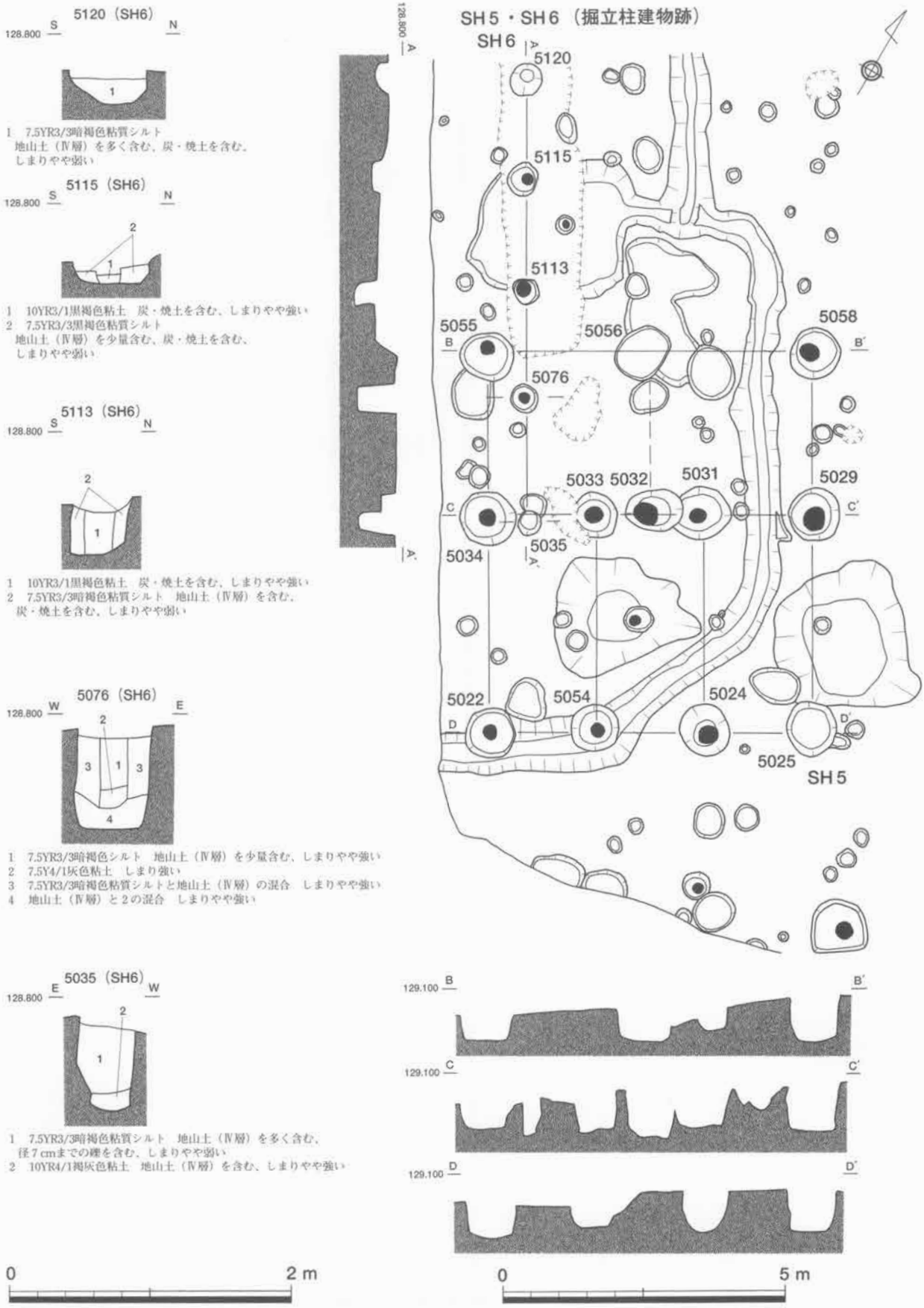
1　7.5YR3/3暗褐色シルトと地山土（Ⅳ層）の混合
炭・焼土を多く含む、しまりやや強い
2　1とほぼ同じだが、しまりはやや弱い
3　10YR8/6黄橙色礫混じり砂　地山土（Ⅳ層）が崩れたもの、暗褐色シルトを少量含む、しまりやや弱い
4　10YR4/1褐灰色粘質シルトと地山土（Ⅳ層）の混合　しまりやや弱い

4408



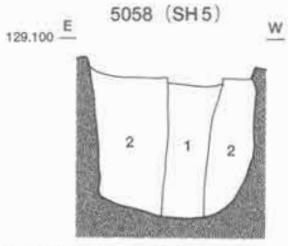
1　7.5YR3/3暗褐色粘質シルト　地山土（Ⅳ層）を含む、砂と径3cmまでの礫を含む、しまりやや強い
2　7.5YR4/1褐灰色粘土　地山土（Ⅳ層）を含む、空洞あり、しまりやや強い
3　10YR8/6黄橙色礫混じり砂　地山土（Ⅳ層）が崩れたもの、暗褐色粘質シルト（7.5YR3/3）を含む、しまりやや強い

第51図　中世の遺構（7）


5120（SH6）
128.800 S N
1
1　7.5YR3/3暗褐色粘質シルト
地山土（Ⅳ層）を多く含む、炭・焼土を含む。
しまりやや弱い
5115（SH6）
128.800 S N
2
1
1　10YR3/1黒褐色粘土　炭・焼土を含む、しまりやや強い
2　7.5YR3/3黒褐色粘質シルト
地山土（Ⅳ層）を少量含む、炭・焼土を含む、
しまりやや弱い
5113（SH6）
128.800 S N
2
1
1　10YR3/1黒褐色粘土　炭・焼土を含む、しまりやや強い
2　7.5YR3/3暗褐色粘質シルト　地山土（Ⅳ層）を含む、
炭・焼土を含む、しまりやや弱い
5076（SH6）
128.800 W E
2
3
1
3
4
1　7.5YR3/3暗褐色シルト　地山土（Ⅳ層）を少量含む、しまりやや強い
2　7.5Y4/1灰色粘土　しまり強い
3　7.5YR3/3暗褐色粘質シルトと地山土（Ⅳ層）の混合　しまりやや強い
4　地山土（Ⅳ層）と2の混合　しまりやや強い
5035（SH6）
128.800 E W
2
1
1　7.5YR3/3暗褐色粘質シルト　地山土（Ⅳ層）を多く含む、
径7cmまでの礫を含む、しまりやや弱い
2　10YR4/1褐灰色粘土　地山土（Ⅳ層）を含む、しまりやや強い
0　2m
SH5・SH6（掘立柱建物跡）
128.800 A A'
SH6
5120
5115
5113
5055
5056
5058
5076
5033 5032
5031
5029
5034
5035
5022
5054
5024
5025
SH5
B B'
C C'
D D'
129.100 B B'
129.100 C C'
129.100 D D'
0　5m

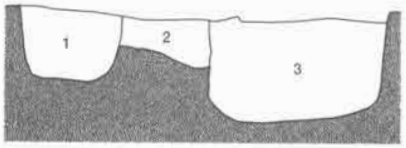
第52図　中世の遺構（8）

5058（SH5）



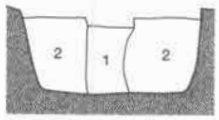
1　7.5YR3/3暗褐色粘質シルト
地山土（Ⅳ層）を含む、炭を含む、しまりやや弱い
2　地山土（Ⅳ層）と1の混合
径30cmまでの礫を少量含む、炭・赤褐色焼土を含む、しまりやや弱い

5057　5003　5056（SH5）



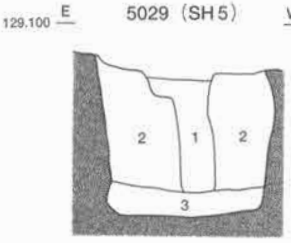
1　7.5YR3/3暗褐色砂質シルトと地山土（Ⅳ層）の混合
径30cmまでの礫を多く含む、炭を含む、しまり弱い
2　7/5YR4/2灰褐色シルト　径20cmまでの礫を含む、しまりやや強い
3　7/5YR3/3暗褐色粘質シルトと地山土（Ⅳ層）の混合
径8cmまでの礫を含む、炭・焼土を少量含む、しまりやや強い

5055（SH5）



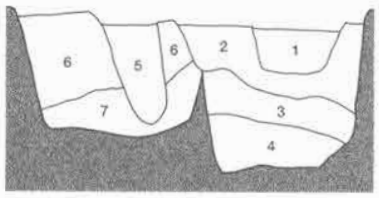
1　7.5YR3/3暗褐色砂質シルト
炭・暗赤褐色焼土を含む、しまりやや弱い
2　地山土（Ⅳ層）と1の混合
径10cmまでの礫を含む、しまりやや弱い

5029（SH5）



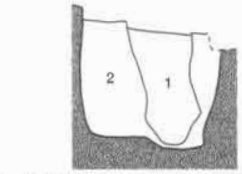
1　7.5YR3/3暗褐色粘質シルト　径3cmまでの礫を多く含む、炭を含む、暗赤褐色焼土を少量含む、しまりやや弱い
2　7.5YR3/3暗褐色粘質シルトと地山土（Ⅳ層）の混合
しまりやや弱い
3　10YR4/1褐灰色粘土と地山土（Ⅳ層）の混合
炭を含む、しまりやや弱い

5031　5032（SH5）



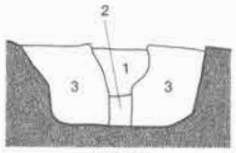
1　7.5YR3/3暗褐色粘質シルトと地山土（Ⅳ層）の混合　径30cmまでの礫を含む、炭を含む、しまりやや弱い
2　1とほとんど同じだが、地山土（Ⅳ層）の量がより多く、しまりはより弱い
3　10YR4/1褐灰色粘土と地山土（Ⅳ層）の混合　2を含む、径10cmまでの礫を含む、炭を含む、しまりやや強い
4　10YR4/1褐灰色粘土　地山土（Ⅳ層）を含む、径20cmまでの礫を含む、炭を含む、しまりやや強い
5　7.5YR3/3暗褐色粘質シルト　地山土（Ⅳ層）を含む、炭・焼土を含む、しまりやや弱い
6　7.5YR3/3暗褐色粘質シルトと地山土（Ⅳ層）の混合、しまりやや弱い
7　10YR4/1褐灰色粘土と地山土（Ⅳ層）の混合、しまりやや強い

5033（SH5）



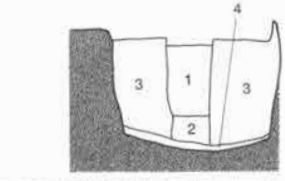
1　7.5YR3/1黒褐色粘質シルト　径3cmまでの礫を多く含む、炭・暗赤褐色焼土を含む、しまりやや弱い
2　7.5YR3/3暗褐色粘質シルトと地山土（Ⅳ層）の混合
底付近では褐灰色粘土（7.5YR4/1）を含む、しまりやや弱い

5034（SH5）



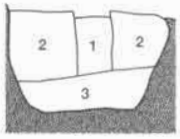
1　7.5YR3/3暗褐色粘質シルト　地山土（Ⅳ層）を多く含む、しまりやや弱い
2　7.5YR4/1褐灰色粘土　地山土（Ⅳ層）を含む、しまりやや強い
3　7.5YR3/3暗褐色粘質シルトと地山土（Ⅳ層）の混合　底付近では褐灰色粘土（7.5YR4/1）を含む、しまりやや弱い

5022（SH5）



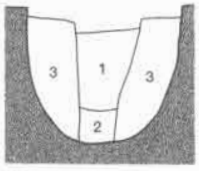
1　7.5YR3/3暗褐色砂質シルト
空洞あり、炭・暗赤褐色焼土を含む、しまりやや弱い
2　10YR4/1褐灰色砂質シルト（1の変色したもの）と地山土（Ⅳ層）の混合
しまりやや弱い
3　7.5YR3/3暗褐色シルトと地山土（Ⅳ層）の混合
しまりやや弱い
4　10YR4/1褐灰色粘土
地山土（Ⅳ層）を含む、しまりやや強い

5054（SH5）



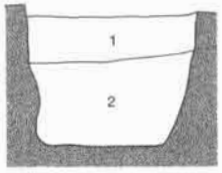
1　7.5YR3/3暗褐色粘質シルト
地山土（Ⅳ層）を少量含む、径1cmまでの礫を含む、炭・焼土を含む、しまりやや弱い
2　7.5YR暗褐色粘質シルトと地山土（Ⅳ層）の混合　径5cmまでの礫を多く含む、しまり弱い
3　10YR4/1褐灰色粘土と地山土（Ⅳ層）の混合　径10cmまでの礫を含む、しまりやや強い

5024（SH5）



1　7.5YR3/2黒褐色粘質シルト
地山土（Ⅳ層）を少量含む、径3cmまでの礫を含む、炭・焼土を含む、しまりやや弱い
2　10YR4/1褐灰色粘土
地山土（Ⅳ層）を含む、空洞あり、炭を少量含む、しまりやや弱い
3　地山土（Ⅳ層）を主とし1を含む
径5cmまでの礫を多く含む、炭・焼土を少量含む、しまりやや弱い

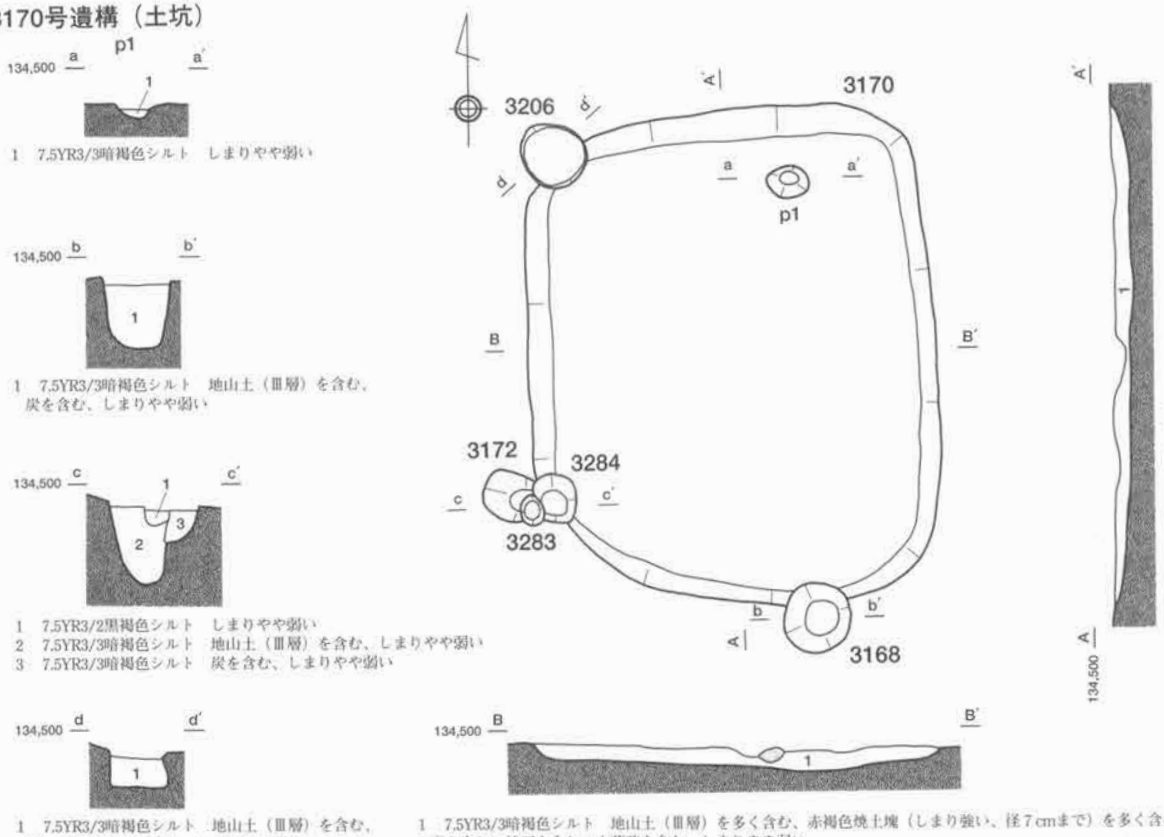
5025（SH5）

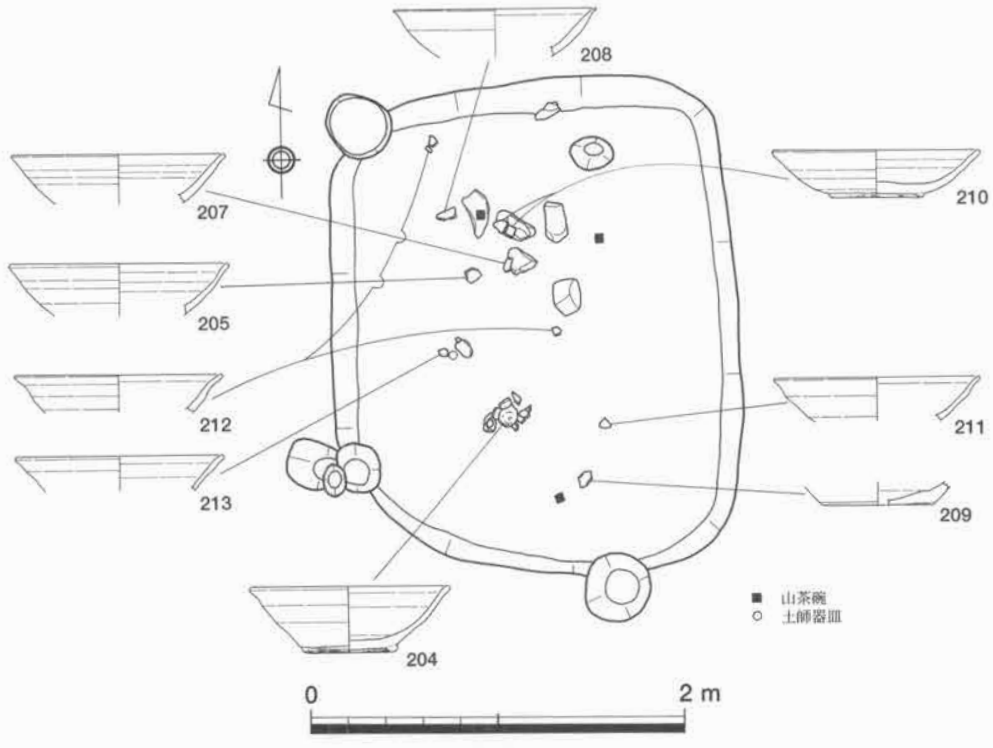


1　7.5YR3/3暗褐色粘質シルト
地山土（Ⅳ層）を含む、径10cmまでの礫を含む、炭を含む、しまりやや強い
2　地山土（Ⅳ層）と1の混合
径10cmまでの礫を含む、底付近では褐灰色（10YR4/1）を呈する、しまりやや弱い

第53図　中世の遺構（9）

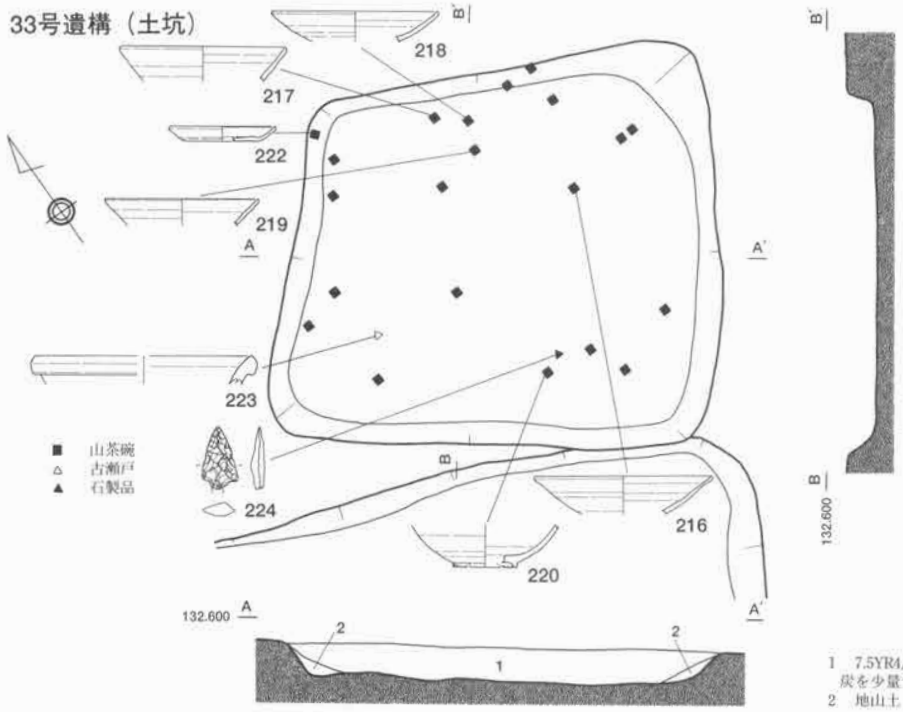
3170号遺構（土坑）





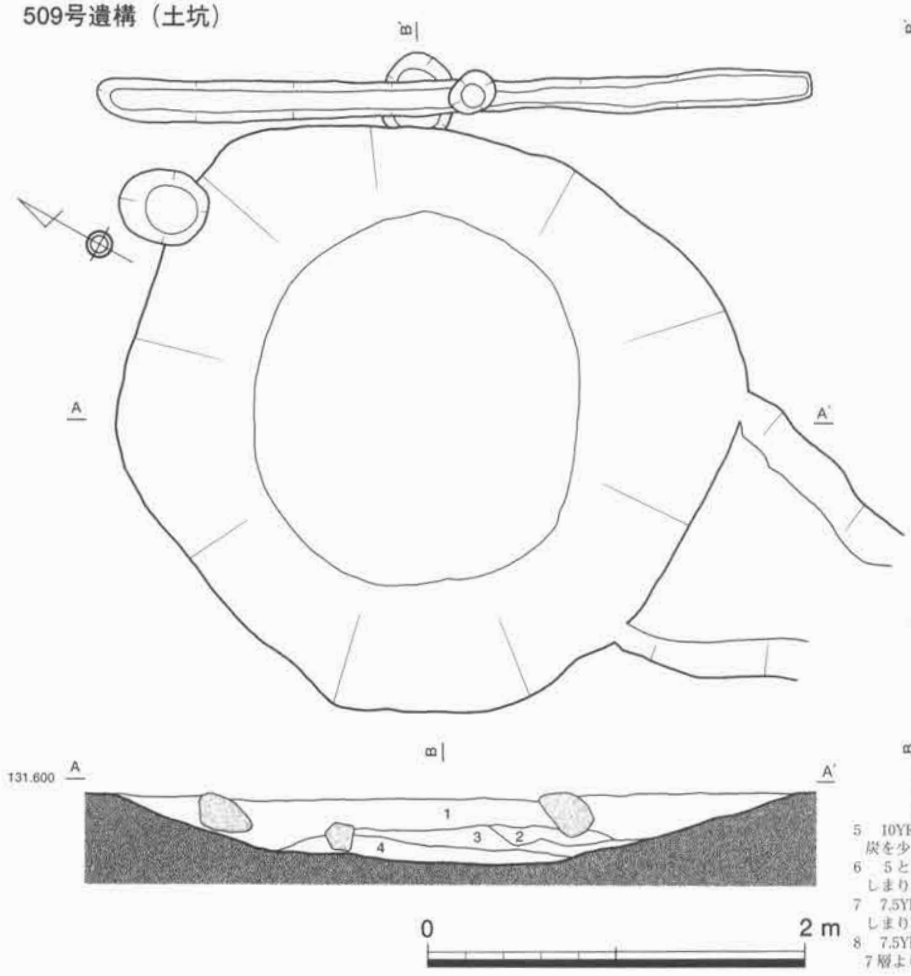
第54図　中世の遺構（10）

33号遺構（土坑）



1　7.5YR4/4褐色シルト　地山土（Ⅲ層）を少量含む。
炭を少量含む、しまりやや弱い
2　地山土（Ⅲ層）と1の混合

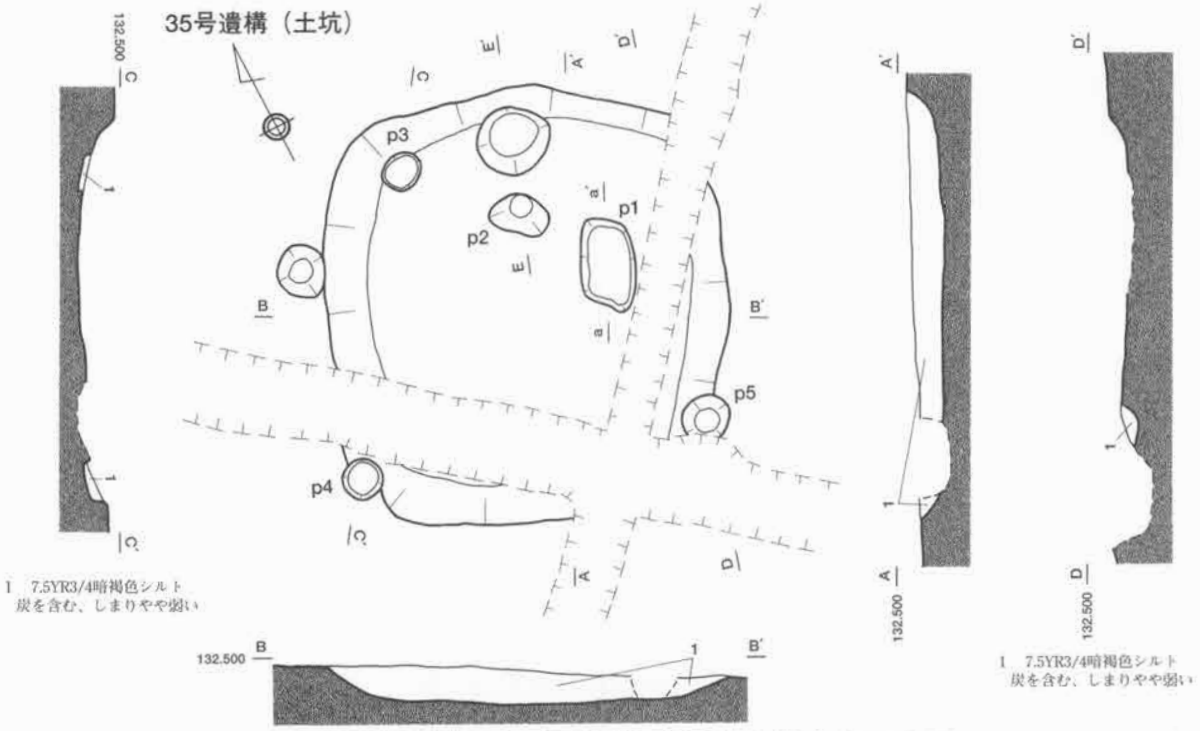
509号遺構（土坑）

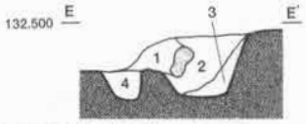


1　7.5YR4/3褐色砂混じりシルト
砂粒・礫を含む、
山茶碗を主とする遺物を含む。
しまりやや強い
2　3と4の混合　しまり弱い
3　7.5YR3/3暗褐色粘質シルト
しまりやや弱い
4　10YR5/8黄褐色砂礫
径5cmまでの礫を含む。
遺物を含まない
5　10YR3/4暗褐色粘質シルト
炭を少量含む
6　5と地山土（Ⅲ層）の混合
しまりやや強い
7　7.5YR4/4褐色粘質シルトと地山土（Ⅲ層）の混合
しまり弱い
8　7.5YR4/4褐色粘質シルト　地山土（Ⅲ層）を含むが
7層よりは少ない、しまり弱い

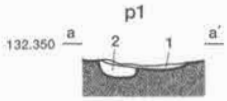
0　2 m

第55図　中世の遺構（11）

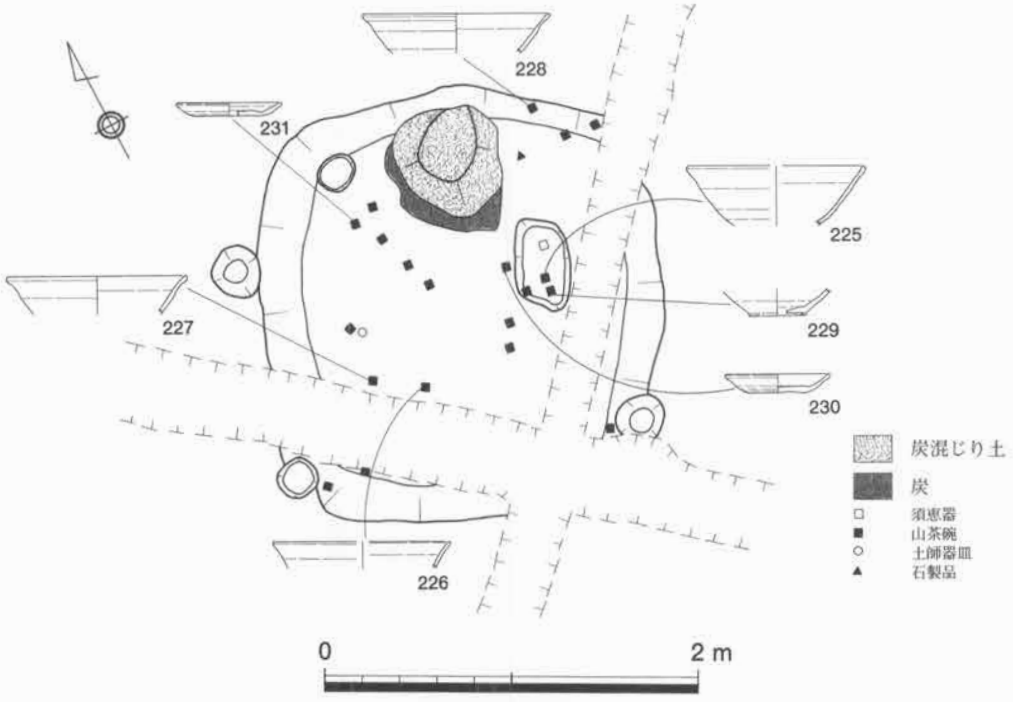




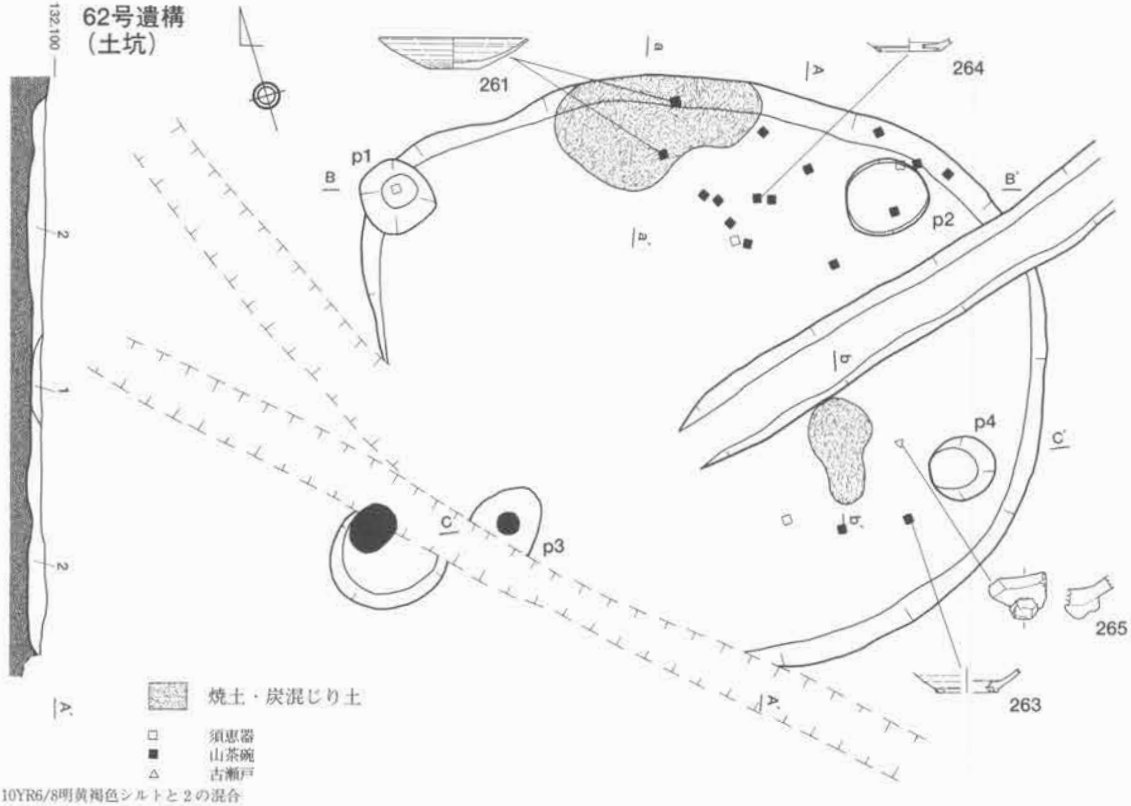
1　7.5YR4/4褐色粘質シルト　焼石の貼り付く部分では少し被熱し黒褐色を呈する、炭を少量含む、しまり強い
2　10YR4/1褐灰色砂質シルト　酸化し赤褐色を呈する部分がある、炭を少量含む、しまり強い
3　2と同質の砂質シルトだが酸化部分がより多い　炭を少量含む、しまり強い
4　7.5YR5/4にぶい褐色シルト　炭を少量含む、しまりやや弱い



1　2.5YR4/6赤褐色被熱硬化シルト　しまり強い
2　7.5YR4/4褐色粘質シルト　炭を多量に含む



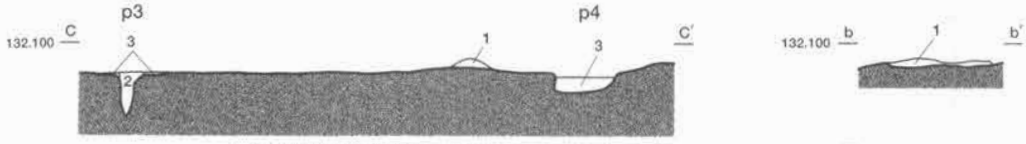
第56図　中世の遺構（12）



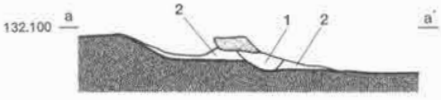
1　10YR6/8明黄褐色シルトと2の混合　しまり弱い
2　7.5YR3/4暗褐色シルト　径3cmまでの礫を含む、炭を含む、しまりやや弱い

1　7.5YR4/4褐色シルト　炭を含む、しまり弱い
2　10YR6/6橙色礫混じり砂　細砂を主とし径5cmまでの礫を含む、しまり弱い
3　7.5YR4/4褐色シルトと地山土（Ⅳ層）の混合　しまりやや弱い

1　7.5YR4/4褐色シルトと地山（Ⅳ層）の混合、しまりやや弱い
2　7.5YR4/4褐色シルト　炭を含む、しまりやや弱い



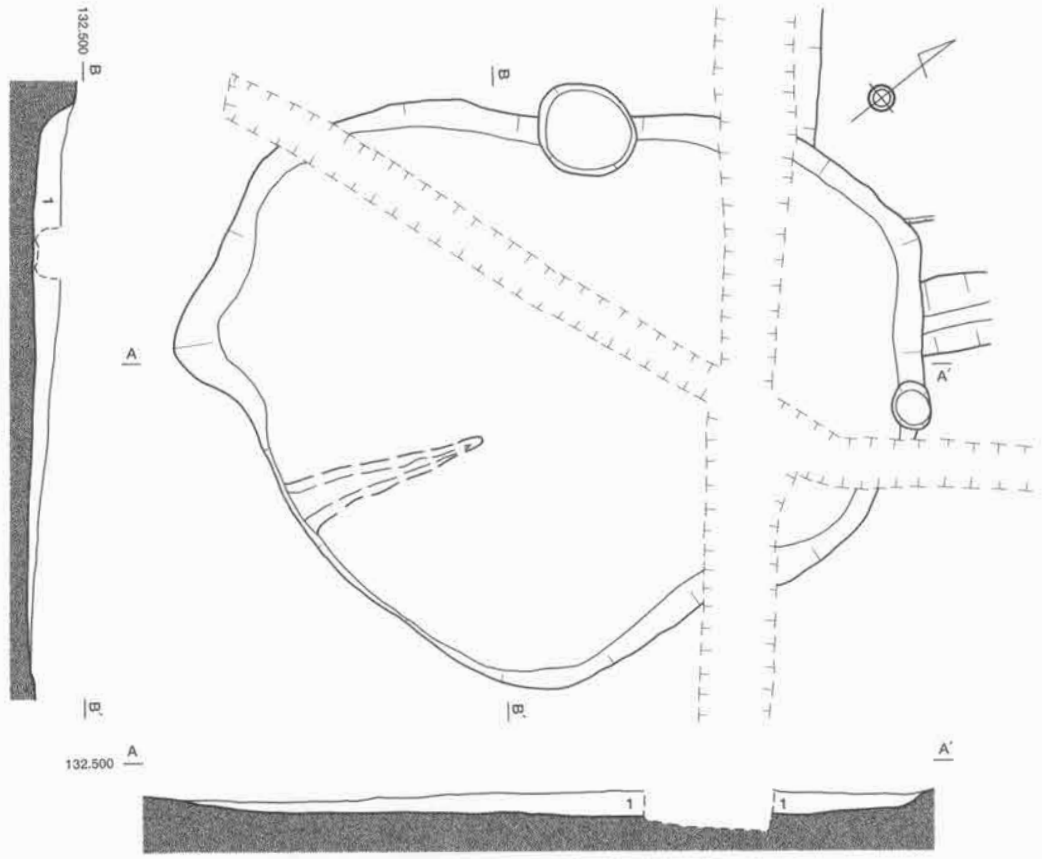
1　5YR3/4暗赤褐色被熱シルト　径1cmまでの礫を含む、焼土粒・炭を含む、しまりやや弱い
2　10YR4/6褐色シルトと地山土（Ⅳ層）の混合　しまりやや弱い
3　7.5YR4/4褐色シルト　炭を含む、しまりやや弱い



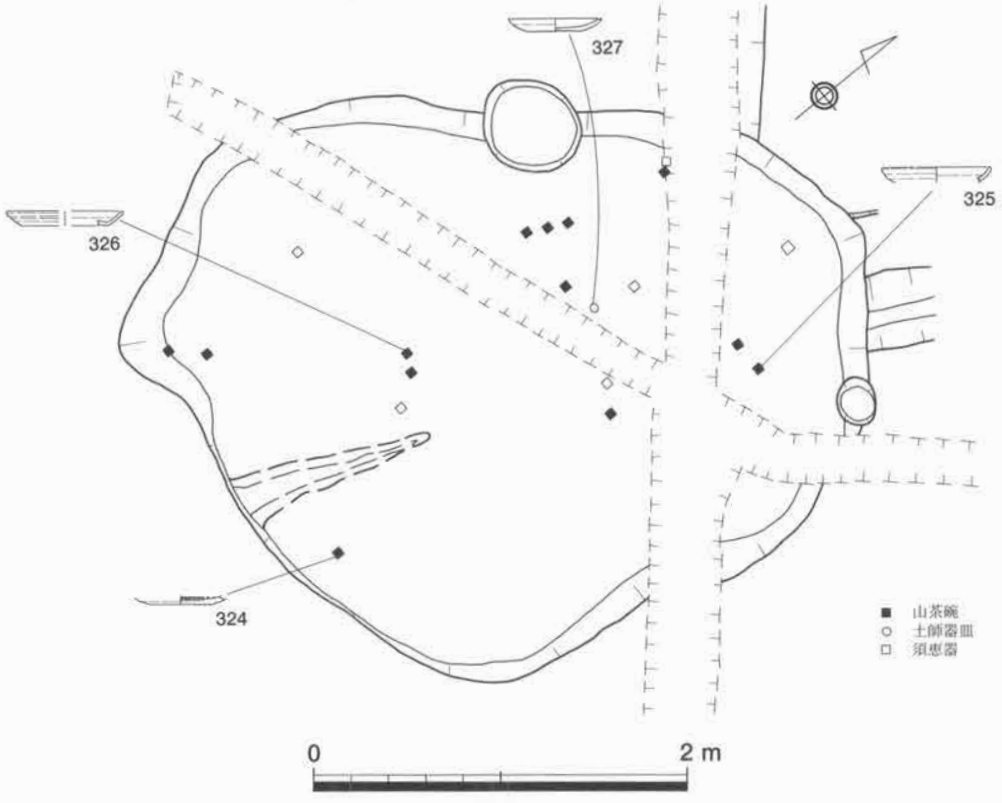
1　10YR5/6黄褐色被熱シルト　炭・暗赤褐色焼土粒を含む、しまり弱い
2　5YR3/2暗赤褐色シルト　炭・暗赤褐色焼土粒・焼石を含む、山茶碗を含む、しまりやや弱い

第57図　中世の遺構（13）

448号遺構
（土坑）

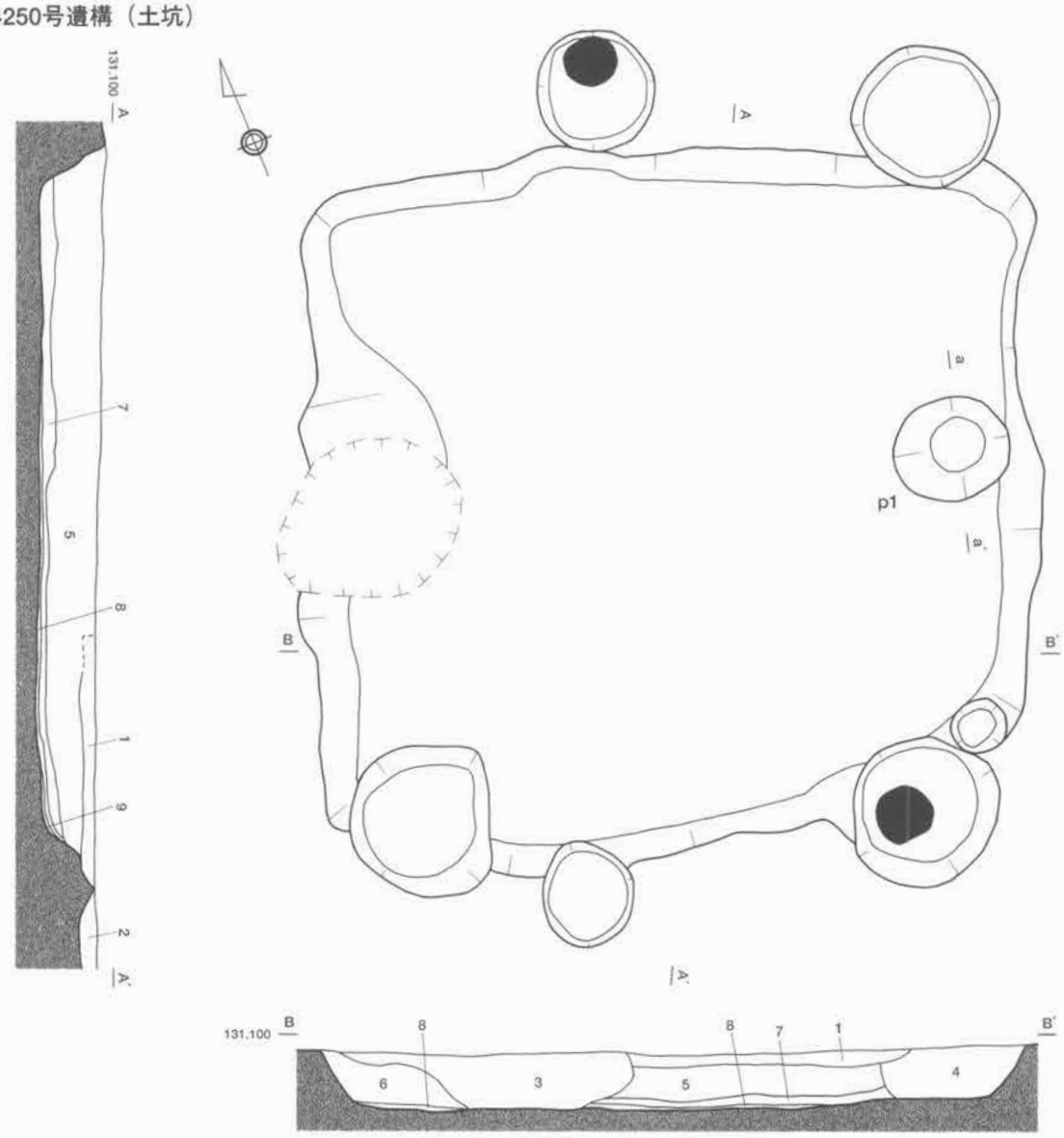


1　7.5YR4/4褐色シルト　径5cmまでの礫を少量含む、炭を少量含む、しまりやや弱い

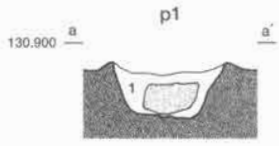


第58図　中世の遺構（14）

4250号遺構（土坑）



1　10YR4/2灰黄褐色細砂　近年の掘り込みと思われる。しまり弱い
2　7.5YR4/3褐色粘質シルト　径5cmまでの礫を少量含む、しまりやや弱い
3　7.5YR3/2黒褐色シルト　地山土（Ⅳ層）を多く含む、径5cmまでの礫を含む。しまり強い
4　7.5YR3/3暗褐色粘質シルト　径10cmまでの礫を多く含む。地山土（Ⅳ層）を含む。しまり弱い
5　10YR4/1褐灰色砂質シルト　径1cmまでの礫を含む、酸化し褐色を呈する部分もある。しまりやや強い
6　7.5YR4/4褐色粘質シルトと地山土（Ⅳ層）の混合　しまりやや弱い
7　5YR4/4にぶい赤褐色被熱硬化細砂　北半部では径30cmまでの焼石を多く含む、炭を含む、酸化鉄多い、しまり強い
8　2.5Y2/1黒色粘土　炭を含む、しまりやや弱い
9　5YR3/4暗赤褐色被熱硬化砂礫　地山土（Ⅳ層）が被熱硬化したものとみられる、しまり極めて強い

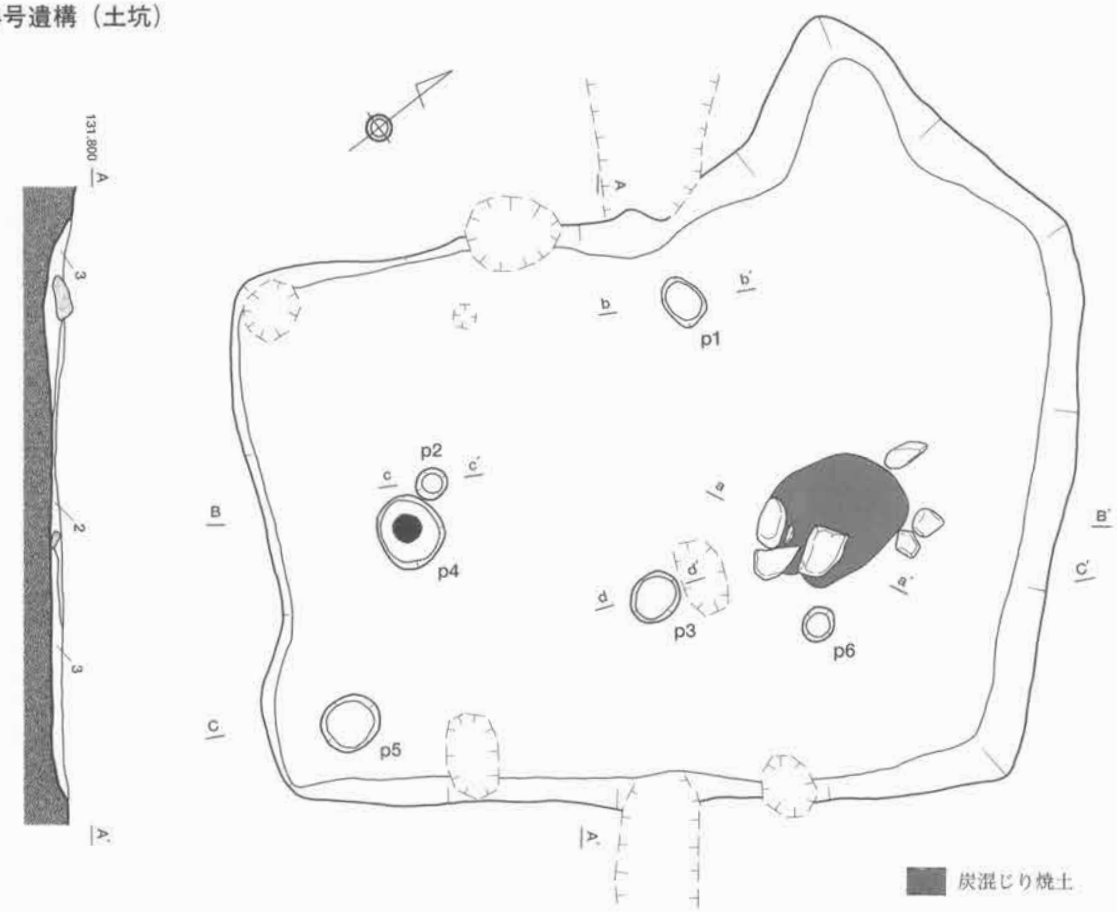


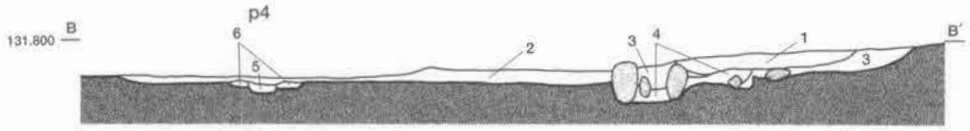
1　7.5YR3/3暗褐色粘質シルトと地山土（Ⅳ層）の混合　やや被熱、しまりやや強い

0　2 m

第59図　中世の遺構（15）

1274号遺構（土坑）

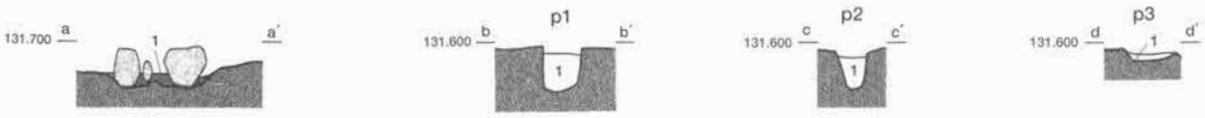




1　7.5YR4/3褐色細砂　しまりやや弱い
2　10YR3/3暗褐色シルト　炭を多量に含む、焼土を含む、しまりやや弱い
3　7.5YR6/3にぶい褐色粘土～粘質シルト　径5cmまでの礫を含む、しまり強い
4　5YR4/4にぶい赤褐色粘質シルト　少し被熱しているようである、炭を少量含む、しまりやや弱い
5　10YR3/3暗褐色シルト　しまりやや弱い
6　10YR4/3にぶい黄褐色シルト

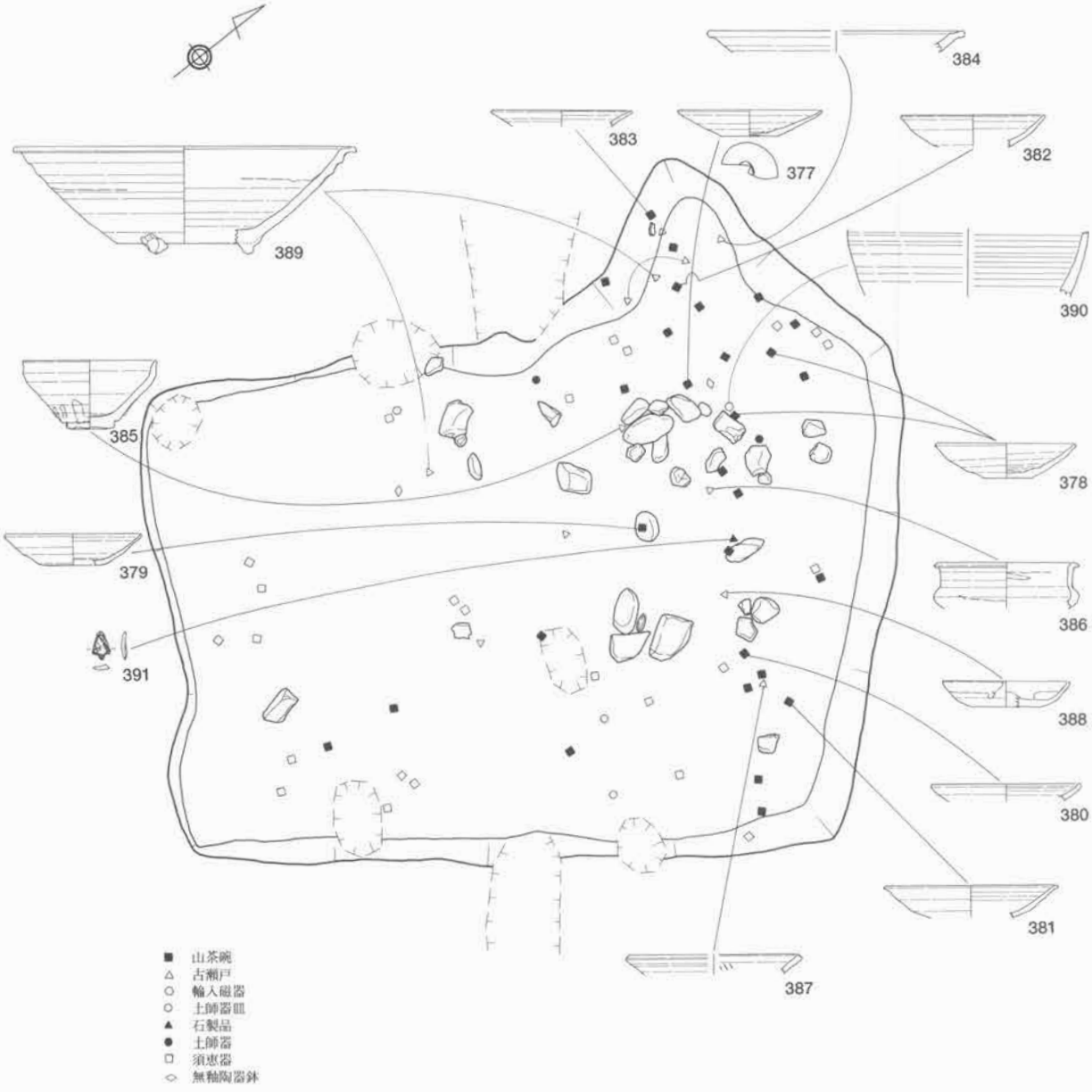
1　10YR4/3にぶい黄褐色シルト　地山土（Ⅳ層）を含む、しまりやや弱い

第60図　中世の遺構（16）



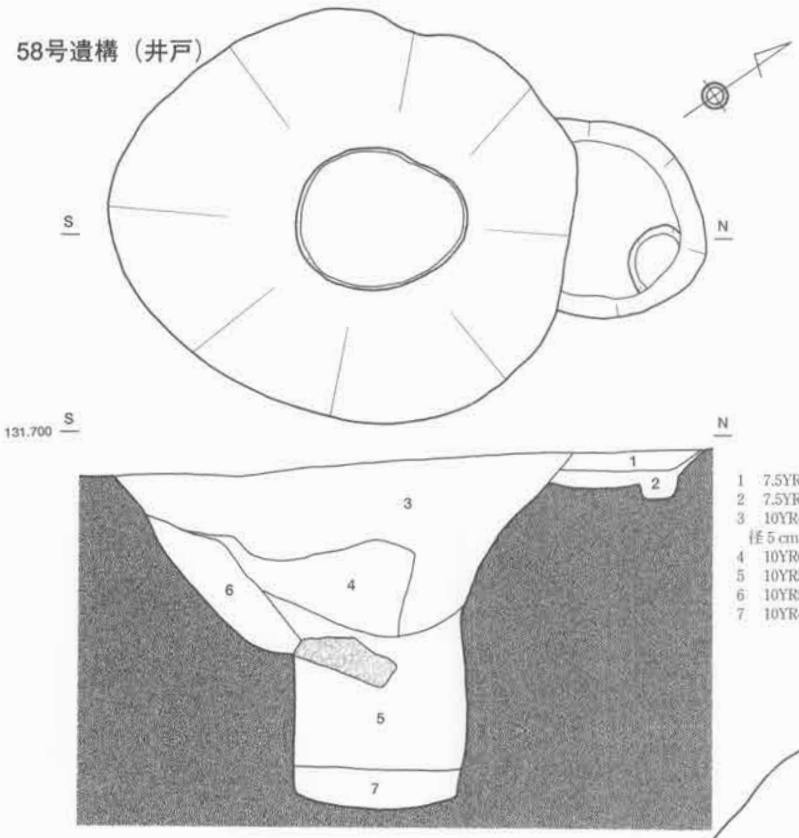
1　5YR4/4にぶい赤褐色粘質シルト
少し被熱しているようである．炭を少量含む．しまりやや弱い

1　10YR4/3にぶい黄褐色シルト　地山土（Ⅳ層）を含む．しまりやや弱い



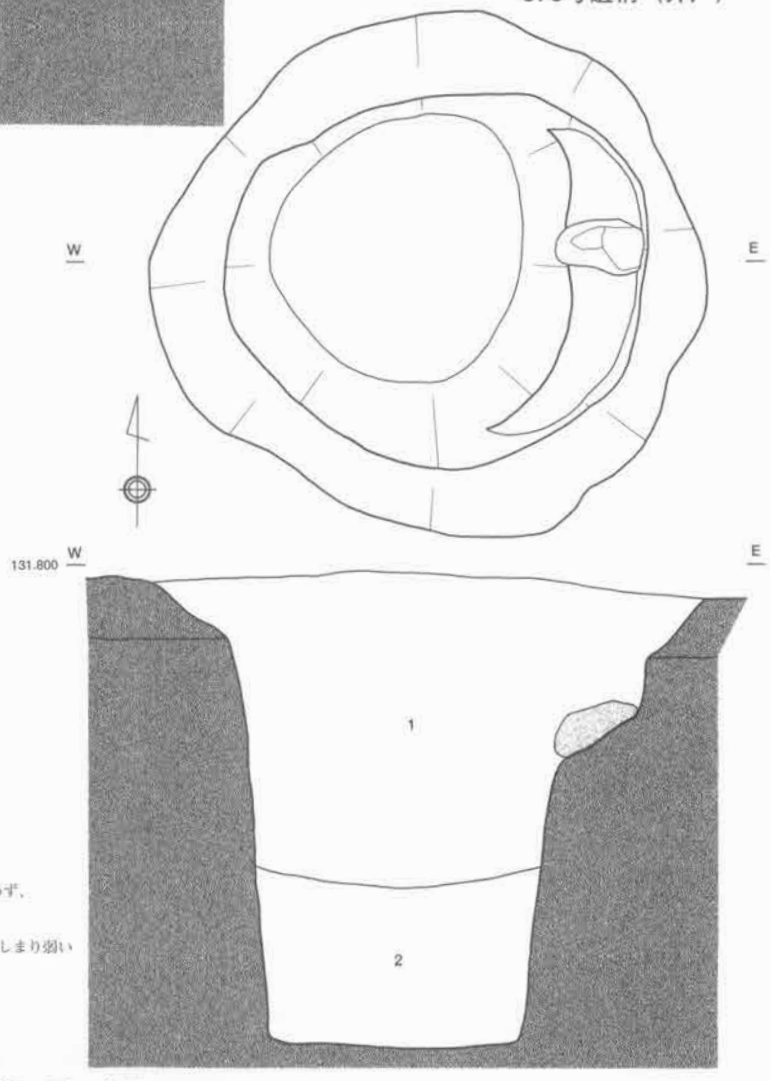
第61図　中世の遺構（17）

58号遺構（井戸）



1　7.5YR4/3褐色砂質シルト．径3㎝までの礫を含む．しまり弱い
2　7.5YR3/3暗褐色粘質シルト．しまりやや弱い
3　10YR4/4褐色シルト　2に比べてやや砂質．
　径5㎝くらいまでの礫を含む．しまり弱い
4　10YR6/3にぶい黄橙色粘質シルト　山茶碗を含む．しまりやや弱い
5　10YR5/1褐灰色粘土　酸化し褐色を呈する部分もある．しまり強い
6　10YR5/3にぶい黄褐色砂混じり粘質シルト　しまり弱い
7　10YR4/1褐灰色粘質シルト～粘土　植物遺体を含む．しまり弱い

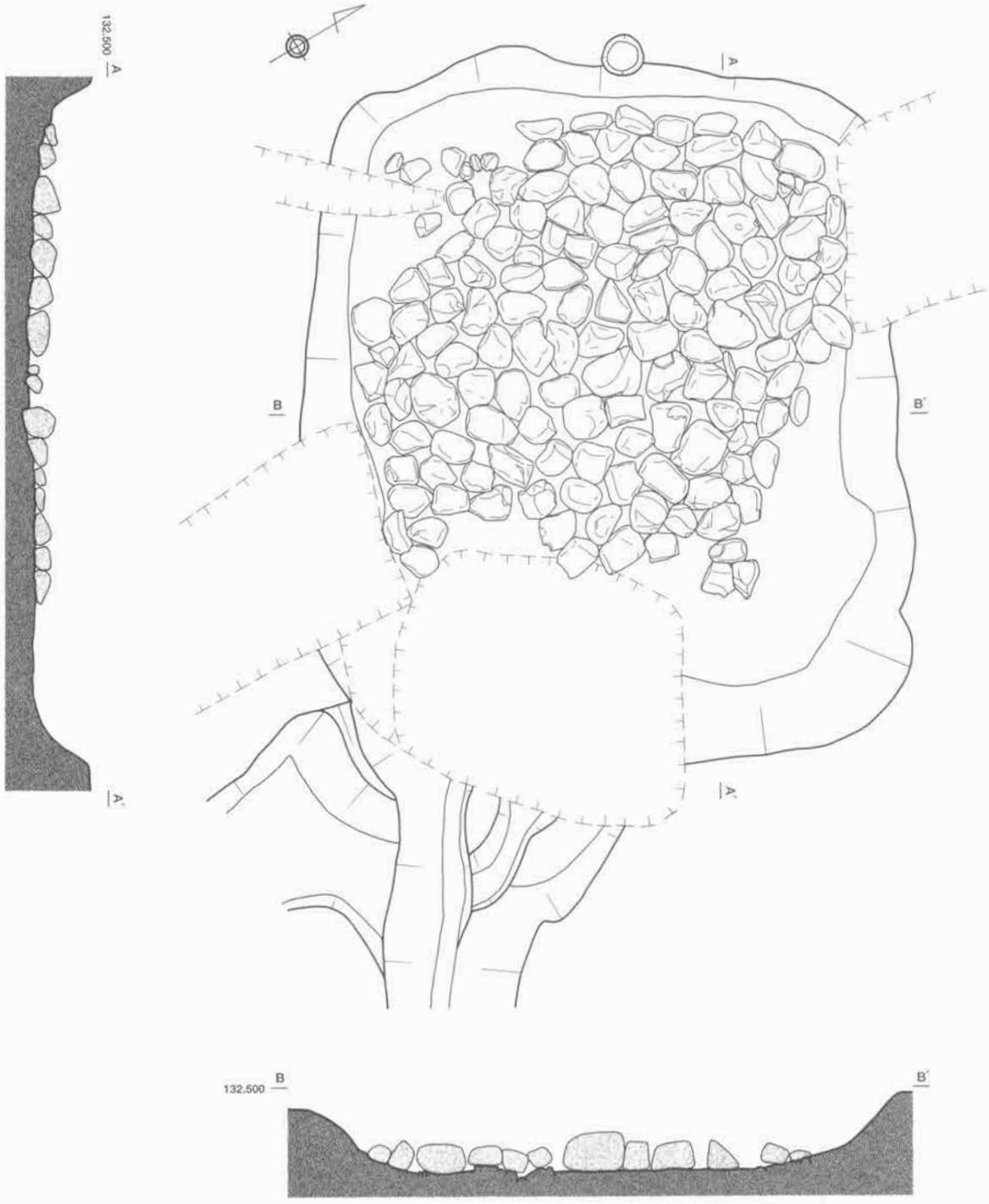
578号遺構（井戸）



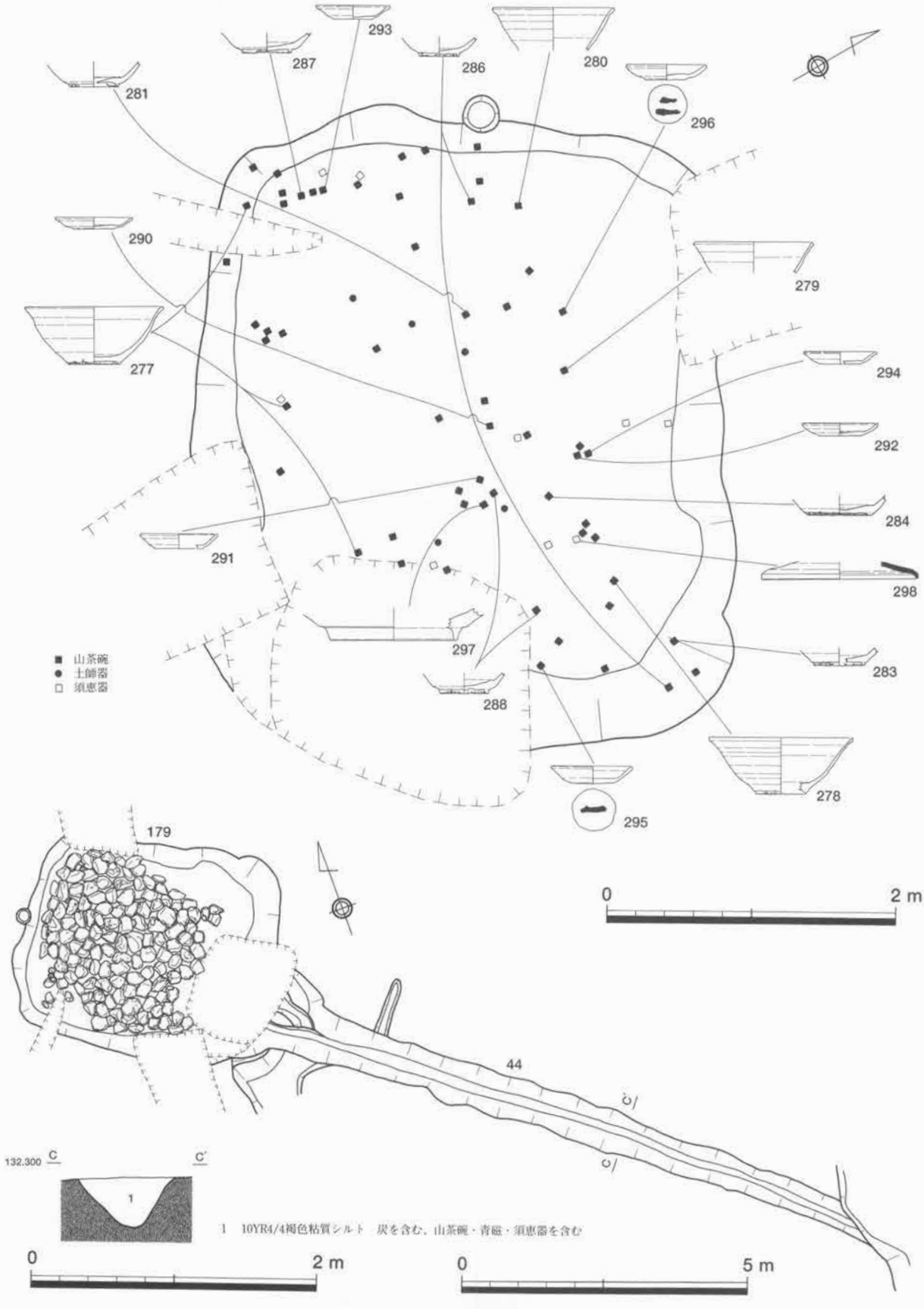
1　7.5YR4/6褐色砂質シルト　径50㎝までの礫を含む．遺物を認めず．
　しまり弱い
2　N4/ 灰色粘土　砂を含む．径50㎝までの礫を多く含む．
　植物遺体を多く含み黒色を呈する部分も多い．木片を多く含む．しまり弱い

第62図　中世の遺構（18）

179号遺構（特殊）

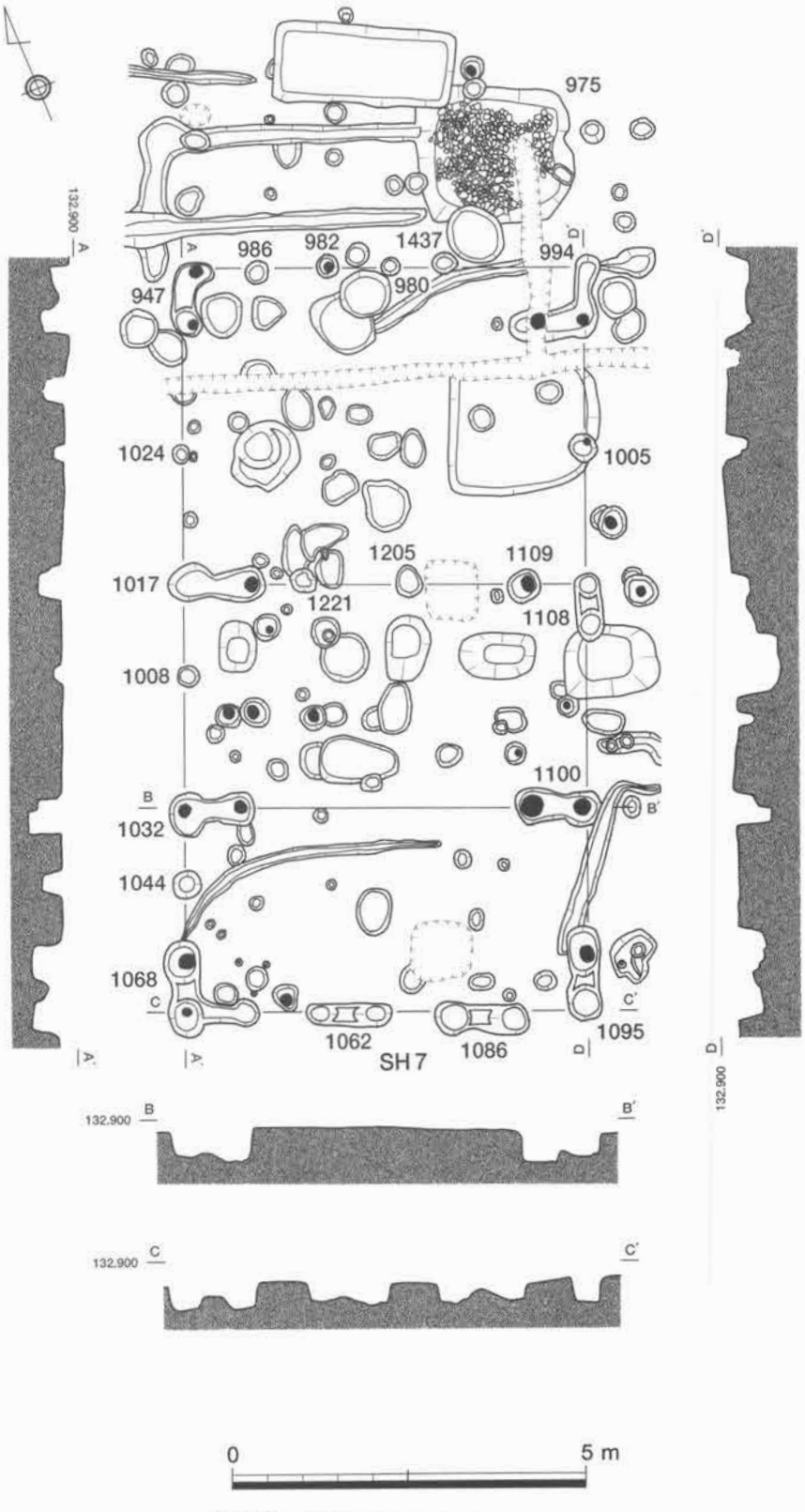


第63図　中世の遺構（19）



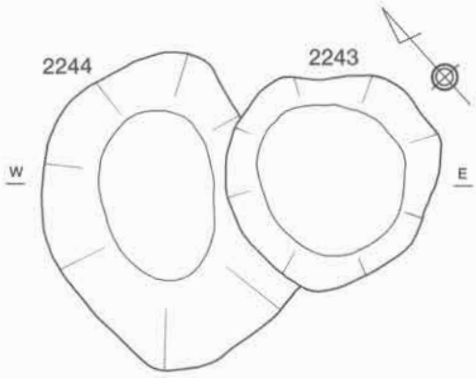
第64図　中世の遺構（20）

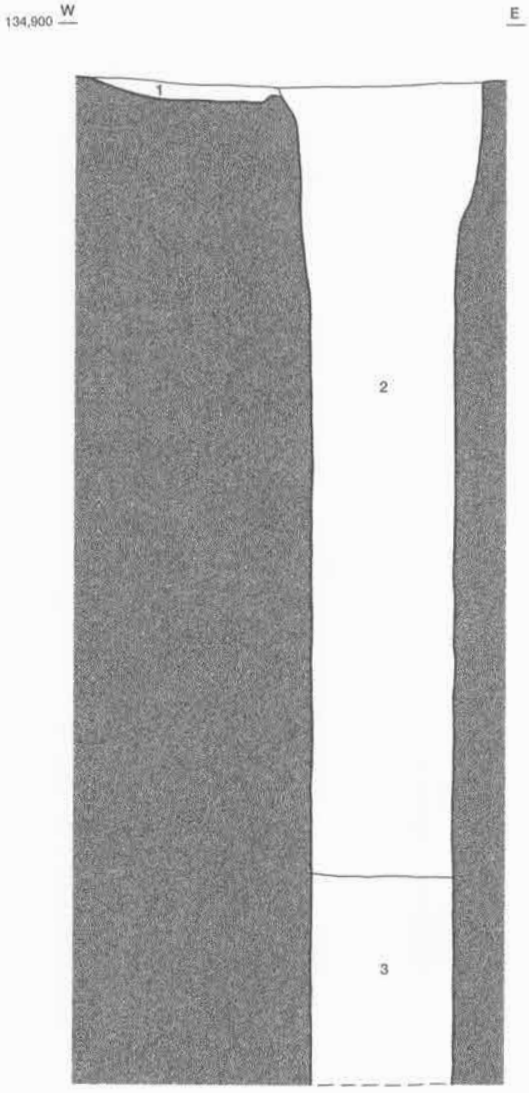
SH７（掘立柱建物跡）



第65図　近世の遺構（１）

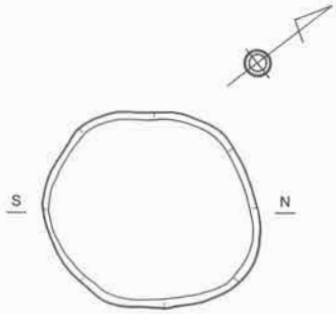
2243号遺構（井戸）

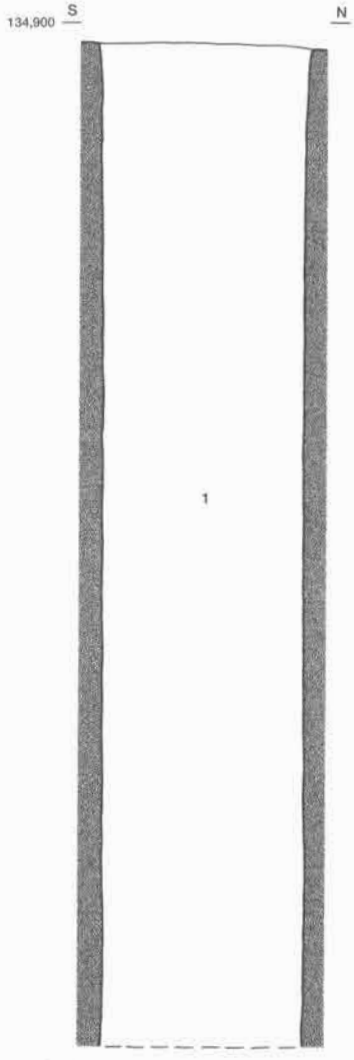




1　7.5YR3/4暗褐色シルト　地山土（Ⅲ・Ⅳ層）を多く含む、しまり弱い
2　7.5YR3/2黒褐色シルト　径５cmまでの礫を少量含む、他の混入物は少なく均質、しまり弱い
3　2.5Y4/2暗灰黄色粘土　植物遺体を含む、遺物を認めず、水分多い、しまり弱い

2511号遺構（井戸）

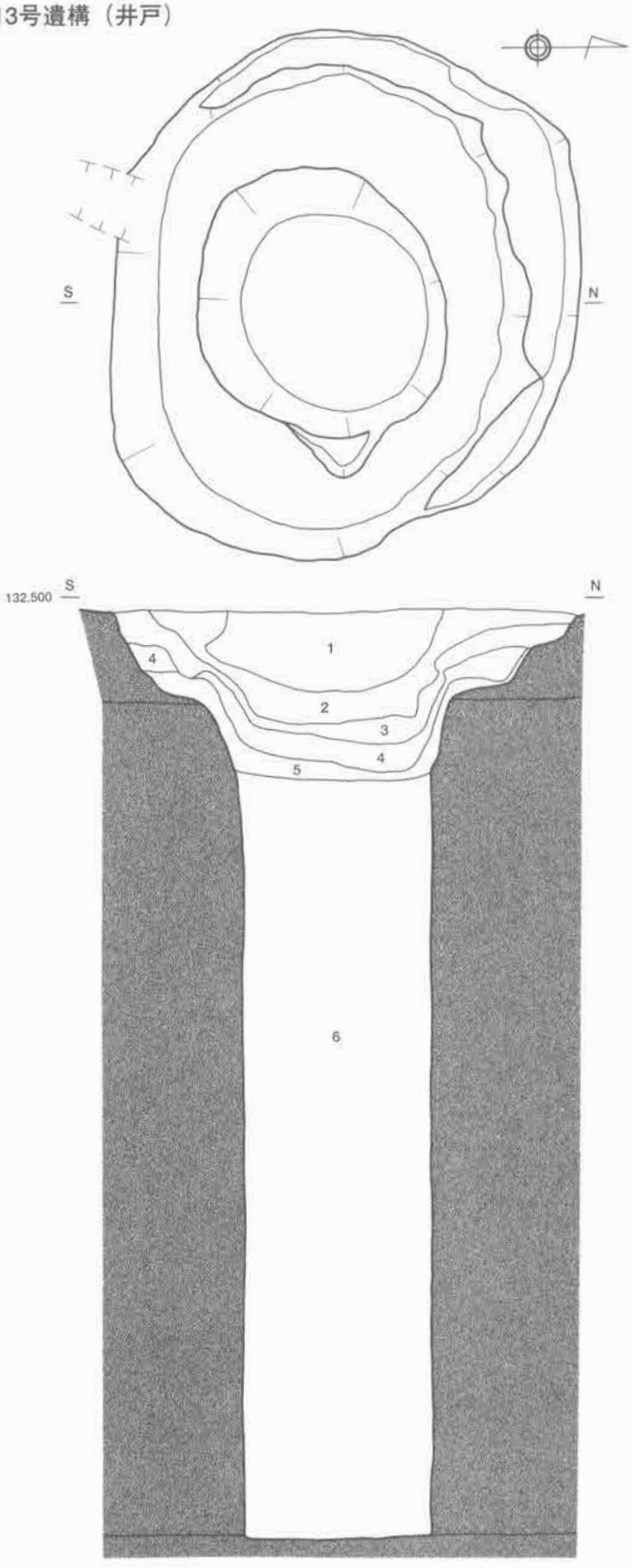




1　地山土（Ⅳ層）の崩れた砂ー粘質シルトを主とし、
褐色粘土（7.5YR4/4）を含む、しまり弱い

第66図　近世の遺構（２）

1013号遺構（井戸）

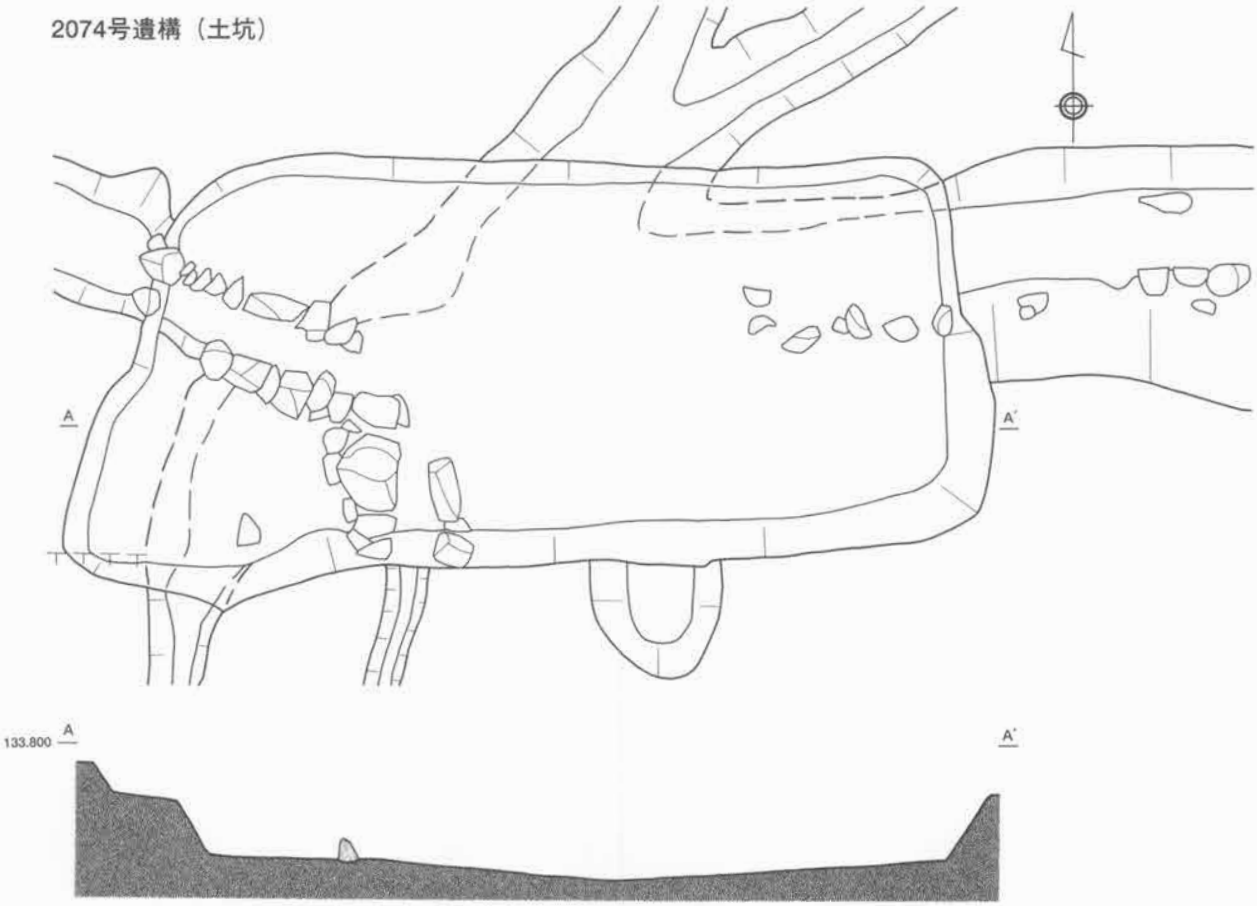


1　7.5YR4/2灰褐色礫混じりシルト　径8cmまでの礫を多く含む，しまり弱い
2　5YR4/4にぶい赤褐色シルト　1を含む，しまり弱い
3　10YR5/6黄褐色シルト　2を含む，しまり弱い
4　5YR4/4にぶい赤褐色シルト
2とほぼ同質だが1の混入はない，3を少量含む，しまり弱い
5　10YR5/6黄褐色シルト　3とほぼ同質，しまり弱い
6　7.5YR4/6褐色砂質シルト
最下部では植物遺体（竹・木の葉・木の実）を極めて多量に含む，また最下部では近世の遺物が出土，しまり極めて弱い

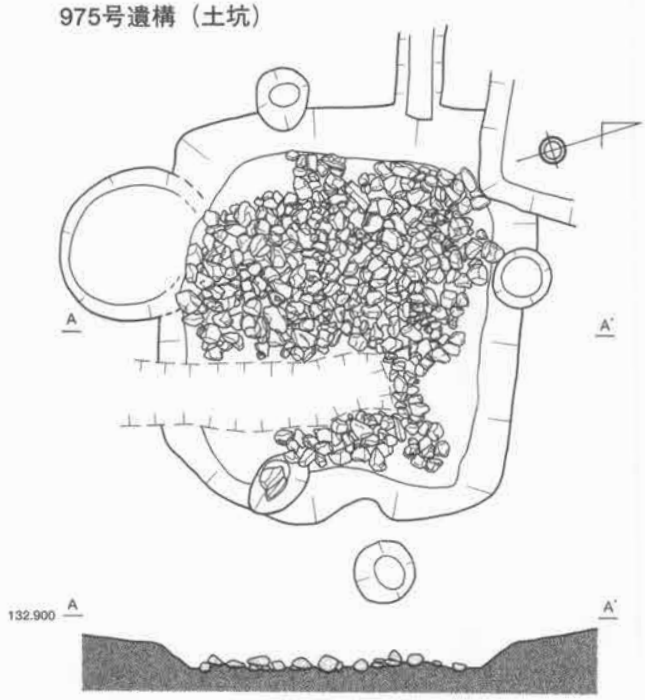
0　2m

第67図　近世の遺構（3）

2074号遺構（土坑）



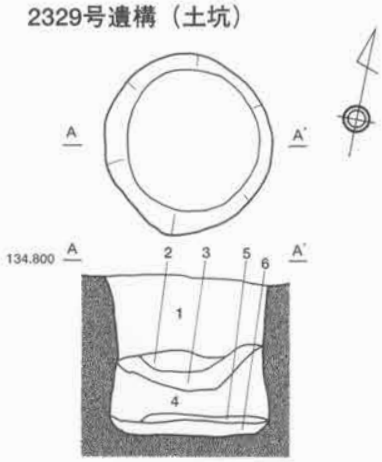
975号遺構（土坑）



0　2 m

第68図　近世の遺構（4）

2329号遺構（土坑）



1　7.5YR3/3暗褐色粘質シルト　炭・赤褐色焼土を含む、弥生土器・石器を含む、しまりやや強い
2　7.5YR3/3暗褐色粘質シルト　径15cmまでの礫を含む、炭・赤褐色焼土を極めて多く含む、弥生土器・石器を含む、しまりやや弱い
3　2と同質だが2との間に硬化面を持つ　弥生土器・石器を含む
4　7.5YR4/4褐色粘質シルト　炭を少量含む、しまりやや強い
5　炭層　弥生土器を含む
6　7.5YR4/4褐色粘質シルト　炭を含む、弥生土器を含む、しまりやや強い

0　2 m

第69図　弥生時代の遺構

第4章　出土遺物

第1節　出土遺物の概要

佐口遺跡で出土した遺物の総点数は、接合前破片数で数えて13,395点である。出土状況の面からは、遺構内から出土した遺物の占める割合が非常に高いことを本遺跡の特徴として挙げることができる。遺構内出土遺物は11,335点で84.6%に上るのに対し、遺構外出土遺物（遺物包含層、排土、それに近代以降の攪乱層から出土したもの）は2,060点で15.4%にすぎない。したがって、総点数としては決して多くはないものの、遺構の年代決定において有効な資料となり得る遺物は多いと言えよう。

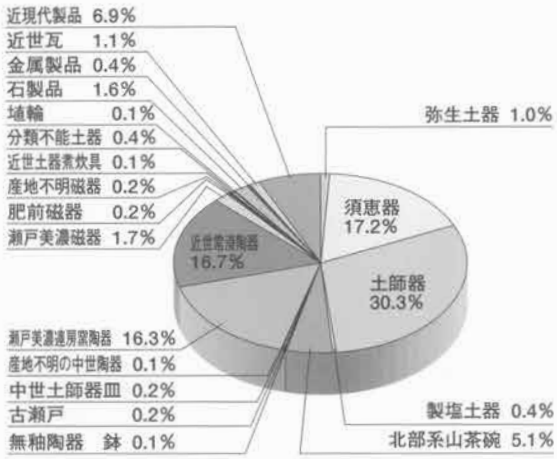
出土遺物を破片数でカウントし、集計した結果を表とグラフとして掲げる[1]（第70図、付表4「遺物集計表」）。出土した遺物の種別を列挙すると、弥生土器、須恵器、土師器、製塩土器、灰釉陶器、北部系山茶碗、南部系山茶碗、無釉陶器鉢、古瀬戸系施釉陶器、輸入磁器、中世常滑陶器、中世土器煮炊具、中世土師器皿、産地不明の中世陶器、瀬戸美濃大窯陶器、瀬戸美濃連房窯陶器、近世常滑陶器、瀬戸美濃磁器、肥前磁器、産地不明磁器、近世土器煮炊具、埴輪、石製品、金属製品、木製品、近世瓦、近現代製品、以上の27種別で、このほかに分類不能の土器や陶器が若干みられる。弥生時代から現代に至る各時代の遺物をほぼ網羅する。地区別ではA区（4,500㎡）5,668点、B区（1,100㎡）1,951点、C区（3,600㎡）3,520点、D区（850㎡）1,292点、E区（250㎡）964点となる。B区は古代の遺物中心、D区とE区は中世の遺物中心、そしてA区とC区は全時代の遺物が混在する。

出土遺物のうち特に多いのは、古代の土師器（3,694点、27.6%）と須恵器（1,862点、13.9%）、中世の北部系山茶碗（2,515点、18.8%）、近世の瀬戸美濃連房窯陶器（1,738点、13.0%）である。本遺跡の主要な時代が、古代・中世・近世であることは、この数字からも明らかである。ただし、詳しく見れば、偏りも認められる。まず、灰釉陶器はC区の784号遺構（ピット）で出土した7点がすべてであり、また、須恵器も8世紀後半以降の製品であることが確実視される個体は出土していない。したがって、古代でも後期の遺物は極端に少ないのである。関連して付け加えれば、山茶碗では12世紀以前とみられるものはごく少数しか出土していないので、本遺跡では古代後期から中世初頭にかけての時期が、ほぼ空白期となる。さらに、瀬戸美濃大窯陶器は明確に認識できたものは8点にすぎず、中世末期から近世初期にかけての時期も、その前後の時期に比べて出土遺物が著しく少ない。

本章では、遺物実測図は出土した遺構毎にまとめて提示した。実測図の掲載順は、古代の遺構から出土した遺物、中世の遺構から出土した遺物、近世の遺構から出土した遺物、その他の遺物、以上のようになっている。各時代とも、A区（遺構番号2000番台）、B区（3000番台）、C区（1～1000番台）、D区（4000番台）、E区（5000番台）の順に掲載し、各区内では遺構種別毎に分けることはせず、原則として遺構番号の順となっている。また、明らかに混入品とみられる遺物についてもほとんど除外せず、実測可能であるものは掲載するよう努めた。

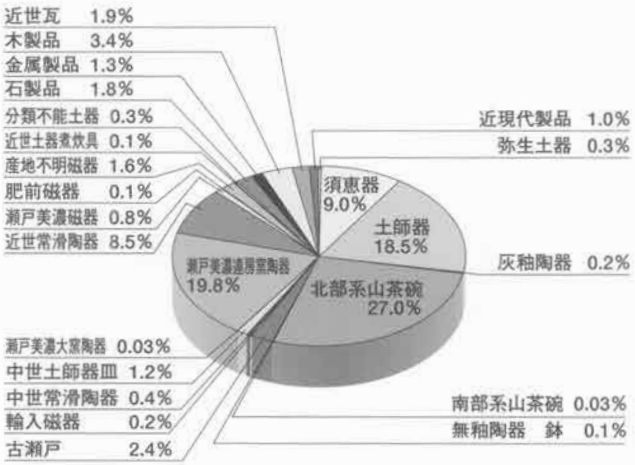
以下、第2節で土器・陶磁器類について、第3節でそれ以外の遺物について、遺物種別毎に解説を加えることとする。遺物個々の法量や調整技法などについては付表3「遺物観察表」を、遺構毎の遺物組成については付表4「遺物集計表」を、それぞれ参照されたい。

A区

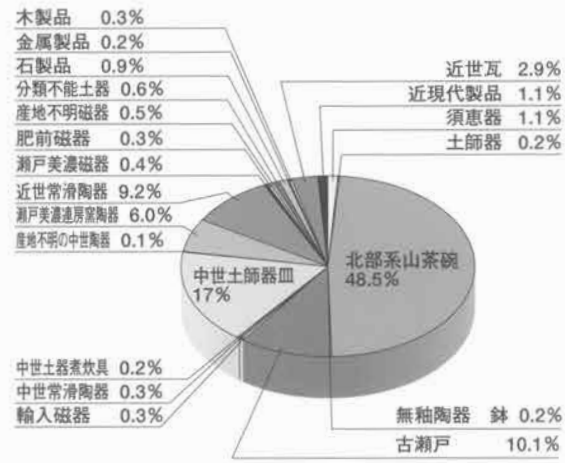


B区

C区

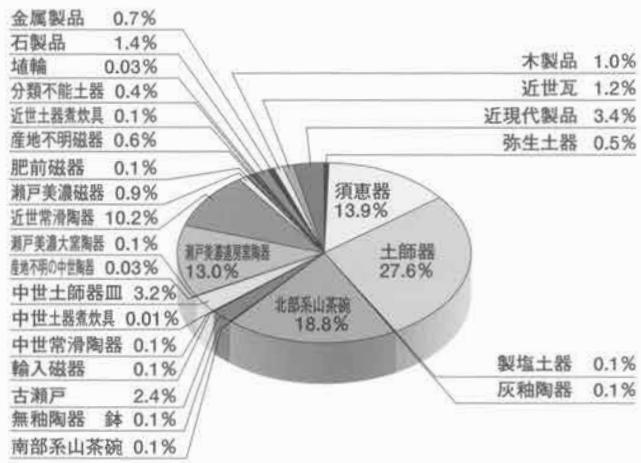


D区



E区

佐口遺跡



第70図　出土遺物集計グラフ

第2節　土器・陶磁器類

本節では近世までの土器・陶磁器類について報告する。概ね時代順に、遺物種別毎に報告を進めることとする。

(1) 弥生土器

破片数で68点出土したが、これはA区の2329号遺構（土坑）とC区の54号遺構（ピット）から細片化して出土したものの合算の結果であり、個体数で考えれば極端に少なくなるはずである。4個体図示する。

1016～1018は2329号遺構（土坑）から出土した。1016は壺とみられる。口縁部外面に突帯文、それ以外の外面に条痕文、口縁端部に押引文を施す。1018は甕。胴部外面上端部に2条の沈線が認められる。1017も甕と推定した。外面に条痕文、口縁端部に押引文を施す。1016は水神平式、1018は亜流の遠賀川系、1017は貝田町式の特徴をそなえると言えようが、出土状況からはこれら3点に前後関係は見出しがたい。

1020は鉢と推定する。外面に浅い条痕文、口縁端部に押引文を施す。朝日式の特徴をそなえると言えよう。C区の54号遺構（ピット）から出土した[2]。

(2) 須恵器

須恵器は本遺跡では特に多い遺物の一つであり、破片数で1,862点出土した。その内訳はA区976点、B区529点、C区316点、D区14点、E区27点である。古代の竪穴住居跡が検出されたA区・B区・C区の3地区に偏る傾向が顕著である。

確認している器種は、無台杯・有台杯・杯身・高杯・杯蓋・摘み蓋・返り蓋・鉢・甕・壺である。そのほか、硯の可能性がある小破片が1点出土している。図示したのは108個体である。胎土や色調、それに型式的特徴から、美濃須衛古窯跡群と猿投古窯跡群をはじめとする複数の生産地の製品が入って来ていることは確実と思われるが、それらを厳密に判別することは困難と判断し、個々の生産地を特定することは控えておいた[3]。

本報告書での須恵器の分類と器種名は、概ね『須恵器生産の出現から消滅　猿投窯・湖西窯編年の再構築』（東海土器研究会、2000年）に従った。以下、器種毎に報告する。

無台杯　8・25・28～30・74・90・92・110～112・127・133・149・156・1041

平らな底部からほぼ直線的に斜め上方へ体部が延びるのを器形の基本とする。底部に高台を持たない。主に供膳具と考えられている。体部内外面と底部内面には回転ナデ調整を施す。底部外面はヘラ切りの後、オサエ・ナデ調整を施すが、ほとんどの個体では粗い調整にとどめており、ヘラ切りの痕跡を明瞭に残している。回転糸切り痕が認められる個体は出土していない。

なお、無台杯と次に報告する有台杯とは、小破片では判別が困難なケースも多く、そのような場合は器種名を単に杯としておいた。また、杯としたものの中には、高杯・鉢・碗となる個体が含まれる可能性があることをお断りしておく。

有台杯　4・31・75・82・106・107・115・116・166・215・1022

無台杯と同様、平らな底部からほぼ直線的に斜め上方へ体部が延びる器形の器種であるが、底部には付高台を持つ。大小各種ある。体部内外面と底部内面に回転ナデ調整を施す。底部外面には回転ヘラ削り調整を施したとみられる個体がある。回転糸切り痕が認められる個体は出土していない。

杯身　18・32・33・60・139・1029・1031

古墳時代タイプの器種で、杯Hと通称される。蓋を受ける立ち上がり部を有するのを特徴とする。本遺跡で出土したのは、概ね立ち上がり部が退化し短小化したものであるが、3214号遺構（ピット）から出土した139など、立ち上がり部の高い個体も少数ながら認められる。底部まで完存し、全形を窺える個体は2216号遺構（住居跡）から出土した18のみである。18では体部内外面と底部内面に回転ナデ調整を施し、底部内面にはさらにナデを加えている。底部外面にはほとんど調整を施しておらず、ヘラ切りの痕跡を明瞭に残している。

なお、この器種はA区とB区で出土し、C・D・E区では確認されなかった。

高杯　1・10・13・14・58・72・102～104

本遺跡で出土したのは、すべて蓋を受ける立ち上がり部を持たない無蓋高杯である。さらに、脚の長さが口径より短い短脚高杯が大部分を占める。脚部にスカシを持つものはない。全形を窺えるのは3124号遺構（溝）から出土した103・104、2216号遺構（住居跡）から出土した13・14である。103では杯部の外面上半部と内面全面に回転ナデ、杯部外面下半部に回転ヘラ削り、脚部の内面下半部と外面全面に回転ナデ、脚部内面上半部にナデを施す。2002号遺構（住居跡）から出土した1では、杯部の外面下半部に回転ヘラ削りの後、回転ナデを施したとみられる。また、2216号遺構（住居跡）から出土した14のように、杯部外面下半部に回転ヘラ削りが認められない個体もある。

杯蓋　17・59

杯類の蓋で、古墳時代タイプの杯身（杯H）とセットになるもの。摘みは持たない。全形を窺うことのできるのは2216号遺構（住居跡）から出土した17のみである。内外面に回転ナデを施している。この個体は同じ遺構から出土した杯身（18）と口径が揃い、焼成があまく灰白色を呈する点も共通するので、両者はセットであった可能性が高い。

17は肩に稜を持たないが、2395号遺構（住居跡）から出土した59は、明瞭に稜を持つ個体である。なお、この器種はA区のみで出土している。

摘み蓋　20・35・61・62・76・77・84・94・95・101・108・109・117・118・124・128～131・147・148・298・299・1021・1024・1038

主に杯類の蓋。頂に摘みを持ち、口縁端部が折り返され、内面に返りを持たないもの。有台杯とセットになるのを通例とする器種であるが、無台杯とセットとなることもある。調整は、外面下半部と内面に回転ナデ、内面中央部にはさらにオサエ・ナデを加える。3156号遺構（住居跡）から出土した117では、このオサエ・ナデは内面上半部全体に及んでいる。外面上半部には回転ヘラ削り、摘み部には回転ナデ調整を施す。

返り蓋　1062

同じく主に杯類の蓋として使用される。頂に摘みを持ち、口縁端部は折り返されず、内面に返りを持つ。調整技法は摘み蓋に同じである。本遺跡での出土例は、図示した1個体（1062）のみである。B区の遺物包含層から出土した。返りは退化して短く、口縁より下には突出しない。

鉢　36・57・83

定義の難しい器種であるが、本報告では杯より大型で体部がより大きく開く器形のものを鉢とした。杯にくらべ、整形・調整に回転ヘラ削りを多用した結果、明瞭な稜を持ち、金属器の模倣であるとの印象を受ける個体が多い。2395号遺構（住居跡）から出土した57では、体部内外面ともに回転ヘラ削りで整形した後に回転ナデを施したとみられる。

甕　9・21・22・37～40・85・135・140

頸部が胴部よりすぼまる器形の大型貯蔵具である。口頸部内外面には回転ナデ調整を施し、体部と底部の内面には同心円当て具痕を残すのを通例とするが、スリ消しにより痕跡をほとんど残さない個体もみられる。当て具痕に木製当て具による木目が認められる個体はなく、すべて陶製当て具を使用したと推定される。体部と底部の外面にはタタキ痕が残るが、大きく分けて平行線状のものと格子状のものの2種類が認められる。

全形を窺える良好な個体が2216号遺構（住居跡）から出土した21である。口頸部は直立気味に立ち上がったのちに斜め上方へ開く。口径は30.1㎝を測る。胴部中央部付近で最大径54.8㎝を測る。底部はやや丸みを帯びた尖底で、そのままでは自立しない。口頸部内面には指によるとみられる圧痕が並ぶ。また、胴部中央の内面には強いオサエ痕が並ぶ。口頸部外面には沈線と列点文を施している。器高は59.7㎝を測る。

壺　53・54・70・89

同じく貯蔵具であると考えられているが、甕ほど頸部はすぼまらず、また、一般に甕よりは小型である。大小各種ある。全形の窺えるものは少ないが、小型品としては2390号遺構（住居跡）から出土した54がある。より大型のタイプとしては3002号遺構（住居跡）から出土した89が良好な個体である。直立する短い口頸部を持つ短頸壺である。調整は内外面とも回転ナデである。

その他　132

3197号遺構（住居跡）から出土した132が硯の脚部破片の可能性があるが、断定はできない。

(3) 土師器

土師器は本遺跡では最も多数出土した遺物であり、破片数で3,694点を数える。地区別ではA区1,715点、B区1,322点、C区652点、D区3点、E区2点である。A区・B区・C区でまとまった量が出土しており、その一方でD区・E区では極めて少量となる。これは須恵器の出土状況と同じ傾向であるが、さらに極端と言えよう。ほとんどすべて竪穴住居跡や竪穴住居跡と切り合う遺構から出土した。大半は摩滅が著しく、遺存状態の良い遺物は多くはない。後述する製塩土器を除いて、長胴甕、丸底甕、それ以外の甕、以上3器種に大別できるが、判別の困難な破片も多く、それらは単に「甕」と記載した。甑は確認されていない。64個体図示する。

長胴甕　158ほか

本遺跡から出土した土師器の大部分を占めるとみられる。外反する口縁部、長い胴部、径が小さく平らな底部、以上を器形上の特徴とする土師器甕で、「濃尾型長胴甕」と呼ばれる。本遺跡の位置する岐阜県美濃加茂市やその南に隣接する可児市を中心に広く分布することが知られている。

本遺跡での出土品から観察される調整技法の特徴について、以下、部位毎に報告する。

まず、口頸部内面は、器に向かって右から左へ横方向のハケ調整を施すのを基本とする。横方向のナデ調整を施すものもある。頸部には指オサエ調整を加えることもある。次に口頸部外面は、胴部にかけて縦方向のハケ調整を施す。指オサエ調整を加えることも多い。口縁端部は肥厚するものが多い。

次に胴部内面は指オサエ調整を主とするが、ヘラ状工具によるオサエとみられる調整を施すこともあり、両者を併用する例も認められる。また、ハケ調整の例もある（2341号遺構から出土した43）。胴部外面は縦方向のハケ調整を主とする。部位によっては斜め方向と言った方が適切なケースもあるが、器に向かって時計回り方向に円弧を描くように上から下へ施すのを基本とする。ただし、胴部下端部の底部との接合部では、右上から左下への斜め方向のハケ調整を施すのを基本とする。なお、胴部下端部と底部上端部との接合部には、「底部相欠はぎ技法」[4]が認められる個体がある（47・64・66）。

底部については調整技法を観察できる個体が少ないが、内面はナデやオサエによる調整が認められる。底部外面は、同じく調整技法を観察できる個体が少ないが、木葉痕を遺す個体がある（848号遺構から出土した168）。

最も良好な個体は470号遺構（住居跡）から出土した158である。この個体では口径は23.4㎝を測る。器高は完全に復元できた個体が出土しなかったために明確にできないが、40㎝台前後となると推測される。

丸底甕　63

2395号遺構（住居跡）から出土した63に代表される。本遺跡では全形を復元可能な唯一の個体であるが、表面の残りは良くない。口径13.0㎝、器高13.8㎝、胴部最大径15.0㎝を測る。口頸部は短く、緩く外反する。口縁端部を上方へつまみ上げているか否かは、摩滅のためはっきりしない。胴部から底部にかけて球状をなし、ほぼ胴部中央で径は最大となる。胴部と底部は明確な境を持たない。底部は胴部より厚みがある。口頸部については調整痕はほとんど残らない。胴部内面上半はナデ調整を基本とし、部分的にヘラオサエ調整も認められる。下半にはヘラ状工具によるとみられる調整が施され、単位により砂粒の移動が認められるものとそうでないものとがあり、前者をヘラ削り調整、後者をヘラオサエ調整と考える。どちらかといえばヘラオサエ調整と判断されるものが多い。一方、底部内面はヘラ削り調整である。胴部から底部にかけての外面にはハケ調整を施す。胎土は長胴甕のものよりやや細かく密であるとの印象を受ける。

本遺跡では、同種の個体で形状や調整技法の観察可能なものは、このほかにはほとんど見られない。

その他の甕　7・67・69・98・99ほか

上記2種の甕とは形状を異にする甕やどちらとも判別不能の甕も多数出土している。それらの中には甕以外の器種に分類すべき破片が含まれる可能性もあるが、確実に他器種と判断される個体が全く確認されていないので、とりあえず、すべて甕の一種として扱うこととする。注目される個体をいくつか報告する。

99は3002号遺構（住居跡）のカマドとその脇のピット内から出土した。頸部はほとんど折れずにほぼ直立し、口縁部は外反する。胴部はあまりふくらみを持たない。口径12.9㎝を測る。胎土は砂粒を多く含み、極めて粗い。摩滅が著しく内外面の調整技法は不明であるが、内面の表面は灰白色を呈する。以上のような特徴は、いずれも本遺跡出土の土師器においては特異であり、近隣の諸遺跡での出

土品にも類例は見当たらないようである。

98は99と同じく3002号遺構（住居跡）のカマド脇のピット内から出土した。口径12.5㎝を測る小型の甕である。口頸部は短く、強く外反する。胴部はあまりふくらまない。胴部内面には斜め方向のハケ調整を施しているようである。外面は赤褐色、内面は黒褐色を呈する。やはり類例を見ない。

67は2395号遺構（住居跡）から出土した。頸部が他の甕に比べ著しく肥厚し、厚さ1.4㎝を測る。頸部はほぼ直立し、口縁部は強く外反する。口径は15.9㎝を測る。頸部内面には横方向のナデ調整を施しているようである。胴部以下はほとんど残存しない。胎土は本遺跡出土の他の土師器に比べて、やや砂粒を多く含むとの印象を受ける。

69は2460号遺構（住居跡）のカマド脇の土坑（ｓｋ１）内から出土した。口径9.4㎝、器高8.9㎝、底径2.7㎝、胴部最大径9.9㎝を測る小型の甕である。口頸部は斜め上に開き、胴部は球状をなし、底部は小さな平底となる。頸部内面は横方向のハケ調整、胴部内面は指ナデ・指オサエ・ヘラオサエ調整、底部内面は指オサエ調整、外面は摩滅のため調整痕はあまり残らないが、胴部外面は縦方向のハケ調整を基本とし、下端部は斜め方向のハケ調整を施している。

７は2011号遺構（住居跡）の埋土上層から出土した。口径10.0㎝、器高約８㎝、胴部最大径10.0㎝を測る小型の甕である。口縁端部はつまみ上げられ、鋭く直立する。胴部はやや扁平な球状をなす。底部の形状は不明である。口頸部内面に横方向のハケ調整、胴部内面に指オサエ調整、外面は頸部から胴部にかけて縦～斜め方向のハケ調整を施す。胎土は砂粒が少なく目立って精良である。

(4) 製塩土器

製塩に用いる土器であり土師器の一種であるが、甕類とは分けてカウントした。破片数で20点確認された。しかし、極めて小さな破片が多く、甕類との判別は必ずしも容易ではなかったため、実数はこれより多い可能性がある。出土地点はＡ区の2003号遺構（住居跡）・2011号遺構（住居跡）・2341号遺構（住居跡）の３遺構に限られる。

実測可能であったのは2003号遺構（住居跡）から出土した６と2341号遺構（住居跡）から出土した41の２個体のみである。いずれも口縁部の破片である。６は胎土が密で、厚さ約３㎜と薄く、成形も丁寧な印象を受ける。一方、41はやや厚手の造りで、口縁部で厚さ５㎜前後を測る。胎土はより粗く、本遺跡で出土する他の土師器のものと、少なくとも肉眼では見分けがつかない[5]。

(5) 灰釉陶器

本遺跡では灰釉陶器は極めて少なく、破片数で７点、個体としては図示した２個体のほかには確認されていない。Ｃ区の784号遺構（ピット）から出土した373・374はいずれも灰釉陶器の碗であるとみられるが、状態の良い遺物ではなく、施釉の有無も明確ではない。

(6) 北部系山茶碗

本報告書では、灰釉陶器の流れを汲む中世の無釉の供膳具を山茶碗と呼ぶ。器種としては碗と小皿を含むものとする。

山茶碗には尾張・三河・遠江地方の窯業地で生産された「南部系（荒肌手）山茶碗」と、美濃から

瀬戸窯の北西部にかけての地域で生産された「北部系（均質手）山茶碗」の二系統の存在が知られている。北部系山茶碗は、さらに現在の岐阜県東濃地方を中心に生産された「東濃型」と現在の各務原市域で生産された「美濃須衛型」に細分されるが、生産量は東濃型の方が圧倒的に多かったと考えられている。本遺跡で出土する北部系山茶碗も、そのほとんどすべてが東濃型山茶碗である。均質で緻密な胎土を使用し、灰色を呈するのを特徴とする。

本遺跡では古代の土師器に次いで多い遺物で、破片数で2,515点出土した。すべての調査区で出土しており、その内訳は、A区288点、B区42点、C区951点、D区626点、E区608点である。これらの多くは中世の遺構から出土したものであるが、古代や近世の遺構、それに近代以降の攪乱や遺物包含層から混入品として出土したものも少なくない。本遺跡の出土遺物中では、比較的遺存状態の良い遺物が多い。器種は前述の通り碗と小皿に分類できるが、碗の中には小碗と称すべき小型のものが少数ながら含まれる。

型式的に古い段階に属する良好な個体が少ないため上限がやや不明確であるものの、本遺跡では概ね北部系東濃型山茶碗編年で谷迫間窯式から生田窯式に至る遺物が出土している。これは藤澤良祐氏による山茶碗編年の第4型式から第11型式に相当し、現研究段階での年代観では12世紀後期から15世紀後期までの時期に当たる。

碗　171ほか

型式的に幅広い個体が出土しているので器形の個体差は大きいが、斜めに開く体部と平らな底部を持つ点は共通する。底部は高台を有するタイプと無高台のタイプがある。高台がなくなるのは北部系東濃型山茶碗編年では脇之島窯式（藤澤編年の第11型式）以降の特徴とされるが、本遺跡における有高台と無高台の個体の数量比は、ほぼ6対4である。形状面で珍しい個体として、口縁端部が玉縁状となる511（4312号遺構から出土）や380（1274号遺構から出土）を挙げることができる。また、形状は通常の碗と同じであるがやや小型の、小碗と称すべき個体も少数ながら認められる。44号遺構（溝）から出土した249がその良好な例である。卸目の付く個体は出土していない。

次に調整技法について報告する。体部内外面と底部内面に回転ナデ調整を施す。ただし無高台の碗では、体部内面は単なる指による回転ナデではなく、工具によるとみられる凹凸のはっきりした回転ナデが施される個体が少なくない。底部内面には、さらに静止ナデ調整を加える個体とそうでない個体とがみられる。この調整技法は、北部系東濃型山茶碗では大洞東窯式（藤澤編年の第10型式）以降には少なくなるとされる。本遺跡でも全体としてはそうした傾向は認められるが、4250号遺構（土坑）から出土した449、4295号遺構（土坑）から出土した473、4533号遺構（土坑）から出土した582のように無高台の碗でありながら底部内面にナデが認められる個体が少なからずみられる。なお、静止ナデ調整を施している場合、表面をナデにより円滑に調整したというより、底部中央を窪ませるために強く押さえたという印象を受ける個体も多い。底部外面は高台の有無にかかわらず、大多数の個体が回転糸切り痕を残している。板圧痕が認められる個体も多い。3170号遺構（土坑）から出土した204や2390号遺構（住居跡）から出土した56のように、まれに粗いナデ・オサエ調整を施す個体や、3047号遺構（ピット）から出土した1030のように静止ヘラ削り調整を施したとみられる個体があるが、これらはいずれも編年上では古い段階に位置づけられる。高台内外面にはナデ調整を施すのを通例とし、そのまま高台脇の底部外面にまでナデ調整が及ぶものもある。なお、高台端部に籾殻痕が付く個体が

大多数を占める。

焼成は大多数の個体では堅緻で、表面は灰色を呈する。ただし、4250号遺構（土坑）から出土した433や4302号遺構（溝）から出土した502のように、無高台のタイプには焼成があまく灰白色を呈する軟質の個体が少なからずみられる。正確な数量比は求めていないが、本遺跡で出土した無高台の碗のうち1割弱程度が軟質であるように思う。

使用痕については、多くの個体で内面の平滑化が認められる。ほかには、少数ではあるが煤や墨とみられる黒色有機物が付着する個体がある（438）。底部外面に墨書が認められる個体も出土している（377・656・740・780）。文字と判別できるものはなく、すべて簡略な記号状の墨書である。

小皿　174ほか

碗より小型で扁平な器種である。本遺跡では中世前期の段階にみられる高台を持つタイプは出土しておらず、すべて無高台である。胎土は碗と全く同じである。調整技法についても碗と共通しており、体部内外面と底部内面に回転ナデ調整を施し、底部外面には回転糸切り痕を残すのを基本とする。底部内面には、さらに静止ナデ調整を施す個体がみられる。底部外面には板圧痕が認められる個体も多い。

使用痕については、碗の場合と同様、多くの個体で内面の平滑化が認められるが、碗よりも平滑化の度合は顕著であるとの印象を受ける。底部外面に墨書が認められるものが4個体出土している（191・295・296・343）。文字と判別できるものはなく、すべて簡略な記号状の墨書である。

(7) 南部系山茶碗

尾張・三河・遠江地方の窯業地で生産された、砂粒を含む粗い胎土を使用した荒肌手の山茶碗である。器種は碗と小皿がある。

本遺跡の出土遺物中には極めて少なく、わずかに破片数で10点が確認されるにすぎない。このうち9点はB区の3170号遺構（土坑）から出土している。6個体図示した。3170号遺構出土品のうち図示した5個体（210～214）はいずれも碗で、藤澤編年第4～5型式前後の遺物と考えられる。あとの1個体も碗で、C区の608号遺構（溝）から出土した（360）。

(8) 無釉陶器

山茶碗とともに焼成された無釉の鉢が出土している。広義の山茶碗の一器種といえるが、胎土や調整技法が一様ではなく、産地が特定できない個体が少なからず含まれるので、本報告書では山茶碗からは独立させて扱った。B区を除く4地区から破片数で15点出土した。5個体図示した（297・361・454・490・631）。

底部に高台を持ち、台径10cm台を測る大型の器種である。608号遺構（溝）から出土した361では体部下半部外面に縦方向のヘラ削り調整を施しているが、4250号遺構（土坑）から出土した454と179号遺構（特殊）から出土した297では横方向にヘラ削り調整を施している。内面はすべての個体で回転ナデ調整である。胎土は長石や石英を多く含み、山茶碗の碗・小皿に用いられているものとは明らかに異質である。焼成は堅緻で青灰色に近い灰色を呈するものが多い。体部内面の観察可能な個体では、いずれも使用による内面の平滑化が著しい。なお、擂目を有する個体は出土していない。

(9) 古瀬戸系施釉陶器（古瀬戸）

瀬戸の窯業地を中心に生産された中世の施釉陶器である。美濃でも生産されているが、本報告書では瀬戸産と美濃産とを分けることは行っていない。

破片数で315点出土した。地区別では、A区13点、C区85点、D区131点、E区86点で、B区では出土していない。中世の遺構から山茶碗などとともに出土するケースがほとんどである。古瀬戸を用途別に分類すれば、供膳具・調理具・貯蔵具・茶道具・化粧具・神仏具・その他、以上に大別される。本遺跡で確認された器種は次の通りである。

供膳具　平碗・縁釉小皿・小鉢・腰折皿・碗型鉢
調理具　折縁深皿・卸目付大皿・直縁大皿・卸皿・擂鉢、擂鉢型小鉢・内耳鍋
貯蔵具　壺
茶道具　天目茶碗・茶釜
化粧具　該当するものなし
神仏具　香炉
その他　小壺・水滴

藤澤良祐氏の研究によれば、古瀬戸は大きく3時期に区分される。すなわち、灰釉のみが使用された段階が「古瀬戸前期」、鉄釉の使用が始まり、印花・画花などの文様の最盛期となる段階が「古瀬戸中期」、碗・皿・鉢に代表される日常容器の量産期が「古瀬戸後期」である[6]。この見解に照らせば、本遺跡で出土する古瀬戸は、概ね古瀬戸後期に盛行する器種で占められると言える。釉については、本遺跡での出土遺物では灰釉は灰オリーブ色～オリーブ黄色くらいの淡く明るい緑色のものが目立ち、一方、鉄釉は黒色から錆釉と称すべき褐色のものまで幅が広い。

なお、小破片の場合、より新しい瀬戸美濃大窯製品や瀬戸美濃連房窯製品との判別が難しいものも少なからずみられた。本遺跡では確実に瀬戸美濃大窯製品と言える遺物は極めて少数しか見当たらなかったため、古瀬戸かより新しい時期の遺物か判別の難しいケースでは、共伴遺物に判断の基準を求め、結果として古瀬戸とすることが多かったことを付記しておく[7]。

平碗　330・495・729・758

供膳具である。底部が確認されない個体については、平底末広碗である可能性も存在するが、本遺跡では確実に無高台と判断される個体は皆無であったので、灰釉を施した碗形の器のうち大型品以外は平碗に分類した。

唯一、全形を窺えるのが455号遺構（ピット）から出土した330である。体部外面上半部と内面、それに底部内面に灰釉を施す。体部外面上半部に回転ナデ、体部外面下半部には回転ヘラ削りを施す。内面の調整は釉が厚いためほとんど観察できないが、全面回転ナデと思われる。底部は削り出し高台である。底部内面に重ね焼き痕が認められる。

縁釉小皿　342・362・388・406・415・556・577・609・616～618・620・632・680・717・731・746・748・797・1067

同じく供膳具で、本遺跡の出土遺物中、古瀬戸では最も出土点数の多い器種である。ただし、体部の傾きを求めることの難しい小破片の場合、後述する小鉢と判別し難いことがある。本遺跡で出土し

た縁釉小皿は口径10cm代くらいの小型のものが多い。体部内外面に灰釉を施すのを基本とするが、5019号遺構（ピット）から出土した746など、少数ながら鉄釉を施したものも確認される。施釉範囲は、体部内外面のほぼ上半部全体に及ぶものから口縁部のみに限定されるものまで幅があるが、全体的に内面の方が外面より広く施釉する傾向が認められる。調整については、体部内外面と底部内面に回転ナデを施すが、1274号遺構（土坑）から出土した388のように、底部内面にさらに静止指ナデ調整を加える個体も認められる。底部外面には例外なく回転糸切り痕を残している。底部内面が摩滅により平滑化するものが多い。

小鉢　203・332・679

供膳具である。縁釉小皿よりも直立気味でより長い体部を持つ器種であるが、前述の通り、小破片では縁釉小皿と判別しがたい場合も多い。縁釉小皿とするには違和感のある個体を小鉢として分類した。体部の破片のみ確認されている。体部内外面のほぼ全面に灰釉を施す。調整は体部内外面ともに回転ナデである。

腰折皿　619・681

供膳具である。E区出土遺物中に2個体のみ確認された。体部内外面に灰釉を施す。5009号遺構（土坑）から出土した681は底部外面に回転ヘラ削り調整が認められるが、底部の形状までわかる個体は出土していない。

碗型鉢　526

供膳具に分類した。器形は碗形であるが、平碗より大型で厚手のものを碗形鉢とした。確認されたのは、4405号遺構（溝）から出土した1個体（526）のみである。体部内外面に灰釉を施し、調整は内外面ともに回転ナデである。

折縁深皿　389・507・660・771・785

調理具に分類される。口縁部の残存しない個体については、体部に卸目が確認される場合を除き、折縁深皿・卸目付大皿・直縁大皿のいずれであるかを判別するのはほとんど不可能である。それらについては、観察表では単に「盤類」とするにとどめた。上記3器種では、調整技法や施釉の特徴は共通している。すなわち、調整については、体部外面上半部・体部内面・底部内面に回転ナデ、体部外面下半部・底部外面に回転ヘラ削り調整、そして脚部には指オサエである。施釉については、灰釉を体部上半部の内外面に施す。本遺跡の出土品では盤類に鉄釉を施した例は確認されていない。底部内面が摩滅し平滑化するものが多い。

折縁深皿は、盤類のうち、屈曲して強く外反する口縁部を持ち、口縁部内面に小突帯を有する器種である。全形を窺える個体として1274号遺構（土坑）から出土した389を挙げることができる。調整や施釉の特徴は上記の通りである。

卸目付大皿　267・384・580・730・767・1063

折縁深皿に似る器形の調理具である。体部内面の卸目が確認できる個体は4531号遺構（溝）から出土した580など、ごく少数に限られる。これ以外は内面に小突帯を有する口縁部形状から卸目付大皿と判断した。全形を窺うことのできる個体は出土していない。

直縁大皿　317・395・462・759

調理具である。直線的に開く口縁部を持つ。全形の窺える個体は出土していないが、比較的残りの

良いものとして、402号遺構（ピット）から出土した317がある。317では体部外面の回転ヘラ削りの範囲は比較的狭く、体部外面下端部に限定されている。

卸皿　202・387

盤類より小型の調理具である。出土点数が少なく、良好な個体はない。体部上半部内外面に灰釉を施す。体部内外面に回転ナデ調整を施す。内面に卸目を刻んでいる。

擂鉢　257・363・366・423・493・494・497・508・513・537・545・548・549・551・553・565・578・579・661・714・715・728・760・761

調理具で最も多く出土した器種である。全面に錆釉を掛け、体部内外面と底部内面に回転ナデ調整を施し、底部外面には回転糸切り痕を残すのを基本とする。ただし、内面の調整は摩滅により読みとれないものが多い。擂目は体部内面のみのもの（513）と、底部内面にも施すもの（508・549）とがある。擂目の単位は10本前後のものが多い。体部下端部付近の内外面に、径1～2㎝くらいの楕円形の砂塊の融着や変色部が認められることがある（257・508・549）。これは重ね焼き痕と考えられる。また、体部外面の下端部に指圧痕（548・715）や紐圧痕（257）が認められるものがある。これらは成形後、焼成前に移動のために持ち上げた際についたものと推測される。

口縁部の形状からは次の7タイプに分けられる。口縁端部が内側に大きく屈曲するもの（578）、口縁端部が内側に少し屈曲するもの（363・497・537・553）、口縁端部が体部から直線的に延びるもの（493・551・579）、口縁端部内側が肥厚し丸みを帯びるもの（423・494・565・760・761）、口縁端部が内側に鋭く屈曲し、さらに口縁部内側に鋭い小突帯が巡るもの（728）、口縁部内側に丸みを帯びた小突帯が巡るもの（545）、口縁部内側に鋭い小突帯が巡るもの（714）。これらのほとんどは藤澤良祐氏による古瀬戸編年で古瀬戸後期の擂鉢の口縁形状とされるものの範疇に収まるが、大窯製品との判別が難しい個体も含まれる。

擂鉢型小鉢　512

調理具に分類した。4312号遺構（土坑）から出土した512は、口縁の形状や施釉などは擂鉢と変わりないが、口径が推定18㎝台と小型であるので、擂鉢型小鉢に分類した。口縁部のみの小破片のため、擂目の有無は不明である。

内耳鍋　364・365

調理具に分類した。608号遺構（溝）から出土したこの2個体は同一個体である可能性がある。その場合、ほぼ全形を窺うことができる。口径22.4㎝を測る。全面に薄い錆釉を施しているとみられるが、内面の釉は極めて薄い。調整は体部内外面と底部内面に回転ナデを施すが体部外面下端部は回転ヘラ削りである。底部外面は剥離が著しいため調整は不明である。胎土は径4㎜くらいまでの砂粒を含み、他器種のものに比べ明らかに粗い。

金子健一氏による分類で「内耳鍋A類」とされるタイプとみられ、内耳は残存していないものの、本来は口縁内側の受口部の2箇所に粘土紐が横方向に渡しつけられたと推測される[8]。

壺　223・496・538・610・732

貯蔵具である。壺の破片は5点図示できた。耳の数が確認できる個体はないので、四耳壺その他の有耳壺の可能性のあるものも、ここでは一括して壺としておく。223（33号遺構から出土）・496（4298号遺構から出土）・610（5001号遺構から出土）・732（5012号遺構から出土）は内外面に灰釉を

施すが、538（4410号遺構から出土）は外面のみに暗褐色の鉄釉を施している。内外面の調整はいずれも回転ナデである。

天目茶碗　190・385・414・584・716・776・1065

抹茶を飲むための茶碗で、茶道具である。瀬戸美濃大窯・連房窯製品にもみられる器種であるので、全形の復元の不可能な小破片である場合、他器種にも増して古瀬戸製品と大窯以降の製品を完全に分けることは困難である。したがって、古瀬戸の天目茶碗として報告するものの中には帰属時期が近世にまで下るものが含まれる可能性があることを付記しておく。

体部から底部にかけての内面全面と体部外面の上半部（個体によっては下端部を除く体部の大部分）に厚く鉄釉を施し、体部外面下半部と削り出し高台である底部外面には回転ヘラ削り調整を施すのを基本とする。体部外面下半部と底部外面に薄い錆釉を施す例もある（776）。残りの良い個体では内面に茶筅痕とみられる細かい筋状の使用痕が認められることもある（385）。なお、2134号遺構（ピット）から出土した190は小型の天目茶碗、いわゆる小天目とされる器種と思われる。

茶釜　367

火にかけて湯を沸かす器具と思われる。茶道具に分類した。本遺跡から出土したのは608号遺構（溝）から出土した367のみであるが、これはほぼ全形を窺える個体である。球状の胴部に短く直立する頸部が付く。胴部最大径付近に鍔が貼り付けられる。底部は平底である。口径は10.0㎝を測る。全面に錆釉を施し、体部内外面と底部内面に回転ナデ調整を施す。底部外面には回転糸切り痕を残す。

香炉　175・386・555

主に仏壇で香を焚くのに用いられた神仏具である。2009号遺構（溝）から出土した175と4425号遺構（ピット）から出土した555は、体部の小破片のため詳細不明ながら香炉に分類した。175は体部外面上半部と体部内面に灰釉を施す。調整は内外面ともに回転ナデである。555は外面にノミ状工具によるとみられる刻文を施している。内面の調整は回転ナデである。

1274号遺構（土坑）から出土した386は袴腰形香炉である。口縁部内面と体部外面上半部に暗褐色の鉄釉を施す。調整は内外面ともに回転ナデである。

小壺　554

上記のどの分類にも属さず、その他扱いとなる器種である。4425号遺構（ピット）から出土した554は、耳は残存しないが双耳小壺となる可能性がある。体部内外面と底部内面に鉄釉を施す。調整は、底部内外面と底部内面に回転ナデを施している。底部外面に回転糸切り痕を残している。

水滴　335

C区の掘立柱建物跡ＳＨ１の柱穴（499号遺構）の掘形埋土中から、鳥形水滴（335）が１個体出土した。硯に水を注ぐために使われる特殊器種である。頭部と尾部を欠くが胴部はほぼ完存する。胴部上半部には削り出しと貼り付けによって折り畳んだ翼を写実的に表現し、鉄釉を施している。胴部下半部の露胎部にはナデ・オサエ調整が認められるが、使用に伴って生じたとみられる摩滅も認められる。底部外面には回転糸切り痕を残している。頭と尾を立てて水面に浮かぶガンカモ科などの水鳥をモチーフとしていると考えられる。前章で記したように、掘立柱建物跡ＳＨ１から出土した山茶碗は型式的にばらつきが大きく、第８～11型式前半（北部系東濃型山茶碗編年の大畑大洞窯式～脇之島窯式）の特徴を示しているので帰属年代を厳密には特定できないものの、古瀬戸後期の14世紀後期～15

世紀中期頃の製品と思われる。

同種の遺物の出土例は少数ながら知られており、例えば、愛知県埋蔵文化財センターが調査を行った瀬戸市鴬窯跡（14～15世紀）から、これよりやや大型で形状や釉調が類似する完形に近い個体が出土している。実測図にはこの類似品から類推した推定復元図を付しておいた[9]。

(10) 輸入磁器

破片数で13点出土した。地区別ではC区7点、D区4点、E区2点で、A区とB区では出土していない。9個体を図示した。

本遺跡で出土した青磁碗はいずれも龍泉窯系とみられる。255（44号遺構から出土）・408（4078号遺構から出土）・663（5006号遺構から出土）は体部外面に鎬連弁文を施すタイプ、319（407号遺構から出土）は体部外面に連弁文を施すタイプ、そして338（509号遺構から出土）・527（4405号遺構から出土）は体部外面に雷文帯を施すタイプである。467（4294号遺構から出土）は底部のみの破片であり、底部外面の調整が磁器としては粗い。

1274号遺構（土坑）から出土した390は白磁壺の胴部破片である。4023号遺構（ピット）から出土した398は青白磁の合子か小壺の蓋である。

(11) 中世常滑陶器

破片数で20点を数えるが、時期を特定するのが困難な小破片のみであり、図示できる個体はない。地区別ではC区14点、D区4点、E区2点である。

(12) 中世土器煮炊具

4090号遺構（ピット）から伊勢型鍋の口縁部破片（409）が出土した。中世の土器煮炊具と考えられる遺物は、この1個体が確認されたのみである。

(13) 中世土師器皿

「かわらけ」と通称される軟質の土器皿である。破片数で426点を数える。地区別ではA区11点、B区1点、C区41点、D区213点、E区160点となり、中世の他の遺物以上にD区とE区に集中する傾向が窺える。

本遺跡の出土遺物の中でも特に摩滅が著しく、良好な個体は少ない。そのため、全体形状の復元や調整技法の観察を十分行うのは困難であった。調整に関して言えば、体部外面の指オサエの有無は半数程度の個体についてかろうじて観察可能であったが、ナデ調整の有無についてはほとんど観察不能であった。したがって、遺物観察表の所見欄には、観察できた範囲での所見のみを記してある。また、口径や底径を正確に求められる個体はごく少なく、記入した値は他の遺物の場合よりも大きな誤差を含むとみられる。

土師器皿の場合、中世の他の遺物に比べて地域間での差異が大きく、加えて個体間の均質性は小さいとみられる。そのため、出土した破片を、破片そのものの特徴から時代別に分けることは容易ではなく、本遺跡のように遺物の残存状況が良好ではない場合にはなおさらそのように言える。したがっ

て、本遺跡で出土した土師器皿の中に古代以前や近世以降の遺物が含まれる可能性は十分考慮しなくてはならない。しかしながら、本遺跡での土師器皿の出土状況を調べてみると、共伴するのは山茶碗や古瀬戸といった中世の遺物である場合がほとんどであり、換言すれば、ほぼ中世の遺構からしか出土していないことが明らかとなる。さらに、共伴遺物から判断する限りでは、山茶碗編年では第8～11型式、古瀬戸編年では古瀬戸後期に相当する時期の遺物が多くを占める傾向を読みとることができる。以上から、本遺跡で出土した土師器皿の大部分は中世後期の遺物であると判断し、破片数のカウント（第70図、付表4）においては、すべて中世の遺物としてカウントしている。

詳細な分類は困難であるので、本報告では便宜的に口径値から分類するにとどめる。口径値の分布傾向を調べてみると、口径7～8㎝台と10～12㎝台にピークが認められ、例外的に口径14㎝を越える個体がみられるとの結果が得られる。そこで、口径8㎝台までを小皿、口径9～13㎝台を中皿、口径14㎝を越えるものを大皿としておく。胎土による分類は今回は行っていない。表面の色調は灰白色～黄橙色のものが多いが、より黒っぽく褐灰色（683）、灰黄色（736）、黄灰色（581）のものもみられる。食器として使用されるのを基本としたと思われるが、使用痕を読みとるのは困難であった。口縁部に黒色有機物が付着する個体がみられ（567・621・733・788）、これらは灯明皿として使用されたと考えられる。

なお、本遺跡で出土した土師器皿はすべて手づくねによって成形されたもので、ロクロ成形によるものは1点も確認されていない。

(14) 産地不明の中世陶器

図示できたものはないが、以上の分類に収まらないと判断される産地不明の中世陶器が極めて稀にではあるが出土している。破片数では4点を数える。断定はできないものの、中世の美濃須衛窯産の無釉陶器とみられる小破片が2074号遺構（土坑）から1点出土している。また、中世の信楽産陶器の可能性のある小破片が、同じく2074号遺構（土坑）から1点出土している。

(15) 瀬戸美濃大窯陶器

古瀬戸や後述する連房窯陶器に比べて格段に点数は少ないながら、瀬戸美濃大窯製品の陶器も出土している。確認できた破片数は8点であるが、古瀬戸や瀬戸美濃連房窯陶器と判別できなかった小破片がこれ以外にもあった可能性があり、実数はもう少し多いと思われる。供膳具と調理具が確認されている。

供膳具では、E区の5012号遺構（溝）から天目茶碗（738）と稜碗（737）が出土した。また、E区のJ39グリッド包含層から重圏皿（1068）が出土している。近世の溝であるC区の1号遺構出土遺物中に、大窯期の碗とみられるものが1点混入している（977）。

調理具では、5103号遺構（ピット）から出土した擂鉢1点（789）を大窯製品と考えてよいと判断した。このほか古瀬戸か大窯か判別が難しい擂鉢の破片は少なからずみられたが、はっきり大窯製品と確認できるもの以外は、とりあえず古瀬戸としてカウントしてある。

(16) 瀬戸美濃連房窯陶器

本遺跡の近世遺物で最も多いのが瀬戸美濃連房窯陶器である。破片数で1,738点を数える。地区別

ではA区922点、B区16点、C区698点、D区78点、E区24点となり、A区とC区に著しく偏る傾向を見せている。特にA区の2074号遺構（土坑）とC区の1号遺構（溝）でまとまった量の遺物が出土している。なお、個体によっては胎土や施釉の特徴から瀬戸の製品と美濃の製品を判別できるケースもあったが、大部分の個体については判別が難しいと判断して、本報告書では両者を区別せずに扱っている。本遺跡で確認された器種を、古瀬戸と同様に用途別に分類すると次のようになる。

供膳具　碗（天目茶碗を除く）・湯呑・皿（灯明皿・紅皿を除く）・小碗・小杯・染付鉢
調理具　鉢（練鉢・捏鉢・片口鉢）・擂鉢・土瓶・土瓶蓋・土鍋
貯蔵具　甕・半胴・壺・小壺・徳利・小瓶・水注・汁次・蓋
茶道具　天目茶碗・茶入・茶釜
化粧具　鬢盥
神仏具　香炉・仏餉具・花瓶
その他　十能・灯明皿・火入・火鉢・植木鉢・蓋

藤澤良祐氏の研究によれば、近世瀬戸窯の陶磁器生産は3段階11小期に分類できるとされている。すなわち、第1段階（第1～4小期、近世前期）が17世紀第1四半期頃～17世紀後葉頃、第2段階（第5～7小期、近世中期）が17世紀後葉頃～18世紀中葉頃、第3段階（第8～11小期、近世後期）が18世紀第4四半期頃～19世紀第4四半期頃とされる。本遺跡で出土した瀬戸美濃連房窯陶器では第3段階（近世後期）に属するものが多数を占めることは、器種組成面からも個々の型式的特徴からも明らかである[10]。

碗　799ほか

主に飯碗として用いたと考えられる口径約9㎝以上の碗形の器種。ただし、茶道具として用いられる天目茶碗を除く。44個体図示したが、総じて近世後期に属するものが多い。

特徴的なものとして、体部外面に柳の鉄絵を描いた柳茶碗（799・800・865・880・898・899）、呉須絵を施した染付碗（457・896・897・1052）、高い高台を持つ染付碗である広東茶碗（801・863・864・891～895・1006・1007）、それに体部外面に回転施文を加えた鎧茶碗（802）などがある。

湯呑　907ほか

主に煎茶を飲むのに用いたと考えられる口径9㎝台前後の碗を湯呑とする。35個体図示した。
特徴的なものとして、体部外面に回転施文を加えた鎧湯呑（907・1051）、呉須絵を施した染付湯呑（821～823・860・908～910・1009・1010）などがある。

皿　667・826・827・867・881・913～918・985・1002・1034・1055

供膳具の皿は15個体図示した。特徴的なものとして、呉須絵を施した染付皿（867・917・1055）、鉄絵の摺絵を施した摺絵皿（826・881・1034）などがある。多くの個体は近世後期に属すると言えようが、例外的にそれより前に遡るものとして、鉄絵皿（918）、菊皿（916・1002）、反り皿（985）を挙げることができる。

小碗　808～810

口径約5㎝～9㎝の小型の碗を小碗とした。図示したのは3個体（808～810）で、いずれも2074号遺構（土坑）から出土している。本遺跡の出土品では珍しいことだが、809は外面に銅緑釉を流し掛けている。

小杯　919・1056・1057

主に酒杯として用いられたと考えられる口径5㎝未満の碗を小杯とした。図示した3個体のうち、919は1号遺構（溝）から、1056と1057はA区の攪乱層から出土した。

染付鉢　825

鉢は基本的には調理具であるが、染付鉢のみは供膳具と考えるべきであろう。2074号遺構（土坑）から出土した825は、内外面に呉須絵を施している。

鉢　828～833・856・857・920～927・993・1048・1049

調理具である。ここでは擂鉢以外の器種となるものを一括する。これらは練鉢・捏鉢・片口鉢などとなろうが、全形を窺うことはできない個体についてはあえて分類していない。833は片口鉢、927・993・1048は練鉢とみられる。出土地点は、828～833が2074号遺構（土坑）、856と857が2203号遺構（溝）、920～927が1号遺構（溝）、993が1013号遺構（井戸）、1048と1049がA区の攪乱層である。

擂鉢　834～837・870・871・873・877・928～933・986

同じく調理具である。15個体図示した。931と933が近世前期にまで遡るとみられるのを例外として、概ね近世後期の遺物で占められる。出土地点は、834～837が2074号遺構（土坑）、870と871が2219号遺構（溝）、873が2243号遺構（井戸）、877が2422号遺構（土坑）、928～933が1号遺構（溝）、986が975号遺構（土坑）である。

土瓶　934・935・982・983・995

湯を沸かしたり茶を煮出すのに用いる調理具で、近世後期に現れる器種とされる。全形の窺える個体はない。出土地点は、934と935が1号遺構（溝）、982と983が790号遺構（土坑）、995が1013号遺構（井戸）である。

土瓶蓋　1058

土瓶の蓋も出土している。図示した1058は、内面に返りを持ち、頂に摘みを持つ。A区の攪乱層から出土した。

土鍋　994

保温性が良いことから鍋物などの調理に用いたとされる。図示した994は耳の残る個体で、1013号遺構（井戸）から出土した。

甕　875・1047

主に液体を貯蔵するのに用いたと考えられる大型貯蔵具。全形の窺える個体は出土していない。875は2250号遺構（土坑）、1047はA区の攪乱層から出土した。

半胴　838

水甕の一種とされる貯蔵具。図示した838は内外面に光沢のある暗赤褐色釉（柿釉）を施している。2074号遺構（土坑）から出土した。

壺　936～939・941・1011・1050

同じく貯蔵具である。甕との判別は必ずしも明確ではない。1011のみ有耳壺であることが確認される。出土地点は、936～939と941が1号遺構（溝）、1011が4297号遺構（溝）、1050がA区の攪乱層である。

小壺　868・940

小型の貯蔵具である。868と940は器種の判別が難しい個体であるが、とりあえず小壺としておいた。868は2219号遺構（溝）から、940は1号遺構（溝）から出土した。

徳利　839～843・942・992

主に酒を貯蔵する容器である。貯蔵具では最も多数出土した器種である。破片は相当数出土しているものの、全形の窺える個体はない。施釉は、図示した7点について言えば、992が灰釉系で、それ以外は鉄釉系である。出土地点は、942が1号遺構（溝）、992が1013号遺構（井戸）、残る5点が2074号遺構（土坑）である。

小瓶　945～947・1001

液体を貯蔵する小型の貯蔵具である。1号遺構（溝）から出土した945・946と1100号遺構（ＳＨ7の柱穴）から出土した1001は、小瓶であると推定した。1号遺構（溝）から出土した947は外面に呉須絵を施す染付小瓶である。

水注　944

液体を入れて一時貯蔵し、別の器に注ぐのに用いたとされる貯蔵具である。1号遺構（溝）から出土した944は、注ぎ口は残ってはいないが水注であるとみられる。体部外面に赤褐色の鉄釉（飴釉）、体部内面と底部内面には光沢のある薄い鉄釉（錆釉？）を掛けている。底部外面には回転ナデ調整が認められる。

汁次　943

水柱に似るが、やや大型の貯蔵具である。1号遺構（溝）から比較的良好な個体が出土している。943は内面全面と下端部を除く体部外面に灰白色の灰釉を掛け、体部外面下端部と底部外面には回転ヘラ削り調整を施している。底部は碁笥底である。

貯蔵具の蓋　948

貯蔵具の蓋とみられるものが1号遺構（溝）から出土している。948は落とし蓋で、全面に薄い錆釉を掛けている。体部内外面と底部内面に回転ナデ調整を施し、底部外面には回転糸切り痕を残している。

天目茶碗　739・949・950・1033

抹茶を飲むための茶碗である。茶道具に分類した。4点図示したが、全形を窺えるのは1号遺構（溝）から出土した949のみである。内面全面と下端部を除く体部外面に暗赤褐色の鉄釉を施す。削り出し高台で、底部外面には回転ヘラ削り調整を施している。5012号遺構（溝）から出土した739には、鉄釉の上に灰釉の流し掛けが認められる。

茶入　952

茶を貯蔵する茶道具である。1点のみ図示した。952は内面と下端部を除く外面に黒褐色の鉄釉を施し、底部外面には回転糸切り痕を残している。1号遺構（溝）から出土。

茶釜　951

火にかけて湯を沸かす器具。茶道具に分類した。1号遺構（溝）から出土した951が確認された唯一の個体である。粗い胎土を用いており、外面と口頸部内面に暗赤褐色の錆釉、胴部内面には薄い透明釉を施している。

鐎盥　953

化粧具に分類される器種で出土したのは鬢盥のみである。整髪料を入れ、櫛を浸すための容器である。1号遺構（溝）から出土した953が、本遺跡で確認された唯一の個体である。体部外面に鉄絵の擂絵を施し、内面と下端部を除く体部外面に灰釉を掛けている。

香炉　846・847・954～959・981

主に仏壇で香を焚くのに使用される神仏具である。出土点数は少なくはないものの、全形の窺える個体はみられない。施釉についてだけふれておくと、846のみが灰釉で、それ以外の個体では鉄釉系の釉を掛けている。黒色より赤味や黄色味が強い、いわゆる飴釉が大半を占めている。

仏餉具　960

主に仏壇に飯を供えるのに使用される神仏具である。確認されたのは1号遺構（溝）から出土した960のみである。脚部を欠く個体である。内外面に黒色の鉄釉を施している。

花瓶　961

主に仏壇の両脇に花を飾るための器種である。神仏具に分類した。1号遺構（溝）から出土した961は口頸部のみの破片であるが、花瓶と推定した。内外面に黒色の鉄釉を施し、外面には白濁釉を流し掛けている。

十能　858

858はカマドなどで灰を移動させる道具である十能と判断した。内外面に回転ナデ調整が認められ、側面にはヘラ削り調整が認められる。ロクロ回転で造った円筒を分割して成形したと推定される。内外面に錆釉を施す。2218号遺構（溝）から出土。

灯明皿　1025・1053・1054

灯明具としての使用を目的として作られた皿。施釉はいずれも鉄釉系で、1054はにぶい赤褐色釉、1025と1053は錆釉である。1053と1054では、重ね焼き時の融着を防ぐためか、底部外面の釉をぬぐい取っていることが確認される。

火入れ　476

476は煙草の火種を入れる喫煙道具である火入れと判断した。外面と口縁部内面に淡く明るい緑色の灰釉を掛け、外面には印花文を施している。4295号遺構（土坑）から出土した。

火鉢　844・845

中に灰と炭火を入れて暖房用に用いる鉢である。844と845は、いずれも2074号遺構（土坑）から出土した。内側に屈曲する口縁部を特徴とする。黒色の鉄釉を外面に掛けており、844では内面上端部に及んでいる。図示はしていないが、同様の遺物は1号遺構（溝）からも出土している。

植木鉢　869

中に土を入れ、植物を植える鉢である。確認されたのは2219号遺構（溝）から出土した869のみであるが、この個体はほぼ全形を窺うことができる。口縁部内面と底部を除く外面に黒色の鉄釉を施す。調整は、体部内面が回転ナデ、底部外面が回転ヘラ削りであることが確認される。底部中央に穿孔が認められる。

蓋　1000

類例不明ながら近世の蓋と推定される個体を1個体図示する。1000は全形を窺うことはできないが、とりあえず円盤状に復元できると推定しておく。外面に灰白色の灰釉を施す。内面の調整は回転ヘラ

削りである。1095号遺構（ＳＨ７の柱穴）から出土した。

(17) 近世常滑陶器

「赤物」と呼ばれる常滑産の軟質の陶器が、破片数で1,367点出土している。地区別ではＡ区946点、B区１点、Ｃ区300点、Ｄ区119点、Ｅ区１点である。破片数では本遺跡の遺物中でも非常に多い部類に入るものの、大型器種が主体であるので個体数としてはさほど多くはならないと思われる。また、近代以降の製品を分別することが事実上できなかったため、上記の破片数には近代以降の遺物が相当数含まれる可能性が高い。

大部分の破片は摩滅が著しいが、比較的状態の良い個体では、表面が胎土より赤味がかった発色となることが確認されるものが多い。これは鉄分を多く含有する赤土を水に溶かし、素地に塗布する化粧掛けによるものとされている。全形を窺うことのできる個体は少ないが、甕・鉢・蓋を確認した。器種毎の破片数は求めていないものの、上記三器種では甕が最も多いとみられる。2074号遺構（土坑）から出土した比較的状態の良い口縁部破片２個体分を図示した（850・851）。鉢は全形を窺うことのできる個体が2074号遺構（土坑）から出土した（852）。また、完形に近い蓋がＡ区の包含層から１点出土している[11]（1061）。

(18) 瀬戸美濃磁器

本報告書では、近世磁器については大きく瀬戸美濃磁器と肥前磁器に分け、どちらとも判別できないものはそれ以外の産地の製品である可能性が高いと考えて産地不明磁器に分類した[12]。瀬戸美濃の製品とみられる磁器はこの中では最も多く、破片数で127点を数える。地区別ではＡ区94点、Ｃ区28点、Ｄ区５点となり、Ｂ区とＥ区では出土していない。産地不明磁器とした遺物中に瀬戸美濃磁器が含まれる可能性があるので、実数はこれよりやや多くなると思われる。陶器同様、瀬戸の製品と美濃の製品とを分けてはいない。陶器と同じ基準で分類したが、器種は陶器に比べ限定されている。供膳具のみ確認されている。

供膳具で確認された器種には、碗・小碗・湯呑・皿がある。碗はすべて染付碗で、器形により分類するならば、端反碗・丸碗・広東茶碗の３種に分けられる。端反碗は、4297号遺構（溝）から出土した1013と１号遺構（溝）から出土した963・964、丸碗は2454号遺構（土坑）から出土した879、そして広東茶碗は4197号遺構（ピット）から出土した1012と１号遺構（溝）から出土した962である。Ａ区の撹乱層から出土した1059も、やや扁平ではあるが広東茶碗とみることができよう。１号遺構（溝）出土遺物のうち、969と970は染付小碗とした。湯呑は４点。4165号遺構（ピット）から出土した1043は染付箱形湯呑である。１号遺構（溝）から出土した３個体の染付湯呑は端反形である（965・966・967）。皿には、やはり１号遺構から出土した白磁皿１個体がある（968）。

(19) 肥前磁器

肥前磁器と考えられる遺物は、破片数で16点認められた。産地不明とした遺物中に肥前磁器が含まれる可能性があるので、実数はさらに多くなると思われる。地区別ではＡ区９点、Ｃ区３点、Ｄ区４点となり、Ｂ区とＥ区では出土していない。やはり同じ基準で分類した。供膳具・貯蔵具・化粧具が

確認された。

供膳具では、碗・小碗・湯呑・皿・小杯が確認されている。A区の攪乱層からの出土遺物のうち、1060は肥前磁器の碗と判断した。染付端反碗である。2074号遺構（土坑）から出土した1個体は、小碗に分類した（849）。体部外面と底部外面に呉須絵を描いた染付小碗である。湯呑に分類した1個体は、外面に青磁釉を掛け、内面には「四方襷」の呉須絵を描いて透明釉をかけた染付青磁である（874）。2243号遺構（井戸）から出土した。このほか、2219号遺構（溝）から出土した872と4297号遺構（溝）から出土した1014が肥前磁器である可能性が高い。確認された皿は1点のみである。内面に「山水風景」、外面に「唐草文」の呉須絵を描いた染付皿である（1015）。4297号遺構（溝）から出土した。

貯蔵具としては、1号遺構（溝）から出土した染付小瓶1個体（971）を挙げることができる。外面に「蛸唐草」の呉須絵を描いている。高台端部に砂の融着が認められる。

化粧具では、2074号遺構（土坑）から出土した紅皿1個体（848）を肥前磁器と推定した。貝殻状に型押し成形されており、内面全面と口縁部外面に白色の釉を掛けている。

（20）産地不明磁器

胎土や呉須絵の色調やにじみ具合、それに器形などから、産地を瀬戸美濃・肥前のいずれとするにも違和感のある近世磁器を産地不明磁器とした。破片数で74点を数える。地区別ではA区9点、B区2点、C区56点、D区7点である。なお、E区では産地不明磁器も含め、近世磁器は全く出土していない。供膳具と調理具がある。

973・974は染付碗、975は染付小碗、976は染付湯呑、972は供膳具とセットになるとみられる染付蓋である。以上は供膳具である。これらはすべて1号遺構（溝）から出土した。なお、これらの中には瀬戸美濃産である可能性が高いものも含まれることを付記しておく。

調理具としては、1013号遺構（井戸）から出土した染付澗徳利とみられるもの1個体（996）を挙げることができる。

（21）近世土器煮炊具

焙烙の破片とみられる小破片がA区で6点、C区で4点、合わせて10点出土しているが、図示できたのは1号遺構（溝）から出土した1個体のみである（978）。表面は橙色を呈し、外面には煤が付着している。

第3節　その他の遺物

本節では土器・陶磁器類以外の遺物と近代以降の遺物について報告する。

（1）埴輪

小破片4点が出土した。すべてA区で出土しており、他地区では全く出土しなかった。出土地点は853～855が2074号遺構（近世の土坑）、24が2216号遺構（7世紀の竪穴住居跡）であり、いずれも混入品である。近隣に古墳が存在したことを示唆するものであるが、今回の調査区内では古墳やその関

連施設と思われる遺構は検出されていない。

4点とも窖窯で焼成された須恵器質の「尾張型埴輪」と呼ばれる円筒埴輪である。調整技法についても4点とも共通しており、内面は横方向のハケ調整、外面には縦方向のハケ調整の後、横方向のハケ調整を施し、突帯とその上下には横方向のナデ調整を施している[13]。

(2) 石製品

石製品・石器は、A区92点、B区18点、C区62点、D区12点、E区6点、合計190点出土した。ただし、この中には人為的な加工の有無の判断が難しいものも含まれる。年代の分からないものも多い。

特に注目されるものとして、4405号遺構（溝）から出土した石硯（530）を挙げることができる。5点の破片に割れており、全形を窺うことはできないが、平面形は墨汁をためる「海」の側がやや開く台形に復元されよう。表面に使用痕が認められる。粘板岩製である。中世の遺物と考えられる。

100・122・459・987・988は砥石。いずれも砥面は平滑化し、細かな線条が認められる。459は表面のほか左側面・上端面・裏面にも砥面としての使用痕がある。砥面以外の面にも使用に伴う傷や、平滑化が認められる例が多く、100は裏面に、988は右側面に、987は右側面と裏面に、それぞれ認められる。出土地点は、100が3002号遺構（古代の住居跡）、122が3156号遺構（古代の住居跡）、459が4250号遺構（中世の土坑）、そして987と988は975号遺構（近世の土坑）である。

878と1004は石臼。2点とも推定径36.0㎝、高さ5.3㎝を測る花崗岩製の上臼である。878は2422号遺構（土坑）から、1004は1236号遺構（ピット）から出土した。近世の遺物である。

23・224・391・719・1019・1039・1040は石鏃。719のみが無茎鏃で、ほかは有茎鏃である。材質は719と1040がチャート、391が石英、それ以外は下呂石である。これらは遺構内から出土してはいるが、1019は例外として、いずれも混入品とみるべきであろう。1019は2329号遺構（弥生時代の土坑）から弥生土器や下呂石の剥片・残核などとともに出土しているので、弥生時代の遺物と考えられる。

368は無抉式の小型方柱状片刃石斧である。凝灰岩質砂岩製である。やはり弥生時代の遺物とみられる。690号遺構（溝）から出土した。

なお、図示できなかったが、石製の羽口が1号遺構（溝）から1点、1013号遺構（井戸）から1点、合わせて2点出土している。いずれも共伴遺物から帰属時期は近世と考えられる。以上のほかに、図示していないが、剥片や打製石斧も出土している[14]。

(3) 金属製品

鉄滓の破片なども含めて97点出土した。地区別ではA区23点、B区4点、C区47点、D区3点、E区20点である。原型を留めないものが多く、近現代の製品を近世以前の遺物から除外するのは容易でない。そのため、上記の点数には近現代の製品も含まれていると考えられる。

52は鎌。鉄製で、両端部を欠くものの、曲刃鎌とみられる。51は刀子。比較的残りは良く、先端部を欠くものの、柄の大部分と茎が残っている。鉄製である。この2個体は2341号遺構（住居跡）から出土した。いずれも古代の遺物とみてよいであろう。

1013号遺構（井戸）の最下部から、金属製品が比較的良好な状態で出土している。990と991は銭。990は寛永通宝。991は癒着した4枚の銭で、一番表側は寛永通宝であるが、他の3枚については確認

できない。989は煙管。雁首と吸口の間の木質部分（ラウ）も含め、ほぼ完形品である。雁首の首部と吸口はそれぞれ一枚の金属板を巻いて造られている。雁首の脂返しの湾曲は比較的小さいが、火皿はまだあまり小型化していない。以上の特徴から古泉弘氏による煙管分類の第5段階（18世紀後半）の製品とみられる[15]。

(4) 木製品

人為的な加工の有無が明確でないものも含めて、破片数で129点出土した。地区別ではC区119点、D区4点、E区6点である。比較的標高が高く、水のたまりにくい地区であったA区とB区で全く出土しなかったのは偶然ではないと思われる。図示したのは14個体である。柱根・曲物桶底板・円盤状木製品がみられる。

157・336・534・544・557・747・998・999・1042・1046は柱根である。樹種同定の結果、534・544・557・1046がクリ、336がクヌギ節、残りがヒノキであることが判明した。全体に腐食が進んでおり観察が難しいが、544・747・998・1042・1046には工具による加工痕が認められる。供伴遺物などから判断して、157が古代の遺物、336・534・544・557・747・1046が中世の遺物、そして998・999は近世の遺物である可能性が高い。1042は時期不明である。

258～260の3点は58号遺構（井戸）から出土した。同遺構からは曲物の側板の破片も出土したので、曲物の底板か蓋となるとみられるが、摘みや摘みを取り付けるための切り込みは確認されないことから、底板である可能性が高いと判断した。258がモミ属、259がヒノキ、260がコウヤマキと、それぞれ異なる材を使っているとの分析結果を得ている。いずれも中世の遺物である可能性が高い。

786は用途不明の円盤状木製品である。5076号遺構（ピット）から出土した。樹種はヒノキである。中世の遺物である可能性が高い。

なお、木製品については、第5章第2節において樹種同定報告を行っているので参照されたい。

(5) 近世瓦

C区の1号遺構（溝）、D区の4297号遺構（溝）などで、まとまった量の瓦が出土した。これらは共伴遺物から近世の瓦と判断した。総破片数は166点である。地区別では、A区60点、C区68点、D区38点である。1号遺構（溝）から出土した軒桟瓦1個体（979）を図示しておく。

(6) 近現代製品

本報告書では実測図を掲載しないが、破片数で451点の近現代製品を採取した。主として陶磁器類である。これ以外にも現場で取り上げなかった近現代製品は極めて多数に上った。当地では近代以降も人々が居住していたことを示すものである。

なお、近世遺物と近代遺物の間に厳密に一線を引くのは困難であるため、本報告では帰属時期が近代初頭か近世末期かで迷うような遺物については、ほとんどの場合、近世の方に含めておいたことを付記しておく。したがって、近世陶磁器として報告したものの中に近代以降の遺物が含まれることは十分あり得る。

注

1）本遺跡については、遺物数の計量において通常用いられている幾通りかの方法のうち破片数計算法を採用し、接合前破片数のカウントのみを実施した。集計は遺物種別毎に行い、さらに細分して器種毎の破片数を求めることも可能であるとみられたが、実施しなかった。土器類については口縁部計測法による計測も容易であったが、実施していない。このような方針を採ったのは、全出土遺物のうち器種・型式の判別可能な個体の大部分について実測図を掲載することが可能であり、事実上、接合後の個体数の提示に近い報告ができると判断したからである。本報告書で省略した器種毎の数量比や口縁部計測法によるデータ等については、掲載した遺物実測図と遺物観察表をもとに、第三者による計量がほぼ可能なように配慮してある。

なお、試掘確認調査時の出土遺物は、原則としてカウントに含めていない。

2）弥生土器については千藤克彦氏、藤田英博氏、本センター職員松岡千年から助言を受けた。

3）須恵器については、遺物の大部分が小破片であることと、従来の編年研究が見直しの時機に来ている研究状況から、本報告書では特定の編年研究に全面的に依拠して個体個々の編年上の位置づけを明示することは控え、特に特徴のはっきりした遺物や遺物群についてのみ年代推定を行う方法を採った。なお以下の文献を主に参照した。

東海土器研究会 2000『須恵器生産の出現から消滅　猿投窯・湖西窯編年の再構築』

古代の土器研究会 1997『古代の土器5　7世紀の土器』

渡辺博人 1996「美濃の後期古墳出土須恵器の様相　蓋坏の型式設定とその編年試案」『美濃の考古学　創刊号』美濃の考古学刊行会

4）「底部相欠はぎ技法」とは底部上端と胴部下端に器壁半分程の接合部分（のり代部分）を2～3㎝程もち、ある程度時間をおいて半乾燥の状態で接合させる技法である。詳しくは『牧野小山遺跡C地点』（財団法人岐阜県文化財保護センター、1998年）を参照されたい。

5）製塩土器の判別については、堀正人氏から助言を受けた。

6）藤澤良祐 1997「中世瀬戸窯の動向」『財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要　第5輯』財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター

7）古瀬戸の器種の分類については、『古瀬戸をめぐる中世陶器の世界～その生産と流通～』（財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター、1996年）における分類を参考とした。また、器種の判別に当たっては本センター職員小野木学から助言を受けた。

8）金子健一 1996「古瀬戸の鍋・釜」『鍋と甕そのデザイン』東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会

9）鴈窯跡出土の鳥形水滴については、佐藤公保氏と北村和宏氏の御好意により実見する機会を得た。また『埋蔵文化財展　人と技術』（財団法人愛知県埋蔵文化財センター・豊田市教育委員会編、1999年）において写真により紹介されている。

10）瀬戸美濃連房窯陶器の分類については『瀬戸市史　陶磁史篇六』（瀬戸市史編纂委員会、1998年）における分類を参照した。また、本センター職員小野木学から助言を受けた。

11）近世常滑陶器については、中野晴久「常滑窯の研究～近世常滑について～」（知多古文化研究会編『知多古文化研究10　杉崎章先生追悼記念論文集』、1996年）を参照した。また、鈴木正貴氏から助言を受けた。

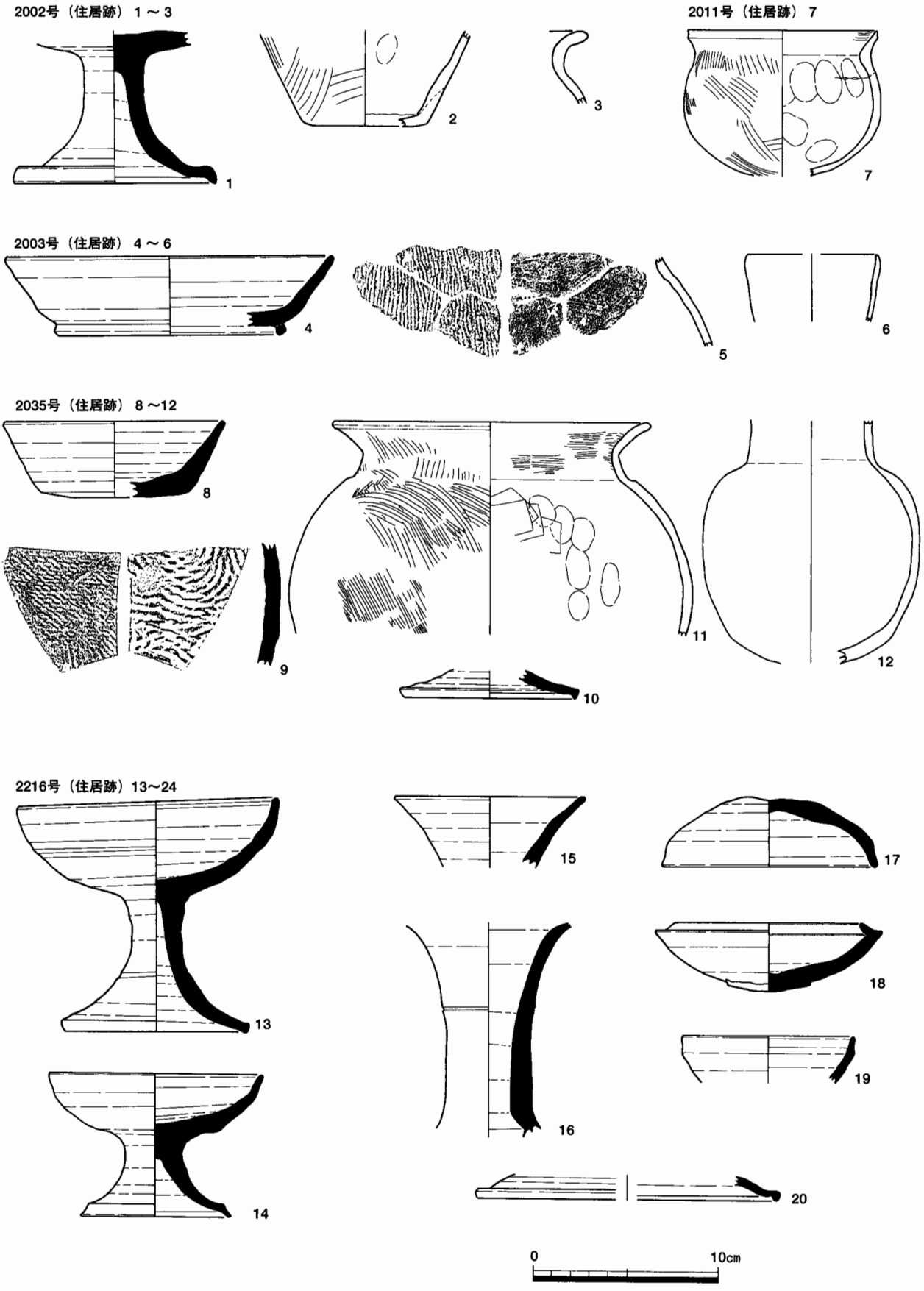
12）近世磁器の産地の判別に当たっては、鈴木正貴氏から助言を受けた。

13）尾張型埴輪については、『池下古墳』（財団法人愛知県埋蔵文化財センター、1991年）を参照した。

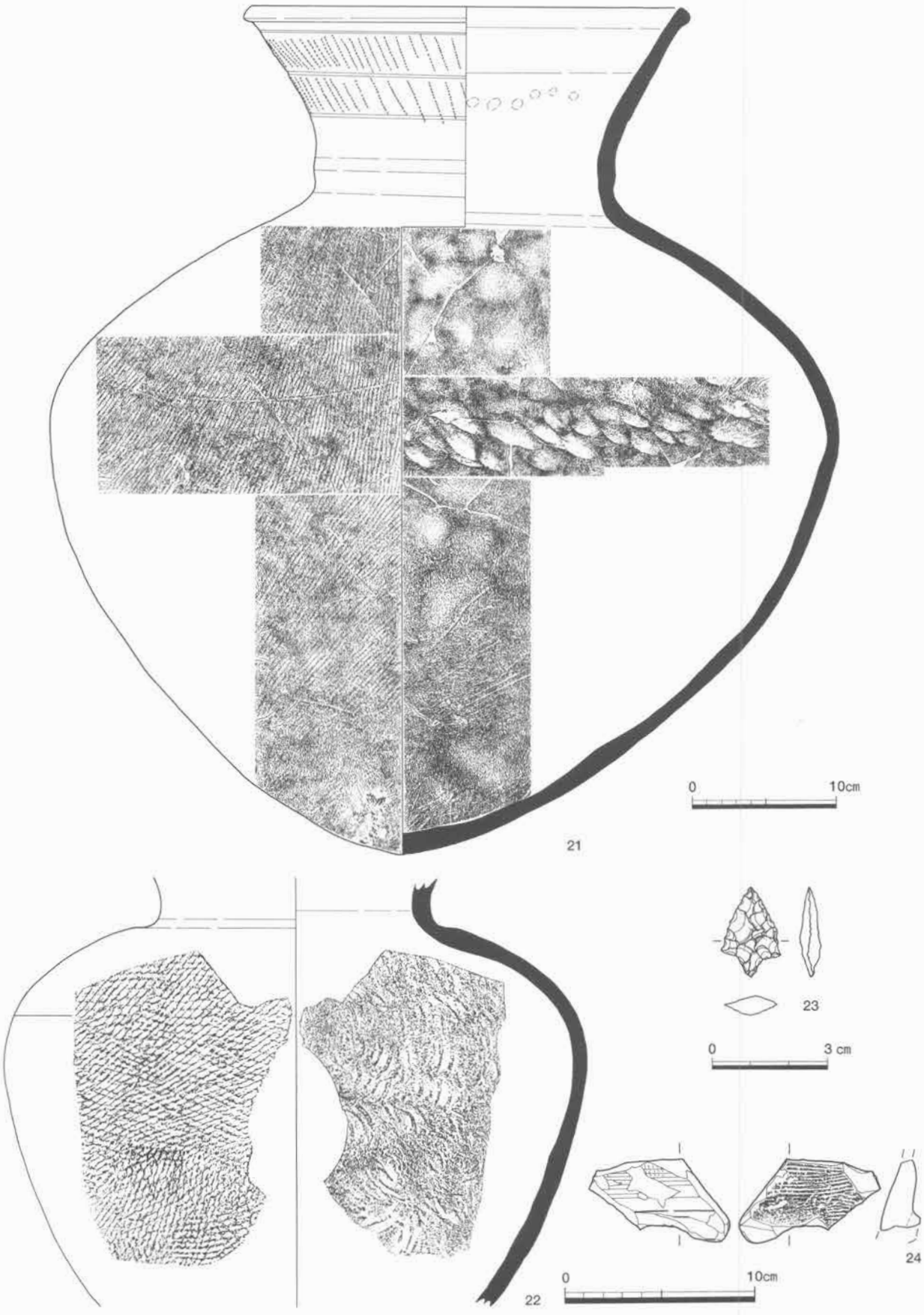
14）368・530の石材の鑑定は、(株)パレオ・ラボの藤根久氏の肉眼観察による。また、石製品については本センター職員三島誠から助言を受けた。

15）古泉弘 1987『江戸の考古学』ニュー・サイエンス社

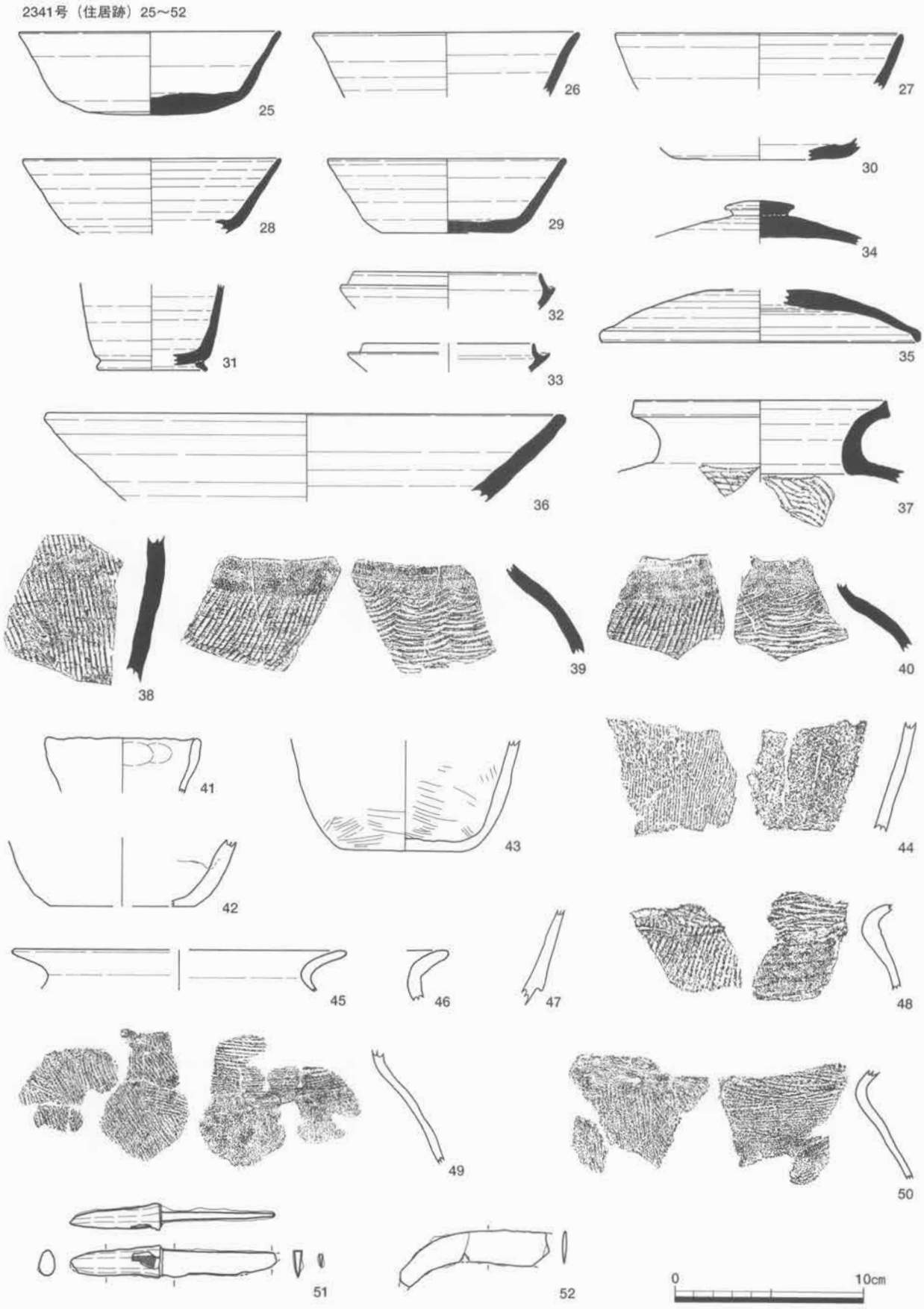
出土遺物実測図



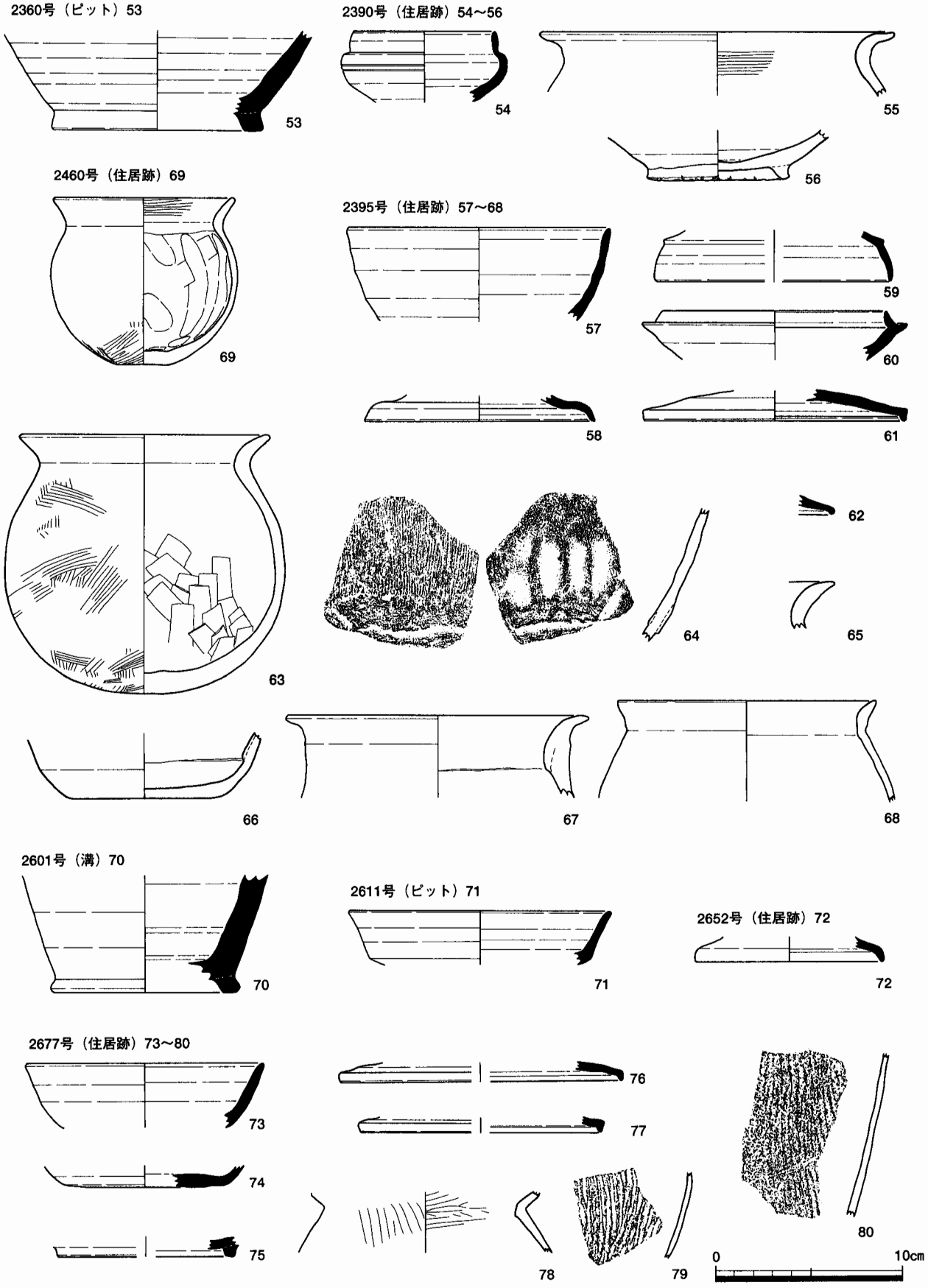
第71図　古代の遺構から出土した遺物（1）



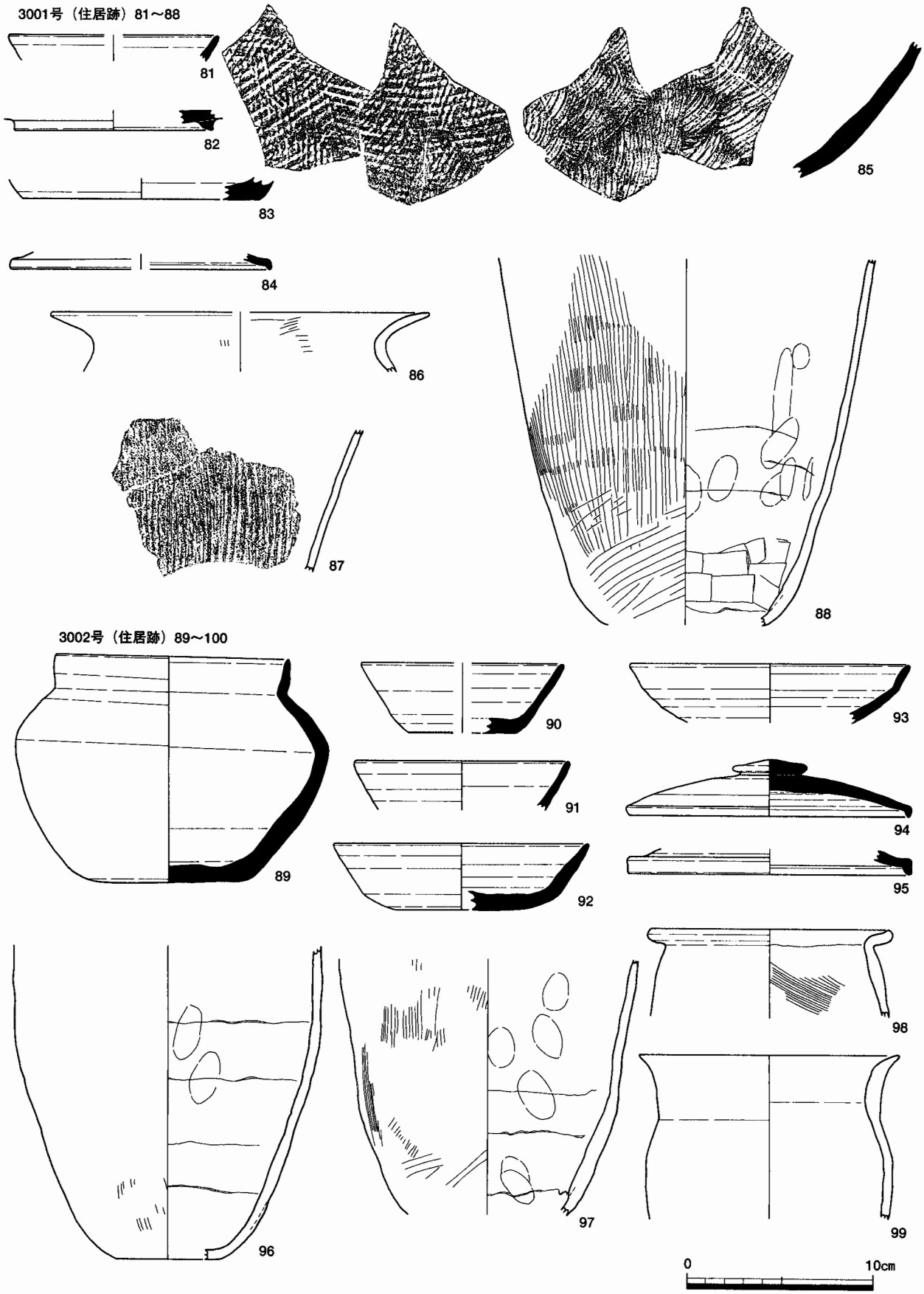
第72図　古代の遺構から出土した遺物（２）



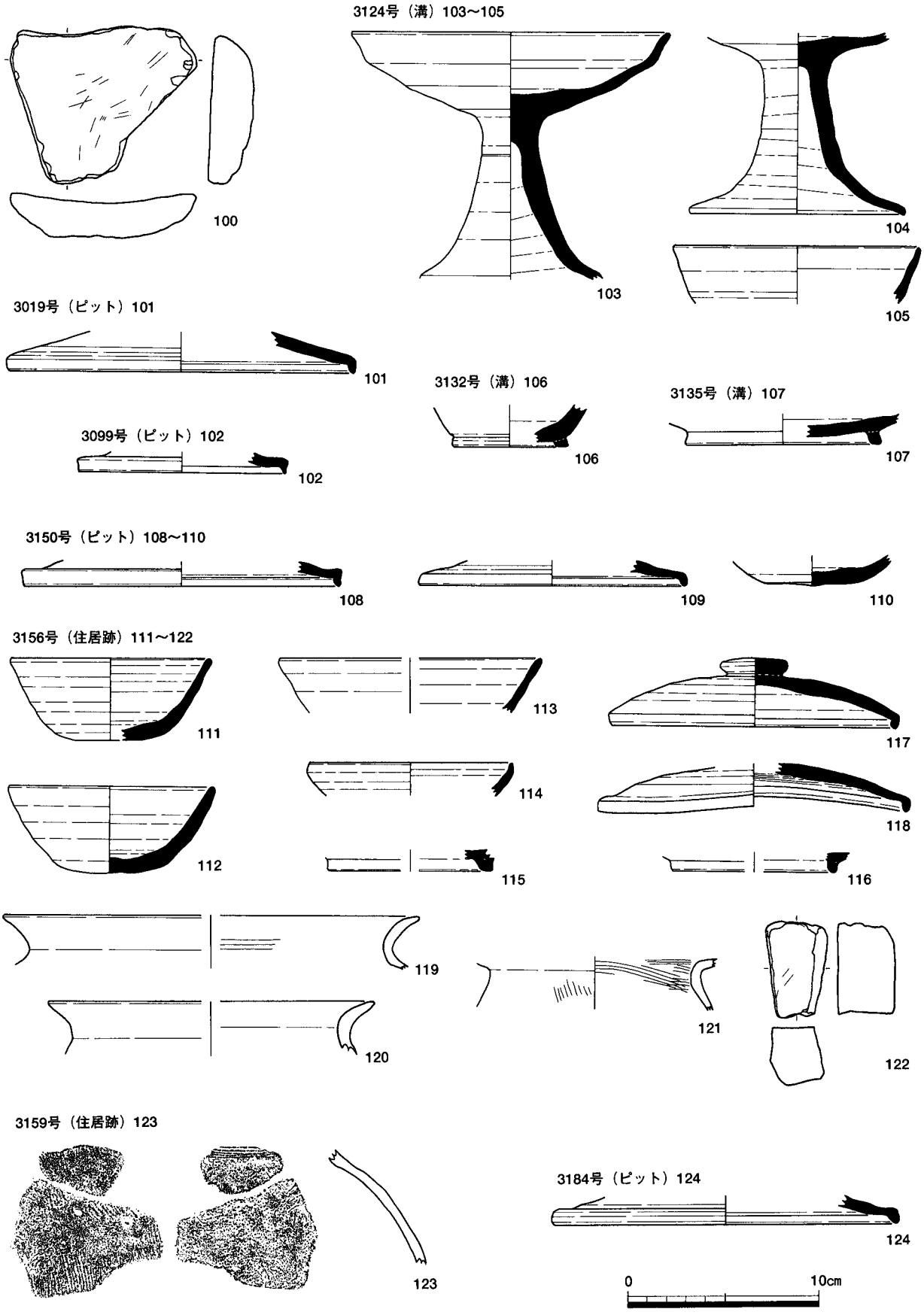
第73図　古代の遺構から出土した遺物（３）



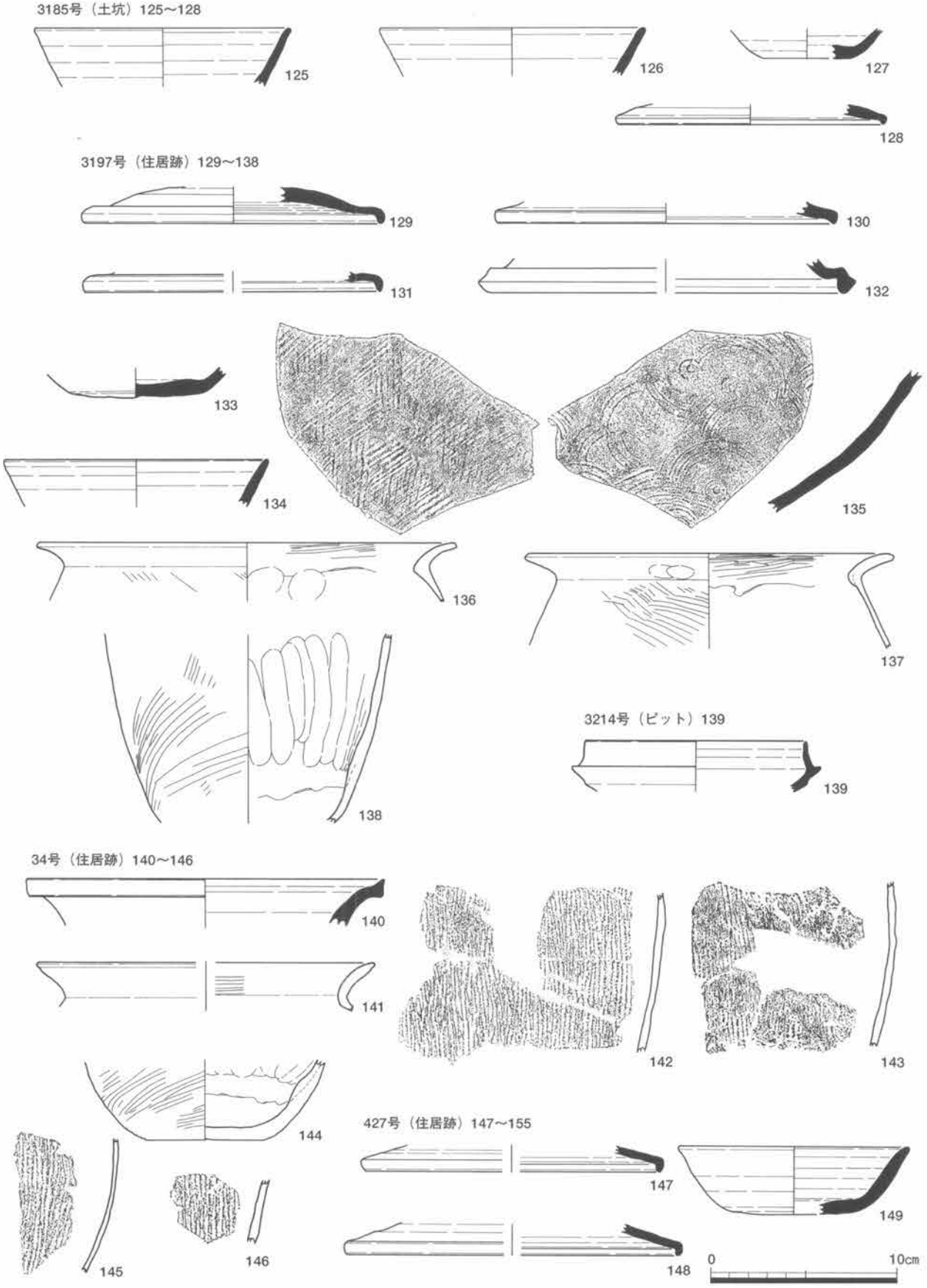
第74図　古代の遺構から出土した遺物（４）



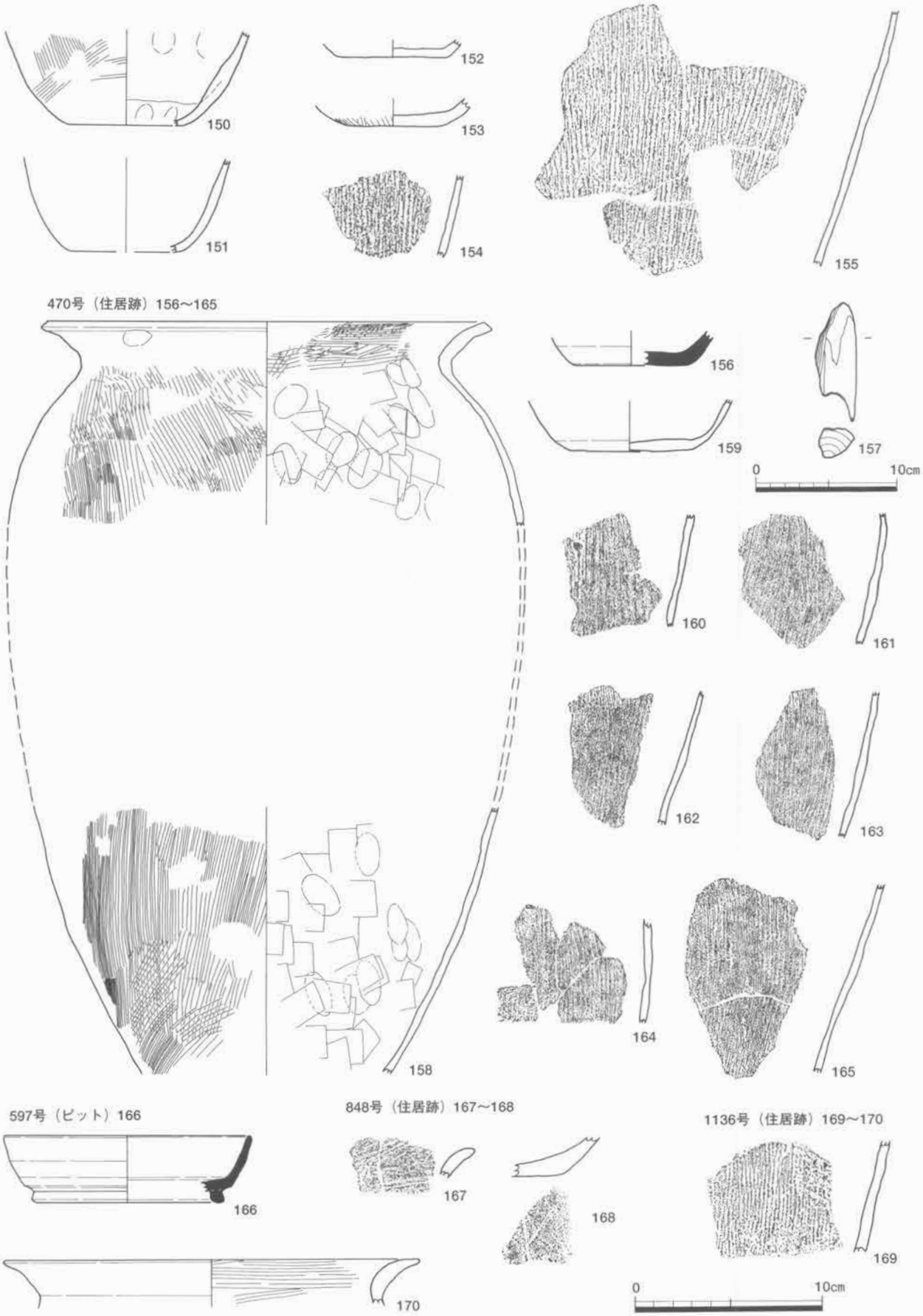
第75図　古代の遺構から出土した遺物（5）



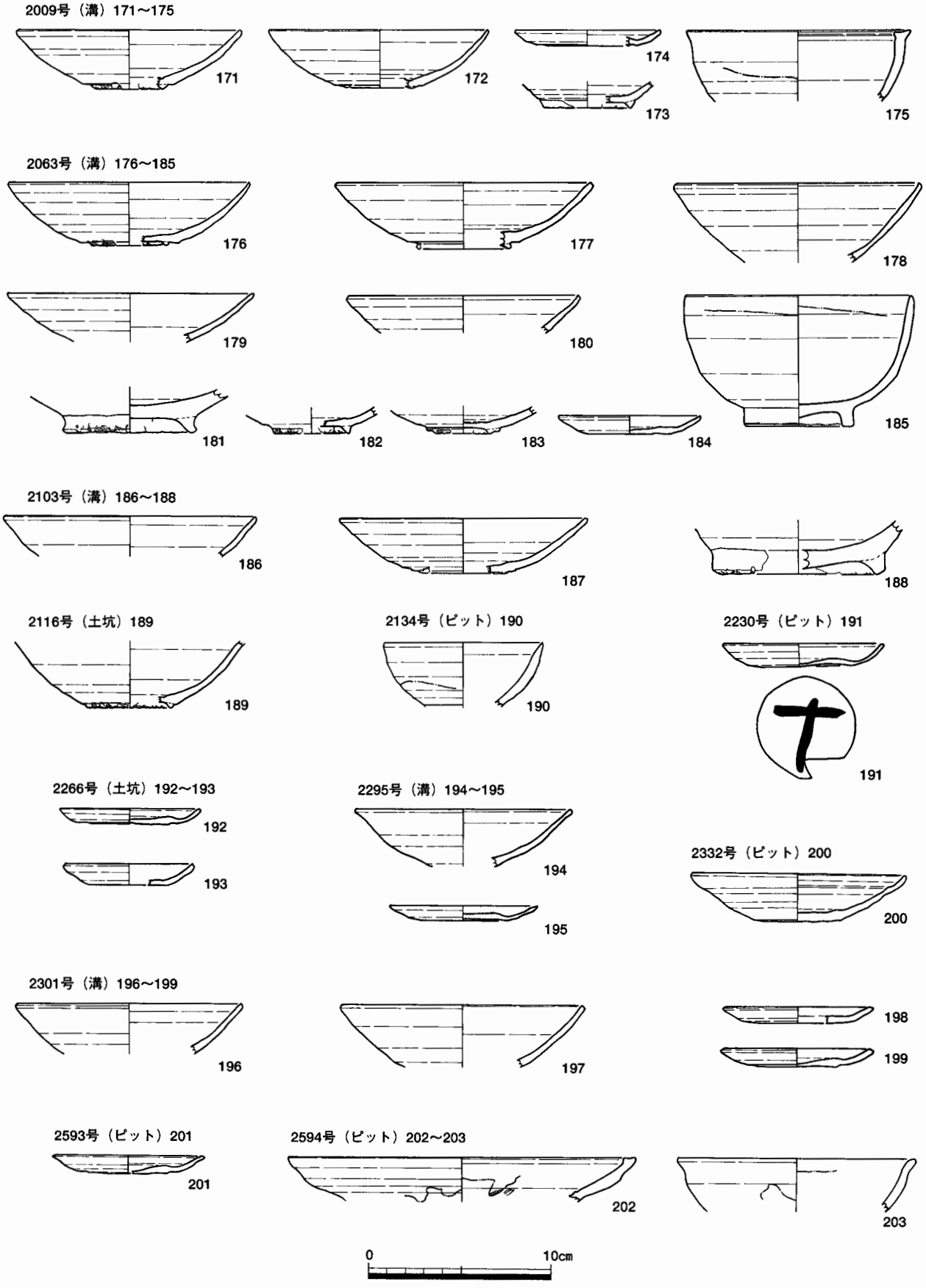
第76図　古代の遺構から出土した遺物（６）



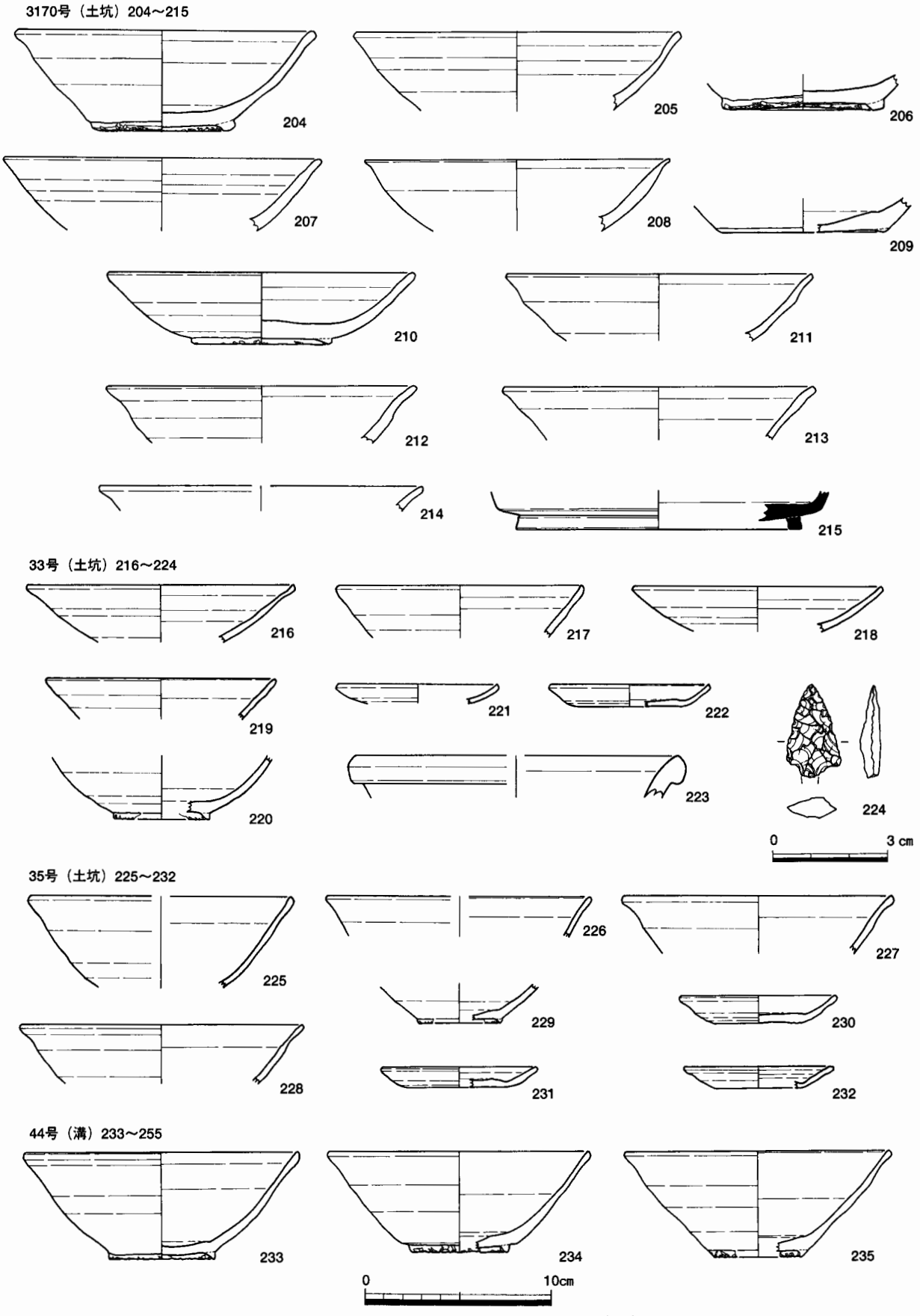
第77図　古代の遺構から出土した遺物（7）



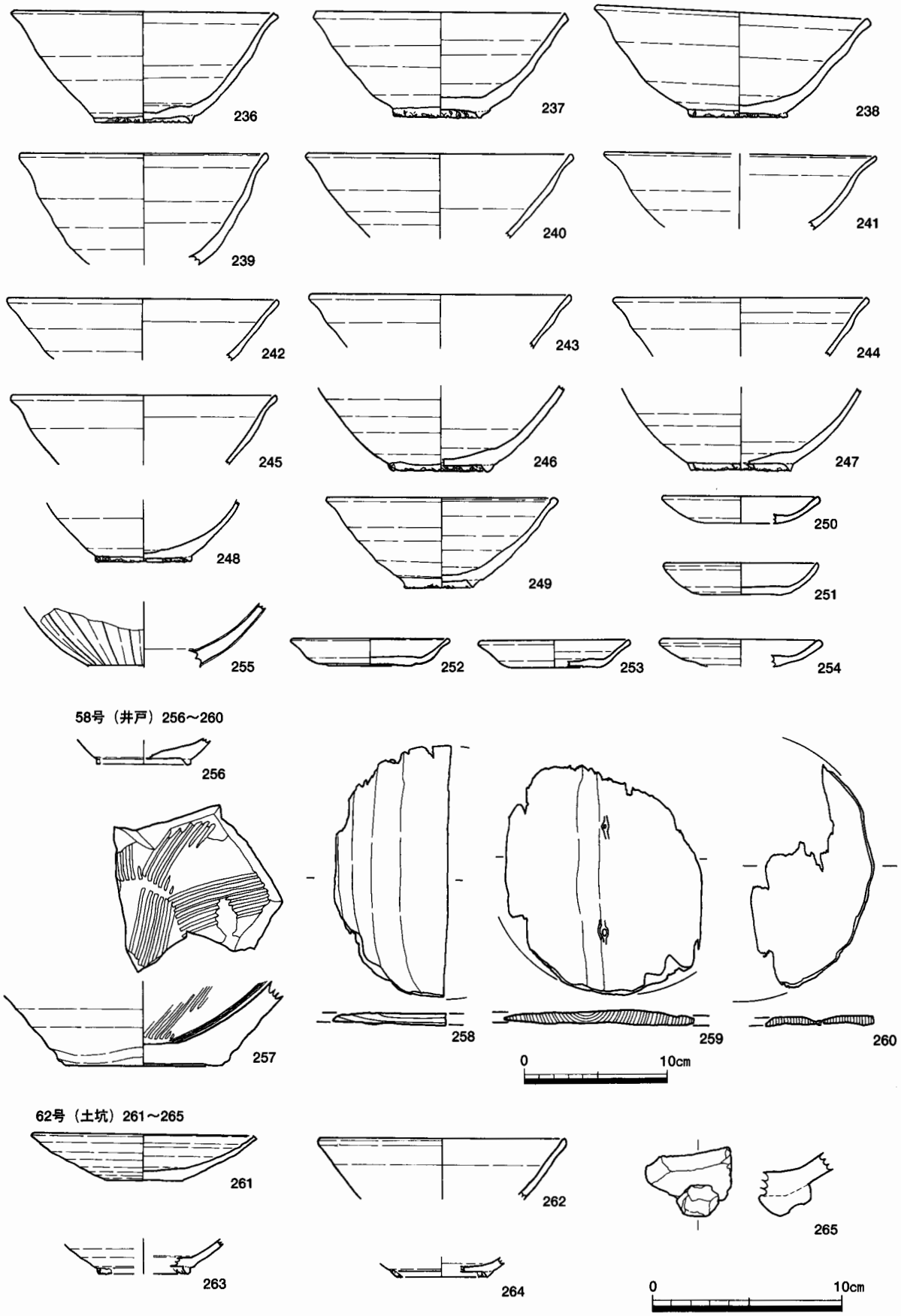
第78図　古代の遺構から出土した遺物（８）



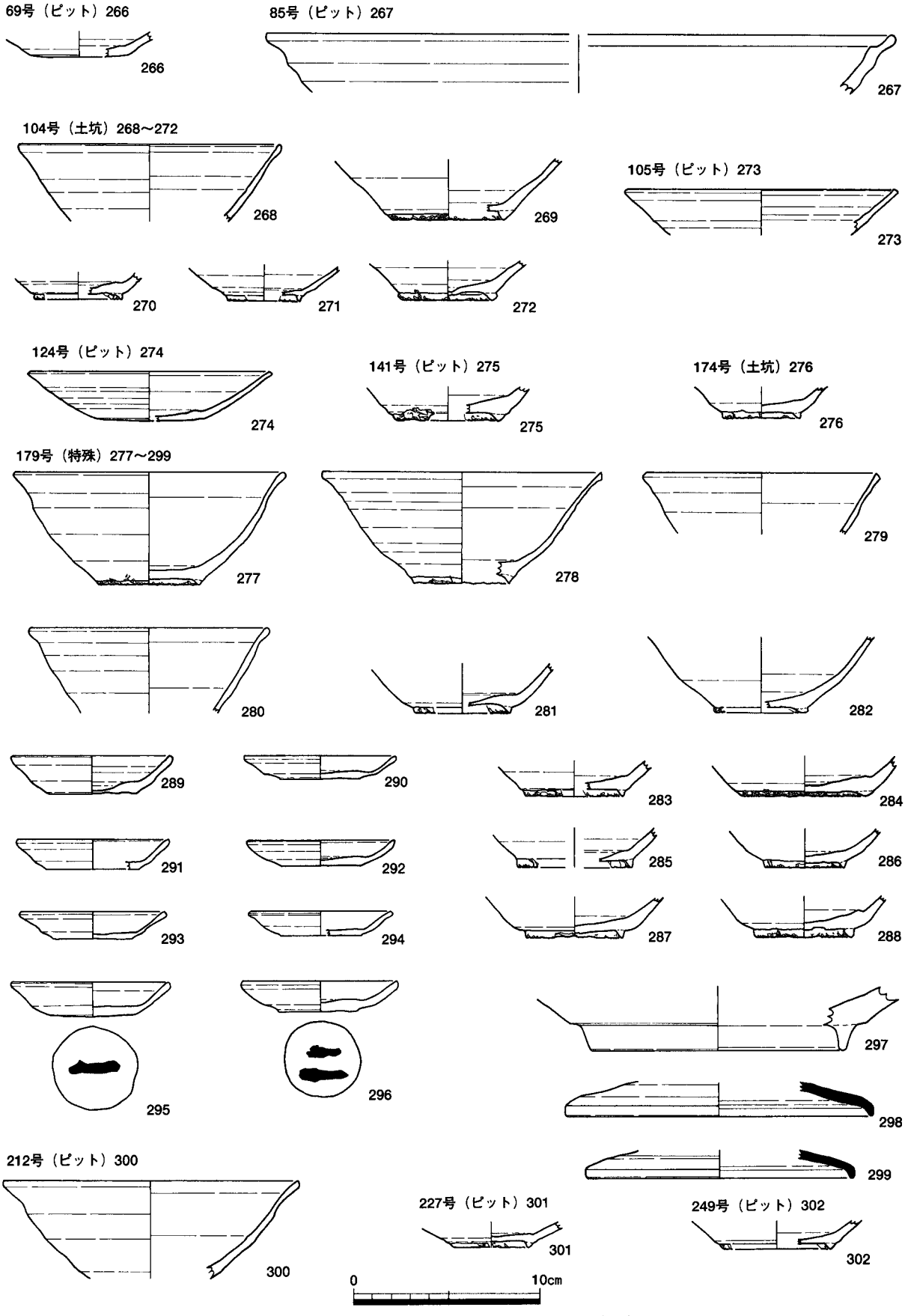
第79図　中世の遺構から出土した遺物（1）



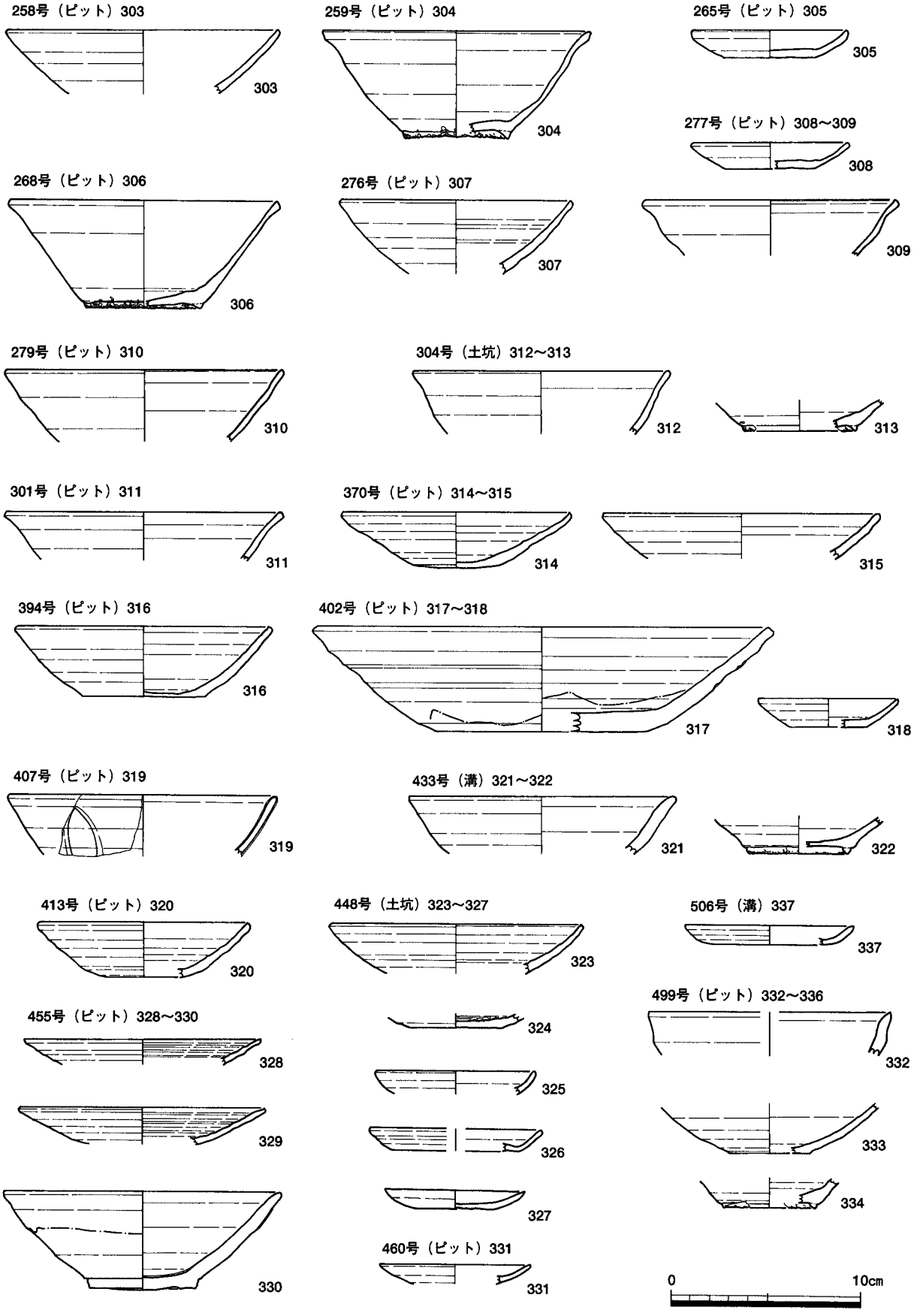
第80図　中世の遺構から出土した遺物（２）



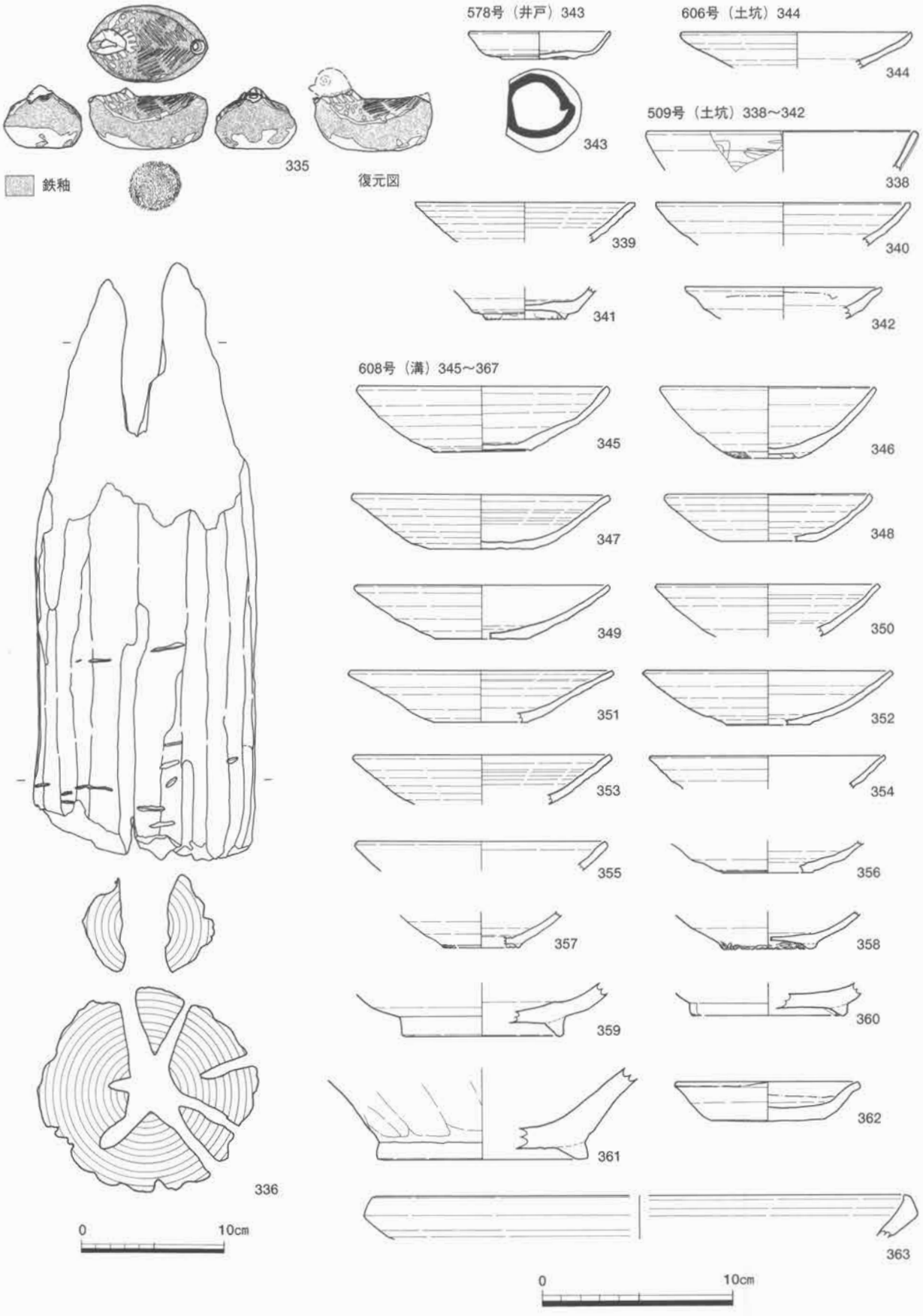
第81図　中世の遺構から出土した遺物（3）



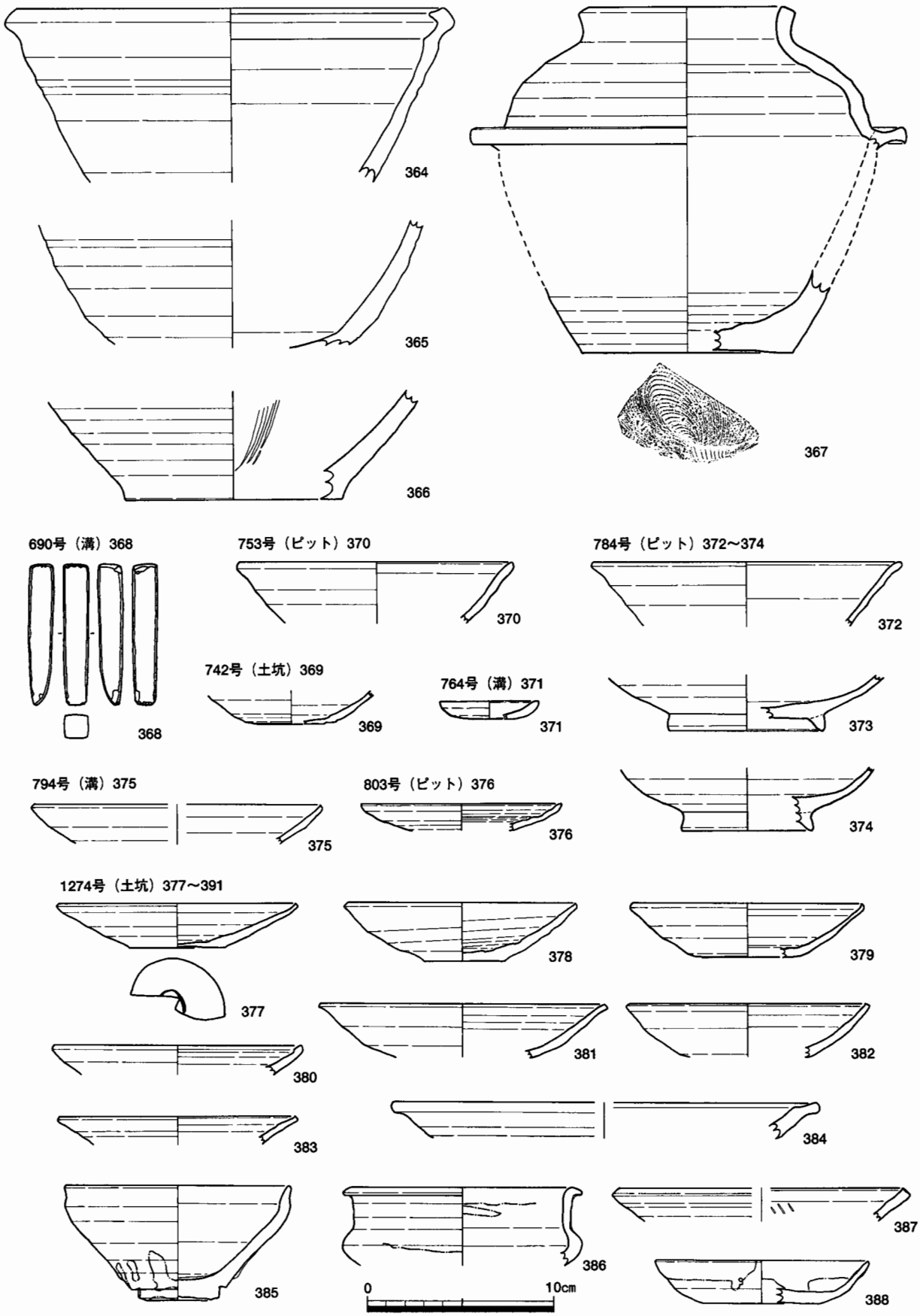
第82図　中世の遺構から出土した遺物（４）



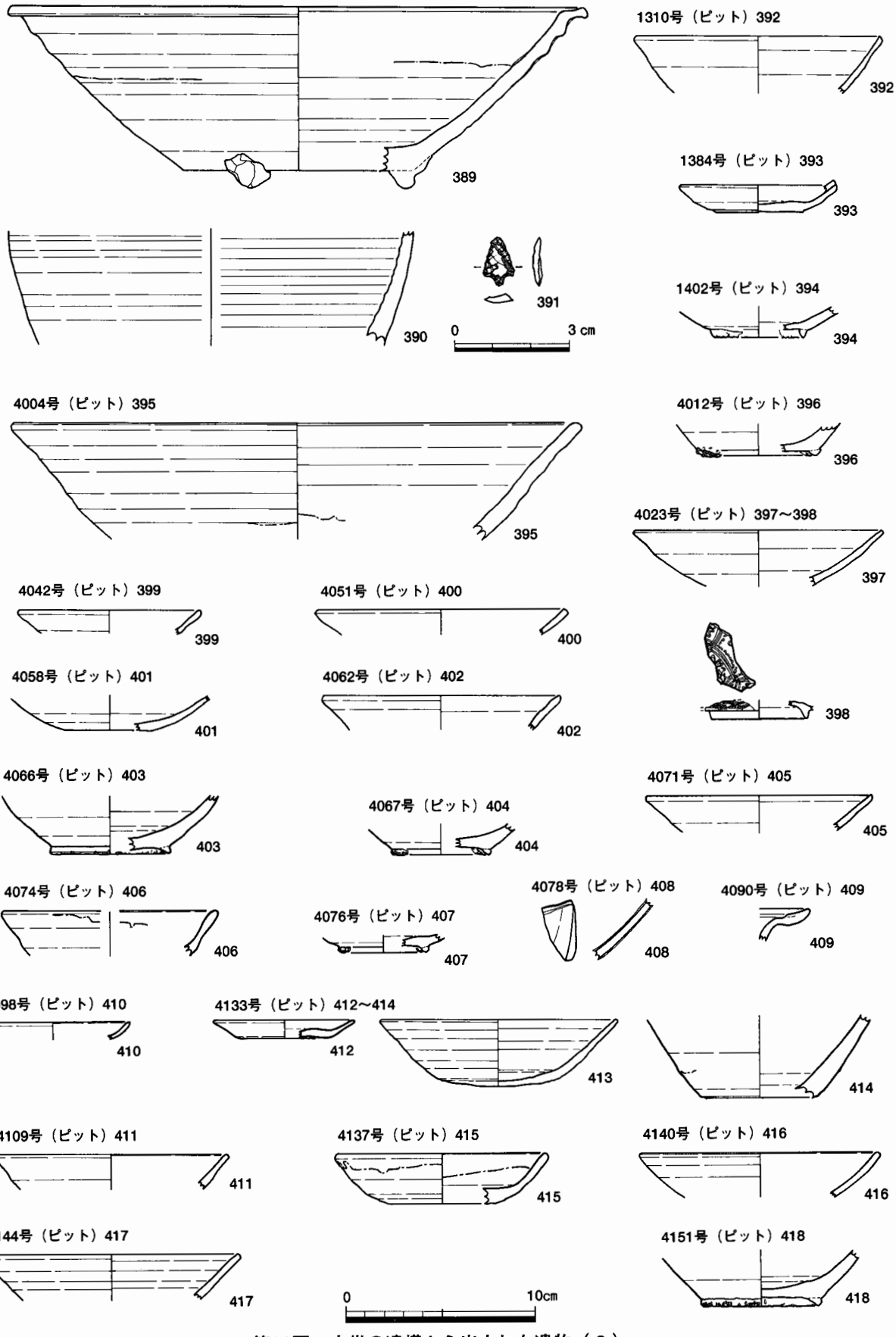
第83図　中世の遺構から出土した遺物（5）



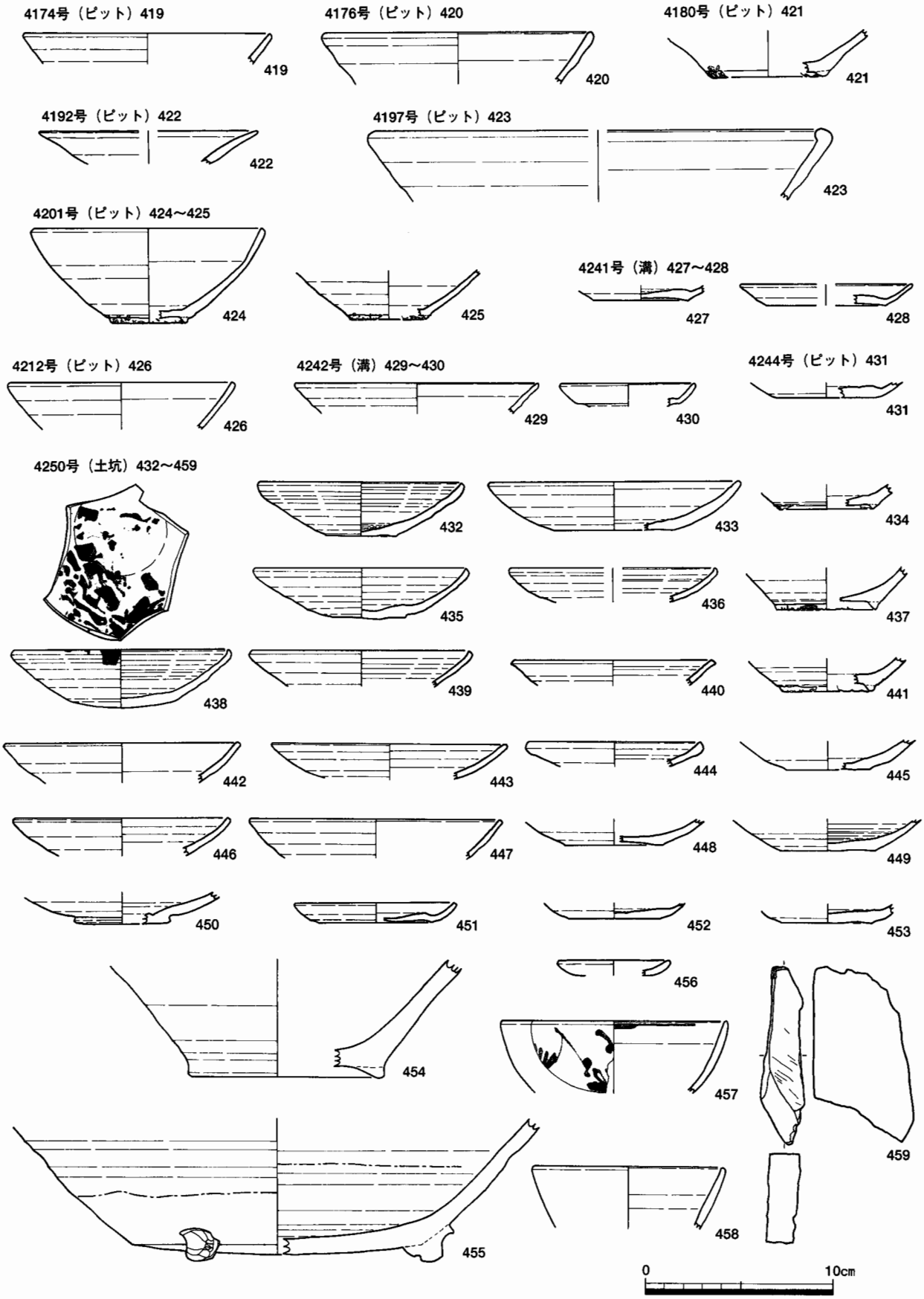
第84図　中世の遺構から出土した遺物（６）



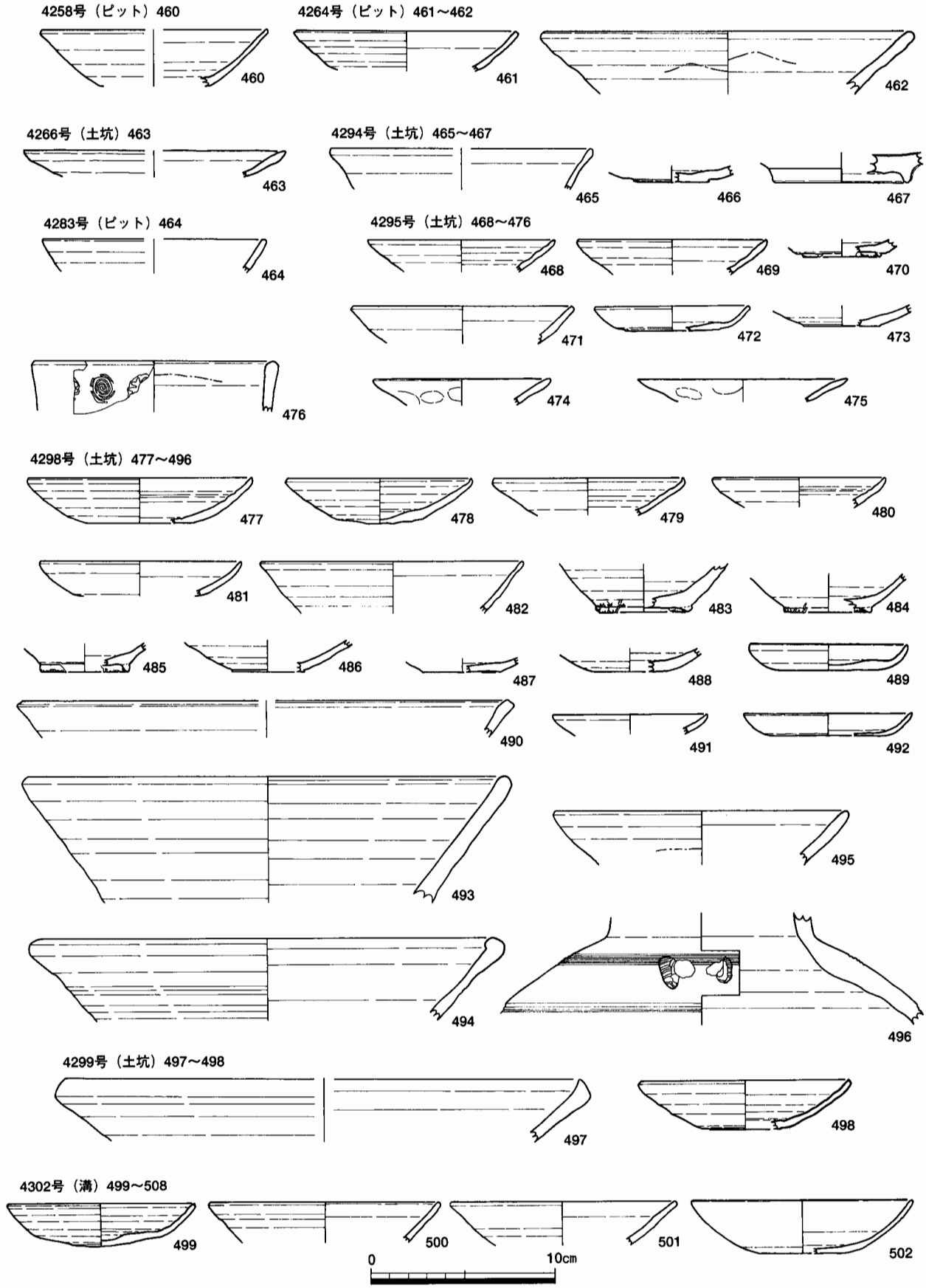
第85図　中世の遺構から出土した遺物（7）



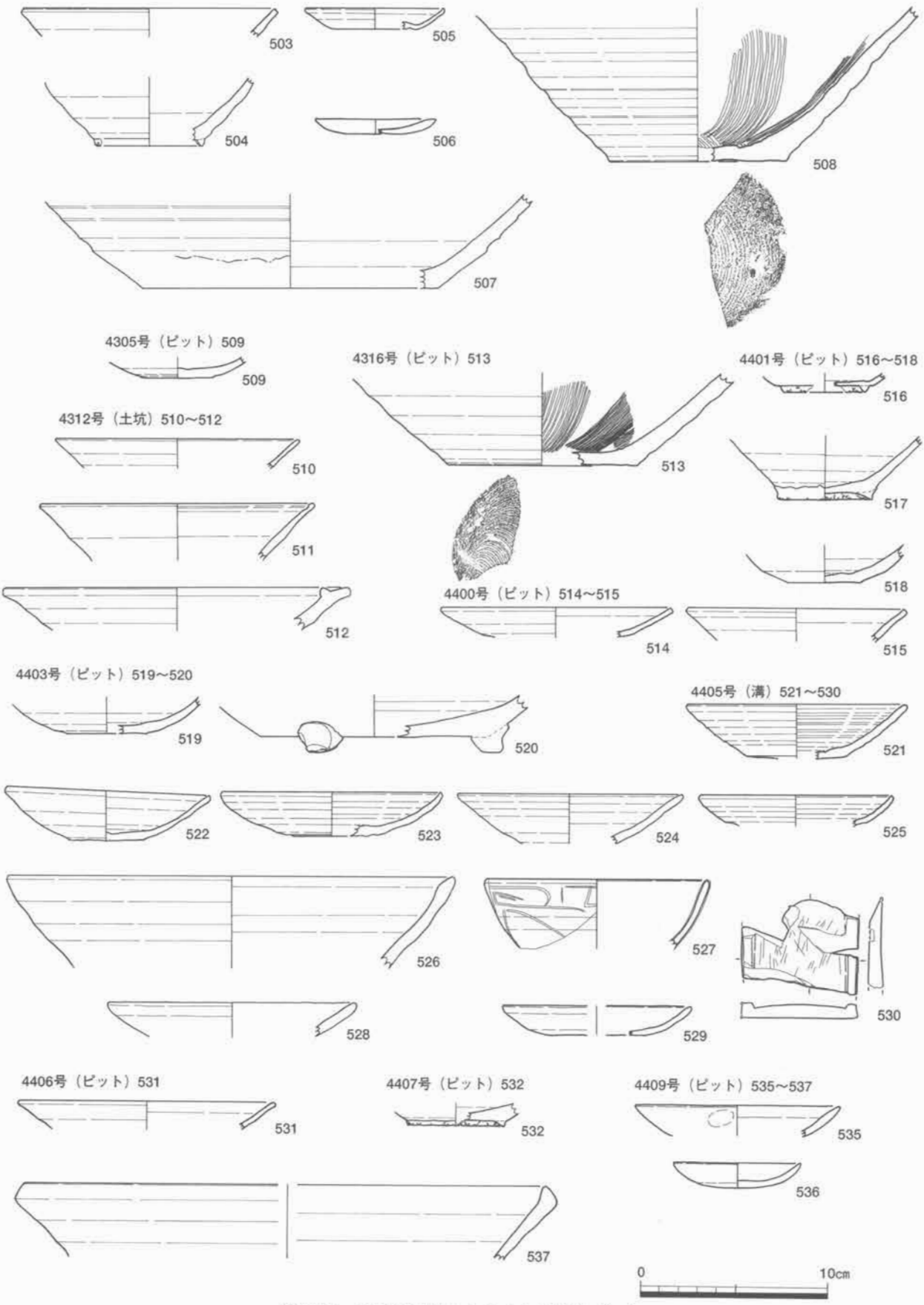
第86図　中世の遺構から出土した遺物（８）



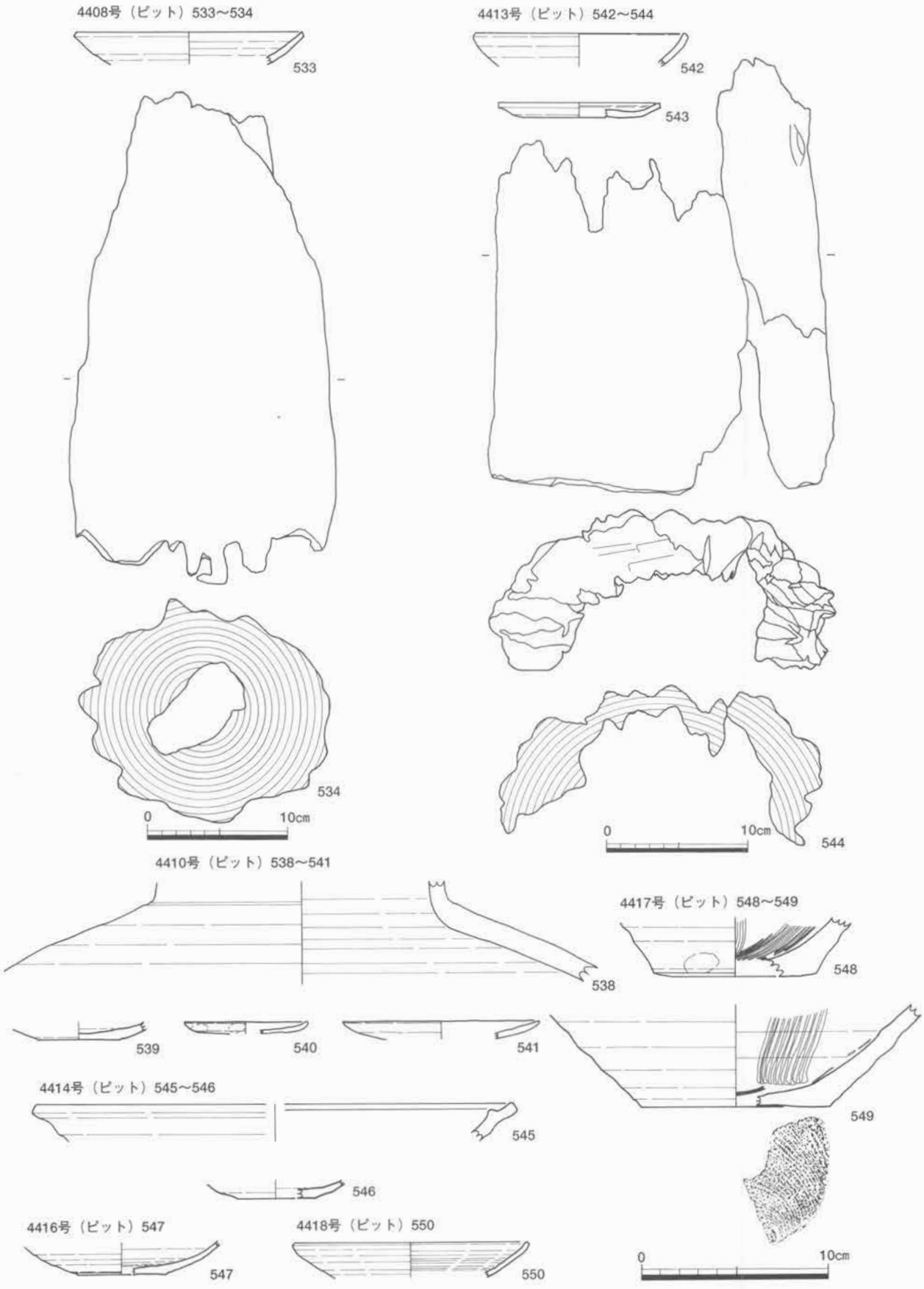
第87図　中世の遺構から出土した遺物（9）



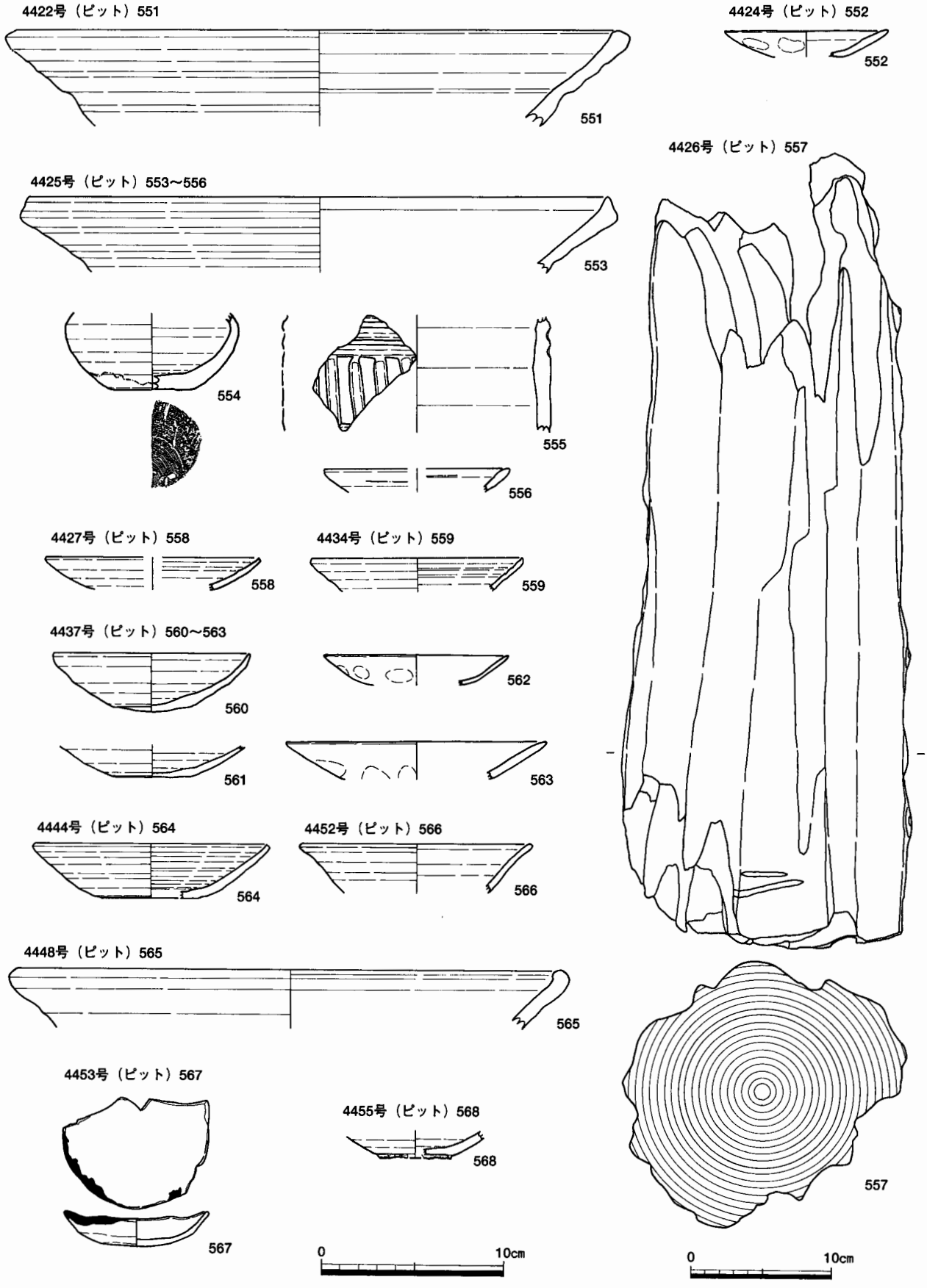
第88図　中世の遺構から出土した遺物（10）



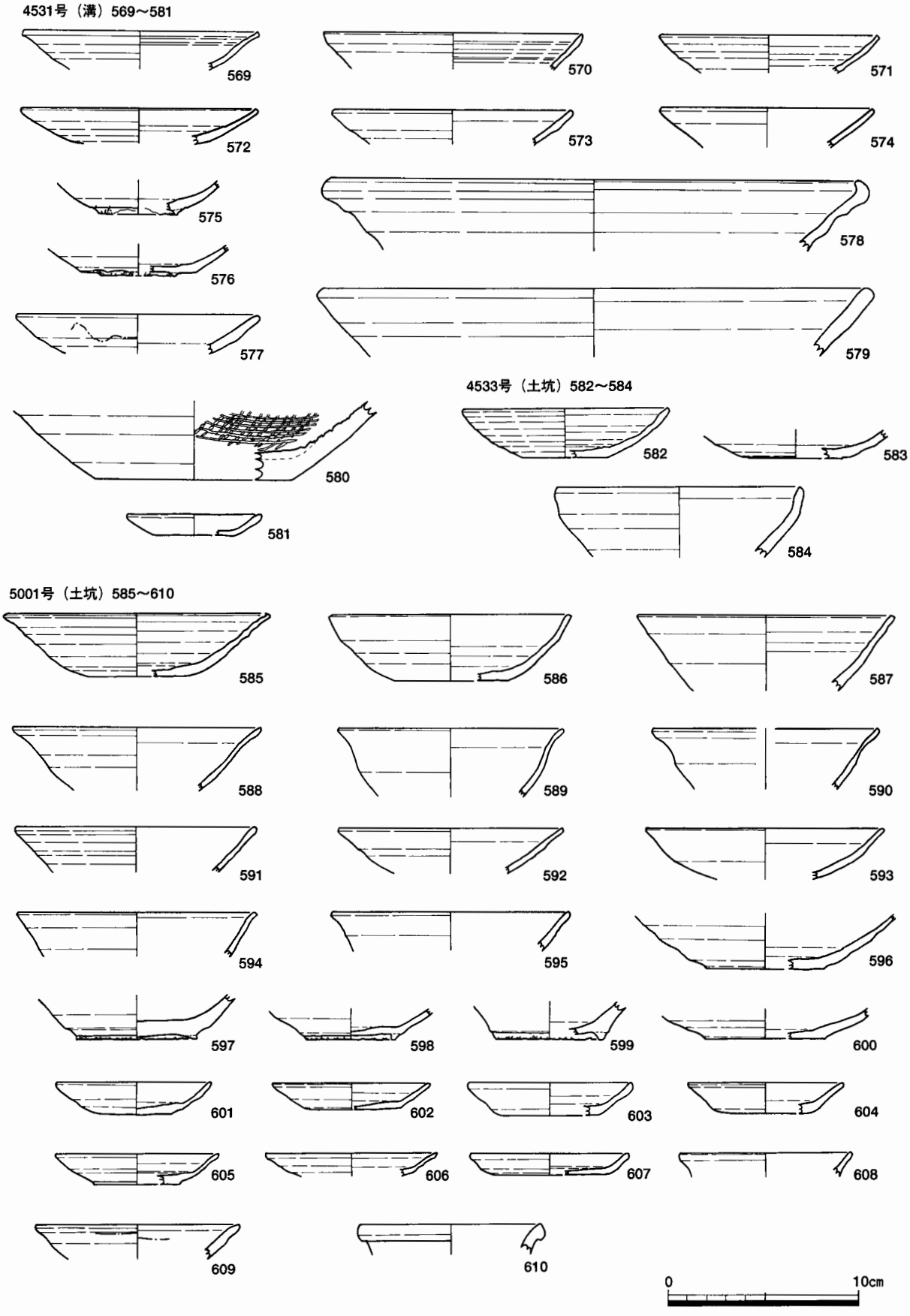
第89図　中世の遺構から出土した遺物（11）



第90図　中世の遺構から出土した遺物（12）

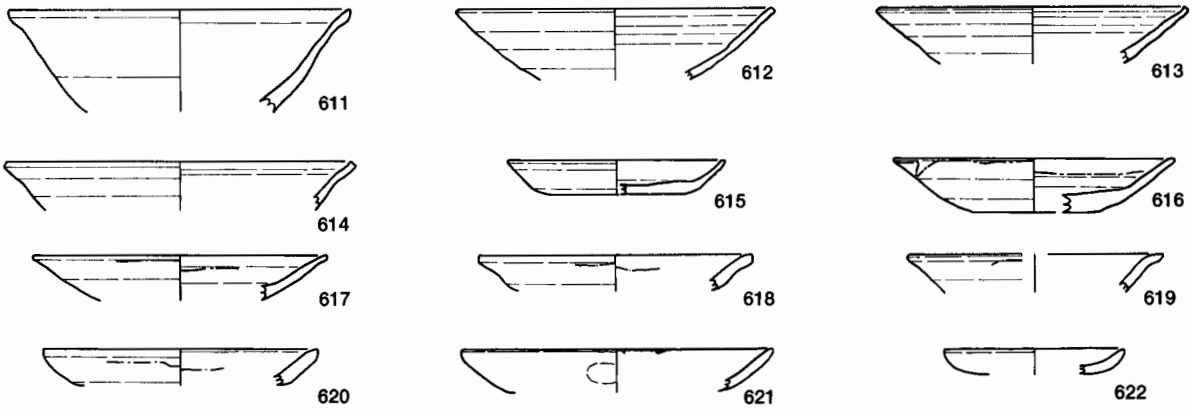


第91図　中世の遺構から出土した遺物（13）



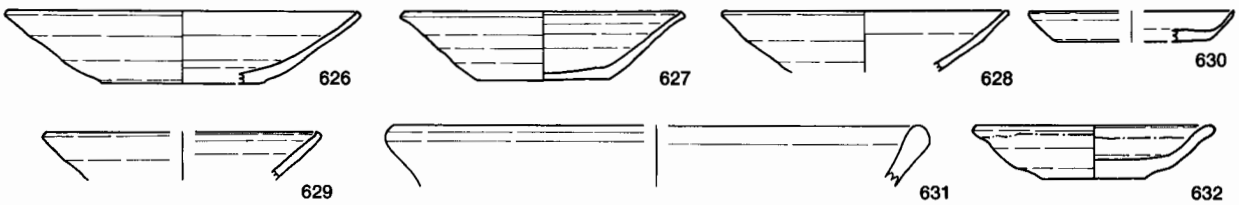
第92図　中世の遺構から出土した遺物（14）

5003号（土坑）611～622

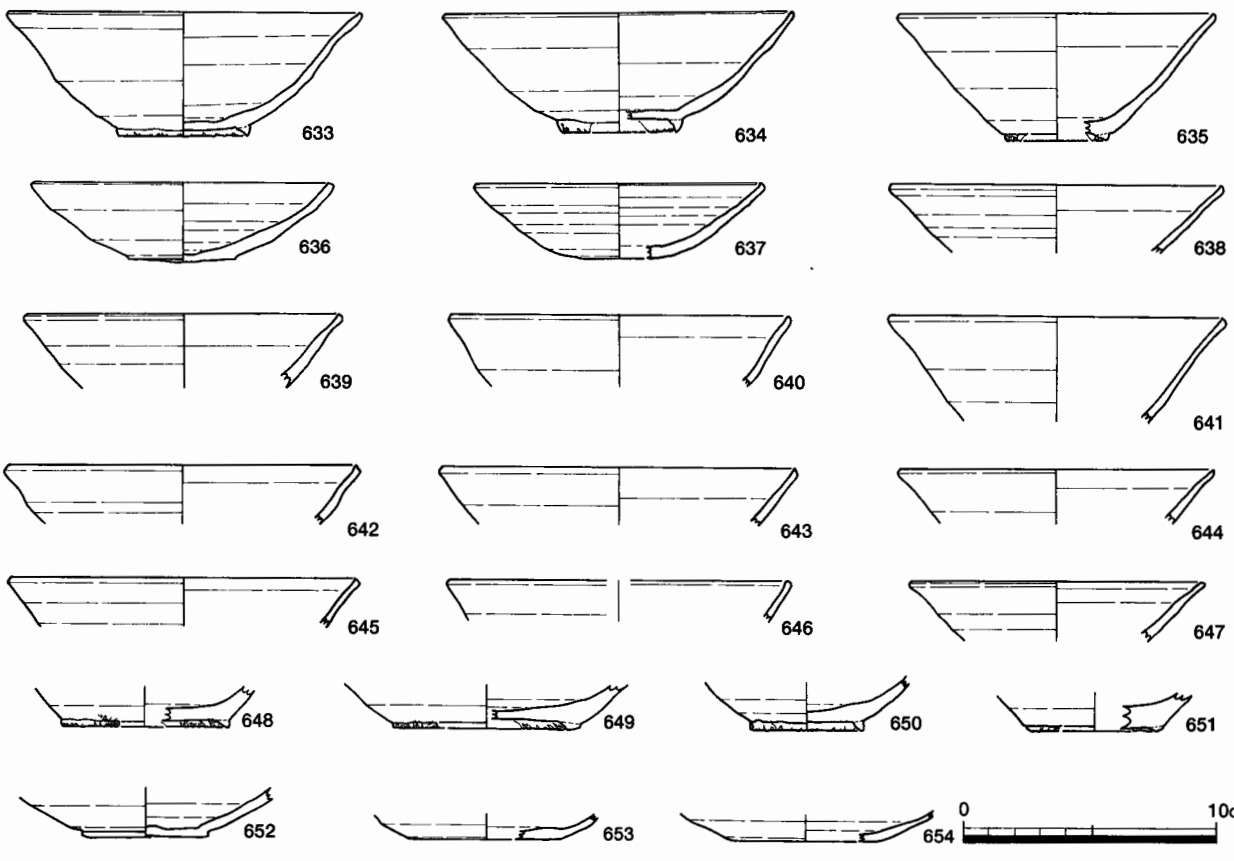


5004号（土坑）623～625

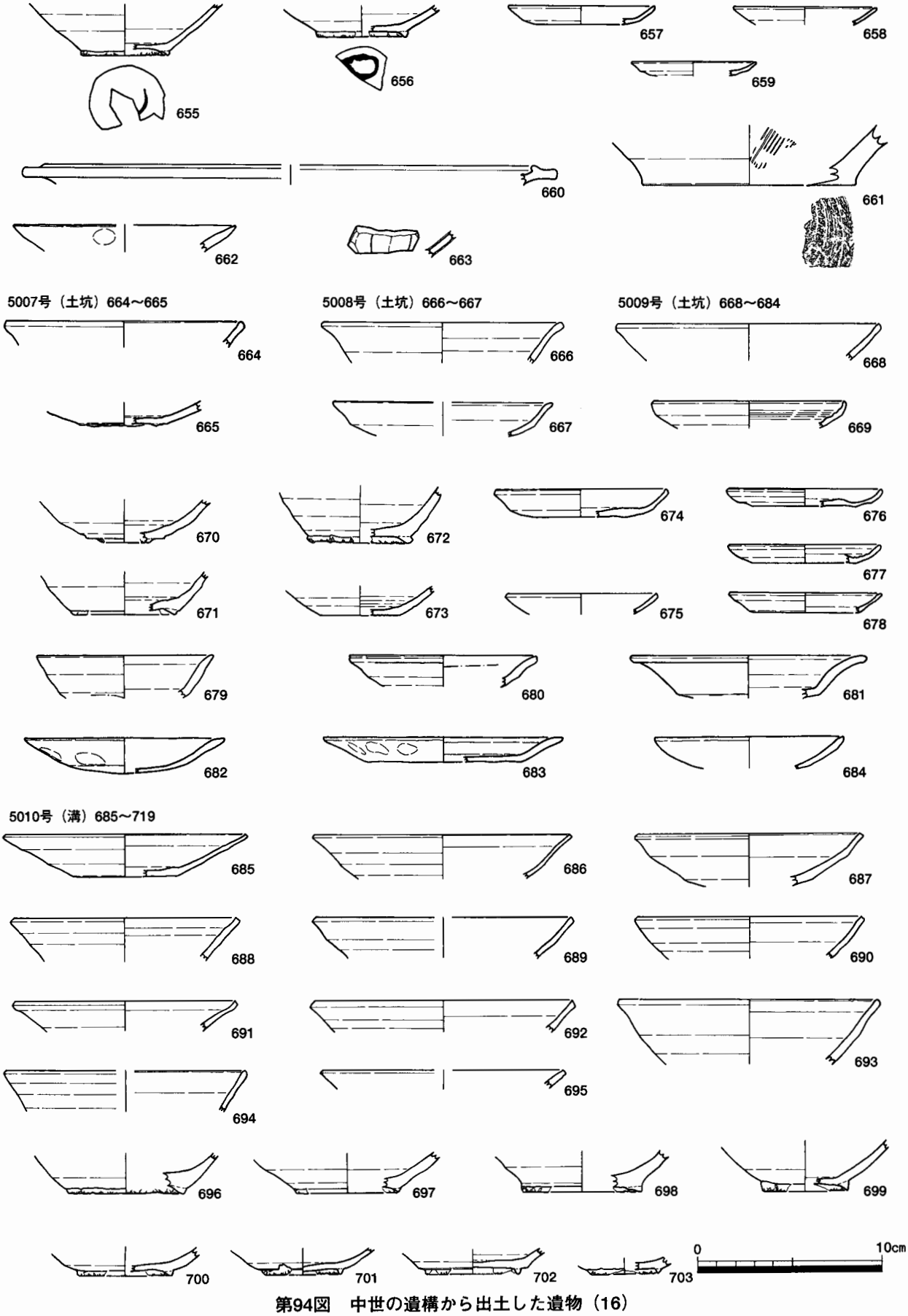
5005号（土坑）626～632



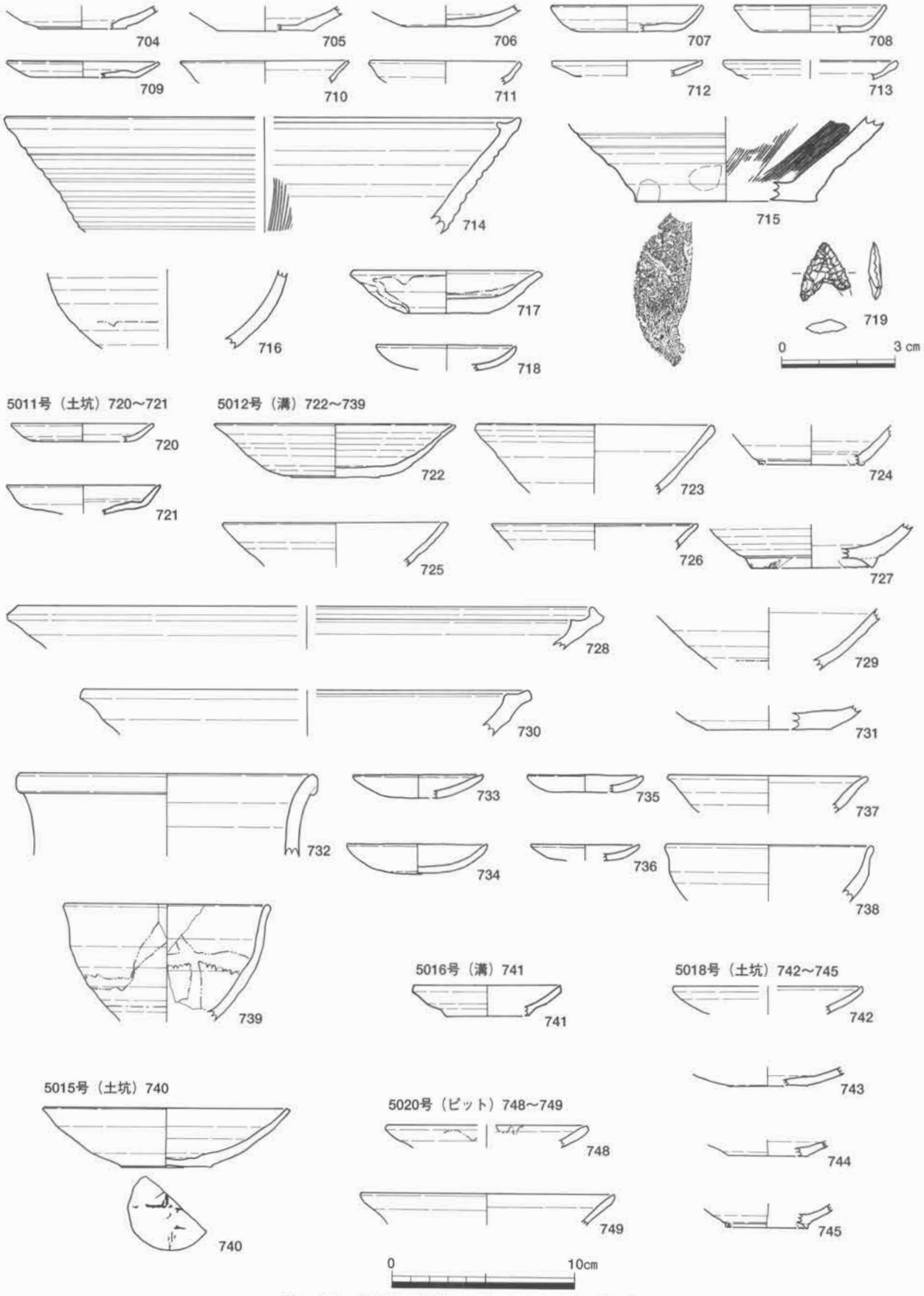
5006号（土坑）633～663



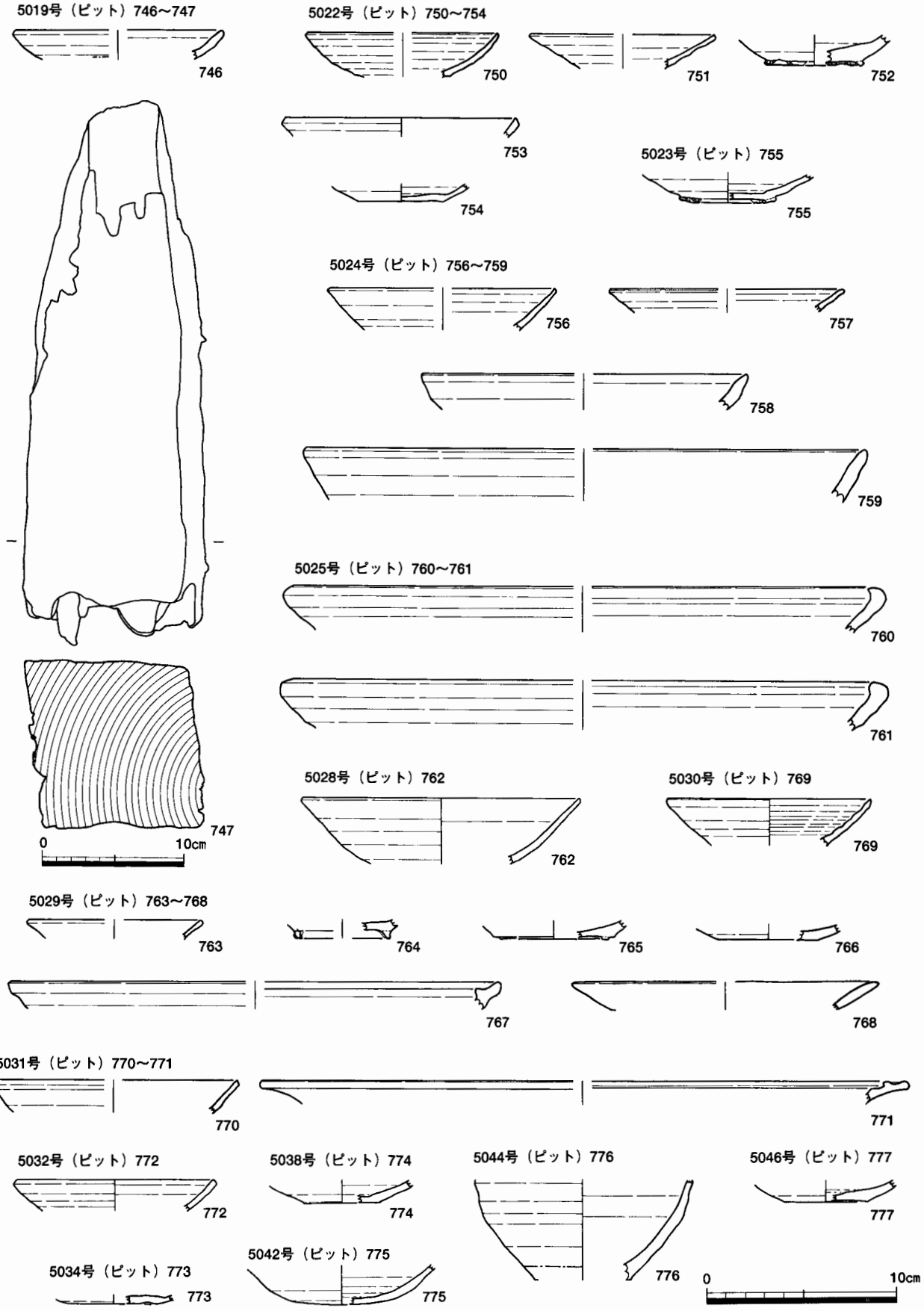
第93図　中世の遺構から出土した遺物（15）



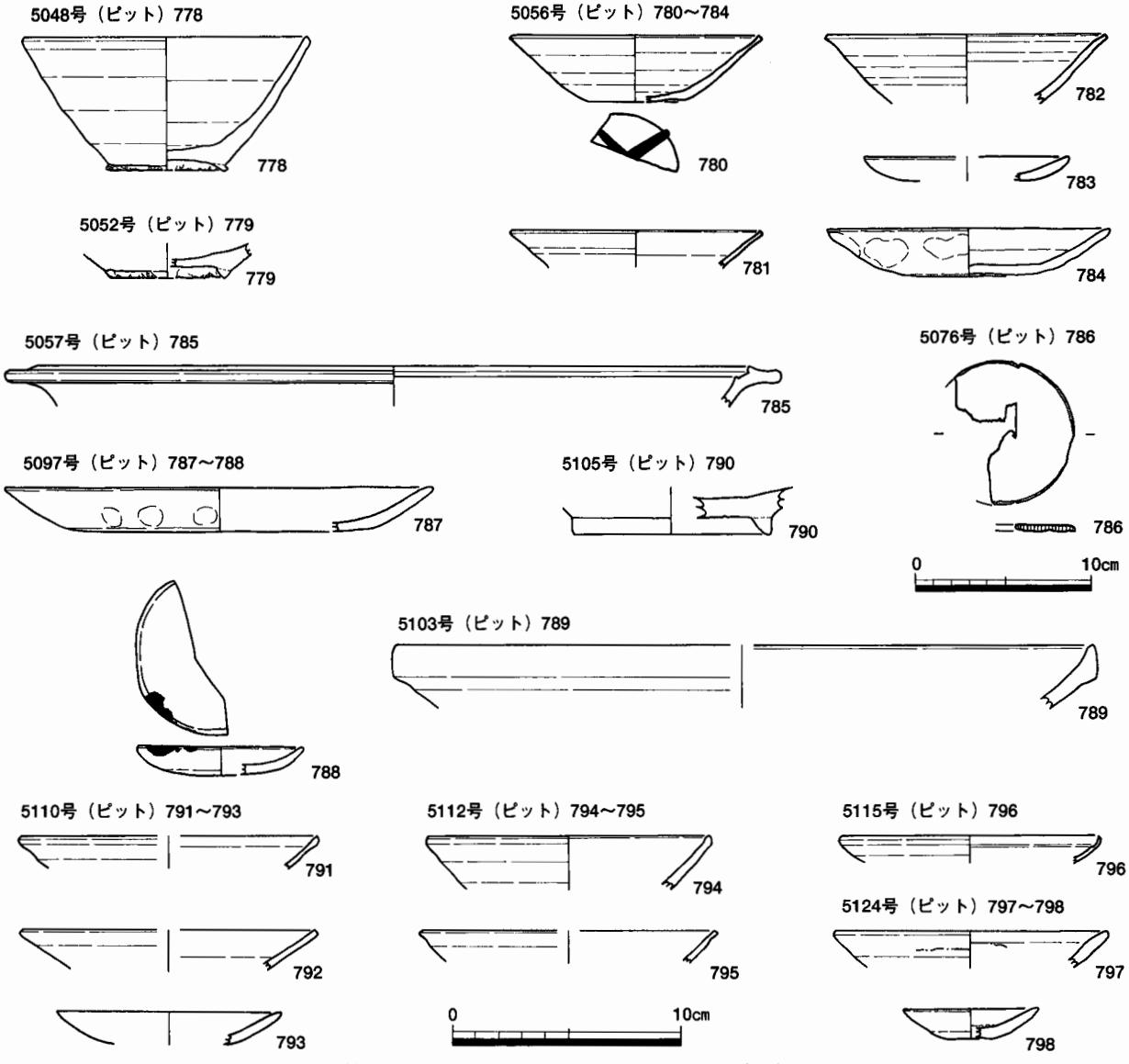
第94図　中世の遺構から出土した遺物（16）



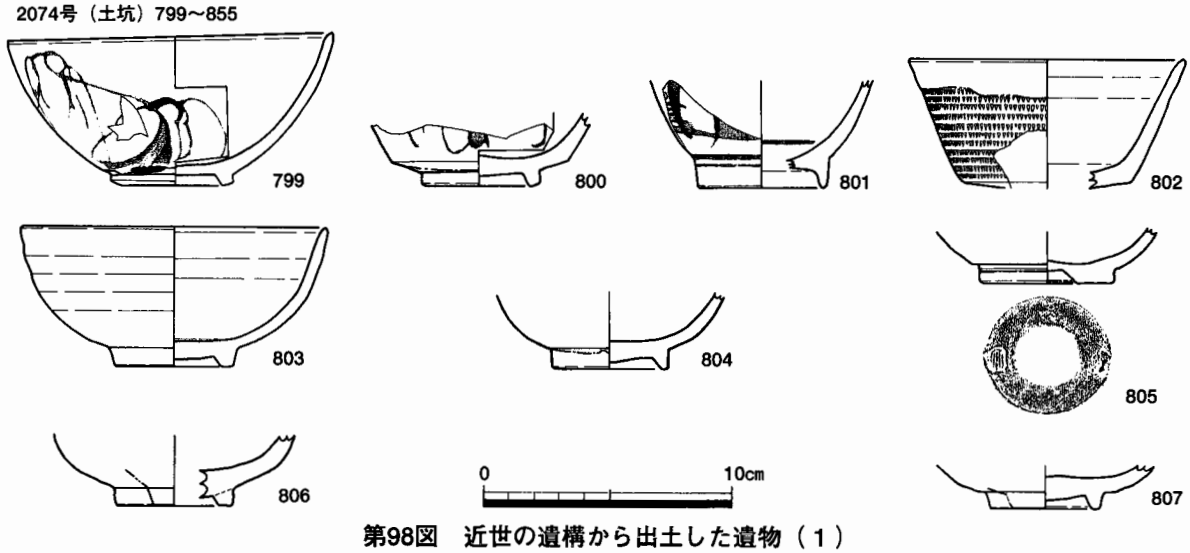
第95図　中世の遺構から出土した遺物（17）



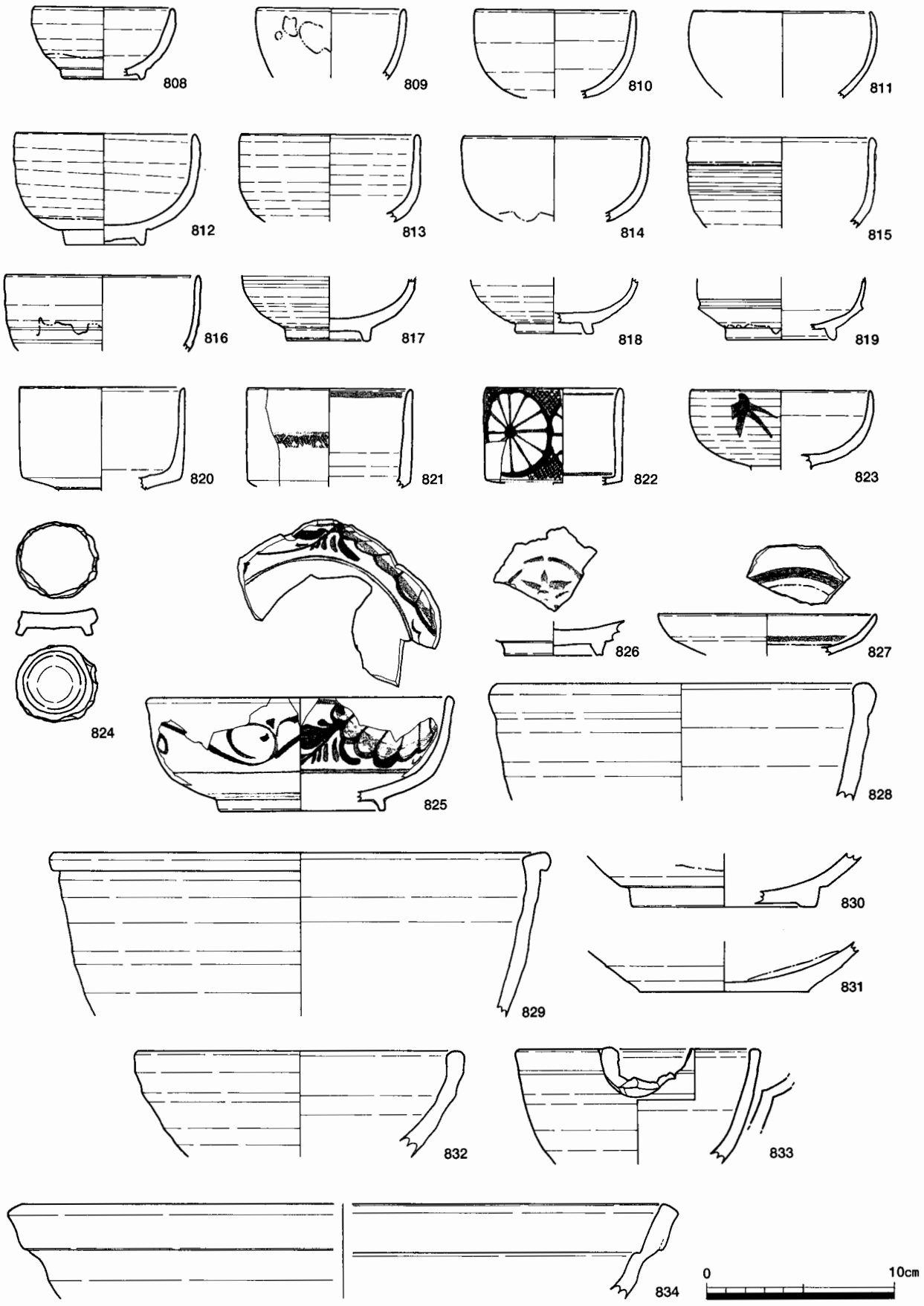
第96図　中世の遺構から出土した遺物（18）



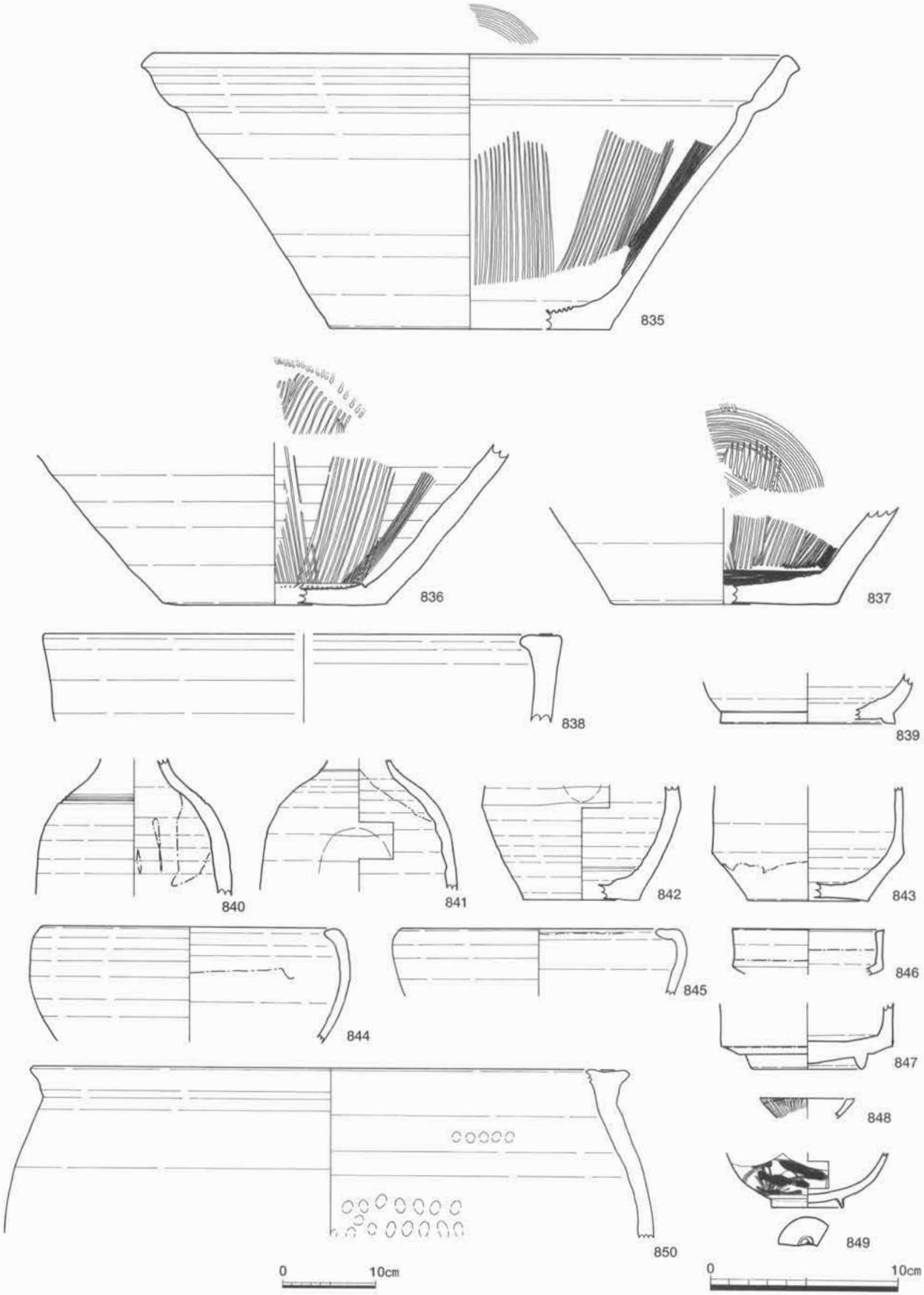
第97図　中世の遺構から出土した遺物（19）



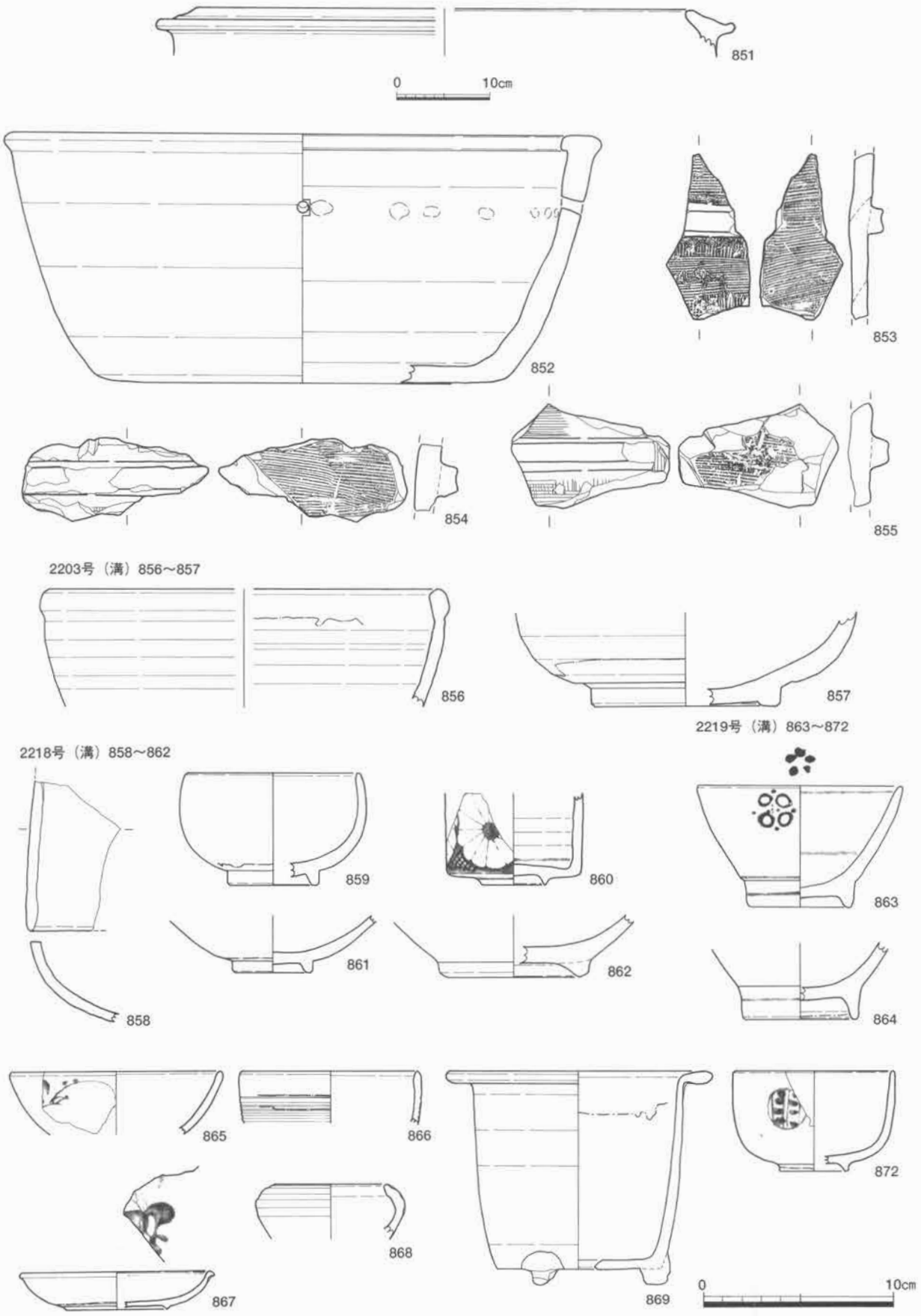
第98図　近世の遺構から出土した遺物（１）



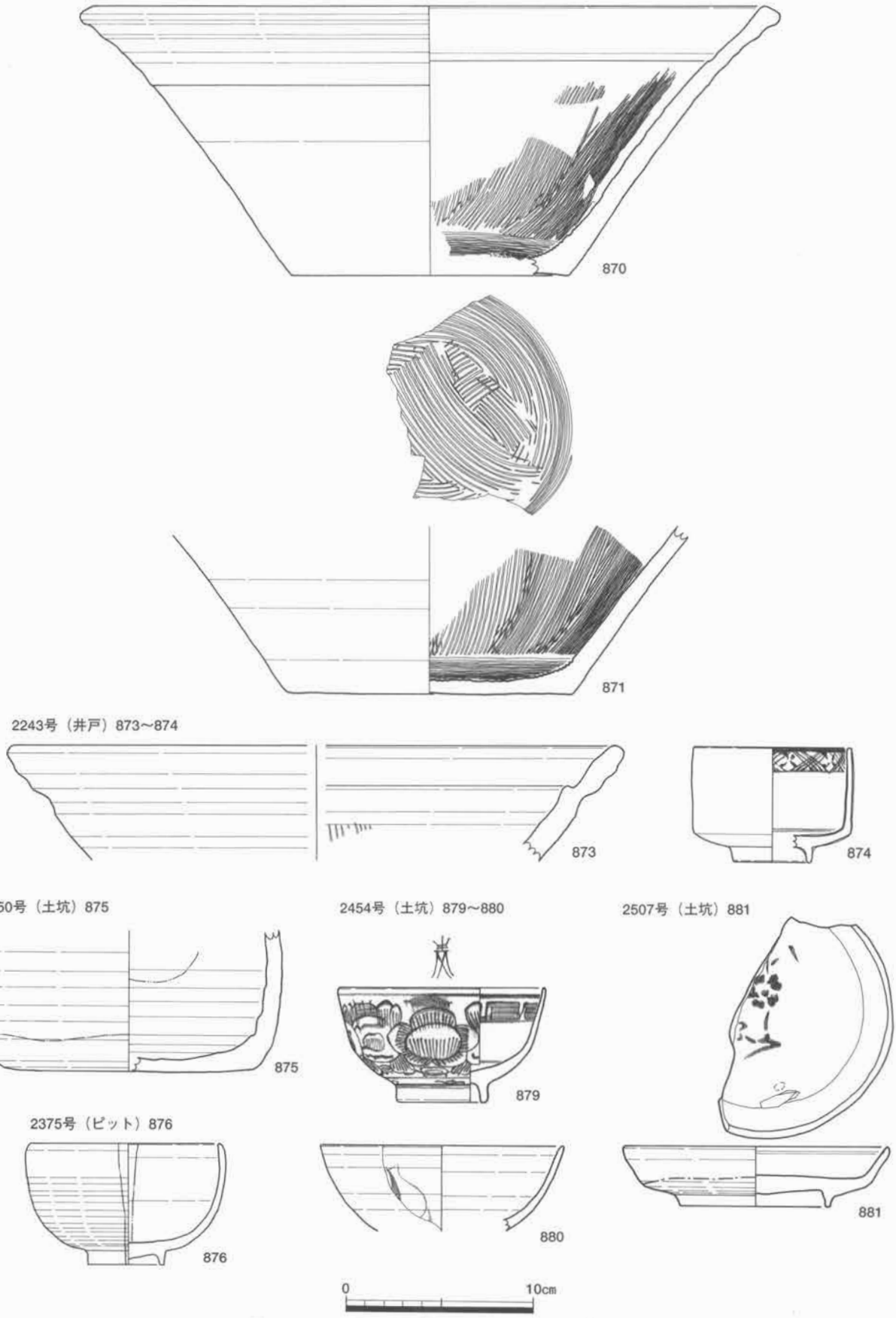
第99図　近世の遺構から出土した遺物（２）



第100図　近世の遺構から出土した遺物（3）

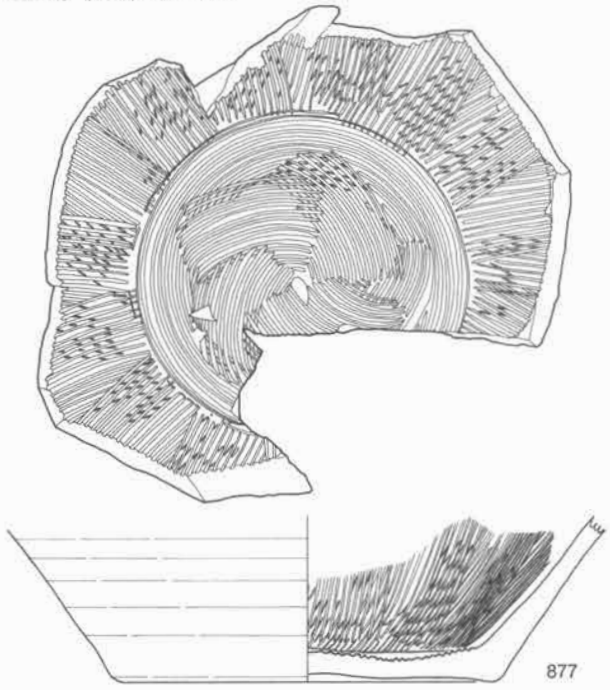


第101図　近世の遺構から出土した遺物（４）

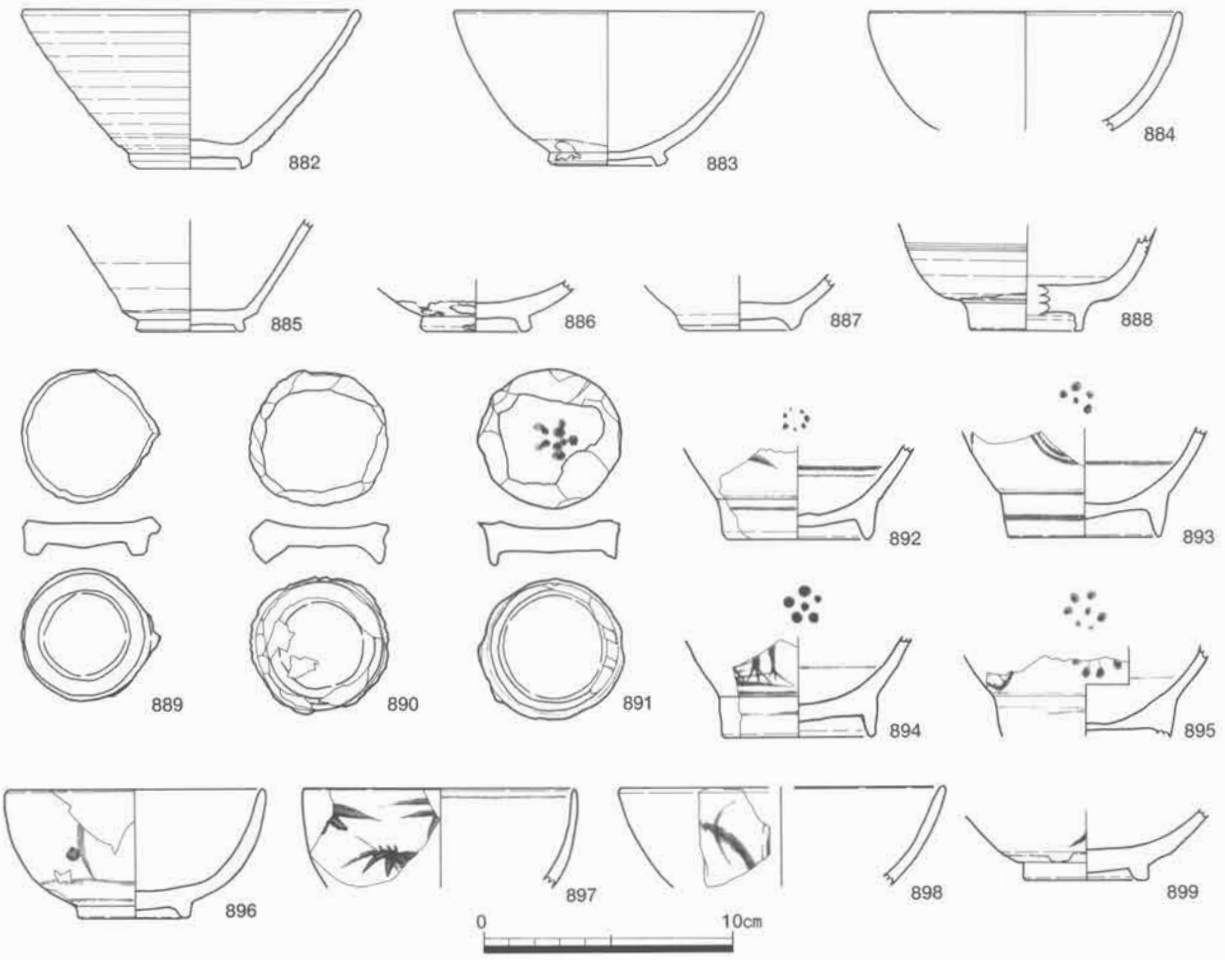


第102図　近世の遺構から出土した遺物（5）

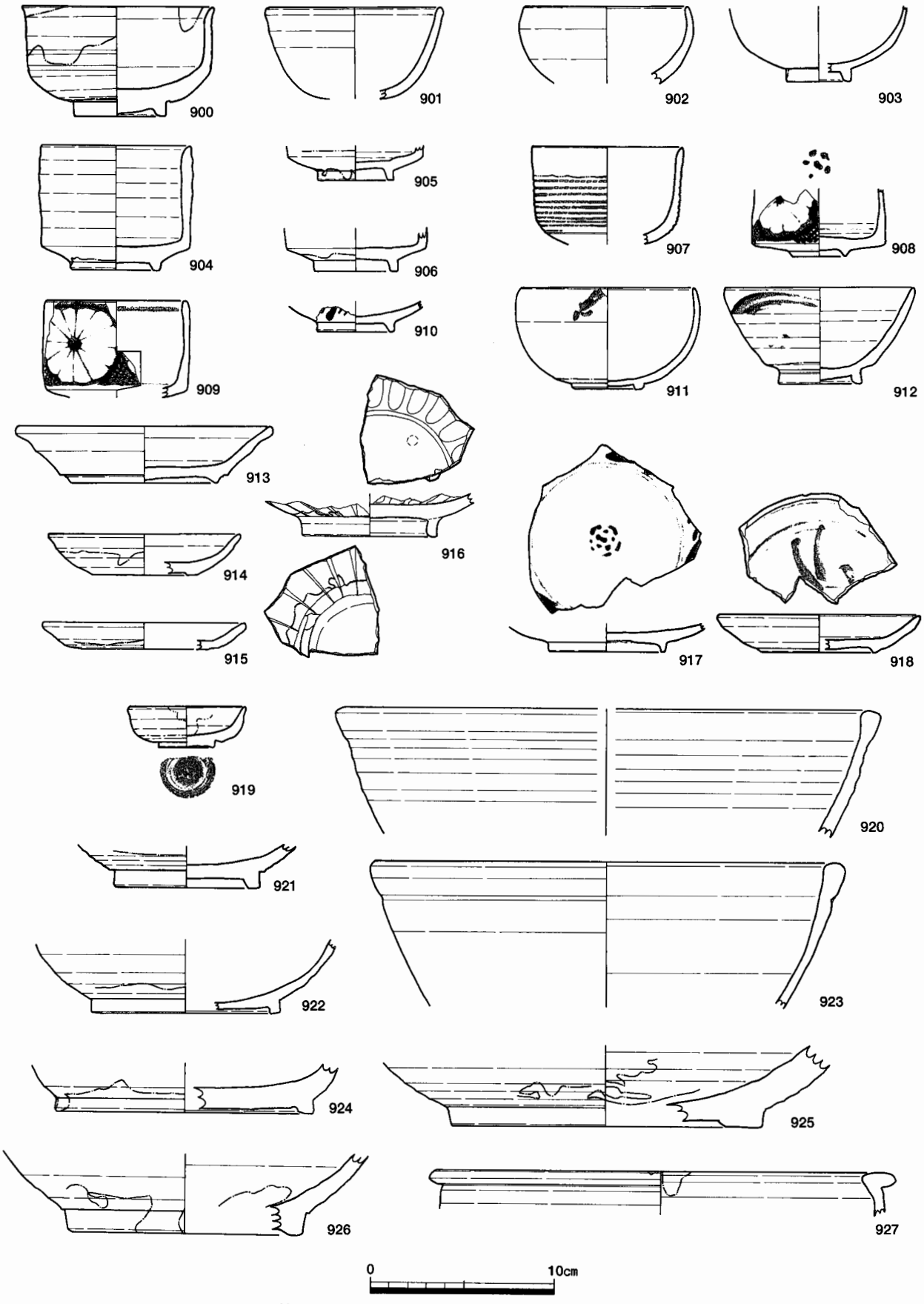
2422号（土坑）877～878



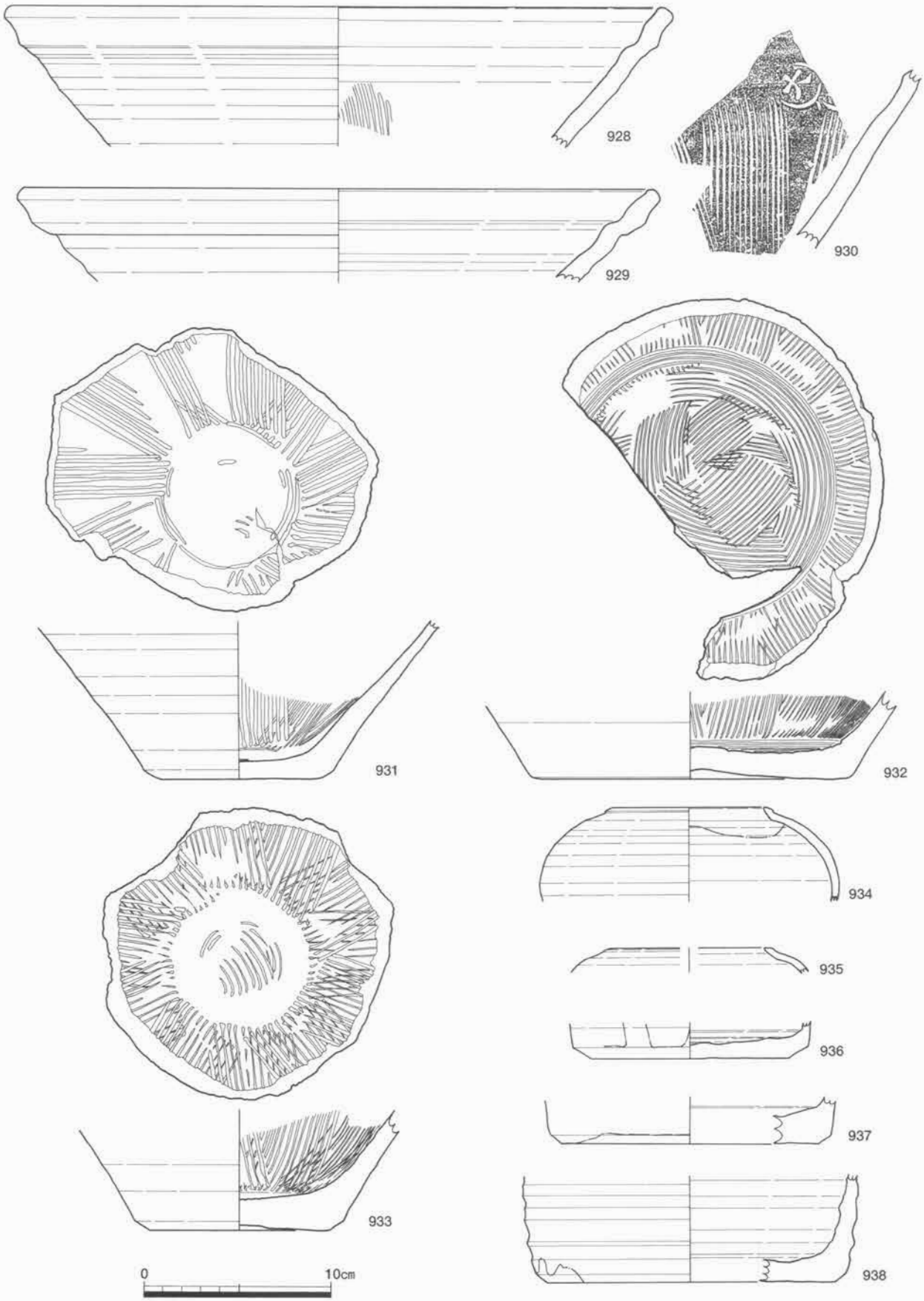
1号（溝）882～979



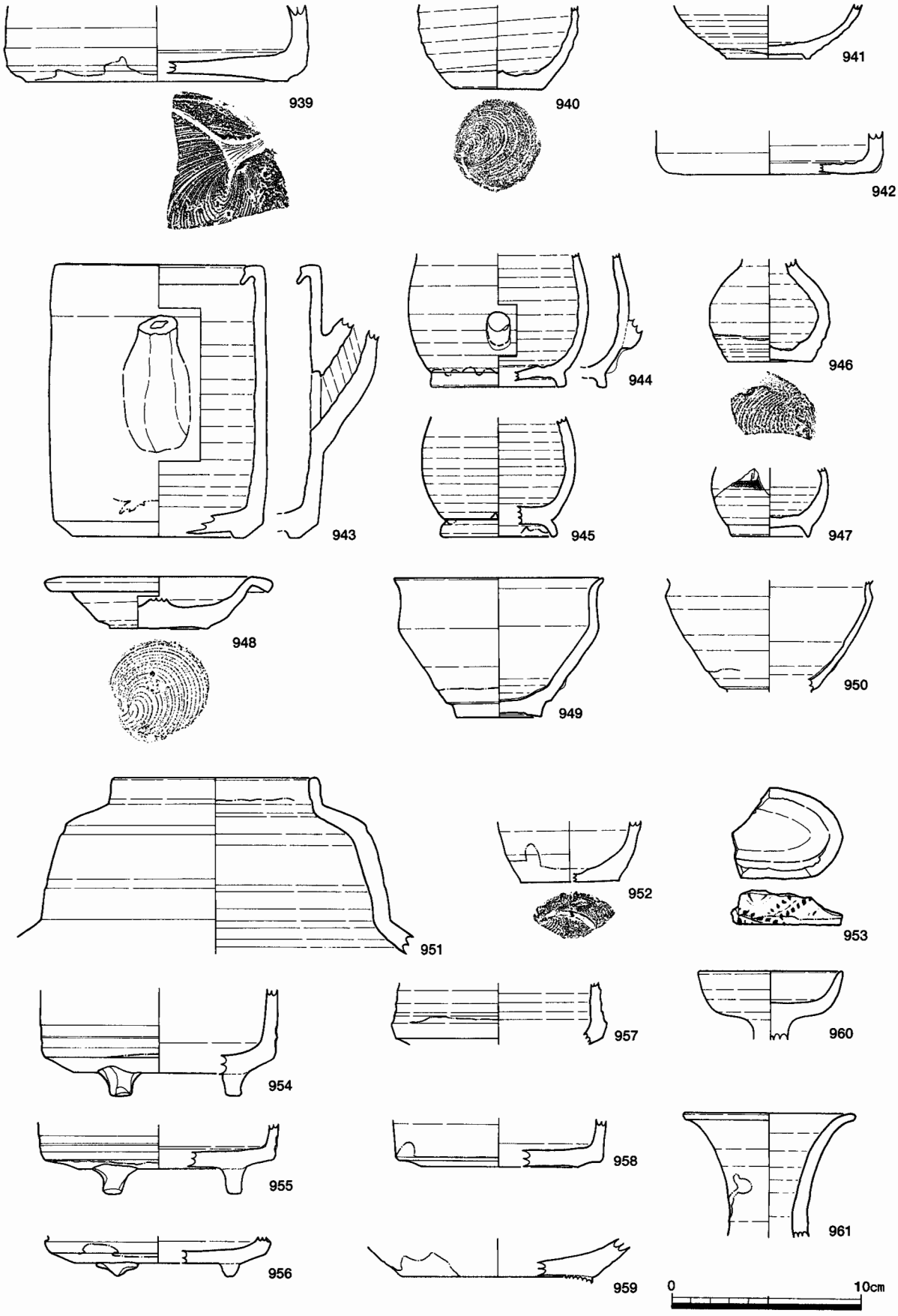
第103図　近世の遺構から出土した遺物（６）



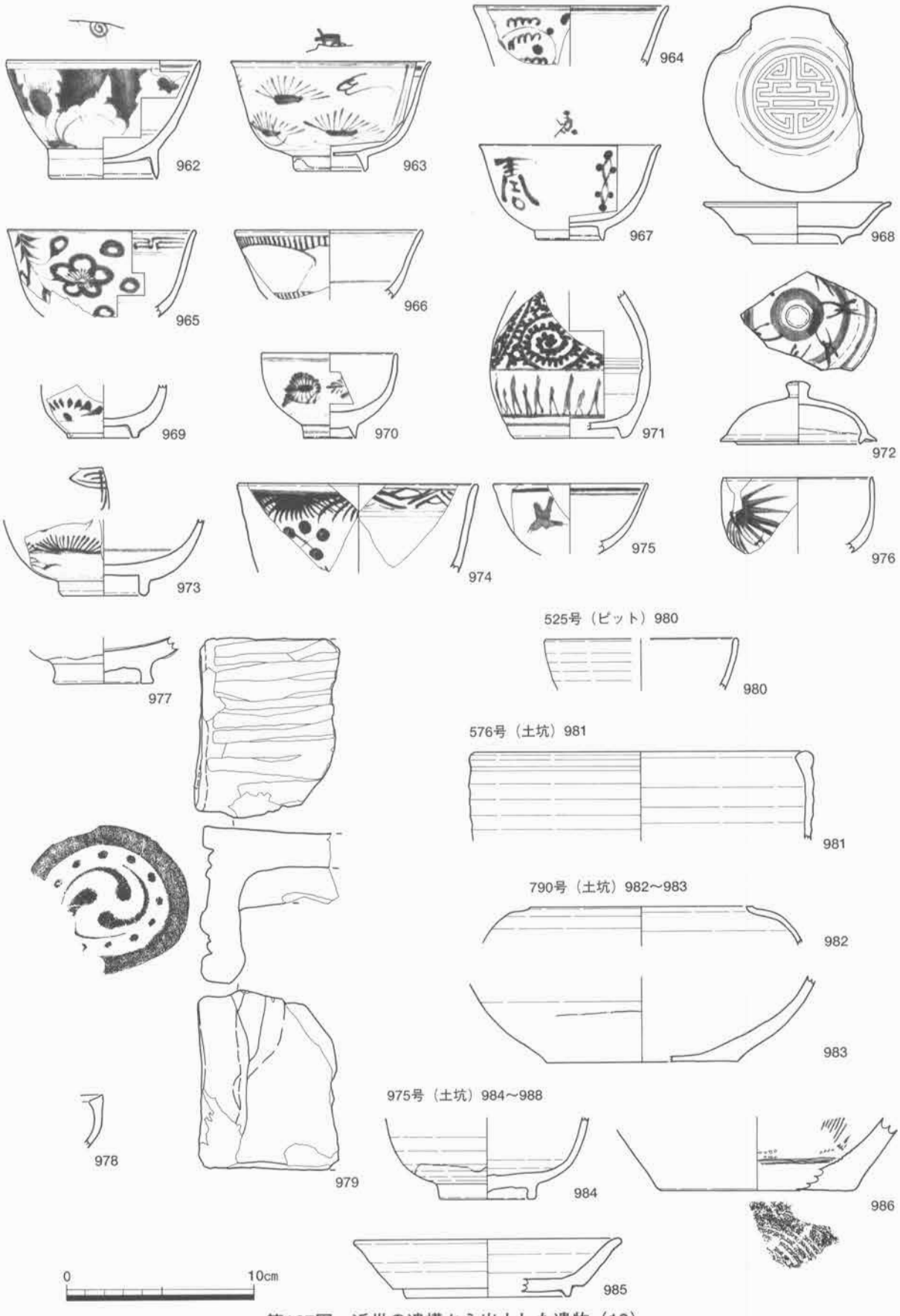
第104図　近世の遺構から出土した遺物（7）



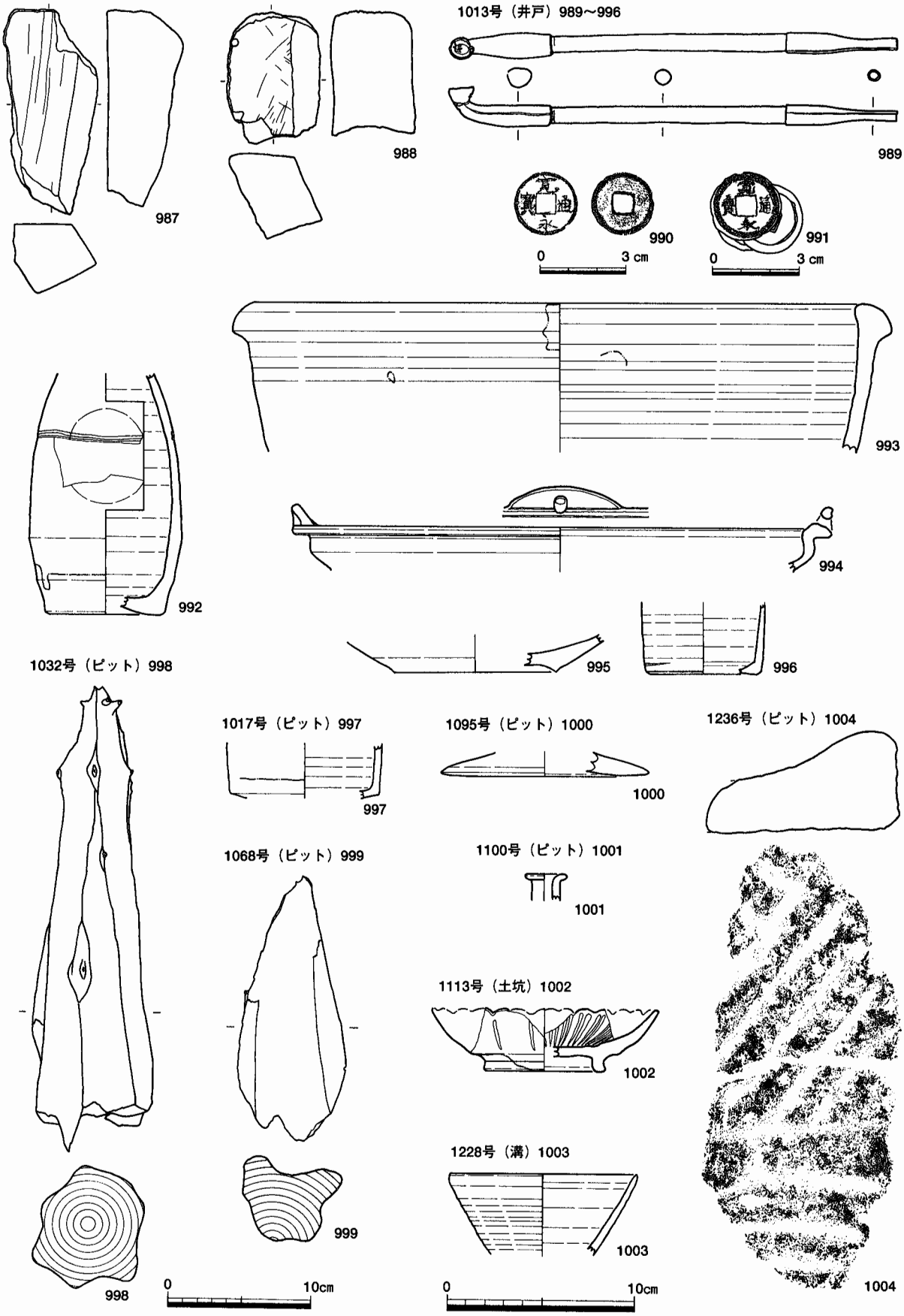
第105図　近世の遺構から出土した遺物（８）



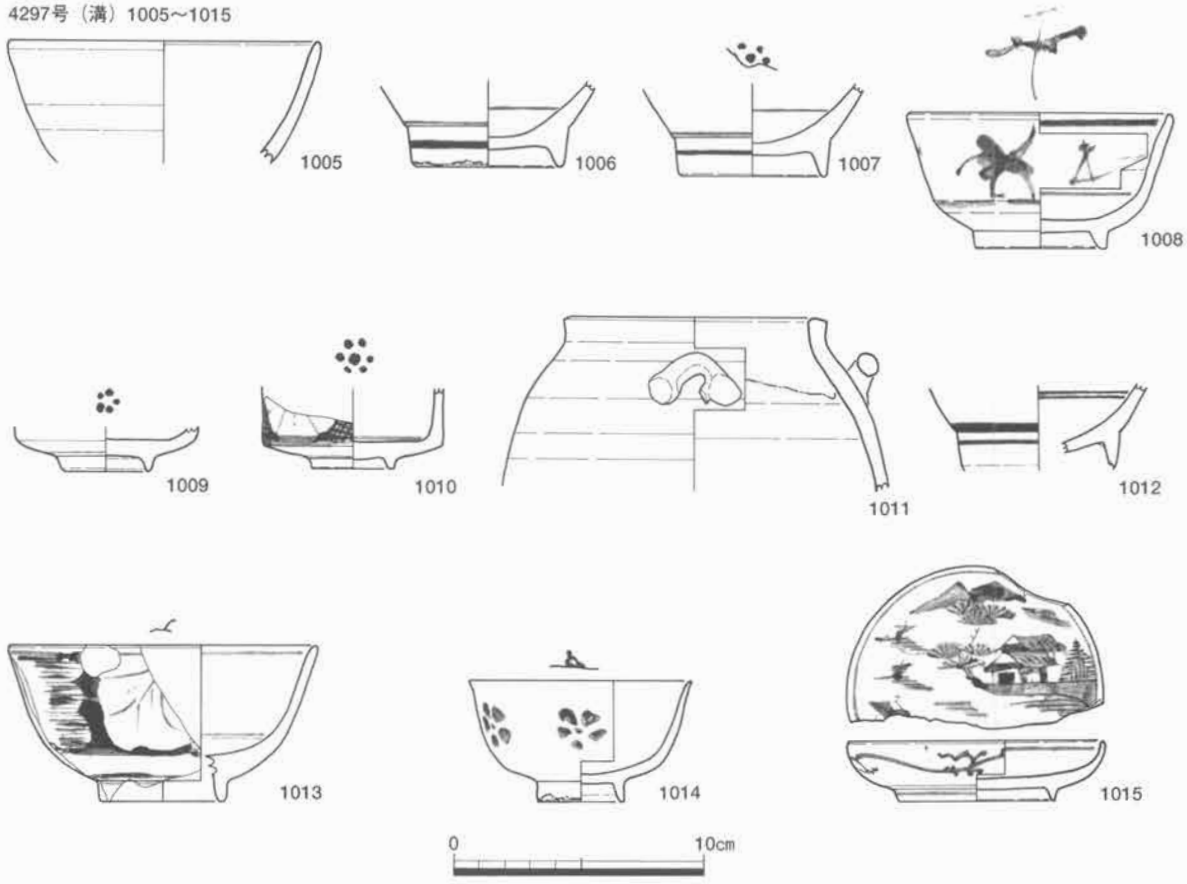
第106図　近世の遺構から出土した遺物（9）



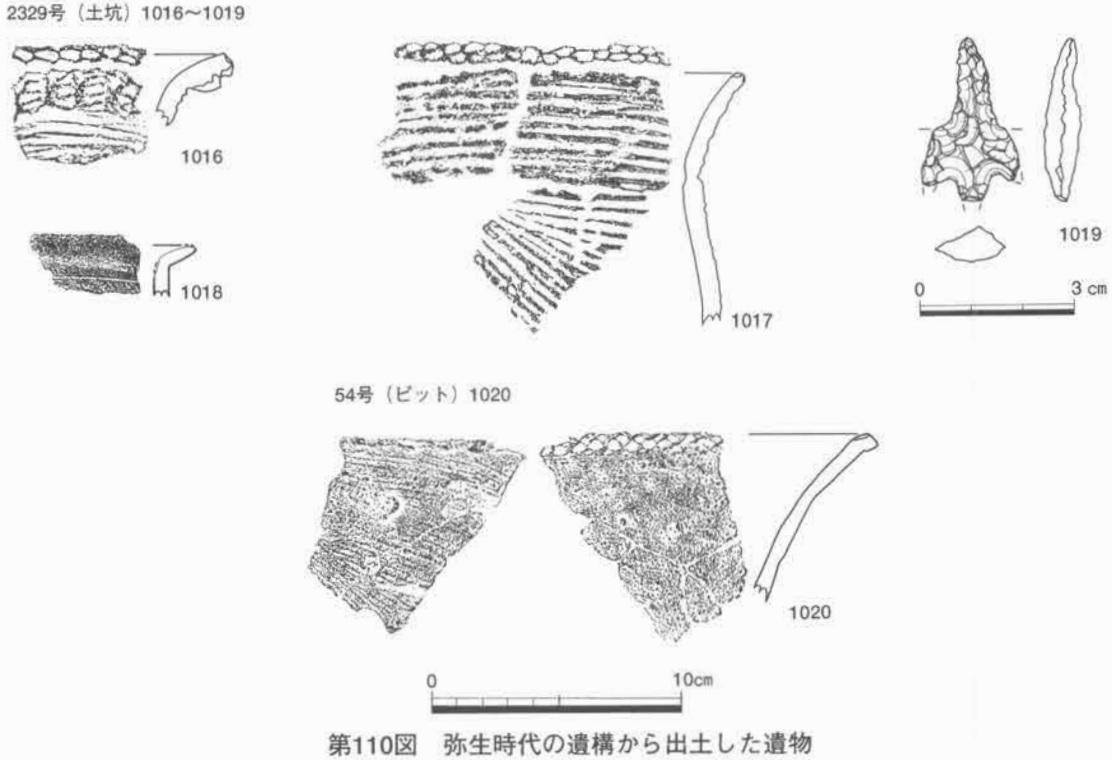
第107図　近世の遺構から出土した遺物（10）



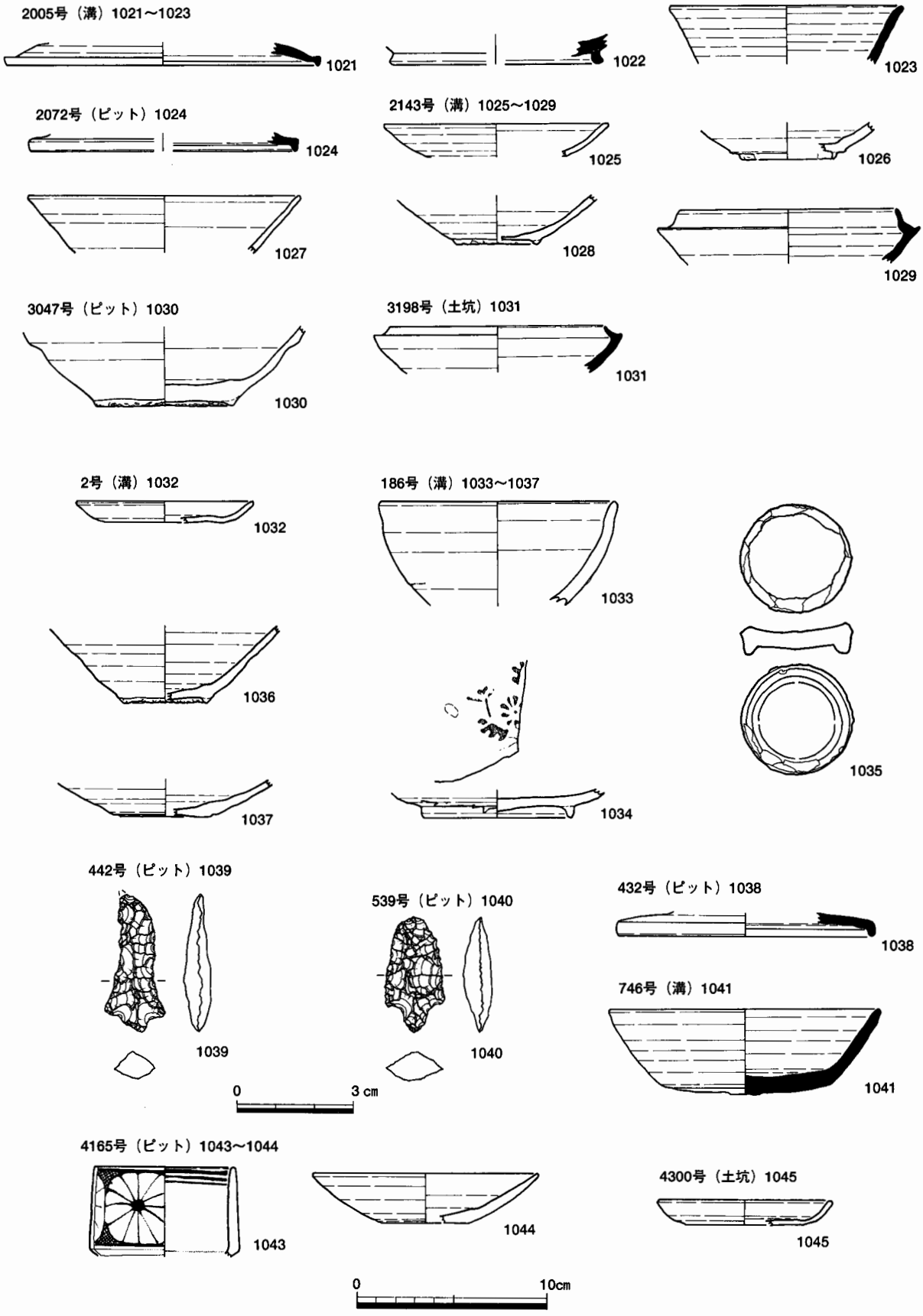
第108図　近世の遺構から出土した遺物（11）



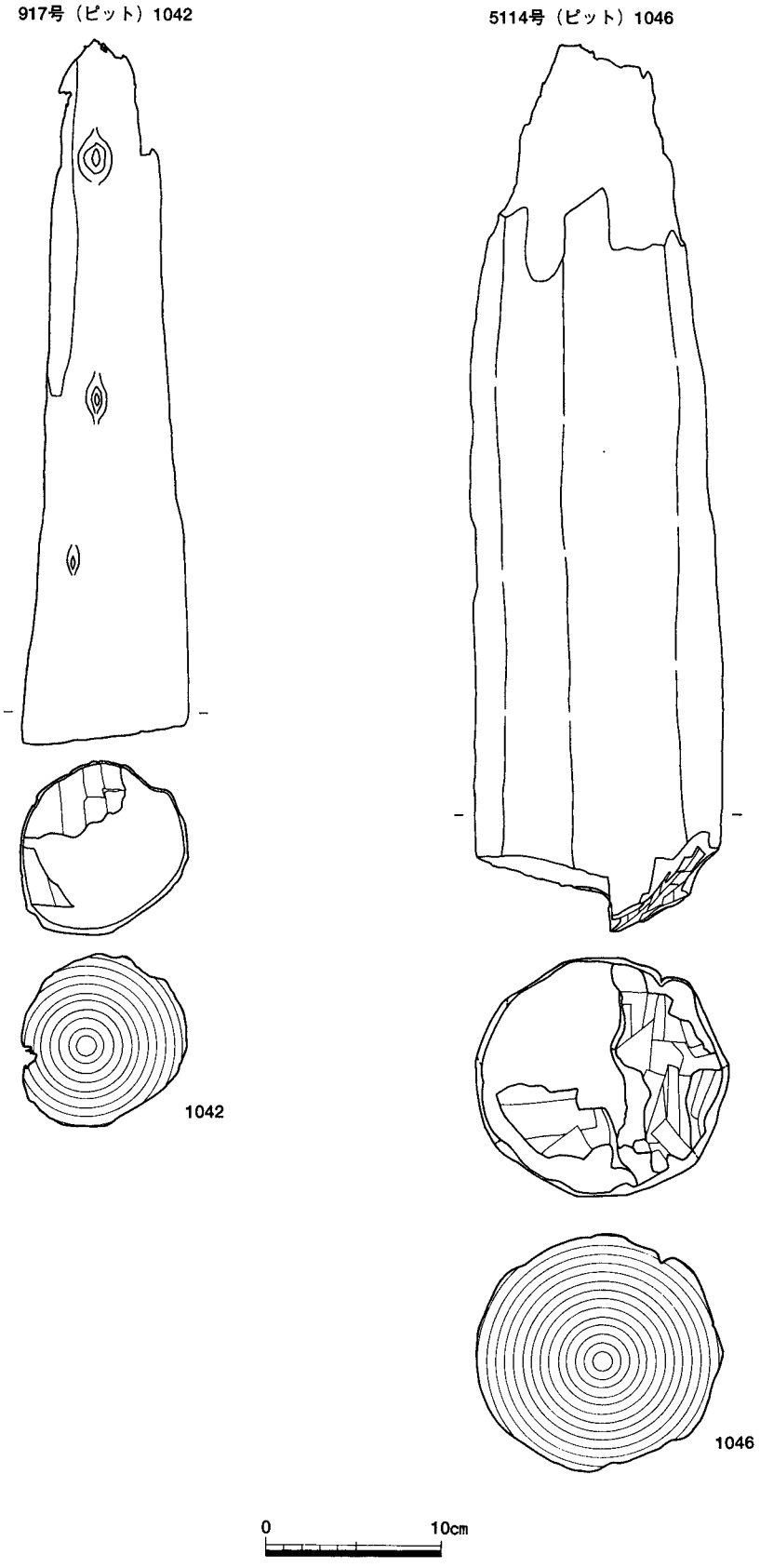
第109図　近世の遺構から出土した遺物（12）



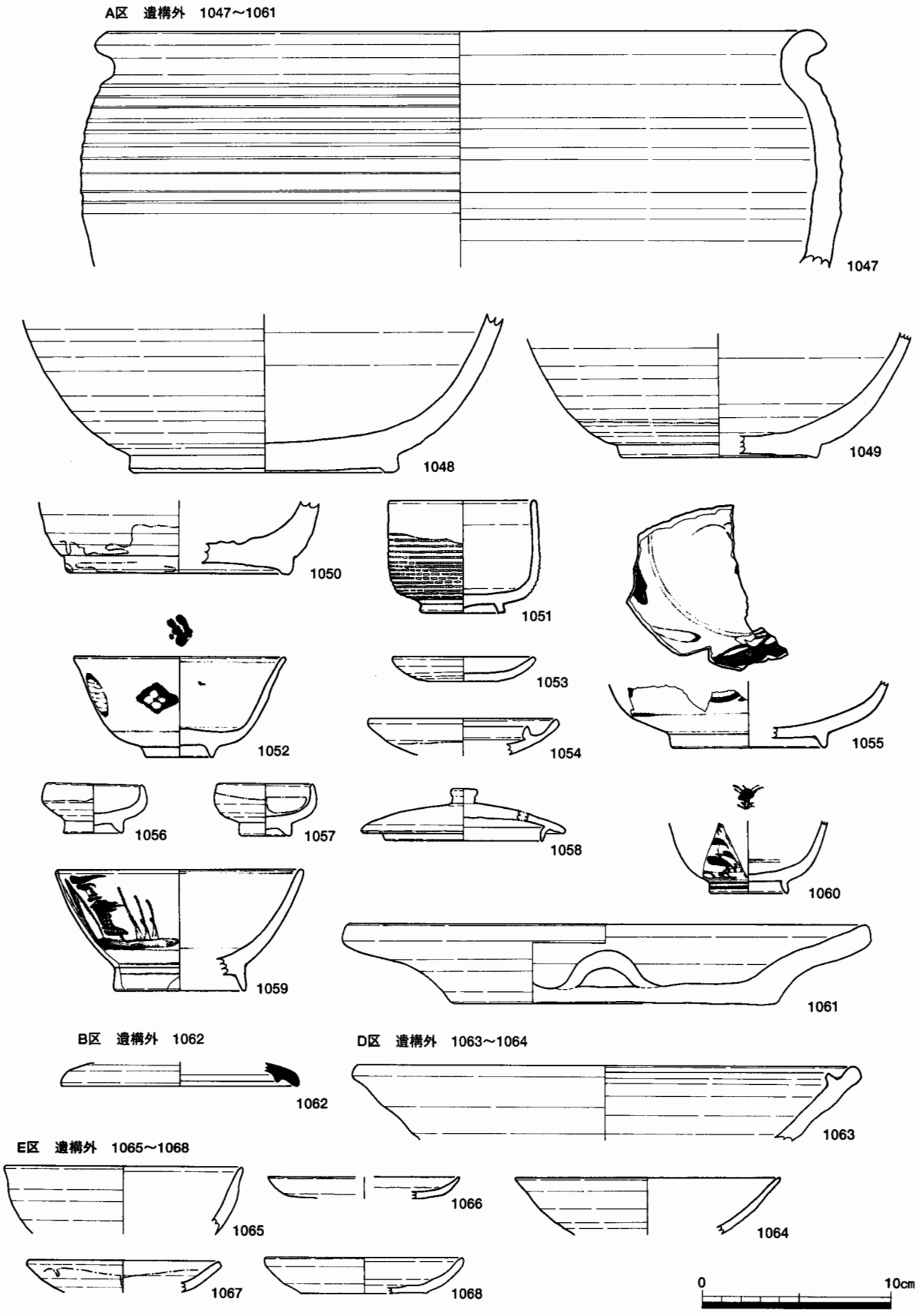
第110図　弥生時代の遺構から出土した遺物



第111図　時代不明の遺構から出土した遺物（１）



第112図　時代不明の遺構から出土した遺物（２）



第113図　遺構外から出土した遺物

第5章　自然科学分析

第1節　住居カマド焼土の焼成年代推定

藤根　久（パレオ・ラボ）

(1) はじめに

佐口遺跡は、美濃加茂市山之上町佐口地内に所在する古代および中世～近世の遺構・遺物が検出される遺跡である。ここでは、古代住居のカマド焼土の熱残留磁化を測定し、その磁化方向から焼成年代を推定した。

(2) 考古地磁気年代推定の原理

地球上には地磁気が存在するために、磁石は北を指す。この地磁気は、その方向と強度（全磁力）によって表される。方向は、真北からの角度である偏角（Declination）と水平面からの角度である伏角（Inclination）によって表す。磁気コンパスが北として示す方向（磁北）は、真北からずれており、この間の角度が偏角である。また、磁針をその重心で支え磁南北と平行な鉛直面内で自由に回転できるようにすると、北半球では磁針のN極が水平面より下方を指す。この時の傾斜角が伏角である。現在、この付近の偏角は約6.95°、伏角は約48.80°、全磁力（水平分力）は約30725.7（nT）である（理科年表、1993；いずれも1990年値）。これら地磁気の三要素（偏角・伏角・全磁力）は、観測する地点によって異なった値になる。全世界の地磁気三要素の観測データの解析から、現在の地磁気の分布は、地球の中心に棒磁石を置いた時にできる磁場分布に近似される。また、こうした地磁気は時間の経過とともに変化し、ある地点で観測される偏角や伏角あるいは全磁力の値も時代とともに変化する。この地磁気の変動を地磁気永年変化と呼んでいる。

過去の地磁気の様子は、高温に焼かれた窯跡や炉跡などの焼土、地表近くで高温から固結した火山岩あるいは堆積物などの残留磁化測定から知ることができる。大半の物質は、ある磁場中に置かれると磁気を帯びるが、強磁性鉱物（磁鉄鉱など）はこの磁場が取り除かれた後でも磁気が残る。これが残留磁化である。考古地磁気では、焼土の残留磁化（熱残留磁化）が、焼かれた当時の地磁気の方向を記録していることを利用する。こうした地磁気の化石を調べた結果、地磁気の方向は少しづつではあるが変化しており、その変化は地域によって違っていることが分かっている。過去2,000年については、西南日本の窯跡や炉跡の焼土の熱残留磁化測定から、その変化が詳しく調べられている（広岡、1977；Shibuya、1980；広岡、1993）。また、湖や浅海の堆積物の堆積残留磁化を測定し、過去11,500年間の地磁気変化曲線も求められている（Hyodoほか、1993）。

年代のよく分かっている窯跡焼土や火山岩の熱残留磁化測定あるいは堆積物の堆積残留磁化から地磁気永年変化曲線が得られると、逆に年代の確かでない遺跡焼土などの残留磁化測定を行い、先の地磁気永年変化曲線と比較することによって、その焼成時の年代が推定できる。また、年代が推定されている窯跡焼土などについても、土器とは違った方法で焼成時の年代を推定できることから、さらに科学的な裏付けを得ることができる。この年代推定法が考古地磁気による年代推定法である。ただし、この方法は、^{14}C年代測定法など他の絶対年代測定法のように、測定結果単独で年代の決定を決定す

る方法ではない。すなわち、焼土の熱残留磁化測定から得られる偏角および伏角の値からは複数の年代値が推定されるが、いずれを採用するかは、焼き物等の年代が参考となる。

(3) 試料採取と残留磁化測定

考古地磁気による年代推定は、a) 測定用試料の採取および整形、b) 残留磁化測定および統計計算を行い、c) 地磁気永年変化曲線との比較を行い、焼成年代を推定する。なお、試料の磁化保持力や焼成以後の二次的な残留磁化の有無などを確認するために、段階交流消磁も行った。

a.測定用試料の採取および整形

試料は、カマド焼土面において、①一辺約4㎝の立方体試料を取り出すため、金属ヘラなどを用いて、対象とする部分（良く焼けた部分）の周囲に溝を掘る。②薄く溶いた石膏を試料全体にかけ、試料表面を補強する。③やや堅め（練りハミガキ程度）の石膏を試料上面にかけ、すばやく一辺5㎝の正方形のアルミ板を押し付け、石膏が固まるまで放置する。④石膏が固まった後、アルミ板を剥し、この面の最大傾斜の方位および傾斜角を磁気コンパス（考古地磁気用に改良したクリノメータ）で測定し、方位を記録すると同時に、この面に方位を示すマークと番号を記入する。⑤試料を掘り起こした後、試料の底面に石膏をつけて補強し持ち帰る。⑥持ち帰った試料は、ダイヤモンド・カッターを用いて一辺3.5㎝・厚さ2㎝程度の立方体に切断する。この際切断面が崩れないように、一面ごとに石膏を塗って補強し、熱残留磁化測定用試料とする。採取した試料は、A区2001号遺構が9試料、A区2035号遺構が12試料、A区2341号遺構が12試料、A区2390号遺構が9試料、C区34号遺構が11試料、C区470号遺構が10試料である。

b.段階交流消磁、熱残留磁化測定および統計計算の結果

熱残留磁化測定は、リング・コア型スピナー磁力計（SMM-85：㈱夏原技研製）を用いて測定した。磁化保持力の様子や放棄された後の二次的な磁化の有無を確認するため、任意1試料（A区№2001-3、A区№2035-8、A区№2341-9、A区№2390-5、C区№34-7、C区№470-9）について交流消磁装置（DEM-8601：㈱夏原技研製）を用いて段階的に消磁し、その都度スピナー磁力計を用いて残留磁化を測定した（第2図；A区№2390-5とC区№34-7を示す）。その結果、試料の磁化強度は10^{-2}～10^{-4} emuと強く、75 Oeでの磁化強度は、NRM（自然残留磁化）に対して高いと言える（b.残留磁化の相対強度）。また、磁化方向は、中心に向かって直線的に変化し、安定した方向を記録している（c.ジダーベルト図）。

以上の理由から、75 Oeで消磁した際の残留磁化方向が焼成時の磁化方向であると判断した。そこで、これ以外の段階交流消磁を行っていない試料も、75 Oe消磁した後に残留磁化を測定した。

複数試料の測定から得た偏角（Di）、伏角（Ii）を用いて、Fisher（1953）の統計法により平均値（Dm、Im）を求めた。信頼度計数は、515.47～2714.90と大きな値であり、各誤差も小さな値となった（第1表）。

求めた熱残留磁化方向は、真北を基準とする座標に対する数値に補正する。偏角は、建設省国土地理院の1990年の磁気偏角近似式から計算した6.95°Wを使用した。その結果は、Shibuya（1980）による地磁気変化曲線とともにプロットした。図中測定点に示した楕円は、フッシャー（1953）の95%信頼角より算定した偏角および伏角の各誤差から作成したものである。

第１表　住居カマド焼土の残留磁化測定結果と統計計算結果（偏角補正前）

遺構名	試料No.	偏角(° E)	伏角(°)	強度(x10^{-3} emu	備考	統計処理項目	統計値
A区No.2001 75 Oe消磁	1	-5.5	65.0	0.569		試料数 (n)	9
	2	-2.1	64.4	0.676			
	3	-8.8	63.9	1.660	段階交流消磁	平均偏角Im (° E)	-6.79
	4	-6.6	63.5	1.270			
	5	1.0	65.5	8.000		平均伏角Dm (°)	64.22
	6	-10.4	64.7	0.669			
	7	-8.5	64.6	0.538		誤差角δD (°)	2.83
	8	-10.6	63.6	0.679			
	9	-9.0	62.4	0.806		誤差角δI (°)	1.23
	10						
	11					信頼度計数 (k)	1758.27
	12						
	13					平均磁化強度 (x10^{-3} emu)	1.65
	14						

遺構名	試料No.	偏角(° E)	伏角(°)	強度(x10^{-3} emu	備考	統計処理項目	統計値
A区No.2035 75 Oe消磁	1	-9.2	62.6	2.220		試料数 (n)	12
	2	-5.8	62.2	0.603			
	3	-8.0	63.0	0.670		平均偏角Im (° E)	-9.24
	4	-7.4	59.9	0.911			
	5	-11.4	62.4	8.750		平均伏角Dm (°)	61.44
	6	-8.6	60.5	0.316			
	7	-11.7	59.9	1.130		誤差角δD (°)	1.74
	8	-11.4	62.6	7.860	段階交流消磁		
	9	-10.0	61.2	9.800		誤差角δI (°)	0.83
	10	-9.6	59.1	6.970			
	11	-8.5	62.5	3.310		信頼度計数 (k)	2714.90
	12	-9.2	61.3	1.170			
	13					平均磁化強度 (x10^{-3} emu)	3.64
	14						

遺構名	試料No.	偏角(° E)	伏角(°)	強度(x10^{-3} emu	備考	統計処理項目	統計値
A区No.2341 75 Oe消磁	1	-8.8	60.6	10.600		試料数 (n)	12
	2	-9.0	59.8	8.040			
	3	-6.7	59.5	6.200		平均偏角Im (° E)	-7.99
	4	-11.0	59.3	7.940			
	5	-6.2	56.9	1.650		平均伏角Dm (°)	59.57
	6	-9.2	59.6	9.390			
	7	-11.3	59.1	3.950		誤差角δD (°)	1.68
	8	-8.0	59.4	9.720			
	9	-8.1	60.2	9.060	段階交流消磁	誤差角δI (°)	0.85
	10	-8.1	58.5	9.680			
	11	-6.3	61.0	12.500		信頼度計数 (k)	2638.97
	12	-3.1	60.7	5.430			
	13					平均磁化強度 (x10^{-3} emu)	7.85
	14						

遺構名	試料No.	偏角(° E)	伏角(°)	強度(x10^{-3} emu	備考	統計処理項目	統計値
A区No.2390 75 Oe消磁	1				破損	試料数 (n)	8
	2	-7.4	62.5	2.950			
	3	-10.5	61.5	1.260		平均偏角Im (° E)	-9.62
	4	-15.4	65.0	9.860			
	5	-9.6	64.9	5.840	段階交流消磁	平均伏角Dm (°)	64.15
	6	-10.2	64.3	0.857			
	7	-6.6	66.3	5.150		誤差角δD (°)	3.10
	8	-9.7	65.2	0.363			
	9	-7.6	63.3	0.542		誤差角δI (°)	1.35
	10						
	11					信頼度計数 (k)	1685.70
	12						
	13					平均磁化強度 (x10^{-3} emu)	3.35
	14						

遺構名	試料No.	偏角(° E)	伏角(°)	強度(x10^{-3} emu	備考	統計処理項目	統計値
C区No.34 75 Oe消磁	1	-18.3	56.6	0.547	計算から除外	試料数 (n)	7
	2	-14.4	59.2	6.590	計算から除外		
	3	-6.9	56.1	0.536		平均偏角Im (° E)	-4.52
	4	6.9	53.1	0.721	計算から除外		
	5	-16.5	61.5	1.080	計算から除外	平均伏角Dm (°)	58.27
	6	-5.6	53.7	7.950			
	7	-4.3	57.2	14.800	段階交流消磁	誤差角δD (°)	5.06
	8	-11.2	61.9	1.480			
	9	3.0	59.3	5.000		誤差角δI (°)	2.66
	10	-3.8	60.8	6.830			
	11	-3.0	58.5	1.300		信頼度計数 (k)	515.47
	12						
	13					平均磁化強度 (x10^{-3} emu)	5.41
	14						

遺構名	試料No.	偏角(° E)	伏角(°)	強度(x10^{-3} emu	備考	統計処理項目	統計値
C区No.470 75 Oe消磁	1	-4.7	59.1	0.498		試料数 (n)	9
	2				破損		
	3	-4.2	59.6	5.280		平均偏角Im (° E)	-6.10
	4	-8.8	58.1	0.803			
	5	-7.4	57.1	5.590		平均伏角Dm (°)	58.41
	6	-4.0	53.4	34.300			
	7	-6.1	58.4	1.330		誤差角δD (°)	3.04
	8	-8.8	60.3	1.280			
	9	-2.2	59.2	1.730	段階交流消磁	誤差角δI (°)	1.59
	10	-9.0	60.3	6.630			
	11					信頼度計数 (k)	1049.07
	12						
	13					平均磁化強度 (x10^{-3} emu)	6.38
	14						

c. カマド跡の焼成年代

第114図には、広岡（1993）による地磁気永年変化曲線の一部とともに各住居のカマド焼土の磁化方向を示した。この図を見ると、焼土の磁化方向は、600年～1,000年の間の各永年変化曲線付近に位置する。

各住居カマドの磁化方向の中心を最も近い曲線上に移動した場合、第2表に示す年代値が推定される。なお、C区の住居は、出土遺物から7世紀後半～8世紀初めと推定されていることから、アンダーラインの年代値が有力である。

第2表　住居カマド焼土の残留磁化測定による焼成年代推定結果

遺　構	遺物による年代	考古地磁気推定年代（A.D.）
A区No.2001	7世紀	665±20年
A区No.2035	7世紀	650±10年
A区No.2341	7世紀	630±10年
A区No.2390	7世紀	655±25年
C区No.34	7世紀後半～8世紀初め	620±25年、725±15年
C区No.470	7世紀後半～8世紀初め	620±15年、725±10年

引用文献

Fisher、R.A. 1953 Disparsion on a sphere.Proc.Roy.Soc.London、A、217、295-305.

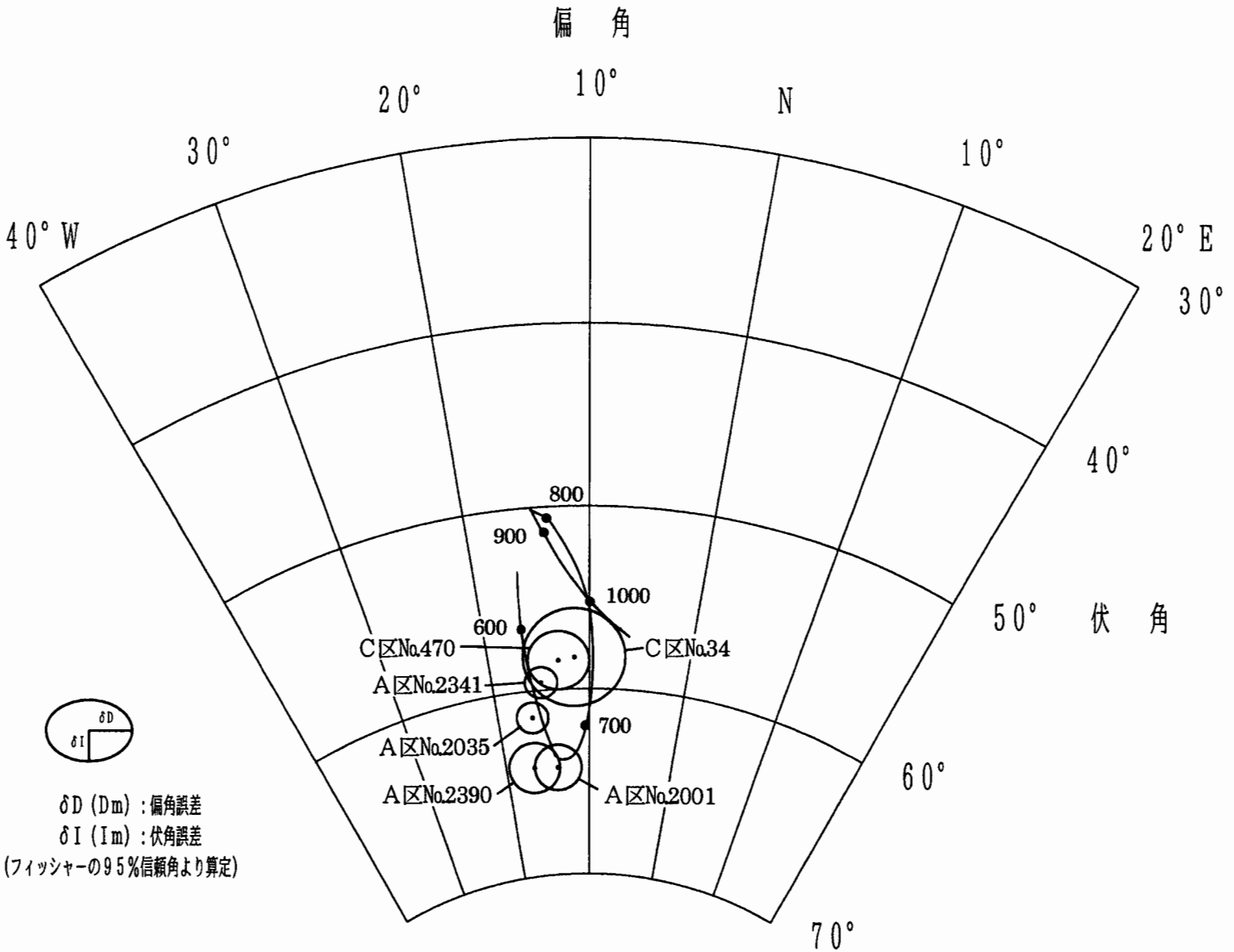
広岡公夫 1977「考古地磁気および第四紀古地磁気研究の最近の動向」『第四紀研究』15、200-203.

広岡公夫 1993「年代推定の手法」『季刊 考古学』42、75-77.

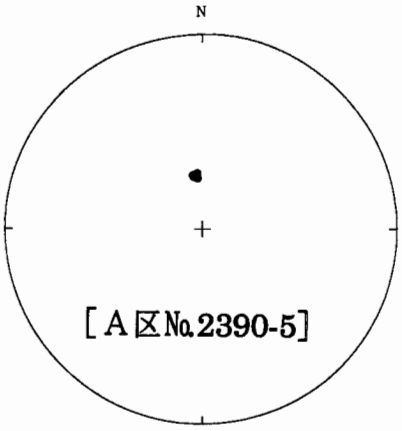
Hyodo、M.、C.Itota and K.Yasukawa 1993 Geomagnetic Secular Variation Reconstructed from Magnetizations of Wide-Diameter Cores of Holocene Sediments in Japan、J.Geomag.Geoelectr.、45、669-696.

国立天文台編 1993『理科年表』丸善、952p

Shibuya、H. 1980 Geomagnetic secular variation in Southwest Japan for the past 2、000years by means of archaeomagnetism.大阪大学基礎工学部修士論文、54p.

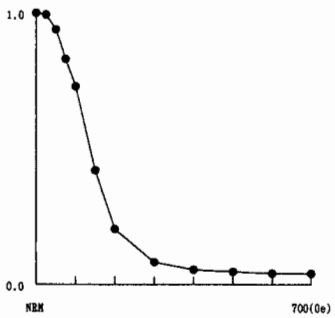


第114図　住居カマド焼土の磁化方向と古地磁気永年変化曲線（広岡、1993）

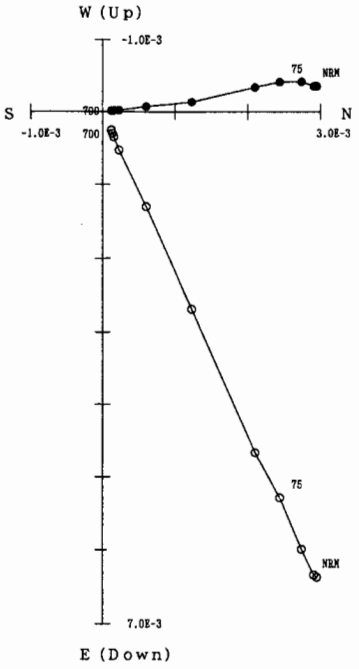


●：下向き　○：上向き

[a．シュミット・ネット投影図]



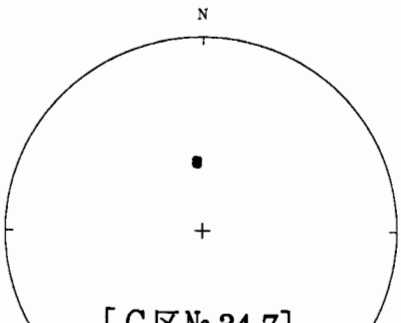
[b．残留磁化の相対強度]



座標系 → ●：N・S－E・W　○：N・S－Up・Down

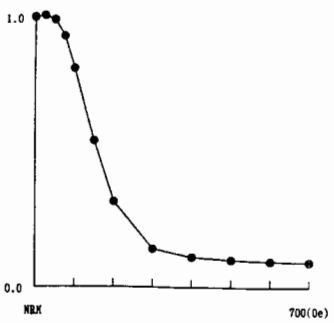
消磁レベル（Oe）：　NRM- 25- 50- 75-100-150-200-300-400-500-600-700

[c．ジダーベルト図（単位：emu）]

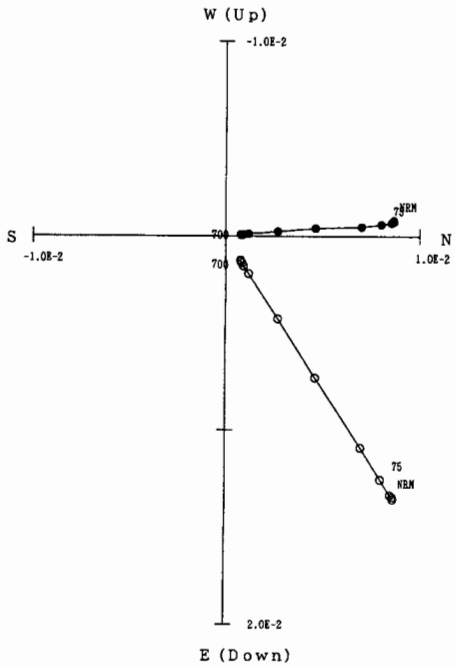


●：下向き　○：上向き

[a．シュミット・ネット投影図]



[b．残留磁化の相対強度]



座標系 → ●：N・S－E・W　○：N・S－Up・Down

消磁レベル（Oe）：　NRM- 25- 50- 75-100-150-200-300-400-500-600-700

[c．ジダーベルト図（単位：emu）]

第115図　A区No.2390-5およびC区No.34-7の段階交流消磁結果

第2節　佐口遺跡出土木製品の樹種同定

植田弥生（パレオ・ラボ）

(1) はじめに

美濃加茂市山之上町に所在する当遺跡から出土した木製品の樹種同定結果を、報告する。木製品は、主に中世と近世の柱根10点、中世の円盤状木製品１点、中世の井戸跡から出土した曲物桶底板３点である。

近隣の遺跡で行われた樹種調査には、弥生時代と古墳時代の住居跡から出土した炭化材の樹種が尾崎遺跡（1993）であり、牧野小山遺跡（1998）では６世紀初頭の住居跡出土炭化材が、大坪遺跡（1999）では中世の柱根の樹種調査が、諸洞遺跡（1999）では近世後半の井戸から出土した桶底の可能性がある丸板の樹種報告がある。当地域一帯では特に中世以降の発掘調査はまだ少ない。当遺跡の樹種調査は、どのような樹種を利用して生活史が営まれてきたのか、その歴史性を知る資料の蓄積となる。

(2) 同定の方法

材の組織標本は、片刃の剃刀を用いて材の横断面（木口）・接線断面（板目）・放射断面（柾目）の３方向を薄く剥ぎ取りスライドグラスの上に並べ、ガムクロラールで封入し永久プレパラートを作成した。そして光学顕微鏡を用いてこれらの材組織を観察し同定を行った。

プレパラートは、パレオ・ラボに保管されている。

(3) 結果

樹種同定結果の一覧を第3表にまとめ、第４表に木製品ごとに検出樹種を比較した。

木製品14点から検出された分類群は、モミ属・コウヤマキ・ヒノキの針葉樹３分類群、コナラ属クヌギ節・クリの落葉広葉樹２分類群が検出された。

柱根10点に使われていた樹種は、ヒノキ･クヌギ節･クリの３分類群であった。時期別に見ると、中世および中世？の柱根６点はクリが４点で最も多く検出され、そのほかにヒノキとクヌギ節が各１点で、近世の２点はヒノキ、古代？の１点はヒノキ、不明の１点はヒノキであった。

中世の円盤状木製品は、ヒノキであった。

中世の曲物桶底板３点は、同一の井戸（遺構番号58）から出土したものであるが、その樹種はすべて針葉樹のモミ属・コウヤマキ・ヒノキであり、それぞれ異なる樹種であった。

同定された樹種の材組織記載

(1) モミ属　*Abies*　マツ科　第116図　1a-1c（⑭曲物桶底板 遺物番号258）

仮道管・放射柔細胞からなり樹脂細胞はない針葉樹材。早材から晩材への移行はゆるやかで、晩材部の量は多い。放射柔細胞の壁は厚く放射断面において細胞壁に数珠状肥厚が見られる。分野壁孔は小型のスギ型やヒノキ型、１分野に１～４個、配置は整然としていない。放射組織の細胞高は比較的高い。

モミ属は常緑高木で、暖帯から温帯下部の山地に普通に見られるモミ、温帯上部の高山に生育する

ウラジロモミ・シラベ・アオモリトドマツ、北海道の山地に生育するトドマツの5種がある。材質はやや軽軟で加工は容易だが保存性は低い。

(2) コウヤマキ　*Sciadopitys verticillata* Sieb. et Zucc.　コウヤマキ科　第116図　2a-2c（⑬曲物桶底板 遺物番号260）

仮道管・放射柔細胞からなり、樹脂細胞・樹脂道はない針葉樹材。早材から晩材への移行はゆるやかである。分野壁孔は窓状である。放射組織は10細胞以下の背の低いものが多い。

コウヤマキは日本特産の1属1種の常緑高木である。本州の福島県以南・四国・九州の暖帯上部から温帯の山地に分布し、現在は長野県の木曽、和歌山県の高野山に多い。材は耐久性・耐水性・耐蟻性に優れる。

(3) ヒノキ　*Chamaecyparis obtusa* Endl.　第116図　3a-3c（⑤柱根 遺物番号747）

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材の量は少ない。分野壁孔の孔口はやや斜めに細く開いたヒノキ型、1分野におもに2個が水平に整然と配列する。

ヒノキは本州の福島県以南・四国・九州のやや乾燥した尾根や岩上に生育し、材は耐久性・切削性・割裂性に優れている。

(4) コナラ属コナラ亜属クヌギ節　*Quercus* subgen. *Q.* sect. *Cerris*　ブナ科　第117図　4a-4c（⑦柱根 遺物番号336）

年輪の始めに大型の管孔が1～3層配列し、晩材部は厚壁で孔口が丸い小型の管孔が単独で放射方向に配列する環孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、内腔にはチロースがある。放射組織はほぼ同性、単列のものと細胞幅が非常に広い複合状のものがあり、道管との壁孔は交互状や柵状である。

クヌギ節は落葉広葉樹で、クヌギとアベマキが属する。いずれの種も暖帯の山野や二次林に多い。材は重厚で割裂性が良い。

(5) クリ　*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.　ブナ科　第117図　5a-5c（④柱根 遺物番号1046）

年輪の始めに大型の管孔が密在し除々に径を減じてゆき、晩材では非常に小型の管孔が火炎状に配列し、接線状柔組織が顕著な環孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、内腔にはチロースがある。放射組織は単列同性、道管との壁孔は孔口が大きく開き、交互状や柵状である。

クリは北海道西南部以南の暖帯から温帯下部の山野に普通の落葉高木である。材は狂いが少なく粘りがあり耐朽性に優れている。

(4) まとめ

調査した14点から検出された樹種は、針葉樹のモミ属（1点）・コウヤマキ（1点）・ヒノキ（7点）、落葉広葉樹のクリ（4点）・クヌギ節（1点）であった。

全体的にはヒノキが多く検出され、柱根・円盤状木製品・曲物桶底板の調査したすべての木製品に使われていた。時期も古代？から中世そして近世の各時期から検出されていることから、ヒノキは長期間にわたり当地域の重要な木材資源であったことが判る。

柱根に使用されていた樹種はヒノキ・クリ・クヌギ節の3分類群で、その材質は耐久性と耐湿性に特に優れた有用建築材として知られている樹種であり、適材を選択していたことが判る。特に中世と中世？は調査試料数がほかの時期のものより多いこともあるが、この3分類群が検出され、またクリが

最も多い傾向が見られた。当遺跡の約１㎞西に位置する大坪遺跡から出土した中世の礎板１点と柱根５点は、クリ３点、アカマツ・アカガシ亜属・モモが各１点である（『諸洞遺跡・大坪遺跡』、1999）。大坪遺跡においても、針葉樹と広葉樹の複数の分類群が使用されていること、複数の分類群の中でも特にクリが多い。当遺跡の結果は、大坪遺跡の中世の柱材における樹種利用と同様な傾向が見られた。

中世以前の建築材樹種調査としては、当遺跡から約２㎞南西に位置する尾崎遺跡（藤根、1993）の弥生時代や古墳時代の住居跡と、約３㎞南東の牧野小山遺跡（植田、1998）の古墳時代の住居跡などがある。尾崎遺跡からは、常緑広葉樹のアカガシ亜属、落葉広葉樹のコナラ節・クヌギ節・クリ・ニレ属・トチノキ、そしてササ類が検出されている。牧野小山遺跡では、針葉樹のヒノキ属、落葉広葉樹のイヌシデ節・コナラ節・クヌギ節が検出された。これらの樹種の多くは中世の柱根に使用されている樹種とも共通性が高く、中世よりさらに古い時期から多種類の樹種が建築材として利用されていたことが判った。

曲物や桶材その底板は、ヒノキやサワラなどヒノキ科の材であることが圧倒的に多い。当遺跡の西方約２㎞に位置する諸洞遺跡でも、近世後半の井戸から出土した桶底の可能性が高い丸板は、ヒノキ科ヒノキ属に属するサワラであった（『諸洞遺跡・大坪遺跡』、1999）。しかし、当遺跡では中世の曲物桶底板３点は同一の井戸から出土したものであるが、モミ属・コウヤマキ・ヒノキのそれぞれ異なる樹種が使われていた。このことから、中世の柱根の樹種が多様であったと同様に、底板に使用する樹種利用も多様性がかなりあったことが感じられる。なお、ヒノキとコウヤマキは耐水性に優れた材質であるが、モミ属はやや劣る。

参考文献

財団法人岐阜県文化財保護センター 1999『諸洞遺跡・大坪遺跡』

藤根久 1993「尾崎遺跡住居址出土炭化材の樹種」『尾崎遺跡』財団法人岐阜県文化財保護センター、135-138、図版27-29

植田弥生 1998「牧野小山遺跡出土の住居跡柱材の樹種同定」『牧野小山遺跡Ｃ地点』財団法人岐阜県文化財保護センター、149-151、図版12-13

第3表　出土木製品の樹種同定結果

樹種試料	器種	遺物番号	出土地点	遺構番号	樹種	時期
①	柱根	1042	ピット	917	ヒノキ	不明
②	柱根	998	ピット	1032	ヒノキ	近世
③	柱根	999	ピット	1068	ヒノキ	近世
④	柱根	1046	ピット	5114	クリ	中世？
⑤	柱根	747	ピット	5019	ヒノキ	中世
⑥	柱根	544	ピット	4413	クリ	中世
⑦	柱根	336	ピット	499	クヌギ節	中世
⑧	柱根	157	ピット	470内p6	ヒノキ	古代？
⑨	柱根	534	ピット	4408	クリ	中世
⑩	柱根	557	ピット	4426	クリ	中世
⑪	円盤状木製品	786	ピット	5076	ヒノキ	中世
⑫	曲物桶底板	259	井戸	58	ヒノキ	中世
⑬	曲物桶底板	260	井戸	58	コウヤマキ	中世
⑭	曲物桶底板	258	井戸	58	モミ属	中世

第4表　木製品別の樹種

樹　種	柱　根				円盤状木製品	曲物桶底板	合計
	古代？	中世 中世？	近世	不明	中世	中世	
モ　ミ　属						1	1
コウヤマキ						1	1
ヒ　ノ　キ	1	1	2	1	1	1	7
クヌギ節		1					1
ク　　リ		4					4
合　　計	1	6	2	1	1	3	14

1a　モミ属(横断面)　bar:0.5mm
①曲物補底板（遺物番号258）

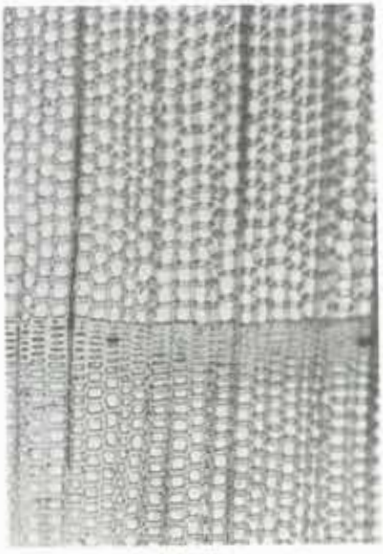
1b　モミ属(接線断面)　bar:0.2mm
①曲物補底板（遺物番号258）

1c　モミ属(放射断面)　bar:0.05mm
①曲物補底板（遺物番号258）

2a　コウヤマキ(横断面)　bar:0.5mm
⑫曲物補底板（遺物番号260）

2b　コウヤマキ(接線断面)　bar:0.2mm
⑫曲物補底板（遺物番号260）

2c　コウヤマキ(放射断面)　bar:0.05mm
⑫曲物補底板（遺物番号260）

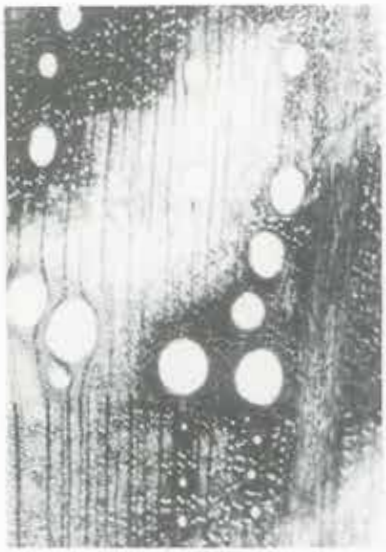


3a　ヒノキ(横断面)　bar:0.5mm
⑤柱根（遺物番号747）

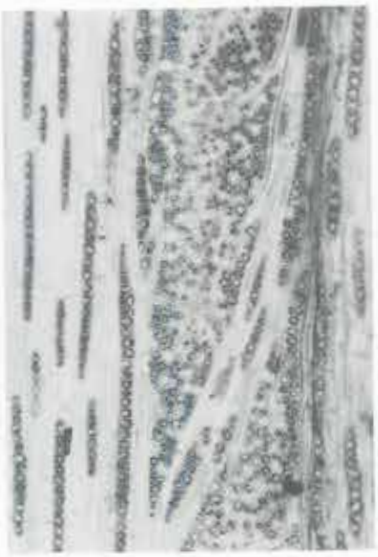
3b　ヒノキ(接線断面)　bar:0.2mm
⑤柱根（遺物番号747）

3c　ヒノキ(放射断面)　bar:0.05mm
⑤柱根（遺物番号747）

第116図　出土木製品樹種（1）

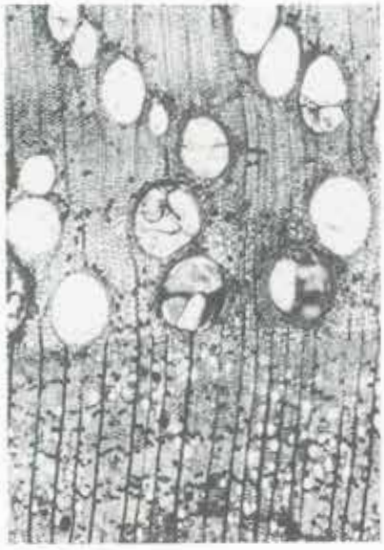


4a　クヌギ節(横断面)　bar:0.5mm
⑦柱根（遺物番号336）



4b　クヌギ節(接線断面)　bar:0.2mm
⑦柱根（遺物番号336）

4c　クヌギ節(放射断面)　bar:0.1mm
⑦柱根（遺物番号336）



5a　クリ(横断面)　bar:0.5mm
④柱根（遺物番号1046）

5b　クリ(接線断面)　bar:0.2mm
④柱根（遺物番号1046）

5c　クリ(放射断面)　bar:0.1mm
④柱根（遺物番号1046）

第117図　出土木製品樹種（2）

第6章　考察とまとめ

第1節　竪穴住居跡について

第3章では事実報告を主眼としたため、検出した遺構についての解釈の多くの部分を保留とした。そこで本節では、遺構の中で特に様々な問題を含むとみられる竪穴住居跡を特に取り上げ、その立地や構造等について考察してみたい。

(1) 住居の立地と主軸方位

検出された24軒の住居跡について、カマドの設けられた面を正面と考えて住居軸線の方向を求めると、①北向き1軒（2011）、②北西向き12軒（34・427・470・848・2001・2341・2527・2677・3002・3159・3197・3248）、③西向き7軒（2002・2003・2035・2390・2395・2652・3156）、④南西向き2軒（2460・3001）、⑤不明2軒（2216・1136）となる（第5表）。このうち、北向きとした2011号遺構は、他の住居とは異なり、壁面の中央付近にではなく住居の隅にカマドを設ける構造を採る。そのため、住居軸線は北向きであるが、カマドの方向ということになると北西向きとなる。また、カマドが検出されず不明扱いとした1136号遺構についても、第3章に記したように、北西向きであった可能性が高いと考えている。同じくカマドが検出されなかった2216号遺構については、これも第3章に記したように、西側であった可能性と東側の可能性が同等であると考えられる。

本遺跡の住居の向きには、カマドを北西～西側の壁際に築くという傾向が顕著に認められる。これは多くの住居が南東向きの緩やかな斜面上に位置しているという立地面の特性から来ていると考えたい。つまり、南東向きの斜面上で、斜面上方側にカマドを築いた結果、カマドが北～西側となる傾向が生じたと考えられるのである。

このことは次のような事実からも裏付けられる。斜面に立地しているために、本遺跡は全体に遺構の残存状態は良いとは言えない。特に斜面下方側は流失するケースが非常に多いことを調査時に確認している。もちろん、住居跡も例外ではなく、壁が四面とも検出できたのはわずかに2035号遺構1軒にすぎない。にもかかわらず、発掘調査では24軒のうち22軒もの住居跡でカマドないしはその痕跡を検出できているのである。これは偶然というよりは、カマドが常に斜面上方側に築かれていたことに起因する必然の結果だと考える方が合理的であろう。

では、なぜ南東向きの斜面が居住域として選ばれたのであろうか。この方向の斜面が反対向きの北西向き斜面などと比べて日当たりがよいことが、選択の理由として、まず考えられる。さらに付け加えるならば、これは住居の最大の開口部である出入口を寒気の入り込みやすい北側に設定することを避ける意図からなされた選択なのではないだろうか。斜面上に住居を築く場合、出入口の設定位置は雨水などの浸入を避けるために必然的に斜面下方側とならざるを得ないと思われる。となると、先に挙げた北側に出入口を設けないという意図を貫くためには、斜面下方側が南寄りの方角となる斜面でなくてはならないのである。

ところで、普通に考えて、住居の出入口はカマドの設置側と反対側に設けるはずである。すでに報

告したように、2035号遺構では実際にそうであった徴証がある。さらに煙の排出のことを考えると、カマドの位置は出入口の場合とは逆に斜面上方側が有利であることは明らかである。このように考えてくると、本遺跡の古代の集落においてカマドが北西～西側の壁際に築かれたのは、必然の結果と言えよう。他の住居とは異なり西向き斜面に位置する2216号遺構が、出土遺物からみて他のほとんどの住居跡より前の段階の遺構であるのも、おそらく偶然ではないであろう。

(2) 住居の構造

屋根の支え方

住居の全体構造、特に屋根の支え方については疑問な点が多い。本遺跡の住居跡では住居内には屋根を支えるようなしっかりした柱はほとんど検出されていない。柱が並ぶ可能性をわずかでも見出せるのは2341号遺構と427号遺構のみであり、この2軒にしても疑問であるとの印象を抱かざるを得ない。したがって、本遺跡では基本的に住居内に主柱を持たない構造を採っていたと考えられる。

この推定は通説に抵触するものではない。関東地方の事例を中心に古代の竪穴住居の規模と主柱の有無の関係を調査された宮本長二郎氏の研究によれば、床面積20㎡（一辺約4.5ｍ）を下回る住居では主柱を持たないものが目立って多くなるとされる[11]。本遺跡の住居で一辺4.5ｍを上回る規模を有するのは2216号遺構と2395号遺構のみで、このほかには3001号遺構と848号遺構が本来この規模に達すると推定されるにすぎないので、主柱を持たなくとも屋根を支える上で不都合はなかった可能性が高いのである。

このような住居では屋根の垂木材が地面に接して屋根を支える構造を採ったはずである。本遺跡では住居跡外部にそのような痕跡を見出した例はないが、本遺跡では遺構の残存状態が良好ではなく、ほとんどすべての住居跡で壁の残存高は20㎝未満であることを考えれば不自然ではない。

周壁溝

周壁溝は壁面の崩落を防ぐための壁板を立てる目的で掘られた溝とされる。かつて考えられていたように排水溝としての機能を有した可能性も消えてはいないものの、本遺跡では外部へ排水するような構造を想定できる例はみられず、やはり通説のように壁板を立てた溝と考えておいて良いであろう。

24軒の住居跡における周壁溝の有無について所見をまとめると、次のようになる。①周壁溝が存在するもの18軒（427・470・848・1136・2001・2002・2035・2216・2341・2390・2395・2460・2527・2677・3001・3002・3156・3197）、②周壁溝が存在しないもの4軒（34・2003・2011・3159）、③不明2軒（2652・3248）。さらに、周壁溝の存在する18軒について周壁溝の巡る範囲から分類すると、①住居内の大部分を巡るもの10軒（427・470・2035・2341・2395・2677・3001・3002・3156・3197）、②部分的に存在するもの8軒（848・1136・2001・2002・2216・2390・2460・2527）となる。さらに、周壁溝の途切れる箇所を調べてみると、本遺跡の住居跡で周壁溝が完全に全周するものはなく、残存状態が悪い事例を除外して考えるならば、溝の途切れ方にも決まったパターンが認められることが分かる。調査所見からは、ａ）カマド部分が途切れるもの（470・2035・2341・2677・3001・3156・3197）、ｂ）カマドとその脇の土坑周辺が途切れるもの（427・2395・3002）、以上の2パターンが多いことを指摘できる。しかしながら、カマド脇に土坑が存在するにもかかわらず、溝が途切れないケースが3例確認される（2035・2341・2527）。したがって、ｂ）のパターンが存在することは確かで

はあるが、カマド脇土坑が存在することと、その箇所で周壁溝が途切れることは必ずしも不可分の関係にあるわけではない。そもそもカマド部分で途切れることについては、火を使用するために、この部分には壁板を立てるのが難しいことから説明が付くが、カマド脇土坑の周辺で途切れることの意味は不明であると言わざるを得ない。

以上のほかに周壁溝が途切れる箇所として、事例数が少ないのであまり明確ではないものの、カマドのある壁と反対側の壁面を挙げることができる。明確な例は2035号遺構であるが、3001号遺構にもその可能性がある。これは住居の出入口をこの箇所に設けるためと考えられる。

(3) カマドとその関連施設

カマド脇の土坑

カマドに隣接する位置に土坑が設けられる例が11例ある。カマドの使用に伴う施設であることは間違いないであろう。まず、有無についてまとめると次の通りである。①存在するもの11軒（34・427・848・1136・2002・2035・2341・2395・2460・2527・3002）、②存在しないもの5軒（470・2003・2011・2390・3197）、③有無不明8軒（2001・2216・2652・2677・3001・3156・3159・3248）。24軒中、存在が確認された11軒のうち、1136号遺構についてはカマド自体は確認されないものの、その位置は推定可能で、しかも土坑が確認されるケースであるのでカウントに加えた。

約半数でカマド脇の土坑の存在が確認できたことになるが、その一方で、存在しないことが確認されたケースも5軒に上る。このことから、住居内に必要不可欠な施設というわけではなかったと言えるであろう。

次に、設けられる位置により分類する。①カマドの右隣り2軒（2341・2460）、②カマドの右隣りで、かつ住居隅9軒（34・427・848・1136・2002・2035・2395・2527・3002）。カマドに向かって右側、それもカマドから手の届く1m前後の位置に壁面に近接して設けられる。これが本遺跡での基本パターンである。しかも、住居隅に設けるのを基本としていることが分かる。ただし、やや特異な例として、2395号遺構のケースを挙げることができる。第3章でも記した通り、2395号遺構ではカマドからの距離が2m近くも離れており、カマドに向かって座った人が手を伸ばして届く位置とは言い難い。

用途については、判断する材料に乏しいので推測を巡らすよりほかない。カマド脇に存在することから考えて、まず、食料の貯蔵穴としての使用が想定されよう。しかし、食料以外の収納品を想定することも、もちろん可能である。土坑内から土師器の甕（2460号遺構）や須恵器の壺（3002号遺構）が完形に近い状態で出土した例があるので、土器類の置き場であったと考えることもできる。あるいはまた、それらのケースを土器に入れた食料を収納したと解釈することもできよう。埋土に炭を含むケースが多いことから、カマドの灰や炭の一時置き場という推測も可能であろう。

カマドの位置

竪穴住居跡24軒のうち、2216号遺構・1136号遺構を除く22軒について、カマドの存在が認められた。カマドの設けられる位置について分類すると、①壁のほぼ中央7軒（2002・2035・2341・2390・2395・3156・3197）、②壁の中央より右側7軒（427・470・848・2001・2003・3002・3159）、③壁の中央より左側2軒（2460・3001）、④住居の隅1軒（2011）、⑤不明5軒（34・2527・2652・2677・

3248)、以上5通りに分けられる。

カマドの位置については、カマドの設けられる壁に向かって中央ないし中央よりやや右側となる傾向が強いことが分かる。これは、先に述べたカマド脇の土坑の位置により制約を受けた結果であると考えたい。住居内の限られたスペースを有効に活用するには、住居内では比較的大型で深さも深い施設であるカマド脇土坑は、なるべく住居内の隅の方に設ける必要があったと考えられる。本遺跡のように住居が小型である場合、特にこれは切実な問題であったはずである。そして、そのようにして土坑の位置が決まると、カマドの位置も自ずから上記のような位置に決まることとなったと考えられる。つまり、土坑とカマドとは、カマドの前に座った人の手の届く位置に土坑がある、という位置関係が自然であるために、必然的にカマドは住居内のやや右隅寄りの壁際を占めることが多くなったのである。多くの例でカマドの左側ではなく右側に土坑を設けるのは、過半数を占める右手利きの者にとって都合がよかったからだと考えて間違いなかろう。

2011号遺構にみられる特異な配置、すなわち住居の隅にカマドを設ける配置は、この住居が特に小型であることから生じた必然の結果と考える。他の住居にも増して住居内空間の限られるこの例にあっては、住居内に寝食などのスペースを確保するには、住居内で最大の恒久的施設であるカマドを住居の隅へ配置するほか方法がなかったのであろう。全国的視野に立てば、壁中央付近に設けるものに比べれば一般的ではないとはいえ同様な例は多数みられ、しかも小型の住居に多いとの傾向を確認することができる[2]。

なお、カマドの位置が例外的に中央より左となる2460号遺構と3001号遺構は、住居の軸線方向が南西向きであり、この面でも例外的存在であった2軒である。住居内でのカマドの位置と住居の向きとの間に何らかの相関関係があるとみなすべきであろうか。この点については不明と言わざるを得ない。

2677号遺構で確認された住居内の2箇所にカマドを設けるケースについて触れておく。住居内の2箇所にカマドを設ける例は、一般的ではないとはいえ、過去の調査例中にも見出せる。しかし、それらの多くは、下呂町上ヶ平遺跡の第7号住居跡[3]のように、住居内の2面の壁に1基ずつカマドを設けているのであって、2677号遺構の如く同一の壁面に2基のカマドを並列させているのではない。2基のカマドが並列する事例は、調べてみた限りでは、県内では高山市糠塚遺跡の第13号住居址[4]が該当するにとどまり、県外では北海道に類例が見出せるくらいである[5]。なお、これに類似するものとして、カマドの隣りにもう1基のカマドを造り直したとみられるケースがある[6]。2677号遺構のカマドは、同時並列とも造り直しとも断定する根拠を欠くが、向かって左側のカマドの検出位置が周壁溝に近すぎて不自然であることから、後者である可能性がやや高いであろう。

カマドの構築方法

まず、全国の調査例に目を向けて、カマド袖の築き方という観点からカマド構築方法のパターンを分類してみると、私見では次のようになる。

1類　地山の上に、そのまま土を積み上げて袖を築くもの。これは極めて多数の事例が報告されており、最も普遍的にみられるカマド構築法である。燃焼部を少し掘り下げている事例も多い。

2類　芯として石を据え、その周りに土を積み上げて袖を築くもの。石を土で覆わないこともある。これも極めて多くみられる。やはり、燃焼部を少し掘り下げている事例も多い。

3類　袖ないし袖の芯を地山を削り出して造るもの。関東地方を中心に東日本に多い構築法のよう

である。やはり、燃焼部を少し掘り下げている事例も多い。

4類　地山を掘り窪め、客土を入れて袖と燃焼部を含めたカマド全体をその中に築くもの。1～3類に比べれば事例数は少数となるが、全国的にみられる構築法である。

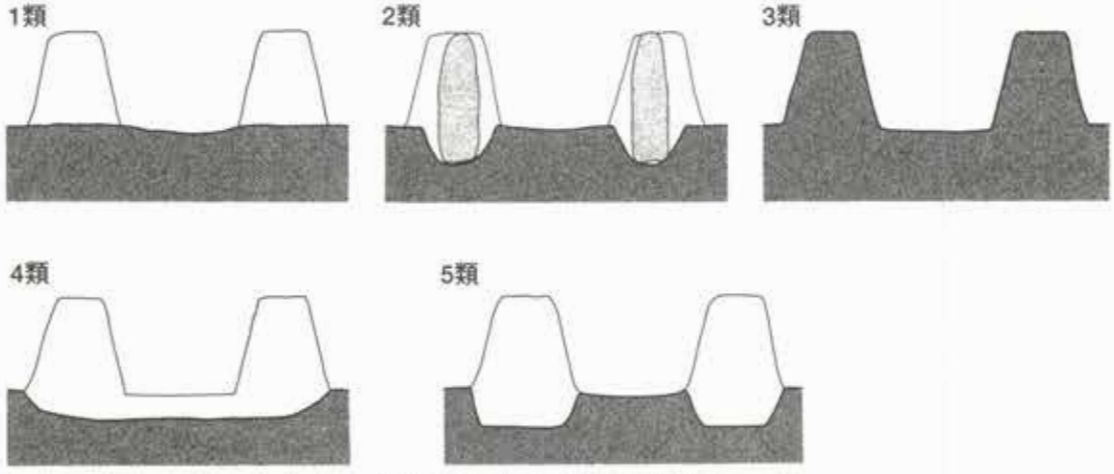
5類　袖の部分のみ地山を掘り窪め、土を積み上げて築くもの。燃焼部を少し掘り下げている事例もある。1～4類に比べて報告例は少なく、この構築法と断定できる事例は稀である[7]。

本遺跡の住居跡のカマドでは、まず、2341（上層）・2677・3001・3002、以上4軒が4類であると考えられる。次に、2035・2395・3159、以上3軒は5類であることが確実である。

ところで、5類は全国的にみても群を抜いて少ない構築法である。これは実際に事例数が少ないためばかりではなく、5類は1類や2類との判別が必ずしも容易ではないため、存在自体が認識されていないことも一因となっているのではないかと考える。例えば、2類で芯の石が残らない場合、芯の石が抜けた穴は5類での地山の掘削部と同じ状態となるわけであるが、報告者が5類の存在を認識していなければ、2類か5類かの検証が十分なされないまま2類として報告されることはあり得ると思うのである。

さて、本遺跡の場合、カマドの構築法の解明に当たっては、火床の左右に普遍的に検出された小ピットの性格を明らかにすることが重要であると考える。まず、袖部の小ピットの有無についての所見をまとめておくと、①存在するもの14軒（34・427・470・2001・2011・2035・2390・2395・2527・3001・3002・3156・3159・3197）、②存在しないもの3軒（2003・2341・2677）、③有無不明7軒（848・1136・2002・2216・2460・2652・3248）となる。小ピットの存在が認められる14軒のうち、2035・2395・3159の3軒は5類であることは先に記した。ここで注目すべきなのは、すでに報告したように、本遺跡では袖の芯とみられる石は、どの住居跡でも全く検出されていないという事実である。これらをすべて偶然残らなかったと考えるのは合理的ではないと思う。したがって、5類であることが確実な事例が同じ遺跡内で検出されている以上、袖部の小ピットが認められる残りの11軒についても2類よりは5類である可能性が高いとみるべきであろう。結局、本遺跡では14軒の住居で5類のカマド構築法が採られたと推測され、これがこの集落で最も一般的な構築法であったと思われるのである。

なお、5類の構築法のメリットがどの辺りにあるのかについては、全く憶測を巡らすほかない。地山と客土である袖部分との接着を強固にするためとでも考えておきたい。ただ、粘性の高い土を入手



第118図　カマド横断面模式図

しやすい当地では、容易な構築方法であったと考えて誤りはないであろう。

4類について補足しておく。2341号遺構と2677号遺構において、4類の構築法、すなわちカマドとなる部分全体について地山を掘り窪めた後に客土を入れる構造を採ったのは、立地面での特異性が多少なりとも原因となっているのではないだろうか。両遺構の位置する地点では、他の住居跡検出地点とは異なり、地山はⅢ層が存在せず、Ⅳ層が露出していた。地山Ⅳ層の掘り抜きのままの火床面では、例えば、地山から上がってくる湿気を抑えられないなどといった、何らかの不都合が生じ、改善策を講ずることが必要になったと考えたい。あくまで推測の域を出ないが、2341号遺構では初め地山掘り

第5表　竪穴住居跡観察表

遺構番号	主軸方位	カマド位置	カマド脇土坑	カマド断面構造	カマド袖ピット	火床奥ピット
A区						
2001	北西	中央より右	?	5類?	有	有
2002	西	中央	カマド右住居隅	?	?	?
2003	西	中央より右	なし	?	無	無
2011	北	住居北西隅	なし	5類?	有	有
2035	西	中央	カマド右住居隅	5類	有	有
2216	?	?	?	?	?	?
2341	北西	中央	カマド右	4類(上層)	無	無
2390	西	中央	なし	5類?	有	無
2395	西	中央	カマド右住居隅	5類	有	無
2460	南西	中央より左	カマド右	?	?	?
2527	北西	?	カマド右住居隅	5類?	有	有
2652	西	?	?	?	?	?
2677	北西	?	?	4類	無	無
B区						
3001	南西	中央より左?	?	4類?	有	有
3002	北西	中央より右	カマド右住居隅	4類	有	有
3156	西	中央	?	5類?(下層)	有	無
3159	北西	中央より右	?	5類	有	有
3197	北西	中央	なし	5類?	有	有
3248	北西	?	?	?	?	?
C区						
34	北西	?	カマド右住居隅	5類?	有	無
427	北西	中央より右	カマド右住居隅	5類?	有	有
470	北西	中央より右	なし	5類?	有	有
848	北西	中央より右	カマド右住居隅	?	?	?
1136	北西?	中央より右?	カマド右住居隅?	?	?	?

抜きのままカマドを造ったが、不都合が生じたため、大幅に客土を施してカマドを造り直す事態となったのではないだろうか。こう考えれば、2341号遺構に上下2面の火床面が存在する理由を説明できる。また、2341号遺構の後に造られた2677号遺構では、同様の客土は認められるものの下層の火床面は存在しないのは、2341号遺構での教訓を取り入れることができたため、当初から客土を入れてカマドを造ったからだと推測できる。両遺構のカマド断ち割り調査から得られた所見を無理なく解釈するには、以上のような推測が妥当ではないだろうか。

なお、2341号遺構と3156号遺構のように火床が二面にわたって存在するカマドは、調べてみた限りでは類例を見出せなかった。極めて特異な例として評価できよう。

支脚の位置

全国の調査例に目を向けてみると、カマドに掛ける土器を支える支脚を立てる位置には、大きく分けて火床の中央と火床の奥の2通りがある。本遺跡の場合、火床の中央は多くの場合、最も強く熱を受けて硬化している。よって、そこに火を妨げることになる支脚が立っていたとは考えがたい。また、火床中央には、支脚を立てたならば生じるはずの窪みなどの痕跡は見出せないのである。したがって、本遺跡のカマドでは、カマドの奥が支脚の立つ定位置であった可能性が高いと言える。このように考えるならば、本遺跡のカマド火床の奥に認められることの多い小ピットが支脚を抜き取った跡である可能性は極めて高いものとなろう。

念のため、火床奥の小ピットの有無についての所見をまとめておく。①存在するもの10軒（427・470・2001・2011・2035・2527・3001・3002・3159・3197）、②存在しないもの7軒（34・2003・2341・2390・2395・2677・3156）、③有無不明7軒（848・1136・2002・2216・2460・2652・3248）。

なお、本遺跡では支脚そのものを検出した例は皆無である。再利用などのために持ち去るのを常としていたとでも考えるべきであろうか。

煙道部

34号遺構と2002号遺構において痕跡を検出したにとどまり、本遺跡では構造等は判明しない。

第2節　遺構の年代と集落の変遷について

(1) 遺構年代の推定についての基本姿勢

遺構の年代の推定に当たっては、第3章で述べたように、遺構間の切り合い関係や遺構そのものの構造、それに遺構内から出土した遺物の特徴を判断の手掛かりとした。遺構からの年代推定については、現場での判断をそのまま採用する以外に方法はない。問題となるのは出土遺物からの遺構年代の推定である。

出土遺物から遺構の年代を推定するに当たっては、遺物個々について、窯跡などの生産遺跡や遺存状態の良好な消費遺跡での出土遺物を元に組み立てられた土器編年に照らして、どの辺りに当てはまる特徴を備えるかを検討するのが定石とされる。しかし、そもそも土器編年とは、個体相互を比較したときに認められる共通性が差異性より強く見える個体群をグルーピングして型式を設定し、型式間にみられる器形や技法の相違を時期的変化と捉え、そして、各型式の最大公約数的個体を提示して時間の流れとともにどのように型式が変化したかを示したものである。したがって、同時期の製品であ

っても個体間に存在する細かい差異や、型式間に存在するはずの漸移変化については、本来的にかなりの部分、切り捨てられることとなる。事実、編年の基本資料とされた遺物群においてさえも、実態は編年表ほど単純ではないのがむしろ普通である。本遺跡のような消費遺跡の出土遺物を扱う場合、上記の事情に加えて、単一の生産地の製品のみが入ってきているわけではないこと、物の使用期間や伝世期間の存在も考慮に入れなくてはならないこと、それに混入品を除外することが必ずしも容易ではないことなどから、事態はさらに複雑となるのは明らかである。例えば、ある集落で同時期に同一集団が使用したはずの土器群であっても、編年表に照らせば決して均質とは認められないというようなことが起こり得るのである。以上のことは、ややもすれば等閑にされがちであるが、土器編年の成果を消費遺跡の出土遺物の分析に活用するに際して必ず留意すべき基本事項と言えよう。

さらに、本遺跡においては、遺物量が豊富ではなく、かつ小破片が大部分を占めるという事情が存在するため、遺構個々の年代を推定しようとすれば大きな困難が伴うのは避けられない。このような場合には、無理に遺構個々の前後関係を問うのではなく、近接し、かつ遺物出土状況が似た傾向を示す複数の遺構を群として括り、遺構群間の前後関係について比較・検討する方がより適切であろう。本遺跡では、多くの場合、これが客観性を保証できる範囲での最善の方法であると判断する[8]。

以上を基本姿勢とした上で、本報告書のまとめとして、本遺跡の集落の変遷について述べることとする。

(2) 古代の集落の変遷

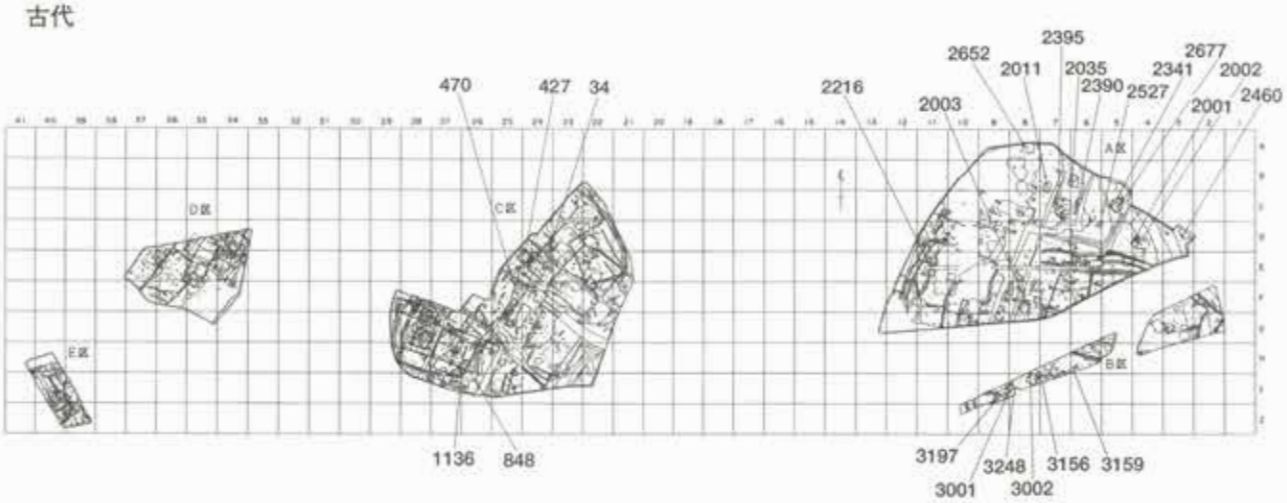
本遺跡の古代の遺構の変遷を考察するに当たっては、須恵器の器種組成の変化に手掛かりを求めるのが有効な手法である。なぜなら、本遺跡では古墳時代タイプと歴史時代タイプの両方の須恵器が出土しており、編年上の画期に当たる時期の遺物群を扱うこととなるからである。

まとまった数の古代の遺構を検出したのはA区・B区・C区の3地区である。歴史時代タイプの器種（無台杯・有台杯・摘み蓋など）は3地区いずれでも出土している。一方、古墳時代タイプの器種（杯身・杯蓋）が出土したのはA区とB区で、C区では遺物包含層も含めて皆無である。さらに、A区・B区での出土状況を改めて調べてみると、A区では3軒の住居跡（2216・2341・2395号遺構）において出土しているのに対し、B区では住居跡での出土例はなく、わずかにピット1基（3214号遺構）から1個体（139）が出土したにすぎない。このことから集落の時期的推移は、概ねA区→B区→C区の順であったと、とりあえず考えられる。ただし、各遺構とも特に下限年代をあまり厳密に求めるべきではないと考えるので、上記の時期的推移は、共存期間を持ちながら緩やかに進んだとみるのがよいであろう。

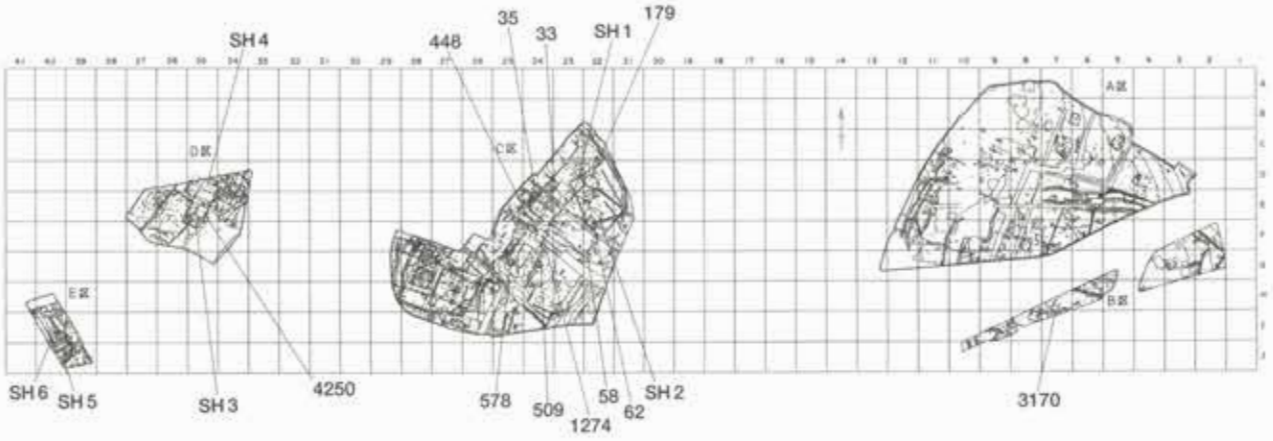
この推定を覆す材料は見当たらず、逆に補強材料として、土師器の器壁の厚さがC区出土品の方が総じて薄手であるという相対的に新しい特徴を示すことや、カマド焼土の残留磁化測定結果からは、新旧はどちらとも考えられるものの、C区とA区では年代の隔たりを読み取れることを挙げることができる。加えて、古墳時代タイプ器種が出土した3軒の住居跡（2216・2341・2395号遺構）が、いずれも本遺跡では大型の部類に属するのも偶然ではあるまい。当該期では、住居の規模は全体として大型から小型へと変遷する傾向が認められるとする通説にうまく適合するのである。

須恵器編年を基に暦年代を特定することには慎重でありたいが、前述のように編年上の画期に当た

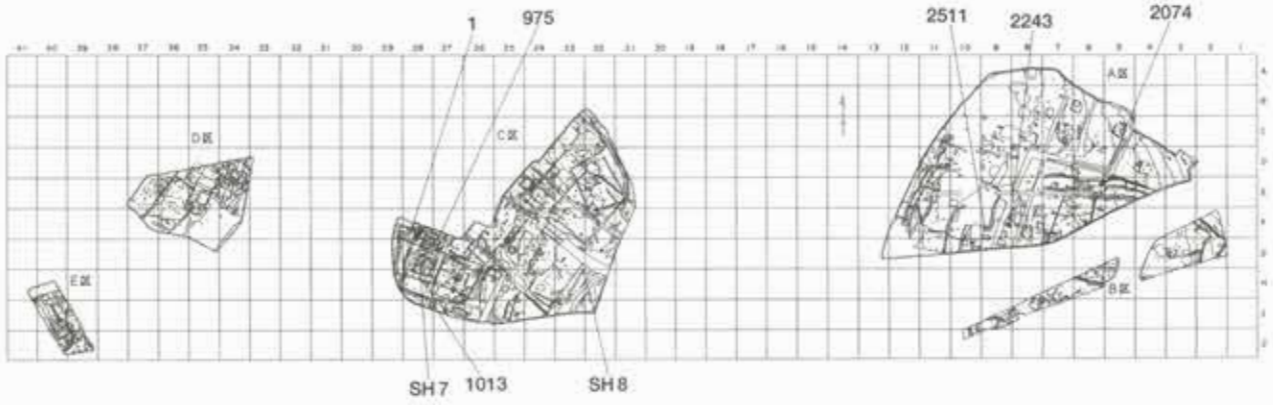
古代



中世



近世



0　100m

第119図　集落の変遷

る遺物群であることから、暦年代を推定することもある程度許されよう。具体的には、歴史時代タイプの器種（無台杯・有台杯・摘み蓋など）の出現期が7世紀後半以降であることがほぼ確実視されることから、本遺跡の住居跡は、いずれも7世紀後半以降の遺構であると考えることができる。遺構の年代の下限については、現研究段階では古墳時代タイプの器種が存続する下限年代が必ずしも明確とはなっていないことなどから、判断できる確実な拠り所はない。しかし、古墳時代タイプの器種が混在する遺構と混在しない遺構とでは、後者の方がより新しい遺構である可能性が高いであろう。便宜的ではあるが、年代幅を広くもって、前者を7世紀後半頃、後者を7世紀後半～8世紀前半頃の遺構と考えておきたい。さらに古墳時代タイプの須恵器が地区全体で皆無であるC区の住居跡については、8世紀半ば頃に一般化するとされる底部外面の回転糸切り技法が全く認められないことから、8世紀前半頃の遺構と推定しておく。

以上から、A区・B区とC区の集落には一～二世代程度の年代差を想定できることとなるであろう。両者には、住居の造り、特にカマドの構築方法にはっきりした共通性が認められることから、両者が断絶をはさまぬ継続した集落であって世代を越えて技術の伝承が行われたとみることが可能であろう。位置的変遷という観点からは、本遺跡内では東から西へ集落が移っていったと言えよう。大きな流れとしては、7世紀後半から8世紀前半にかけて東から西へと集落が移って行っていき、その後は継続しなかったと推定されるのである。

(3) 中世の集落の変遷

本遺跡の中世集落の変遷を考察するに当たっては、主として山茶碗の碗に手掛かりを求めることとなる。その理由は、第一には、最もまとまった量の遺物が出土しているのが山茶碗の碗だからである。さらには、本遺跡の他の中世遺物を観察してみると、次に記すような理由から、検討対象とするにはいずれも難があると判断されたからである。まず、山茶碗の小皿については、碗に比べて時期による形態差が小さいため、かなり遺存状態の良い個体でないと年代の判断を下せないはずであり、本遺跡のような小破片が大部分を占めるケースでは不利とならざるを得ない。次に土師器皿については、脆弱な遺物であることから遺存状況が特に良くないのに加えて、当地域の土師器皿の編年が確立されているとは言えないことからも、ふさわしいとは考えられない。古瀬戸については、編年は確立されているものの、本遺跡の場合、器種別に細分すると考察に十分な個体数が器種毎に揃っているとは言い難く、判断に報告者の主観が入り込みやすい。そのため参考程度の扱いとしなくてはならない。それ以外の遺物については、出土量が極めて少ないことから、検討の対象とするには難があるのは明らかである。以上の理由から、検討対象を山茶碗の碗にしぼるのが適切と判断する。

ただし、本遺跡の場合、山茶碗の碗でも厳密に型式毎に分け、ピットなど小型の遺構個々についてまで年代を決定することは恣意的な資料操作となりかねないと判断するので控えておきたい。

中世の遺構は全地区で検出しているが、最も型式的に古い様相を示す遺物がまとまって出土しているのがB区の3170号遺構（土坑）である。この遺構の出土遺物は、藤澤良祐氏による山茶碗編年で第4～5型式（北部系東濃型山茶碗編年の谷迫間窯式～窯洞窯式）に相当するとみられるので、12世紀後半～13世紀前半の遺構と考えられる。これに続く時期の遺構とみられるのが、やや断絶をはさむが、第7型式（北部系東濃型山茶碗編年の明和窯式）前後の遺物がまとまって出土したC区の179号遺

構＋44号遺構（特殊遺構と溝）であり、13世紀中期頃の遺構年代を与えられる。ところが、遺跡全体を見渡してみると、これら2ケースは例外的存在であることが確かめられる。本遺跡の大部分の中世遺構では、第4章の「中世の遺構から出土した遺物」の部分を通覧していただければ明らかな通り、第8～11型式（北部系東濃型山茶碗編年の大畑大洞～生田窯式≒14～15世紀）に属する遺物が同一遺構から混在して出土する傾向が顕著なのである。これは、第8～11型式の時期には複数型式の併存期間が長かったことを意味する可能性もあろうが、当該期には途切れることなく継続的に集落が営まれたため、結果として遺物が混ざったと考える方が適切であろう。つまり、時期的変遷という観点からは、本遺跡では古代の集落が8世紀前半までで途切れた後、12世紀には再び人が住むようになるが、本格的に再び集落が営まれるようになるのは、14世紀頃からであったと言えるのである。

次に集落の推移について考えるために、地区毎の山茶碗の碗の出土傾向を調べることとする。山茶碗の碗を比較検討したときに目に付く最も紛れのない着眼点は高台の有無であるので、この点に絞って各地区の傾向を抽出してみると、まず、A・B区、C区、D・E区の3グループに大別できることがわかる。すなわち、A区とB区では有台の方が数量的に極めて優勢であり、C区では無台が増えてくるものの有台の半数に満たず、D区とE区では両者が拮抗するのである。碗の高台が失われて無台となるのは第11型式以降に現れる特徴とされるので、上記の順で新しい傾向を示していると言い換えることができる。地区間で型式的特徴をさらに比較検討すると、A区とB区とではB区の方が古い様相を示すので、中世の集落は、大きな流れとしては、B区→A区→C区→D・E区の順に推移したと考えられる。位置的変遷という観点からは、古代の集落と同様に、やはり東から西へと緩やかに集落が移っていったこととなるのである。

なお、以上のような中世後期に集落が安定するというあり方は、美濃地方の中世集落には一般的にみられる傾向である。ただし、これは単に山茶碗をはじめとする陶器類の流通量を反映したにすぎない可能性があることにも、十分留意しておく必要がある。

(4) 近世の集落の変遷

近世については、集落の変遷過程を考察可能なほど、性格の明らかな遺構が多数検出されているわけではない。これは限られた調査期間で全時代の遺構を調査し終えるために、近世の遺構については他時代の遺構ほど入念な調査はできなかったという事情にもよる。

出土遺物の面からは、近世の遺物の大半を占める瀬戸美濃連房窯陶器や磁器については、須恵器や山茶碗に比べて暦年代を示す資料に恵まれているので、良好な状態の遺物群が出土した遺構の年代を絞り込むことが理論的には可能である。しかし、混入品を含まぬ遺物群などは現実には稀であるので、本遺跡でもそれほど多くの遺構の年代を明確にできるわけではない。一例を挙げるなら、最も遺物の多い1号遺構（溝）について、年代の下限は出土した磁器類から19世紀中期頃と推定できても、上限については明言するのは難しい。結局、年代を十分絞り込めるのは、第3章で取り上げた2074号遺構（土坑）など、少数に限られる。しかしながら、全般的傾向としては、近世前期・中期に遡るとみられる出土遺物は各地区とも少数にとどまるので、少なくとも後世に残る遺物から判断する限りでは、生活痕跡の希薄な近世前期～中期を経た後に、近世後期に至って再び集落が営まれたと考えて良いであろう。

第3節　まとめ

調査の成果を総括する。

① 従来、当地域の古代の集落は、低位段丘・中位段丘上や美濃加茂盆地を望む見晴らしの良い高台上に分布するとされていた。そのどちらにも属さず、また起伏の多い本遺跡の地点は集落の立地としては不利とみなされ、遺跡の存在は想定されていなかった。しかし、今回の調査によって、古代以来、自然地形を有効に利用しながら人々が生活していたことを明らかにできた。

② 古代の住居の構造には、カマド構造をはじめとして遺跡全体に共通する特徴が存在することを明らかにできた。カマドの構築に当たっては、住居の構造や向きの選択と同様に立地条件に合わせた方法を採るのが常であったことを改めて確認できた。

③ 後世に遺存する遺物から判断する限りでは、集落は断続的ながら営まれ続け、古代前期（7世紀後半～8世紀前半）、中世後期（14世紀～15世紀）、近世後期（18世紀後期～19世紀）の3時期にピークが認められることを明らかにできた。これは従来の美濃地方の調査事例に照らせば、概ね当地域の全般的傾向と軌を一にしていると言える。

④ 十分実態が明らかとされていない当地域の中世集落について、新たな一事例を加えることができた。本遺跡のあり方が当地域の中世集落の典型例と考えて良いか否かは今後の調査事例の蓄積を待たなくてはならないが、中世には掘立柱建物が建物の主体となり、大型建物では柱間寸法に規格性が存在することを確認できた。

⑤ これまで報告例の少なかった、当地域での近世における陶磁器類の流通の一端を明らかにすることができた。瀬戸と東濃地方という大生産地に近いことから、瀬戸美濃産の陶器・磁器が大半を占めるものの、予想以上に常滑陶器の赤物が多数入って来ており、また、少数ながら肥前磁器や産地不明磁器、それに土器煮炊具がみられることなどがわかった。

注

1）宮本長二郎 1996『日本原始古代の住居建築』中央公論美術出版

2）目に付いた事例としては、滋賀県岩畑遺跡SH48、岐阜県上町遺跡D地点12号住居址などがある。なお、本節での事例の引用は主に次の文献による。

埋蔵文化財研究会 1992『第32回埋蔵文化財研究集会　古墳時代の竈を考える』

3）財団法人岐阜県文化財保護センター 2000『上ヶ平遺跡Ⅰ』

4）高山市教育委員会 1982『糠塚遺跡』

5）北海道常呂町岐阜第二遺跡2号竪穴、常呂町ライトコロ川口遺跡1号竪穴。ただし、これらは古代後期の事例である。

6）静岡県沢上Ⅰ遺跡SB02、岐阜県古川町上町遺跡C地点6号住居址など。

7）1～4類は普遍的に見られるので事例の紹介を省略する。特異例である5類についてのみ、該当する可能性の高い事例として、奈良県石榴垣内遺跡SB12、広島県平木池遺跡SB26、以上2つを挙げておく。

8）本報告書では、すでに述べたように、遺構個々の推定年代を無理に明記しなかった代わりに、遺構内出土遺物のうち実測可能なものは、あえて選別をせず、ほとんど図示しておいた。発掘調査報告書のあり方として、追検証の困難な報告者独自の推定を記すよりも、資料を第三者の活用可能な状態で明示する方がふさわしいと判断したからである。また、その結果として、遺構からの一括遺物であっても型式面で均質とは限らないなど、集落遺跡の現実をありのままに報告できたと考えている。

引用・参考文献

井川祥子 1997「15世紀後半から16世紀前葉の土師器皿　中濃地域を中心として」『美濃の考古学　第２号』美濃の考古学刊行会
上田秀夫 1982「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁　№２』日本貿易陶磁研究会
宇野隆夫 1992「食器計量の意義と方法」『国立歴史民俗博物館研究報告　第40集』
大橋康二 1994『古伊万里の文様』理工学社
各務原市教育委員会 1984『美濃須衛古窯跡群資料調査報告書』
可児市教育委員会 1994『川合遺跡群』
窯跡研究会 1997『古代の土師器生産と焼成遺構』
九州近世陶磁学会 2000『九州陶磁の編年』
小泉袈裟勝 1977『ものと人間の文化史22　ものさし』法政大学出版局
小泉袈裟勝 1989『単位の歴史辞典』柏書房
古泉弘 1987『江戸の考古学』ニュー・サイエンス社
古代の土器研究会 1996『古代の土器研究　律令的土器様式の西・東４　煮炊具』
古代の土器研究会 1997『古代の土器５　７世紀の土器』
財団法人愛知県埋蔵文化財センター 1991『池下古墳』
財団法人愛知県埋蔵文化財センター 1994『清洲城下町遺跡Ⅳ』
財団法人愛知県埋蔵文化財センター 1995『清洲城下町遺跡Ⅴ』
財団法人愛知県埋蔵文化財センター・豊田市教育委員会 1998『埋蔵文化財展　人と技術』
財団法人岐阜県文化財保護センター 1993『阿弥陀堂遺跡・深作裏垣内遺跡』
財団法人岐阜県文化財保護センター 1995『下中上遺跡』
財団法人岐阜県文化財保護センター 1998『牧野小山遺跡Ｃ地点』
財団法人岐阜県文化財保護センター 2000『上ヶ平遺跡Ⅰ』
財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター 1997『財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要　第５輯』
財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター 1996『古瀬戸をめぐる中世陶器の世界～その生産と流通～』
新宿区内藤町遺跡調査会 1992『内藤町遺跡』
瀬戸市教育委員会 1990『尾呂』
瀬戸市史編纂委員会 1993『瀬戸市史　陶磁史篇四』愛知県瀬戸市
瀬戸市史編纂委員会 1993『瀬戸市史　陶磁史篇五』愛知県瀬戸市
瀬戸市史編纂委員会 1998『瀬戸市史　陶磁史篇六』愛知県瀬戸市
瀬戸市歴史民俗資料館 1987『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要　Ⅵ』
瀬戸市歴史民俗資料館 1988『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要　Ⅶ』
瀬戸市歴史民俗資料館 1989『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要　Ⅷ』
瀬戸市歴史民俗資料館 1991『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要　Ⅹ』
東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会 1996『鍋と甕そのデザイン』
東海土器研究会 2000『須恵器生産の出現から消滅　猿投窯・湖西窯編年の再構築』

高山市教育委員会 1982『鞠塚遺跡』
田口昭二 1983『美濃焼』ニュー・サイエンス社
多治見市教育委員会 1993『多治見の古陶第３号　美濃窯の焼物』
多治見市教育委員会 1993『小名田小滝古窯跡群』
都立学校遺跡調査会 1990『白鴎』
中野晴久 1996「常滑窯の研究～近世赤物について～」『知多古文化研究10　杉崎章先生追悼論文集』知多古文化研究会
藤澤良祐 1994「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要　第３号』三重県埋蔵文化財センター
古川町教育委員会 1989『上町遺跡Ｃ地点発掘調査報告書』
美濃加茂市教育委員会 1999『木ノ下遺跡発掘調査報告書』
美濃加茂市教育委員会 1993『土の中からのメッセージ～美濃加茂の遺跡～』
埋蔵文化財研究会 1992『第32回埋蔵文化財研究集会　古墳時代の竈を考える』
宮本長二郎 1996『日本原始古代の住居建築』中央公論美術出版
森田勉 1982「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁　№２』日本貿易陶磁研究会
渡辺博人 1996「美濃の後期古墳出土須恵器の様相　蓋坏の型式設定とその編年試案」『美濃の考古学創刊号』美濃の考古学刊行会

付図

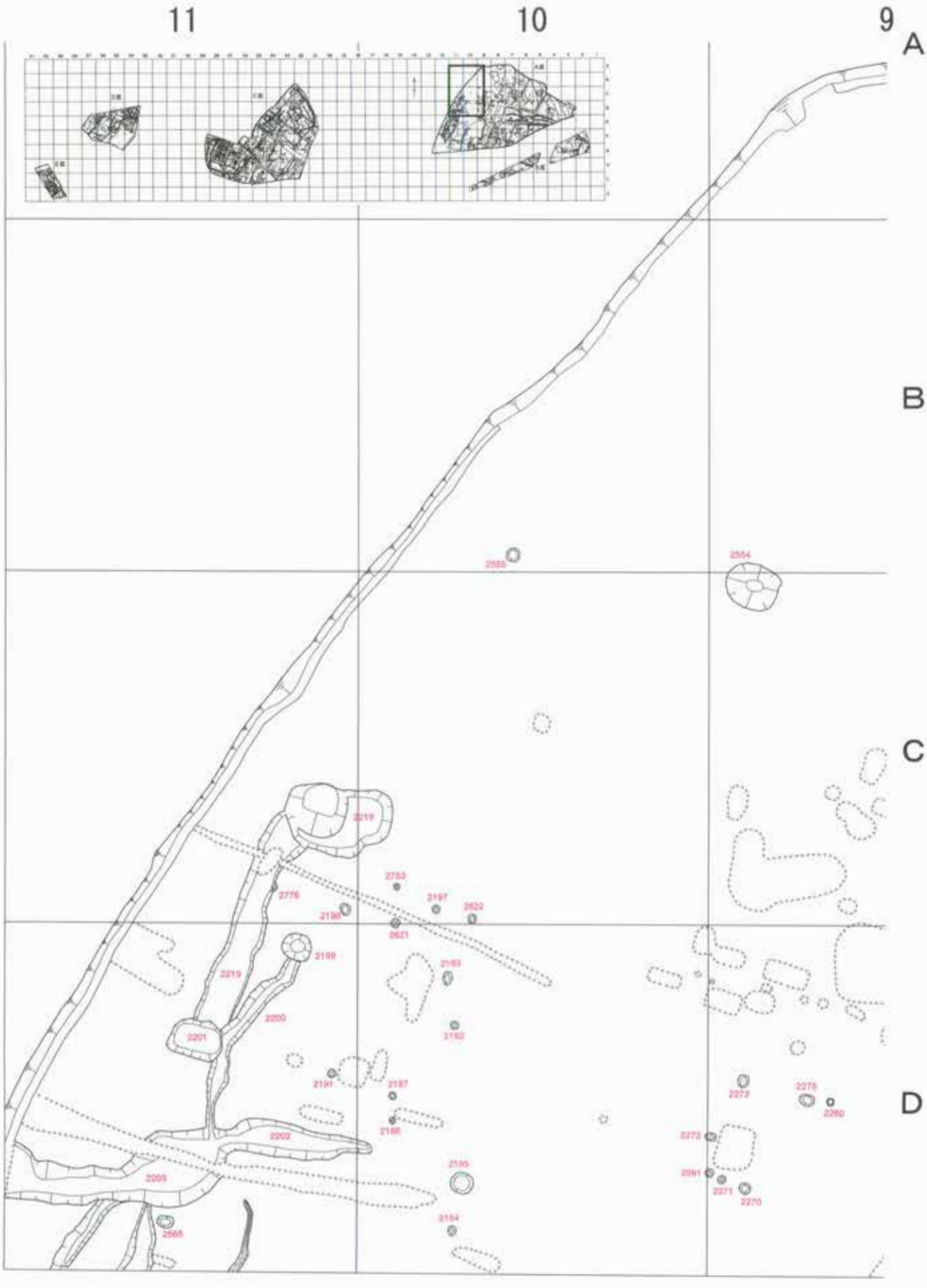
1　遺跡全体図　P198～222

縮尺　1：150

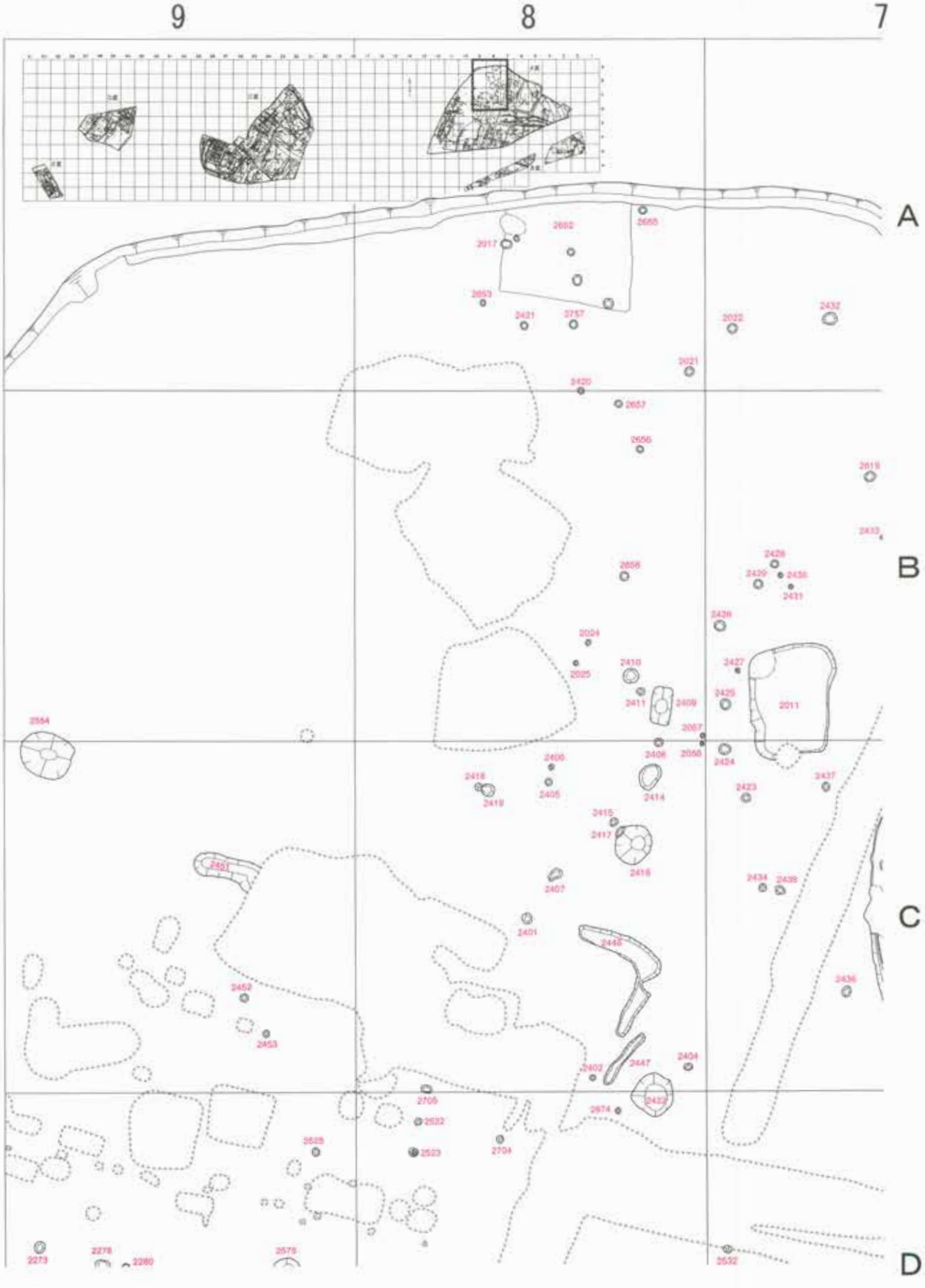
2　地区別全体図　P223～228

縮尺　1：400

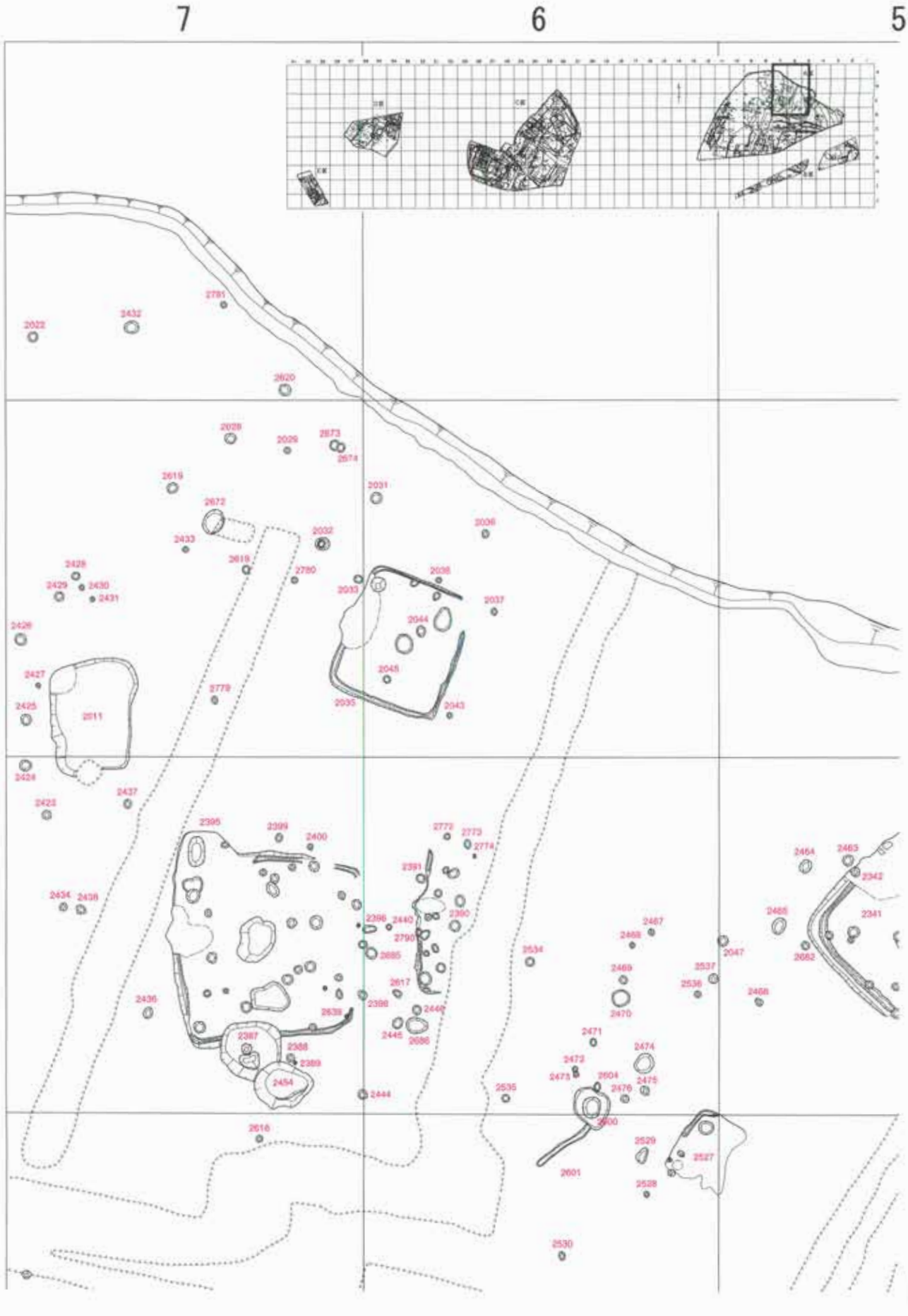
1（A区）


11
10
9
A
B
C
D
2555
2554
2219
2753
2197
2622
2776
2198
2621
2199
2193
2219
2200
2192
2201
2191
2187
2186
2202
2195
2203
2184
2565
2273
2276
2280
2272
2271
2270

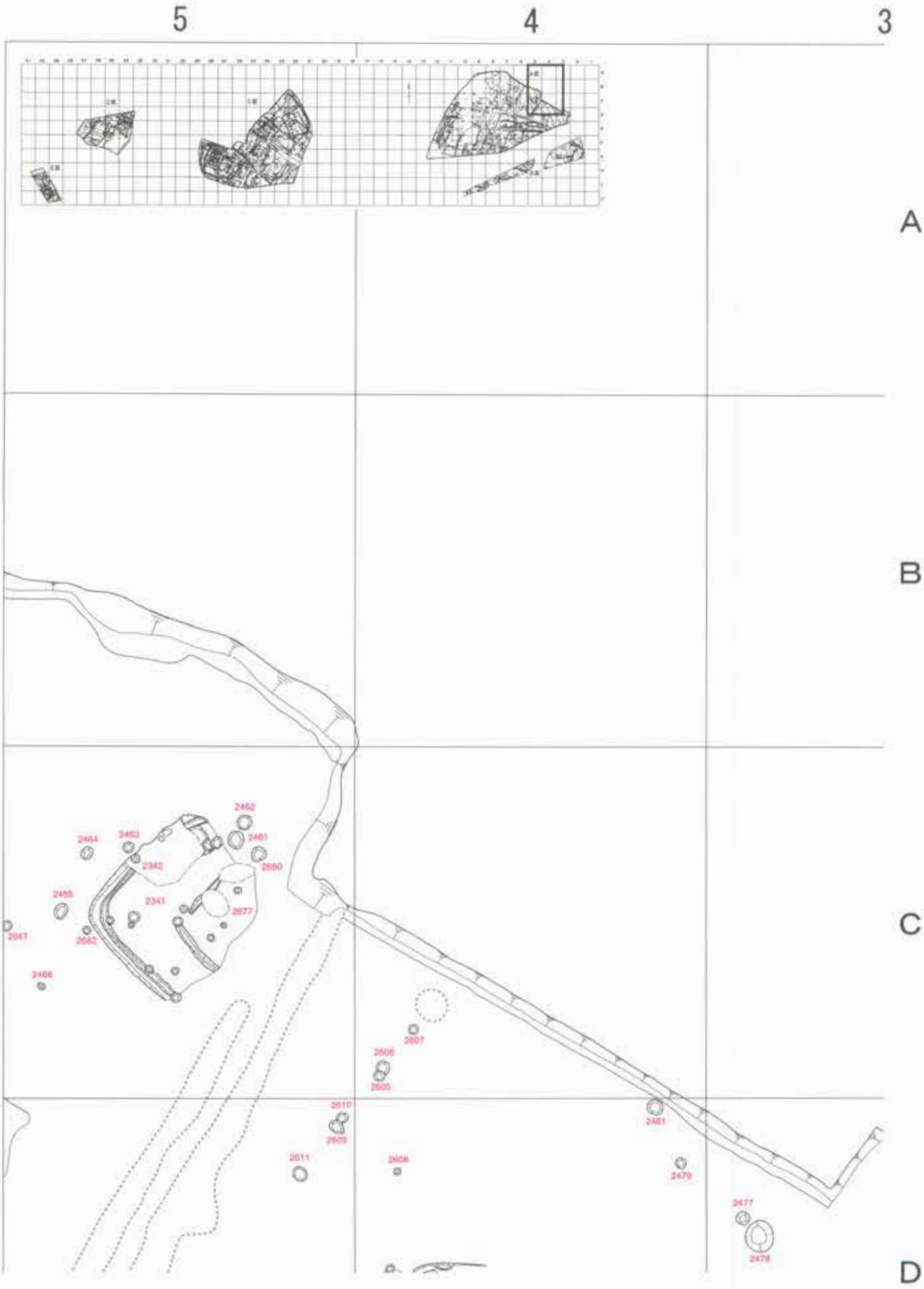
2（A区）


9
8
7
A
B
C
D
2554
2273
2278
2280
2578
2452
2453
2451
2401
2407
2418
2419
2405
2400
2414
2415
2417
2416
2446
2447
2402
2404
2432
2674
2532
2523
2709
2704
2688
2532
2436
2434
2439
2423
2437
2424
2425
2011
2427
2428
2429
2430
2431
2409
2410
2411
2024
2025
2406
2007
2656
2657
2420
2421
2757
2693
2917
2652
2665
2022
2432
2021
2619
2433

3（A区）


7
6
5
A
B
C
D
2781
2432
2022
2620
2028
2029
2873
2874
2619
2672
2031
2433
2032
2036
2618
2780
2428
2429
2430
2431
2033
2038
2037
2044
2426
2427
2045
2425
2779
2035
2043
2011
2424
2437
2423
2395
2399
2400
2772
2773
2774
2391
2434
2438
2396
2440
2390
2790
2534
2467
2468
2047
2537
2469
2536
2617
2470
2466
2436
2639
2398
2446
2471
2387
2445
2686
2474
2388
2472
2473
2604
2475
2389
2476
2454
2444
2535
2616
2600
2529
2527
2601
2528
2530
2464
2463
2342
2465
2341
2682

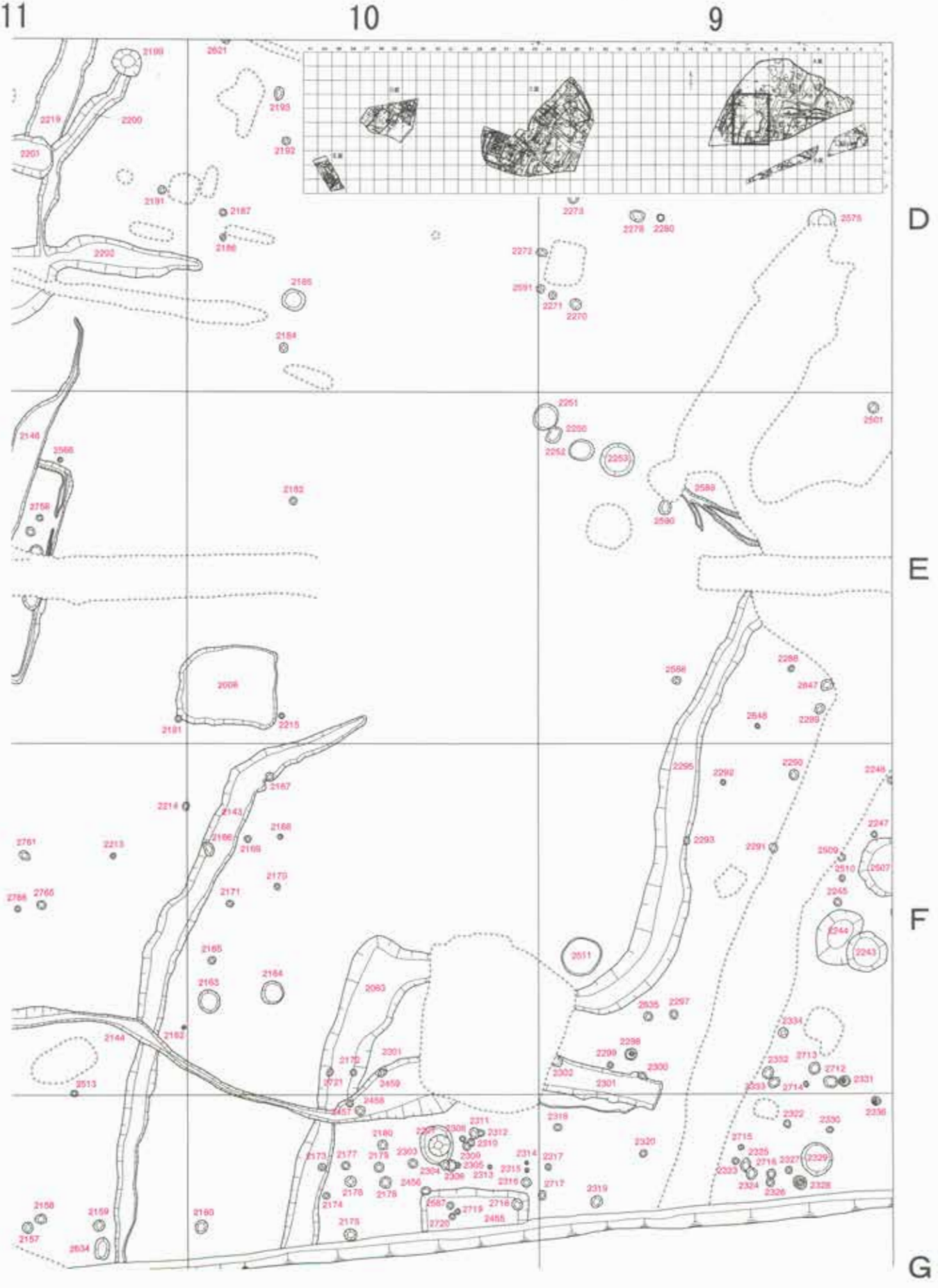
4（A区）


5
4
3
A
B
C
D
2462
2464
2463
2461
2342
2880
2465
2341
2877
2047
2882
2466
2607
2606
2605
2610
2609
2481
2611
2608
2479
2477
2478

5（A区）

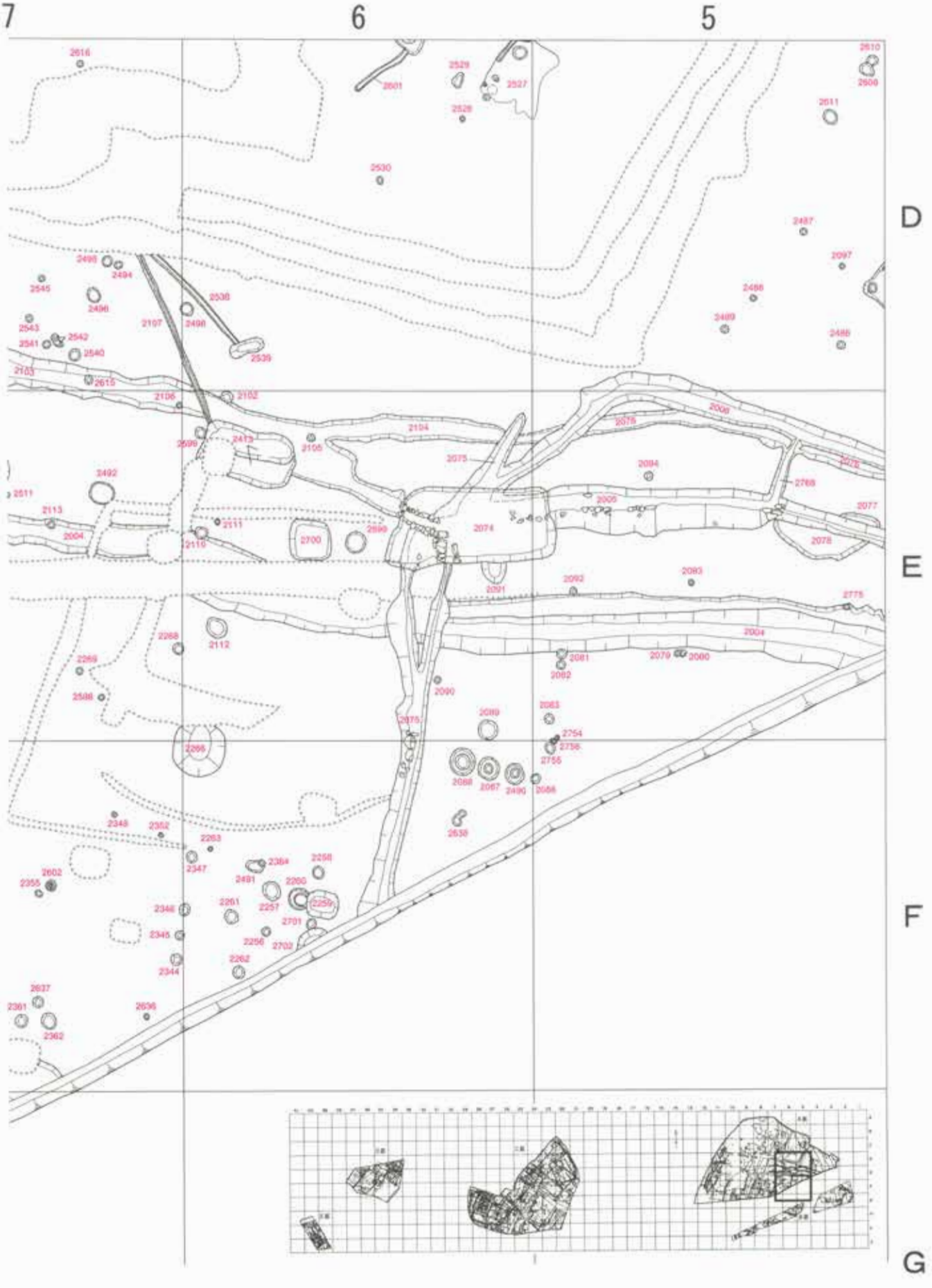
13
12
11
D
E
F
G
2202
2203
2565
2146
2558
2760
2759
2758
2217
2216
2148
2146
2181
2218
2147
2149
2214
2722
2152
2761
2213
2100
2151
2762
2766
2765
2763
2163
2764
2145
2144
2162
2513
2512
2156
2158
2159
2157
2634

6（A区）

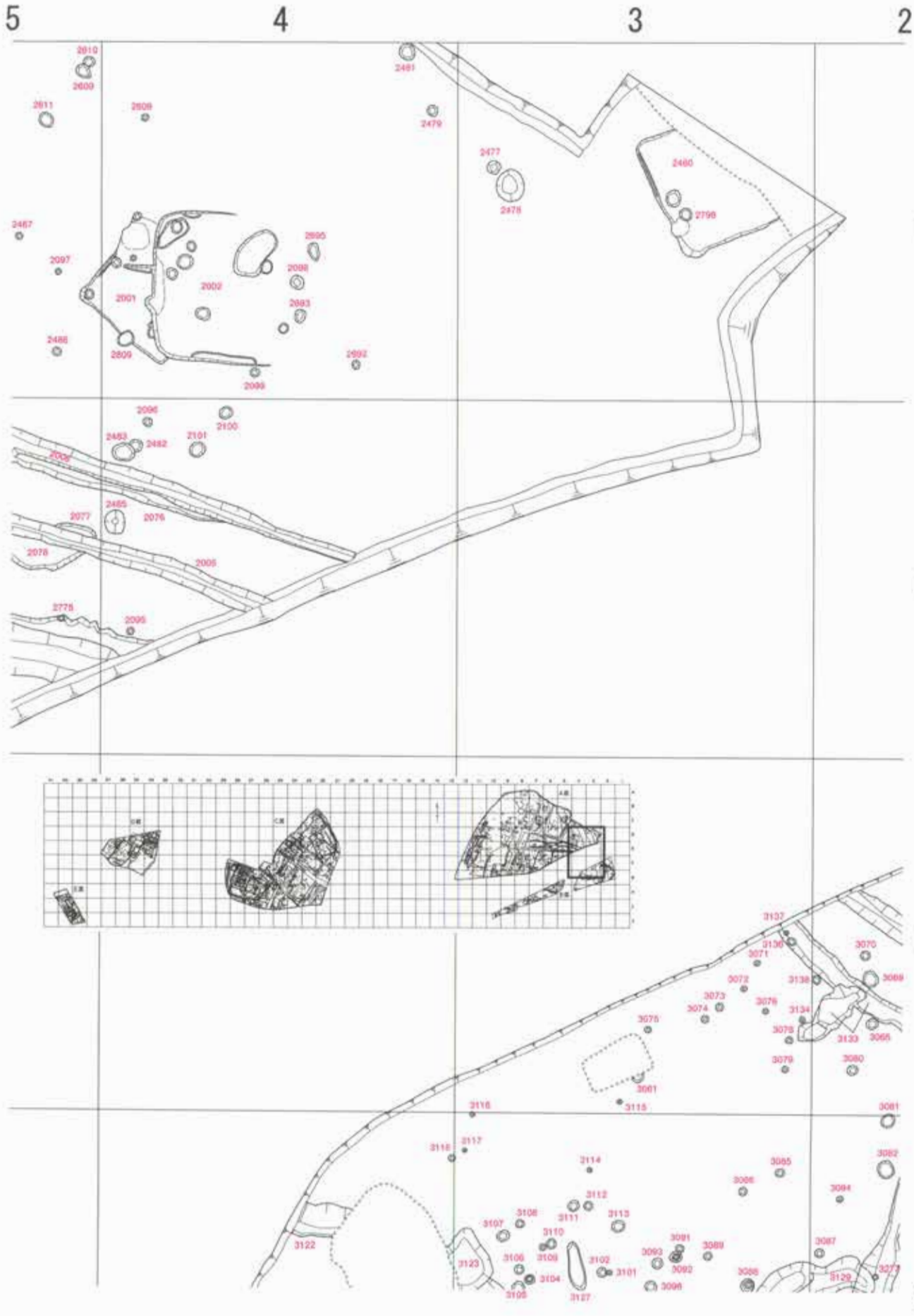


7（A区）

8（A区）



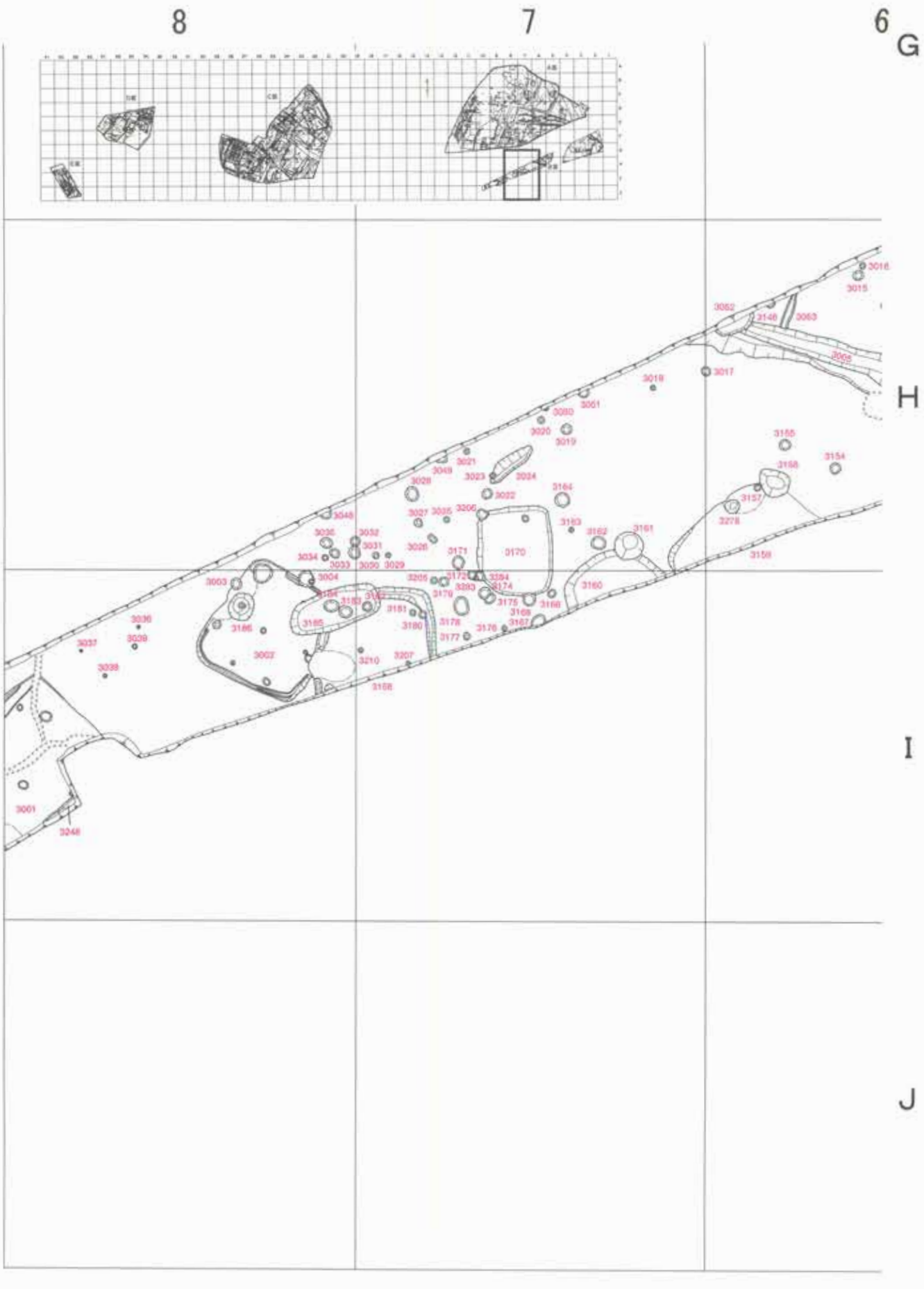
9（A区）


5
4
3
2
D
E
F
G
2610
2600
2611
2609
2481
2479
2477
2460
2478
2796
2467
2097
2090
2098
2002
2001
2093
2486
2809
2092
2099
2096
2100
2483
2482
2101
2095
2485
2077
2076
2078
2005
2775
2095
3137
3136
3071
3070
3072
3138
3089
3073
3074
3076
3134
3075
3078
3133
3065
3079
3080
3001
3115
3116
3081
3117
3118
3114
3085
3082
3086
3112
3094
3111
3113
3107
3108
3110
3091
3089
3122
3123
3106
3109
3102
3101
3093
3092
3088
3087
3104
3105
3127
3096
3129
3077

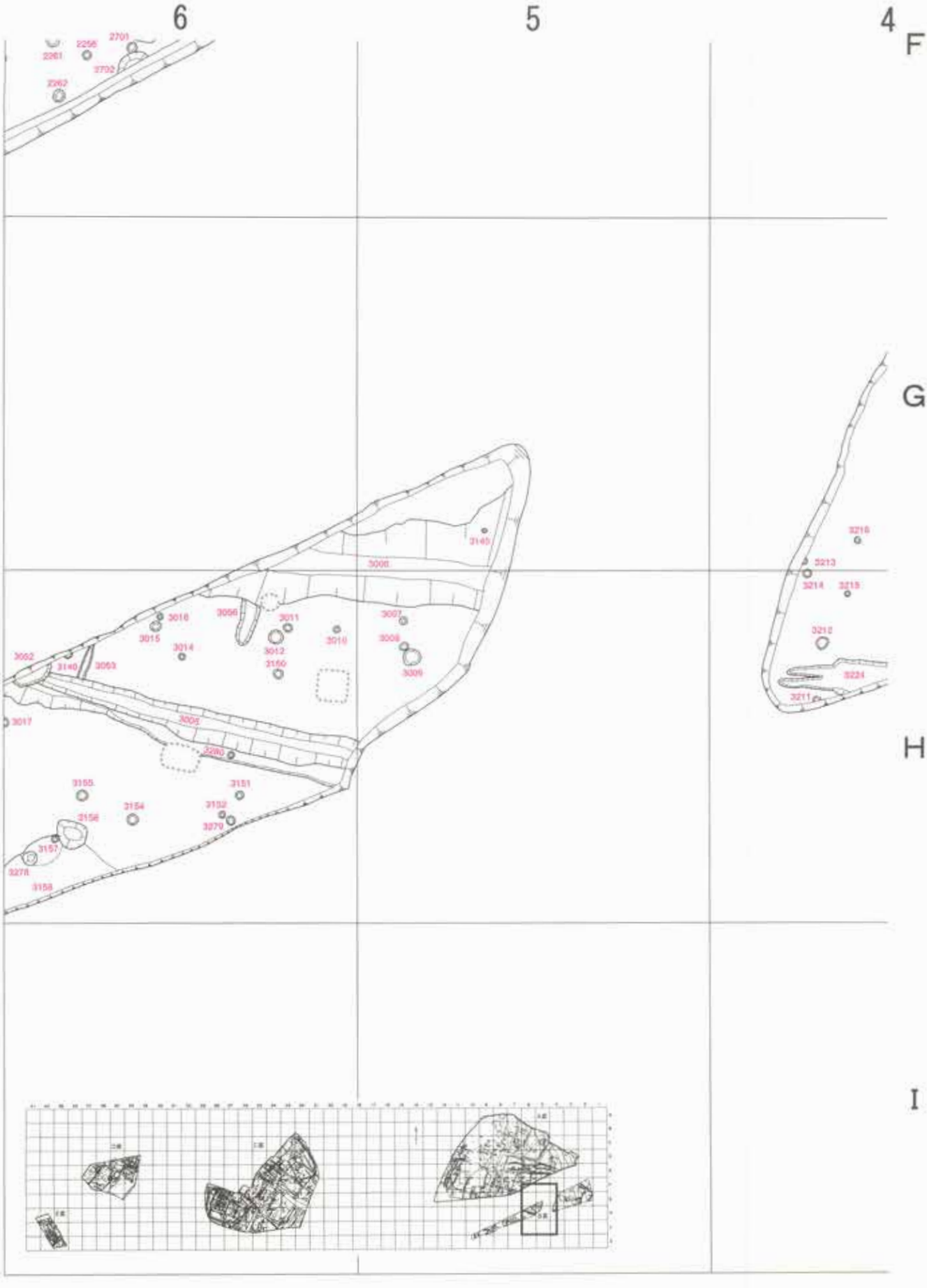
10（B区）

10
9
8
G
H
I
J
3036
3039
3037
3038
3144
3057
3058
3273
3147
3046
3043
3146
3047
3044
3195
3194
3045
3193
3198
3197
3001
3248
3202
3201
3203

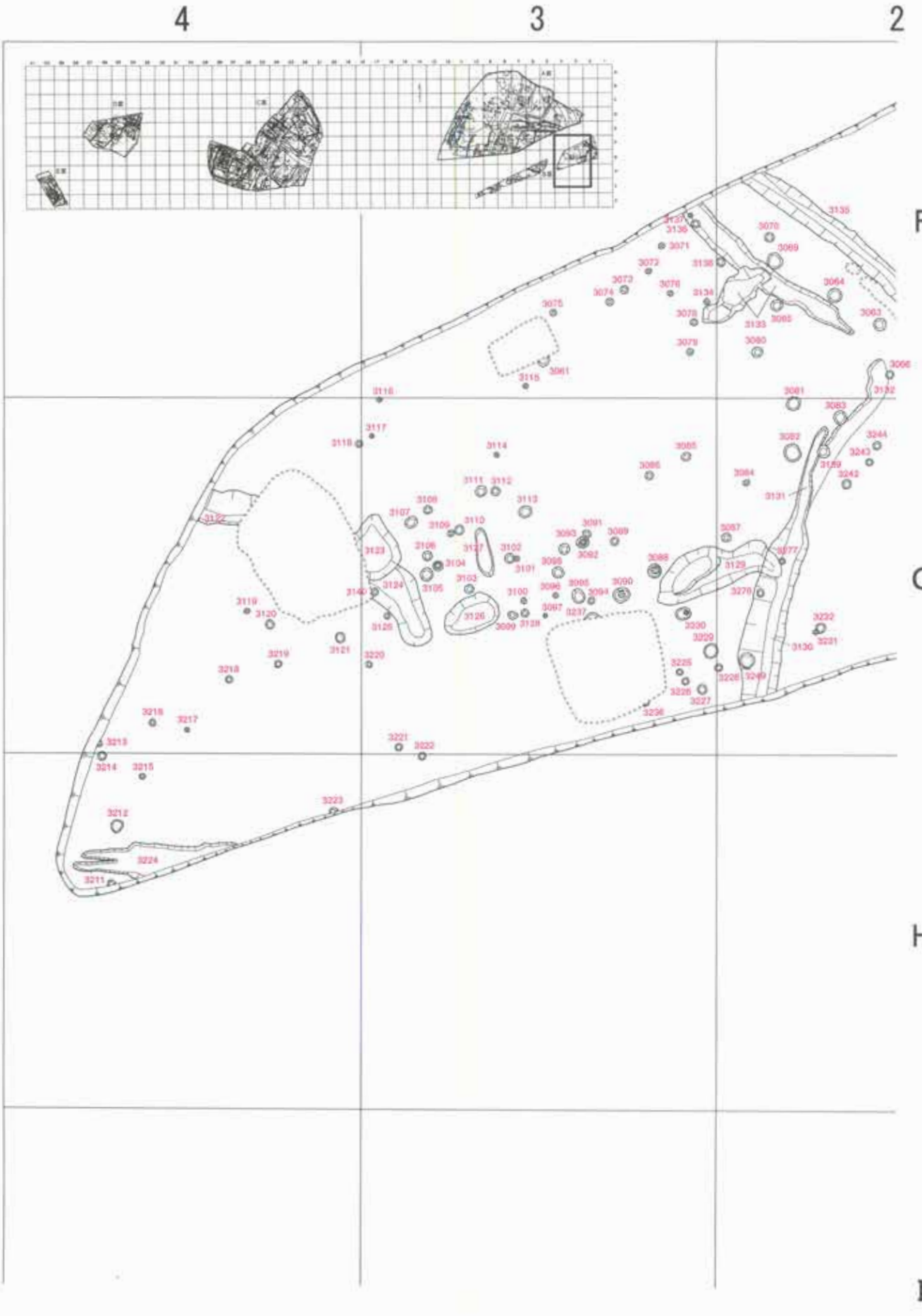
11（B区）


8
7
6
G
H
I
J
3016
3015
3052
3148
3053
3005
3017
3018
3061
3060
3020
3019
3155
3154
3156
3021
3049
3023
3024
3028
3022
3164
3157
3278
3048
3027
3035
3200
3163
3162
3161
3026
3171
3170
3159
3034
3033
3030
3029
3205
3172
3394
3174
3179
3393
3175
3168
3160
3004
3003
3184
3183
3182
3181
3169
3167
3036
3186
3185
3180
3178
3177
3176
3037
3039
3038
3002
3210
3207
3188
3001
3248

12（B区）

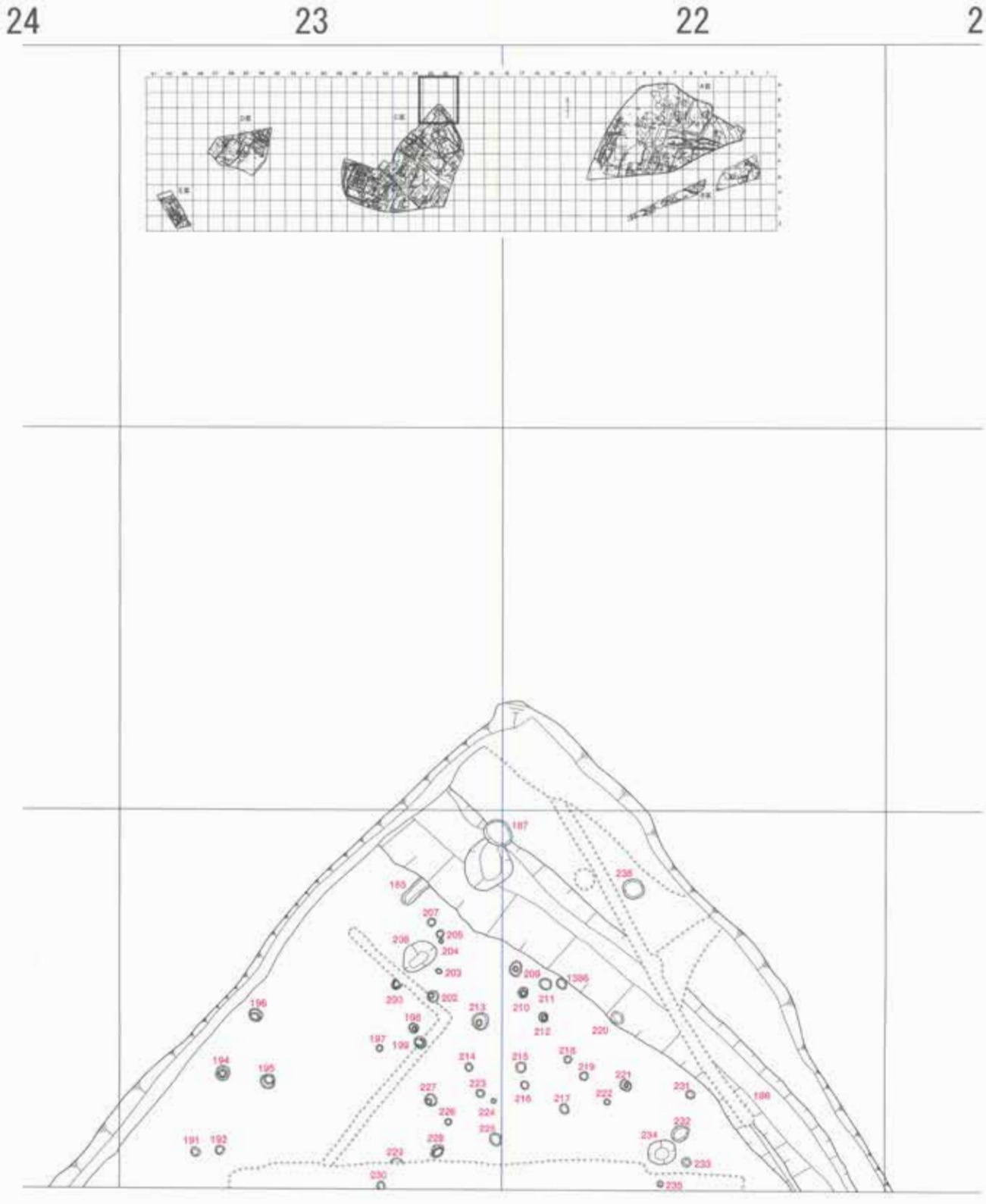

6
5
4
F
G
H
I
2701
2256
2261
2702
2262
3145
3006
3016
3056
3011
3007
3015
3010
3008
3014
3012
3002
3140
3063
3150
3009
3017
3005
3280
3155
3151
3154
3132
3156
3270
3157
3278
3158
3219
3213
3214
3215
3218
3224
3211

13（B区）



14（B区）

15（C区）



16（C区）

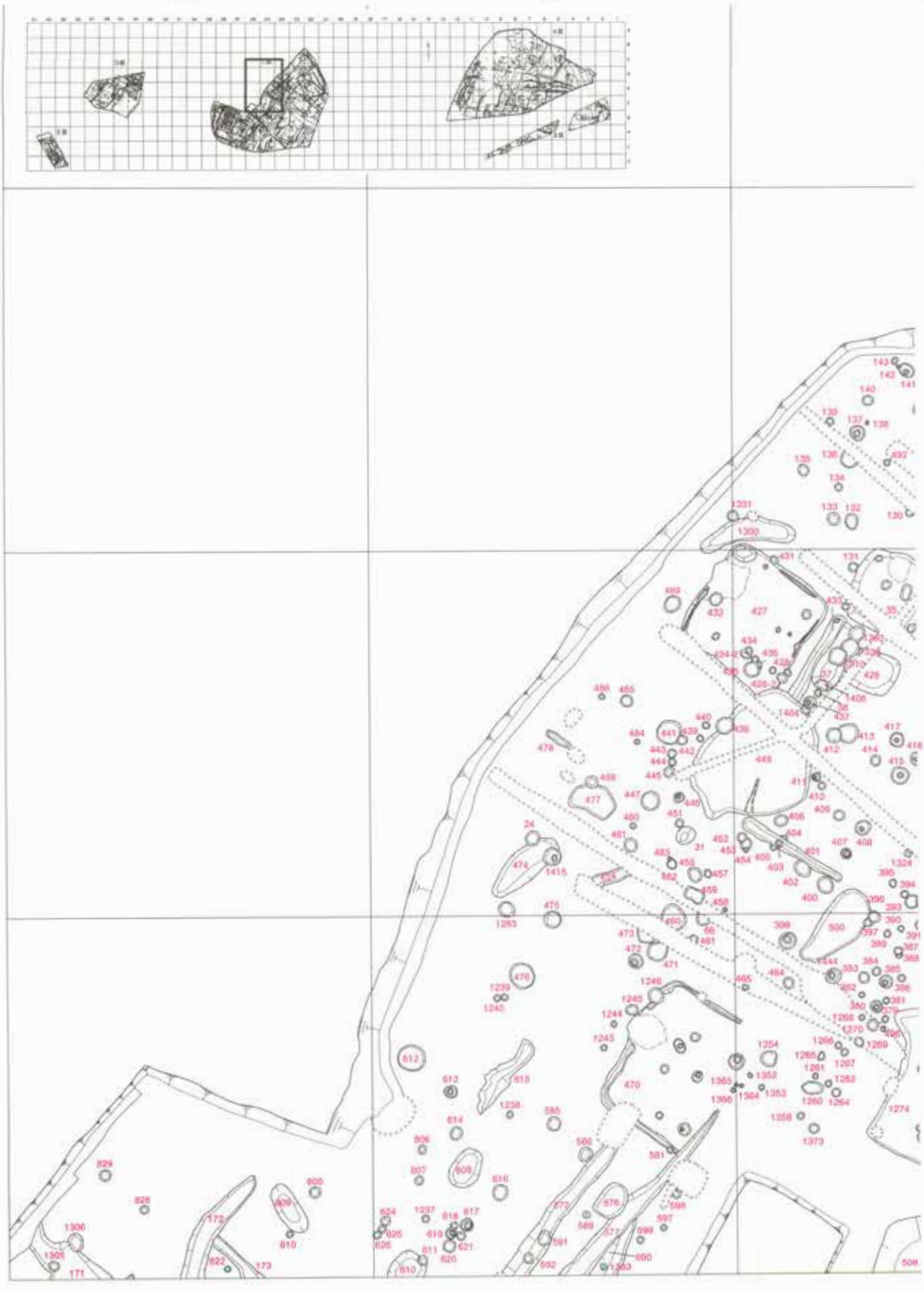
26　25　24

C

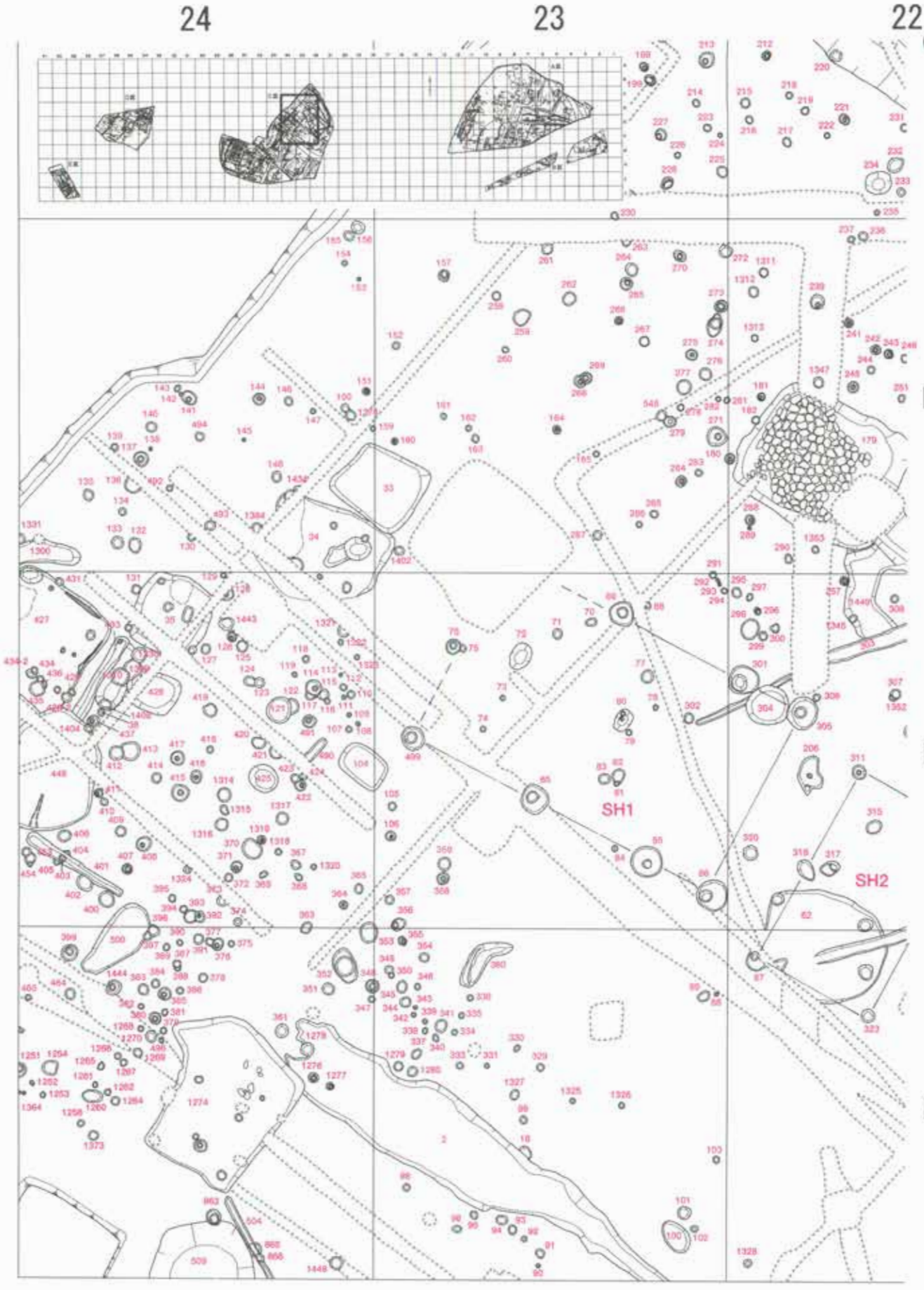
D

E

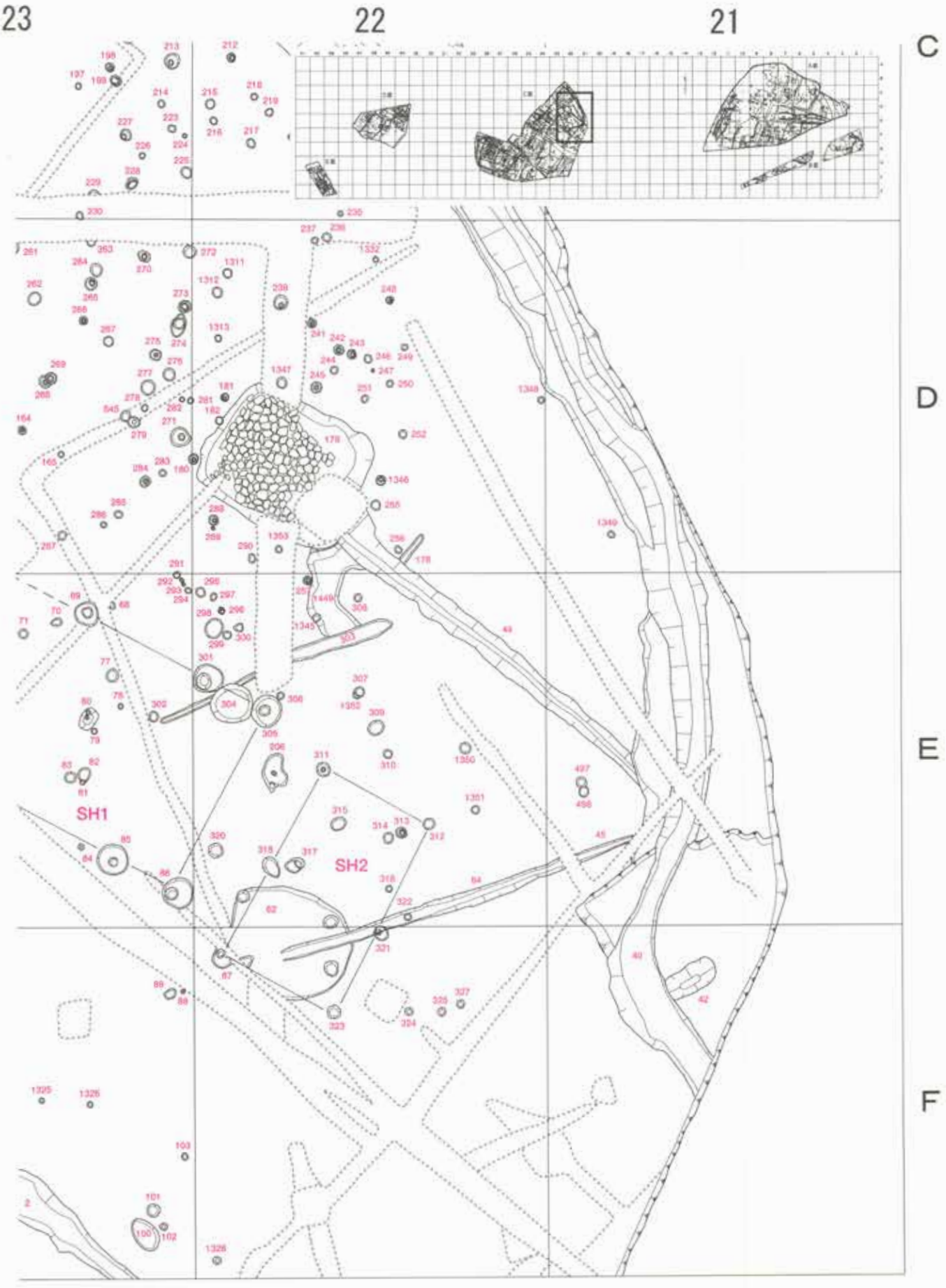
F



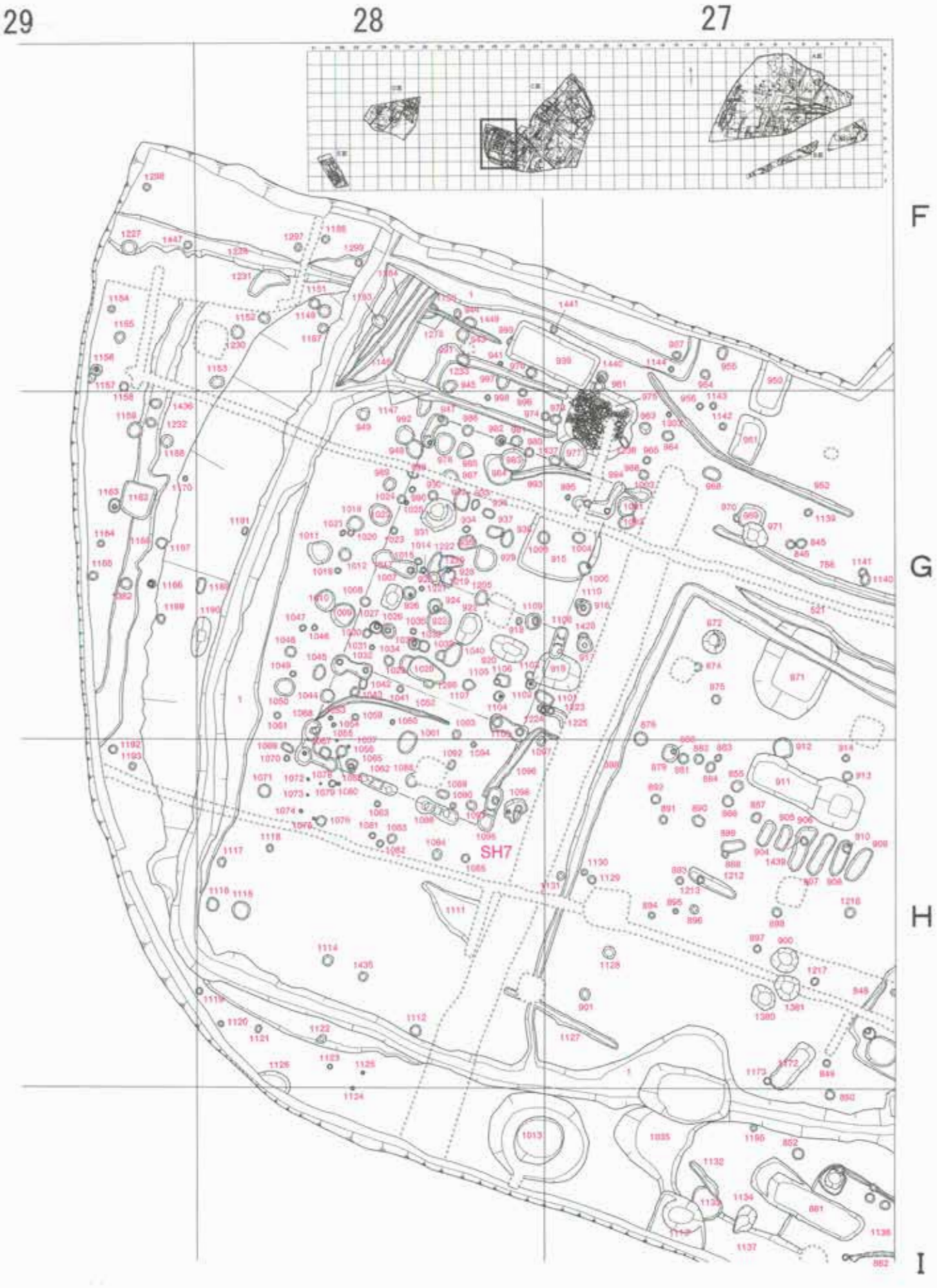
17（C区）



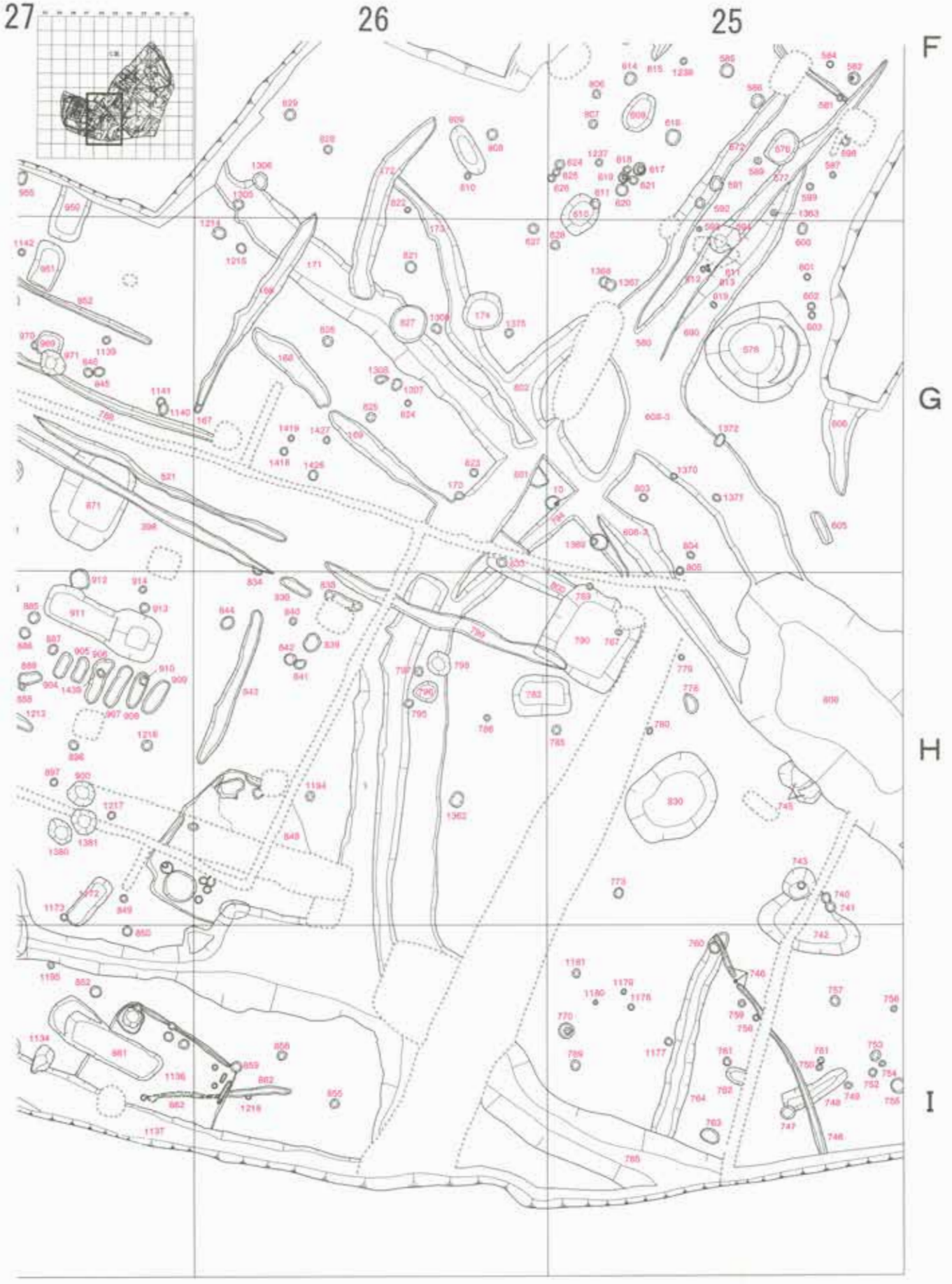
18（C区）



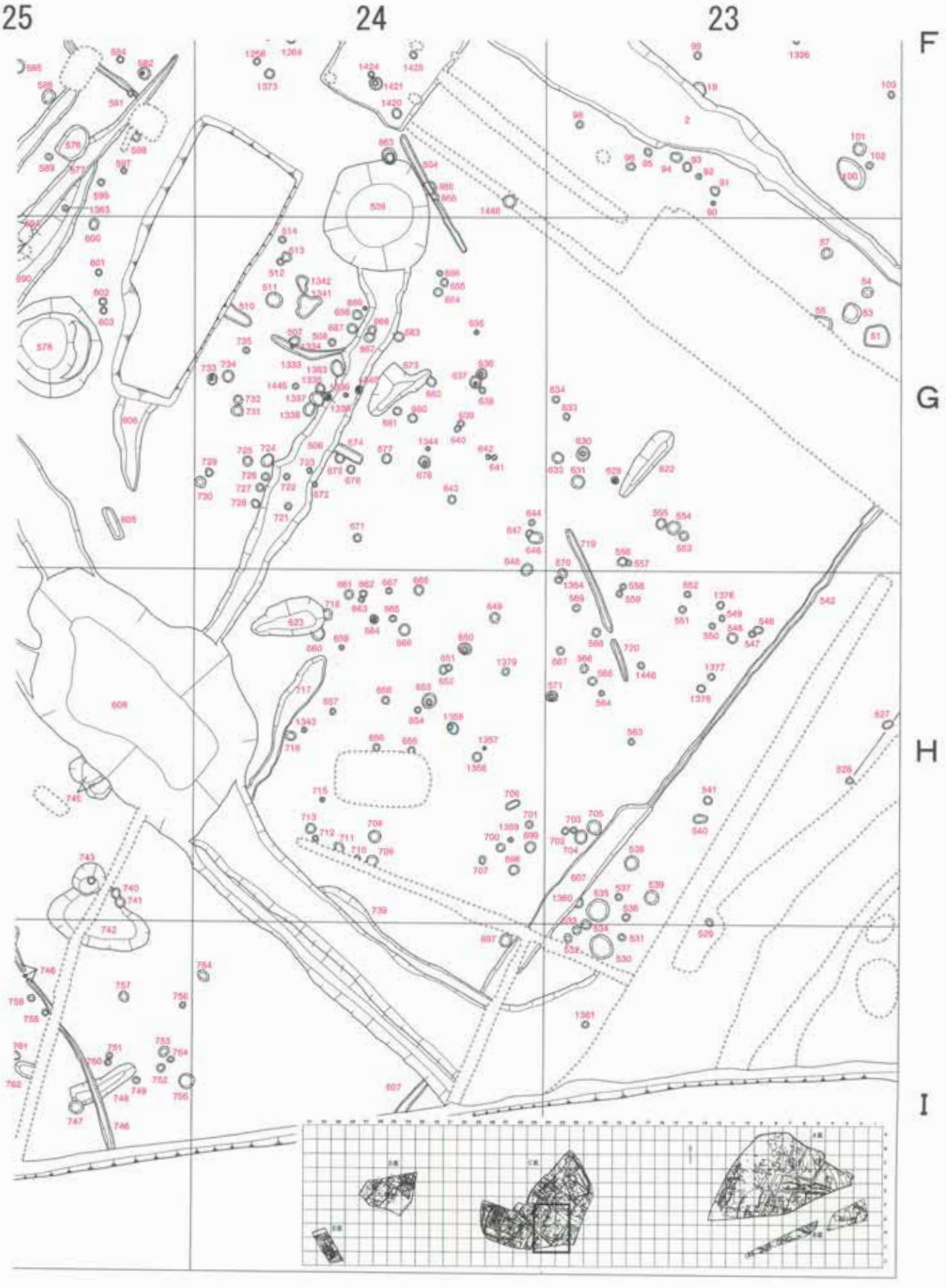
19（C区）



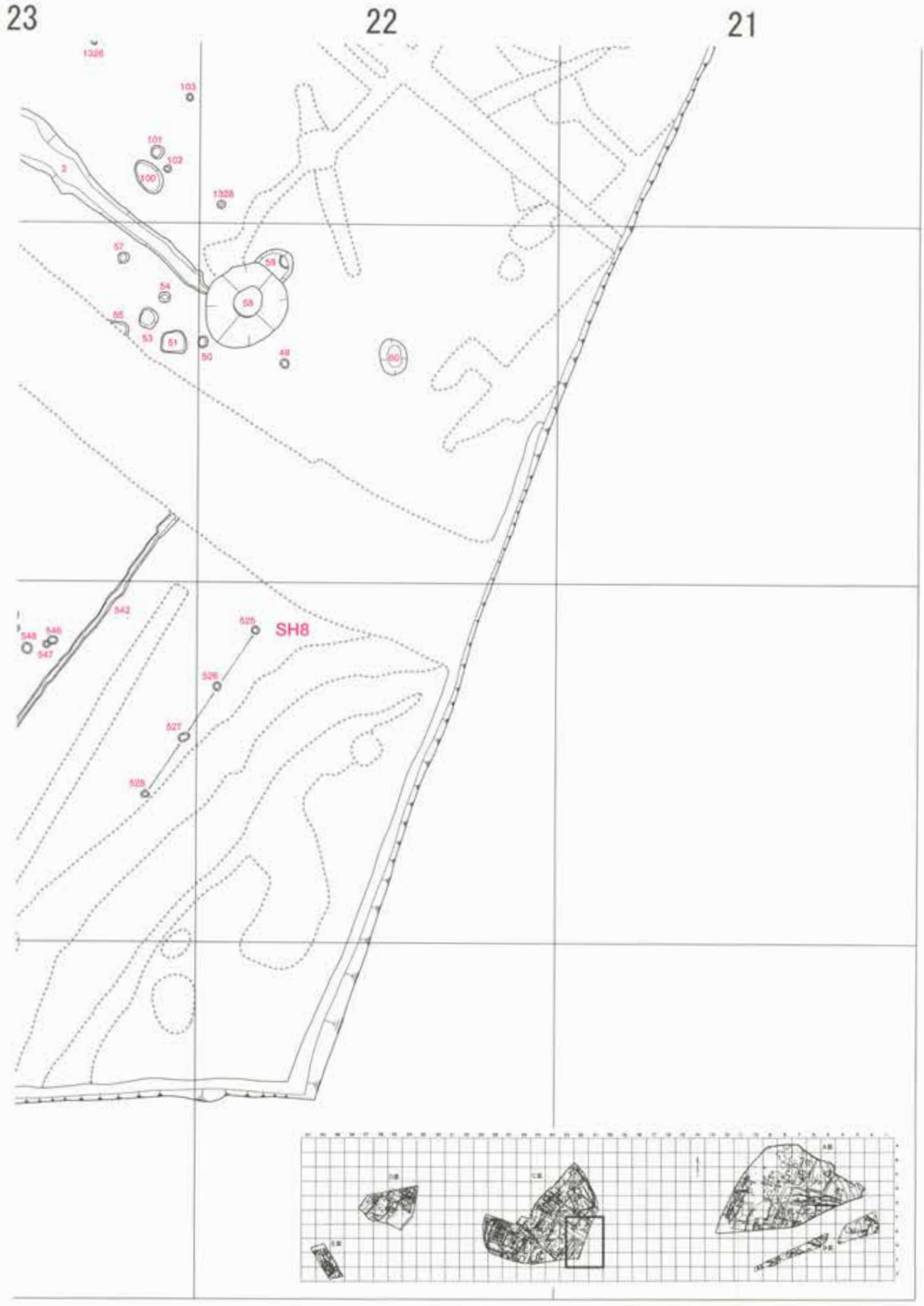
20（C区）



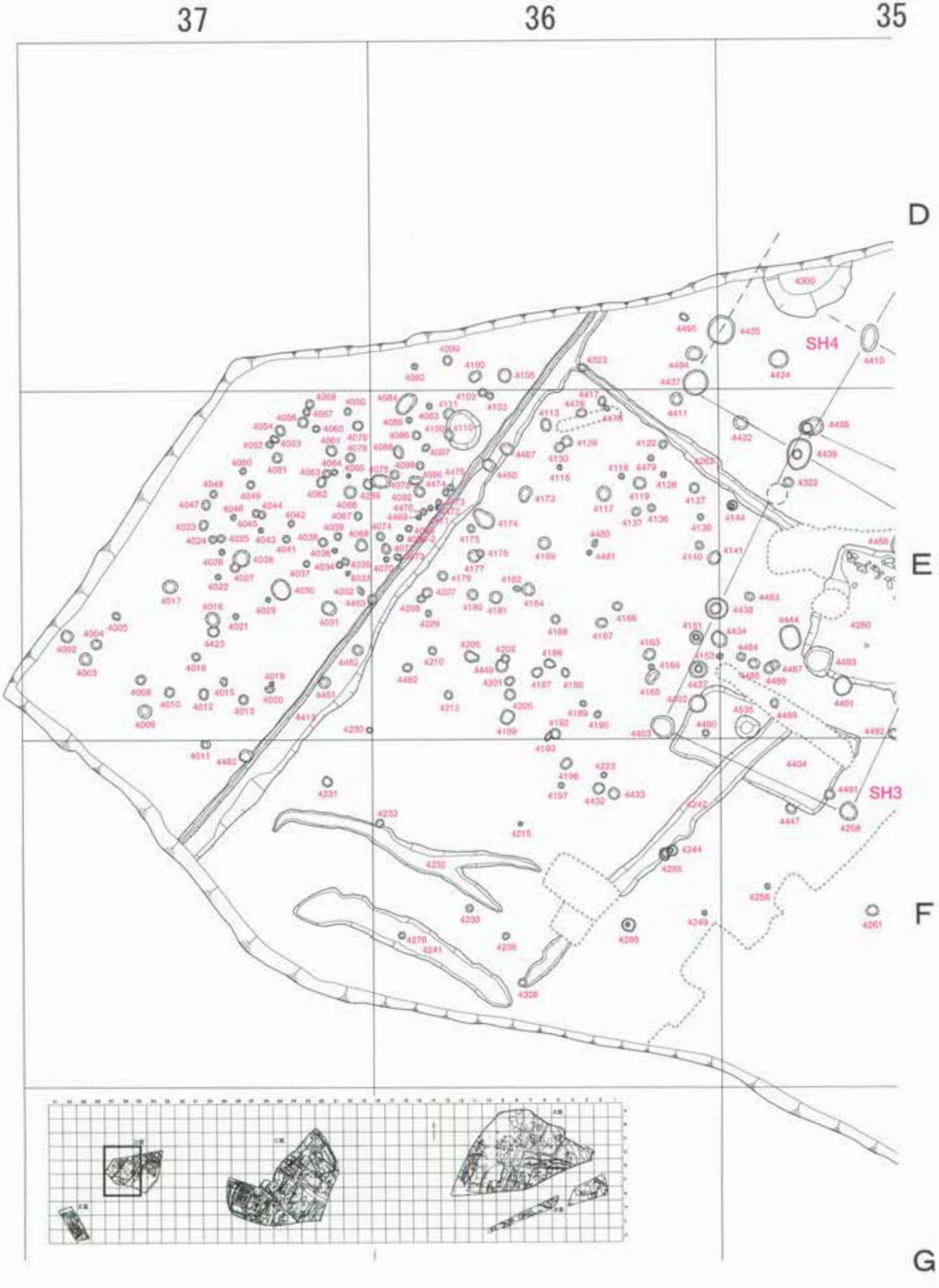
21（C区）



22（C区）


23
22
21
F
G
H
I
SH8
1326
103
101
102
100
2
1328
57
58
54
55
53
51
50
49
542
548
546
547
525
526
527
528

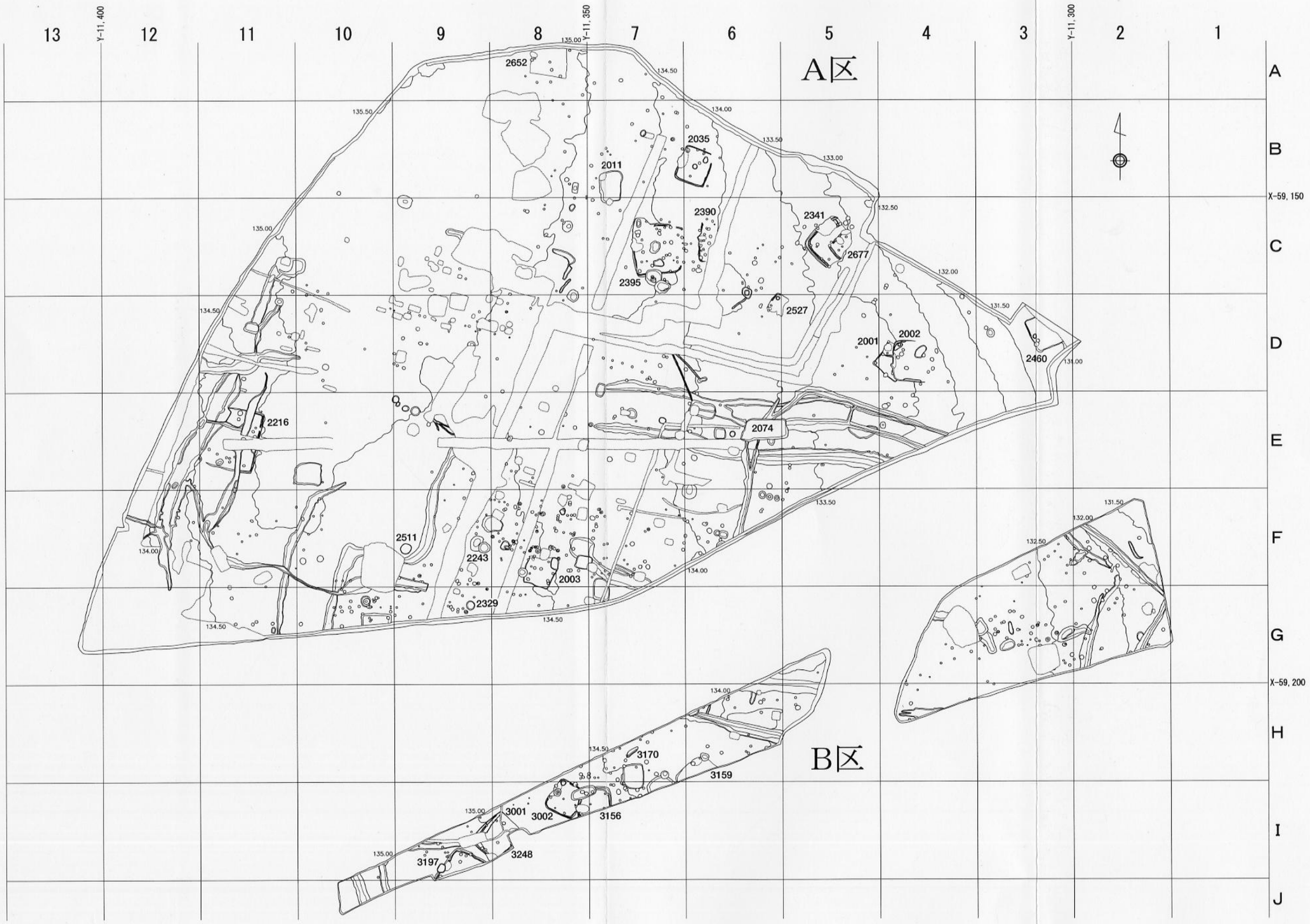
23（D区）



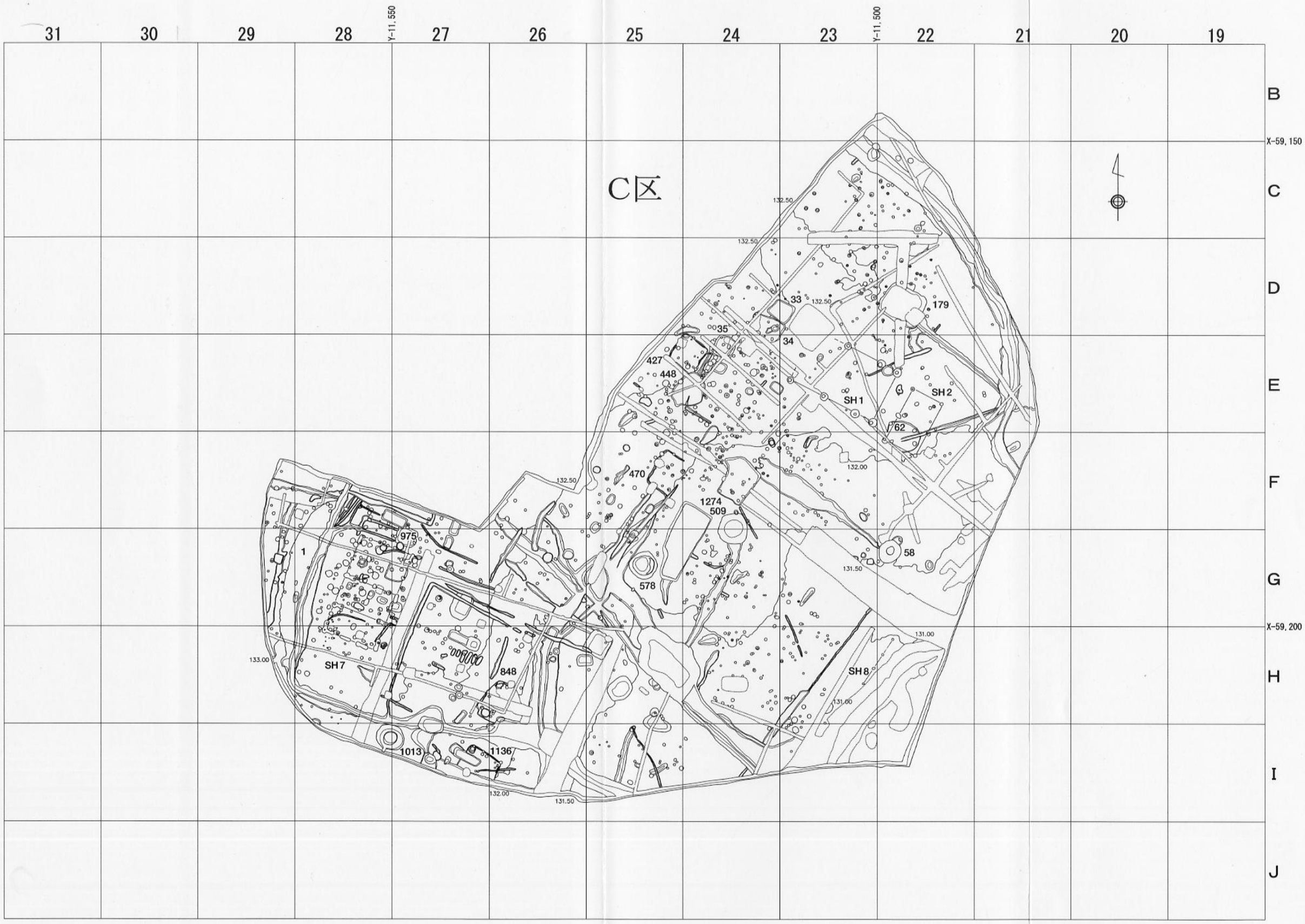
24（D区）

25（E区）

佐口遺跡A区・B区全体図



佐口遺跡C区全体図

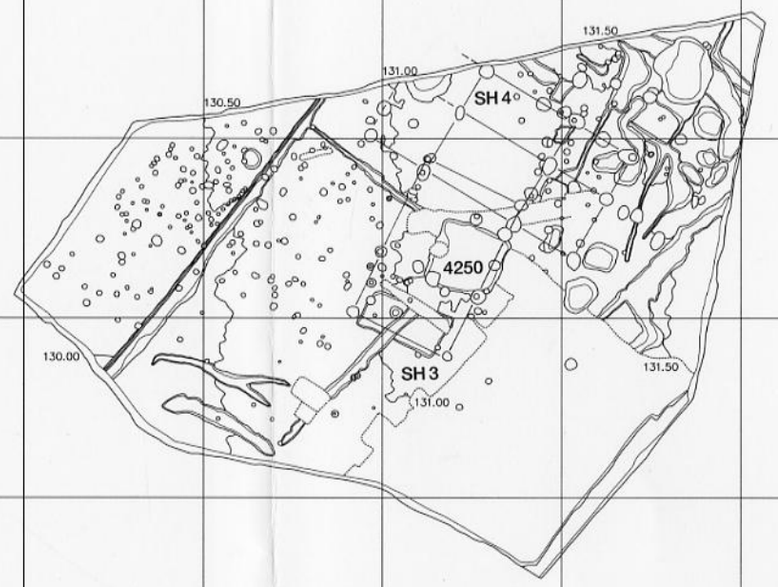

31
30
29
28
Y-11,550
27
26
25
24
23
Y-11,500
22
21
20
19
B
C
D
E
F
G
H
I
J
X-59,150
X-59,200
C区
132.50
132.50
132.50
132.00
132.50
131.50
131.00
133.00
132.00
131.50
131.00
33
35
34
179
427
448
SH1
SH2
62
470
1274
509
58
578
975
1
SH7
848
SH8
1013
1136
0
10
20
30
40m

佐口遺跡D区・E区全体図

41　40　39　38　Y-11, 650　37　36　35　34　33　Y-11, 600　32　31

B
X-59, 150
C
D
E
F
G
X-59, 200
H
I
J

D区



E区

0　10　20　30　40m

付表

1　遺構一覧表　P 230～256

凡例

・遺構番号は現場での登録番号をそのまま使用した。
・「長軸」「短軸」「深さ」欄の単位はcmである。
・「出土遺物」欄の遺物数は、接合前破片数をカウントしている。より詳しく細分した結果を「付表４」に掲載しているので、参照されたい。

2　遺構集計表　P 257

3　遺物観察表　P 258～271

凡例

・「口径」「器高」「底径」「台径」欄の単位はcmである。
・大きな誤差が含まれると判断した数値には「約」を付した。
・「残存率」欄には口縁残存率X/12のXの値を記した。
・「型式・年代」欄に記した型式については、第３章の注２（P41）に掲げた文献に準拠している。

4　遺物集計表　P 272～280

凡例

・遺物数は接合前破片数をカウントしている。

付表１　遺構一覧表

A区

遺構番号	グリット	種別	長軸	短軸	深さ	出土遺物	時代	備考
2001	D04	住居跡	306	—	9	古代18、中世1	古代	
2002	D04	住居跡	420	—	18	古代119、近世3	古代	
2003	F08	住居跡	—	314	3	古代71	古代	
2004	E06	溝	2,915	170	20	古代4、中世1、近世2	近世以前	
2005	E05	溝	1,425	120	41	古代16、近世2	中世？	2103に接続？
2006	E05	溝	1,965	95	36	古代21、中世1、近世16、石2	中世？	
2008	E10	土坑	276	225	30	古代2	古代	
2009	F07	溝	535	145	35	古代12、中世45、近世1、	中世	
2011	B07	住居跡	310	226	12	古代75	古代	
2017	A08	ピット	32	28	11			
2021	A08	ピット	30	—	11			
2022	A07	ピット	32	28	16			
2024	B08	ピット	17	15	7			
2025	B08	ピット	13	13	5			
2028	B07	ピット	33	33	27			
2029	B07	ピット	17	17	12	古代1	古代	
2031	B06	ピット	33	33	18	古代1	古代	
2032	B07	ピット	40	35	33	古代2	古代	
2033	B07	ピット	23	23	31			
2035	B06	住居跡	370	330	16	古代174、石3、金属2	古代	
2036	B06	ピット	20	20	10			
2037	B06	ピット	18	15	8			
2038	B06	ピット	15	15	4			
2043	B06	ピット	12	12	11			
2044	B06	ピット	30	25	—			
2045	B06	ピット	20	20	—			
2047	C05	ピット	30	30	18			
2057	B08	ピット	15	15	7			
2058	C08	ピット	13	13	14			
2063	F10	溝	1,055	155	26	古代10、中世28、近世6	中世	2295に接続
2065	F08	ピット	30	30	40			
2066	F08	ピット	20	17	25			
2067	F08	ピット	25	20	14			
2068	F08	ピット	18	18	10			
2069	F08	土坑	95	90	38	古代5、中世3	中世	
2070	F08	ピット	17	15	4			
2071	F08	ピット	35	28	8			
2072	F08	ピット	17	17	18	古代1		
2074	E06	土坑	480	210	62	古代24、中世15、近世532、壇輪3、近世瓦1	近世	
2075	E06	溝	1,480	95	17	古代1、近世14、近世瓦1、近現代1	近世	
2076	E05	溝	1,185	50	18	古代1	古代？	2104に接続？
2077	E05	土坑	120	—	12			
2078	E05	土坑	265	—	9	古代1、中世2	中世？	
2079	E05	ピット	20	15	15			
2080	E05	ピット	—	18	20			
2081	E05	ピット	27	27	22			
2082	E05	ピット	25	25	24	古代1	古代？	
2083	E05	ピット	27	27	21			
2086	F05	ピット	25	25	23			
2087	F06	ピット	60	60	19			
2088	F06	ピット	80	70	22	近世1	近世	
2089	E06	ピット	55	55	25			
2090	E06	ピット	20	20	18			
2091	E06	土坑	70	—	28		近世以前	
2092	E05	ピット	25	20	16			
2093	E05	ピット	18	18	11			
2094	E05	ピット	23	23	5			
2095	E04	ピット	20	20	9			
2096	E04	ピット	23	23	10			
2097	D05	ピット	16	16	14			
2098	D04	ピット	35	30	14			
2099	D04	ピット	25	25	16			
2100	E04	ピット	34	30	30	古代1		
2101	E04	ピット	45	40	28	古代2	古代	
2102	E06	ピット	35	30	29			
2103	E06	溝	1,555	105	24	古代14、中世17	中世	2005に接続？
2104	E06	溝	520	70	17	古代4	古代？	2076に接続？
2105	E06	ピット	20	20	12			
2106	E07	ピット	18	15	5			
2107	D07	溝	520	20	16			
2110	E06	ピット	35	30	20			
2111	E06	ピット	15	13	15			
2112	E06	ピット	65	55	25			
2113	E07	ピット	22	20	8			
2115	F08	土坑	165	140	16	古代1、中世7、近世5	近世	
2116	G07	土坑	225	175	6	古代1、中世6	中世	
2118	F08	ピット	35	28	39			
2119	F08	ピット	—	18	13			
2120	F08	ピット	18	18	7			
2121	F08	ピット	15	15	32			
2122	F08	ピット	27	25	25			
2123	F08	ピット	25	20	38			
2124	F08	ピット	26	23	31	古代1	古代？	
2126	G08	ピット	10	10	9			
2127	G08	ピット	20	20	10			
2128	G08	ピット	20	20	9			
2129	G08	ピット	20	20	17			
2130	F08	ピット	43	43	25			
2131	F08	ピット	26	26	29			
2132	F08	ピット	23	23	28			

遺構番号	グリット	種別	長軸	短軸	深さ	出土遺物	時代	備考
2133	F08	ピット	20	20	—	古代1	古代？	
2134	F08	ピット	32	20	29	古代1、中世2	中世	
2135	F08	ピット	25	25	29			
2136	F08	ピット	20	20	22			
2137	F08	ピット	22	22	10			
2138	F08	ピット	25	20	40	中世6	中世	
2139	F08	ピット	—	20	5			
2140	F08	ピット	33	27	36	中世1	中世	
2141	F08	ピット	20	20	46			
2143	F11	溝	1,820	84	28	古代3、中世5、近世13、石1	中世～近世	
2144	F11	溝	1,425	190	22	古代3、中世3、近世2、石1	中世？	2301に接続
2146	E11	溝	1,740	125	21		近世？	
2147	F11	溝	785	74	20			
2148	E12	ピット	22	20	17			
2149	F11	ピット	17	15	3			
2150	F11	ピット	15	15	13			
2151	F11	ピット	25	25	32			
2152	F12	ピット	23	21	30			
2153	F12	ピット	20	20	30			
2156	G11	ピット	30	27	32			
2157	G11	ピット	25	23	20	古代1	古代	
2158	G11	ピット	30	20	13			
2159	G11	ピット	27	25	25			
2160	G10	ピット	32	30	45			
2162	F11	ピット	10	10	30			
2163	F10	ピット	60	55	10			
2164	F10	ピット	58	58	10	古代1	古代？	
2165	F10	ピット	17	17	38			
2166	F10	ピット	40	30	52			
2167	F10	ピット	25	20	30			
2168	F10	ピット	15	15	23			
2169	F10	ピット	15	15	34			
2170	F10	ピット	15	15	5			
2171	F10	ピット	17	17	44			
2172	F10	ピット	18	16	—			
2173	G10	ピット	20	20	10			
2174	G10	ピット	18	18	8			
2175	G10	ピット	30	30	50			
2176	G10	ピット	30	30	20			
2177	G10	ピット	20	20	11			
2178	G10	ピット	27	25	17			
2179	G10	ピット	25	25	—			
2180	G10	ピット	25	25	22			
2181	E11	ピット	20	20	18			
2182	E10	ピット	23	23	15			
2184	D10	ピット	23	18	23			
2185	D10	ピット	65	60	23	古代2、近世2、近現代1	近代	
2186	D10	ピット	18	15	5			
2187	D10	ピット	20	20	5			
2191	D11	ピット	23	23	5			
2192	D10	ピット	25	25	6			
2193	D10	ピット	30	22	21			
2197	C10	ピット	18	18	6			
2198	C11	ピット	33	30	14			
2199	D11	土坑	80	70	—	近世1	近世	
2200	D11	溝	635	55	18		近世	
2201	D11	土坑	150	115	16	古代1	近世以降	
2202	D11	溝	520	105	22	中世1、近世11	近世	2203に接続、2218と遺物接合
2203	D11	溝	530	120	45	古代1、中世1、近世23、近現代6	近世	2202に接続
2209	F12	溝	325	40	18			
2213	F11	ピット	16	15	19			
2214	F11	ピット	20	15	10			
2215	E10	ピット	15	15	30			
2216	E11	住居跡	650	—	24	古代537、中世53、近世3、分類不能1、埴輪1、石29、金属4、近世瓦1	古代	
2217	E11	ピット	20	20	20			
2218	F12	溝	2,420	220	68	古代13、中世2、近世23、近現代1	近世	2202と遺物接合
2219	D11	溝	905	190	92	古代1、近世64、分類不能2、近世瓦1、近現代9	近世	
2221	F08	ピット	14	14	5			
2222	F08	ピット	20	18	22			
2223	F08	ピット	20	20	28			
2224	F08	ピット	30	27	17			
2225	F08	ピット	16	16	—		古代以降	
2226	F08	ピット	20	16	—			
2227	F08	ピット	—	16	—		古代以降	
2228	F08	ピット	23	20	—			
2229	F08	ピット	25	20	56			
2230	F08	ピット	30	30	—	中世4	中世	
2231	F08	ピット	33	25	30	古代1		
2232	F08	ピット	16	16	16			
2233	F08	土坑	95	90	22	古代14、近現代1	古代	
2234	F08	ピット	20	20	23			
2235	F08	ピット	40	30	13			
2236	F08	ピット	33	33	28			
2237	F08	ピット	20	18	34			
2238	F08	ピット	23	22	25			
2239	F08	ピット	25	—	8			
2240	F08	ピット	15	15	16			
2241	F08	ピット	15	15	6			
2242	F08	ピット	15	15	16			
2243	F09	井戸	114	113	529	古代5、中世6、近世14	近世	
2244	F09	土坑	160	—	14	古代1	古代？	

遺構番号	グリット	種別	長軸	短軸	深さ	出土遺物	時代	備考
2245	F09	ピット	21	19	19			
2247	F09	ピット	15	13	23			
2248	F08	ピット	20	20	22			
2250	E09	土坑	50	40	7	近世8	近世	
2251	E09	土坑	75	70	11			
2252	E09	土坑	70	60	8			
2253	E09	土坑	97	95	11	近世3	近世	
2256	F06	ピット	23	23	22	近世1	近世	
2257	F06	ピット	60	50	20	古代1、近世3	近世	
2258	F06	ピット	28	28	9	近世1	近世	
2259	F06	土坑	94	75	30	古代1、中世1、近世291、近現代1	近世	
2260	F06	ピット	53	—	8	古代2、近世3	近世	
2261	F06	ピット	35	35	10			
2262	F06	ピット	32	30	25	古代1	古代？	
2263	F06	ピット	13	13	10			
2266	F06	土坑	197	144	62	古代8、中世8	中世	
2268	E07	ピット	20	15	5			
2269	E07	ピット	20	20	6			
2270	D09	ピット	28	28	16			
2271	D09	ピット	23	23	9			
2272	D09	ピット	31	21	19			
2273	D09	ピット	35	30	6			
2278	D09	ピット	40	25	13	古代2	古代	
2280	D09	ピット	17	15	5			
2288	E09	ピット	14	13	23			
2289	E09	ピット	28	23	42			
2290	F09	ピット	25	23	36			
2291	F09	ピット	25	23	36	中世1	中世	
2292	F09	ピット	13	13	14			
2293	F09	ピット	20	16	22			
2295	F09	溝	1,290	126	21	古代2、中世11	中世	2063に接続
2297	F09	ピット	25	23	25			
2298	F09	ピット	29	29	57			
2299	F09	ピット	18	18	25			
2300	F09	ピット	20	18	21			
2301	F09	溝	320	158	18	古代3、中世14、近世1	中世	2144に接続
2302	F09	ピット	—	25	15			
2303	G10	ピット	20	20	50			
2304	G10	ピット	25	25	28			
2305	G10	ピット	14	14	10			
2306	G10	ピット	33	—	12			
2307	G10	土坑	112	95	32			
2308	G10	ピット	16	16	23			
2309	G10	ピット	17	17	16			
2310	G10	ピット	14	14	17			
2311	G10	ピット	28	25	52			
2312	G10	ピット	—	15	43			
2313	G10	ピット	11	11	7			
2314	G10	ピット	10	10	17			
2315	G10	ピット	11	11	18			
2316	G10	ピット	26	26	16			
2317	G09	ピット	19	19	10			
2318	G09	ピット	20	18	32			
2319	G09	ピット	28	25	24			
2320	G09	ピット	24	24	11			
2322	G09	ピット	30	27	15			
2323	G09	ピット	18	18	2			
2324	G09	ピット	30	25	15	中世2	中世	
2325	G09	ピット	30	25	7		中世以前	
2326	G09	ピット	22	22	12			
2327	G09	ピット	20	18	9			
2328	G09	ピット	35	30	32			
2329	G09	土坑	95	90	84	弥生58、古代3、近世4、石39	弥生	
2330	G09	ピット	19	19	6			
2331	F09	ピット	28	28	30	古代1、中世1、近世1		
2332	F09	ピット	34	22	70	中世2	中世	
2333	F09	ピット	32	32	23	古代1	古代？	
2334	F09	ピット	23	23	23			
2336	G09	ピット	25	25	25	古代1	古代？	
2337	E08	ピット	20	18	6			
2340	E08	ピット	—	30	—			
2341	C05	住居跡	—	—	20	古代744、近世1、金属6	古代	
2342	C05	ピット	25	22	—			
2344	F07	ピット	25	20	22	古代2	古代？	
2345	F07	ピット	20	20	25	古代1	古代？	
2346	F07	ピット	32	28	23			
2347	F06	ピット	30	26	22	中世1	中世	
2348	F07	ピット	15	15	12			
2352	F07	ピット	12	12	6			
2354	F07	ピット	31	—	7			
2355	F07	ピット	16	16	9			
2356	F07	ピット	40	40	18			
2357	F07	ピット	18	18	12			
2358	F07	ピット	15	15	5			
2359	F07	ピット	15	15	5			
2360	F07	ピット	25	23	13	古代1	古代	
2361	F07	ピット	34	32	3			
2362	F07	ピット	42	40	13			
2365	F07	ピット	16	16	6			
2366	F07	ピット	19	19	16			
2372	E08	ピット	32	32	28			

遺構番号	グリット	種別	長軸	短軸	深さ	出土遺物	時代	備考
2373	E08	ピット	20	20	8			
2375	F07	ピット	50	40	45	中世1、近世3	近世	
2376	F07	ピット	17	17	9			
2377	F07	ピット	20	20	24			
2378	F07	ピット	32	32	7			
2379	F08	ピット	—	24	—	中世1	中世	
2380	F07	溝	210	45	13			
2381	F07	ピット	20	20	14			
2382	F07	ピット	25	25	18			
2384	F06	ピット	15	15	15			
2387	C07	土坑	170	165	37	古代5、中世3、近世4、石1	近世	
2388	C07	ピット	20	20	20			
2389	C07	ピット	11	11	15	古代1	古代？	
2390	C06	住居跡	—	—	5	古代18、中世1	古代	
2391	C06	ピット	22	22	35			
2395	C07	住居跡	604	520	24	古代359、中世1、近世1、石1	古代	
2396	C06	ピット	36	24	20			
2398	C07	ピット	25	25	16			
2399	C07	ピット	19	17	18	古代2	古代？	
2400	C07	ピット	16	15	12			
2401	C08	ピット	33	33	10			
2402	C08	ピット	18	18	5			
2404	C08	ピット	27	27	11	近世1	近世	
2405	C08	ピット	28	20	13			
2406	C08	ピット	16	16	10			
2407	C08	ピット	32	27	23			
2408	C08	ピット	25	25	8			
2409	B08	土坑	105	58	62			
2410	B08	ピット	44	44	9			
2411	B08	ピット	23	23	18			
2413	E06	土坑	265	90	26			
2414	C08	土坑	75	60	9	古代5、近世20、石1、近世瓦9、近現代40	近代	
2415	C08	ピット	25	18	15			
2416	C08	土坑	115	105	26	近世40、近現代37	近代	
2417	C08	ピット	32	18	—		近代	
2418	C08	ピット	18	18	28			
2419	C08	ピット	40	35	18	古代2	古代？	
2420	A08	ピット	20	20	10			
2421	A08	ピット	22	22	15			
2422	D08	土坑	230	120	21	古代2、近世53、石2、近世瓦19、近現代23	近世	
2423	C07	ピット	25	25	14	古代1	古代？	
2424	C07	ピット	30	28	9			
2425	B07	ピット	28	25	29			
2426	B07	ピット	28	28	22			
2427	B07	ピット	15	15	4			
2428	B07	ピット	20	20	15			
2429	B07	ピット	23	23	6			
2430	B07	ピット	13	13	3			
2431	B07	ピット	13	13	4			
2432	A07	ピット	40	35	6			
2433	B07	ピット	15	15	22			
2434	C07	ピット	18	18	18			
2436	C07	ピット	28	23	25	古代1	古代	
2437	C07	ピット	24	19	13			
2438	C07	ピット	30	25	20			
2440	C06	ピット	15	—	11			
2444	C06	ピット	23	20	14			
2445	C06	ピット	32	28	20			
2446	C06	ピット	28	25	5			
2447	C08	溝	180	28	10	近世7	近世	
2448	C08	溝	445	60	11			
2451	C09	土坑	—	62	18	古代3、近世8、分類不能4、石2	近世	
2452	C09	ピット	20	20	6			
2453	C09	ピット	18	15	13			
2454	C07	土坑	165	125	41	古代19、中世2、近世20、近世瓦1	近世	
2455	G10	土坑	306	115	26	古代5、中世2、近世2	中世？	
2456	G10	ピット	28	22	11	中世1	中世	
2457	G10	ピット	20	20	12	中世2	中世	
2458	G10	ピット	27	27	13			
2459	F10	ピット	20	18	48			
2460	D03	住居跡	352	—	6	古代22	古代	
2461	C05	ピット	48	45	24			
2462	C05	ピット	42	42	28			
2463	C05	ピット	28	28	26			
2464	C05	ピット	35	28	38			
2465	C05	ピット	46	32	40			
2466	C05	ピット	18	23	18			
2467	C06	ピット	16	14	13			
2468	C06	ピット	13	12	18			
2469	C06	ピット	20	18	18			
2470	C06	ピット	45	45	23			
2471	C06	ピット	17	15	4			
2472	C06	ピット	—	13	15			
2473	C06	ピット	13	13	13			
2474	C06	ピット	55	45	21			
2475	C06	ピット	25	23	22	古代1	古代？	
2476	C06	ピット	20	20	17			
2477	D03	ピット	35	35	12			
2478	D03	土坑	86	80	27	古代1	古代	
2479	D04	ピット	30	30	16	古代1	古代？	
2481	D04	ピット	48	48	33			

遺構番号	グリット	種別	長軸	短軸	深さ	出土遺物	時代	備考
2482	E04	ピット	35	35	5			
2483	E04	ピット	57	49	5			
2485	E04	土坑	65	58	41	古代2	古代	
2486	D05	ピット	20	20	11			
2487	D05	ピット	20	20	24			
2488	D05	ピット	17	17	12			
2489	D05	ピット	18	18	17			
2490	F06	ピット	55	51	17	中世1	中世？	
2491	F06	ピット	50	28	27			
2492	E07	土坑	75	65	4			
2493	E07	ピット	40	40	28			
2494	D07	ピット	22	22	18			
2495	D07	ピット	30	30	3			
2496	D07	ピット	40	35	17			
2497	D07	ピット	20	20	16	分類不能1		
2498	D06	ピット	38	38	3	近世15	近世	
2499	E08	ピット	20	17	12			
2500	E08	ピット	32	32	13			
2501	E09	ピット	28	28	12			
2502	E08	ピット	15	15	21			
2503	E08	ピット	40	—	32			
2504	F08	ピット	22	22	18			
2505	F08	ピット	15	15	30			
2506	F08	ピット	50	38	58	中世2、近世2		
2507	F08	土坑	215	165	25	古代1、近世10、石1	近世	
2509	F09	ピット	20	—	25			
2510	F09	ピット	15	13	8			
2511	F09	井戸	114	112	530	古代1	近世	
2512	G11	ピット	30	28	30			
2513	G11	ピット	18	15	15			
2522	D08	ピット	20	20	21			
2523	D08	ピット	25	23	19			
2525	D09	ピット	22	18	5			
2526	D08	ピット	23	23	5			
2527	D06	住居跡	—	—	4	古代5	古代	
2528	D06	ピット	13	13	17			
2529	D06	ピット	42	28	20			
2530	D06	ピット	20	18	13	古代1、近世2	近世	
2532	D07	ピット	22	22	—			
2534	C06	ピット	24	24	22	古代1	古代	
2535	C06	ピット	18	18	13			
2536	C06	ピット	16	16	15			
2537	C06	ピット	23	21	3	古代1	古代？	
2538	D06	溝	345	20	16	近世16	近世	
2539	D06	土坑	106	35	23		近世以降	
2540	D07	ピット	33	33	9			
2541	D07	ピット	22	22	5			
2542	D07	ピット	33	32	7			
2543	D07	ピット	21	21	12			
2544	D07	ピット	26	24	11			
2545	D07	ピット	19	19	5			
2546	D07	ピット	18	18	14			
2547	D07	ピット	18	18	16			
2548	D07	ピット	20	20	7			
2549	D07	ピット	23	20	10			
2550	D07	土坑	140	95	41			
2551	E07	ピット	17	17	14			
2553	E07	土坑	115	—	20			
2554	C09	土坑	150	125	39			
2555	B10	ピット	37	30	9	近現代15	近代	
2565	D11	ピット	45	33	—			
2566	E11	ピット	15	15	—			
2567	E08	土坑	56	45	30	近世1	近世	
2568	E08	ピット	50	48	16	古代1	古代？	
2569	E08	ピット	15	15	6			
2570	E08	ピット	35	30	22			
2571	F08	ピット	12	12	3			
2572	F08	ピット	22	22	14			
2573	F08	ピット	28	28	11			
2574	F08	ピット	15	15	3			
2575	D09	土坑	72	—	26			
2577	F08	ピット	26	26	—			
2578	F08	ピット	20	20	15			
2579	F08	ピット	22	22	24			
2580	F08	ピット	20	20	16			
2581	F08	ピット	20	20	16			
2582	F08	ピット	22	22	26			
2583	F08	ピット	16	16	18			
2584	F08	ピット	17	17	9			
2585	F08	ピット	22	22	24			
2586	F08	土坑	70	65	7			
2587	G10	ピット	22	22	10			
2588	E09	ピット	20	20	21			
2589	E09	溝	275	30	13			
2590	E09	ピット	—	30	14			
2591	D09	ピット	24	24	—			
2593	F07	ピット	30	20	40	中世5	中世	
2594	F07	ピット	30	30	45	古代2、中世5、石1	中世	
2595	F07	ピット	22	22	6			
2596	F07	ピット	22	20	8			
2597	F07	ピット	33	30	45	中世1	中世？	

遺構番号	グリット	種別	長軸	短軸	深さ	出土遺物	時代	備考
2598	E07	ピット	17	17	14			
2599	E06	ピット	30	30	14			
2600	C06	土坑	125	98	50	古代1、近世1	近世？	
2601	D06	溝	185	25	20	古代1	古代	
2602	F07	ピット	30	30	4			
2603	F07	ピット	18	18	3			
2604	C06	ピット	22	18	16			
2605	C04	ピット	28	26	21			
2606	C04	ピット	—	35	12			
2607	C04	ピット	23	23	7			
2608	D04	ピット	15	15	34			
2609	D05	ピット	45	35	33			
2610	D05	ピット	—	28	25			
2611	D05	ピット	40	35	40	古代2	古代	
2612	E07	ピット	33	26	9			
2613	E07	ピット	—	18	2			
2614	E07	ピット	—	27	5			
2615	D07	ピット	23	20	14			
2616	D07	ピット	20	18	4			
2617	C06	ピット	25	16	40			
2618	B07	ピット	25	18	15			
2619	B07	ピット	28	25	26			
2620	A07	ピット	30	30	27			
2621	D10	ピット	24	24	22			
2622	C10	ピット	24	20	15			
2625	F08	ピット	25	23	42			
2626	F07	ピット	20	20	4			
2627	F07	ピット	20	20	5			
2628	F07	ピット	14	12	6			
2629	F07	ピット	18	15	5			
2630	F07	ピット	18	15	6			
2631	F07	ピット	14	14	4			
2632	F07	ピット	20	18	7			
2633	F07	ピット	20	20	20			
2634	G11	土坑	60	40	11			
2635	F09	ピット	26	26	16			
2636	F07	ピット	15	13	17			
2637	F07	ピット	30	30	20			
2638	F06	ピット	45	28	21			
2643	E08	ピット	17	17	—			
2644	E08	ピット	16	16	8			
2645	E08	ピット	25	20	—	近世1	近世	
2647	E09	ピット	30	25	13			
2648	E09	ピット	13	11	18			
2650	F08	ピット	—	37	—			
2652	A08	住居跡	—	—	0	古代5	古代	
2653	A08	ピット	15	13	13			
2655	A08	ピット	23	23	—			
2656	B08	ピット	18	18	5			
2657	B08	ピット	21	21	15			
2658	B08	ピット	25	23	6			
2672	B07	土坑	70	60	10			
2673	B07	ピット	27	25	8			
2674	B07	ピット	23	—	36			
2677	C05	住居跡	—	—	2	古代187、近世141、分類不能1	古代	
2680	C05	ピット	40	35	36	古代10	古代	
2682	C05	ピット	23	20	27			
2685	C06	ピット	34	34	16			
2686	C06	ピット	63	43	4	古代1	古代？	
2692	D04	ピット	20	18	5			
2693	D04	ピット	30	27	8			
2695	D04	ピット	46	27	6	中世2		
2699	E06	土坑	63	60	10			
2700	E06	土坑	118	110	20			
2701	F06	ピット	26	25	24			
2702	F06	土坑	92	—	36			
2704	D08	ピット	20	20	15			
2705	C08	ピット	30	20	17			
2708	F08	ピット	30	30	47	中世1	中世	
2709	F08	ピット	—	30	—		中世以前	
2710	G08	ピット	17	15	15	古代1	古代	
2711	G08	ピット	20	20	14			
2712	F09	ピット	36	31	52			
2713	F09	ピット	33	30	36	古代1	古代？	
2714	F09	ピット	15	13	—			
2715	G09	ピット	13	13	3			
2716	G09	ピット	25	25	30			
2717	G09	ピット	24	19	4			
2718	G10	ピット	30	27	20			
2719	G10	ピット	14	14	12			
2720	G10	ピット	15	15	10			
2721	F10	ピット	15	13	21			
2722	F12	ピット	27	27	30			
2753	C10	ピット	16	16	8			
2754	E05	ピット	10	10	3			
2755	E05	ピット	26	23	6			
2756	E05	ピット	16	13	6			
2757	A08	ピット	22	22	4			
2758	E11	ピット	20	20	18			
2759	E11	ピット	30	30	16			
2760	E11	ピット	48	48	15			

遺構番号	グリット	種別	長軸	短軸	深さ	出土遺物	時代	備考
2761	F11	ピット	32	24	20			
2762	F11	ピット	18	18	9			
2763	F11	ピット	18	18	4			
2764	F11	ピット	16	16	17			
2765	F11	ピット	25	21	14			
2766	F11	ピット	15	15	14			
2767	F08	ピット	15	15	8			
2768	E05	溝	140	40	24			
2772	C06	ピット	18	18	16			
2773	C06	ピット	25	18	7			
2774	C06	ピット	8	6	5			
2775	E05	ピット	20	18	4			
2776	C11	ピット	18	15	9			
2777	E07	ピット	48	46	22	古代1	古代？	
2779	B07	ピット	22	17	12			
2780	B07	ピット	17	17	27	古代2	古代	
2781	A07	ピット	14	14	11			
2783	E11	溝	375	45	38	古代1		
2784	F08	ピット	45	35	—	古代3、中世3	中世	
2785	F08	ピット	27	—	—		中世以前	
2786	F08	ピット	—	23	—	古代1	古代？	
2790	C06	ピット	18	15	—			
2798	D03	ピット	30	33	—			
2809	D04	ピット	50	42	18			
2873	F08	ピット	20	18	15			
2874	D08	ピット	18	15	5			
2875	F08	ピット	15	13	10			
2880	F08	ピット	28	25	—		中世以降	

B区

遺構番号	グリット	種別	長軸	短軸	深さ	出土遺物	時代	備考
3001	I08	住居跡	—	445	16	古代377、中世2、石2、金属1	古代	
3002	I08	住居跡	350	335	28	古代201、石3	古代	
3003	I08	ピット	30	30	12	古代2	古代	
3004	I08	ピット	48	44	12	古代8	古代	
3005	H06	溝	1,010	130	30	古代28、中世2、近世3	古代？	
3006	G05	溝	530	250	35	古代19、中世2、石2	古代？	
3007	H05	ピット	22	22	14			
3008	H05	ピット	22	22	18			
3009	H05	ピット	50	45	18	古代4	古代	
3010	H06	ピット	20	18	18	古代1	古代	
3011	H06	ピット	25	23	14			
3012	H06	ピット	42	42	36	古代3	古代	
3014	H06	ピット	20	20	28	古代8	古代	
3015	H06	ピット	30	27	20			
3016	H06	ピット	17	17	16			
3017	H06	ピット	25	25	66	古代3、中世1	古代？	
3018	H07	ピット	15	15	24			
3019	H07	ピット	29	29	52	古代3	古代	
3020	H07	ピット	21	21	40	古代4	古代	
3021	H07	ピット	15	15	34			
3022	H07	ピット	30	30	34	古代2	古代	
3023	H07	ピット	15	15	36			
3024	H07	土坑	157	46	37			
3025	H07	ピット	17	17	12			
3026	H07	ピット	30	20	12			
3027	H07	ピット	27	25	10			
3028	H07	ピット	42	37	50	古代4	古代	
3029	H07	ピット	15	15	8			
3030	H07	ピット	19	19	14			
3031	H07	ピット	34	34	38	古代4	古代	
3032	H07	ピット	27	27	30			
3033	H08	ピット	28	25	34	古代4	古代	
3034	H08	ピット	19	19	12			
3035	H08	ピット	34	30	36			
3036	I08	ピット	10	10	26			
3037	I08	ピット	8	8	8			
3038	I08	ピット	12	12	13	古代8	古代	
3039	I08	ピット	15	15	10			
3043	I09	溝	485	75	19			
3044	I09	ピット	20	20	36	古代1	古代	
3045	I09	ピット	22	22	52	石1		
3046	I09	ピット	15	12	38			
3047	I09	ピット	20	20	52	中世1	中世？	
3048	H08	ピット	35	—	42			
3049	H07	ピット	35	—	30	石1		
3050	H07	ピット	15	—	24			
3051	H07	ピット	35	—	34	古代3	古代	
3052	H06	土坑	120	—	63			
3053	H06	溝	100	25	7			
3056	H06	溝	125	50	8			
3057	I09	ピット	15	15	40			
3058	I09	ピット	17	15	12			
3061	F03	ピット	30	—	38	古代1	古代	
3063	F02	ピット	35	35	38	古代4	古代	
3064	F02	ピット	40	40	28			
3065	F02	ピット	35	32	12			
3066	F02	ピット	20	20	23			
3069	F02	ピット	45	37	22			
3070	F02	ピット	25	16	16			
3071	F03	ピット	20	15	8			
3072	F03	ピット	20	15	12			

遺構番号	グリット	種別	長軸	短軸	深さ	出土遺物	時代	備考
3073	F03	ピット	20	20	12			
3074	F03	ピット	22	20	12			
3075	F03	ピット	15	15	14			
3076	F03	ピット	15	15	4			
3078	F03	ピット	20	20	18			
3079	F03	ピット	20	20	16			
3080	F02	ピット	32	25	12			
3081	G02	ピット	40	30	26			
3082	G02	ピット	50	47	22	古代3	古代	
3083	G02	ピット	37	35	32	古代3	古代	
3084	G02	ピット	20	15	10	古代1	古代	
3085	G03	ピット	25	22	22			
3086	G03	ピット	24	24	18			
3087	G02	ピット	24	24	22			
3088	G03	ピット	35	35	36	古代1	古代	
3089	G03	ピット	20	20	16	古代1	古代	
3090	G03	ピット	45	40	30			
3091	G03	ピット	22	22	16			
3092	G03	ピット	32	30	18			
3093	G03	ピット	30	30	24	古代1	古代	
3094	G03	ピット	20	16	14			
3095	G03	ピット	40	35	12			
3096	G03	ピット	15	15	12			
3097	G03	ピット	12	12	24			
3098	G03	ピット	27	24	28	古代2	古代	
3099	G03	ピット	40	30	18	古代2	古代	3124と遺物接合
3100	G03	ピット	17	15	24			
3101	G03	ピット	15	15	22			
3102	G03	ピット	25	25	20	古代1	古代	
3103	G03	ピット	25	22	16			
3104	G03	ピット	30	25	20	古代4	古代	
3105	G03	ピット	35	35	12	古代2	古代	
3106	G03	ピット	25	25	30	古代3	古代	
3107	G03	ピット	37	28	22	古代1	古代	
3108	G03	ピット	25	25	20	古代1	古代	
3109	G03	ピット	20	20	12	古代1	古代	
3110	G03	ピット	27	27	15	古代1	古代	
3111	G03	ピット	35	30	36			
3112	G03	ピット	25	25	18	古代1	古代	
3113	G03	ピット	40	30	26			
3114	G03	ピット	9	9	12			
3115	F03	ピット	12	12	12			
3116	G03	ピット	11	11	10			
3117	G03	ピット	9	9	12			
3118	G04	ピット	20	20	14			
3119	G04	ピット	10	10	14	古代1	古代	
3120	G04	ピット	25	22	32	古代1	古代	
3121	G04	ピット	28	25	28			
3122	G04	溝	155	95	70			3124に接続
3123	G03	土坑	162	—	24	古代25、中世1	古代	
3124	G03	溝	270	125	34	古代99、石1	古代	3122に接続、3099と遺物接合
3125	G03	ピット	15	13	10			
3126	G03	土坑	155	110	37	古代5	古代	
3127	G03	土坑	135	36	27	古代12	古代	
3128	G03	ピット	23	20	16			
3129	G03	土坑	340	125	65			
3130	G02	溝	510	115	21		古代	3131に接続
3131	G02	溝	275	35	22	古代6、中世1	古代	3130に接続
3132	F02	溝	418	55	15	古代1	古代	
3133	F02	溝	575	75	18	古代11	古代	
3134	F03	ピット	22	15	22			
3135	F02	溝	1,075	70	56	古代10	古代	
3136	F03	ピット	22	20	8			
3137	F03	ピット	15	15	12			
3138	F02	ピット	25	23	—			
3139	G02	ピット	35	35	18		古代以降	
3140	G03	ピット	20	20	12			
3144	I09	ピット	17	17	20			
3145	G05	ピット	17	10	20			
3146	H06	ピット	25	—	14			
3147	I09	ピット	12	—	12			
3148	I09	ピット	30	—	22			
3150	H06	ピット	27	25	14	古代16	古代	3171と遺物接合
3151	H06	ピット	23	23	13			
3152	H06	ピット	20	20	—	古代3	古代	
3154	H06	ピット	30	30	45	古代3	古代	
3155	H06	ピット	32	32	32	古代1	古代	
3156	I07	住居跡	—	340	40	古代288、石1	古代	
3157	H06	ピット	23	23	8			
3158	H06	土坑	90	79	28	古代12	古代	
3159	H06	住居跡	—	—	18	古代9、石1	古代	
3160	I07	土坑	280	—	12	古代3	古代	
3161	H07	土坑	85	80	22			
3162	H07	ピット	48	40	25			
3163	H07	ピット	15	15	5			
3164	H07	ピット	45	45	35			
3166	I07	ピット	20	20	35			
3167	I07	ピット	44	—	53	古代1	古代	
3168	I07	ピット	37	37	35	古代2	中世？	
3170	H07	土坑	264	214	14	古代47、中世32、石2	中世	
3171	H07	ピット	36	32	20	古代1	古代	3150と遺物接合

遺構番号	グリット	種別	長軸	短軸	深さ	出土遺物	時代	備考
3172	I07	ピット	28	—	46			
3174	I07	ピット	30	30	15	古代1	古代？	
3175	I07	ピット	30	—	12			
3176	I07	ピット	14	14	8			
3177	I07	ピット	17	17	10			
3178	I07	ピット	53	40	42	古代14	古代	
3179	I07	ピット	24	24	20			
3180	I07	ピット	25	25	25	古代1、中世1	古代？	
3181	I07	ピット	24	24	14			
3182	I07	ピット	30	30	20			
3183	I08	ピット	40	36	31	古代6	古代	
3184	I08	ピット	44	34	34	古代6、中世1	古代	
3185	I08	土坑	265	110	16	古代82、近世1、石1、金属1	古代	
3186	I08	土坑	80	69	24	古代9	古代	
3192	I09	ピット	22	22	30			
3193	I09	ピット	21	21	49	古代3	古代	
3194	I09	ピット	26	20	8			
3195	I09	ピット	18	18	33	古代1	古代	
3197	I09	住居跡	—	—	28	古代356、近世1、石1、金属2	古代	
3198	I09	土坑	95	78	8	古代5、中世1	古代？	
3201	I10	ピット	18	18	12			
3202	J10	溝	295	75	13			
3203	J10	溝	305	105	17	中世1	中世？	
3205	I07	ピット	18	18	7	古代2	古代	
3206	H07	ピット	34	25	20	中世1	中世	
3207	I07	ピット	13	—	10			
3210	I07	ピット	20	20	19			
3211	H04	ピット	20	—	3			
3212	H04	ピット	42	33	15			
3213	G04	ピット	20	—	9			
3214	H04	ピット	25	25	15	古代1	古代	
3215	H04	ピット	20	20	21			
3216	G04	ピット	20	18	12			
3217	G04	ピット	15	15	9			
3218	G04	ピット	20	20	24	古代1	古代	
3219	G04	ピット	25	20	8	古代2	古代	
3220	G03	ピット	17	17	16			
3221	G03	ピット	25	25	25			
3222	H03	ピット	23	23	30			
3223	H04	ピット	22	—	15			
3224	H04	溝	375	105	14	古代2	古代	
3225	G03	ピット	18	18	15			
3226	G03	ピット	20	20	6			
3227	G03	ピット	30	30	26			
3228	G02	ピット	22	20	18			
3229	G03	ピット	42	40	36	古代2	古代	
3230	G03	ピット	40	34	38			
3231	G02	ピット	15	10	18			
3232	G02	ピット	30	30	24			
3234	G02	溝	520	65	33	古代7	古代	
3235	G02	土坑	—	63	10	古代5	古代	
3236	G03	ピット	22	—	40			
3237	G03	ピット	42	—	32			
3238	G02	ピット	38	—	3			
3239	G02	ピット	22	20	14			
3240	G02	ピット	34	34	16			
3241	G02	ピット	23	23	5			
3242	G02	ピット	25	25	8			
3243	G02	ピット	20	20	25			
3244	G02	ピット	22	22	13			
3245	G02	ピット	18	18	9			
3248	I08	住居跡	—	—	0		古代	
3249	G02	ピット	40	40	40			
3273	I08	ピット	23	23	—	古代1	古代	
3274	G02	ピット	16	16	27			
3275	F02	ピット	35	30	25			
3276	G02	ピット	20	17	6			
3277	G02	ピット	15	12	16			
3278	H06	ピット	40	37	—			
3279	H06	ピット	25	22	13			
3280	H06	ピット	8	8	30			
3282	F02	溝	230	30	15			
3283	I07	ピット	15	12	—			
3284	I07	ピット	25	21	—			

C区

遺構番号	グリット	種別	長軸	短軸	深さ	出土遺物	時代	備考
1	G29	溝	6,195	254	60	古代17、中世18、近世455、石6、金属21、近世瓦23	近世	
2	F23	溝	1,560	225	15	古代13、中世7、石1	古代か中世	
10	G25	ピット	32	—	50			
18	F23	ピット	41	32	20			
24	E25	ピット	35	35	3	近世1	近世	
33	D23	土坑	228	212	19	中世37、石1	中世	
34	D24	住居跡	350	—	10	古代175、中世5、石1	古代	
35	E24	土坑	224	214	18	古代1、中世37、石2	中世	
37	E24	土坑	183	75	27	古代1、中世6	中世？	
38	E24	ピット	20	20	30			
40	F21	溝	360	75	17			186に接続
42	F21	土坑	151	74	33			
44	E22	溝	1,190	80	36	古代11、中世118、石1	中世	179に接続
45	E21	溝	165	35	10			64に接続
49	G22	ピット	21	21	16			

遺構番号	グリット	種別	長軸	短軸	深さ	出土遺物	時代	備考
50	G22	ピット	24	22	23			
51	G23	土坑	72	61	17			
53	G23	土坑	55	50	14			
54	G23	ピット	29	25	15	弥生10	弥生	
55	G23	土坑	—	—	7			
57	G23	ピット	30	27	17			
58	G22	井戸	244	216	188	中世6、木10	中世	
59	G22	土坑	—	68	26			
60	G22	土坑	105	100	33			
62	F22	土坑	362	296	9	古代4、中世24、石1	中世	
64	E22	溝	790	35	9			45に接続
65	E23	ピット	80	75	78	中世1	中世	SH1
66	F25	ピット	—	—	20			
68	E23	ピット	18	—	5			
69	E23	ピット	70	65	56	中世5	中世	SH1
70	E23	ピット	27	19	15			
71	E23	ピット	28	28	5			
72	E23	土坑	80	55	17			
73	E23	ピット	15	15	10			
74	E23	ピット	17	17	12			
75	E23	ピット	22	—	4			
76	E23	ピット	41	41	24			
77	E23	ピット	35	32	19			
78	E23	ピット	13	11	22			
79	E23	ピット	12	12	26			
80	E23	土坑	65	45	16			
81	E23	ピット	12	—	14			
82	E23	ピット	33	—	33	古代1	古代	
83	E23	ピット	30	—	28			
84	E23	ピット	15	15	—			
85	E23	ピット	90	80	42	中世1	中世	SH1
86	E23	ピット	82	82	100	古代1		SH1
87	F22	ピット	55	—	16			SH2
88	F23	ピット	10	10	—			
89	F23	ピット	35	30	—			
90	F23	ピット	12	12	9			
91	F23	ピット	23	21	32			
92	F23	ピット	14	14	10			
93	F23	ピット	23	21	7			
94	F23	ピット	33	23	6			
95	F23	ピット	20	18	17			
96	F23	ピット	22	17	18	近世1		
98	F23	ピット	20	20	—			
99	F23	ピット	20	19	23			
100	F23	土坑	103	65	2			
101	F23	ピット	35	32	12			
102	F23	ピット	18	16	6			
103	F23	ピット	17	15	—			
104	E24	土坑	140	98	12	古代4、中世23、近世2	中世	
105	E23	ピット	22	22	11	中世2	中世	
106	E23	ピット	25	23	13			
107	E24	ピット	15	15	—			
108	E24	ピット	10	10	—			
109	E24	ピット	10	10	—			
110	E24	ピット	20	20	11	古代1	古代？	
111	E24	ピット	10	10	—			
112	E24	ピット	15	15	11			
113	E24	ピット	10	10	12			
114	E24	ピット	45	38	6	中世2	中世	
115	E24	ピット	30	—	10			
116	E24	ピット	10	10	7			
117	E24	ピット	—	—	13			
118	E24	ピット	20	18	3			
119	E24	ピット	15	15	4			
121	E24	土坑	70	65	8	中世2、近世1		
122	E24	ピット	37	—	11			
123	E24	ピット	30	30	19			
124	E24	ピット	30	—	13	中世1	中世	
125	E24	ピット	35	35	12	中世1		
126	E24	ピット	25	25	21			
127	E24	ピット	28	24	18			
128	E24	ピット	30	—	22	中世5	中世	
129	E24	ピット	12	12	11			
130	D24	ピット	22	—	9			
131	E24	ピット	27	25	17			
132	D24	ピット	42	30	8			
133	D24	ピット	31	31	7			
134	D24	ピット	20	20	10			
135	D24	ピット	30	28	8			
136	D24	ピット	50	—	21	古代1	古代	
137	D24	ピット	40	38	17	中世2	中世	
138	D24	ピット	10	10	10			
139	D24	ピット	20	20	7			
140	D24	ピット	28	25	8			
141	D24	ピット	44	34	16	中世1	中世	
142	D24	ピット	10	10	—			
143	D24	ピット	22	13	—			
144	D24	ピット	32	30	7			
145	D24	ピット	15	10	5			
146	D24	ピット	26	24	12			
147	D24	ピット	17	17	9			

遺構番号	グリット	種別	長軸	短軸	深さ	出土遺物	時代	備考
148	D24	ピット	28	26	23	中世1	中世	
150	D24	ピット	21	—	14			
151	D24	ピット	19	19	8			
152	D23	ピット	18	18	10			
153	D24	ピット	12	12	3			
154	D24	ピット	20	20	30			
155	D24	ピット	31	28	18			
156	D24	ピット	40	38	22			
157	D23	ピット	40	28	20			
159	D24	ピット	16	16	3			
160	D23	ピット	23	23	14			
161	D23	ピット	18	16	15			
162	D23	ピット	19	19	5			
163	D23	ピット	23	20	10			
164	D23	ピット	24	24	10			
165	D23	ピット	19	19	5			
166	G26	溝	655	60	19			
167	G26	ピット	24	18	4			
168	G26	溝	300	75	8			
169	G26	溝	400	60	12			
170	G26	ピット	23	18	7			
171	G26	溝	1,140	143	33	古代5、中世7、近世9	近世？	
172	G26	溝	590	64	16	中世1、近世2	近世	
173	G26	溝	660	61	16			
174	G26	土坑	130	115	17	古代4、中世4	中世	
178	D22	溝	1,190	80	32			
179	D22	特殊	434	370	46	古代26、中世107、近世4、石3	中世	279と遺物接合、44に接続
180	D22	ピット	30	30	40			
181	D22	ピット	25	25	10			
182	D22	ピット	23	23	10			
185	C23	溝	85	35	5			
186	C22	溝	1,735	180	43	古代3、中世41、近世4	中世か近世	40に接続
187	C23	ピット	58	46	40			
191	C23	ピット	24	24	9			
192	C23	ピット	26	19	13			
194	C23	ピット	40	40	16			
195	C23	ピット	38	40	40			
196	C23	ピット	33	33	21			
197	C23	ピット	18	18	9			
198	C23	ピット	25	20	12			
199	C23	ピット	33	26	11			
200	C23	ピット	25	—	25			
202	C23	ピット	27	27	25			
203	C23	ピット	17	11	23			
204	C23	ピット	10	10	9			
205	C23	ピット	21	21	12			
206	E22	土坑	113	74	11			
207	C23	ピット	20	20	18			
208	C23	土坑	101	70	21			
209	C22	ピット	37	29	28			
210	C22	ピット	25	25	14			
211	C22	ピット	35	29	13			
212	C22	ピット	25	23	18	中世1	中世	
213	C23	ピット	41	41	20			
214	C23	ピット	25	25	20			
215	C22	ピット	30	30	9			
216	C22	ピット	25	23	24			
217	C22	ピット	27	25	10			
218	C22	ピット	20	20	7			
219	C22	ピット	21	20	10			
220	C22	ピット	28	25	12			
221	C22	ピット	25	23	24			
222	C22	ピット	14	14	10			
223	C23	ピット	23	20	27			
224	C23	ピット	15	15	12			
225	C23	ピット	29	27	30	中世1	中世	
226	C23	ピット	21	21	10	中世1	中世	
227	C23	ピット	30	28	18	中世1	中世	
228	C23	ピット	36	34	27	中世2	中世	
229	C23	ピット	—	—	50			
230	C23	ピット	20	18	6			
231	C22	ピット	21	21	15			
232	C22	ピット	47	39	26			
233	C22	ピット	20	20	18			
234	C22	土坑	73	64	18	中世1	中世	
235	C22	ピット	15	15	—			
236	D22	ピット	25	25	12			
237	D22	ピット	19	17	6			
238	C22	ピット	58	50	12			
239	D22	ピット	37	36	10			
241	D22	ピット	24	24	9			
242	D22	ピット	28	28	8			
243	D22	ピット	25	25	13			
244	D22	ピット	21	21	8			
245	D22	ピット	31	31	12			
246	D22	ピット	25	23	5			
247	D22	ピット	11	11	6			
248	D22	ピット	17	16	10			
249	D22	ピット	20	20	11	中世1	中世	
250	D22	ピット	19	19	12			
251	D22	ピット	19	17	12			

遺構番号	グリット	種別	長軸	短軸	深さ	出土遺物	時代	備考
252	D22	ピット	21	21	9			
255	D22	ピット	31	25	3			
256	D22	ピット	22	20	11			
257	E22	ピット	24	24	6			
258	D23	ピット	22	22	18	中世1	中世	
259	D23	ピット	50	42	24	中世2	中世	
260	D23	ピット	22	22	10			
261	D23	ピット	29	29	40			
262	D23	ピット	35	32	25	中世1	中世	
263	D23	ピット	21	—	45			
264	D23	ピット	31	31	38			
265	D23	ピット	32	32	22	中世1	中世	
266	D23	ピット	22	22	30			
267	D23	ピット	26	26	15	中世1	中世	
268	D23	ピット	36	—	60	中世1、金属1	中世	
269	D23	ピット	32	32	40		中世以降	
270	D23	ピット	26	24	22	中世1、近世2	近世	
271	D23	ピット	56	50	13			
272	D23	ピット	34	32	15			
273	D23	ピット	33	33	34			
274	D23	ピット	60	40	40			
275	D23	ピット	31	31	—			
276	D23	ピット	33	33	23	中世2	中世	
277	D23	ピット	40	40	15	中世3	中世	
278	D23	ピット	19	19	13			
279	D23	ピット	29	27	36	中世1	中世	179と遺物接合
281	D23	ピット	20	20	10			
282	D23	ピット	17	15	10			
283	D23	ピット	21	21	7			
284	D23	ピット	25	25	17			
285	D23	ピット	23	21	15			
286	D23	ピット	20	20	2			
287	D23	ピット	26	26	—			
288	D22	ピット	29	29	15			
289	D22	ピット	11	11	7			
290	D22	ピット	28	20	13			
291	E23	ピット	21	21	16	中世1	中世	
292	E23	ピット	11	11	6			
293	E23	ピット	10	10	6			
294	E23	ピット	15	15	6			
295	E22	ピット	27	25	8	古代1		
296	E22	ピット	21	19	2			
297	E22	ピット	22	15	4			
298	E22	ピット	50	48	7			
299	E22	ピット	23	23	11			
300	E22	ピット	22	11	12			
301	E22	ピット	80	78	82	中世1	中世	SH1
302	E23	ピット	33	26	13			
303	E22	溝	720	45	8			
304	E22	土坑	120	110	19	中世4	中世	
305	E22	ピット	85	83	84			SH1
306	E22	ピット	20	20	90			
307	E22	ピット	23	21	26	中世1	中世	
308	E22	ピット	20	19	14			
309	E22	ピット	48	40	10			
310	E22	ピット	24	23	6			
311	E22	ピット	42	38	18			SH2
312	E22	ピット	34	34	18	中世1	中世	SH2
313	E22	ピット	27	25	17			
314	E22	ピット	27	25	6			
315	E22	ピット	45	36	8	中世1	中世	
316	E22	ピット	19	—	11			
317	E22	ピット	51	34	16	中世2	中世	
318	E22	ピット	65	40	16			SH2
320	E22	ピット	35	35	33			
321	F22	ピット	27	27	24			SH2
322	E22	ピット	17	15	9			
323	F22	ピット	40	40	12			SH2
324	F22	ピット	25	23	—			
325	F22	ピット	26	26	—			
327	F22	ピット	23	23	7			
329	F23	ピット	22	22	—			
330	F23	ピット	20	15	—			
331	F23	ピット	17	17	—			
333	F23	ピット	19	19	—			
334	F23	ピット	17	17	—			
335	F23	ピット	15	15	35			
336	F23	ピット	18	18	—			
337	F23	ピット	30	20	22			
338	F23	ピット	15	13	—			
339	F23	ピット	15	15	—			
340	F23	ピット	15	13	20			
341	F23	ピット	30	28	—			
342	F23	ピット	15	15	—			
343	F23	ピット	12	12	—			
344	F23	ピット	30	30	—			
345	F23	ピット	35	28	10			
346	F23	ピット	20	20	—			
347	F24	ピット	18	18	—			
348	F24	ピット	34	34	20			
349	F23	ピット	25	25	—			

遺構番号	グリット	種別	長軸	短軸	深さ	出土遺物	時代	備考
350	F23	ピット	15	—	10			
351	F24	ピット	30	30	—			
352	F24	土坑	100	65	39			
353	F24	ピット	53	50	13			
354	F23	ピット	27	27	15			
355	F23	ピット	24	20	7			
356	E23	ピット	40	30	30			
357	E23	ピット	25	25	32			
358	E23	ピット	33	33	39	中世2	中世	
359	E23	ピット	35	35	36	中世3	中世	
360	F23	土坑	184	40	48			
361	F24	ピット	35	35	23	中世2	中世	
363	E24	ピット	40	25	—			
364	E24	ピット	20	20	17			
365	E24	ピット	25	22	17			
367	E24	ピット	30	24	21			
368	E24	ピット	23	15	2			
369	E24	ピット	24	14	—			
370	E24	ピット	55	45	17	中世6	中世	
371	E24	ピット	34	30	21	分類不能1		
372	E24	ピット	20	20	23			
373	E24	ピット	30	—	2			
374	E24	ピット	20	20	2			
375	F24	ピット	15	15	—			
376	F24	ピット	34	27	—			
377	F24	ピット	20	—	28			
378	F24	ピット	21	21	—			
379	F24	ピット	15	15	16			
380	F24	ピット	27	27	38			
381	F24	ピット	15	12	21			
382	F24	ピット	12	12	—			
383	F24	ピット	25	25	21			
384	F24	ピット	17	17	—	中世1	中世	
385	F24	ピット	30	30	36			
386	F24	ピット	17	17	—			
387	F24	ピット	30	23	—	中世1	中世	
388	F24	ピット	30	23	—		中世以前	
389	F24	ピット	17	17	—			
390	F24	ピット	15	15	—			
391	F24	ピット	26	26	22	古代1		
392	E24	ピット	25	25	14			
393	E24	ピット	35	—	32		中世以前	
394	E24	ピット	17	17	10	中世3	中世	
395	E24	ピット	20	18	13			
396	F24	ピット	31	27	30			
397	F24	ピット	17	15	—			
398	G27	溝	2,355	45	6	中世1		
399	F24	ピット	40	40	28			
400	E24	ピット	40	35	16			
401	E24	溝	310	30	12		中世以前	
402	E24	ピット	43	30	22	中世4	中世	
403	E24	ピット	18	15	14			
404	E24	ピット	—	—	6			
405	E24	ピット	10	—	9			
406	E24	ピット	35	30	27			
407	E24	ピット	25	25	12	中世2	中世	
408	E24	ピット	40	38	8	古代1	古代？	
409	E24	ピット	30	30	24			
410	E24	ピット	20	20	4			
411	E24	ピット	24	24	12			
412	E24	ピット	40	35	13	中世1	中世	
413	E24	ピット	43	—	18	中世3	中世	
414	E24	ピット	25	23	12			
415	E24	ピット	45	45	25	中世4	中世	
416	E24	ピット	30	28	19	古代1	古代？	
417	E24	ピット	33	33	16	古代1	古代？	
418	E24	ピット	15	15	7	近世1	近世？	
419	E24	ピット	38	36	27			
420	E24	ピット	40	30	65	中世1	中世	
421	E24	ピット	45	23	65			
422	E24	ピット	27	—	13			
423	E24	ピット	23	23	12	中世1		
424	E24	ピット	15	—	9			
425	E24	土坑	83	75	53	古代2、中世3、近世2		
426	E24	土坑	—	115	11	中世1	中世	
427	E24	住居跡	—	302	14	古代180	古代	
428	E24	ピット	40	20	18			
428-2	E24	ピット	24	24	—			
431	E24	ピット	24	20	18			
432	E25	ピット	30	30	26	古代1		
433	E24	溝	260	40	16	中世7	中世	
434	E24	ピット	35	30	16			
434-2	E24	ピット	26	—	14			
435	E24	ピット	42	40	70	中世1		
436	E24	ピット	20	—	22			
437	E24	ピット	—	30	42	中世1	中世	
438	E25	ピット	50	45	18			
439	E25	ピット	15	13	—			
440	E25	ピット	20	20	20			
441	E25	ピット	68	68	14	中世2	中世	
442	E25	ピット	25	25	10	石1	中世以前	

遺構番号	グリット	種別	長軸	短軸	深さ	出土遺物	時代	備考
443	E25	ピット	23	23	8			
444	E25	ピット	18	18	12			
445	E25	ピット	30	28	37			
446	E25	ピット	25	25	24			
447	E25	ピット	50	50	13			
448	E24	土坑	318	302	18	古代7、中世32、近世1	中世	
451	E25	ピット	20	28	8	古代1、中世1	中世？	
452	E24	ピット	25	25	16			
453	E24	ピット	28	—	15			
454	E24	ピット	12	12	16			
455	E25	ピット	35	32	23	中世4	中世	457と遺物接合
457	E25	ピット	18	14	14	中世1	中世	455と遺物接合
458	E25	ピット	10	10	2			
459	E25	ピット	56	35	5			
460	F25	ピット	55	40	—	中世1	中世	
461	F25	ピット	25	—	—			
464	F24	ピット	25	23	55			
465	F24	ピット	20	15	15			
470	F25	住居跡	414	—	16	古代94、木1	古代	
471	F25	ピット	55	53	10			
472	F25	ピット	35	35	9	古代1、中世1		
473	F25	ピット	45	—	3			
474	E25	土坑	240	115	25		近世以前	
475	F25	ピット	45	45	30			
476	F25	土坑	75	70	3			
477	E25	土坑	125	80	3			
478	E25	溝	75	20	6			
480	E25	ピット	15	15	17			
481	E25	ピット	35	33	2			
482	E25	ピット	24	23	9			
483	E25	ピット	10	10	8			
484	E25	ピット	14	14	4			
485	E25	ピット	30	30	34			
486	E25	ピット	18	17	9			
488	E25	ピット	33	31	9			
489	E25	ピット	42	40	16			
490	E24	溝	75	25	8			
491	E24	ピット	35	30	8			
492	D24	ピット	15	15	13			
493	D24	ピット	25	25	15			
494	D24	ピット	28	26	26			
496	F24	ピット	16	13	7			
497	E21	ピット	25	25	—			
498	E21	ピット	25	—	—			
499	E23	ピット	68	60	70	古代1、中世6、石2、木1	中世	SH1
500	F24	土坑	240	115	14			
504	F24	溝	370	20	5	古代4、中世1		
506	G24	溝	1,170	105	15	古代16、中世4、石3	中世	
507	G24	ピット	—	23	12			
508	G24	ピット	15	15	10			
509	G24	土坑	328	264	38	古代17、中世20、近世1	中世	
510	G24	土坑	—	35	6			
511	G24	ピット	46	42	12			
512	G24	ピット	24	22	6			
513	G24	ピット	30	28	27			
514	G24	ピット	22	22	26			
521	G27	溝	800	35	11	古代1、石1	近世以前	
524	E25	土坑	—	35	11			
525	H22	ピット	22	20	26	近世1	近世	SH8
526	H22	ピット	23	21	26			SH8
527	H23	ピット	28	20	38			SH8
528	H23	ピット	21	19	18			SH8
529	H23	ピット	20	17	—			
530	I23	ピット	69	60	14			
531	I23	ピット	22	20	22			
532	I23	ピット	23	21	18			
533	I23	ピット	22	22	18			
534	I23	ピット	27	27	25			
535	H23	ピット	61	59	15			
536	H23	ピット	22	22	16			
537	H23	ピット	21	21	22			
538	H23	ピット	45	40	15			
539	H23	ピット	41	41	35	古代1、石1		
540	H23	ピット	42	25	9			
541	H23	ピット	25	25	13			
542	H23	溝	1,065	20	14			607に接続
545	D23	ピット	25	23	40	金属1	中世以前	
546	H23	ピット	25	20	7			
547	H23	ピット	23	23	8			
548	H23	ピット	32	32	15			
549	H23	ピット	16	15	6			
550	H23	ピット	15	15	4			
551	H23	ピット	23	23	6			
552	H23	ピット	17	17	9			
553	G23	ピット	27	27	7			
554	G23	ピット	41	38	28			
555	G23	ピット	30	28	26			
556	G23	ピット	24	22	19			
557	G23	ピット	18	—	11			
558	H23	ピット	18	18	10			
559	H23	ピット	17	17	14			

遺構番号	グリット	種別	長軸	短軸	深さ	出土遺物	時代	備考
563	H23	ピット	17	17	10			
564	H23	ピット	17	16	13			
565	H23	ピット	23	23	6			
566	H23	ピット	20	17	12			
567	H23	ピット	21	19	15			
568	H23	ピット	22	22	23			
569	H23	ピット	24	19	15			
570	H23	ピット	28	25	12	中世2	中世	
571	H23	ピット	30	28	18			
572	G25	溝	785	70	21	古代1、中世6、近世2、近現代1	中世？	802に接続
576	F25	土坑	103	77	17	古代7、中世2、近世2	近世	
577	F25	溝	640	60	17	古代2、中世1	近世以前	580に接続
578	G25	井戸	292	276	246	古代5、中世11、木23、近現代1	中世	
580	G25	溝	400	60	3	古代2、中世1、石1	中世？	577に接続
581	F25	ピット	19	15	11			
585	F25	ピット	34	34	25			
586	F25	ピット	43	35	21			
589	F25	ピット	19	16	14			
591	F25	ピット	45	35	20			
592	F25	ピット	27	25	30			
593	G25	ピット	16	16	—			
594	G25	土坑	95	55	20			
597	F25	ピット	16	16	28	古代1	古代	
598	F25	ピット	20	—	8			
599	F25	ピット	22	22	9			
600	G25	ピット	32	23	24			
601	G25	ピット	17	17	—			
602	G25	ピット	21	21	—			
603	G25	ピット	20	20	—			
605	G25	土坑	98	30	8			
606	G25	土坑	—	80	15	古代3、中世3	中世	
607	H23	溝	710	95	21			542に接続
608	H25	溝	2,065	435	59	古代30、中世52、石1	中世	653と遺物接合、608-2·608-3に接続
608-2	G25	溝	645	70	20			608に接続
608-3	G25	溝	815	175	12			608に接続
609	F25	土坑	117	82	11			
610	F25	土坑	113	95	7	近世1	近世？	
611	F25	ピット	24	22	—			
612	F25	土坑	75	70	10			
613	F25	ピット	34	32	28			
614	F25	ピット	32	30	—			
615	F25	土坑	243	33	22			
616	F25	ピット	41	32	—			
617	F25	ピット	31	31	—			
618	F25	ピット	20	—	—			
619	F25	ピット	27	27	—			
620	F25	ピット	35	35	—			
621	F25	ピット	22	22	—			
622	G23	土坑	229	56	26			
623	H24	土坑	209	100	31			
624	F25	ピット	19	15	—			
625	F25	ピット	18	16	—			
626	F25	ピット	16	16	—			
627	G26	ピット	31	31	29			
628	G25	ピット	26	26	15			
629	G23	ピット	20	20	12			
630	G23	ピット	36	34	30			
631	G23	ピット	37	37	20			
632	G23	ピット	30	30	13			
633	G23	ピット	21	19	20			
634	G23	ピット	22	22	20			
635	G24	ピット	15	15	15			
636	G24	ピット	28	28	30	古代1	古代？	
637	G24	ピット	33	30	30	古代1	古代	
638	G24	ピット	18	18	17			
639	G24	ピット	23	23	20			
640	G24	ピット	20	—	27			
641	G24	ピット	16	16	10			
642	G24	ピット	16	16	20			
643	G24	ピット	22	22	15			
644	G24	ピット	19	14	12			
646	G24	ピット	41	30	30		中世以降	
647	G24	ピット	26	17	31	中世1	中世	
648	G24	ピット	34	29	16	中世1	中世	
649	H24	ピット	27	25	12			
650	H24	ピット	38	35	22			
651	H24	ピット	22	22	7			
652	H24	ピット	25	—	27			
653	H24	ピット	38	38	42	中世1	中世	608と遺物接合
654	H24	ピット	16	16	7			
655	H24	ピット	20	—	13			
656	H24	ピット	21	—	24			
657	H24	ピット	15	14	2			
658	H24	ピット	22	22	15			
659	H24	ピット	16	16	9			
660	H24	ピット	38	—	26			
661	H24	ピット	27	27	16	中世2	中世	
662	H24	ピット	23	23	18			
663	H24	ピット	18	18	12			
664	H24	ピット	24	24	20			
665	H24	ピット	19	19	14			

遺構番号	グリット	種別	長軸	短軸	深さ	出土遺物	時代	備考
666	H24	ピット	34	34	25			
667	H24	ピット	19	19	9			
668	H24	ピット	26	26	18			
671	G24	ピット	23	23	14	中世1	中世	
672	G24	ピット	15	15	16			
673	G24	土坑	210	90	61	石1		
674	G24	溝	85	30	5			
675	G24	ピット	27	23	16			
676	G24	ピット	25	25	13			
677	G24	ピット	29	29	21			
678	G24	ピット	34	34	36			
680	G24	ピット	27	27	8			
681	G24	ピット	25	25	7			
682	G24	ピット	27	—	15			
683	G24	ピット	30	28	13			
684	G24	ピット	30	30	7	中世1	中世	
685	G24	ピット	24	22	13			
686	G24	ピット	17	17	18			
687	G24	ピット	30	30	14			
688	G24	ピット	30	28	16			
689	G24	ピット	13	13	12			
690	G25	溝	610	95	6	中世1、石2	中世	
697	I24	ピット	37	35	40			
698	H24	ピット	29	26	10			
699	H24	ピット	31	29	10			
700	H24	ピット	15	15	10			
701	H24	ピット	20	18	15			
702	H23	ピット	20	18	18			
703	H23	ピット	17	17	14			
704	H23	ピット	38	32	56			
705	H23	ピット	43	43	18			
706	H24	ピット	43	20	17			
707	H24	ピット	20	18	15			
708	H24	ピット	33	33	35			
709	H24	ピット	30	—	35			
710	H24	ピット	17	—	7			
711	H24	ピット	27	22	9			
712	H24	ピット	15	15	2			
713	H24	ピット	28	28	3			
715	H24	ピット	13	13	13			
716	H24	ピット	28	23	3			
717	H24	溝	450	70	21	中世2	中世	
718	H24	ピット	27	—	16			
719	H23	溝	320	20	5			
720	H23	溝	130	20	5			
721	G24	ピット	19	18	16			
722	G24	ピット	19	18	5			
723	G24	ピット	15	13	3			
724	G24	ピット	40	30	15			
725	G24	ピット	23	23	29			
726	G24	ピット	24	17	13			
727	G24	ピット	21	20	12			
728	G24	ピット	23	21	16			
729	G24	ピット	24	24	20			
730	G24	ピット	28	28	5			
731	G24	ピット	31	29	13			
732	G24	ピット	23	23	10			
733	G24	ピット	30	28	17			
734	G24	ピット	29	29	10			
735	G24	ピット	21	16	—			
739	I24	溝	595	45	20	古代2	古代	
740	H25	ピット	28	—	5		中世以降	
741	H25	ピット	33	28	8		中世以降	
742	H25	土坑	290	180	20	古代1、中世2	中世	
743	H25	土坑	195	71	17		中世以降	
745	H25	土坑	135	—	26			
746	I25	溝	695	25	10	古代1	古代？	
747	I25	ピット	39	36	47			
748	I25	土坑	195	63	26			
749	I25	ピット	20	20	13			
750	I25	ピット	17	17	27			
751	I25	ピット	15	15	15			
752	I25	ピット	21	21	20			
753	I25	ピット	30	24	33	中世1	中世	
754	I25	ピット	21	14	10			
755	I25	ピット	43	43	9			
756	I25	ピット	16	14	5			
757	I25	ピット	25	23	32			
758	I25	ピット	15	15	10			
759	I25	ピット	25	16	27			
760	I25	ピット	34	26	23			
761	I25	ピット	20	18	19			
762	I25	土坑	—	45	7			
763	I25	ピット	64	50	—			
764	I25	溝	650	55	17	中世1	中世	
765	I25	溝	625	165	33	古代6、近世3、石2	近世？	
769	I25	ピット	25	18	18			
770	I25	ピット	42	42	11			
773	H25	ピット	26	24	31			
778	H25	ピット	66	27	33			
779	H25	ピット	15	15	16			

遺構番号	グリット	種別	長軸	短軸	深さ	出土遺物	時代	備考
780	H25	ピット	17	15	12			
782	H26	土坑	164	113	23			
784	I24	ピット	40	30	10	古代7、中世6	中世	
785	H25	ピット	25	24	22			
786	H26	ピット	18	18	19			
787	H25	ピット	24	20	—			
788	G27	溝	615	30	12			
789	H25	ピット	19	19	22			
790	H25	土坑	255	242	76	古代2、近世13、近世瓦1、近現代2	近世	
794	H26	溝	685	64	16	中世2	中世	
795	H26	ピット	32	23	26			
796	H26	土坑	70	60	15			
797	H26	ピット	30	24	29			
798	H26	土坑	70	65	26			
799	H26	溝	745	55	12			
800	G26	溝	260	65	9	近世1	近世？	
801	G26	土坑	—	55	4			
802	G26	溝	530	85	21	中世1	中世？	572に接続
803	G25	ピット	22	22	26	中世5	中世	
804	G25	ピット	21	18	21			
805	G25	ピット	24	20	18			
806	F25	ピット	23	18	—			
807	F25	ピット	22	22	—			
808	F26	ピット	28	28	26			
809	F26	土坑	151	64	51	古代2、中世2		
810	F26	ピット	18	18	6			
811	G25	ピット	11	6	—			
812	G25	ピット	15	12	—			
813	G25	ピット	10	8	—			
819	G25	ピット	18	14	—			
821	G26	ピット	31	31	29	古代1	古代？	
822	F26	ピット	15	13	4			
823	G26	ピット	25	23	6			
824	G26	ピット	20	20	8			
825	G26	ピット	23	21	4			
826	G26	ピット	26	26	8			
827	G26	土坑	110	100	24	古代1、中世2、近世122	近世	
828	F26	ピット	23	23	11			
829	F26	ピット	29	29	18	近世1	中世か近世	
830	H25	土坑	280	210	57			
833	G26	ピット	29	27	5			
834	H26	ピット	31	—	33			
836	H26	土坑	95	35	16			
838	H26	土坑	110	30	18			
839	H26	ピット	50	45	36	近世1、	中世か近世	
840	H26	ピット	20	20	5			
841	H26	ピット	30	26	25	近世1、金属2	中世か近世	
842	H26	ピット	30	28	19			
843	H26	溝	465	50	7	古代1	古代？	
844	H26	ピット	34	32	35			
845	G27	ピット	24	22	19			
846	G27	ピット	21	21	17			
848	H26	住居跡	—	432	20	古代169、中世4、石3	古代	
849	H27	ピット	23	23	17			
850	I27	ピット	28	28	8			
852	I27	ピット	35	35	23			
855	I26	ピット	28	28	20			
858	I26	ピット	24	23	11			
859	I26	ピット	33	33	20			
861	I27	土坑	350	90	54			
862	I26	溝	410	20	8			
863	F24	ピット	44	41	—			
865	F24	ピット	55	44	—			
866	F24	ピット	25	20	5			
867	G24	ピット	30	—	16	古代1		
868	G24	ピット	23	21	14			
871	G27	土坑	290	204	31	古代3、中世3、近世23	近世	
872	G27	土坑	67	64	35			
874	G27	ピット	30	—	28			
875	G27	ピット	23	23	12			
878	G27	ピット	35	35	17			
879	H27	ピット	48	40	35			
880	H27	ピット	13	13	31			
881	H27	ピット	25	25	13			
882	H27	ピット	22	22	20			
883	H27	ピット	16	14	8			
884	H27	ピット	25	22	20			
885	H27	ピット	32	32	25			
886	H27	ピット	30	28	3			
887	H27	ピット	26	24	5			
888	H27	ピット	20	18	7			
889	H27	土坑	66	30	12			
890	H27	ピット	33	31	12			
891	H27	ピット	20	20	8			
892	H27	ピット	26	26	16			
893	H27	ピット	20	20	21			
894	H27	ピット	17	17	6			
895	H27	ピット	16	16	6			
896	H27	ピット	26	26	11			
897	H27	ピット	21	21	38			
898	H27	ピット	26	26	17			

遺構番号	グリット	種別	長軸	短軸	深さ	出土遺物	時代	備考
900	H27	土坑	76	71	35	中世3、近世1	中世？	
901	H27	ピット	35	30	8			
904	H27	土坑	75	31	6			
905	H27	土坑	78	34	7			
906	H27	土坑	118	42	5			
907	H27	土坑	127	37	7			
908	H27	土坑	106	33	10			
909	H27	土坑	90	41	9			
910	H27	ピット	24	22	33			
911	H27	土坑	335	130	54	古代2、中世1	近世	
912	H27	ピット	50	48	8		近世以前	
913	H27	ピット	32	30	18			
914	H27	ピット	20	20	6			
915	G27	土坑	210	—	11			
916	G27	ピット	42	40	10	近世8	近世	
917	G27	ピット	45	43	40	木1		
918	G28	ピット	16	14	10			
919	G27	土坑	130	100	77			
920	G28	土坑	110	57	22			
922	G28	土坑	93	63	37			
923	G28	ピット	67	67	43			
924	G28	ピット	43	43	—			
925	G28	ピット	14	14	9			
926	G28	ピット	35	35	22			
928	G28	ピット	10	8	—			
929	G28	ピット	70	63	20	近世1	近世	
930	G28	ピット	28	28	19			
931	G28	土坑	104	90	27	近世50	近世	
932	G28	ピット	45	58	20			
933	G28	ピット	30	20	7			
934	G28	ピット	20	18	6			
935	G28	ピット	52	38	13			
936	G28	ピット	34	25	13			
937	G28	ピット	46	33	25			
938	G28	ピット	50	31	43			
939	F27	土坑	260	108	24		近世以降	
941	F28	ピット	18	18	17			
943	F28	ピット	33	33	30			
944	F28	ピット	23	20	8			
945	F28	ピット	35	29	38			
947	G28	ピット	110	35	36	近世3	近世	SH7
948	G28	ピット	52	—	15			
949	G28	ピット	32	30	10			
950	F27	土坑	—	95	34			
951	G27	土坑	138	77	24			
952	G27	溝	740	25	6			
954	F27	ピット	32	25	3			
955	F27	ピット	39	31	20			
956	G27	ピット	19	19	6			
957	F27	ピット	24	22	3			
961	F27	ピット	25	25	32			
963	G27	ピット	27	27	40			
964	G27	ピット	31	28	7			
965	G27	ピット	26	26	9			
966	G27	ピット	28	28	5			
968	G27	ピット	50	27	—			
969	G27	土坑	80	65	19		近世？	
970	G27	ピット	26	—	35	近世1	近世	
971	G27	土坑	73	66	54		近世？	
973	G27	ピット	30	25	25			
974	G27	ピット	23	21	6			
975	G27	土坑	218	189	16	近世7、分類不能3、石3	近世	
976	F28	ピット	30	30	5			
977	G27	土坑	85	75	5		近世以前	
978	G28	ピット	60	54	19	近世2	近世	
980	G28	ピット	25	25	32			SH7
981	G28	ピット	30	30	16			
982	G28	ピット	30	30	26	分類不能3		SH7
983	G28	土坑	73	65	19		近世？	
984	G28	土坑	80	90	4	近世1	近世	
985	G28	ピット	44	42	10	近世3	近世	
986	G28	ピット	26	26	9	近世1		SH7
987	G28	ピット	39	—	—			
988	G28	ピット	34	—	11			
989	G28	ピット	38	36	19			
990	G28	ピット	19	19	8			
991	F28	溝	515	25	14			
992	G28	ピット	47	46	21			
993	G27	溝	245	20	5			
994	G27	ピット	187	55	26	中世1		SH7
995	G27	ピット	17	15	8			
996	G28	ピット	23	20	17	中世1	中世？	
997	F28	ピット	51	32	20			
998	G28	ピット	15	13	19			
999	F28	ピット	27	—	18			
1001	G27	ピット	58	50	9			
1002	G27	ピット	50	40	12			
1003	G27	土坑	—	45	16			
1004	G27	ピット	42	27	14			
1005	G27	ピット	40	38	27	木1		SH7
1006	G28	ピット	32	28	—			

遺構番号	グリット	種別	長軸	短軸	深さ	出土遺物	時代	備考
1007	G28	土坑	73	53	19			
1008	G28	ピット	28	24	11			SH7
1009	G28	ピット	70	65	32			
1010	G28	ピット	55	52	9			
1011	G28	ピット	70	56	12			
1012	G28	ピット	34	34	10			
1013	I28	井戸	290	252	506	古代6、近世43、石3、金属11、木75、近世瓦36、近現代6	近世	
1014	G28	ピット	16	15	9			
1015	G28	ピット	22	20	7			
1017	G28	ピット	107	51	24	近世1	近世	SH7
1018	G28	ピット	15	15	6	中世1	中世？	
1019	G28	ピット	46	46	26			
1020	G28	ピット	26	—	2			
1021	G28	ピット	13	11	8			
1022	G28	ピット	63	61	56			
1023	G28	ピット	20	20	9			
1024	G28	ピット	24	24	15			SH7
1025	G28	ピット	12	10	6			
1026	G28	ピット	44	42	28	近世1	近世	
1027	G28	ピット	39	30	26			
1028	G28	土坑	111	67	11			
1029	G28	ピット	53	—	43			
1030	G28	ピット	25	23	8			
1031	G28	ピット	13	13	7			
1032	G28	ピット	115	57	32	近世4、木1	近世	SH7
1034	G28	ピット	42	32	16			
1035	I27	土坑	—	210	20	近世1	近世以前	
1036	G28	ピット	17	17	19			
1037	G28	ピット	32	30	38			
1038	G28	ピット	—	30	8			
1039	G28	ピット	35	—	37			
1040	G28	ピット	70	50	56			
1041	G28	ピット	18	18	5			
1042	G28	ピット	33	22	24			
1043	G28	ピット	25	23	27			
1044	G28	ピット	38	38	23			SH7
1045	G28	ピット	46	35	21	中世1	中世？	
1046	G28	ピット	14	14	6			
1047	G28	ピット	15	15	7			
1048	G28	ピット	32	32	23	金属2		
1049	G28	ピット	14	14	3			
1050	G28	ピット	51	49	32			
1051	G28	ピット	20	20	5			
1052	G28	溝	440	20	10			
1053	G28	ピット	11	11	6			
1054	G28	ピット	10	10	9			
1055	H28	ピット	7	7	7			
1056	H28	ピット	32	32	46			
1057	H28	ピット	8	8	13			
1058	H28	ピット	6	6	15			
1059	G28	ピット	18	18	30			
1060	G28	ピット	11	11	15			
1061	H28	ピット	66	50	50			
1062	H28	ピット	120	30	32			SH7
1063	H28	ピット	16	16	6			
1064	H28	ピット	19	19	13			
1065	H28	ピット	34	32	32			
1067	H28	ピット	30	28	8			
1068	H28	ピット	195	62	38	木1	近世	SH7
1069	H28	ピット	38	24	6			
1070	H28	ピット	15	15	7			
1071	H28	ピット	36	36	15			
1072	H28	ピット	8	8	10			
1073	H28	ピット	6	6	13			
1074	H28	ピット	10	10	10			
1075	H28	ピット	9	9	12			
1076	H28	ピット	28	26	20			
1078	H28	ピット	6	6	—			
1079	H28	ピット	17	17	29			
1080	H28	ピット	12	12	13			
1081	H28	ピット	18	18	4			
1082	H28	ピット	17	17	35			
1083	H28	ピット	24	24	11			
1084	H28	ピット	25	23	16			
1085	H28	ピット	20	20	8			
1086	H28	ピット	128	42	28	古代1、近世1	近世	SH7
1088	H28	ピット	37	—	20			
1089	H28	ピット	36	22	15			
1090	H28	ピット	16	16	16			
1091	H28	ピット	27	25	14			
1092	H28	ピット	28	18	12			
1093	G28	ピット	22	20	8			
1094	H28	ピット	17	17	12			
1095	H28	ピット	127	45	24	近世1	近世	SH7
1096	H28	溝	305	300	5			
1097	H28	ピット	72	48	11			
1098	H28	土坑	110	65	23			
1100	G28	ピット	115	50	44	近世2	近世	SH7
1101	G28	ピット	55	32	20			
1102	G28	ピット	30	30	—			
1103	G28	ピット	24	—	45			

遺構番号	グリット	種別	長軸	短軸	深さ	出土遺物	時代	備考
1104	G28	ピット	30	30	10			
1105	G28	ピット	18	28	30			
1106	G28	ピット	43	28	8			
1107	G28	ピット	30	28	17			
1108	G27	ピット	92	32	21	近世1	近世	SH7
1109	G28	ピット	43	40	48	近世1	近世	SH7
1110	G27	ピット	—	—	5			
1111	H28	土坑	—	110	22			
1112	H28	ピット	35	35	—			
1113	I27	土坑	—	148	36	近世4	近世	
1114	H28	ピット	30	28	27			
1115	H28	ピット	48	48	30			
1116	H28	ピット	35	33	37			
1117	H28	ピット	23	22	10			
1118	H28	ピット	17	16	20			
1119	H28	ピット	21	21	12			
1120	H28	ピット	16	15	19			
1121	H28	ピット	23	14	12			
1122	H28	ピット	22	20	10			
1123	H28	ピット	13	13	—			
1124	I28	ピット	10	10	—			
1125	H28	ピット	14	10	7	分類不能1		
1126	H28	土坑	95	—	32			
1127	H27	溝	365	25	7			
1128	H27	ピット	38	38	8			
1129	H27	ピット	23	21	10			
1130	H27	ピット	17	17	13			
1131	H27	ピット	23	21	11			
1132	I27	土坑	125	30	5			
1133	I27	土坑	100	80	7		近世以前	
1134	I27	土坑	84	52	21	古代1	古代？	
1136	I27	住居跡	410	—	14	古代15、石2	古代	
1137	I27	溝	1,068	125	25	古代1、中世1		
1139	G27	ピット	21	21	5			
1140	G27	ピット	28	23	37			
1141	G27	ピット	22	—	14			
1142	G27	ピット	20	17	7			
1143	G27	ピット	18	15	—			
1144	F27	ピット	12	12	3			
1145	F28	溝	385	25	8			
1147	F28	溝	628	60	45			
1148	F28	ピット	40	40	9			
1149	F28	ピット	32	—	15			
1150	F28	土坑	50	—	10	近世1	近世	
1151	F28	ピット	32	32	10			
1152	F28	ピット	36	34	14			
1153	F28	ピット	38	33	16			
1154	F29	ピット	22	21	10			
1155	F29	ピット	30	29	46			
1156	F29	ピット	34	34	58	近世1	近世	
1157	F29	ピット	23	—	52			
1158	F29	ピット	24	24	—			
1159	G29	ピット	46	44	15			
1162	G29	土坑	105	98	5			
1163	G29	ピット	44	32	28			
1164	G29	ピット	21	21	28			
1165	G29	ピット	30	26	36			
1166	G29	ピット	23	23	22			
1167	G29	ピット	37	37	19			
1168	G29	溝	1,285	65	7			
1169	G29	ピット	25	23	15			
1170	G29	ピット	16	14	12			
1172	H27	土坑	160	60	21	近世1		
1173	H27	ピット	20	20	18			
1177	I25	ピット	22	22	29			
1178	I25	ピット	20	20	8			
1179	I25	ピット	14	14	15			
1180	I25	ピット	15	13	25			
1181	I25	ピット	23	21	23			
1183	F28	ピット	40	38	32	近世2	近世	
1184	F28	溝	385	30	7		近世以前	
1186	F28	ピット	18	—	16			
1187	F28	ピット	27	20	8			
1188	G29	ピット	36	36	30	古代4	古代？	
1189	G28	ピット	37	25	18			
1190	G28	土坑	114	49	56	中世1		
1191	G28	ピット	25	14	4			
1192	H29	ピット	24	24	10			
1193	H29	ピット	20	18	17			
1194	H26	ピット	25	23	14			
1195	I27	ピット	20	18	7			
1205	G28	ピット	40	36	6			SH7
1212	H27	土坑	150	34	11			
1213	H27	ピット	22	20	—			
1214	G26	ピット	39	35	17			
1215	G26	ピット	33	31	5			
1216	H27	ピット	28	28	38			
1217	H27	ピット	21	21	22			
1218	I26	ピット	17	—	13			
1220	G28	土坑	85	35	9			
1221	G28	ピット	35	30	36			SH7

遺構番号	グリット	種別	長軸	短軸	深さ	出土遺物	時代	備考
1222	G28	土坑	—	40	8			
1223	G27	ピット	21	19	12			
1224	G28	ピット	16	16	—			
1225	G27	土坑	90	30	6			
1227	F29	ピット	43	43	34	近世2	近世	
1228	F28	溝	695	55	16	近世12	近世	
1230	F28	ピット	36	36	36			
1231	F28	土坑	130	45	19			
1232	G29	ピット	26	26	8	古代2	古代？	
1233	F28	ピット	40	29	38			
1236	G27	ピット	36	25	17	石2	近世	
1237	F25	ピット	17	17	—			
1238	F25	ピット	16	16	28	古代1	古代	
1239	F25	ピット	18	18	—			
1240	F25	ピット	17	17	—			
1243	F25	ピット	16	16	4			
1244	F25	ピット	18	16	6			
1245	F25	ピット	32	28	7			
1246	F25	ピット	42	40	28	中世1	中世	
1252	F24	ピット	14	12	3			
1253	F24	ピット	17	15	29			
1254	F24	ピット	47	45	18			
1258	F24	ピット	28	28	20			
1260	F24	ピット	60	35	27			
1261	F24	ピット	19	17	28			
1262	F24	ピット	19	18	19			
1264	F24	ピット	25	20	10			
1265	F24	ピット	25	21	18			
1266	F24	ピット	18	18	19			
1267	F24	ピット	19	18	17			
1268	F24	ピット	16	16	8	木1		
1269	F24	ピット	27	27	14			
1270	F24	ピット	34	34	6	木2		
1274	F24	土坑	422	414	14	古代28、中世64、石1	中世	
1275	F28	溝	440	20	6		近世以降	
1276	F24	ピット	26	26	34			
1277	F24	ピット	21	21	13			
1278	F24	ピット	35	35	39			
1279	F23	ピット	26	26	3			
1280	F23	ピット	30	30	5			
1283	E25	ピット	42	42	7			
1286	G28	ピット	28	20	—			
1297	F28	ピット	20	19	4			
1298	F29	ピット	20	18	—			
1299	F28	ピット	20	20	36			
1300	D24	土坑	265	65	26			
1303	G27	ピット	15	13	2			
1305	F26	ピット	30	30	9			
1306	F26	ピット	50	40	23			
1307	G26	ピット	36	26	7			
1308	G26	ピット	40	25	6			
1309	G26	ピット	30	25	21			
1310	E24	ピット	47	54	42	中世5、木1	中世	
1311	D22	ピット	25	24	23	中世1	中世	
1312	D22	ピット	26	25	22			
1313	D22	ピット	17	16	5			
1314	E24	ピット	40	40	29			
1315	E24	ピット	28	24	14			
1316	E24	ピット	35	35	2	古代1、中世1	中世？	
1317	E24	ピット	35	35	12			
1318	E24	ピット	19	19	6			
1319	E24	ピット	22	22	7	古代2、中世2	中世	
1320	E24	ピット	15	15	—			
1321	E24	ピット	31	—	21			
1322	E24	ピット	15	14	22			
1323	E24	ピット	15	15	18			
1324	E24	ピット	19	18	3			
1325	F23	ピット	15	15	—			
1326	F23	ピット	16	15	—			
1327	F23	ピット	31	23	10			
1328	F22	ピット	22	22	10	古代1	古代？	
1329	E24	ピット	—	50	35	中世3	中世	
1330	E24	ピット	44	40	30	中世1、石2	中世	
1331	D24	ピット	30	30	14			
1332	D22	ピット	17	15	5			
1333	G24	溝	210	25	4			
1334	G24	ピット	13	13	6			
1335	G24	ピット	30	28	33			
1336	G24	ピット	28	26	20			
1337	G24	ピット	42	32	17			
1338	G24	ピット	36	33	16			
1339	G24	ピット	13	13	20			
1340	G24	ピット	20	20	15			
1341	G24	ピット	80	53	25			
1342	G24	ピット	49	32	15			
1343	H24	ピット	18	16	8			
1344	G24	ピット	15	15	15			
1345	E22	ピット	25	—	20			
1346	D22	ピット	30	30	5			
1347	D22	ピット	30	28	5			
1348	D22	ピット	20	19	13			

遺構番号	グリット	種別	長軸	短軸	深さ	出土遺物	時代	備考
1349	D21	ピット	22	20	5			
1350	E22	ピット	33	33	5			
1351	E22	ピット	24	22	5			
1352	E22	ピット	23	—	7		中世以前	
1353	D22	ピット	22	20	8			
1354	H23	ピット	25	20	13			
1356	H24	ピット	25	25	21			
1357	H24	ピット	12	12	28			
1358	H24	ピット	35	30	50			
1359	H24	ピット	12	11	20			
1360	H23	ピット	40	30	—			
1361	I23	ピット	20	20	14			
1362	H26	ピット	45	38	6			
1363	F25	ピット	18	18	36			
1364	F24	ピット	13	13	4			
1365	F24	ピット	13	12	13			
1366	F25	ピット	15	15	18			
1367	G25	ピット	33	33	5			
1368	G25	ピット	30	—	5			
1369	G25	ピット	50	48	23			
1370	G25	ピット	20	18	10			
1371	G25	ピット	23	21	9			
1372	G25	ピット	40	25	6			
1373	F24	ピット	30	30	20			
1374	D24	ピット	30	28	6			
1375	G26	ピット	25	24	10			
1376	H23	ピット	22	22	10			
1377	H23	ピット	20	20	10			
1378	H23	ピット	25	23	5			
1379	H24	ピット	25	24	14			
1380	H27	土坑	80	65	15			
1381	H27	土坑	75	70	31			
1382	G29	ピット	33	30	44			
1383	G24	ピット	45	35	18			
1384	D24	ピット	—	20	22	中世3	中世	
1386	C22	ピット	28	25	22			
1402	D23	ピット	30	28	44	中世2	中世	
1404	E24	ピット	25	—	32			
1408	E24	ピット	—	32	24			
1415	E25	ピット	50	48	18			
1418	G26	ピット	20	18	18			
1419	G26	ピット	18	16	5			
1426	G26	ピット	28	26	16			
1427	G26	ピット	20	18	3			
1428	G27	ピット	23	—	—			
1434	D24	ピット	20	—	12			
1435	H28	ピット	25	25	—			
1436	G29	ピット	34	25	13			
1437	G27	ピット	32	28	37	中世1		SH7
1439	H27	ピット	23	20	16			
1440	F27	ピット	32	—	—			
1441	F27	ピット	20	20	—			
1443	E24	ピット	40	36	22	中世2	中世	
1444	F24	ピット	40	35	—			
1445	G24	ピット	15	15	—			
1446	H23	ピット	20	18	—			
1447	F29	ピット	20	18	—			
1448	F24	ピット	35	35	—			
1449	E22	溝	285	90	14			

D区

遺構番号	グリット	種別	長軸	短軸	深さ	出土遺物	時代	備考
4002	E37	ピット	40	32	95	中世1	中世	
4003	E37	ピット	35	31	30			
4004	E37	ピット	30	29	30	中世4	中世	
4005	E37	ピット	25	23	23			
4008	E37	ピット	30	29	33			
4009	E37	ピット	35	32	59	中世2	中世	
4010	E37	ピット	30	30	16	中世1	中世	
4011	F37	ピット	30	29	16			
4012	E37	ピット	35	31	32	中世5	中世	
4013	E37	ピット	30	30	14			
4015	E37	ピット	25	20	23	中世1	中世	
4016	E37	ピット	25	25	17			
4017	E37	ピット	35	30	31	中世2	中世	
4018	E37	ピット	45	40	56	中世4	中世	
4019	E37	ピット	20	15	15			
4020	E37	ピット	30	23	10			
4021	E37	ピット	15	13	20			
4022	E37	ピット	15	15	15			
4023	E37	ピット	30	28	15	中世3	中世	
4024	E37	ピット	20	20	31			
4025	E37	ピット	25	25	18			
4026	E37	ピット	15	15	24			
4027	E37	ピット	25	—	14			
4028	E37	ピット	45	43	33	中世2、近世1		
4029	E37	ピット	15	15	15			
4030	E37	ピット	60	53	15	中世2	中世	
4031	E37	ピット	40	38	25	中世1	中世	
4032	E37	ピット	30	20	30	中世1	中世	
4033	E37	ピット	15	13	9			
4034	E37	ピット	15	15	20			

遺構番号	グリット	種別	長軸	短軸	深さ	出土遺物	時代	備考
4035	E37	ピット	30	25	20			
4036	E37	ピット	15	13	20			
4037	E37	ピット	20	18	22			
4038	E37	ピット	28	28	46	中世1	中世	
4039	E37	ピット	25	23	30	中世3	中世	
4041	E37	ピット	23	23	39			
4042	E37	ピット	20	18	28	中世2	中世	
4043	E37	ピット	18	24	24			
4044	E37	ピット	20	—	35			
4045	E37	ピット	20	20	23			
4046	E37	ピット	15	14	9			
4047	E37	ピット	25	24	26	中世1	中世	
4048	E37	ピット	20	19	17			
4049	E37	ピット	24	24	18	中世1	中世	
4050	E37	ピット	20	19	30			
4051	E37	ピット	27	25	20	中世1	中世	
4052	E37	ピット	20	20	10	中世1	中世	
4053	E37	ピット	25	18	11			
4054	E37	ピット	30	26	19			
4056	E37	ピット	35	32	15			
4057	E37	ピット	20	19	11			
4058	E37	ピット	25	24	13	中世2	中世	
4060	E37	ピット	20	19	25			
4061	E37	ピット	32	30	14	中世1	中世	
4062	E37	ピット	30	25	13	中世1	中世	
4063	E37	ピット	25	25	9			
4064	E37	ピット	15	15	7			
4065	E37	ピット	10	10	7			
4066	E37	ピット	33	33	65	中世9	中世	
4067	E37	ピット	23	23	30	中世3	中世	
4068	E37	ピット	35	30	44	中世1	中世	
4070	E36	ピット	15	15	12			
4071	E36	ピット	35	20	20	中世3	中世	
4073	E36	ピット	17	16	33	中世1	中世	
4074	E36	ピット	30	25	40	中世6	中世	
4075	E36	ピット	50	38	15	中世1	中世	
4076	E36	ピット	25	25	22	中世1	中世	
4078	E36	ピット	23	23	—	中世1	中世	
4079	E37	ピット	30	28	25			
4080	E37	ピット	20	19	32	中世1、分類不能1	中世？	
4082	D36	ピット	20	20	9			
4083	E36	ピット	20	20	12			
4084	E36	ピット	70	45	24	中世1	中世	
4085	E36	ピット	20	19	18	中世2	中世	
4086	E36	ピット	25	25	5			
4087	E36	ピット	25	20	6			
4088	E36	ピット	35	30	52	中世4	中世	
4089	E37	ピット	25	25	34			
4090	E36	ピット	40	20	45	中世2	中世	
4092	E36	ピット	32	32	10			
4098	E36	ピット	28	26	25	中世6	中世	
4098-2	E36	ピット	25	25	36			
4099	D36	ピット	32	30	43			
4100	D36	ピット	37	30	27			
4102	E36	ピット	25	22	35	中世1	中世	
4103	E36	ピット	20	18	30			
4105	D36	ピット	40	40	52			
4109	E36	ピット	26	25	18	中世2	中世	
4110	E36	土坑	112	103	16			
4111	E36	ピット	33	—	5			
4113	E36	ピット	36	28	35			
4115	E36	ピット	17	15	10			
4117	E36	ピット	37	35	15	中世2	中世	
4118	E36	ピット	16	15	—			
4119	E36	ピット	40	35	35			
4122	E36	ピット	24	22	13	中世1	中世	
4126	E36	ピット	17	15	11			
4127	E36	ピット	35	28	8			
4129	E36	ピット	33	30	35			
4130	E36	ピット	28	—	14			
4133	E34	ピット	20	20	12	中世5	中世	
4136	E36	ピット	22	20	12	中世1	中世	
4137	E36	ピット	30	25	27	中世4	中世	
4139	E36	ピット	22	18	10			
4140	E36	ピット	28	25	13	中世1	中世	
4141	E36	ピット	37	35	17			
4144	E35	ピット	27	25	50	中世3	中世	
4151	E36	ピット	37	36	28	中世2	中世	
4153	E36	ピット	18	15	15			
4163	E36	ピット	30	27	23			
4164	E36	ピット	15	15	5			
4165	E36	ピット	45	25	20	中世1、近世1	近世？	
4166	E36	ピット	26	25	30			
4167	E36	ピット	35	26	30			
4168	E36	ピット	25	25	38			
4169	E36	ピット	40	35	38	中世1	中世	
4173	E36	ピット	50	40	24			
4174	E36	ピット	56	45	26	中世2	中世	
4175	E36	ピット	20	20	13			
4176	E36	ピット	23	20	—	中世4	中世	
4177	E36	ピット	35	—	—		中世以前	

遺構番号	グリット	種別	長軸	短軸	深さ	出土遺物	時代	備考
4179	E36	ピット	30	30	38			
4180	E36	ピット	30	30	29	中世1	中世	
4181	E36	ピット	33	28	40			
4182	E36	ピット	23	15	6			
4184	E36	ピット	35	35	14			
4186	E36	ピット	30	25	10			
4187	E36	ピット	30	25	35			
4188	E36	ピット	25	20	5			
4189	E36	ピット	15	14	6			
4190	E36	ピット	18	16	4			
4192	E36	ピット	30	28	48	中世6	中世	4266と遺物接合
4193	E36	ピット	20	16	12			
4196	F36	ピット	30	20	18			
4197	F36	ピット	17	17	28	中世1	中世	
4199	E36	ピット	37	30	25	中世2	中世	
4200	E36	ピット	30	30	29	中世1	中世	
4201	E36	ピット	28	22	27	中世3	中世	
4202	E36	ピット	40	34	27			
4205	E36	ピット	40	28	23	中世1	中世	
4207	E36	ピット	30	30	24			
4208	E36	ピット	23	20	12			
4209	E36	ピット	20	18	10			
4210	E36	ピット	20	20	14			
4212	E36	ピット	23	23	17	中世5	中世	
4215	F36	ピット	13	13	10			
4223	F36	ピット	18	15	22			
4230	E37	ピット	15	15	7			
4231	F37	ピット	26	25	15			
4232	F36	溝	825	55	6	中世2、近世1	中世	
4233	F36	ピット	25	23	23			
4238	F36	ピット	24	22	10	中世1	中世	
4239	F36	ピット	20	20	5			
4241	F36	溝	725	95	15	中世9	中世	
4242	F36	溝	1,055	75	7	中世7、近世1	中世	
4244	F36	ピット	32	27	44	中世2	中世	
4249	F36	ピット	15	15	—			
4250	E35	土坑	398	384	36	古代1、中世125、近世61、分類不能2、石2、木1、近世瓦3、近現代4	中世	
4256	F35	ピット	18	—	24			
4258	F35	ピット	72	53	121	中世2	中世	SH3
4261	F35	ピット	35	30	29			
4262	E36	溝	765	45	17	中世16	中世	
4264	E35	ピット	36	30	9	中世9	中世	
4266	D34	土坑	105	85	19	中世5	中世？	4192と遺物接合
4268	D35	ピット	30	30	37	中世1		
4269	D35	ピット	32	32	15			
4270	D35	ピット	22	21	16			
4271	D35	ピット	34	34	35			
4273	E34	ピット	70	63	23	分類不能1		
4274	E34	ピット	30	25	20			
4275	E34	ピット	20	18	7			
4276	F36	ピット	18	18	18			
4281	E35	ピット	46	40	15			
4283	F35	ピット	36	33	15	中世1	中世	
4285	F36	ピット	27	—	28		中世	
4286	F36	ピット	32	30	35	石1		
4287	E35	ピット	37	35	—			
4288	E35	ピット	20	18	20			
4289	(E37)	ピット	30	20	—			
4290	E34	ピット	105	70	14			
4291	E34	ピット	76	56	8			
4293	E34	ピット	82	65	8			
4294	E34	土坑	174	156	36	中世3	中世	
4295	E34	土坑	195	185	68	古代1、中世14、近世3、分類不能1	中世	
4297	E34	溝	1,060	210	23	中世3、近世37、分類不能1、石1、近世瓦30	近世	
4298	D34	土坑	363	333	48	古代2、中世87、近世6	中世	
4299	E35	土坑	—	140	24	中世18、近世1	中世	
4300	D35	土坑	255	—	54	中世4、近世1、近現代3		
4301	E34	溝	665	35	8		中世以降	
4302	E34	溝	865	840	40	古代1、中世49、近世3	中世	4405と遺物接合
4303	E34	土坑	170	70	38	中世2	中世	
4305	E34	ピット	80	80	73	中世4	中世	
4309	E34	ピット	18	13	12			
4310	E34	ピット	20	20	—			
4311	E34	土坑	170	80	30			
4312	E34	土坑	125	103	33	古代1、中世23、近世瓦1	中世	
4313	D34	ピット	20	19	8			
4314	D34	ピット	20	19	8			
4315	D34	ピット	60	—	15		中世以前	
4316	D34	ピット	75	70	7	中世1	中世	
4322	E35	ピット	27	26	6			
4323	D36	ピット	25	20	15			
4326	F36	ピット	23	20	—			
4400	E35	ピット	80	80	94	中世7	中世	SH3
4401	E35	ピット	57	52	68	中世4	中世	
4402	E36	ピット	49	49	70	中世3	中世	
4403	E36	ピット	63	60	86	中世7	中世	SH3
4404	F35	土坑	465	226	14	古代2、中世26、近世81、近現代3	中世	
4405	D34	溝	975	160	52	中世60、石5	中世	4302と遺物接合
4406	D34	ピット	80	60	114	中世7	中世	
4407	E34	ピット	65	—	58	中世2	中世	
4408	E35	ピット	70	67	114	中世7、近世1、木1	中世	

遺構番号	グリット	種別	長軸	短軸	深さ	出土遺物	時代	備考
4409	D35	ピット	−	75	132	中世5	中世	SH4、4425と遺物接合
4410	D35	ピット	75	48	61	中世6	中世	SH4
4411	E36	ピット	34	34	50	中世3	中世	
4412	D36	溝	1,960	120	25	古代2、中世3、近世2、分類不能1	中世？	
4413	E35	ピット	77	75	104	中世4、木1	中世	SH3
4414	E34	ピット	105	72	108	中世5、近世1	中世	SH4
4415	E35	ピット	95	80	114	中世1	中世？	SH4
4416	E35	ピット	102	70	93	中世1	中世	SH4
4417	D35	ピット	77	70	127	中世6	中世	
4418	E35	ピット	67	55	120	中世1	中世	SH3
4419	E34	ピット	74	67	110		中世	SH4
4420	D34	ピット	95	80	135		中世	
4421	E35	ピット	37	37	60			
4422	E35	ピット	40	35	69	中世2	中世	
4423	E37	ピット	30	27	−			
4424	D35	ピット	52	45	54	中世2	中世	
4425	D35	ピット	77	72	78	中世10	中世	4409と遺物接合
4426	D34	ピット	97	75	129	木1	中世	SH4
4427	E36	ピット	49	45	66	中世1	中世	
4428	E34	ピット	19	17	40			
4429	E34	ピット	30	27	33			
4430	E34	ピット	21	19	35			
4431	E34	ピット	13	11	36			
4432	F36	ピット	30	30	43			
4433	F36	ピット	28	28	47			
4434	E36	ピット	45	40	57	古代1、中世2	中世	
4435	E35	ピット	60	55	129	中世1	中世	
4436	E35	ピット	67	45	112			SH3
4437	D36	ピット	70	70	89	中世32	中世	SH4
4438	E36	ピット	60	55	84	中世1	中世	SH3
4439	E35	ピット	85	65	104			SH4
4444	E35	ピット	60	47	91	中世2	中世	
4445	E34	ピット	30	28	32			
4446	E34	ピット	32	31	60			
4447	F35	ピット	30	23	50	中世1	中世	
4448	E34	ピット	115	82	78	中世4	中世	SH4
4449	E36	ピット	33	30	20			
4450	E36	ピット	37	35	58	中世2	中世	
4451	E37	ピット	29	29	24	中世2	中世	
4452	E37	ピット	27	27	40	中世5	中世	
4453	D34	ピット	30	25	35	中世6	中世	
4455	D34	ピット	27	26	24	中世1	中世	
4456	E35	ピット	65	65	74			
4457	E35	ピット	45	43	60	中世1	中世以降	
4459	D35	土坑	135	80	10		中世	
4461	D35	溝	215	85	15	中世1	中世	
4462	F37	ピット	35	30	15			
4463	E37	ピット	25	23	18			
4467	E36	ピット	38	33	20			
4469	E36	ピット	13	13	27			
4470	E36	ピット	15	15	8			
4471	E36	ピット	13	10	24			
4472	E36	ピット	10	8	−			
4473	E36	ピット	15	15	16			
4474	E36	ピット	17	15	13			
4475	E36	ピット	18	15	28			
4476	E36	ピット	35	30	5			
4477	E36	ピット	27	20	15			
4478	E36	ピット	18	12	20			
4479	E36	ピット	18	16	12			
4480	E36	ピット	22	14	−			
4481	E36	ピット	15	13	−			
4482	E36	ピット	25	20	37	中世2		
4483	E35	ピット	24	20	12			
4484	E35	ピット	23	22	15			
4485	E35	ピット	28	25	18	中世2	中世	
4486	E35	ピット	28	−	20			
4487	E35	ピット	25	23	30			
4489	E35	ピット	25	22	30			
4490	F36	ピット	20	20	10		中世以降	
4491	E35	ピット	28	25	25		中世以降	
4492	E35	ピット	32	37	5			
4493	E35	ピット	80	75	17		中世以降	
4494	D36	ピット	47	40	22			
4495	D36	ピット	25	20	20			
4496	D35	ピット	27	27	18			
4497	D35	ピット	95	25	10		中世以降	
4498	D35	ピット	7	7	10		中世以降	
4499	D35	ピット	20	17	15		中世以降	
4500	D34	ピット	52	35	10			
4501	D34	土坑	200	40	4		中世以降	
4502	D34	ピット	19	19	25			
4503	D34	ピット	27	25	15			
4504	D34	ピット	35	27	32			
4505	D34	ピット	55	55	70		中世以降	
4506	D34	ピット	35	30	28			
4507	D34	ピット	−	30	15			
4508	D34	ピット	25	23	18		中世以降	
4509	E34	ピット	25	20	8			
4510	E35	ピット	43	−	15			
4511	E35	ピット	30	23	20			

遺構番号	グリット	種別	長軸	短軸	深さ	出土遺物	時代	備考
4512	E35	ピット	28	25	17			
4513	E35	ピット	—	—	—		中世	
4515	E34	ピット	12	10	14			
4516	E34	ピット	30	26	25			
4517	E34	ピット	15	13	12			
4518	E34	ピット	25	20	20			
4519	E34	ピット	34	34	30			
4520	E34	ピット	20	20	10			
4521	E35	ピット	42	—	30		中世以前	
4522	E35	ピット	27	25	18			
4523	E35	ピット	22	—	23			
4524	F34	ピット	40	40	22			
4525	E34	ピット	50	30	7			
4526	D34	ピット	28	25	37		中世以降	
4527	D34	ピット	32	—	13		中世以降	
4528	D34	溝	460	160	43		中世以前	
4529	D34	溝	480	45	14			
4530	D34	土坑	200	170	40			
4531	D34	溝	615	80	29	古代1、中世80、近世2	中世	
4532	E34	土坑	175	125	24		中世以前	
4533	E35	土坑	170	83	48	中世10	中世	
4534	E35	ピット	67	65	18		中世以降	
4535	E35	土坑	70	65	26			
4536	E34	ピット	67	32	11			

E区

遺構番号	グリット	種別	長軸	短軸	深さ	出土遺物	時代	備考
5001	J39	土坑	—	130	18	古代2、中世59	中世	5006と遺物接合
5002	J39	土坑	—	—	20	中世4	中世	
5003	I40	土坑	270	105	34	中世49	中世	
5004	H40	土坑	174	120	31	中世16	中世	
5005	I40	土坑	275	247	38	中世11、分類不能1	中世	
5006	J39	土坑	255	235	52	古代6、中世160、分類不能2、石1	中世	5028と遺物接合、5001と遺物接合
5007	I40	土坑	122	102	23	中世2	中世	
5008	I40	土坑	182	165	16	中世11、近世1	中世	5048と遺物接合
5009	J39	土坑	261	215	46	中世72、石1	中世	
5010	J39	溝	1,905	70	54	古代3、中世121、石2	中世	
5011	I40	土坑	194	139	36	中世23、分類不能1、金属1	中世	
5012	I40	溝	920	175	36	古代10、中世83、近世11、分類不能1、金属5	中世	
5013	I41	溝	140	60	29	中世3	中世	
5014	I40	土坑	140	75	18			
5014-2	I40	土坑	115	100	18			
5015	H40	土坑	290	—	25	中世2、近世2	中世	
5016	H40	溝	690	24	13	中世1	中世	
5017	J39	土坑	90	64	10		中世以降	
5018	J39	土坑	75	70	5	中世8、金属1	中世	
5019	J39	ピット	48	48	8	中世3、木1	中世	
5020	J39	ピット	53	—	10	中世1	中世	5021と遺物接合
5021	J39	ピット	92	—	13	中世3、分類不能1	中世	5020と遺物接合
5022	J40	ピット	90	88	68	中世9、近世1	中世	SH5
5023	J40	ピット	75	70	60	中世7	中世	
5024	J39	ピット	90	88	72	中世6	中世	SH5
5025	J39	ピット	90	85	76	中世4	中世	SH5
5026	J39	ピット	22	20	17	金属1		
5027	J39	ピット	18	14	5	中世2	中世	
5028	I39	土坑	—	50	16	中世2	中世	5006と遺物接合
5029	I39	ピット	93	85	84	古代3、中世18、木1	中世	SH5
5030	J39	ピット	28	28	4	中世2	中世	
5031	J39	ピット	92	—	68	中世5、分類不能1	中世	SH5
5032	J40	ピット	97	70	88	中世2	中世	SH5
5033	J40	ピット	75	—	72	中世3	中世	SH5
5034	J40	ピット	95	95	46	古代2、中世5	中世	SH5
5035	J40	ピット	43	38	54	中世4	中世	SH5
5036	J40	ピット	38	35	47	中世3	中世	SH5
5037	J40	ピット	26	26	31	中世1	中世	
5038	J40	ピット	—	75	17	中世3	中世	
5040	I39	ピット	46	33	17	中世1	中世	
5041	I39	ピット	24	21	19	中世1	中世	
5042	I40	ピット	25	23	29	中世2	中世	
5043	I40	ピット	25	22	21	中世2	中世	
5044	I40	ピット	26	25	20	中世2	中世	
5046	I40	ピット	55	40	37	中世1	中世	
5047	I40	ピット	27	27	35	中世3	中世	
5048	I39	ピット	24	20	12	中世5	中世	5008と遺物接合
5049	I40	ピット	24	24	37	中世1	中世	
5052	I40	ピット	24	22	12	中世3	中世	
5053	J39	ピット	97	90	92			
5054	J39	ピット	80	80	58		中世？	SH5
5055	J40	ピット	93	85	47	中世1	中世	SH5
5056	I40	ピット	84	75	54	中世12	中世	SH5
5057	I40	ピット	75	80	42	中世1	中世	
5058	I39	ピット	90	80	84			SH5
5059	J39	ピット	32	25	22			
5060	J39	ピット	29	28	20			
5061	J39	ピット	26	—	12			
5062	J39	ピット	40	—	56			
5063	J39	ピット	18	18	7			
5064	J39	ピット	27	—	20			
5065	J39	ピット	20	18	26			
5066	J39	ピット	26	25	20			
5067	J39	ピット	30	28	26			
5068	J39	ピット	30	28	13			

遺構番号	グリット	種別	長軸	短軸	深さ	出土遺物	時代	備考
5069	J39	ピット	48	46	83			
5070	J39	ピット	62	55	12			
5071	J40	ピット	30	28	34			
5072	J40	ピット	40	35	14			
5073	J40	ピット	45	—	25		中世以前	
5074	J40	ピット	26	—	11		中世以前	
5075	J40	ピット	27	27	29			
5076	J40	ピット	50	48	70	中世4、木3	中世	SH6
5078	J39	ピット	15	15	13			
5079	J39	ピット	34	28	13		中世以前	
5080	J39	ピット	32	30	10			
5081	J39	ピット	28	24	25		中世以降	
5082	J39	ピット	12	—	21		中世以降	
5083	J39	ピット	28	28	25		中世以降	
5085	I40	ピット	25	24	24			
5086	I40	ピット	22	22	27			
5087	I39	ピット	24	22	23			
5088	I39	ピット	33	31	55			
5089	I39	ピット	19	—	10			
5090	I39	ピット	25	23	13			
5091	I39	ピット	19	18	21			
5092	I39	ピット	28	28	6			
5093	I39	ピット	11	11	5			
5094	I40	ピット	24	21	7			
5095	J39	ピット	45	38	15			
5096	J39	ピット	15	15	20			
5097	I40	ピット	65	60	58	中世16	中世	
5098	J39	ピット	45	45	55			
5099	J39	ピット	—	28	48			
5100	J39	ピット	17	15	12			
5101	J39	ピット	20	—	5			
5102	J39	ピット	18	15	14			
5103	J40	ピット	35	35	22	中世1	中世	
5104	J40	ピット	30	30	35		中世以降	
5105	J39	ピット	49	49	54	中世1	中世	
5106	I39	ピット	20	—	7			
5107	I39	ピット	43	35	10			
5108	I39	ピット	19	17	16			
5109	I40	ピット	19	18	18			
5110	I40	ピット	43	40	70	中世4	中世	
5111	I40	ピット	28	25	—			
5112	I40	ピット	31	30	41	中世4	中世	
5113	I40	ピット	42	40	40			SH6
5114	I40	ピット	33	33	43	木1	中世？	
5115	I40	ピット	56	52	15	中世1	中世	SH6
5116	I40	ピット	15	13	15			
5117	I40	ピット	25	23	50			
5118	I40	ピット	18	15	8			
5119	I40	ピット	46	35	34			
5120	I40	ピット	54	53	24			SH6
5121	I40	ピット	38	35	39			
5122	I40	ピット	20	19	9			
5123	I40	ピット	63	53	14	古代1		
5124	I40	ピット	22	21	23	中世4	中世	
5125	I40	ピット	20	19	19			
5126	I40	ピット	30	30	35			
5127	I40	ピット	25	23	29			
5128	I40	ピット	30	25	34			
5129	I40	ピット	39	—	22	中世2、石1	中世	
5130	I40	ピット	22	—	26		中世以降	
5131	I39	ピット	16	15	15			
5132	I39	ピット	22	21	10			
5133	I39	ピット	32	30	18			
5134	I39	ピット	20	19	30			
5135	I40	ピット	22	17	17			
5136	I40	ピット	30	22	22			
5137	I40	ピット	35	24	17			
5138	I40	ピット	42	35	21			
5139	I40	ピット	32	28	33			
5140	H40	ピット	26	25	12			
5141	I39	ピット	17	15	17			
5142	J39	ピット	23	20	—			
5143	I40	ピット	30	28	—			

付表2　遺構集計表

時代	種別	A区 (4,500㎡)	B区 (1,100㎡)	C区 (3,600㎡)	D区 (850㎡)	E区 (250㎡)	合計 (10,300㎡)
弥　生	ピット	0	0	1	0	0	1
	土坑	1	0	0	0	0	1
	小計	1	0	1	0	0	2
古　代	住居跡	13	6	5	0	0	24
	ピット	13	53	5	0	0	71
	土坑	4	8	0	0	0	12
	溝	1	8	1	0	0	10
	小計	31	75	11	0	0	117
中　世	ピット	15	1	69	101	40	226
	土坑	3	1	13	10	13	40
	溝	5	0	8	8	4	25
	井戸	0	0	2	0	0	2
	特殊	0	0	1	0	0	1
	小計	23	2	93	119	57	294
近　世	ピット	10	0	22	0	0	32
	土坑	12	0	10	0	0	22
	溝	8	0	3	1	0	12
	井戸	2	0	1	0	0	3
	小計	32	0	36	1	0	69
近　代	ピット	3	0	0	0	0	3
	土坑	2	0	0	0	0	2
	小計	5	0	0	0	0	5
時代不明	ピット	441	135	889	195	78	1,738
	土坑	24	5	85	8	3	125
	溝	16	9	51	4	0	80
	小計	481	149	1,025	207	81	1,943
合　計		573	226	1,166	327	138	2,430

A区

時代	弥生	古代	中世	近世	近代	不明	合計
基数	1	31	23	32	5	481	573
割合	0.2%	5.4%	4.0%	5.6%	0.9%	83.9%	100%

B区

時代	古代	中世	不明	合計
基数	75	2	149	226
割合	33.2%	0.9%	65.9%	100%

C区

時代	弥生	古代	中世	近世	不明	合計
基数	1	11	93	36	1,025	1,166
割合	0.1%	0.9%	8.0%	3.1%	87.9%	100%

D区

時代	中世	近世	不明	合計
基数	119	1	207	327
割合	36.4%	0.3%	63.3%	100%

E区

時代	中世	不明	合計
基数	57	81	138
割合	41.3%	58.7%	100%

佐口遺跡

時代	弥生	古代	中世	近世	近代	不明	合計
基数	2	117	294	69	5	1,943	2,430
割合	0.1%	4.8%	12.1%	2.8%	0.2%	80.0%	100%

付表３　遺物観察表

遺物番号	登録番号	出土地点	種別	器種	型式・年代	口径	器高	底径	台径	残存率	所見
1	925	2002	須恵器	高杯		—	—	—	10.8	—	脚部内外面回転ナデ、杯部内面回転ナデ、杯底部外面回転ヘラ削り後回転ナデ
2	927	2002	土師器	甕	7～8世紀	—	—	6.6	—	—	胴部内面指オサエ、胴部下端部外面斜めハケ調整
3	926	2002	土師器	甕		—	—	—	—	—	頸部～胴部外面縦ハケ調整
4	929	2003	須恵器	有台杯	7世紀後半以降	17.4	4.2	12.6	11.8	2.2	内外面回転ナデ
5	930	2003	土師器	長胴甕		—	—	—	—	—	胴部内面ヘラオサエ、胴部外面縦ハケ調整
6	1141	2003	土師器	製塩土器		約6.8	—	—	—	1.2	体部内外面ナデ・オサエ、胎土密
7	939	2011	土師器	甕		10.0	—	—	—	2.1	口頸部内面横ハケ調整、胴部内面指オサエ、頸部～胴部外面縦～斜めハケ調整
8	949	2035	須恵器	無台杯	7世紀後半以降	11.7	4.1	8.0	—	3.7	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面ヘラ切り後オサエ・ナデ
9	951	2035	須恵器	甕		—	—	—	—	—	外面格子タタキ痕、内面同心円当て具痕
10	950	2035	須恵器	高杯		—	—	—	9.2	—	脚部内外面回転ナデ
11	953	2035	土師器	長胴甕	7世紀頃	17.0	—	—	—	4.2	口頸部内面横ハケ調整、口頸部外面縦ハケ調整、胴部内面指オサエ・ヘラオサエ、胴部外面縦～斜めハケ調整
12	952	2035	土師器	甕		—	—	—	—	—	摩滅著しい、形状復元困難
13	974	2216	須恵器	高杯	7世紀頃	13.8	12.3	—	9.7	2.7	杯部外面上半部・内面回転ナデ、杯部内面中央にナデを加える、脚部内面下半部・外面回転ナデ、脚部内面上半部ナデ
14	975	2216	須恵器	高杯	7世紀頃	11.4	7.7	—	7.9	11.0	杯部内外面・脚部内面下半部・脚部外面回転ナデ、杯部内面中央にナデを加える、脚部内面上半部ナデ、焼成あまく灰白色
15	977	2216	須恵器	長頸壺？		10.2	—	—	—	1.2	口頸部内外面回転ナデ
16	973	2216	須恵器	長頸壺		—	—	—	—	—	口頸部内外面回転ナデ
17	972	2216	須恵器	杯蓋	7世紀	11.3	3.6	—	—	11.0	内外面回転ナデ、焼成あまく灰白色、18とセット？
18	971	2216	須恵器	杯身	7世紀	9.8	3.6	4.4	—	5.0	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面ヘラ切り未調整、焼成あまく灰白色、17とセット？、試掘確認調査時に出土
19	976	2216	須恵器	杯		9.0	—	—	—	2.2	体部内外面回転ナデ
20	978	2216	須恵器	摘み蓋	7世紀後半以降	約19.2	—	—	—	0.5	内面・外面下半部回転ナデ、外面上半部回転ヘラ削り
21	980	2216	須恵器	甕	7世紀	30.1	59.7	—	—	6.0	口頸部内外面回転ナデ、内面に指？オサエあり、胴部～底部内面ナデ・オサエ・削りによる平滑化、中央に強いオサエ痕並ぶ、胴部～底部外面平行タタキ痕、口頸部外面に沈線・列点文あり
22	981	2216	須恵器	甕		—	—	—	—	—	頸部内外面回転ナデ、体部内面同心円当て具痕、体部外面格子タタキ痕
23	278	2216	石製品	石鏃		—	—	—	—	—	長さ3.34cm、幅1.58cm、厚さ0.50cm、有茎鏃、下呂石製
24	979	2216	埴輪	円筒埴輪		—	—	—	—	—	外面縦ハケ後横ハケ調整、突帯とその上下横ナデ、内面横ハケ調整、焼成あまい、須恵器系埴輪
25	41	2341	須恵器	無台杯	7世紀後半以降	13.7	4.4	6.5	—	3.3	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面ヘラ切り後、粗いオサエ・ナデ
26	1005	2341	須恵器	杯	7世紀後半以降	13.9	—	—	—	1.4	体部内外面回転ナデ
27	1007	2341	須恵器	杯	7世紀後半以降	15.0	—	—	—	0.9	体部内外面回転ナデ
28	1003	2341	須恵器	無台杯	7世紀後半以降	13.5	—	—	—	2.1	体部内外面・底部内面回転ナデ
29	1002	2341	須恵器	無台杯	7世紀後半以降	12.6	3.9	6.8	—	2.1	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面回転ヘラ切り後オサエ・ナデ
30	1004	2341	須恵器	無台杯	7世紀後半以降	—	—	7.8	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面回転ヘラ切り後、粗いオサエ・ナデ
31	1006	2341	須恵器	有台杯	7世紀後半以降	—	—	6.0	5.7	—	体部内外面・底部内外面回転ナデ
32	1008	2341	須恵器	杯身	7世紀	10.8	—	—	—	0.9	体部内外面回転ナデ
33	1009	2341	須恵器	杯身	7世紀	約9.0	—	—	—	0.6	体部内外面回転ナデ
34	1010	2341	須恵器	蓋	7世紀後半以降	—	—	—	—	—	内面回転ナデ、外部上半部回転ヘラ削り、摘み部回転ナデ
35	1011	2341	須恵器	摘み蓋	7世紀後半以降	16.6	—	—	—	3.2	外面下半部・内面回転ナデ、内面上半部にナデを加える、外面上半部回転ヘラ削り
36	1012	2341	須恵器	鉢		24.7	—	—	—	1.6	体部内面・口縁部外面回転ナデ、体部外面回転ヘラ削り
37	1016	2341	須恵器	甕		13.0	—	—	—	4.9	口頸部内外面回転ナデ、体部内面同心円当て具痕、体部外面格子タタキ痕
38	1014	2341	須恵器	甕		—	—	—	—	—	体部内面オサエ・ナデ、体部外面格子タタキ痕
39	1013	2341	須恵器	甕		—	—	—	—	—	体部内面同心円当て具痕、体部外面格子タタキ痕、40と同一固体？
40	1015	2341	須恵器	甕		—	—	—	—	—	体部内面同心円当て具痕、体部外面格子タタキ痕、39と同一固体？
41	1151	2341	土師器	製塩土器		8.0	—	—	—	2.0	体部内面指オサエ
42	996	2341	土師器	長胴甕	7世紀頃	—	—	約7.6	—	—	摩滅著しい
43	992	2341	土師器	長胴甕	7世紀頃	—	—	6.0	—	—	胴部下端部内面斜め～横ハケ調整、胴部下端部外面斜め～横ハケ調整
44	1001	2341	土師器	長胴甕		—	—	—	—	—	胴部内面ヘラオサエ・指ナデ、胴部外面縦ハケ調整、外面に煤付着、下層カマド直上より出土
45	993	2341	土師器	甕		約17.2	—	—	—	1.0	摩滅著しい
46	994	2341	土師器	甕		—	—	—	—	—	形状復元困難
47	999	2341	土師器	長胴甕		—	—	—	—	—	胴部外面縦ハケ調整、底部相欠はぎ接合痕あり
48	997	2341	土師器	甕		—	—	—	—	—	頸部内面横ハケ調整、胴部内面ナデ、胴部外面縦ハケ調整
49	998	2341	土師器	甕		—	—	—	—	—	頸部内面横ハケ調整、胴部外面縦～斜めハケ調整
50	995	2341	土師器	甕		—	—	—	—	—	頸部内面横ハケ調整、胴部外面縦～斜めハケ調整
51	2	2341	金属製品	刀子		—	—	—	—	—	残存長10.8cm、最大幅1.7cm、柄と茎が残る、鉄製
52	1	2341	金属製品	鏃		—	—	—	—	—	残存長8.0cm、最大幅1.8cm、鉄製、曲刃鏃
53	1056	2360	須恵器	壺		—	—	11.0	11.0	—	体部内面・底部内外面回転ナデ、体部外面回転ヘラ削り
54	1029	2390	須恵器	壺		7.5	—	—	—	0.5	内外面回転ナデ、胴部に沈線２条
55	1030	2390	土師器	長胴甕		18.6	—	—	—	1.0	頸部内面横ハケ調整
56	1031	2390	山茶碗	碗		—	—	7.5	6.7	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面回転糸切り後ナデ・オサエ
57	1023	2395	須恵器	鉢		14.0	—	—	—	0.9	体部内外面回転ヘラ削り後回転ナデ、焼成極めて堅緻で黒褐色
58	1027	2395	須恵器	高杯		—	—	—	12.2	—	脚部内外面回転ナデ
59	1024	2395	須恵器	杯蓋		約12.4	—	—	—	0.8	内外面回転ナデ
60	1025	2395	須恵器	杯身	7世紀	11.8	—	—	—	1.2	体部内外面回転ナデ
61	1028	2395	須恵器	摘み蓋	7世紀後半以降	13.8	—	—	—	0.5	内面・外面下半部回転ナデ、外面上半部回転ヘラ削り
62	1026	2395	須恵器	摘み蓋	7世紀後半以降	—	—	—	—	—	内外面回転ナデ
63	44	2395	土師器	丸底甕	7世紀頃	13.0	13.8	—	—	3.9	胴部内面上半部ナデ、下半部ヘラオサエ・ヘラ削り、底部内面ヘラ削り、胴部～底部外面ハケ調整、底部外面に煤付着
64	1022	2395	土師器	長胴甕		—	—	—	—	—	胴部内面指オサエ、胴部外面ハケ調整、底部相欠はぎ接合痕あり
65	1020	2395	土師器	甕		—	—	—	—	—	摩滅著しい
66	1017	2395	土師器	長胴甕	7世紀頃	—	—	7.2	—	—	胴部下端部外面ハケ調整の後ナデ消し？、底部相欠はぎ接合痕あり
67	1018	2395	土師器	甕		15.9	—	—	—	1.0	口頸部内面横ナデ
68	1019	2395	土師器	甕		13.6	—	—	—	2.2	摩滅著しい
69	1035	2460	土師器	甕		9.4	8.9	2.7	—	2.6	口頸部内面横ハケ調整、胴部内面指ナデ・指オサエ・ヘラオサエ、胴部外面縦～斜めハケ調整、底部内面指オサエ
70	1061	2601	須恵器	壺		—	—	9.6	9.6	—	体部内面・底部内外面回転ナデ、体部外面回転ヘラ削り
71	1062	2611	須恵器	杯	7世紀後半以降	13.9	—	—	—	0.7	体部内外面回転ナデ
72	1036	2652	須恵器	高杯		—	—	—	10.0	—	内外面回転ナデ
73	1037	2677	須恵器	杯	7世紀後半以降	12.6	—	—	—	0.9	体部内外面回転ナデ
74	1038	2677	須恵器	無台杯	7世紀後半以降	—	—	8.6	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面回転ヘラ切り後、粗いオサエ・ナデ
75	1041	2677	須恵器	有台杯	7世紀後半以降	—	—	—	約9.4	—	底部内外面回転ナデ
76	1040	2677	須恵器	摘み蓋	7世紀後半以降	約15.0	—	—	—	0.6	内外面回転ナデ
77	1039	2677	須恵器	摘み蓋	7世紀後半以降	約12.8	—	—	—	0.7	内外面回転ナデ
78	1042	2677	土師器	甕		—	—	—	—	—	口頸部内面横ハケ調整、頸部～胴部外面縦ハケ調整、カマド床直上で出土
79	1043	2677	土師器	長胴甕		—	—	—	—	—	胴部内面指オサエ、胴部外面縦ハケ調整
80	1044	2677	土師器	長胴甕		—	—	—	—	—	胴部内面指オサエ、胴部外面縦ハケ調整
81	1068	3001	須恵器	杯	7世紀後半以降	約11.0	—	—	—	0.8	体部内外面回転ナデ
82	1066	3001	須恵器	有台杯	7世紀後半以降	—	—	—	10.4	—	底部内外面回転ナデ
83	1067	3001	須恵器	鉢		—	—	12.6	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面回転ヘラ削り
84	1065	3001	須恵器	摘み蓋	7世紀後半以降	約14.0	—	—	—	0.4	内外面回転ナデ
85	1069	3001	須恵器	甕		—	—	—	—	—	体部内面同心円当て具痕、体部外面格子タタキ痕

遺物番号	登録番号	出土地点	種別	器種	型式・年代	口径	器高	底径	台径	残存率	所見
86	1070	3001	土師器	長胴甕		約10.0	—	—	—	1.0	口頸部内面横ハケ調整
87	1072	3001	土師器	長胴甕		—	—	—	—	—	胴部内面指オサエ、胴部外面縦ハケ調整
88	1071	3001	土師器	長胴甕	7世紀頃	—	—	—	—	—	胴部内面指オサエ、胴部外面縦ハケ調整、胴部下端部内面ヘラオサエ、胴部下端部外面斜めハケ調整
89	40	3002	須恵器	壺	7世紀以降	12.4	12.2	9.1	—	9.0	内外面回転ナデ、焼成あまい
90	1075	3002	須恵器	無台杯	7世紀後半以降	約10.8	3.8	約5.8	—	0.5	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面ヘラ切り後ナデ
91	1074	3002	須恵器	杯	7世紀後半以降	11.8	—	—	—	0.7	体部内外面回転ナデ
92	1073	3002	須恵器	無台杯	7世紀後半以降	13.6	3.5	7.1	—	1.5	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面ヘラ切り後ナデ
93	1076	3002	須恵器	高杯？		14.8	—	—	—	1.5	体部内外面回転ナデ、あるいは鉢？
94	1077	3002	須恵器	摘み蓋	7世紀後半以降	14.8	3.0	—	—	0.7	外面下半部・内面回転ナデ、内面中央部にオサエを加える、外面上半部回転ヘラ削り、摘み部回転ナデ
95	1078	3002	須恵器	摘み蓋	7世紀後半以降	15.0	—	—	—	1.3	内外面回転ナデ
96	1080	3002	土師器	長胴甕	7世紀頃	—	—	5.5	—	—	胴部内面指オサエ、胴部外面縦ハケ調整、外面に煤付着
97	1081	3002	土師器	長胴甕	7世紀頃	—	—	—	—	—	胴部内面指オサエ、胴部外面縦ハケ調整、胴部下端部外面斜めハケ調整、外面に煤付着
98	1082	3002	土師器	甕		12.5	—	—	—	2.0	胴部内面斜めハケ調整、外面は赤褐色、内面は黒褐色を呈する
99	1079	3002	土師器	甕		12.9	—	—	—	0.1	摩滅著しい、胎土極めて粗い、胴部内面は灰白色を呈する
100	289	3002	石製品	砥石	古代？	—	—	—	—	—	長さ8.30cm、幅9.75cm、厚さ2.20cm、砥面は一面、裏面にも筋状の傷多い、粘板岩製
101	1126	3019	須恵器	摘み蓋	7世紀後半以降	18.0	—	—	—	1.5	外面下半部・内面回転ナデ、外面上半部回転ヘラ削り
102	1129	3099	須恵器	高杯		—	—	—	10.8	—	脚部内外面回転ナデ
103	1083	3124	須恵器	高杯	7世紀頃	16.6	—	—	—	1.8	杯部外面上半部・内面回転ナデ、杯部外面下半部回転ヘラ削り、脚部内面下半部・外面回転ナデ、脚部内面上半部ナデ、焼成あまく灰白色
104	1084	3124	須恵器	高杯	7世紀頃	—	—	—	11.0	—	杯部外面上半部・内面回転ナデ、杯部外面下半部回転ヘラ削り、脚部内面下半部・外面回転ナデ、脚部内面上半部ナデ
105	1085	3124	須恵器	杯？		12.6	—	—	—	2.8	体部内外面回転ナデ
106	1130	3132	須恵器	有台杯	7世紀後半以降	—	—	5.8	5.9	—	内外面回転ナデ
107	1131	3135	須恵器	有台杯	7世紀後半以降	—	—	—	9.9	—	底部内面回転ナデ後ナデを加える、底部外面ヘラ切り後オサエ・ナデ
108	1134	3150	須恵器	摘み蓋	7世紀後半以降	16.4	—	—	—	0.8	内外面回転ナデ
109	1133	3150	須恵器	摘み蓋	7世紀後半以降	13.9	—	—	—	0.8	外面下半部・内面回転ナデ、外面上半部回転ヘラ削り
110	1132	3150	須恵器	無台杯	7世紀後半以降	—	—	5.1	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面ヘラ切り後やや粗いオサエ・ナデ
111	1086	3156	須恵器	無台杯	7世紀	10.4	4.3	5.8	—	0.8	体部内外面・底部内面回転ナデ
112	42	3156	須恵器	無台杯	7世紀	10.6	4.5	6.0	—	4.0	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面ヘラ切り後粗いオサエ・ナデ
113	1087	3156	須恵器	杯	7世紀後半以降	約13.8	—	—	—	0.9	体部内外面回転ナデ
114	1091	3156	須恵器	杯？		10.4	—	—	—	1.0	体部内外面回転ナデ
115	1089	3156	須恵器	有台杯	7世紀後半以降	—	—	—	約8.6	—	底部内外面回転ナデ
116	1088	3156	須恵器	有台杯	7世紀後半以降	—	—	—	約8.4	—	底部内外面回転ナデ
117	43	3156	須恵器	摘み蓋	7世紀後半以降	14.6	3.6	—	—	3.3	外面下半部・内面回転ナデ、内面上半部にオサエ・ナデを加える、外面上半部回転ヘラ削り、摘み部回転ナデ
118	1090	3156	須恵器	摘み蓋	7世紀後半以降	16.0	—	—	—	11.9	外面下半部・内面回転ナデ、内面中央部にオサエ・ナデを加える、外面上半部回転ヘラ削り
119	1095	3156	土師器	長胴甕	7世紀頃	約21.6	—	—	—	1.2	頸部内面横ハケ調整
120	1094	3156	土師器	甕		約17.0	—	—	—	0.7	摩滅著しい
121	1093	3156	土師器	甕		—	—	—	—	—	口頸部内面横ハケ調整、胴部外面縦ハケ調整
122	283	3156	石製品	砥石	古代？	—	—	—	—	—	長さ5.06cm、幅3.20cm、厚さ3.00cm、砥面は一面
123	1096	3159	土師器	甕		—	—	—	—	—	頸部内面横ハケ調整、胴部外面縦ハケ調整、外面に煤付着
124	1135	3184	須恵器	摘み蓋	7世紀後半以降	17.7	—	—	—	0.9	内外面回転ナデ
125	1110	3185	須恵器	杯	7世紀後半以降	13.6	—	—	—	0.8	体部内外面回転ナデ
126	1136	3185	須恵器	杯	7世紀後半以降	14.2	—	—	—	1.0	体部内外面回転ナデ
127	1111	3185	須恵器	無台杯	7世紀後半以降	—	—	4.6	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面ナデ・オサエ
128	1112	3185	須恵器	摘み蓋	7世紀後半以降	14.0	—	—	—	0.8	内面・外面下半部回転ナデ、外面上半部回転ヘラ削り
129	1115	3197	須恵器	摘み蓋	7世紀後半以降	15.8	—	—	—	1.7	外面下半部・内面回転ナデ、外面上半部回転ヘラ削り
130	1116	3197	須恵器	摘み蓋	7世紀後半以降	18.0	—	—	—	0.5	内外面回転ナデ
131	1117	3197	須恵器	摘み蓋	7世紀後半以降	約15.8	—	—	—	0.5	内外面回転ナデ
132	1119	3197	須恵器	硯？		—	—	—	約18.8	—	底部内外面回転ナデ
133	1113	3197	須恵器	無台杯	7世紀後半以降	—	—	7.0	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面ヘラ切り後粗いオサエ・ナデ
134	1114	3197	須恵器	杯	7世紀後半以降	14.0	—	—	—	0.8	体部内外面回転ナデ
135	1120	3197	須恵器	甕		—	—	—	—	—	体部内面同心円当て具痕、体部外面格子タタキ痕
136	1122	3197	土師器	長胴甕		22.2	—	—	—	1.6	口頸部内面横ハケ調整、頸部内面指オサエ、胴部外面縦ハケ調整
137	1121	3197	土師器	長胴甕		19.0	—	—	—	1.4	口頸部内面横ハケ調整、頸部外面指オサエ、胴部外面縦～斜めハケ調整
138	1123	3197	土師器	長胴甕	7世紀頃	—	—	—	—	—	胴部内面指オサエ・ナデ、胴部下端部外面斜めハケ調整、外面に煤付着
139	1137	3214	須恵器	杯身	6世紀頃	11.6	—	—	—	0.8	体部内外面回転ナデ、焼成堅緻で内外面灰赤色
140	727	34	須恵器	甕		19.0	—	—	—	1.0	口頸部内外面回転ナデ
141	730	34	土師器	長胴甕	8世紀前半頃	約17.8	—	—	—	2.0	口頸部内面横ハケ調整
142	729	34	土師器	長胴甕		—	—	—	—	—	胴部内面指オサエ・指ナデ・ヘラオサエ、胴部外面縦ハケ調整、外面に煤付着
143	728	34	土師器	長胴甕		—	—	—	—	—	胴部内面指オサエ・指ナデ、胴部外面縦ハケ調整、外面に煤付着
144	731	34	土師器	長胴甕	8世紀前半頃	—	—	6.3	—	—	胴部と底部の接合部内面指オサエ、胴部下端部外面斜めハケ調整
145	732	34	土師器	長胴甕		—	—	—	—	—	胴部外面縦ハケ調整
146	733	34	土師器	長胴甕		—	—	—	—	—	胴部外面縦ハケ調整
147	818	427	須恵器	摘み蓋	7世紀後半以降	約15.7	—	—	—	0.5	内外面回転ナデ
148	817	427	須恵器	摘み蓋	7世紀後半以降	約17.8	—	—	—	0.5	内外面回転ナデ
149	816	427	須恵器	無台杯	7世紀後半以降	12.2	3.6	6.6	—	3.5	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面ヘラ切り後オサエ・ナデ
150	811	427	土師器	長胴甕	8世紀前半頃	—	—	6.0	—	—	胴部内面指オサエ、胴部外面縦～斜めハケ調整
151	809	427	土師器	長胴甕		—	—	約5.7	—	—	摩滅著しい
152	810	427	土師器	長胴甕		—	—	6.0	—	—	摩滅著しい
153	808	427	土師器	長胴甕		—	—	5.0	—	—	胴部下端部外面縦～斜めハケ調整、底部内面ナデ
154	807	427	土師器	長胴甕		—	—	—	—	—	胴部外面縦ハケ調整
155	1144	427	土師器	長胴甕		—	—	—	—	—	胴部外面縦ハケ調整
156	760	470	須恵器	無台杯	7世紀後半以降	—	—	6.2	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面ヘラ切り後オサエ・ナデ
157	298	470	木製品	柱根	古代？	—	—	—	—	—	長さ8.4cm、幅2.9cm、厚さ2.2cm、ヒノキ
158	761	470	土師器	長胴甕	8世紀前半頃	23.4	—	—	—	0.6	口頸部内面横ハケ調整、口頸部外面指オサエ、胴部内面指オサエ・ヘラオサエ、胴部外面縦ハケ調整、胴部下端部外面斜めハケ調整
159	763	470	土師器	長胴甕	8世紀前半頃	—	—	6.4	—	—	外面に煤付着、158と同一個体の可能性あり
160	764	470	土師器	長胴甕		—	—	—	—	—	胴部外面縦ハケ調整、内外面に煤付着、158と同一個体の可能性あり
161	766	470	土師器	長胴甕		—	—	—	—	—	胴部内面指オサエ・ヘラオサエ、胴部外面縦ハケ調整、158と同一個体の可能性あり
162	769	470	土師器	長胴甕		—	—	—	—	—	胴部内面指オサエ・ヘラオサエ、胴部外面縦ハケ調整、158と同一個体の可能性あり
163	765	470	土師器	長胴甕		—	—	—	—	—	胴部内面指オサエ・ヘラオサエ、胴部外面縦ハケ調整、158と同一個体の可能性あり
164	767	470	土師器	長胴甕		—	—	—	—	—	胴部内面指オサエ・ヘラオサエ、胴部外面縦ハケ調整、158と同一個体の可能性あり
165	768	470	土師器	長胴甕		—	—	—	—	—	胴部内面指オサエ・ヘラオサエ、胴部外面縦ハケ調整、外面に煤付着、158と同一個体の可能性あり
166	907	597	須恵器	有台杯	7世紀後半以降	13.0	3.6	11.0	9.7	1.8	体部内外面・底部内外面回転ナデ
167	851	848	土師器	甕		—	—	—	—	—	頸部内面横ハケ調整、口縁部内面横ナデ
168	850	848	土師器	甕		—	—	—	—	—	底部外面に木葉痕？、底部外面に煤付着
169	855	1136	土師器	長胴甕		—	—	—	—	—	胴部内面指オサエ、胴部外面縦ハケ調整、外面に煤付着
170	854	1136	土師器	長胴甕	8世紀前半頃	12.0	—	—	—	1.3	口頸部内面横ハケ調整
171	935	2009	山茶碗	碗	大洞東	11.8	3.2	5.0	3.6	0.4	体部内外面・底部内面回転ナデ
172	934	2009	山茶碗	碗	大洞東	11.8	3.1	4.8	3.4	1.7	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
173	937	2009	山茶碗	碗	大畑大洞	—	—	5.4	4.6	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕

遺物番号	登録番号	出土地点	種別	器種	型式・年代	口径	器高	底径	台径	残存率	所見
174	936	2009	山茶碗	小皿		7.8	1.9	5.6	—	2.4	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
175	938	2009	古瀬戸	香炉？		11.8	—	—	—	1.8	体部外面上半部・内面に灰釉、体部内外面回転ナデ
176	960	2063	山茶碗	碗	大洞東	12.8	3.4	5.4	4.0	2.5	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
177	961	2063	山茶碗	碗	大洞東	13.7	3.6	6.0	4.8	2.4	体部内外面回転ナデ
178	962	2063	山茶碗	碗		12.8	—	—	—	0.8	体部内外面回転ナデ
179	964	2063	山茶碗	碗	大洞東～脇之島	13.2	—	—	—	1.2	体部内外面回転ナデ
180	963	2063	山茶碗	碗		12.4	—	—	—	1.8	体部内外面回転ナデ
181	959	2063	山茶碗	碗	谷迫間？	—	—	7.2	6.6	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
182	965	2063	山茶碗	碗	大畑大洞～大洞東	—	—	4.2	4.0	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕
183	966	2063	山茶碗	碗	大洞東	—	—	4.0	2.8	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
184	967	2063	山茶碗	小皿		7.6	1.0	4.2	—	3.5	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
185	13	2063	瀬戸美濃連房窯陶器	丸碗	近世中期	12.0	7.0	—	5.8	1.6	内外面に釉釉（黒褐色）、高台端部のみ露胎、口縁部内外面に黄褐色釉、尾呂茶碗
186	942	2103	山茶碗	碗		13.4	—	—	—	1.2	体部内外面回転ナデ
187	941	2103	山茶碗	碗	大洞東	13.1	3.0	5.6	4.8	1.3	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
188	940	2103	山茶碗	碗	谷迫間？	—	—	9.4	9.2	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
189	1047	2116	山茶碗	碗	大洞東	—	—	5.1	4.4	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面回転糸切り痕
190	1046	2134	古瀬戸	天目茶碗	古瀬戸後期	8.6	—	—	—	3.0	体部外面上半部・内面に鉄釉、体部外面下半部回転ヘラ削り、小天目
191	982	2230	山茶碗	小皿	脇之島～生田？	8.6	1.2	5.6	—	9.2	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕・墨書、柱痕部埋土検出面下50cmから出土
192	1050	2266	山茶碗	小皿		7.4	0.8	4.3	—	7.5	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
193	1049	2266	山茶碗	小皿		6.8	1.2	4.3	—	1.5	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
194	986	2295	山茶碗	碗	脇之島	11.8	—	—	—	2.4	体部内外面回転ナデ
195	985	2295	山茶碗	小皿	脇之島～生田	8.1	0.8	4.6	—	4.6	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
196	1052	2301	山茶碗	碗	大洞東～脇之島	12.0	—	—	—	1.0	体部内外面回転ナデ
197	1053	2301	山茶碗	碗	大洞東～脇之島	13.0	—	—	—	1.0	体部内外面回転ナデ
198	1054	2301	山茶碗	小皿		7.6	0.9	3.7	—	1.0	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
199	1051	2301	山茶碗	小皿		7.7	1.0	4.2	—	4.0	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕
200	1055	2332	山茶碗	碗	生田	11.3	2.6	4.6	—	8.0	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕、内面に黒色有機物付着
201	1058	2593	山茶碗	小皿		7.8	1.1	4.2	—	2.0	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕
202	1059	2594	古瀬戸	卸皿	古瀬戸後期	18.8	—	—	—	0.8	体部上半部内外面に灰釉、体部内外面回転ナデ、体部内面に卸目
203	1060	2594	古瀬戸	小鉢	古瀬戸後期	12.6	—	—	—	0.6	体部上半部内外面に灰釉、体部内外面回転ナデ
204	1098	3170	山茶碗	碗	浅間窯下	15.5	5.3	7.6	6.4	11.3	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面回転糸切り後ナデ・オサエ
205	1107	3170	山茶碗	碗	谷迫間？	17.0	—	—	—	1.4	体部内外面回転ナデ
206	1100	3170	山茶碗	碗		—	—	8.5	7.3	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面回転糸切り後ナデ・オサエ
207	1103	3170	山茶碗	碗		16.6	—	—	—	2.5	体部内外面回転ナデ
208	1102	3170	山茶碗	碗	谷迫間？	16.1	—	—	—	2.5	体部内外面回転ナデ、209と同一個体？
209	1101	3170	山茶碗	碗		—	—	9.1	8.5	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面回転糸切り後ナデ・オサエ、208と同一個体？
210	1099	3170	山茶碗	碗	第５型式	16.0	3.8	7.3	7.0	1.3	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面回転糸切り後ナデ・オサエ、南部系
211	1104	3170	山茶碗	碗	第４型式？	15.9	—	—	—	1.5	体部内外面回転ナデ、南部系
212	1105	3170	山茶碗	碗	第４型式？	16.0	—	—	—	1.0	体部内外面回転ナデ、南部系
213	1106	3170	山茶碗	碗		16.1	—	—	—	1.3	体部内外面回転ナデ、南部系
214	1109	3170	山茶碗	碗		約17.0	—	—	—	1.0	体部内外面回転ナデ、南部系
215	1097	3170	須恵器	有台杯	７世紀後半以降	—	—	16.5	14.8	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面回転ヘラ削り
216	726	33	山茶碗	碗		14.0	—	—	—	0.6	体部内外面回転ナデ
217	724	33	山茶碗	碗		12.8	—	—	—	1.0	体部内外面回転ナデ
218	723	33	山茶碗	碗	大洞東～脇之島	12.9	—	—	—	1.0	体部内外面回転ナデ
219	725	33	山茶碗	碗		12.0	—	—	—	0.8	体部内外面回転ナデ
220	722	33	山茶碗	碗	大畑大洞	—	—	5.2	5.0	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に板圧痕
221	721	33	山茶碗	小皿		8.4	—	—	—	2.5	体部内外面回転ナデ
222	720	33	山茶碗	小皿		8.3	1.2	5.4	—	2.0	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
223	719	33	古瀬戸	有耳壺		約17.0	—	—	—	0.7	内外面に灰釉
224	279	33	石製品	石鏃		—	—	—	—	—	長さ2.47cm、幅1.43cm、厚さ0.55cm、有茎鏃、下呂石製
225	740	35	山茶碗	碗	明和？	約13.7	—	—	—	0.9	体部内外面回転ナデ
226	738	35	山茶碗	碗		約13.9	—	—	—	1.0	体部内外面回転ナデ
227	737	35	山茶碗	碗	明和	14.0	—	—	—	1.3	体部内外面回転ナデ
228	739	35	山茶碗	碗	明和？	14.8	—	—	—	1.1	体部内外面回転ナデ
229	736	35	山茶碗	碗	大畑大洞	—	—	4.6	4.4	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕
230	734	35	山茶碗	小皿	大洞東以前	8.0	1.5	4.4	—	4.0	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕、床直上から出土
231	735	35	山茶碗	小皿	大洞東以前	8.2	1.1	5.3	—	4.3	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
232	741	35	山茶碗	小皿		7.8	1.1	4.4	—	1.4	体部内外面・底部内面回転ナデ、カマド状遺構内から出土
233	743	44	山茶碗	碗	明和	14.3	5.7	5.6	5.5	1.0	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
234	745	44	山茶碗	碗	明和	13.7	5.4	6.2	5.0	1.5	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
235	749	44	山茶碗	碗	明和	13.7	5.7	5.2	4.5	1.5	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える
236	24	44	山茶碗	碗	明和	13.6	6.3	5.6	5.2	12.0	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
237	31	44	山茶碗	碗	大畑大洞	13.2	5.5	5.2	4.6	8.0	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面ナデ
238	26	44	山茶碗	碗	明和	14.2	5.8	5.0	5.2	8.0	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に板圧痕
239	746	44	山茶碗	碗	明和	12.8	—	—	—	2.5	体部内外面・底部内面回転ナデ、内面～外面口縁部にかけて黒色有機物付着
240	755	44	山茶碗	碗	明和	13.9	—	—	—	0.8	体部内外面回転ナデ
241	756	44	山茶碗	碗	明和	約14.0	—	—	—	0.5	体部内外面回転ナデ
242	758	44	山茶碗	碗	明和	14.0	—	—	—	1.0	体部内外面回転ナデ
243	748	44	山茶碗	碗	明和？	13.7	—	—	—	2.0	体部内外面回転ナデ
244	759	44	山茶碗	碗	明和～大畑大洞	13.0	—	—	—	1.5	体部内外面回転ナデ
245	754	44	山茶碗	碗	明和	13.8	—	—	—	1.0	体部内外面回転ナデ
246	744	44	山茶碗	碗	明和	—	—	5.6	5.0	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
247	750	44	山茶碗	碗	明和	—	—	5.5	5.2	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕
248	747	44	山茶碗	碗	明和～大畑大洞	—	—	5.0	4.8	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
249	36	44	山茶碗	小碗	明和～大畑大洞	12.0	4.7	4.5	3.6	5.0	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
250	757	44	山茶碗	小皿		8.0	1.4	4.9	—	2.0	体部内外面回転ナデ
251	751	44	山茶碗	小皿	明和	7.8	1.7	4.2	—	5.0	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕
252	752	44	山茶碗	小皿	明和	8.2	1.4	4.6	—	3.0	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕
253	753	44	山茶碗	小皿	明和	7.7	1.4	4.6	—	1.5	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕
254	742	44	山茶碗	小皿		8.0	—	4.2	—	5.5	体部内外面回転ナデ

遺物番号	登録番号	出土地点	種別	器種	型式・年代	口径	器高	底径	台径	残存率	所見
255	45	44	輸入磁器	青磁碗	上田分類Ａ類？	—	—	6.0	—	—	体部内外面に青磁釉(明るい緑色)、体部外面に鎬蓮弁文、龍泉窯系
256	770	58	山茶碗	碗	大畑大洞？	—	—	5.2	4.9	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
257	771	58	古瀬戸	擂鉢	古瀬戸後期	—	—	8.2	—	—	体部内外面・底部内外面に錆釉、体部外面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕、体部内面・底部内面に擂目(単位７本)、体部外面に重ね焼痕、体部外面下端部に紐圧痕、上層から出土
258	1149	58	木製品	曲物桶底板	中世	—	—	—	—	—	推定径17.5cm、厚さ0.8cm、モミ属
259	1147	58	木製品	曲物桶底板	中世	—	—	—	—	—	推定径19.0cm、厚さ1.0cm、ヒノキ
260	1148	58	木製品	曲物桶底板	中世	—	—	—	—	—	推定径19.0cm、厚さ0.7cm、コウヤマキ
261	772	62	山茶碗	碗	脇之島	11.5	2.5	4.1	—	2.7	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
262	773	62	山茶碗	碗		13.0	—	—	—	1.3	体部内外面回転ナデ
263	774	62	山茶碗	碗	大畑大洞	—	—	約4.9	約4.6	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕
264	775	62	山茶碗	碗	大畑大洞？	—	—	5.4	4.8	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕
265	776	62	古瀬戸	盤類		—	—	—	—	—	体部・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、体部外面回転ヘラ削り、脚部指オサエ
266	870	69	山茶碗	碗	脇之島	—	—	5.2	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕、掘形埋土から出土
267	868	85	古瀬戸	卸目付大皿	古瀬戸後期	約33.0	—	—	—	0.6	体部内外面に灰釉、体部内外面回転ナデ
268	781	104	山茶碗	碗	明和？	13.6	—	—	—	1.0	体部内外面回転ナデ
269	778	104	山茶碗	碗	明和	—	—	7.2	5.9	—	体部内外面・底部内面回転ナデ
270	779	104	山茶碗	碗	大畑大洞	—	—	5.0	4.5	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
271	780	104	山茶碗	碗	大畑大洞	—	—	4.2	3.8	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える
272	777	104	山茶碗	碗	明和	—	—	5.2	4.7	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕
273	874	105	山茶碗	碗	脇之島？	13.8	—	—	—	1.3	体部内外面回転ナデ
274	875	124	山茶碗	碗	脇之島	12.6	2.6	5.6	—	5.6	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
275	876	141	山茶碗	碗	白土原	—	—	6.5	5.2	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕
276	877	174	山茶碗	碗	大畑大洞	—	—	4.2	4.0	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
277	783	179	山茶碗	碗	明和	14.1	6.0	5.6	5.3	0.5	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
278	784	179	山茶碗	碗	明和	14.8	5.9	5.6	5.0	1.8	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える
279	789	179	山茶碗	碗	明和～大畑大洞	12.0	—	—	—	2.0	体部内外面回転ナデ
280	788	179	山茶碗	碗	明和？	12.5	—	—	—	3.0	体部内外面回転ナデ
281	787	179	山茶碗	碗	明和～大畑大洞	—	—	5.2	5.0	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕
282	791	179	山茶碗	碗	明和	—	—	4.8	4.7	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕、試掘調査時に出土
283	793	179	山茶碗	碗	明和	—	—	5.5	5.1	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
284	792	179	山茶碗	碗	白土原	—	—	7.2	6.2	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
285	794	179	山茶碗	碗	明和～大畑大洞	—	—	約6.2	約5.9	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕
286	786	179	山茶碗	碗	大畑大洞	—	—	4.4	4.2	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
287	790	179	山茶碗	碗	明和	—	—	5.2	5.0	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
288	785	179	山茶碗	碗	明和	—	—	5.2	4.9	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
289	39	179	山茶碗	小皿	白土原～明和	8.0	2.0	4.8	—	4.0	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
290	34	179	山茶碗	小皿		7.9	1.2	4.2	—	12.0	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
291	797	179	山茶碗	小皿	明和	8.0	1.6	4.9	—	2.0	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕
292	798	179	山茶碗	小皿	明和	7.7	1.4	4.0	—	1.0	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
293	796	179	山茶碗	小皿	明和	7.6	1.5	4.2	—	0.2	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
294	795	179	山茶碗	小皿	明和	7.3	1.3	4.2	—	0.8	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕
295	37	179	山茶碗	小皿		8.2	1.8	4.4	—	7.4	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・墨書
296	30	179	山茶碗	小皿		8.1	1.6	4.2	—	2.0	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕・墨書、櫃下床直上から出土
297	799	179	無釉陶器	鉢		—	—	14.3	13.0	—	体部内面回転ナデ、体部外面回転ヘラ削り、底部外面回転ナデ、内面極めて平滑化
298	801	179	須恵器	摘み蓋	７世紀後半以降	15.7	—	—	—	0.8	内外面回転ナデ、摩滅著しい
299	800	179	須恵器	摘み蓋	７世紀後半以降	13.7	—	—	—	0.8	外面下半部・内面回転ナデ、外面上半部回転ヘラ削り、摩滅著しい
300	878	212	山茶碗	碗	明和	15.4	—	—	—	1.8	体部内外面回転ナデ、柱痕部埋土から出土
301	879	227	山茶碗	碗	大畑大洞	—	—	4.5	4.0	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
302	880	249	山茶碗	碗	明和？	—	—	6.1	5.6	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
303	881	258	山茶碗	碗	大洞東～脇之島	14.0	—	—	—	1.0	体部内外面回転ナデ
304	882	259	山茶碗	碗	明和	14.1	5.7	5.9	5.4	5.0	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕
305	883	265	山茶碗	小皿	明和？	8.0	1.5	4.8	—	5.9	体部内外面・底部内面同転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕、掘形埋土から出土
306	884	268	山茶碗	碗	明和	13.9	5.7	6.2	6.0	3.5	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕、柱痕部埋土から出土
307	885	276	山茶碗	碗	大洞東～脇之島	12.0	—	—	—	1.5	体部内外面回転ナデ
308	888	277	山茶碗	小皿		8.0	1.4	4.6	—	1.5	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕
309	887	277	山茶碗	碗	明和	13.0	—	—	—	1.0	体部内外面回転ナデ、小碗？
310	886	279	山茶碗	碗	大畑大洞？	14.4	—	—	—	2.5	体部内外面回転ナデ
311	869	301	山茶碗	碗		14.4	—	—	—	0.5	体部内外面回転ナデ
312	889	304	山茶碗	碗	明和？	13.4	—	—	—	1.6	体部内外面回転ナデ
313	890	304	山茶碗	碗	大畑大洞？	—	—	6.0	5.8	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える
314	891	370	山茶碗	碗	脇之島	12.0	2.9	4.6	—	2.0	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
315	892	370	山茶碗	碗	脇之島？	14.4	—	—	—	1.3	体部内外面回転ナデ
316	893	394	山茶碗	碗	脇之島	13.1	3.7	6.4	—	1.8	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
317	894	402	古瀬戸	直縁大皿	古瀬戸後期	23.7	5.5	11.0	—	1.8	体部内外面に灰釉、体部内外面・底部内面回転ナデ(体部外面下端部を除く)、体部外面下端部・底部外面回転ヘラ削り、脚の有無不明、柱痕部埋土から出土
318	895	402	山茶碗	小皿		7.3	1.5	4.0	—	0.1	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
319	896	407	輸入磁器	青磁碗	上田分類Ｂ－Ⅱ類	14.0	—	—	—	0.8	体部内外面に青磁釉(やや明るい緑色)、体部外面に蓮弁文、龍泉窯系
320	897	413	山茶碗	碗	脇之島	10.8	—	—	—	2.0	体部内外面回転ナデ
321	899	433	山茶碗	碗	丸石？	14.0	—	—	—	0.9	体部内外面回転ナデ
322	898	433	山茶碗	碗	明和	—	—	5.9	5.2	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
323	819	448	山茶碗	碗	脇之島	13.2	—	—	—	1.0	体部内外面回転ナデ

遺物番号	登録番号	出土地点	種別	器種	型式・年代	口径	器高	底径	台径	残存率	所見
324	822	448	山茶碗	碗	脇之島	—	—	4.9	—	—	底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
325	823	448	山茶碗	小皿		8.4	—	—	—	1.5	体部内外面回転ナデ
326	820	448	山茶碗	小皿		約9.0	1.1	約6.6	—	0.3	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
327	821	448	土師器皿	小皿		7.4	1.0	4.2	—	9.5	底部外面に指オサエ、表面灰白色
328	901	455	山茶碗	碗	脇之島	12.4	—	—	—	1.8	体部内外面回転ナデ、内面に黒色有機物付着
329	900	455	山茶碗	碗	脇之島	12.8	—	—	—	0.8	体部内外面回転ナデ
330	12	455	古瀬戸	平碗	古瀬戸後期	14.4	5.2	6.1	5.6	3.9	体部外面上半部・内面に灰釉、体部外面上半部回転ナデ、体部外面下半部回転ヘラ削り、削り出し高台、体部内面に重ね焼痕
331	902	460	山茶碗	小皿		8.0	—	—	—	1.8	体部内外面回転ナデ
332	867	499	古瀬戸	小鉢	古瀬戸後期	12.6	—	—	—	0.3	体部内外面に灰釉、掘形埋土から出土
333	865	499	山茶碗	碗	脇之島	—	—	4.2	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕、掘形埋土検出面下70cmから出土
334	866	499	山茶碗	碗	大畑大洞？	—	—	5.2	4.8	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕、柱痕部埋土から出土
335	32	499	古瀬戸	鳥形水滴	古瀬戸後期	—	—	3.0	—	—	体部上半部鉄釉、体部下半部ナデ・オサエ、底部外面に回転糸切り痕、頭部と尾部欠損、掘形埋土から出土
336	297	499	木製品	柱根	中世	—	—	—	—	—	長さ41.3cm、幅15.5cm、厚さ14.2cm、クヌギ節
337	903	506	山茶碗	小皿		8.8	1.0	5.5	—	3.3	体部内外面回転ナデ
338	828	509	輸入磁器	青磁碗	上田分類C類	14.0	—	—	—	1.0	体部内外面に青磁釉（くすんだ緑色）、体部外面に雷文帯、龍泉窯系
339	824	509	山茶碗	碗		11.6	—	—	—	1.3	体部内外面回転ナデ
340	825	509	山茶碗	碗	脇之島？	13.2	—	—	—	1.0	体部内外面回転ナデ
341	826	509	山茶碗	碗	大畑大洞	—	—	5.4	4.2	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
342	827	509	古瀬戸	緑釉小皿	古瀬戸後期	10.2	—	—	—	1.3	体部上半部内外面に灰釉、体部内外面回転ナデ
343	29	578	山茶碗	小皿	大洞東以降	7.4	1.5	4.1	—	4.5	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕・墨書、井戸最下層から出土
344	908	606	山茶碗	碗	脇之島～生田	12.0	—	—	—	2.2	体部内外面回転ナデ
345	834	608	山茶碗	碗	脇之島	13.0	3.5	5.3	—	7.0	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
346	845	608	山茶碗	碗	大洞東	11.0	3.8	4.6	3.2	0.4	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
347	835	608	山茶碗	碗	脇之島	13.4	2.9	5.4	—	0.8	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
348	842	608	山茶碗	碗	生田	10.5	2.5	4.9	—	1.0	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
349	837	608	山茶碗	碗	脇之島	13.2	2.8	5.1	—	1.4	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
350	840	608	山茶碗	碗	脇之島	11.5	—	—	—	3.3	体部内外面回転ナデ
351	839	608	山茶碗	碗	脇之島	13.8	2.8	5.0	—	2.5	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
352	841	608	山茶碗	碗	脇之島	12.7	2.9	4.2	—	1.8	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
353	836	608	山茶碗	碗	脇之島	13.4	—	—	—	1.1	体部内外面回転ナデ
354	846	608	山茶碗	碗		12.0	—	—	—	2.0	体部内外面回転ナデ
355	849	608	山茶碗	碗		13.0	—	—	—	2.0	体部内外面回転ナデ
356	838	608	山茶碗	碗	脇之島	—	—	4.6	—	—	体部内外面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
357	844	608	山茶碗	碗	大洞東	—	—	4.3	3.8	—	体部内外面・底部内面回転ナデ
358	843	608	山茶碗	碗	大畑大洞	—	—	5.0	4.5	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕
359	847	608	山茶碗	碗	谷追間？	—	—	8.7	8.2	—	体部内外面・底部内面回転ナデ
360	848	608	山茶碗	碗	第５型式前後	—	—	8.2	7.8	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕、南部系
361	830	608	無釉陶器	鉢	15世紀頃	—	—	10.8	11.0	—	体部内面・底部内外面回転ナデ、体部外面に縦方向のヘラ削り、内面極めて平滑化
362	10	608	古瀬戸	緑釉小皿	古瀬戸後期	9.4	2.1	5.8	—	7.0	体部内面上半部・口縁部外面に灰釉、体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
363	833	608	古瀬戸	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ期	約27.6	—	—	—	0.5	体部内外面に錆釉、体部内外面回転ナデ
364	829	608	古瀬戸	内耳鍋	古瀬戸後期	22.4	—	—	—	1.6	体部内外面に薄い錆釉、体部内外面回転ナデ、胎土粗い、365と同一個体？
365	1143	608	古瀬戸	内耳鍋	古瀬戸後期	—	—	12.2	—	—	全面に薄い錆釉、体部内外面・底部内面回転ナデ（体部外面下端部を除く）、体部外面下端部回転ヘラ削り、胎土粗い、364と同一個体？
366	831	608	古瀬戸	擂鉢	古瀬戸後期？	—	—	11.3	—	—	体部内外面に錆釉、体部内外面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕、体部内面に擂目（単位３本）
367	832	608	古瀬戸	茶釜	古瀬戸後Ⅳ期	10.0	—	11.0	—	3.2	全面に錆釉、体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
368	277	690	石製品	小型方柱状片刃石斧	弥生時代	—	—	—	—	—	長さ7.35cm、幅1.32cm、厚さ1.32cm、無挟式、凝灰岩質砂岩製
369	910	742	山茶碗	碗	生田	—	—	4.8	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
370	911	753	山茶碗	碗		14.4	—	—	—	0.7	体部内外面回転ナデ、内面に黒色有機物付着
371	912	764	土師器皿	小皿		5.2	0.9	4.0	—	1.3	摩滅著しい、表面浅黄色
372	913	784	山茶碗	碗	明和	16.0	—	—	—	1.6	体部内外面回転ナデ
373	914	784	灰釉陶器	碗		—	—	—	8.0	—	体部内外面・底部内外面回転ナデ
374	915	784	灰釉陶器	碗		—	—	—	6.8	—	体部内外面・底部内外面回転ナデ
375	916	794	山茶碗	碗		約15.0	—	—	—	0.8	体部内外面回転ナデ
376	917	803	山茶碗	碗	生田	11.0	—	—	—	1.1	体部内外面回転ナデ、焼成あまく灰白色で軟質
377	856	1274	山茶碗	碗	脇之島	12.5	2.3	5.0	—	2.5	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕・墨書
378	22	1274	山茶碗	碗	脇之島	12.0	3.0	4.3	—	6.5	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
379	858	1274	山茶碗	碗	脇之島～生田	12.0	2.8	4.7	—	1.0	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
380	860	1274	山茶碗	碗		13.0	—	—	—	1.0	体部内外面回転ナデ、玉縁状口縁
381	859	1274	山茶碗	碗		15.0	—	—	—	1.4	体部内外面回転ナデ
382	857	1274	山茶碗	碗	脇之島？	12.2	—	—	—	1.8	体部内外面回転ナデ
383	861	1274	山茶碗	碗	脇之島	12.2	—	—	—	1.0	体部内外面回転ナデ
384	863	1274	古瀬戸	卸目付大皿？		約22.2	—	—	—	0.5	体部内外面に灰釉
385	7	1274	古瀬戸	天目茶碗	古瀬戸後期	11.8	6.1	5.0	4.2	5.3	体部内外面・底部内面に鉄釉、体部外面下半部・底部外面回転ヘラ削り、削り出し高台、内面に茶筅痕
386	862	1274	古瀬戸	袴腰型香炉	古瀬戸後期	11.2	—	—	—	1.8	口縁部内面・体部上半部外面に鉄釉（暗褐色）、体部内外面回転ナデ
387	864	1274	古瀬戸	卸皿		約14.6	—	—	—	0.5	体部内外面に灰釉、体部内面に卸目
388	6	1274	古瀬戸	緑釉小皿	古瀬戸後期	11.1	2.3	6.0	—	4.1	体部上半部内外面に灰釉、体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕
389	5	1274	古瀬戸	折縁深皿	古瀬戸後期	29.7	9.4	12.0	—	1.2	体部上半部内外面に灰釉、体部外面上半部・体部内面・底部内面回転ナデ、体部外面下半部・底部外面回転ヘラ削り、脚部指オサエ
390	46	1274	輸入磁器	白磁壺		—	—	—	—	—	胴部内外面に白磁釉
391	281	1274	石製品	石鏃		—	—	—	—	—	長さ1.27cm、幅0.82cm、厚さ0.22cm、有茎鏃、石英製？
392	923	1310	山茶碗	碗	大畑大洞	12.6	—	—	—	1.0	体部内外面回転ナデ
393	28	1384	山茶碗	小皿		7.9	1.6	4.5	—	12.0	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕、内面に重ね焼片融着
394	924	1402	山茶碗	碗	大畑大洞	—	—	5.1	4.6	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
395	624	4004	古瀬戸	直縁大皿	古瀬戸後期	29.2	—	—	—	0.8	体部上半部内外面に灰釉、体部外面上半部・内面回転ナデ、体部外面下半部回転ヘラ削り
396	625	4012	山茶碗	碗	白土原～明和	—	—	6.2	5.8	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
397	626	4023	山茶碗	碗		12.6	—	—	—	1.2	体部内外面回転ナデ
398	47	4023	輸入磁器	青白磁蓋		4.8	—	—	—	2.0	外面に白磁釉（白色）、外面に花文、小壺か合子の蓋
399	629	4042	山茶碗	小皿		9.4	—	—	—	1.3	体部内外面回転ナデ
400	631	4051	山茶碗	碗		12.7	—	—	—	0.8	体部内外面回転ナデ
401	632	4058	山茶碗	碗	脇之島	—	—	4.4	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
402	633	4062	山茶碗	碗		12.3	—	—	—	1.0	体部内外面回転ナデ
403	634	4066	山茶碗	碗	窯洞	—	—	6.2	6.0	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
404	635	4067	山茶碗	碗	大畑大洞	—	—	5.1	5.0	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
405	636	4071	山茶碗	碗		11.5	—	—	—	0.6	体部内外面回転ナデ
406	637	4074	古瀬戸	緑釉小皿	古瀬戸後期	約11.0	—	—	—	0.5	口縁部内外面に灰釉、体部内外面回転ナデ
407	638	4076	山茶碗	碗	大畑大洞	—	—	4.7	4.4	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
408	639	4078	輸入磁器	青磁碗	上田分類Ｂ－Ⅰ類？	—	—	—	—	—	体部内外面に青磁釉（明るい緑色）、体部外面に鎬蓮弁文、龍泉窯系
409	1153	4090	中世土器煮炊具	伊勢型鍋		—	—	—	—	—	摩滅著しい

遺物番号	登録番号	出土地点	種別	器種	型式・年代	口径	器高	底径	台径	残存率	所見
410	640	4098	山茶碗	小皿		8.0	—	—	—	1.6	体部内外面回転ナデ
411	641	4109	山茶碗	碗		12.0	—	—	—	1.1	体部内外面回転ナデ
412	644	4133	山茶碗	小皿		7.2	0.9	4.6	—	1.5	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕
413	643	4133	山茶碗	碗	脇之島	12.3	3.5	5.3	—	1.5	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
414	645	4133	古瀬戸	天目茶碗	古瀬戸後期？	—	—	6.0	—	—	体部内外面・底部内面に鉄釉（外面下端部を除く）、体部外面下端部回転ヘラ削り？
415	642	4137	古瀬戸	緑釉小皿	古瀬戸後Ⅳ期	10.8	2.6	5.5	—	3.5	体部上半部内外面に灰釉、体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
416	646	4140	山茶碗	碗		12.0	—	—	—	1.5	体部内外面回転ナデ
417	647	4144	山茶碗	碗		13.0	—	—	—	1.0	体部内外面回転ナデ
418	648	4151	山茶碗	碗	窯洞	—	—	6.0	5.8	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
419	651	4174	山茶碗	碗		12.9	—	—	—	1.0	体部内外面回転ナデ
420	652	4176	山茶碗	碗		14.1	—	—	—	1.0	体部内外面回転ナデ
421	653	4180	山茶碗	碗	白土原？	—	—	6.6	5.8	—	体部内外面・底部内面回転ナデ
422	654	4192	土師器皿	中皿		約11.4	—	—	—	1.2	摩滅著しい、表面灰白色
423	655	4197	古瀬戸	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ新	約23.4	—	—	—	0.8	体部内外面に錆釉、体部内外面回転ナデ
424	656	4201	山茶碗	碗	大洞東	12.0	5.0	4.4	3.8	1.5	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕
425	657	4201	山茶碗	碗	大洞東	—	—	4.5	4.0	—	体部内外面・底部内面回転ナデ
426	658	4212	山茶碗	碗		11.7	—	—	—	1.0	体部内外面回転ナデ
427	659	4241	山茶碗	小皿		—	—	5.0	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
428	660	4241	山茶碗	小皿		約9.0	1.1	約6.2	—	0.8	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
429	661	4242	山茶碗	碗		12.9	—	—	—	1.3	体部内外面回転ナデ
430	662	4242	山茶碗	小皿		7.0	—	—	—	1.5	体部内外面回転ナデ
431	663	4244	山茶碗	小皿		—	—	5.1	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕
432	521	4250	山茶碗	碗	生田	10.7	2.9	3.7	—	1.9	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
433	533	4250	山茶碗	碗	脇之島	13.1	2.5	6.2	—	1.9	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕、焼成あまく灰白色で軟質
434	540	4250	山茶碗	碗	大畑大洞？	—	—	5.4	5.0	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
435	27	4250	山茶碗	碗	生田	11.1	2.7	4.0	—	2.7	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
436	530	4250	山茶碗	碗	生田	約10.8	—	—	—	0.6	体部内外面回転ナデ、上層から出土
437	539	4250	山茶碗	碗	大畑大洞？	—	—	5.8	5.2	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
438	534	4250	山茶碗	碗	生田	11.3	3.1	5.3	—	1.6	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕、内面と口縁部外面に黒色有機物付着
439	526	4250	山茶碗	碗	生田	11.4	—	—	—	1.2	体部内外面回転ナデ
440	524	4250	山茶碗	碗	生田	10.4	—	—	—	3.0	体部内外面回転ナデ
441	537	4250	山茶碗	碗	大畑大洞	—	—	5.0	4.4	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
442	531	4250	山茶碗	碗	脇之島？	12.2	—	—	—	1.2	体部内外面回転ナデ、上層から出土
443	527	4250	山茶碗	碗	脇之島～生田	12.5	—	—	—	1.3	体部内外面回転ナデ、上層から出土
444	528	4250	山茶碗	碗	生田	9.0	—	—	—	1.9	体部内外面回転ナデ、ゆがみ大きい、上層から出土
445	535	4250	山茶碗	碗	脇之島	—	—	4.4	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕、上層から出土
446	523	4250	山茶碗	碗	生田	11.2	—	—	—	4.3	体部内外面回転ナデ、上層から出土
447	525	4250	山茶碗	碗		13.3	—	—	—	1.1	体部内外面回転ナデ、上層から出土
448	536	4250	山茶碗	碗	脇之島	—	—	5.0	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕、上層から出土
449	532	4250	山茶碗	碗	脇之島	—	—	5.0	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕、上層から出土
450	529	4250	山茶碗	碗	脇之島	—	—	4.9	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕、上層から出土
451	541	4250	山茶碗	小皿		8.3	1.1	6.1	—	1.7	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
452	522	4250	山茶碗	小皿		—	—	4.8	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕、上層から出土
453	538	4250	山茶碗	小皿？		—	—	4.8	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
454	544	4250	無釉陶器	鉢		—	—	—	9.0	—	体部内面・底部内外面回転ナデ、体部外面横方向のヘラ削り、内面極めて平滑化、上層から出土
455	543	4250	古瀬戸	盤類	古瀬戸後期	—	—	15.4	—	—	体部上半部内外面に灰釉、体部内面・底部内面回転ナデ、体部外面下半部・底部外面回転ヘラ削り、脚部指オサエ
456	542	4250	土師器皿	小皿		5.8	—	—	—	1.2	摩滅著しい、表面灰白色
457	545	4250	瀬戸美濃連房窯陶器	染付碗	近世後期	11.8	—	—	—	1.6	体部内外面に透明釉、体部内外面に呉須絵、丸碗、上層から出土
458	546	4250	瀬戸美濃連房窯陶器	碗		10.0	—	—	—	1.4	体部内外面に灰釉（灰白色）
459	282	4250	石製品	砥石	中世？	—	—	—	—	—	長さ9.42cm、幅2.27cm、厚さ5.06cm、表面のほか左側面・上端面・裏面にも砥面としての使用痕あり
460	664	4258	山茶碗	碗	脇之島	約12.0	—	—	—	1.3	体部内外面回転ナデ
461	666	4264	山茶碗	碗	脇之島～生田	11.7	—	—	—	3.2	体部内外面回転ナデ
462	667	4264	古瀬戸	直縁大皿	古瀬戸後期	19.0	—	—	—	1.1	体部上半部内外面に灰釉、体部内外面回転ナデ
463	665	4266	土師器皿	大皿		約14.0	—	—	—	1.0	摩滅著しい、表面灰白色
464	668	4283	山茶碗	碗		約11.9	—	—	—	1.0	体部内外面回転ナデ
465	557	4294	山茶碗	碗		約14.0	—	—	—	0.7	体部内外面回転ナデ
466	556	4294	山茶碗	碗	脇之島	—	—	4.0	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
467	558	4294	輸入磁器	青磁碗		—	—	—	7.3	—	底部内面・底部外面の高台外面まで青磁釉（ややくすんだ緑色）、底部外面の調整粗い、龍泉窯系
468	548	4295	山茶碗	碗	生田	10.0	—	—	—	2.6	体部内外面回転ナデ
469	547	4295	山茶碗	碗	生田	9.9	—	—	—	2.7	体部内外面回転ナデ
470	550	4295	山茶碗	碗	大洞東	—	—	4.2	4.0	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
471	551	4295	山茶碗	碗		11.7	—	—	—	1.1	体部内外面回転ナデ
472	552	4295	山茶碗	小皿		8.0	1.3	4.9	—	1.0	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
473	549	4295	山茶碗	碗	脇之島	—	—	4.0	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
474	555	4295	土師器皿	中皿		9.6	—	—	—	1.5	体部外面に指オサエ、表面灰白色
475	554	4295	土師器皿	中皿		11.0	—	—	—	1.2	体部外面に指オサエ、表面灰白色
476	553	4295	瀬戸美濃連房窯陶器	火入れ	近世後期	12.7	—	—	—	1.2	口縁部内面・体部外面に灰釉（淡く明るい緑色）、体部外面に印花文
477	560	4298	山茶碗	碗	脇之島～生田	11.8	2.4	5.6	—	2.0	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
478	559	4298	山茶碗	碗	生田	9.7	2.4	4.6	—	3.7	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
479	564	4298	山茶碗	碗	生田	10.0	—	—	—	1.6	体部内外面回転ナデ、体部内外面に黒色有機物付着
480	563	4298	山茶碗	碗	生田	9.0	—	—	—	1.3	体部内外面回転ナデ
481	572	4298	山茶碗	碗	生田	10.6	—	—	—	1.7	体部内外面回転ナデ、焼成あまく灰白色で軟質
482	562	4298	山茶碗	碗		14.0	—	—	—	0.5	体部内外面回転ナデ
483	569	4298	山茶碗	碗	明和	—	—	5.0	4.6	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
484	568	4298	山茶碗	碗	大畑大洞～明和	—	—	4.6	4.6	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
485	567	4298	山茶碗	碗	大畑大洞	—	—	4.8	4.6	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕
486	565	4298	山茶碗	碗	脇之島～生田	—	—	3.8	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ
487	566	4298	山茶碗	碗	脇之島～生田	—	—	4.2	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
488	561	4298	山茶碗	碗	脇之島	—	—	3.8	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
489	570	4298	山茶碗	小皿		8.2	1.4	5.0	—	0.1	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
490	571	4298	無釉陶器	鉢		約26.0	—	—	—	0.5	体部内外面回転ナデ
491	573	4298	土師器皿	小皿		8.1	—	—	—	1.2	摩滅著しい、表面灰白色
492	574	4298	土師器皿	小皿		8.8	1.2	6.0	—	1.0	摩滅著しい、表面黄灰色
493	575	4298	古瀬戸	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ期	25.6	—	—	—	0.5	体部内外面に錆釉、体部内外面回転ナデ

遺物番号	登録番号	出土地点	種別	器種	型式・年代	口径	器高	底径	台径	残存率	所見
494	576	4298	古瀬戸	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ期	24.0	—	—	—	0.6	体部内外面に錆釉、体部内外面回転ナデ
495	577	4298	古瀬戸	平碗	古瀬戸後期	15.4	—	—	—	0.5	体部外面上半部・内面に灰釉
496	578	4298	古瀬戸	有耳壺		—	—	—	—	—	体部内外面に灰釉、体部内外面回転ナデ
497	670	4299	古瀬戸	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ新	約27.4	—	—	—	1.1	体部内外面に錆釉、体部内外面回転ナデ
498	669	4299	山茶碗	碗	生田	11.0	2.6	3.7	—	4.3	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
499	594	4302	山茶碗	碗	生田	9.9	2.3	3.1	—	9.0	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
500	584	4302	山茶碗	碗		12.0	—	—	—	0.9	体部内外面回転ナデ
501	579	4302	山茶碗	碗		11.9	—	—	—	1.0	体部内外面回転ナデ
502	586	4302	山茶碗	碗	脇之島～生田	11.6	2.8	4.6	—	3.2	調整不明、焼成あまく灰白色で軟質
503	585	4302	山茶碗	碗		13.3	—	—	—	0.9	体部内外面回転ナデ
504	581	4302	山茶碗	碗	明和	—	—	5.8	5.5	—	体部内外面回転ナデ
505	582	4302	山茶碗	小皿		7.3	1.1	4.4	—	2.2	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
506	587	4302	土師器Ⅲ	小皿		6.4	0.8	3.0	—	3.8	摩滅著しい、表面浅黄橙色
507	588	4302	古瀬戸	折縁深Ⅲ？	古瀬戸後期	—	—	15.7	—	—	体部内面・体部外面上半部・底部内面に灰釉、体部内面・体部外面上半部・底部内面回転ナデ、体部外面下半部・底部外面回転ヘラ削り
508	583	4302	古瀬戸	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ期	—	—	9.1	—	—	内外面に錆釉、体部内外面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕、体部内面・底部内面に擂目（単位10本）、体部内外面に重ね焼き痕
509	673	4305	山茶碗	碗	生田	—	—	3.9	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
510	590	4312	山茶碗	碗		12.8	—	—	—	0.8	体部内外面回転ナデ
511	589	4312	山茶碗	碗		14.4	—	—	—	1.2	体部内外面回転ナデ
512	591	4312	古瀬戸	擂鉢型小鉢	古瀬戸後期	18.4	—	—	—	0.5	体部内外面に錆釉、体部内外面回転ナデ
513	674	4316	古瀬戸	擂鉢		—	—	10.0	—	—	内外面に錆釉、体部外面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕、体部内面に擂目（単位13本）
514	676	4400	山茶碗	碗	脇之島	12.2	—	—	—	0.8	体部内外面回転ナデ、内面に黒色有機物付着、掘形埋土から出土
515	675	4400	山茶碗	碗		11.2	—	—	—	0.7	体部内外面回転ナデ、掘形埋土から出土
516	677	4401	山茶碗	碗	大洞東	—	—	5.2	4.2	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕
517	679	4401	山茶碗	碗	明和	—	—	5.4	4.8	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
518	678	4401	山茶碗	碗	脇之島～生田	—	—	3.8	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
519	680	4403	山茶碗	碗	脇之島	—	—	4.2	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
520	681	4403	古瀬戸	盤類	古瀬戸後期	—	—	12.0	—	—	体部内面・底部内面回転ナデ、体部外面下半部・底部外面回転ヘラ削り、脚部指オサエ
521	593	4405	山茶碗	碗	脇之島	11.2	2.9	5.2	—	4.5	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
522	596	4405	山茶碗	碗	脇之島	11.7	2.7	3.9	—	6.0	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
523	595	4405	山茶碗	碗	脇之島～生田	11.6	2.4	4.7	—	4.4	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
524	597	4405	山茶碗	碗	脇之島？	11.8	—	—	—	0.9	体部内外面回転ナデ
525	598	4405	山茶碗	碗	生田	10.2	—	—	—	1.0	体部内外面回転ナデ
526	600	4405	古瀬戸	碗形鉢	古瀬戸後期	23.5	—	—	—	0.9	体部内外面に灰釉、体部内外面回転ナデ
527	599	4405	輸入磁器	青磁碗	上田分類C－Ⅱ類	11.7	—	—	—	2.8	体部内外面に青磁釉（明るい緑色）、体部外面に雷文帯・蓮弁文、龍泉窯系
528	601	4405	土師器Ⅲ	中皿		13.0	—	—	—	1.6	摩滅著しい、表面灰白色
529	602	4405	土師器Ⅲ	中皿		約10.0	1.6	約5.1	—	0.5	摩滅著しい、表面灰白色
530	285	4405	石製品	硯	中世？	—	—	—	—	—	残存長5.0cm、残存幅6.2cm、厚さ0.8cm、表面に使用痕、粘板岩製
531	682	4406	山茶碗	碗		13.4	—	—	—	0.8	体部内外面回転ナデ
532	683	4407	山茶碗	碗		—	—	5.3	5.2	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
533	685	4408	山茶碗	碗		12.0	—	—	—	1.0	体部内外面回転ナデ、焼成ややあまく浅黄橙色で軟質
534	299	4408	木製品	柱根	中世	—	—	—	—	—	長さ35.0cm、幅19.0cm、厚さ15.9cm、クリ
535	687	4409	土師器Ⅲ	中皿		10.8	—	—	—	1.2	体部外面に指オサエ、表面灰白色
536	686	4409	土師器Ⅲ	小皿		6.6	1.3	2.4	—	6.7	内外面調整痕なし、表面褐灰色
537	688	4409	古瀬戸	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ新～大窯	約28.0	—	—	—	0.7	体部内外面に錆釉
538	692	4410	古瀬戸	壺	古瀬戸後期？	—	—	—	—	—	体部外面に鉄釉（暗褐色）、体部内面回転ナデ
539	689	4410	山茶碗	碗	脇之島	—	—	4.4	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
540	690	4410	土師器Ⅲ	小皿		6.6	0.6	4.6	—	2.0	体部外面に指オサエ、表面にぶい黄橙色
541	691	4410	土師器Ⅲ	中皿		10.6	—	—	—	1.1	摩滅著しい、表面浅黄橙色
542	696	4413	山茶碗	碗		11.1	—	—	—	0.8	体部内外面回転ナデ
543	695	4413	山茶碗	小皿		8.6	0.8	4.3	—	3.5	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
544	296	4413	木製品	柱根	中世	—	—	—	—	—	長さ31.4cm、幅23.0cm、厚さ11.5cm、下端面に加工痕、クリ
545	693	4414	古瀬戸	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ新	約25.6	—	—	—	0.4	体部内外面に錆釉
546	694	4414	山茶碗	碗	脇之島～生田	—	—	4.1	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
547	697	4416	山茶碗	碗	生田	—	—	4.7	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
548	700	4417	古瀬戸	擂鉢	古瀬戸後期	—	—	8.6	—	—	内外面に錆釉、体部外面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕、体部外面下端部に指圧痕、体部内面に擂目（単位10本）
549	699	4417	古瀬戸	擂鉢	古瀬戸後期	—	—	10.0	—	—	内外面に錆釉、体部外面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕、体部内外面に重ね焼痕、体部・底部内面に擂目（単位10本）
550	701	4418	山茶碗	碗	生田	12.4	—	—	—	1.0	体部内外面回転ナデ
551	702	4422	古瀬戸	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ期	32.4	—	—	—	2.6	体部内外面に錆釉、体部内外面回転ナデ
552	707	4424	土師器Ⅲ	小皿		8.6	—	—	—	2.0	体部外面に指オサエ、表面灰白色
553	703	4425	古瀬戸	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ新	31.1	—	—	—	0.7	体部内外面に錆釉、体部内外面回転ナデ
554	704	4425	古瀬戸	小壺？	古瀬戸後期	—	—	4.6	—	—	体部内外面・底部内面に鉄釉、体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
555	706	4425	古瀬戸	香炉？	古瀬戸後期？	—	—	—	—	—	体部外面に灰釉、体部内面回転ナデ、体部外面に刻文
556	705	4425	古瀬戸	緑釉小皿	古瀬戸後期	約10.0	—	—	—	0.6	体部上半部内外面に灰釉、体部内外面回転ナデ
557	1145	4426	木製品	柱根	中世	—	—	—	—	—	長さ37.0cm、幅20.5cm、厚さ20.3cm、クリ
558	708	4427	山茶碗	碗	生田	約11.4	—	—	—	0.6	体部内外面回転ナデ、焼成あまく灰白色で軟質
559	709	4434	山茶碗	碗	生田	11.4	—	—	—	0.7	体部内外面回転ナデ
560	603	4437	山茶碗	碗	生田	10.4	3.1	4.1	—	4.0	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕、やや焼成あまく灰白色でやや軟質
561	604	4437	山茶碗	碗	脇之島～生田	—	—	4.0	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
562	606	4437	土師器Ⅲ	中皿		10.0	—	—	—	2.5	体部外面に指オサエ、表面灰白色
563	605	4437	土師器Ⅲ	大皿		14.0	—	—	—	1.8	体部外面に指オサエ、表面灰白色
564	710	4444	山茶碗	碗	脇之島	12.3	2.9	5.2	—	1.5	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
565	711	4448	古瀬戸	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ新	29.2	—	—	—	1.2	体部内外面に錆釉、体部内外面回転ナデ
566	712	4452	山茶碗	碗		12.2	—	—	—	1.1	体部内外面回転ナデ
567	713	4453	土師器Ⅲ	小皿		7.6	1.9	3.8	—	3.7	摩滅著しい、口縁部に黒色有機物付着、表面浅黄橙色
568	714	4455	山茶碗	碗	大洞東	—	—	4.1	3.8	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
569	607	4531	山茶碗	碗		12.2	—	—	—	2.2	体部内外面回転ナデ
570	608	4531	山茶碗	碗		13.5	—	—	—	1.5	体部内外面回転ナデ
571	612	4531	山茶碗	碗	生田	11.2	—	—	—	0.8	体部内外面回転ナデ、遺構北半から出土
572	610	4531	山茶碗	碗	脇之島～生田	12.2	—	—	—	0.5	体部内外面回転ナデ
573	613	4531	山茶碗	碗		12.4	—	—	—	0.8	体部内外面回転ナデ、遺構北半から出土
574	611	4531	山茶碗	碗		10.8	—	—	—	0.8	体部内外面回転ナデ
575	614	4531	山茶碗	碗	大洞東	—	—	5.0	4.1	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、遺構北半から出土
576	609	4531	山茶碗	碗	大洞東	—	—	6.0	3.8	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕、遺構北半から出土
577	618	4531	古瀬戸	緑釉小皿	古瀬戸後期	12.4	—	—	—	1.2	体部外面上半部・内面に灰釉、体部外面回転ナデ、遺構北半から出土
578	616	4531	古瀬戸	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ新	27.2	—	—	—	0.8	体部内外面に錆釉、体部内外面回転ナデ、遺構北半から出土
579	617	4531	古瀬戸	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ期	28.6	—	—	—	0.8	体部内外面に錆釉、体部内外面回転ナデ、遺構北半から出土
580	619	4531	古瀬戸	卸目付大皿	古瀬戸後期	—	—	10.4	—	—	体部外面上半部回転ナデ、体部外面下半部・底部外面回転ヘラ削り、体部内面卸目、底部内面平滑化、遺構北半から出土
581	615	4531	土師器Ⅲ	小皿		7.0	1.1	4.2	—	2.2	摩滅著しい、表面黄灰色、遺構北半から出土
582	621	4533	山茶碗	碗	生田	10.6	2.6	4.4	—	2.0	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕
583	622	4533	山茶碗	碗	脇之島～生田	—	—	5.6	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
584	623	4533	古瀬戸	天目茶碗	古瀬戸後期	12.6	—	—	—	1.8	体部内外面に鉄釉（橙色～黒褐色）
585	307	5001	山茶碗	碗	脇之島	13.6	3.3	5.8	—	1.4	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕

遺物番号	登録番号	出土地点	種別	器種	型式・年代	口径	器高	底径	台径	残存率	所見
586	308	5001	山茶碗	碗	脇之島	12.4	3.5	5.8	—	0.4	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕、ゆがみ大きい
587	321	5001	山茶碗	碗		13.2	—	—	—	0.8	体部内外面回転ナデ
588	315	5001	山茶碗	碗		13.0	—	—	—	1.6	体部内外面回転ナデ
589	317	5001	山茶碗	碗		12.8	—	—	—	1.2	体部内外面回転ナデ
590	316	5001	山茶碗	碗		約12.8	—	—	—	1.5	体部内外面回転ナデ
591	318	5001	山茶碗	碗		12.6	—	—	—	1.4	体部内外面回転ナデ
592	319	5001	山茶碗	碗		11.8	—	—	—	0.8	体部内外面回転ナデ
593	312	5001	山茶碗	碗		12.2	—	—	—	2.4	体部内外面回転ナデ
594	313	5001	山茶碗	碗		12.4	—	—	—	2.3	体部内外面回転ナデ
595	320	5001	山茶碗	碗		12.6	—	—	—	0.8	体部内外面回転ナデ
596	310	5001	山茶碗	碗	脇之島	—	—	6.0	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
597	323	5001	山茶碗	碗	窯洞？	—	—	7.5	6.2	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕
598	322	5001	山茶碗	碗	大畑大洞	—	—	5.6	4.6	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
599	324	5001	山茶碗	碗	明和？	—	—	6.2	5.2	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
600	309	5001	山茶碗	碗	脇之島	—	—	6.2	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
601	305	5001	山茶碗	小皿		8.0	1.7	4.0	—	8.2	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
602	300	5001	山茶碗	小皿		8.2	1.4	5.0	—	4.0	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕
603	311	5001	山茶碗	小皿		8.4	1.8	5.0	—	0.5	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
604	306	5001	山茶碗	小皿		7.8	1.7	4.8	—	1.4	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
605	302	5001	山茶碗	小皿		8.6	1.6	4.4	—	4.0	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕
606	303	5001	山茶碗	小皿		8.8	—	—	—	2.8	体部内外面回転ナデ
607	301	5001	山茶碗	小皿		8.2	1.1	6.4	—	4.0	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
608	304	5001	山茶碗	小皿		8.8	—	—	—	2.3	体部内外面回転ナデ
609	314	5001	古瀬戸	縁釉小皿	古瀬戸後期	10.6	—	—	—	0.7	体部内面上半部・外面口縁部に灰釉、体部内外面回転ナデ
610	325	5001	古瀬戸	有耳壺	古瀬戸後期？	9.6	—	—	—	1.4	内外面に灰釉、口頸部内外面回転ナデ
611	330	5003	山茶碗	碗		13.4	—	—	—	0.7	体部内外面回転ナデ
612	329	5003	山茶碗	碗		12.4	—	—	—	1.2	体部内外面回転ナデ
613	332	5003	山茶碗	碗		11.8	—	—	—	1.0	体部内外面回転ナデ
614	328	5003	山茶碗	碗		13.4	—	—	—	1.2	体部内外面回転ナデ
615	327	5003	山茶碗	小皿		8.4	1.3	5.2	—	1.2	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
616	333	5003	古瀬戸	縁釉小皿	古瀬戸後期	11.0	2.1	5.4	—	3.1	体部内面上半部・口縁部外面に灰釉、体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕、内面平滑化
617	334	5003	古瀬戸	縁釉小皿	古瀬戸後期	11.6	—	—	—	0.9	体部内面上半部・口縁部外面に灰釉、体部内外面・底部内面回転ナデ
618	336	5003	古瀬戸	縁釉小皿	古瀬戸後期	10.8	—	—	—	0.6	体部内面上半部・口縁部外面に灰釉、体部内外面回転ナデ
619	337	5003	古瀬戸	腰折皿	古瀬戸後期	約10.0	—	—	—	0.9	体部内面・口縁部外面に灰釉、体部内外面回転ナデ
620	335	5003	古瀬戸	縁釉小皿	古瀬戸後期	10.8	—	—	—	1.1	体部内面上半部・口縁部外面に灰釉、体部内外面回転ナデ
621	339	5003	土師器皿	中皿		12.4	—	—	—	1.0	体部外面に指オサエ、口縁部に黒色有機物付着、表面灰白色
622	338	5003	土師器皿	小皿		7.0	—	4.6	—	0.4	摩滅著しい、表面浅黄橙色
623	340	5004	山茶碗	碗		約13.0	—	—	—	0.6	体部内外面回転ナデ
624	341	5004	土師器皿	小皿		約8.0	—	—	—	1.1	摩滅著しい、表面浅黄橙色
625	342	5004	土師器皿	小皿		4.6	—	—	—	2.0	摩滅著しい、表面浅黄橙色
626	343	5005	山茶碗	碗	脇之島	13.7	2.8	6.4	—	2.1	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
627	344	5005	山茶碗	碗	脇之島	11.0	2.7	5.2	—	2.5	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
628	346	5005	山茶碗	碗		11.0	—	—	—	1.8	体部内外面回転ナデ
629	347	5005	山茶碗	碗		約10.6	—	—	—	1.5	体部内外面回転ナデ
630	345	5005	山茶碗	小皿		約8.0	1.2	約4.6	—	0.5	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
631	348	5005	無釉陶器	鉢		約21.0	—	—	—	0.5	体部内外面回転ナデ
632	3	5005	古瀬戸	縁釉小皿	古瀬戸後期	9.2	2.1	4.0	—	4.5	体部内面上半部・口縁部外面に灰釉、体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕、内面平滑化
633	38	5006	山茶碗	碗	明和～大畑大洞？	13.8	5.9	5.2	5.1	1.5	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
634	349	5006	山茶碗	碗	大洞東	13.6	4.7	5.0	4.6	1.5	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
635	350	5006	山茶碗	碗	大畑大洞	12.2	5.0	4.4	3.9	5.0	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕
636	23	5006	山茶碗	碗	脇之島	11.5	3.2	4.2	—	4.2	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
637	357	5006	山茶碗	碗	生田	11.3	3.0	3.6	—	2.5	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
638	358	5006	山茶碗	碗		12.8	—	—	—	1.4	体部内外面回転ナデ
639	362	5006	山茶碗	碗		12.2	—	—	—	1.1	体部内外面回転ナデ
640	363	5006	山茶碗	碗		13.4	—	—	—	1.2	体部内外面回転ナデ
641	352	5006	山茶碗	碗	大畑大洞？	13.0	—	—	—	2.0	体部内外面・底部内面回転ナデ
642	364	5006	山茶碗	碗	明和？	13.6	—	—	—	1.1	体部内外面回転ナデ
643	372	5006	山茶碗	碗		14.0	—	—	—	1.0	体部内外面回転ナデ
644	360	5006	山茶碗	碗		12.2	—	—	—	1.5	体部内外面回転ナデ
645	370	5006	山茶碗	碗		13.6	—	—	—	0.9	体部内外面回転ナデ
646	368	5006	山茶碗	碗		約13.2	—	—	—	1.2	体部内外面回転ナデ
647	361	5006	山茶碗	碗		11.2	—	—	—	2.3	体部内外面回転ナデ
648	366	5006	山茶碗	碗	白土原？	—	—	6.6	6.6	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕
649	355	5006	山茶碗	碗	丸石？	—	—	7.5	6.5	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
650	353	5006	山茶碗	碗	大洞東	—	—	4.5	4.4	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
651	356	5006	山茶碗	碗		—	—	5.6	5.0	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
652	351	5006	山茶碗	碗	脇之島	—	—	5.0	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
653	365	5006	山茶碗	碗？		—	—	6.0	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕、あるいは小皿？
654	359	5006	山茶碗	碗	脇之島	—	—	5.6	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
655	354	5006	山茶碗	碗	大畑大洞	—	—	4.9	4.6	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・墨書
656	371	5006	山茶碗	碗	大畑大洞	—	—	5.0	4.7	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・墨書
657	367	5006	山茶碗	小皿		7.8	1.0	4.8	—	1.8	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
658	369	5006	山茶碗	小皿		7.6	—	—	—	2.0	体部内外面回転ナデ
659	377	5006	山茶碗	小皿		6.6	—	—	—	1.5	体部内外面回転ナデ
660	373	5006	古瀬戸	折縁深皿	古瀬戸後期	約26.3	—	—	—	0.6	体部内外面に灰釉、体部内外面回転ナデ
661	375	5006	古瀬戸	擂鉢	古瀬戸後期	—	—	11.3	—	—	内外面に錆釉、体部内外面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕、体部内面に擂目
662	376	5006	土師器皿	中皿		約12.0	—	—	—	0.5	体部外面に指オサエ、表面黄橙色
663	378	5006	輸入磁器	青磁碗	上田分類Ｂ－１類	—	—	—	—	—	体部内外面に青磁釉(明るい緑色)、体部外面に鏡蓮弁文、龍泉窯系
664	482	5007	山茶碗	碗		12.8	—	—	—	0.4	体部内外面回転ナデ
665	481	5007	山茶碗	碗	大洞東	—	—	4.8	4.1	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
666	380	5008	山茶碗	碗		13.0	—	—	—	0.6	体部内外面回転ナデ
667	379	5008	瀬戸美濃連房窯陶器	Ⅲ		約11.8	—	—	—	0.6	体部内外面に灰釉(淡黄色)、輪禿Ⅲ？
668	393	5009	山茶碗	碗		14.0	—	—	—	1.0	体部内外面回転ナデ
669	390	5009	山茶碗	碗	生田	10.1	—	—	—	1.0	体部内外面回転ナデ
670	391	5009	山茶碗	碗	大洞東？	—	—	4.3	2.6	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
671	392	5009	山茶碗	碗	大畑大洞？	—	—	6.0	5.4	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕
672	388	5009	山茶碗	碗	明和	—	—	5.6	5.0	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
673	386	5009	山茶碗	碗	脇之島	—	—	4.4	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕

遺物番号	登録番号	出土地点	種別	器種	型式・年代	口径	器高	底径	台径	残存率	所見
674	385	5009	山茶碗	小皿		9.1	1.5	4.8	—	2.8	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕、内面に黒色有機物付着
675	389	5009	山茶碗	小皿		8.0	—	—	—	1.0	体部内外面回転ナデ
676	384	5009	山茶碗	小皿		8.1	1.0	5.4	—	0.1	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
677	387	5009	山茶碗	小皿		8.0	1.0	5.4	—	2.4	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
678	382	5009	山茶碗	小皿		8.0	1.1	5.4	—	1.5	体部内外面回転ナデ
679	394	5009	古瀬戸	小鉢	古瀬戸後期	9.6	—	—	—	0.7	体部内外面に灰釉
680	396	5009	古瀬戸	緑釉小皿	古瀬戸後Ⅳ期	10.1	—	—	—	1.6	体部内面上半部・口縁部外面に灰釉、体部内外面回転ナデ
681	395	5009	古瀬戸	腰折皿	古瀬戸後期	12.1	—	—	—	1.9	体部内外面・底部内面に灰釉(浅黄色)、底部外面回転ヘラ削り
682	397	5009	土師器皿	中皿		10.8	1.9	6.1	—	4.0	体部外面に指オサエ、表面灰白色
683	398	5009	土師器皿	中皿		13.0	1.3	8.4	—	2.2	体部外面に指オサエ、表面褐灰色
684	399	5009	土師器皿	中皿		10.0	—	—	—	1.0	摩滅著しい、表面灰白色
685	406	5010	山茶碗	碗	脇之島	13.0	2.3	5.5	—	1.3	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
686	419	5010	山茶碗	碗	脇之島？	13.8	—	—	—	1.4	体部内外面回転ナデ
687	400	5010	山茶碗	碗	脇之島	12.2	—	—	—	0.8	体部内外面回転ナデ
688	404	5010	山茶碗	碗		12.0	—	—	—	1.0	体部内外面回転ナデ
689	425	5010	山茶碗	碗		約14.0	—	—	—	0.7	体部内外面回転ナデ
690	401	5010	山茶碗	碗		12.0	—	—	—	0.5	体部内外面回転ナデ
691	410	5010	山茶碗	碗	脇之島？	12.0	—	—	—	1.5	体部内外面回転ナデ
692	420	5010	山茶碗	碗		14.0	—	—	—	1.1	体部内外面回転ナデ
693	417	5010	山茶碗	碗		13.8	—	—	—	0.9	体部内外面回転ナデ
694	428	5010	山茶碗	碗		約13.0	—	—	—	0.5	体部内外面回転ナデ
695	409	5010	山茶碗	碗		約13.0	—	—	—	0.9	体部内外面回転ナデ
696	407	5010	山茶碗	碗	白土原？	—	—	6.6	6.2	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
697	421	5010	山茶碗	碗	明和？	—	—	5.8	5.6	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える
698	403	5010	山茶碗	碗	窯洞？	—	—	6.5	6.4	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
699	413	5010	山茶碗	碗	大畑大洞？	—	—	4.6	4.3	—	体部内外面・底部外面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
700	424	5010	山茶碗	碗	大畑大洞？	—	—	5.2	4.9	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
701	408	5010	山茶碗	碗	大畑大洞	—	—	4.7	4.0	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕
702	422	5010	山茶碗	碗	大畑大洞？	—	—	6.0	5.0	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
703	427	5010	山茶碗	碗	大洞東	—	—	4.2	3.6	—	体部内面・底部内面回転ナデ
704	426	5010	山茶碗	碗	脇之島	—	—	4.6	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
705	411	5010	山茶碗	碗	脇之島	—	—	5.2	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
706	405	5010	山茶碗	碗	脇之島	—	—	5.0	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
707	414	5010	山茶碗	小皿		8.0	1.4	5.2	—	3.2	体部内外面・底部外面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
708	415	5010	山茶碗	小皿		7.9	1.4	5.6	—	2.0	体部内外面・底部外面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
709	416	5010	山茶碗	小皿		8.0	0.8	5.5	—	2.0	体部内外面・底部外面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
710	423	5010	山茶碗	小皿		8.9	—	—	—	1.6	体部内外面回転ナデ
711	412	5010	山茶碗	小皿		8.0	—	—	—	1.7	体部内外面回転ナデ
712	418	5010	山茶碗	小皿		8.0	—	約5.2	—	1.5	体部内外面回転ナデ
713	402	5010	山茶碗	小皿		約9.0	—	—	—	0.7	体部内外面回転ナデ
714	432	5010	古瀬戸	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ古	約27.2	—	—	—	0.2	体部内外面に錆釉、体部内外面回転ナデ、体部内面に擂目、715と同一個体？
715	431	5010	古瀬戸	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ古	—	—	9.5	—	—	内外面に錆釉、体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕、体部外面下端部に指圧痕、体部内面に擂目(単位17本)、714と同一個体？
716	433	5010	古瀬戸	天目茶碗	古瀬戸後期	—	—	—	—	—	体部外面上半部・内面に鉄釉、体部外面下半部回転ヘラ削り
717	18	5010	古瀬戸	緑釉小皿	古瀬戸後期	10.0	2.3	4.6	—	4.6	体部内面・体部外面上半部に灰釉、体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕、内面平滑化
718	430	5010	土師器皿	小皿		7.5	1.3	3.6	—	3.0	摩滅著しい、表面浅黄橙色
719	429	5010	石製品	石鏃		—	—	—	—	—	長さ1.52cm、幅1.33cm、厚さ0.35cm、無茎鏃、チャート製
720	436	5011	山茶碗	小皿		7.6	1.0	4.3	—	1.2	体部内外面回転ナデ
721	434	5011	山茶碗	小皿		8.2	—	6.6	—	4.8	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕、ゆがみ大きい
722	451	5012	山茶碗	碗	脇之島	13.0	2.9	4.7	—	1.2	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
723	453	5012	山茶碗	碗		12.4	—	—	—	0.8	体部内外面回転ナデ
724	447	5012	山茶碗	碗	大畑大洞	—	—	5.7	5.6	—	体部内外面回転ナデ
725	454	5012	山茶碗	碗		12.2	—	—	—	0.8	体部内外面回転ナデ
726	455	5012	山茶碗	碗		11.0	—	—	—	1.3	体部内外面回転ナデ
727	452	5012	山茶碗	碗	白土原	—	—	7.0	6.4	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕
728	442	5012	古瀬戸	擂鉢	古瀬戸後Ⅵ新	約30.6	—	—	—	0.6	体部内外面に錆釉
729	437	5012	古瀬戸	平碗		—	—	—	—	—	体部外面上半部・体部内面に灰釉
730	439	5012	古瀬戸	卸目付大皿	古瀬戸後期	約24.0	—	—	—	0.6	体部内外面に灰釉
731	444	5012	古瀬戸	緑釉小皿？	古瀬戸後期	—	—	6.6	—	—	体部内面に灰釉、体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕、あるいは折縁中皿？
732	438	5012	古瀬戸	有耳壺	古瀬戸中期～後期	15.6	—	—	—	1.2	内外面に灰釉、口頸部内外面回転ナデ
733	450	5012	土師器皿	小皿		7.0	1.2	3.0	—	3.3	摩滅著しい、表面浅黄橙色、体部内外面に黒色有機物付着
734	448	5012	土師器皿	小皿		7.4	1.6	3.4	—	4.8	摩滅著しい、表面浅黄橙色
735	449	5012	土師器皿	小皿		6.1	0.9	4.0	—	1.5	摩滅著しい、表面浅黄橙色
736	446	5012	土師器皿	小皿		5.8	0.9	4.2	—	3.0	体部外面横ナデ？、表面灰黄色
737	443	5012	瀬戸美濃大窯陶器	稜皿	大窯第２段階	10.0	—	—	—	1.0	体部内外面に鉄釉
738	440	5012	瀬戸美濃大窯陶器	天目茶碗	大窯第３～４段階	10.7	—	—	—	1.1	体部内外面に鉄釉
739	445	5012	瀬戸美濃連房窯陶器	天目茶碗	近世前期	10.8	—	—	—	1.8	体部内外面に鉄釉(暗褐色)、体部内外面に灰釉を流し掛ける(外面下端部を除く)、体部外面下端部回転ヘラ削り
740	456	5015	山茶碗	碗	脇之島	12.8	3.2	4.8	—	4.4	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕・墨書
741	483	5016	山茶碗	小皿		7.9	1.7	4.5	—	1.5	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
742	485	5018	山茶碗	碗	生田	約10.0	—	—	—	1.0	体部内外面回転ナデ
743	484	5018	山茶碗	碗	脇之島	—	—	4.2	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
744	486	5018	山茶碗	碗	脇之島～生田	—	—	4.2	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
745	487	5018	山茶碗	碗	大畑大洞	—	—	4.7	4.4	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
746	488	5019	古瀬戸	緑釉小皿	古瀬戸後期後半	約11.0	—	—	—	1.0	体部内面・体部外面上半部に鉄釉(暗赤褐色)、体部内外面回転ナデ
747	295	5019	木製品	柱根	中世	—	—	—	—	—	長さ37.6cm、幅13.0cm、厚さ11.8cm、角形に整形、ヒノキ
748	489	5020	古瀬戸	緑釉小皿	古瀬戸後期	約10.8	—	—	—	0.6	体部内外面上半部に灰釉、体部内外面回転ナデ
749	490	5020	山茶碗	碗		13.6	—	—	—	1.7	体部内外面回転ナデ
750	459	5022	山茶碗	碗	生田	約10.0	—	—	—	0.1	体部内外面回転ナデ
751	458	5022	山茶碗	碗	生田	約9.6	—	—	—	1.2	体部内外面回転ナデ
752	457	5022	山茶碗	碗	白土原～明和？	—	—	5.0	4.8	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕、柱痕部埋土から出土
753	461	5022	山茶碗	碗		13.2	—	—	—	1.0	体部内外面回転ナデ
754	460	5022	山茶碗	小皿		—	—	5.4	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕
755	491	5023	山茶碗	碗	大畑大洞？	—	—	5.0	5.0	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
756	464	5024	山茶碗	碗		約12.0	—	—	—	0.2	体部内外面回転ナデ
757	463	5024	山茶碗	碗		約12.0	—	—	—	0.8	体部内外面回転ナデ
758	466	5024	古瀬戸	平碗	古瀬戸後Ⅳ新	約17.0	—	—	—	0.8	体部内外面に灰釉、体部内外面回転ナデ、掘形埋土から出土
759	465	5024	古瀬戸	直縁大皿	古瀬戸後期	約29.4	—	—	—	0.3	体部内外面に灰釉
760	492	5025	古瀬戸	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ新	約30.0	—	—	—	0.5	体部内外面に錆釉、体部内外面回転ナデ
761	493	5025	古瀬戸	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ新	約30.4	—	—	—	0.3	体部内外面に錆釉、体部内外面回転ナデ
762	494	5028	山茶碗	碗		14.6	—	—	—	2.8	体部内外面回転ナデ
763	470	5029	山茶碗	小皿		約9.0	—	—	—	1.0	体部内外面回転ナデ、掘形埋土から出土
764	469	5029	山茶碗	碗	大畑大洞？	—	—	約5.1	約5.0	—	底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕、掘形埋土から出土

遺物番号	登録番号	出土地点	種別	器種	型式・年代	口径	器高	底径	台径	残存率	所見
765	468	5029	山茶碗	碗	大洞東	—	—	6.4	5.7	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕、掘形埋土から出土
766	471	5029	山茶碗	碗	脇之島	—	—	5.2	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕、掘形埋土から出土
767	467	5029	古瀬戸	卸目付大皿	古瀬戸後Ⅳ新	約26.0	—	—	—	0.3	体部内外面に灰釉、体部内外面回転ナデ、掘形埋土から出土
768	472	5029	土師器皿	大皿		約16.0	—	—	—	0.5	摩滅著しい、表面灰白色
769	495	5030	山茶碗	碗	脇之島～生田	10.6	—	—	—	1.9	体部内外面回転ナデ、焼成あまく灰白色で軟質
770	473	5031	山茶碗	碗		約13.0	—	—	—	0.3	体部内外面回転ナデ
771	474	5031	古瀬戸	折縁深皿	古瀬戸後期	約34.0	—	—	—	0.8	体部内外面に灰釉、体部内外面回転ナデ、掘形埋土から出土
772	496	5032	山茶碗	碗		10.4	—	—	—	0.5	体部内外面回転ナデ
773	497	5034	山茶碗	小皿		—	—	4.7	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕、掘形埋土から出土
774	499	5038	山茶碗	碗	脇之島	—	—	4.0	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
775	500	5042	山茶碗	碗	脇之島	—	—	5.2	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
776	501	5044	古瀬戸	天目茶碗	古瀬戸後期	—	—	5.0	—	—	体部内外面に鉄釉(外面下端部を除く)、体部外面下端部に薄い錆釉・回転ヘラ削り
777	502	5046	山茶碗	碗	脇之島	—	—	4.4	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
778	503	5048	山茶碗	碗	大畑大洞	12.4	5.8	5.0	5.0	0.1	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
779	504	5052	山茶碗	碗	明和	—	—	5.4	4.9	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
780	479	5056	山茶碗	碗	生田	10.6	2.8	4.2	—	3.1	体部内外面・底部内面回転ナデ、体部外面に回転糸切り痕・墨書
781	477	5056	山茶碗	碗	生田	10.8	—	—	—	1.3	体部内外面回転ナデ
782	478	5056	山茶碗	碗		11.8	—	—	—	0.9	体部内外面回転ナデ
783	476	5056	土師器皿	小皿		約8.6	—	—	—	0.9	摩滅著しい、表面灰白色
784	35	5056	土師器皿	中皿		12.0	2.0	4.0	—	4.0	体部・底部外面に指オサエ、表面灰白色
785	505	5057	古瀬戸	折縁深皿	古瀬戸後期	30.8	—	—	—	0.6	体部内外面に灰釉、体部内外面回転ナデ
786	1146	5076	木製品	円盤状木製品	中世	—	—	—	—	—	直径8.1cm、厚さ0.5cm、ヒノキ
787	480	5097	土師器皿	大皿		18.2	1.9	13.0	—	2.2	体部外面に指オサエ、表面灰白色
788	33	5097	土師器皿	小皿		7.1	1.2	3.0	—	5.0	摩滅著しい、表面灰白色、内外面に黒色有機物付着
789	506	5103	瀬戸美濃大窯陶器	擂鉢	大窯第１段階	約30.0	—	—	—	0.3	体部内外面に錆釉、体部内外面回転ナデ、体部内面に擂目
790	507	5105	山茶碗	碗	谷迫間？	—	—	8.6	8.5	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
791	510	5110	山茶碗	碗		約12.8	—	—	—	0.8	体部内外面回転ナデ
792	509	5110	山茶碗	碗		約12.5	—	—	—	0.3	体部内外面回転ナデ
793	508	5110	土師器皿	中皿		9.6	—	—	—	2.7	摩滅著しい、表面灰黄色
794	511	5112	山茶碗	碗		12.4	—	—	—	0.6	体部内外面回転ナデ
795	512	5112	山茶碗	碗		約13.0	—	—	—	0.7	体部内外面回転ナデ
796	513	5115	山茶碗	碗	生田	11.0	—	—	—	0.8	体部内外面回転ナデ
797	514	5124	古瀬戸	縁釉小皿	古瀬戸後期	11.6	—	—	—	0.9	体部上半部内外面に灰釉、体部内外面回転ナデ
798	515	5124	土師器皿	小皿		5.8	1.3	2.0	—	0.6	摩滅著しい、表面灰白色
799	14	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	柳茶碗	近世後期	12.8	5.9	—	4.9	7.3	体部内外面・底部内面に灰白色釉、体部外面に柳の鉄絵
800	112	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	柳茶碗	近世後期	—	—	4.9	4.2	—	体部内外面・底部内面に灰釉(灰オリーブ色)、体部外面に柳の鉄絵、底部内面に使用痕
801	117	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	広東茶碗	近世後期	—	—	—	5.0	—	内外面に透明釉、内外面に呉須絵
802	69	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	鎧茶碗	近世後期	10.7	—	6.5	—	3.0	内面全面と体部外面上端部に鉄釉(黒褐色)、体部外面・底部外面に錆釉、体部外面にくさび形24個を一単位とする回転施文あり
803	11	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	丸碗		11.9	5.6	—	4.7	5.2	内外面に鉄釉(暗褐色)、高台端部のみ露胎
804	74	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	丸碗		—	—	—	4.8	—	体部内外面・底部内面に鉄釉(黒色)、底部外面に薄い錆釉
805	83	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	碗		—	—	5.7	4.8	—	体部内外面・底部内面・底部外面中央に鉄釉(暗褐色)、底部外面に刻印
806	131	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	碗		—	—	—	4.4	—	内外面に鉄釉(暗褐色)と灰釉(灰白色)を縦方向に掛け分ける、高台端部のみ露胎
807	130	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	碗		—	—	—	4.3	—	内外面に鉄釉(褐色)と灰釉(灰白色)を縦方向に掛け分ける、高台端部のみ露胎
808	95	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	小碗		7.4	3.8	4.9	4.2	3.5	体部内面・体部外面上半部・底部内面に明黄褐色釉、体部外面下半部・底部外面回転ヘラ削り、胎土粗い
809	91	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	小碗		7.8	—	—	—	1.5	内外面に灰釉(白色)、外面に銅緑釉を流し掛ける
810	89	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	小碗		8.4	—	—	—	1.0	内外面に鉄釉(黒褐色)
811	81	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	湯呑		9.3	—	—	—	5.0	体部内外面に灰釉(灰白色)
812	25	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	湯呑		9.4	5.9	—	4.2	7.8	体部内外面・底部内面に浅黄橙色釉、底部外面回転ナデ
813	109	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	湯呑		9.4	—	—	—	3.8	体部内外面に淡黄色釉
814	128	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	湯呑		9.6	—	—	—	1.5	体部内外面・底部内面に鉄釉(黒褐色)
815	119	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	湯呑	近世後期	9.6	—	—	—	1.2	体部内面・体部外面上半部に灰釉(灰白色)、体部外面下半部に鉄釉(暗灰黄色)
816	114	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	湯呑	近世後期	10.2	—	—	—	1.3	体部内面・体部外面上半部に灰釉(灰白色)、体部外面下半部に鉄釉(黒褐色)
817	92	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	湯呑	近世後期	—	—	—	4.4	—	体部内面・底部内面に灰釉(灰白色)、体部外面・底部外面に鉄釉(暗褐色)、高台端部のみ露胎
818	94	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	湯呑		—	—	—	4.0	—	体部内面・底部内面に灰釉(灰オリーブ色)、体部外面・底部外面に鉄釉(黒褐色)、高台端部と底部外面の一部露胎
819	80	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	湯呑		—	—	—	5.6	—	体部内外面・底部内面に鉄釉(黒色)、せんじ碗
820	82	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	湯呑		8.6	—	—	4.6	0.1	内外面に灰釉(灰黄色)、胎土粗い、箱形湯呑
821	122	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	染付湯呑	近世後期	8.6	—	—	—	0.3	内外面に透明釉、内外面に呉須絵、箱形湯呑
822	57	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	染付湯呑	近世後期	7.0	—	7.2	—	2.8	内外面に透明釉、内外面に呉須絵、箱形湯呑
823	129	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	染付湯呑	近世後期	9.3	—	—	—	2.0	内外面に透明釉、体部外面に呉須絵
824	106	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	湯呑(加工円盤)		—	—	—	3.4	—	底部内面に灰釉(明オリーブ灰色)、加工円盤に転用
825	98	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	染付鉢	近世後期	15.6	—	—	8.8	0.3	内外面に透明釉、高台端部のみ露胎、内外面に呉須絵、胎土粗い
826	116	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	摺絵皿		—	—	—	5.2	—	底部内面に灰釉(灰白色)、底部内面に鉄絵の摺絵
827	121	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	皿	近世後期	11.4	—	—	—	0.5	体部内外面・底部外面に灰釉(淡黄色)、底部内面に錆釉、体部内面に鉄絵、丸皿
828	96	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	鉢		19.2	—	—	—	1.7	体部内外面に灰釉(黄褐色)、胎土粗い
829	133	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	鉢		26.2	—	—	—	3.0	体部内外面に灰釉(浅黄色)、練鉢？
830	100	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	鉢		—	—	10.9	9.5	—	体部内外面・底部内面に白色釉、体部外面下端部・底部外面回転ヘラ削り
831	78	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	鉢？		—	—	8.7	—	—	内面に錆釉、体部外面・底部外面回転ヘラ削り、外面に煤付着、あるいは土瓶？

遺物番号	登録番号	出土地点	種別	器種	型式・年代	口径	器高	底径	台径	残存率	所見
832	87	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	鉢		17.0	—	—	—	1.4	体部内外面に灰釉(オリーブ灰色)
833	139	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	片口鉢		11.8	—	—	—	7.0	体部内外面に薄い飴釉(光沢のある褐色)、軟質
834	115	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	擂鉢	18世紀第4四半期	約34.0	—	—	—	0.5	内外面に錆釉
835	101	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	擂鉢	18世紀第4四半期	33.6	14.6	15.0	—	2.0	全面に錆釉、体部内面・体部外面上半部回転ナデ、体部外面下半部・底部外面回転ヘラ削り、体部内面・底部内面に擂目(体部は単位18本)
836	108	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	擂鉢		—	—	11.8	—	—	内外面に錆釉、体部外面下半部回転ヘラ削り、底部外面に回転糸切り痕、体部内面・底部内面に擂目(体部は単位13本)
837	103	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	擂鉢		—	—	11.6	—	—	内外面に錆釉、体部外面下端部・底部外面は釉を拭い取る、体部外面回転ヘラ削り、体部内面・底部内面に擂目
838	118	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	半胴		約27.5	—	—	—	0.9	体部内外面に柿釉(暗赤褐色)
839	126	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	徳利？	近世後期？	—	—	—	9.2	—	底部内外面に浅黄色釉、高台端部露胎
840	65	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	徳利	近世中期	—	—	—	—	—	体部内外面に飴釉(光沢のある黒褐色)、尾呂徳利
841	67	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	徳利	近世後期	—	—	—	—	—	頸部内面・体部外面に錆釉、体部外面中央部回転ヘラ削り、体部中央にくぼみあり
842	93	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	徳利	近世後期	—	—	6.2	—	—	体部内外面・底部内外面に錆釉、体部外面回転ヘラ削り、体部中央にくぼみあり
843	77	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	徳利		—	—	6.2	—	—	体部内面・底部内面に薄い錆釉、下端部を除く体部外面に柿釉、体部外面下端部・底部外面に錆釉、体部外面下端部回転ヘラ削り
844	84	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	火鉢	近世後期	15.4	—	—	—	1.2	体部内面上端部・体部外面に鉄釉(黒色)
845	90	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	火鉢	近世後期	13.0	—	—	—	1.5	体部外面に鉄釉(黒色)
846	125	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	香炉？		8.0	—	8.0	—	1.8	体部内面上半部・下端部を除く体部外面に灰釉(明オリーブ灰色)
847	73	2074	瀬戸美濃連房窯陶器	香炉		—	—	9.0	5.8	—	体部外面に飴釉(オリーブ褐色)
848	1152	2074	肥前磁器	紅皿	近世後期	5.0	—	—	—	3.0	内面全面・口縁部外面に白色釉、貝殻状に型押し成形
849	79	2074	肥前磁器	染付小碗		—	—	—	3.8	—	内外面に透明釉、高台端部のみ露胎、体部外面・底部外面に呉須絵
850	124	2074	近世常滑陶器(赤物)	甕		63.0	—	—	—	1.5	体部外面に赤土による化粧掛け、体部内外面回転ナデ、体部内面に指オサエ
851	123	2074	近世常滑陶器(赤物)	甕		約52.0	—	—	—	2.2	体部内外面に赤土による化粧掛け、体部内外面回転ナデ
852	140	2074	近世常滑陶器(赤物)	鉢		30.4	13.0	21.8	—	7.0	体部内外面・底部内面に赤土による化粧掛け、口縁端部露胎、底部外面摩滅著しい、体部内外面・底部内面回転ナデ、体部内面中央に指オサエ、口縁端部に煤付着、体部に穿孔(2箇所以上、4箇所？)
853	138	2074	埴輪	円筒埴輪		—	—	—	—	—	外面縦ハケ後横ハケ調整、突帯とその上下横ナデ、内面横ハケ調整、焼成極めて堅緻、須恵器系埴輪
854	127	2074	埴輪	円筒埴輪		—	—	—	—	—	外面縦ハケ後横ハケ調整、突帯とその上下横ナデ、内面横ハケ調整、焼成極めて堅緻、須恵器系埴輪
855	137	2074	埴輪	円筒埴輪		—	—	—	—	—	外面縦ハケ後横ハケ調整、突帯とその上下横ナデ、内面横ハケ調整、焼成あまい、須恵器系埴輪
856	272	2203	瀬戸美濃連房窯陶器	鉢		約20.6	—	—	—	1.5	口縁部内面・体部外面に灰釉(灰オリーブ色)、857と同一個体？
857	271	2203	瀬戸美濃連房窯陶器	鉢		—	—	—	9.5	—	体部外面上半部に灰釉(灰オリーブ色)、体部内面に薄い灰釉(自然釉？)、体部外面下半部・底部外面回転ヘラ削り、856と同一個体？
858	244	2218	瀬戸美濃連房窯陶器	十能		—	—	—	—	—	内外面に錆釉、内外面回転ナデ、側面ヘラ削り、ロクロ回転で形を作ったのち切り取って整形したと推定
859	245	2218	瀬戸美濃連房窯陶器	湯呑		9.0	5.9	—	4.6	0.5	体部内外面・底部内面に鉄釉(黒色)、底部外面に薄い錆釉
860	241	2218	瀬戸美濃連房窯陶器	染付湯呑	近世後期	—	—	7.0	3.4	—	内外面に透明釉、高台端部のみ露胎、内外面に呉須絵、箱形湯呑
861	242	2218	瀬戸美濃連房窯陶器	碗		—	—	—	3.9	—	体部内外面・底部内面に灰釉(明オリーブ灰色)、底部外面回転ナデ
862	243	2218	山茶碗	碗	谷追間？	—	—	8.1	6.9	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕、摩滅著しい
863	8	2219	瀬戸美濃連房窯陶器	広東茶碗	近世後期	10.5	6.4	5.8	5.0	5.0	内外面に透明釉、高台端部のみ露胎、内外面に呉須絵
864	221	2219	瀬戸美濃連房窯陶器	広東茶碗	近世後期	—	—	—	5.8	—	内外面に透明釉、高台端部のみ露胎、内外面に呉須絵
865	224	2219	瀬戸美濃連房窯陶器	柳茶碗	近世後期	11.0	—	—	—	2.0	体部内外面に灰白色釉、体部外面に柳の鉄絵
866	223	2219	瀬戸美濃連房窯陶器	湯呑	近世後期	9.2	—	—	—	1.3	体部内面・体部外面上半部に灰釉(灰白色)、体部外面下半部に鉄釉(黒褐色)、体部外面下半部に沈線、腰錆湯呑
867	226	2219	瀬戸美濃連房窯陶器	染付皿	近世後期	9.8	2.0	—	5.3	2.6	体部内外面・底部内面に透明釉、底部外面回転ヘラ削り、内面に呉須絵、削り出し高台
868	220	2219	瀬戸美濃連房窯陶器	小壺？		5.9	—	—	—	5.0	体部内外面に灰釉(オリーブ黄色)、あるいはひょうそく？
869	218	2219	瀬戸美濃連房窯陶器	植木鉢	近世後期	13.6	約11.3	7.8	—	2.1	口縁部内面・体部外面に鉄釉(黒色)、体部内面回転ナデ、底部外面回転ヘラ削り、底部中央に穿孔
870	227	2219	瀬戸美濃連房窯陶器	擂鉢	近世後期	36.7	14.1	14.6	—	1.0	全面に錆釉、体部外面下半部・底部外面回転ヘラ削り、体部内面・底部内面に擂目(体部は単位23本・24本)
871	228	2219	瀬戸美濃連房窯陶器	擂鉢	近世後期	—	—	15.0	—	—	内外面に錆釉、体部外面下半部・底部外面回転ヘラ削り、体部内面・底部内面に擂目(体部は単位21本)
872	219	2219	肥前磁器？	染付湯呑	近世後期	8.2	5.3	—	3.4	1.8	内外面に灰白色釉、高台端部のみ露胎、体部外面に呉須絵
873	984	2243	瀬戸美濃連房窯陶器	擂鉢	近世後期	約32.3	—	—	—	0.6	内外面に錆釉、体部内面に擂目
874	983	2243	肥前磁器	染付青磁湯呑	近世中期	8.0	6.0	8.0	3.9	4.5	外面に青磁釉、内面に透明釉、内面に呉須絵「四方襷」
875	1048	2250	瀬戸美濃連房窯陶器	甕		—	—	9.2	—	—	体部内面・底部内面に錆釉、体部内面上半部の一部と体部外面に柿釉(褐色)、底部外面・体部外面下端部は柿釉を拭い取る、体部外面下端部底部外面回転ヘラ削り、底部外面に回転糸切り痕
876	1057	2375	瀬戸美濃連房窯陶器	丸碗	18世紀頃	9.8	6.5	—	4.0	5.8	内外面に鉄釉(褐色)と灰釉(灰白色)を縦方向に掛け分ける、高台端部のみ露胎
877	273	2422	瀬戸美濃連房窯陶器	擂鉢	近世後期	—	—	14.4	—	—	内外面に錆釉、体部外面・底部外面回転ヘラ削り、体部内面・底部内面に擂目(体部は単位20本)
878	287	2422	石製品	石臼	近世	—	—	—	—	—	推定約36.0cm、厚さ5.3cm、上臼、花崗岩製
879	1032	2454	瀬戸美濃磁器	染付碗	近世後期	10.8	6.0	—	4.6	7.0	内外面に透明釉、高台端部のみ露胎、内外面に呉須絵、丸碗
880	1033	2454	瀬戸美濃連房窯陶器	柳茶碗	近世後期	12.8	—	—	—	1.9	体部内外面に灰白色釉、体部外面に柳の鉄絵
881	1034	2507	瀬戸美濃連房窯陶器	摺絵皿	近世中期	13.6	3.1	11.4	7.8	4.6	体部内面・体部外面上半部・底部内面に灰釉(淡黄色)、体部外面下半部・底部外面回転ヘラ削り、底部内面に鉄絵？の摺絵、底部内面に重ね焼痕
882	197	1	瀬戸美濃連房窯陶器	碗		13.1	6.2	4.8	4.0	1.5	内外面に灰白色釉、高台端部のみ露胎
883	50	1	瀬戸美濃連房窯陶器	碗	近世後期？	12.2	6.1	—	4.6	1.9	体部内外面・底部内面に灰白色釉、底部外面回転ヘラ削り、柳茶碗？
884	144	1	瀬戸美濃連房窯陶器	碗		12.0	—	—	—	2.5	体部内外面に灰釉(灰白色)
885	97	1	瀬戸美濃連房窯陶器	碗		—	—	5.3	4.2	—	体部内外面・底部内面に灰釉(灰色)、底部外面回転ヘラ削り
886	164	1	瀬戸美濃連房窯陶器	碗		—	—	—	4.0	—	体部内外面・底部内面に灰釉(灰オリーブ色)、柳茶碗？

遺物番号	登録番号	出土地点	種別	器種	型式・年代	口径	器高	底径	台径	残存率	所見
887	162	1	瀬戸美濃連房窯陶器	碗		—	—	—	4.2	—	内外面に灰釉(明オリーブ灰色)、高台端部のみ露胎
888	174	1	瀬戸美濃連房窯陶器	碗		—	—	—	4.3	—	体部内外面・底部内面に灰釉(灰オリーブ色)
889	105	1	瀬戸美濃連房窯陶器	碗(加工円盤)		—	—	—	4.5	—	底部内面に鉄釉(暗褐色)、加工円盤に転用
890	107	1	瀬戸美濃連房窯陶器	碗(加工円盤)		—	—	—	4.5	—	底部内外面に灰釉、加工円盤に転用
891	104	1	瀬戸美濃連房窯陶器	広東茶碗(加工円盤)	近世後期	—	—	—	4.4	—	内外面に透明釉、高台端部露胎、内外面に呉須絵、加工円盤に転用
892	180	1	瀬戸美濃連房窯陶器	広東茶碗	近世後期	—	—	—	5.6	—	内外面に透明釉、高台端部のみ露胎、内外面に呉須絵、胎土粗い
893	168	1	瀬戸美濃連房窯陶器	広東茶碗	近世後期	—	—	—	5.9	—	内外面に白濁釉、高台端部のみ露胎、内外面に呉須絵
894	167	1	瀬戸美濃連房窯陶器	広東茶碗	近世後期	—	—	—	5.8	—	内外面に透明釉、高台端部のみ露胎、内外面に呉須絵
895	187	1	瀬戸美濃連房窯陶器	広東茶碗	近世後期	—	—	—	約6.2	—	内外面に透明釉、内外面に呉須絵
896	102	1	瀬戸美濃連房窯陶器	染付碗	近世後期	10.0	—	—	4.4	0.2	内外面に透明釉、高台端部のみ露胎、外面に呉須絵、丸碗
897	209	1	瀬戸美濃連房窯陶器	染付碗	近世後期	10.6	—	—	—	2.5	内外面に透明釉、内外面に呉須絵、丸碗
898	184	1	瀬戸美濃連房窯陶器	柳茶碗	近世後期	約12.8	—	—	—	0.1	体部内外面に灰釉(灰オリーブ色)、体部外面に柳の鉄絵
899	141	1	瀬戸美濃連房窯陶器	柳茶碗	近世後期	—	—	5.0	4.7	—	体部内外面・底部内面に灰釉(灰オリーブ色)、体部外面に柳の鉄絵、底部内面に使用痕
900	16	1	瀬戸美濃連房窯陶器	湯呑		10.0	5.9	5.2	4.8	8.5	体部内外面・底部内面に鉄釉(黒色)、体部内外面に灰釉？の流し掛けによる黄褐色を呈する部分あり、底部外面に薄い錆釉
901	143	1	瀬戸美濃連房窯陶器	湯呑		9.2	—	—	—	1.5	体部内外面に灰釉(灰白色)
902	142	1	瀬戸美濃連房窯陶器	湯呑		8.6	—	—	—	2.0	体部内外面に灰釉(灰白色)
903	146	1	瀬戸美濃連房窯陶器	湯呑		—	—	—	3.4	—	体部内外面・底部内面に灰釉(灰白色)
904	20	1	瀬戸美濃連房窯陶器	湯呑	近世後期	7.8	5.6	7.8	4.6	3.5	体部内外面・底部内面に光沢のある明オリーブ灰色釉、箱形湯呑
905	154	1	瀬戸美濃連房窯陶器	湯呑	近世後期	—	—	—	2.0	—	体部内面・体部外面下端部・底部内面に灰白色釉、体部外面に鉄釉(極暗褐色)、箱形湯呑
906	206	1	瀬戸美濃連房窯陶器	湯呑	近世後期	—	—	7.4	4.4	—	体部内外面・底部内面に白濁釉、箱形湯呑
907	51	1	瀬戸美濃連房窯陶器	鎧湯呑	近世後期	8.0	—	—	—	4.0	内面全面・体部外面上半部に鉄釉(褐色)、体部外面下半部・底部外面に光沢のある黄褐色釉、体部外面に短26個＋長11個を単位とする回転施文あり、胎土密
908	172	1	瀬戸美濃連房窯陶器	染付湯呑	近世後期	—	—	7.0	2.8	—	内外面に白濁釉、高台端部のみ露胎、内外面に呉須絵、箱形湯呑
909	56	1	瀬戸美濃連房窯陶器	染付湯呑	近世後期	7.2	—	7.4	—	1.6	内外面に透明釉・内外面に呉須絵、箱形湯呑
910	210	1	瀬戸美濃連房窯陶器	染付湯呑	近世後期	—	—	—	4.0	—	内外面に透明釉、高台端部露胎、体部外面に呉須絵
911	75	1	瀬戸美濃連房窯陶器	湯呑		9.1	5.4	—	3.0	8.3	体部内外面・底部内面に灰釉(灰色)、体部外面に鉄絵
912	54	1	瀬戸美濃連房窯陶器	湯呑		9.8	5.1	4.4	4.3	3.1	体部内外面・底部内面に灰釉(明オリーブ灰色)、体部外面に鉄絵
913	49	1	瀬戸美濃連房窯陶器	皿		13.4	3.0	8.9	7.7	2.1	内外面に淡黄色釉、高台端部のみ露胎、腰折皿
914	55	1	瀬戸美濃連房窯陶器	皿		10.1	2.3	5.6	—	3.3	体部内面・体部外面上半部・底部内面に灰釉(明オリーブ灰色)、碁笥底
915	171	1	瀬戸美濃連房窯陶器	皿		10.8	1.4	6.6	—	0.8	体部内外面・底部内面に灰釉(灰白色)
916	170	1	瀬戸美濃連房窯陶器	菊皿	近世前期	—	—	—	7.0	—	体部内外面・底部内面に灰釉(淡黄色)、内外面に花弁状の刻文(外面は刻文の後に高台を付ける)、底部内面に重ね焼痕
917	110	1	瀬戸美濃連房窯陶器	染付皿	近世後期	—	—	—	6.2	—	内外面に透明釉、高台端部露胎、内外面に呉須絵
918	160	1	瀬戸美濃連房窯陶器	鉄絵皿	近世前期	10.6	2.0	—	5.8	2.0	全面に長石釉(灰白色)、内面に鉄絵
919	63	1	瀬戸美濃連房窯陶器	小杯		6.0	2.2	3.7	2.8	0.5	体部内外面・底部内面に灰釉(浅黄色)、体部内外面に鉄釉(暗赤褐色)を流し掛ける、底部外面回転ヘラ削り、高台端部に回転糸切り痕、体部外面に陶片融着
920	166	1	瀬戸美濃連房窯陶器	鉢		約27.8	—	—	—	1.0	体部内外面に灰釉(灰白色)
921	185	1	瀬戸美濃連房窯陶器	鉢		—	—	8.2	7.6	—	体部内外面・底部内面に鉄釉(褐色)、体部外面下端部・底部外面回転ヘラ削り
922	148	1	瀬戸美濃連房窯陶器	鉢		—	—	—	10.0	—	体部内外面・底部内面に灰釉(オリーブ灰色)、体部外面下端部・底部外面回転ヘラ削り
923	208	1	瀬戸美濃連房窯陶器	鉢		24.8	—	—	—	3.0	体部内外面に灰釉(浅黄色)
924	150	1	瀬戸美濃連房窯陶器	鉢		—	—	14.9	13.6	—	体部内面・底部内面に薄い錆釉、体部外面に鉄釉(黒褐色)、底部外面回転ヘラ削り、底部外面に黒色有機物付着
925	169	1	瀬戸美濃連房窯陶器	鉢		—	—	—	16.4	—	体部内外面に灰釉(浅黄色)、内面に銅緑釉流し掛けの痕跡あり、底部外面回転ヘラ削り
926	190	1	瀬戸美濃連房窯陶器	鉢		—	—	13.2	12.0	—	体部内外面に灰釉(浅黄色)、底部内面中央部露胎、体部外面下端部・底部外面回転ヘラ削り
927	155	1	瀬戸美濃連房窯陶器	練鉢	近世後期	24.0	—	—	—	1.1	体部内外面に灰釉(灰白色)、口縁部内外面に銅緑釉を流し掛ける
928	202	1	瀬戸美濃連房窯陶器	擂鉢	近世後期	35.6	—	—	—	1.1	内外面に錆釉、体部内面に擂目
929	201	1	瀬戸美濃連房窯陶器	擂鉢	近世後期	31.6	—	—	—	1.2	内外面に錆釉
930	199	1	瀬戸美濃連房窯陶器	擂鉢	近世後期	—	—	—	—	—	内外面に錆釉、体部外面回転ヘラ削り、体部内面に擂目(単位16本)、体部内面に「大」の刻印
931	195	1	瀬戸美濃連房窯陶器	擂鉢	近世前期	—	—	8.1	—	—	内外面に錆釉、体部外面下端部・底部外面は釉を拭い取る、体部外面回転ヘラ削り、体部内面・底部内面に擂目(体部は単位８本)、摩滅著しい
932	177	1	瀬戸美濃連房窯陶器	擂鉢	近世後期	—	—	16.0	—	—	内外面に錆釉、体部外面下端部・底部外面は釉を拭い取る、体部外面・底部外面回転ヘラ削り、体部内面・底部内面に擂目(体部は単位15本)
933	203	1	瀬戸美濃連房窯陶器	擂鉢	近世前期	—	—	9.4	—	—	内外面に錆釉、体部外面下端部・底部外面は釉を拭い取る、体部外面・底部外面回転ヘラ削り、底部外面中央部に回転糸切り痕、体部内面・底部内面に擂目(体部は単位14本)、摩滅著しい
934	145	1	瀬戸美濃連房窯陶器	土瓶	近世後期	7.8	—	—	—	2.0	体部内面上端部・体部外面に錆釉、上端部を除く体部内面に薄い錆釉
935	151	1	瀬戸美濃連房窯陶器	土瓶	近世後期	約7.8	—	—	—	1.1	体部内外面に錆釉(暗赤褐色)
936	156	1	瀬戸美濃連房窯陶器	壺		—	—	10.2	—	—	体部内外面・底部内面に鉄釉(黒褐色)、底部外面に錆釉(拭い取る部分あり)
937	178	1	瀬戸美濃連房窯陶器	壺？		—	—	13.6	—	—	体部外面に鉄釉(黒褐色)、底部外面に薄い錆釉
938	183	1	瀬戸美濃連房窯陶器	壺		—	—	15.2	—	—	体部内面・底部内面に灰釉(オリーブ色)、体部外面に鉄釉(黒褐色)、底部外面に薄い錆釉

遺物番号	登録番号	出土地点	種別	器種	型式・年代	口径	器高	底径	台径	残存率	所見
939	175	1	瀬戸美濃連房窯陶器	壺？		—	—	13.8	—	—	体部内面・底部内面に錆釉、体部外面に鉄釉（にぶい黄橙色）、底部外面に回転糸切り痕
940	71	1	瀬戸美濃連房窯陶器	小壺？		—	—	4.6	—	—	体部内面・下端部を除く体部外面・底部内面に鉄釉（黒色）、底部外面に回転糸切り痕
941	191	1	瀬戸美濃連房窯陶器	壺？		—	—	—	4.4	—	体部内外面・底部内面に錆釉（暗赤褐色）、底部外面回転ヘラ削り、碁笥底、あるいは土瓶？
942	157	1	瀬戸美濃連房窯陶器	徳利？		—	—	11.0	—	—	体部内面・底部内面に薄い錆釉、体部外面に鉄釉（黒色）
943	200	1	瀬戸美濃連房窯陶器	汁次		10.6	14.4	—	9.0	3.5	下端部を除く体部外面・体部内面・底部内面に灰釉（灰白色）、体部外面下端部・底部外面回転ヘラ削り、碁笥底
944	212	1	瀬戸美濃連房窯陶器	水注	近世中期	—	—	—	7.0	—	体部内面・底部内面に光沢のある薄い錆釉、体部外面に鉛釉（赤褐色）、底部外面回転ナデ
945	161	1	瀬戸美濃連房窯陶器	小瓶？		—	—	—	5.8	—	体部外面・底部外面に白色釉
946	149	1	瀬戸美濃連房窯陶器	小瓶		—	—	4.4	—	—	下端部を除く体部外面に灰釉（オリーブ黄色）、底部外面に回転糸切り痕
947	182	1	瀬戸美濃連房窯陶器	染付小瓶	近世後期	—	—	—	2.0	—	外面に透明釉、高台端部露胎、体部外面に呉須絵
948	48	1	瀬戸美濃連房窯陶器	蓋		9.8	2.7	5.2	—	1.5	全面に薄い錆釉、体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕、貯蔵具の蓋
949	15	1	瀬戸美濃連房窯陶器	天目茶碗	近世前期	11.0	7.3	5.5	4.5	2.0	体部内面・下端部を除く体部外面・底部内面に鉄釉（暗赤褐色）、底部外面回転ヘラ削り、削り出し高台
950	64	1	瀬戸美濃連房窯陶器	天目茶碗	近世中期？	—	—	5.2	—	—	体部内面・下端部を除く体部外面・底部内面に鉄釉（黒褐色）、体部外面下端部回転ヘラ削り
951	165	1	瀬戸美濃連房窯陶器	茶釜		10.3	—	—	—	1.2	口頸部内面・体部外面に錆釉（暗赤褐色）、体部内面に薄い透明釉、胎土粗い
952	153	1	瀬戸美濃連房窯陶器	茶入		—	—	5.2	—	—	体部内面・下端部を除く体部外面・底部内面に鉄釉（黒褐色）、体部外面に回転糸切り痕
953	188	1	瀬戸美濃連房窯陶器	鬢盥	近世中期	—	—	—	—	—	体部内面・下端部を除く体部外面・底部内面に灰釉（灰オリーブ色）、体部外面に鉄絵（摺絵）
954	176	1	瀬戸美濃連房窯陶器	香炉		—	—	9.0	—	—	体部内外面・底部内面に鉛釉（暗褐色）、底部外面回転ヘラ削り、脚部指オサエ
955	173	1	瀬戸美濃連房窯陶器	香炉		—	—	8.4	—	—	体部内外面・底部内面に鉄釉（黒色）、底部外面回転ヘラ削り、脚部指オサエ
956	193	1	瀬戸美濃連房窯陶器	香炉	近世中期	—	—	8.7	—	—	体部外面に鉛釉（にぶい黄橙色）、底部外面回転ヘラ削り、脚部指オサエ
957	159	1	瀬戸美濃連房窯陶器	香炉	近世中期？	—	—	11.0	—	—	下端部を除く体部外面に鉛釉（黒褐色）、底部外面回転ヘラ削り
958	196	1	瀬戸美濃連房窯陶器	香炉	近世中期？	—	—	8.3	—	—	体部外面に鉛釉（黄褐色）、底部外面回転ヘラ削り、脚は剥離
959	204	1	瀬戸美濃連房窯陶器	香炉		—	—	10.0	—	—	体部外面に鉛釉（極暗褐色）、底部外面回転ヘラ削り
960	198	1	瀬戸美濃連房窯陶器	仏餉具		7.4	—	—	—	0.1	杯部内外面に鉄釉（黒色）
961	59	1	瀬戸美濃連房窯陶器	花瓶？		8.9	—	—	—	4.0	口頸部内外面に鉄釉（黒色）、外面に白濁釉を流し掛ける
962	4	1	瀬戸美濃磁器	広東茶碗	近世後期	10.3	6.3	5.9	5.7	5.0	内外面に透明釉、高台端部のみ露胎、内外面に呉須絵
963	9	1	瀬戸美濃磁器	染付碗	近世後期	10.5	5.7	—	3.7	6.0	内外面に透明釉、高台端部のみ露胎、内外面に呉須絵、端反碗
964	70	1	瀬戸美濃磁器	染付碗	近世後期	10.2	—	—	—	2.2	内外面に透明釉、内外面に呉須絵、端反碗
965	61	1	瀬戸美濃磁器	染付湯呑	近世後期	9.8	—	—	—	4.5	内外面に透明釉、内外面に呉須絵、端反形
966	62	1	瀬戸美濃磁器	染付湯呑	近世後期	9.8	—	—	—	3.6	内外面に透明釉、内外面に呉須絵、端反形
967	58	1	瀬戸美濃磁器	染付湯呑	近世後期	9.6	5.0	—	3.5	6.6	内外面に透明釉、高台端部のみ露胎、体部外面・底部内面に呉須絵、端反形
968	52	1	瀬戸美濃磁器	白磁皿	近世後期以降	9.8	2.2	6.6	4.6	7.0	内外面に白磁釉、高台端部のみ露胎、底部内面に刻字
969	85	1	瀬戸美濃磁器	染付小碗	近世後期	—	—	—	3.7	—	内外面に透明釉、高台端部露胎、外面に呉須絵、あるいは小瓶？
970	53	1	瀬戸美濃磁器	染付小碗	近世後期	7.1	4.5	—	2.7	5.6	内外面に透明釉、高台端部のみ露胎、内外面に呉須絵
971	76	1	肥前磁器	染付小瓶	近世後期	—	—	—	5.9	—	外面に透明釉、高台端部露胎、体部外面に呉須絵「蛸唐草」、高台端部に砂融着
972	66	1	産地不明磁器	染付蓋	近世後期？	8.2	3.3	—	—	1.8	内外面に透明釉、内面端部露胎、外面に呉須絵、瀬戸産？
973	72	1	産地不明磁器	染付碗	近世後期？	—	—	—	4.4	—	内外面に白濁釉、高台端部のみ露胎、内外面に呉須絵、端反碗？瀬戸産？
974	181	1	産地不明磁器	染付碗	近世後期？	12.8	—	—	—	1.6	内外面に透明釉、内外面に呉須絵
975	88	1	産地不明磁器	染付小碗	近世後期	8.0	—	—	—	0.9	内外面に透明釉、内外面に呉須絵、瀬戸産？
976	211	1	産地不明磁器	染付湯呑	近世後期	7.8	—	—	—	2.5	内外面に白色釉、体部外面に呉須絵
977	192	1	瀬戸美濃大窯陶器	碗	17世紀頃	—	—	—	5.1	—	体部内外面・底部内面に厚い灰釉（灰オリーブ色）
978	1155	1	近世土器煮炊具	焙烙		—	—	—	—	—	表面橙色、外面に煤付着
979	213	1	近世瓦	軒桟瓦		—	—	—	—	—	外面ヘラミガキ、内面ナデ・オサエ、内外面鈍い光沢のある黒色、胎土粗い、焼成堅緻
980	904	525	瀬戸美濃連房窯陶器	碗		約10.0	—	—	—	0.6	体部内外面に淡黄色釉
981	906	576	瀬戸美濃連房窯陶器	香炉		17.4	—	—	—	1.2	体部内外面に鉛釉（暗オリーブ色）
982	239	790	瀬戸美濃連房窯陶器	土瓶	近世後期	11.7	—	—	—	1.8	体部内外面に錆釉（暗赤褐色）、体部内外面回転ナデ
983	240	790	瀬戸美濃連房窯陶器	土瓶	近世後期	—	—	10.0	—	—	内面に薄い錆釉、体部外面上半部に錆釉、体部外面下半部・底部外面回転ヘラ削り、外面に黒色有機物付着
984	270	975	瀬戸美濃連房窯陶器	丸碗		—	—	—	5.0	—	体部内外面・底部内面に鉛釉（黒褐色）、体部外面下端部回転ヘラ削り
985	19	975	瀬戸美濃連房窯陶器	反り皿	近世前期	14.0	3.1	10.2	8.7	2.5	体部内外面・底部内面に灰釉（灰オリーブ色）、底部外面回転ヘラ削り
986	269	975	瀬戸美濃連房窯陶器	擂鉢		—	—	10.0	—	—	内外面に錆釉、体部外面下端部回転ヘラ削り？、底部外面に回転糸切り痕、体部内面・底部内面に擂目
987	284	975	石製品	砥石	近世？	—	—	—	—	—	長さ10.72cm、幅4.94cm、厚さ3.95cm、表面のほか右側面・裏面もやや平滑化
988	276	975	石製品	砥石	近世？	—	—	—	—	—	長さ6.86cm、幅4.96cm、厚さ4.30cm、砥石は一面、右側面にも筋状の傷多い
989	254	1013	金属製品	煙管	18世紀後半	—	—	—	—	—	長23.4cm、ほぼ完形、最下部から出土
990	264	1013	金属製品	銭		—	—	—	—	—	外径2.20cm、穿径0.65cm、寛永通宝、最下部から出土
991	265～8	1013	金属製品	銭		—	—	—	—	—	外径2.30cm、穿径0.65cm、寛永通宝、４枚癒着、最下部から出土
992	260	1013	瀬戸美濃連房窯陶器	徳利	近世後期？	—	—	—	5.8	—	体部内外面・底部内面に灰釉（灰白色、体部外面下端部を除く）、体部外面下端部・底部外面に回転ヘラ削り
993	261	1013	瀬戸美濃連房窯陶器	練鉢	近世後期	32.3	—	—	—	1.5	体部内外面に灰釉（浅黄色）、体部内外面に銅緑釉を流し掛ける
994	263	1013	瀬戸美濃連房窯陶器	土鍋	近世後期	28.2	—	—	—	1.0	内外面に錆釉、耳は２つと想定して復元実測
995	262	1013	瀬戸美濃連房窯陶器	土瓶	近世後期	—	—	—	8.6	—	内面に灰釉、体部外面・底部外面回転ヘラ削り、外面に煤付着、上層から出土
996	259	1013	産地不明磁器	染付燗徳利？		—	—	5.4	—	—	体部外面に白色釉、体部外面に呉須絵
997	871	1017	瀬戸美濃連房窯陶器	湯呑？		—	—	7.8	—	—	体部内面・下端部を除く体部外面・底部内面に鉄釉（黒色）、底部外面回転ヘラ削り
998	292	1032	木製品	柱根	近世	—	—	—	—	—	長さ32.6cm、幅7.8cm、厚さ8.6cm、側面に粗い加工痕、ヒノキ
999	293	1068	木製品	柱根	近世	—	—	—	—	—	長さ18.5cm、幅7.6cm、厚さ6.0cm、ヒノキ
1000	873	1095	瀬戸美濃連房窯陶器	蓋？		11.0	—	—	—	2.8	外面に灰釉（灰白色）、内面回転ヘラ削り

遺物番号	登録番号	出土地点	種別	器種	型式・年代	口径	器高	底径	台径	残存率	所見
1001	872	1100	瀬戸美濃連房窯陶器	小瓶？		2.0	—	—	—	2.3	口頸部内外面に灰釉(灰白色)
1002	920	1113	瀬戸美濃連房窯陶器	菊皿	近世前期～中期	11.7	3.3	7.8	6.2	0.5	体部内外面・底部内面に灰釉(淡黄色)、内外面に花弁状の刻文、口縁部にヘラ状工具による切り込み、底部内面に重ね焼痕
1003	922	1228	瀬戸美濃連房窯陶器	碗		9.8	—	—	—	2.1	体部内外面に灰釉(灰白色)
1004	288	1236	石製品	石臼	近世	—	—	—	—	—	推定径36.0cm、厚さ5.3cm、上臼、花崗岩製
1005	237	4297	瀬戸美濃連房窯陶器	碗		12.2	—	—	—	1.0	体部内外面に鉄釉(暗赤褐色)
1006	235	4297	瀬戸美濃連房窯陶器	広東茶碗	近世後期	—	—	—	5.7	—	内外面に白濁釉、高台端部のみ露胎、内外面に呉須絵(底部内面の呉須絵は白濁釉が厚いため表からは見えない)
1007	234	4297	瀬戸美濃連房窯陶器	広東茶碗	近世後期	—	—	—	5.6	—	内外面に透明釉、高台端部のみ露胎、内外面に呉須絵
1008	17	4297	瀬戸美濃連房窯陶器	湯呑		10.0	5.4	—	5.0	10.7	全面に灰白色釉、体部内外面・底部内面に鉄絵
1009	232	4297	瀬戸美濃連房窯陶器	染付湯呑	近世後期	—	—	—	3.3	—	内外面に灰釉(淡く明るい緑色)、高台端部のみ露胎、内外面に呉須絵、箱形湯呑
1010	231	4297	瀬戸美濃連房窯陶器	染付湯呑	近世後期	—	—	7.0	3.2	—	内外面に透明釉、高台端部のみ露胎、内外面に呉須絵、箱形湯呑
1011	238	4297	瀬戸美濃連房窯陶器	有耳壺		9.6	—	—	—	3.0	口頸部内面・体部外面に灰釉(ややくすんだ緑色)
1012	236	4297	瀬戸美濃磁器	広東茶碗	近世後期	—	—	6.5	—	—	内外面に透明釉、内外面に呉須絵
1013	230	4297	瀬戸美濃磁器	染付碗	近世後期	12.0	6.1	—	4.8	1.6	内外面に透明釉、高台端部のみ露胎、体部内外面・底部内面に呉須絵、端反碗
1014	229	4297	肥前磁器？	染付湯呑	近世後期？	8.7	4.8	—	3.4	5.0	内外面に灰白色釉、高台端部のみ露胎、体部外面・底部内面に呉須絵、口縁端部に口紅装飾
1015	233	4297	肥前磁器	染付皿	近世後期	9.8	2.4	—	6.0	6.0	内外面に透明釉、高台端部のみ露胎、体部内外面・底部内面に呉須絵(内面「山水風景」、外面「唐草文」)
1016	987	2329	弥生土器	壺		—	—	—	—	—	頸部外面に条痕文、口縁部外面に突帯文、口縁端部に押引文、水神平式
1017	989	2329	弥生土器	甕		—	—	—	—	—	外面に条痕文、口縁端部に押引文、貝田町式
1018	988	2329	弥生土器	甕		—	—	—	—	—	胴部外面上端部に沈線２条、垂流の遠賀川系
1019	286	2329	石製品	石鏃	弥生時代	—	—	—	—	—	長さ3.20cm、幅1.96cm、厚さ0.70cm、有茎鏃、下呂石製
1020	1150	54	弥生土器	鉢		—	—	—	—	—	外面に条痕文、口縁端部に押引文、朝日式？
1021	933	2005	須恵器	摘み蓋	7世紀後半以降	16.0	—	—	—	0.7	内外面回転ナデ
1022	931	2005	須恵器	有台杯	7世紀後半以降	—	—	—	10.4	—	底部内外面回転ナデ
1023	932	2005	須恵器	杯	7世紀後半以降	11.8	—	—	—	0.8	体部内外面回転ナデ
1024	928	2072	須恵器	摘み蓋	7世紀後半以降	約13.6	—	—	—	0.6	内外面回転ナデ
1025	948	2143	瀬戸美濃連房窯陶器	灯明皿		11.6	—	—	—	1.8	体部内外面に錆釉
1026	946	2143	山茶碗	碗	大畑大洞	—	—	6.0	4.6	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕
1027	947	2143	山茶碗	碗		14.0	—	—	—	1.1	体部内外面回転ナデ
1028	945	2143	山茶碗	碗	大畑大洞	—	—	4.6	4.2	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕・板圧痕
1029	944	2143	須恵器	杯身	7世紀	11.0	—	—	—	1.0	体部内外面回転ナデ、焼成極めて堅緻(暗青灰色)
1030	1128	3047	山茶碗	碗	浅間窯下？	—	—	7.5	7.0	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面ヘラ削り
1031	1125	3198	須恵器	杯身	7世紀	11.1	—	—	—	1.0	体部内外面回転ナデ
1032	717	2	山茶碗	小皿		9.0	1.1	6.0	—	3.0	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部内面にナデを加える、底部外面に回転糸切り痕
1033	804	186	瀬戸美濃連房窯陶器	天目茶碗		12.1	—	—	—	1.7	体部内外面に鉄釉(外面下端部を除く)、体部外面下端部回転ヘラ削り
1034	805	186	瀬戸美濃連房窯陶器	摺絵皿	近世中期	—	—	—	7.6	—	体部内外面・底部内面に灰白色釉、底部外面回転ヘラ削り、底部内面に鉄絵の摺絵、底部内面に重ね焼痕
1035	806	186	瀬戸美濃連房窯陶器	碗(加工円盤)		—	—	—	5.2	—	底部内面に鉄釉(黒色)、加工円盤に転用
1036	802	186	山茶碗	碗	大洞東	—	—	4.8	4.3	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
1037	803	186	山茶碗	碗	脇之島	—	—	4.6	—	—	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
1038	815	432	須恵器	摘み蓋	7世紀後半以降	13.0	—	—	—	1.0	内外面回転ナデ
1039	280	442	石製品	石鏃		—	—	—	—	—	長さ3.52cm、幅1.56cm、厚さ0.70cm、有茎鏃、下呂石製
1040	275	539	石製品	石鏃		—	—	—	—	—	長さ2.97cm、幅1.57cm、厚さ0.75cm、先端部折損ののち再加工、有茎鏃、チャート製
1041	909	746	須恵器	無台杯	7世紀後半以降	13.8	4.6	8.6	—	1.8	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面ヘラ切り後オサエ・ナデ
1042	291	917	木製品	柱根		—	—	—	—	—	長さ39.4cm、幅9.3cm、厚さ9.8cm、下端面に加工痕、ヒノキ
1043	650	4165	瀬戸美濃磁器	染付湯呑	近世後期	7.2	—	—	—	3.0	内外面に透明釉、体部内外面に呉須絵、箱形湯呑
1044	649	4165	山茶碗	碗	脇之島	11.6	2.6	4.5	—	3.0	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕、内面に黒色有機物付着
1045	672	4300	山茶碗	小皿		8.6	1.3	6.0	—	1.6	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕
1046	294	5114	木製品	柱根	中世？	—	—	—	—	—	長さ45.3cm、幅13.8cm、厚さ13.4cm、側面・下端面に加工痕、クリ
1047	252	撹乱	瀬戸美濃連房窯陶器	甕	近世後期	37.0	—	—	—	0.7	体部内外面に柿釉(暗赤褐色)、体部外面に部分的に灰釉を流し掛ける
1048	253	撹乱	瀬戸美濃連房窯陶器	練鉢	近世後期	—	—	—	13.7	—	体部内外面・底部内面に灰釉(灰白色)、底部外面回転ヘラ削り
1049	274	撹乱	瀬戸美濃連房窯陶器	鉢		—	—	—	10.1	—	体部内面・底部内面に薄い錆釉、下端部を除く体部外面に鉄釉(黒褐色)、体部外面下端部・底部外面回転ヘラ削り
1050	251	撹乱	瀬戸美濃連房窯陶器	壺		—	—	—	11.6	—	体部内面・底部内面に薄い錆釉、体部外面に鉄釉(黒色)、底部外面に錆釉、底部外面回転ヘラ削り
1051	21	B７区	瀬戸美濃連房窯陶器	鎧湯呑	近世後期	7.5	5.9	—	4.1	0.8	内面全面・体部外面上半部に鉄釉(褐色)、体部外面下半部・底部外面に灰釉(灰白色)、高台端部露胎、体部外面に短22個十長６個を単位とする回転施文あり、胎土極めて密
1052	248	撹乱	瀬戸美濃連房窯陶器	染付碗	近世後期	11.0	5.3	—	3.5	5.0	内外面に透明釉、高台端部のみ露胎、内外面に呉須絵、端反碗
1053	249	撹乱	瀬戸美濃連房窯陶器	灯明皿	近世後期	7.4	1.3	3.6	—	8.5	内外面に錆釉、底部外面は釉を拭い取る、底部外面回転ヘラ削り、底部内面に重ね焼痕
1054	257	撹乱	瀬戸美濃連房窯陶器	灯明皿	近世後期	10.0	—	—	—	2.0	内外面に鉄釉(にぶい赤褐色)、外面下半部は釉を拭い取る
1055	247	撹乱	瀬戸美濃連房窯陶器	染付皿	近世後期	—	—	—	8.0	—	内外面に透明釉、高台端部のみ露胎、内外面に呉須絵、胎土粗い、あるいは鉢？
1056	1063	撹乱	瀬戸美濃連房窯陶器	小杯		4.9	2.7	—	3.1	12.0	体部外面上半部・体部内面・底部内面に灰白色釉、体部外面下半部回転ヘラ削り、底部外面回転ナデ
1057	258	撹乱	瀬戸美濃連房窯陶器	小杯	近世後期？	5.0	2.7	—	2.6	5.5	体部外面上半部・体部内面・底部内面に灰白色釉、体部内外面・底部内外面回転ナデ
1058	68	撹乱	瀬戸美濃連房窯陶器	蓋	近世後期	10.8	2.7	—	—	3.2	外面に鉄釉(極暗褐色)、外面回転ヘラ削り、内面回転ナデ後中央にナデを加える、土瓶の蓋
1059	250	撹乱	瀬戸美濃磁器	染付碗	近世後期	12.8	6.4	—	6.7	3.2	内外面に透明釉、高台端部のみ露胎、内外面に呉須絵
1060	246	撹乱	肥前磁器	染付碗	近世後期？	—	—	—	4.0	—	内外面に透明釉、高台端部のみ露胎、内外面に呉須絵、端反碗
1061	1064	B９区	近世常滑陶器(赤物)	蓋	18世紀以降	27.0	4.2	17.0	—	10.0	全面に赤土による化粧掛け、体部内外面回転ナデ、底部外面に砂付着
1062	1140	F２区	須恵器	返り蓋	7世紀後半以降	12.4	—	—	—	1.3	内外面回転ナデ、外面上半部回転ヘラ削り
1063	716	D34区	古瀬戸	卸目付大皿	古瀬戸後Ⅳ新	26.2	—	—	—	0.8	体部内外面に灰釉
1064	671	撹乱	山茶碗	碗		13.8	—	—	—	1.1	体部内外面回転ナデ
1065	520	I41区	古瀬戸	天目茶碗	古瀬戸後期	12.4	—	—	—	0.8	体部内外面に鉄釉
1066	518	I40区	土師器皿	中皿		約10.0	—	約6.6	—	1.3	摩滅著しい、表面浅黄橙色
1067	517	I40区	古瀬戸	緑釉小皿	古瀬戸後Ⅳ期	10.0	—	—	—	2.0	体部上半部内外面に灰釉、体部内外面回転ナデ
1068	519	J39区	瀬戸美濃大窯陶器	重圏皿		12.4	1.9	6.7	—	1.6	体部内外面・底部内面回転ナデ、底部外面に回転糸切り痕

付表４　遺物集計表

A区

遺構番号	種別	弥生土器	須恵器	土師器	製塩土器	灰釉陶器	北部系山茶碗	南部系山茶碗	無釉陶器 鉢	古瀬戸	輸入磁器	中世常滑陶器	中世土器煮炊具	中世土師器Ⅲ	産地不明の中世陶器	瀬戸美濃大窯陶器	瀬戸美濃進展窯陶器	近世常滑陶器	瀬戸美濃磁器	肥前磁器	産地不明磁器	近世土器煮炊具	分類不能土器	埴輪	石製品	金属製品	木製品	近世瓦	近現代製品	合計
2001	住居跡		2	16						1																			19
2002	住居跡		10	109													1	1			1								122
2003	住居跡		4	65	2																								71
2004	溝		4				1											2											7
2005	溝		16														1	1											18
2006	溝		21				1										7	9						2					40
2008	土坑		2																										2
2009	溝		12				42		1	2							1												58
2011	住居跡			72	3																								75
2029	ピット			1																									1
2031	ピット			1																									1
2032	ピット		1	1																									2
2035	住居跡		15	159																				3	2				179
2063	溝		10				27								1		6												44
2069	土坑		4	1			3																						8
2072	ピット		1																										1
2074	土坑		24				12			1					2		226	304		2				3				1		575
2075	溝		1														2	12										1	1	17
2076	溝		1																										1
2078	土坑		1				2																						3
2082	ピット		1																										1
2088	ピット																	1											1
2100	ピット		1																										1
2101	ピット		1	1																									2
2103	溝		13	1			12		3	2																			31
2104	溝		4																										4
2115	土坑		1				7										3	1	1										13
2116	土坑		1				6																						7
2124	ピット		1																										1
2133	ピット			1																									1
2134	ピット		1							2																			3
2138	ピット													6															6
2140	ピット									1																			1
2143	溝		3				5										10	3						1					22
2144	溝		3				3										2							1					9
2157	ピット		1																										1
2164	ピット		1																										1
2185	ピット		2														2											1	5
2199	土坑																1												1
2201	土坑			1																									1
2202	溝						1										10	1											12
2203	溝		1				1										23											6	31
2216	住居跡		477	60			52			1							3						1	1	29	4		1		629
2218	溝		5	8			2										23						2					1	39
2219	溝		1														51	4	8	1							1	9	77
2230	ピット						4																						4
2231	ピット		1																										1
2233	土坑		2	12																								1	15
2243	井戸		5				6										9	4		1									25
2244	土坑		1																										1
2250	土坑																8												8
2253	土坑																2		1										3
2256	ピット																	1											1
2257	ピット		1															3											4
2258	ピット																	1											1
2259	土坑		1				1										1	290										1	294
2260	ピット		1	1													1	2											5
2262	ピット		1																										1
2266	土坑		8				8																						16
2278	ピット			2																									2
2291	ピット						1																						1
2295	溝		2				11																						13
2301	溝		3				14										1												18
2324	ピット						2																						2
2329	土坑	58	1	2														4						39					104
2331	ピット		1				1										1												3
2332	ピット						2																						2
2333	ピット		1																										1
2336	ピット		1																										1
2341	住居跡		117	612	15												1								6				751
2344	ピット		2																										2
2345	ピット		1																										1
2347	ピット						1																						1
2360	ピット		1																										1
2375	ピット						1										3												4

遺構番号	種別	弥生土器	須恵器	土師器	製塩土器	灰釉陶器	北部系山茶碗	南部系山茶碗	無釉陶器 鉢	古瀬戸	輸入磁器	中世常滑陶器	中世土器煮炊具	中世土師器皿	産地不明の中世陶器	瀬戸美濃大窯陶器	瀬戸美濃連房窯陶器	近世常滑陶器	瀬戸美濃磁器	肥前磁器	産地不明磁器	近世土器煮炊具	分類不能土器	道輪	石製品	金属製品	木製品	近世瓦	近現代製品	合計
2379	ピット						1																						1
2387	土坑		1	4			3										4							1					13
2389	ピット		1																										1
2390	住居跡		2	16			1																						19
2395	住居跡		12	347			1										1							1					362
2399	ピット		1	1																									2
2404	ピット																1												1
2414	土坑		5														11	2	7					1			9	40	75
2416	土坑																25	4	11									37	77
2419	ピット		2																										2
2422	土坑		2														43	10						2			19	23	99
2423	ピット			1																									1
2436	ピット			1																									1
2447	溝																2	1	4										7
2451	土坑		1	2													8						4	2					17
2454	土坑		17	2			2										14		4			2					1		42
2455	土坑		5				2										1		1										9
2456	ピット						1																						1
2457	ピット						2																						2
2460	住居跡		2	20																									22
2475	ピット		1																										1
2478	土坑		1																										1
2479	ピット			1																									1
2485	土坑			2																									2
2490	ピット						1																						1
2497	ピット																						1						1
2498	ピット																	15											15
2506	ピット						2										1												3
2507	土坑		1														10							1					12
2511	井戸		1																										1
2527	住居跡		4	1																									5
2530	ピット		1														2												3
2534	ピット			1																									1
2537	ピット		1																										1
2538	溝																	16											16
2555	ピット																											15	15
2567	土坑																1												1
2568	ピット		1																										1
2593	ピット						1							4															5
2594	ピット		1	1			2			3														1					8
2597	ピット						1																						1
2600	土坑			1													1												2
2601	溝		1																										1
2611	ピット		2																										2
2645	ピット																1												1
2652	住居跡		2	3																									5
2677	住居跡		21	166														141					1						329
2680	ピット		7	3																									10
2686	ピット		1																										1
2695	ピット						2																						2
2708	ピット						1																						1
2710	ピット			1																									1
2713	ピット		1																										1
2777	ピット		1																										1
2780	ピット			2																									2
2783	溝		1																										1
2784	ピット		3				3																						6
2786	ピット		1																										1
遺構外			74	13			33							1			397	113	57	5	8	4	14		8	11		27	257	1022
A区計		58	976	1715	20	0	288	0	4	13	0	0	0	11	3	0	922	946	94	9	9	6	23	4	92	23	0	60	392	5668
%		1.0	17.2	30.3	0.4	0	5.1	0	0.1	0.2	0	0	0	0.2	0.1	0	16.3	16.7	1.7	0.2	0.2	0.1	0.4	0.1	1.6	0.4	0	1.1	6.9	100

B区

遺構番号	種別	弥生土器	須恵器	土師器	製塩土器	灰釉陶器	北部系山茶碗	南部系山茶碗	無釉陶器 鉢	古瀬戸	輸入磁器	中世常滑陶器	中世土器煮炊具	中世土師器皿	産地不明の中世陶器	瀬戸美濃大窯陶器	瀬戸美濃連房窯陶器	近世常滑陶器	瀬戸美濃磁器	肥前磁器	産地不明磁器	近世土器煮炊具	分類不能土器	道輪	石製品	金属製品	木製品	近世瓦	近現代製品	合計
3001	住居跡		45	332			2																	2	1				382
3002	住居跡		60	141																				3					204
3003	ピット			2																									2
3004	ピット			8																									8
3005	溝		28				2										3												33
3006	溝		19				2																	2					23
3009	ピット			4																									4

遺構番号	種別	弥生土器	須恵器	土師器	製塩土器	灰釉陶器	北部糸山茶碗	南部糸山茶碗	無釉陶器　鉢	古瀬戸	輸入磁器	中世常滑陶器	中世土器煮炊具	中世土師器Ⅲ	産地不明の中世陶器	瀬戸美濃大窯陶器	瀬戸美濃連房窯陶器	近世常滑陶器	瀬戸美濃磁器	肥前磁器	産地不明磁器	近世土器煮炊具	分類不能土器	埴輪	石製品	金属製品	木製品	近世瓦	近現代製品	合計
3010	ピット			1																									1
3012	ピット			3																									3
3014	ピット			8																									8
3017	ピット		3				1																						4
3019	ピット		3																										3
3020	ピット		2	2																									4
3022	ピット			2																									2
3028	ピット		1	3																									4
3031	ピット		2	2																									4
3033	ピット		3	1																									4
3038	ピット			8																									8
3044	ピット			1																									1
3045	ピット																							1					1
3047	ピット						1																						1
3049	ピット																							1					1
3051	ピット			3																									3
3061	ピット			1																									1
3063	ピット			4																									4
3082	ピット		1	2																									3
3083	ピット		3																										3
3084	ピット			1																									1
3088	ピット			1																									1
3089	ピット			1																									1
3093	ピット		1																										1
3098	ピット			2																									2
3099	ピット		2																										2
3102	ピット			1																									1
3104	ピット		1	3																									4
3105	ピット		2																										2
3106	ピット			3																									3
3107	ピット			1																									1
3108	ピット			1																									1
3109	ピット		1																										1
3110	ピット			1																									1
3112	ピット			1																									1
3119	ピット		1																										1
3120	ピット		1																										1
3123	土坑			25			1																						26
3124	溝		19	80																				1					100
3126	土坑			5																									5
3127	土坑		1	11																									12
3131	溝		5	1			1																						7
3132	溝		1																										1
3133	溝		5	6																									11
3135	溝		10																										10
3150	ピット		10	6																									16
3152	ピット		1	2																									3
3154	ピット		1	2																									3
3155	ピット			1																									1
3156	住居跡		52	236																				1					289
3158	土坑		1	11																									12
3159	住居跡		1	8																				1					10
3160	土坑			3																									3
3167	ピット			1																									1
3168	ピット		1	1																									2
3170	土坑		44	3			23	8						1										2					81
3171	ピット		1																										1
3174	ピット			1																									1
3178	ピット			14																									14
3180	ピット		1				1																						2
3183	ピット		4	2																									6
3184	ピット		1	5			1																						7
3185	土坑		25	57													1							1	1				85
3186	土坑		7	2																									9
3193	ピット		3																										3
3195	ピット		1																										1
3197	住居跡		81	275													1							1	2				360
3198	土坑		5				1																						6
3203	溝						1																						1
3205	ピット		1	1																									2
3206	ピット							1																					1
3214	ピット		1																										1
3218	ピット		1																										1
3219	ピット			2																									2
3224	溝		2																										2
3229	ピット			2																									2

遺構番号	種別	弥生土器	須恵器	土師器	製塩土器	灰釉陶器	北部系山茶碗	南部系山茶碗	無釉陶器 鉢	古瀬戸	輸入磁器	中世常滑陶器	中世土器煮炊具	中世土師器Ⅲ	産地不明の中世陶器	瀬戸美濃大窯陶器	瀬戸美濃連房窯陶器	近世常滑陶器	瀬戸美濃磁器	肥前磁器	産地不明磁器	近世土器煮炊具	分類不能土器	埴輪	石製品	金属製品	木製品	近世瓦	近現代製品	合計
3234	溝		7																										7
3235	土坑		4	1																									5
3273	ピット			1																									1
遺構外			53	13			5										11	1			2				2			7	94
B区計		0	529	1322	0	0	42	9	0	0	0	0	0	1	0	0	16	1	0	0	2	0	0	0	18	4	0	0	7	1951
%		0	27.1	67.8	0	0	2.2	0.5	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0.8	0.1	0	0	0.1	0	0	0	0.9	0.2	0	0	0.4	100

C区

遺構番号	種別	弥生土器	須恵器	土師器	製塩土器	灰釉陶器	北部系山茶碗	南部系山茶碗	無釉陶器 鉢	古瀬戸	輸入磁器	中世常滑陶器	中世土器煮炊具	中世土師器Ⅲ	産地不明の中世陶器	瀬戸美濃大窯陶器	瀬戸美濃連房窯陶器	近世常滑陶器	瀬戸美濃磁器	肥前磁器	産地不明磁器	近世土器煮炊具	分類不能土器	埴輪	石製品	金属製品	木製品	近世瓦	近現代製品	合計
1	溝		13	4			12				1	4				1	333	64	20	2	32	4			6	21		23		540
2	溝		11	2			7																		1					21
24	ピット																				1									1
33	土坑						36			1															1					38
34	住居跡		2	173			5																		1					181
35	土坑		1				36							1											2					40
37	土坑		1				6																							7
44	溝		10	1			113				1			4											1					130
54	ピット	10																												10
58	井戸						5			1																	10			16
62	土坑		4				23			1															1					29
65	ピット						1																							1
69	ピット						5																							5
82	ピット		1																											1
85	ピット									1																				1
86	ピット		1																											1
96	ピット																1													1
104	土坑		4				22							1				2												29
105	ピット						2																							2
110	ピット		1																											1
114	ピット						2																							2
121	ピット						2											1												3
124	ピット						1																							1
125	ピット						1																							1
128	ピット						5																							5
136	ピット		1																											1
137	ピット						2																							2
141	ピット						1																							1
148	ピット						1																							1
171	溝		4	1			6					1					9													21
172	溝											1					2													3
174	土坑		4				2							2																8
179	特殊		20	6			105		2								2				2				3					140
186	溝		1	2			39			1		1					4													48
212	ピット						1																							1
225	ピット						1																							1
226	ピット													1																1
227	ピット						1																							1
228	ピット						2																							2
234	土坑						1																							1
249	ピット						1																							1
258	ピット						1																							1
259	ピット						2																							2
262	ピット						1																							1
265	ピット						1																							1
267	ピット						1																							1
268	ピット						1																			1				2
270	ピット						1										2													3
276	ピット						2																							2
277	ピット						3																							3
279	ピット						1																							1
291	ピット						1																							1
295	ピット		1																											1
301	ピット						1																							1
304	土坑						4																							4
307	ピット						1																							1
312	ピット						1																							1
315	ピット						1																							1
317	ピット													2																2
358	ピット						2																							2
359	ピット						3																							3
361	ピット						2																							2

遺構番号	種別	弥生土器	須恵器	土師器	製塩土器	灰釉陶器	北部系山茶碗	南部系山茶碗	無釉陶器 鉢	古瀬戸	輸入磁器	中世常滑陶器	中世土器煮炊具	中世土師器Ⅲ	産地不明の中世陶器	瀬戸美濃大窯陶器	瀬戸美濃連房窯陶器	近世常滑陶器	瀬戸美濃磁器	肥前磁器	産地不明磁器	近世土器煮炊具	分類不能土器	埴輪	石製品	金属製品	木製品	近世瓦	近現代製品	合計
370	ピット						6																						6
371	ピット																						1						1
384	ピット						1																						1
387	ピット						1																						1
391	ピット		1																										1
394	ピット						3																						3
398	溝						1																						1
402	ピット						1			3																			4
407	ピット						1				1																		2
408	ピット		1																										1
412	ピット						1																						1
413	ピット						3																						3
415	ピット						4																						4
416	ピット		1																										1
417	ピット		1																										1
418	ピット																1												1
420	ピット						1																						1
423	ピット						1																						1
425	土坑		2				1			2								2											7
426	土坑						1																						1
427	住居跡		23	157																									180
432	ピット		1																										1
433	溝						7																						7
435	ピット						1																						1
437	ピット						1																						1
441	ピット						2																						2
442	ピット																							1					1
448	土坑		7				24							8			1												40
451	ピット		1				1																						2
455	ピット						2			2																			4
457	ピット						1																						1
460	ピット						1																						1
470	住居跡		9	85																						1			95
472	ピット		1				1																						2
474	土坑						1																						1
499	ピット			1			4			2														2		1			10
504	溝		2	2			1																						5
506	溝		14	2			4																	3					23
509	土坑		17				16			3	1						1												38
521	溝		1																					1					2
525	ピット																1												1
539	ピット		1																					1					2
545	ピット																								1				1
570	ピット													2															2
572	溝		1				6										2											1	10
576	土坑		6	1			2										2												11
577	溝		2											1															3
578	井戸		5				11																			23		1	40
580	溝		2				1																	1					4
597	ピット		1																										1
606	土坑		3				3																						6
608	溝		29	1				1	1	42		1		7										1					83
610	土坑																	1											1
636	ピット		1																										1
637	ピット		1	1																									2
647	ピット						1																						1
648	ピット						1																						1
653	ピット									1																			1
661	ピット						2																						2
671	ピット						1																						1
673	土坑																							1					1
684	ピット						1																						1
690	溝						1																	2					3
717	溝						2																						2
739	溝		1	1																									2
742	土坑		1				2																						3
746	溝		1																										1
753	ピット						1																						1
764	溝													1															1
765	溝		5	1													3							2					11
784	ピット					7	6																						13
790	土坑		2														13										1	2	18
794	溝						1			1																			2
800	溝																	1											1
802	溝						1																						1
803	ピット						5																						5

遺構番号	種別	弥生土器	須恵器	土師器	製塩土器	灰釉陶器	北部系山茶碗	南部系山茶碗	無釉陶器 鉢	古瀬戸	輸入磁器	中世常滑陶器	中世土器煮炊具	中世土師器Ⅲ	産地不明の中世陶器	瀬戸美濃大窯陶器	瀬戸美濃連房窯陶器	近世常滑陶器	瀬戸美濃磁器	肥前磁器	産地不明磁器	近世土器煮炊具	分類不能土器	道具	石製品	金属製品	木製品	近世瓦	近現代製品	合計
809	土坑		1	1			2																						4
821	ピット			1																									1
827	土坑		1				2										2	120											125
829	ピット																1												1
839	ピット																1												1
841	ピット																1								2				3
843	溝		1																										1
848	住居跡		2	167			2			1				1										3					176
867	ピット		1																										1
871	土坑		2	1			3										15	8											29
900	土坑						3										1												4
911	土坑		1	1			1																						3
916	ピット																4	3	1										8
917	ピット																									1			1
929	ピット																1												1
931	土坑																	50											50
947	ピット																	3											3
970	ピット																1												1
975	土坑																4	3					3		3				13
978	ピット																		2										2
982	ピット																						3						3
984	土坑																				1								1
985	ピット																1	2											3
986	ピット																	1											1
994	ピット						1																						1
996	ピット						1																						1
1005	ピット																									1			1
1013	井戸		6														32	3			8			3	11	75	36	6	180
1017	ピット																1												1
1018	ピット						1																						1
1026	ピット																1												1
1032	ピット																3	1								1			5
1035	土坑																	1											1
1045	ピット						1																						1
1048	ピット																							2					2
1068	ピット																									1			1
1086	ピット		1														1												2
1095	ピット																1												1
1100	ピット																2												2
1108	ピット																		1										1
1109	ピット																1												1
1113	土坑																1	3											4
1125	ピット																						1						1
1134	土坑		1																										1
1136	住居跡		6	9																				2					17
1137	溝		1				1																						2
1150	土坑																1												1
1156	ピット																1												1
1172	土坑																	1											1
1183	ピット																2												2
1188	ピット			4																									4
1190	土坑									1																			1
1227	ピット																	2											2
1228	溝																6	2			4								12
1232	ピット		2																										2
1236	ピット																							2					2
1238	ピット			1																									1
1246	ピット						1																						1
1268	ピット																									1			1
1270	ピット																									2			2
1274	土坑		26	2			39		2	20	2			1										1					93
1310	ピット						5																			1			6
1311	ピット						1																						1
1316	ピット		1				1																						2
1319	ピット		2				2																						4
1328	ピット			1																									1
1329	ピット						2							1															3
1330	ピット						1																	2					3
1384	ピット						3																						3
1402	ピット						2																						2
1437	ピット						1																						1
1443	ピット						2																						2
遺構外			37	23			255			2	1	6		8			236	26	4	1	8		1		15	9	1	8	26	667
C区計		10	316	652	0	7	951	1	5	85	7	14	0	41	0	1	698	300	28	3	56	4	9	0	62	47	119	68	36	3520
%		0.3	9.0	18.5	0	0.2	27.0	0.03	0.1	2.4	0.2	0.4	0	1.2	0	0.03	19.8	8.5	0.8	0.1	1.6	0.1	0.3	0	1.8	1.3	3.4	1.9	1.0	100

D区

遺構番号	種別	弥生土器	須恵器	土師器	製塩土器	灰釉陶器	北部系山茶碗	南部系山茶碗	無釉陶器 鉢	古瀬戸	輸入磁器	中世常滑陶器	中世土器煮炊具	中世土師器皿	産地不明の中世陶器	瀬戸美濃大窯陶器	瀬戸美濃連房窯陶器	近世常滑陶器	瀬戸美濃磁器	肥前磁器	産地不明磁器	近世土器煮炊具	分類不能土器	壇輪	石製品	金属製品	木製品	近世瓦	近現代製品	合計
4002	ピット						1																						1
4004	ピット									4																			4
4009	ピット						2																						2
4010	ピット						1																						1
4012	ピット						4			1																			5
4015	ピット						1																						1
4017	ピット									2																			2
4018	ピット						3							1															4
4023	ピット						2				1																		3
4028	ピット						2										1												3
4030	ピット						2																						2
4031	ピット						1																						1
4032	ピット						1																						1
4038	ピット						1																						1
4039	ピット						3																						3
4042	ピット						2																						2
4047	ピット						1																						1
4049	ピット						1																						1
4051	ピット						1																						1
4052	ピット						1																						1
4058	ピット						2																						2
4061	ピット						1																						1
4062	ピット						1																						1
4066	ピット						9																						9
4067	ピット						3																						3
4068	ピット						1																						1
4071	ピット						3																						3
4073	ピット									1																			1
4074	ピット						5			1																			6
4075	ピット						1																						1
4076	ピット						1																						1
4078	ピット										1																		1
4080	ピット											1											1						2
4084	ピット						1																						1
4085	ピット						2																						2
4088	ピット													4															4
4090	ピット												2																2
4098	ピット						6																						6
4102	ピット						1																						1
4109	ピット						1			1																			2
4117	ピット						2																						2
4122	ピット													1															1
4133	ピット						4			1																			5
4136	ピット						1																						1
4137	ピット						2			2																			4
4140	ピット						1																						1
4144	ピット						1			2																			3
4151	ピット						2																						2
4165	ピット						1												1										2
4169	ピット						1																						1
4174	ピット						2																						2
4176	ピット						4																						4
4180	ピット						1																						1
4192	ピット													6															6
4197	ピット									1																			1
4199	ピット						2																						2
4200	ピット						1																						1
4201	ピット						3																						3
4205	ピット						1																						1
4212	ピット						4							1															5
4232	溝						1			1							1												3
4238	ピット									1																			1
4241	溝						6			2				1															9
4242	溝						7										1												8
4244	ピット						2																						2
4250	土坑		1				114		2	6		1		2			16	44			1		2		2		1	3	4	199
4258	ピット						2																						2
4262	溝						1							15															16
4264	ピット						6			1				2															9
4266	土坑													5															5
4268	ピット						1																						1
4273	ピット																						1						1
4283	ピット						1																						1
4286	ピット																							1					1
4294	土坑									1	1			1															3

遺構番号	種別	弥生土器	須恵器	土師器	製塩土器	灰釉陶器	北部系山茶碗	南部系山茶碗	無釉陶器 鉢	古瀬戸	輸入磁器	中世常滑陶器	中世土器煮炊具	中世土師器皿	産地不明の中世陶器	瀬戸美濃大窯陶器	瀬戸美濃連房窯陶器	近世常滑陶器	瀬戸美濃磁器	肥前磁器	産地不明磁器	近世土器煮炊具	分類不能土器	埴輪	石製品	金属製品	木製品	近世瓦	近現代製品	合計
4295	土坑		1				10							4			2		1				1							19
4297	溝						3										28		2	3	4		1		1			30		72
4298	土坑		2				55			13				19			4	2											95
4299	土坑						7			1				10				1											19
4300	土坑						4										1											3	8
4302	溝		1							10				39			2				1								53
4303	土坑						2																						2
4305	ピット						2			2																			4
4312	土坑		1				16			6		1															1		25
4316	ピット									1																			1
4400	ピット						7																						7
4401	ピット						4																						4
4402	ピット													3															3
4403	ピット						4			2		1																	7
4404	土坑		2				20			1				5			10	70			1							3	112
4405	溝						31			7	1			21										5					65
4406	ピット						2							5															7
4407	ピット						2																						2
4408	ピット						4							3			1									1			9
4409	ピット						1			1				3															5
4410	ピット						1			2				3															6
4411	ピット													3															3
4412	溝		2				3										2						1						8
4413	ピット						3			1																1			5
4414	ピット						3			1				1			1												6
4415	ピット									1																			1
4416	ピット						1																						1
4417	ピット									3				3															6
4418	ピット						1																						1
4422	ピット									2																			2
4424	ピット						1							1															2
4425	ピット						4			5				1															10
4426	ピット																									1			1
4427	ピット						1																						1
4434	ピット		1				2																						3
4435	ピット						1																						1
4437	ピット						20			2				10															32
4438	ピット						1																						1
4444	ピット						2																						2
4447	ピット									1																			1
4448	ピット						1			2					1														4
4450	ピット						2																						2
4451	ピット						2																						2
4452	ピット						5																						5
4453	ピット						2			1				3															6
4455	ピット						1																						1
4458	ピット						1																						1
4461	溝						1																						1
4482	ピット						2																						2
4485	ピット						2																						2
4531	溝		1				45			22				13			2												83
4533	土坑						6			4																			10
遺構外			2	3			96			12				24			6	2	1	1			1		3	3		4	4	162
D区計		0	14	3	0	0	626	0	2	131	4	4	2	213	1	0	78	119	5	4	7	0	8	0	12	3	4	38	14	1292
%		0	1.1	0.2	0	0	48.5	0	0.2	10.1	0.3	0.3	0.2	16.5	0.1	0	6.0	9.2	0.4	0.3	0.5	0	0.6	0	0.9	0.2	0.3	2.9	1.1	100

E区

遺構番号	種別	弥生土器	須恵器	土師器	製塩土器	灰釉陶器	北部系山茶碗	南部系山茶碗	無釉陶器 鉢	古瀬戸	輸入磁器	中世常滑陶器	中世土器煮炊具	中世土師器皿	産地不明の中世陶器	瀬戸美濃大窯陶器	瀬戸美濃連房窯陶器	近世常滑陶器	瀬戸美濃磁器	肥前磁器	産地不明磁器	近世土器煮炊具	分類不能土器	埴輪	石製品	金属製品	木製品	近世瓦	近現代製品	合計
5001	土坑		2				55			4																			61
5002	土坑						3			1																			4
5003	土坑						34			8				7															49
5004	土坑						8			2		1		5															16
5005	土坑						7		1	3													1						12
5006	土坑		6				132			13	1			14									2		1				169
5007	土坑						2																						2
5008	土坑						8		3								1												12
5009	土坑						44			8				20											1				73
5010	溝		1	2			99			12				10											2				126
5011	土坑						16			1				6									1			1			25
5012	溝		10				36			8		1		33		5	11						1			5			110
5013	溝						2			1																			3

遺構番号	種別	弥生土器	須恵器	土師器	製塩土器	灰釉陶器	北部系山茶碗	南部系山茶碗	無釉陶器 鉢	古瀬戸	輸入磁器	中世常滑陶器	中世土器煮炊具	中世土師器皿	産地不明の中世陶器	瀬戸美濃大窯陶器	瀬戸美濃連房窯陶器	近世常滑陶器	瀬戸美濃磁器	肥前磁器	産地不明磁器	近世土器煮炊具	分類不能土器	埴輪	石製品	金属製品	木製品	近世瓦	近現代製品	合計
5015	土坑						2										2												4
5016	溝						1																						1
5018	土坑						6							2												1			9
5019	ピット									2				1												1			4
5020	ピット									1																			1
5021	ピット						3																1						4
5022	ピット						7			1				1			1												10
5023	ピット						5			2																			7
5024	ピット						3			3																			6
5025	ピット									2				2															4
5026	ピット																									1			1
5027	ピット						2																						2
5028	土坑						2																						2
5029	ピット		3				14			2				2												1			22
5030	ピット						1			1																			2
5031	ピット						3			2													1						6
5032	ピット						2							1															3
5033	ピット						3																						3
5034	ピット		2				4							1															7
5035	ピット						3							1															4
5036	ピット						3																						3
5037	ピット													1															1
5038	ピット						3																						3
5040	ピット						1																						1
5041	ピット						1																						1
5042	ピット						2																						2
5043	ピット						1			1																			2
5044	ピット									2																			2
5046	ピット						1																						1
5047	ピット						2							1															3
5048	ピット						5																						5
5049	ピット													1															1
5052	ピット						3																						3
5055	ピット						1																						1
5056	ピット						6							6															12
5057	ピット									1																			1
5076	ピット						2							2												3			7
5097	ピット													16															16
5103	ピット															1													1
5105	ピット						1																						1
5110	ピット						2							2															4
5112	ピット						4																						4
5114	ピット																									1			1
5115	ピット						1																						1
5123	ピット		1																										1
5124	ピット									1				3															4
5129	ピット						2																		1				3
遺構外			2				60			4	1			22		1	9	1						1	12			2	115
E区計		0	27	2	0	0	608	0	4	86	2	2	0	160	0	7	24	1	0	0	0	0	7	0	6	20	6	0	2	964
%		0	2.8	0.2	0	0	63.1	0	0.4	8.9	0.2	0.2	0	16.6	0	0.7	2.5	0.1	0	0	0	0	0.7	0	0.6	2.1	0.6	0	0.2	100

佐口遺跡

地区	弥生土器	須恵器	土師器	製塩土器	灰釉陶器	北部系山茶碗	南部系山茶碗	無釉陶器 鉢	古瀬戸	輸入磁器	中世常滑陶器	中世土器煮炊具	中世土師器皿	産地不明の中世陶器	瀬戸美濃大窯陶器	瀬戸美濃連房窯陶器	近世常滑陶器	瀬戸美濃磁器	肥前磁器	産地不明磁器	近世土器煮炊具	分類不能土器	埴輪	石製品	金属製品	木製品	近世瓦	近現代製品	合計
A区	58	976	1715	20	0	288	0	4	13	0	0	0	11	3	0	922	946	94	9	9	6	23	4	92	23	0	60	392	5668
B区	0	529	1322	0	0	42	9	0	0	0	0	0	1	0	0	16	1	0	0	2	0	0	0	18	4	0	0	7	1951
C区	10	316	652	0	7	951	1	5	85	7	14	0	41	0	1	698	300	28	3	56	4	9	0	62	47	119	68	36	3520
D区	0	14	3	0	0	626	0	2	131	4	4	2	213	1	0	78	119	5	4	7	0	8	0	12	3	4	38	14	1292
E区	0	27	2	0	0	608	0	4	86	2	2	0	160	0	7	24	1	0	0	0	0	7	0	6	20	6	0	2	964
合計	68	1862	3694	20	7	2515	10	15	315	13	20	2	426	4	8	1738	1367	127	16	74	10	47	4	190	97	129	166	451	13395
%	0.5	13.9	27.6	0.1	0.1	18.8	0.1	0.1	2.4	0.1	0.1	0.01	3.2	0.03	0.1	13.0	10.2	0.9	0.1	0.6	0.1	0.4	0.03	1.4	0.7	1.0	1.2	3.4	100

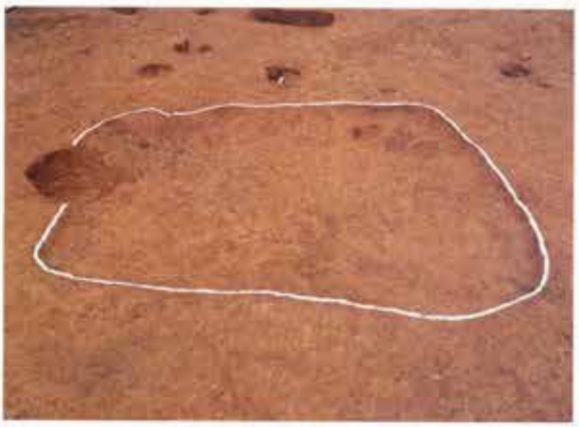
写真図版

A区・B区（東から）

C区（東から）

Ｄ区・Ｅ区（西から）

遺構検出状況（Ｅ24グリッド付近、南から）



2011号遺構（東から）

2035号遺構カマド（南東から）

2011号遺構カマド（南東から）

2035号遺構カマド断面（南東から）

2035号遺構　炭検出状況（北西から）

2216号遺構（南から）

2035号遺構（南東から）

2390号遺構（東から）

2390号遺構カマド（東から）

2395号遺構カマド断面（2）（東から）

2395号遺構（東から）

2341・2677号遺構（南東から）

2395号遺構カマド（東から）

2677号遺構カマド断面（南東から）

2395号遺構カマド断面（1）（東から）

2341号遺構カマド断面（南西から）

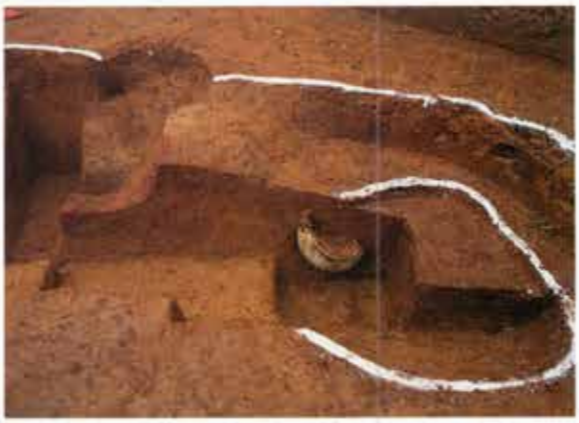
3197・3001号遺構（北東から）

3156号遺構カマド断面（北から）

3197号遺構カマド（南東から）

3002号遺構カマド（南東から）

3001号遺構カマド断面（北西から）



3002号遺構カマド断面（南東から）

3002・3156号遺構（東から）

3159号遺構カマド（北西から）

34号遺構（南東から）

470号遺構（南東から）

34号遺構カマド（南東から）

470号遺構カマド（南東から）

427号遺構（南東から）

SH1（南東から）

427号遺構カマド（南東から）

SH1 内499号遺構（北から）

SH２・62号遺構（南西から）

179号遺構（南東から）

SH５（南東から）

SH７（北から）

35号遺構（南東から）

SH７内1068号遺構（南から）

1274号遺構（南東から）

SH７内1032号遺構（南から）

8

29

69

11

63

89

13

66

14

21

17

18

25

103

112

117

118

204

210

236

249

290

364

317

330

335

855

853

854

24

158

52
51

338
527
319
255
663
408
467
398
390

343
191
296
295

367

378

385

384
386
387

388

389

435

438

530

601

636

717

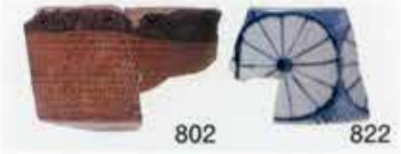
784

788

863

869

799

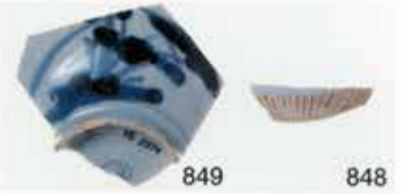

802
822

803

808

812

825


849
848

852

874

881

896

907

944

949

932

962

963

967

971

989

943

968

1008

1015

1051

報告書抄録

ふりがな	さぐち　いせき
書名	佐口遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	岐阜県文化財保護センター　調査報告書
シリーズ番号	第69集
編著者名	小澗忠司
編集機関	財団法人岐阜県文化財保護センター
所在地	〒502-0003　岐阜県岐阜市三田洞東1-26-1　　TEL 058(237)8550
発行年月日	西暦2001年12月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在名	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
佐口遺跡 （さぐちいせき）	岐阜県（ぎふけん） 美濃加茂市（みのかもし） 山之上町（やまのうえちょう）	21211	08785	35° 27′ 57″	137° 02′ 20″	19980508 ～ 19990323	10,300㎡	東海環状自動車道建設工事に伴う

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
佐口遺跡	集落跡	古代	竪穴住居跡	須恵器 土師器	古代のカマド付き住居跡を多数検出した
		中世	掘立柱建物跡 井戸	山茶碗 古瀬戸系施釉陶器 中世土師器皿	
		近世	掘立柱建物跡 井戸	近世瀬戸美濃陶磁器 肥前磁器 近世常滑陶器	

岐阜県文化財保護センター調査報告書　第69集

佐口遺跡

2001年12月25日

編集・発行　財団法人 岐阜県文化財保護センター
岐阜県岐阜市三田洞東1-26-1
印　　刷　ヨツハシ株式会社